西暦年	月 日	旧暦年	月 日	日付の直後の天気欄記入事項と（関連するその他の事項）
1741年	1月1日	元文5年	11月14日	晴　未の刻より雪時々　夜中大雪
1741年	1月2日	元文5年	11月15日	快晴
1741年	1月3日	元文5年	11月16日	晴　夜に入り雪　（広須新田姥嶋村に55・6男倒死）
1741年	1月4日	元文5年	11月17日	快晴　巳の刻まで雪
1741年	1月5日	元文5年	11月18日	晴　申の後刻より寒入り
1741年	1月6日	元文5年	11月19日	陰晴　時々雪
1741年	1月7日	元文5年	11月20日	快晴　今朝雪少々
1741年	1月8日	元文5年	11月21日	陰晴　朝の内少々雪　（隈部伊織が大鰐へ湯治7日間、御馬廻り須藤安五郎に一粒金丹3粒）
1741年	1月9日	元文5年	11月22日	快晴
1741年	1月10日	元文5年	11月23日	快晴　（浪岡・常盤・増館組が不熟で銭納願・1俵22匁の仮値段で申付ける、駒越組居森平の者殺人）
1741年	1月11日	元文5年	11月24日	晴　（柳原への小納戸金が4月より……、油川組が不熟で1375俵余の銭納申出で・半分を1俵23匁の仮値段で申付ける）
1741年	1月12日	元文5年	11月25日	晴　昨夜雪少し　夜に入り雪　（18日赤田組板屋野木村で火災・火元村預け・免許）
1741年	1月13日	元文5年	11月26日	晴　巳の刻過ぎまで　雪夜に入る
1741年	1月14日	元文5年	11月27日	陰晴　（大円寺境内に48・9男倒死）
1741年	1月15日	元文5年	11月28日	曇　時々雪
1741年	1月16日	元文5年	11月29日	曇　昨夜より雪時々　終日に及ぶ　（1日に記述の捨子が鍛冶町にもらわれる）
1741年	1月17日	元文5年	12月1日	なし(天気の記述がない)
1741年	1月18日	元文5年	12月2日	快晴　（大湯彦八に一粒金丹5粒）
1741年	1月19日	元文5年	12月3日	曇　時々雪風　夜に入り雪　（去る28日十三町に男倒死）
1741年	1月20日	元文5年	12月4日	陰晴　時々雪　夜中(申にも見えるが)に及ぶ　亥の二刻大寒入り
1741年	1月21日	元文5年	12月5日	曇
1741年	1月22日	元文5年	12月6日	快晴　申の下刻より雪　夜中風　（多数の者を追放等にする）
1741年	1月23日	元文5年	12月7日	曇　時々雪　夜に入り大吹雪
1741年	1月24日	元文5年	12月8日	陰晴　昨夜より雪時々　（三上常左衛門に一粒金丹5粒、酒1升が1匁のまま、赤田組板屋野木村に8・9歳男子倒死、浪岡組杉沢村に6日追放の男2人倒死）
1741年	1月25日	元文5年	12月9日	陰晴　時々雪
1741年	1月26日	元文5年	12月10日	曇　時々雪　（大間越町庄屋が当月分60・来正月分70俵御払い願・当月40俵正月60俵を相場に駄賃運賃を加え1俵22匁1分3厘で申付ける、追放等多い）
1741年	1月27日	元文5年	12月11日	陰晴　（10月26日和徳組小沢村で高無走る、先月中野内:出入り人数174人、去月中碇関:出入り人数都合378人）
1741年	1月28日	元文5年	12月12日	快晴　（御本城北坂下御門?）
1741年	1月29日	元文5年	12月13日	陰晴　（高杉組高杉村に50男倒死）
1741年	1月30日	元文5年	12月14日	快晴
1741年	1月31日	元文5年	12月15日	快晴　（今年の耕作初:種浸し3月1日・田打3月15日・種蒔3月29日・くれかき4月21日・田植5月14日・草取6月7日・出穂7月17日・稲刈8月17日・稲村納9月6日）
1741年	2月1日	元文5年	12月16日	晴　夜に入り雪少し
1741年	2月2日	元文5年	12月17日	曇
1741年	2月3日	元文5年	12月18日	晴　（東長町で湯まくれ死亡、倹約の覚え）
1741年	2月4日	元文5年	12月19日	快晴
1741年	2月5日	元文5年	12月20日	快晴
1741年	2月6日	元文5年	12月21日	快晴　（増館組下十川村に24・5男倒死）
1741年	2月7日	元文5年	12月22日	曇　時々雪　夜中に及ぶ　風添う
1741年	2月8日	元文5年	12月23日	陰晴　午の刻より小雪
1741年	2月9日	元文5年	12月24日	曇　雪終日　夜に入り風吹く
1741年	2月10日	元文5年	12月25日	陰晴　雪時々　（12月1日青森沖で船が遭難・2人死亡）
1741年	2月11日	元文5年	12月26日	陰晴　（御用人津軽頼母に一粒金丹10粒、和徳組堅田村に男子倒死、田舎館組夕顔関村に男倒死）
1741年	2月12日	元文5年	12月27日	快晴
1741年	2月13日	元文5年	12月28日	陰晴　申の下刻より雪　　下から続く　　長五郎が熊(胆長2寸5歩廻り2寸8歩生目方5文目:)取る、27日高杉組で外馬屋火災）
1741年	2月14日	元文5年	12月29日	曇　昨夜中より雪時々　（御用人津軽監物に一粒金丹10粒、浪岡・常盤組が銭納申立て・浪岡御蔵までの駄賃運賃を加え1俵22匁6分5厘で申付ける、大鰐組早瀬野村の　　上に続く
1741年	2月15日	元文5年	12月30日	曇　昨夜中雪時々
1741年	2月16日	元文6年	正月1日	快晴　（年始の挨拶の場所など）
1741年	2月17日	元文6年	正月2日	晴
1741年	2月18日	元文6年	正月3日	曇　時々雨
1741年	2月19日	元文6年	正月4日	晴　（12月晦日俵元新田富川村の庄屋の家火災・村預け・免許）
1741年	2月20日	元文6年	正月5日	晴　夜に入り雨
1741年	2月21日	元文6年	正月6日	晴　夜に及び雪(及夜ニ雪)
1741年	2月22日	元文6年	正月7日	曇　巳の刻より晴れ
1741年	2月23日	元文6年	正月8日	晴
1741年	2月24日	元文6年	正月9日	晴　（昨8日田舎館組田舎館村に50男倒死）
1741年	2月25日	元文6年	正月10日	快晴　夜に入り少し雪　（横内組濱館村に火災・死者馬あり）
1741年	2月26日	元文6年	正月11日	晴　夜に入り雪　（人事異動あり）
1741年	2月27日	元文6年	正月12日	曇　終日雪
1741年	2月28日	元文6年	正月13日	晴　（2日横内組濱館村に火災・火元百姓他村預け(単なる家の焼失ではない)・免許）

1741年　3月1日 元文6年 正月14日　陰晴　夜に入り雪 （8日夜浦町組高田村で火災・火元村預け・免許）
1741年　3月2日 元文6年 正月15日　快晴　夜中雪
1741年　3月3日 元文6年 正月16日　曇　終日雪
1741年　3月4日 元文6年 正月17日　晴
1741年　3月5日 元文6年 正月18日　晴 （12日浦町組高田村で火災・火元村預け・免許）
1741年　3月6日 元文6年 正月19日　曇　時々雪
1741年　3月7日 元文6年 正月20日　晴 （去る12月野内：出入り114人・同碇関：出入り177人）
1741年　3月8日 元文6年 正月21日　晴　午の刻地震
1741年　3月9日 元文6年 正月22日　晴 （油川組油川村に25・6男倒死、12月中大間越：出22（御印紙10枚14人・御切手紙7枚8人）・入り29・出入り都合51人）　下から続く　明き屋敷に叺入りの5歳女子死亡捨子）
1741年　3月10日 元文6年 正月23日　曇　終日雨　終夜に及ぶ （19日夜金木組小泊村に火災75軒（御蔵百姓8・給地百姓1・高無63・借家1・寺2）、11日後潟組根岸村で漁船遭難2人死亡、津軽頼母殿西隣の　上に続く
1741年　3月11日 元文6年 正月24日　晴　今朝雪　巳の刻まで吹雪　雪時々夜に及ぶ
1741年　3月12日 元文6年 正月25日　晴 （昨夜浦町組高田村で火災（3間半×13間：百姓と借家）・火元他村預け）
1741年　3月13日 元文6年 正月26日　晴　夜に入り雨 （大間越町庄屋が来月分飯米として御蔵米払い出し願・50俵を当時相場に駄賃運賃を加え1俵22匁5分3厘で申付ける）
1741年　3月14日 元文6年 正月27日　曇　昨夜中より雨　午の刻より雪　則刻止む　それより晴 （21日浦町組高田村の火元の他村預け免許、百石町・御徒町間の橋下に死亡捨子）
1741年　3月15日 元文6年 正月28日　晴　夜に入り雪 （漆奉行に石澤林右衛門あり）
1741年　3月16日 元文6年 正月29日　晴　夜に入り雪　風少々
1741年　3月17日 元文6年　2月1日 晴 （碇関出人63人御印紙7枚・同22人切手紙数13枚、野内出人4人切手紙2枚・青森湊出人1人）
1741年　3月18日 元文6年　2月2日 晴 （去月29日赤石組中村で火災3軒（4間×13間：百姓・3間×8間：?・5間×9間：?）馬11疋・種籾90俵・土蔵1）・火元他村預け）
1741年　3月19日 元文6年　2月3日 曇　小雨時々
1741年　3月20日 元文6年　2月4日 快晴　夜に入り雨 （2日夜後潟組阿弥陀川村で火災1軒（2間×10間）・外馬屋・種籾4石5斗・蕎麦5俵・稗4俵・大豆2俵焼失・火元村預け）
1741年　3月21日 元文6年　2月5日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1741年　3月22日 元文6年　2月6日 晴 （人事異動、昨朝駒越組田代村で火災1軒（2間×3間：百姓））　下から続く　和徳組高崎村に8・9歳男子倒死）
1741年　3月23日 元文6年　2月7日 晴　午の下刻小雨 （5日夜浦町組大野村で火災（4間×12間：百姓）・外馬屋・雑駄6疋・種籾20俵・50男焼死・火元村預け、先月29日中村の火元の村預け赦免、　上に続く
1741年　3月24日 元文6年　2月8日 曇　彼岸　午の刻過ぎより雪　終夜に及ぶ　風立つ （珍しく「殿」付がある）
1741年　3月25日 元文6年　2月9日 陰晴 （東長町橋下に50余男倒死、赤石組赤石村に狼荒れ負傷2人・鉄砲打ちを申し立てる、2日浪岡組浪岡村・後潟組阿弥陀川村の火元の村預け赦免）
1741年　3月26日 元文6年　2月10日 晴　夜に入り雪少々 （4日青森の僧出奔、8日十三潟明ける、正月中碇関：入り67・出入り合108（御印紙8枚10人・切手紙18枚31人）、大間越：人数合268・出入り298　欄外(*)に続く
1741年　3月27日 元文6年　2月11日 陰晴 （堀越組取上村に倒死、5日駒越組田代村・浦町組大野村の火元の村預け免許）
1741年　3月28日 元文6年　2月12日 曇　雨終日 （9日夜金木組薄市村で火災2軒・火元他村預け、土手後町に50男倒死）
1741年　3月29日 元文6年　2月13日 陰晴　夜に入り雨
1741年　3月30日 元文6年　2月14日 晴 （金木組相内大田村で火災11軒・火元他村預け）
1741年　3月31日 元文6年　2月15日 快晴
1741年　4月1日 元文6年　2月16日 快晴 （飯詰組平町村で押し込み乞食を打殺す）
1741年　4月2日 元文6年　2月17日 陰晴　夜に及び雨 （7日晩野内町の火元の庵寺引籠赦免）
1741年　4月3日 元文6年　2月18日 曇　雨時々　夜に及び風雨 （広須新田蓮花田村に70道心倒死、昨夜三新田福山村で火災1軒（2間×3間：高無）・五人組み預け、14日昼金木組磯松村で火災4軒・火元他村預け）
1741年　4月4日 元文6年　2月19日 快晴 （11日金木新田舟岡村の火元の村預け赦免）
1741年　4月5日 元文6年　2月20日 晴
1741年　4月6日 元文6年　2月21日 曇　時々小雨 （先月19日金木組小泊村の火元の他村預け免許）
1741年　4月7日 元文6年　2月22日 晴 （赤石組赤石村の（で）貝森弥五郎が狼を打ち止める、25日の記述では25日に帰る）
1741年　4月8日 元文6年　2月23日 快晴 （昨21日夜赤石組舞戸村の庄屋小火・村預け、昨夜猿賀組追子野木村で火災2軒（2間×4間：高無・3間×7間：百姓）・駄馬1疋・外馬屋・火元村預け）
1741年　4月9日 元文6年　2月24日 晴　夜に入り小雨 （14日金木組磯松村の火元の他村預け・16日俵元新田福山村の火元の村預け赦免）
1741年　4月10日 元文6年　2月25日 曇　昨夜中より雨時々　夜に入り風激しい （大間越町で男変死、駒越組樋口村で50男倒死、22日浦町組馬屋尻村で火災（2間半×3間：高無）・火元村預け）
1741年　4月11日 元文6年　2月26日 晴　終日風立つ
1741年　4月12日 元文6年　2月27日 曇　辰の刻より霰　巳の下刻晴 （蟹田町で火災（3月2日の記述によると26日に38軒））
1741年　4月13日 元文6年　2月28日 快晴　夜に入り風雨
1741年　4月14日 元文6年　2月29日 曇　昨夜より風雨　終日に及ぶ （昨26日横内組馬屋尻村で火災1軒（14間×4間：百姓）・外馬屋・雑駄4疋・類焼4軒・火元他村預け）
1741年　4月15日 元文6年　2月30日 曇　巳の刻より晴　卯の刻前より風雨霰
1741年　4月16日 元文6年　3月1日 晴 （29日高岡で風被害・碇関で倒木家潰す、昨晦日高杉組八幡村で火災（3間×5間：最勝院百姓）、鷹匠町小路に40袖乞い男倒死）　下から続く　の大風で青森御仮屋所々破損）
1741年　4月17日 元文6年　3月2日 晴 （昨日の風で報恩寺杉被害、1029両2分2朱が18貫834匁7分1厘、去月29日碇関町で大風・浅虫御番所で東風被害、正月19日小泊村の火元の他村預け差免、去月29日　上に続く
1741年　4月18日 元文6年　3月3日 晴
1741年　4月19日 元文6年　3月4日 晴 （昨晩松森町に投げ火?、赤田組三千石村に34・5男倒死、2月中碇関：出190・入り102人）
1741年　4月20日 元文6年　3月5日 陰晴　小雨時々　夜中雨少々 （津軽式部殿……、監物様江御成り）
1741年　4月21日 元文6年　3月6日 曇　申の刻過ぎより雨時々 （折橋より峠までの雪少々、広須新田木作方面で野火（8日に記述によると1400間×800間））
1741年　4月22日 元文6年　3月7日 曇　雨 （昨夜赤田組桜田村で火災（4間×10間：百姓））
1741年　4月23日 元文6年　3月8日 陰晴 （昨夜中御家中屋敷小路に4・50男・藤代組八代村に60袖乞い道心倒死、先月20日青森博労・塩・煙草町で138軒と土蔵2焼失、昨5日夜三新田富野村で火災3軒・火元豊岡村預け）
1741年　4月24日 元文6年　3月9日 陰晴 （昨晩赤石領に鯨寄せる、昨7日三新田富野村で火災1軒・火元五人組預け、昨28日一位様御逝去）
1741年　4月25日 元文6年　3月10日 陰晴　時々雨 （先月26日馬屋尻村の火元の他村預け赦免、29日大風で最勝院の杉が倒れる、7日横内組駒籠村の庄屋家に付け火、去る12月2日から正月29日の　欄外(**)に続く
1741年　4月26日 元文6年　3月11日 快晴　風立つ （広須新田冨蒔村西十三海道で野火（東西600間・南北60間）、2月中野内:出入り34人）
1741年　4月27日 元文6年　3月12日 快晴　今朝霜 （日記書写役4人増加）
1741年　4月28日 元文6年　3月13日 快晴
1741年　4月29日 元文6年　3月14日 快晴 （御用人田村源太兵衛に一粒金丹10粒）
1741年　4月30日 元文6年　3月15日 快晴 （7日出火の桜田村・後潟組山本村・金木新田富野村の火元の村預け赦免、元文から寛保への改元通知届く）
(*) （御印紙7枚8人・切手紙7枚18人・松前往来4人）、野内：人数39人・出入り90（御印紙の表人数27人・御切手紙の表人数24人・入切手の表39人）、大円寺境内に28・9男倒死）
(**) 御救い米渡高：米863石3斗5升(2158俵1斗5合)・20803人(11歳以上14890人・4-10歳5903人)、2月中野内：入り53・出122人）

1741年　5月1日 元文6年　3月16日 晴 （七時過ぎ御発駕）
1741年　5月2日 元文6年　3月17日 曇 終日風雨 （5日金木新田富野村の火災は類焼あり他村預け･免許、赤石組追良瀬村に鯨寄せる、柏木立山に野火（100間かける50間））
1741年　5月3日 元文6年　3月18日 晴 申の刻前より雨時々
1741年　5月4日 元文6年　3月19日 晴 （屋形様綴子駅で御不快、当月3日寛保と改元）
1741年　5月5日 元文6年　3月20日 陰晴 巳の下刻より小雨時々 （17日大光寺組館山村で百姓が縊死）
1741年　5月6日 元文6年　3月21日 快晴
1741年　5月7日 元文6年　3月22日 快晴 明け方雨
1741年　5月8日 元文6年　3月23日 晴 今朝辰の刻まで雨
1741年　5月9日 元文6年　3月24日 快晴 夜に入り雨
1741年　5月10日 元文6年　3月25日 晴 巳の刻雨 暫くして晴
1741年　5月11日 元文6年　3月26日 晴 （藤代組石渡村に男倒死）　下から続く　太田山で野火、一位様に天英院）
1741年　5月12日 元文6年　3月27日 陰晴 （17日の大風で十三町の御番所破損、大間越町庄屋が飯米70俵御払い願･当時相場に駄賃運賃加え24文目5分3厘で御払い申付ける、相馬領の山で野火、18日相内　上に続く
1741年　5月13日 元文6年　3月28日 快晴　下から続く　赦免、金木組小泊村に鯨寄せる）
1741年　5月14日 元文6年　3月29日 快晴 （藤代組中崎村の仁助（胆長4寸廻り6寸生目29匁：）･堀越組一野渡村の左衛門四郎（4寸5寸40目：）それぞれ熊取る、23日尾崎組町居村で火災･類火あり他村預け･　上に続く
1741年　5月15日 寛保元年　4月1日 快晴 （去月22日金木組川倉村で火災･同村に押籠･戸〆免許、去月（2月のこと）晦日高杉組八幡村で火災･押籠赦免）
1741年　5月16日 寛保元年　4月2日 快晴 （昨29日碇関碇沢で山火事（100間四方））
1741年　5月17日 寛保元年　4月3日 快晴
1741年　5月18日 寛保元年　4月4日 曇 辰の刻過ぎより雨 未の后刻地震
1741年　5月19日 寛保元年　4月5日 快晴 卯の中刻地震
1741年　5月20日 寛保元年　4月6日 快晴 （広須新田永田村に者倒死（8日の記述では昨4日に男））
1741年　5月21日 寛保元年　4月7日 曇　下から続く　大川平村で火災（3間×3間半と3間×4間：ともに高無）･火元他村預け、昨夜楮町に投げ火）
1741年　5月22日 寛保元年　4月8日 陰晴 （3月中大間越：人数合50･出入り人数合79人、3月中野内：入り人数50･出入り人数都合102人、広須新田下相野村で9日前火災･火元他村預け･免許、3日朝後潟組　上に続く
1741年　5月23日 寛保元年　4月9日 曇 （金木組轟木村に12日前火災･火元他村預けを赦免、3月中碇関：入り人数155･出入り人数合302人）
1741年　5月24日 寛保元年　4月10日 快晴 （2･3日前より常源寺坂下に捨子、今日風立つ）
1741年　5月25日 寛保元年　4月11日 快晴
1741年　5月26日 寛保元年　4月12日 快晴 （白米入札：1斗3升1合5夕が7匁5分2厘）
1741年　5月27日 寛保元年　4月13日 曇 辰の刻過ぎより小雨時々
1741年　5月28日 寛保元年　4月14日 快晴
1741年　5月29日 寛保元年　4月15日 快晴 風添う （對馬宮左衛門に一粒金丹3粒、3日大川平村の火元の他村預け免許、牧頭が狼荒れ対策で口薬･玉等を申し立てる、浪岡組杉沢村で道心者倒死）
1741年　5月30日 寛保元年　4月16日 陰晴 戌の刻過ぎより雨 （参勤の日程を道中で変えている）
1741年　5月31日 寛保元年　4月17日 曇 昨夜中よりの雨 午の刻止む （14日夜広須新田桑野木田村で火災（4間×7間）･放馬屋（2間半×3間）･馬5疋･火元呵押籠（しかり押込め位に読むのでしょう））
1741年　6月1日 寛保元年　4月18日 曇 今朝雨少し 則止む 巳の刻より快晴
1741年　6月2日 寛保元年　4月19日 曇 （赤石組金井が沢村の切支丹御制札を取り替える）
1741年　6月3日 寛保元年　4月20日 晴
1741年　6月4日 寛保元年　4月21日 晴 （南溜池土居際に30女倒死）
1741年　6月5日 寛保元年　4月22日 曇 巳の刻より雨 終日に及ぶ （兵庫屋左兵衛通り（本町か?）に二つ斗の女子捨子･病死、14日桑野木田村の火元の押籠御免）
1741年　6月6日 寛保元年　4月23日 陰晴
1741年　6月7日 寛保元年　4月24日 晴
1741年　6月8日 寛保元年　4月25日 曇
1741年　6月9日 寛保元年　4月26日 快晴 （飯詰組金山村に野火（5･6丁×3･4町））
1741年　6月10日 寛保元年　4月27日 快晴
1741年　6月11日 寛保元年　4月28日 快晴 入梅 （一昨夜本寺町で男が縊死）
1741年　6月12日 寛保元年　4月29日 曇 辰の刻より小雨 （昨夜高杉組中別所村で火災3軒（2間×3間など）･火元他村預け、増館組赤茶村に70男倒死）
1741年　6月13日 寛保元年　5月1日 曇 丑の刻より雨終日 （4月中所々出人都合203人（碇関114（御国人30他国者84）御印紙50枚･野内他国者1･碇関御国人85切手紙38枚･野内御国人3切手紙2枚）
1741年　6月14日 寛保元年　5月2日 昼の内時々雨 （2月20日青森博労町の火元の寺落ち?赦免、去月28日横内組宮崎村で火災（2間半×1間半：高無）･火元村預け）
1741年　6月15日 寛保元年　5月3日 晴 今朝霧雨暫く
1741年　6月16日 寛保元年　5月4日 快晴 （去月28日中別所村の火元の他村預け免許）
1741年　6月17日 寛保元年　5月5日 快晴 （先月28日宮崎村の火元の村預け差免）
1741年　6月18日 寛保元年　5月6日 快晴
1741年　6月19日 寛保元年　5月7日 晴 （去る11月居森平村の人殺しは村送りで秋田に、先月27日田沢村の火元の百姓預け御免、4月中大間越：出入り合37人、4月中碇関：出入り合434人、4月中野内：出入り合150人）
1741年　6月20日 寛保元年　5月8日 快晴
1741年　6月21日 寛保元年　5月9日 快晴 辰の刻過ぎ地震 則止む 即夜雨
1741年　6月22日 寛保元年　5月10日 陰晴 辰の下刻雨暫く （御家老棟方作右衛門に一粒金丹30粒）
1741年　6月23日 寛保元年　5月11日 晴 （茂森新町で男女人事不省･死亡）
1741年　6月24日 寛保元年　5月12日 曇 夜中雨 巳の下刻止む 夜に入り又雨
1741年　6月25日 寛保元年　5月13日 陰晴 昨夜よりの雨辰の刻に及び止む （11日夜赤石組風合瀬村で火災6軒･火元他村預け）
1741年　6月26日 寛保元年　5月14日 快晴
1741年　6月27日 寛保元年　5月15日 快晴 （御旗奉行兼米方勘定奉行長尾戸左衛門に一粒金丹5粒･御台所目付荒木関次右衛門に3粒）
1741年　6月28日 寛保元年　5月16日 曇 終日雨 未の刻頃より止む 夜に入り雨 （昨日広須新田桑野木田村で男縊死、和徳組黒滝村に死人が流寄せる･男女不明）
1741年　6月29日 寛保元年　5月17日 陰晴 （2月26日蟹田町の火元の入寺御免）
1741年　6月30日 寛保元年　5月18日 曇 （11日風合瀬村の火元の他村預け免許）

1741年　7月1日 寛保元年　5月19日 陰晴
1741年　7月2日 寛保元年　5月20日 陰晴　午の下刻少し雨　酉の刻に及び止む （引き続く天気悪しく候につき……東風吹き続き……）
1741年　7月3日 寛保元年　5月21日 晴
1741年　7月4日 寛保元年　5月22日 晴 （柏木組常海橋村に60男倒死、常盤組葛野村に65・6女倒死）
1741年　7月5日 寛保元年　5月23日 晴
1741年　7月6日 寛保元年　5月24日 快晴
1741年　7月7日 寛保元年　5月25日 晴 （22日飯詰組持子沢村で口論・殺人あり）
1741年　7月8日 寛保元年　5月26日 快晴
1741年　7月9日 寛保元年　5月27日 快晴 （藤代組北浮田村に50男倒死、22日横内組駒籠村で火災・火元預け・時節もあり差免）
1741年　7月10日 寛保元年　5月28日 陰晴　昨夜より雨　辰の下刻まで
1741年　7月11日 寛保元年　5月29日 陰晴　巳の中刻雨　則止む　又時々雨
1741年　7月12日 寛保元年　5月30日 快晴 （25日大鰐組大鰐村の喜左衛門が熊（胆長2寸5歩廻り3寸生目形20匁：）取る、28日赤石組舞戸村で火災（3間×4間：高無）・火元村預け）
1741年　7月13日 寛保元年　6月1日 晴
1741年　7月14日 寛保元年　6月2日 陰晴 （荒木関次右衛門に一粒金丹2粒、先月28日舞戸村の火元の村預け免許）
1741年　7月15日 寛保元年　6月3日 快晴 （駒越組駒越仮橋の上流に死者）　下から続く　米代御払い滞る・上納を早くとの指示）
1741年　7月16日 寛保元年　6月4日 快晴 （江戸からの飛脚に諸手足軽山上源次郎、今年の阿芙蓉担当医に和田・杉山、大間越町奉行が当月分飯米70俵御払い願・1俵24匁3厘で30俵申付ける、去る7月より　上に続く
1741年　7月17日 寛保元年　6月5日 陰晴
1741年　7月18日 寛保元年　6月6日 陰晴　今朝小雨
1741年　7月19日 寛保元年　6月7日 快晴　土用に午の一刻入る　暑気甚だしい （5月中碇関：出116人（他国者70人御印紙49枚・御国人46人切手紙32枚）・野内出他国者3人御印紙1枚）
1741年　7月20日 寛保元年　6月8日 快晴　暑気甚だしい （黒瀧清太左衛門に一粒金丹3粒、5月中碇関：出137・入り225人、5月中野内：出入り168人、5月中大間越：出12・入り24人）
1741年　7月21日 寛保元年　6月9日 快晴　甚暑 （今日は土用入り3日目に付き御用人何れも継肩衣着之）
1741年　7月22日 寛保元年　6月10日 快晴 （前々より花火停止だが……）
1741年　7月23日 寛保元年　6月11日 快晴　甚暑
1741年　7月24日 寛保元年　6月12日 陰晴　午の上刻より小雨時々　夜に入り強し （一昨15日?大光寺組平田森村・昨10日浦町組高田村で火災・ともに火元村預け、去る9日十三湊で破船1艘）
1741年　7月25日 寛保元年　6月13日 晴 （御家中の子供毎夜祢ふたなかし（ねぷた流し））
1741年　7月26日 寛保元年　6月14日 陰晴
1741年　7月27日 寛保元年　6月15日 曇　卯の刻前より雨終日
1741年　7月28日 寛保元年　6月16日 曇　夜中より卯之下刻まで雨
1741年　7月29日 寛保元年　6月17日 快晴 （高田村と平田森村の火元の村預け赦免、御用人高屋権兵衛に一粒金丹10粒・御目付千葉権右衛門に3粒）
1741年　7月30日 寛保元年　6月18日 晴 （青田の内笛吹き申す儀御停止だが……）
1741年　7月31日 寛保元年　6月19日 快晴
1741年　8月1日 寛保元年　6月20日 快晴
1741年　8月2日 寛保元年　6月21日 快晴
1741年　8月3日 寛保元年　6月22日 晴
1741年　8月4日 寛保元年　6月23日 曇　卯の后刻より雨　巳の刻まで　申の下刻暫く （和徳組和徳村に38・9女倒死）
1741年　8月5日 寛保元年　6月24日 陰晴　辰の刻より雨
1741年　8月6日 寛保元年　6月25日 快晴　残暑甚だしい　夜に入り小雨
1741年　8月7日 寛保元年　6月26日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ
1741年　8月8日 寛保元年　6月27日 曇 （大間越町庄屋が当月分飯米御払い願・代金滞り過分で上納の上申し出るよう断る、鯵ヶ沢で水主病死）
1741年　8月9日 寛保元年　6月28日 曇（日偏に雲）　時々雨少々 （百人小人の祖父縊死）
1741年　8月10日 寛保元年　6月29日 快晴 （27日駒越組中畑村の彦左衛門が熊（胆長1寸5歩廻り2寸生目5匁：）取る）
1741年　8月11日 寛保元年　7月1日 快晴
1741年　8月12日 寛保元年　7月2日 晴 （貞昌寺前に非人倒死）
1741年　8月13日 寛保元年　7月3日 快晴 （赤田組板屋野木村に50女縊死、御徒町橋際に9歳女子倒死）
1741年　8月14日 寛保元年　7月4日 快晴　残暑甚だしい
1741年　8月15日 寛保元年　7月5日 快晴
1741年　8月16日 寛保元年　7月6日 快晴　残暑甚だしい （6月中出197人（碇関187（御印紙53枚152（御国人70他国者82）・切手紙18枚35）・大間越御印紙2枚他国者6人・野内切手紙3枚御国人4人、後潟組平館村で火災21軒）
1741年　8月17日 寛保元年　7月7日 快晴
1741年　8月18日 寛保元年　7月8日 快晴　未の中刻地震余程強し　未の刻地震即止む
1741年　8月19日 寛保元年　7月9日 快晴
1741年　8月20日 寛保元年　7月10日 曇　終日雨　夜に入る（入夜）　卯の刻過ぎ地震
1741年　8月21日 寛保元年　7月11日 快晴　残暑甚だしい
1741年　8月22日 寛保元年　7月12日 快晴　残暑甚だしい （（2日）後潟組根岸村の火元が11日・駒越組五代村が5日になり（他）村預け赦免、後潟組?の代官が大間越の当月分飯米70俵御払い願・1俵21匁4分で40俵申付ける）
1741年　8月23日 寛保元年　7月13日 快晴　残暑甚だしい （9日今別町の大雨・橋が破損）
1741年　8月24日 寛保元年　7月14日 快晴　夜に入り雨　残暑甚だしい
1741年　8月25日 寛保元年　7月15日 陰晴　時々雨　丑の刻雷暫く発す　則止む
1741年　8月26日 寛保元年　7月16日 快晴
1741年　8月27日 寛保元年　7月17日 快晴 （尾崎組大坊村と大鰐組大鰐村から初米上がる（去年は7月5日））
1741年　8月28日 寛保元年　7月18日 快晴　残暑甚だしい　下から続く　3艘、19日朝六時より金木組小泊に大津波・5・60軒押潰す、漁船・小回りにも被害多く・塩釜不残潰れ・田方大分痛損・5歳の子供流失）
1741年　8月29日 寛保元年　7月19日 陰晴　午の中刻過ぎ風雨甚だしい　則刻止む　西の濱小泊村辺りまで津波 （鯵ヶ沢入津中の水主病死、和徳組富田村に盗人倒死）　下から続く　鯵ヶ沢で松前船破船　上に続く
1741年　8月30日 寛保元年　7月20日 陰晴 （藤代組石渡村に者倒死、18日夜海津波：金井ヶ沢で御番所・赤石組晴山・田野沢・嶋・鴨・金井ヶ沢・関・柳田・桜沢・赤石村で家5・60軒押潰し、14・5人死亡・馬も・　上に続く
1741年　8月31日 寛保元年　7月21日 陰晴

1741年　9月1日 寛保元年　7月22日 快晴 （19日後潟組三馬屋の大波で2軒押潰す、深浦にも大波打ち込み引き波以ての外つよし、2日根岸村の火災21軒131人に御救い米願）
1741年　9月2日 寛保元年　7月23日 陰晴　二百十日　巳の中刻より風立つ （19日卯の刻森山湊に津波・破船1艘・1人引き波に取られる）　下から続く　30人残り900余人死亡、吉岡の西で4000余人死亡、　欄外(*)に続く
1741年　9月3日 寛保元年　7月24日 快晴 （19日大波で赤石組金井ヶ沢で流死13人、19日明七半時松前城下流失40人死亡、18日夜八つ時江指町に津波死者何百人・120艘中105艘潰れる、熊石村辺り20軒の　上に続く
1741年　9月4日 寛保元年　7月25日 晴　時々風　夜に入り小雨　則止む （24日柏木組瀬良沢村に17位男倒死、19日小泊村の潰れ家43軒中35軒に御救い米を渡す）
1741年　9月5日 寛保元年　7月26日 快晴
1741年　9月6日 寛保元年　7月27日 快晴 （6月中碇関:出入り人数267・同大間越:53・同野内:309人、3日百沢寺の住僧欠け落ち?、柏木組の田方三ヶ二かかみ申し候）
1741年　9月7日 寛保元年　7月28日 快晴　午の刻より曇 （当作今以て所により不熟・五穀成就の御祈祷を五山に仰せ付ける）
1741年　9月8日 寛保元年　7月29日 陰晴　夜中時々雨 （今朝荒町に当歳男子捨子、昨夜赤田組福野田村で火災(3間半×5間:高無)・火元村預け、赤石組村々田方稲虫……稲かかみ……）
1741年　9月9日 寛保元年　7月30日 晴 （18日朝七つ時金井が沢沖合いで大波・破船2艘7人死亡）　下から続く　流死33人(男26・女7)・破船167艘・潰家112軒・痛家56軒・田9町1反余畑1町6反弱・塩釜19・牛2疋・馬4疋）
1741年　9月10日 寛保元年　8月1日 快晴 （7月中碇関出155人(御国人115・他国者40・御印紙数35枚)・同月大間越出他国者1人御印紙1枚・碇関出御国人29人切手紙17枚、7月19日に津波被害の纏め(村別も)　上に続く
1741年　9月11日 寛保元年　8月2日 快晴
1741年　9月12日 寛保元年　8月3日 快晴
1741年　9月13日 寛保元年　8月4日 曇　時々小雨 （三新田の漆奉行に石澤林右衛門、先月27日福野田村の火元8日で村預け赦免）
1741年　9月14日 寛保元年　8月5日 陰晴
1741年　9月15日 寛保元年　8月6日 陰晴　巳の下刻より小雨時々
1741年　9月16日 寛保元年　8月7日 陰晴　昨夜中より雨終日　夜に及ぶ （黒瀧清太左衛門に一粒金丹3粒）
1741年　9月17日 寛保元年　8月8日 曇　昨夜よりの雨終日に及ぶ　午の中刻過ぎ雷発す （中村彦左衛門に一粒金丹2粒、7月中野内:出入り188人、7月中大間越:出入り36人）
1741年　9月18日 寛保元年　8月9日 晴 （藤崎組夕顔関村に女子倒死、大間越町庄屋が当月分飯米70俵御払い申立・1俵24匁2分3厘で40俵申付ける）
1741年　9月19日 寛保元年　8月10日 晴 （一昨7日の夜より8日まで赤石組で大風雨）
1741年　9月20日 寛保元年　8月11日 陰晴 （昨夜無宿が2人破牢）
1741年　9月21日 寛保元年　8月12日 陰晴　未の刻より小雨　雷発す
1741年　9月22日 寛保元年　8月13日 快晴 （昨12日常盤組十川村に52・3男倒死）
1741年　9月23日 寛保元年　8月14日 陰晴　昨夜中より今朝辰の刻過ぎまで雨　彼岸入り
1741年　9月24日 寛保元年　8月15日 陰晴　夜に入り時々雨 （9月中碇関:出入り271人、金木組の村々にすいはく虫付く）
1741年　9月25日 寛保元年　8月16日 晴　寅の刻過ぎ雷発す
1741年　9月26日 寛保元年　8月17日 晴　辰の下刻より小雨時々 （十三町より初鮭、阿芙蓉65匁調合し差上げる）
1741年　9月27日 寛保元年　8月18日 晴 （今年の作はまあまあとの報告）
1741年　9月28日 寛保元年　8月19日 陰晴
1741年　9月29日 寛保元年　8月20日 曇 （12日尾崎組新館村で火災・火元村預けを9日で免許）
1741年　9月30日 寛保元年　8月21日 陰晴 （先月末から当田場左衛門(多分剣豪富田勢源？の末裔)がお預け）
1741年　10月1日 寛保元年　8月22日 快晴
1741年　10月2日 寛保元年　8月23日 快晴 （先月28日新町の捨子を貰い乳などで育てたが死亡）
1741年　10月3日 寛保元年　8月24日 曇　巳の中刻より雨時々　亥の刻止む
1741年　10月4日 寛保元年　8月25日 曇 （黒石口米留に山上源次郎、江戸屋敷の屋形様御不快）
1741年　10月5日 寛保元年　8月26日 快晴
1741年　10月6日 寛保元年　8月27日 快晴
1741年　10月7日 寛保元年　8月28日 快晴　丑の刻過ぎ雨　則止む
1741年　10月8日 寛保元年　8月29日 晴　下から続く　3匁5分:)・桜庭村の茂介(2寸3寸5歩2匁5分:)・金木組宮野沢村の専介(2寸6歩3寸5歩25匁:)それぞれ熊取る）
1741年　10月9日 寛保元年　8月30日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ （駒越組名畑村の彦左衛門(胆長2寸2歩廻り4寸生目形15匁:)・田代村の次右衛門(3寸3寸5歩15匁:)・同村藤右衛門(1寸5歩2寸　上に続く
1741年 10月10日 寛保元年　9月1日 曇　未の刻より雨　夜に及ぶ （馬屋町と鷹匠町の間の橋脇に8・9歳男子非人か倒死）
1741年 10月11日 寛保元年　9月2日 快晴　夜中雨暫く
1741年 10月12日 寛保元年　9月3日 快晴　下から続く　本町に10歳女子倒死）
1741年 10月13日 寛保元年　9月4日 曇　午の刻より雨 （8月中御印紙出碇関他国者69人46枚・野内6人3枚・大間越1人1枚・切手紙出碇関9人4枚・大間越4人2枚、御留守居組頭大湯彦八に一粒金丹5粒、　上に続く
1741年 10月14日 寛保元年　9月5日 曇
1741年 10月15日 寛保元年　9月6日 曇 （茂森新町と長勝寺門前の道に40男倒死）
1741年 10月16日 寛保元年　9月7日 晴 （8月10日の破牢者捕まる）
1741年 10月17日 寛保元年　9月8日 晴 （去月21日御馬廻り中村彦左衛門に一粒金丹3粒・今日2粒、土手町後の住吉社地に者倒死・4・5歳男子介抱）
1741年 10月18日 寛保元年　9月9日 快晴
1741年 10月19日 寛保元年　9月10日 曇　辰の刻雷発す　同刻過ぎより雨　巳の刻過ぎより晴　未の刻過ぎまで雨　時々雷発す （8月中碇関:出入り109・入り166・出入り人数合275人、野内:出入り人数都合126人）
1741年 10月20日 寛保元年　9月11日 曇　時々雨　今朝岩木山に雪降る
1741年 10月21日 寛保元年　9月12日 晴 （御城付足軽頭田中伴右衛門に一粒金丹3粒）
1741年 10月22日 寛保元年　9月13日 陰晴
1741年 10月23日 寛保元年　9月14日 陰晴　亥の刻より雨 （赤田組上板屋野木海道に47・8男倒死、大沢角右衛門門前に6・7月生まれの男子捨子）
1741年 10月24日 寛保元年　9月15日 曇　昨夜より雨　終日夜に及ぶ （去年12月の親方町の捨子に貰い手現れる）
1741年 10月25日 寛保元年　9月16日 晴　辰の刻より巳の刻まで小雨時々
1741年 10月26日 寛保元年　9月17日 快晴　今朝大霜 （8月中大間越:出入り121人）
1741年 10月27日 寛保元年　9月18日 陰晴　昨夜中よりの雨終日に及ぶ （牧頭から狼荒れにつき鉄砲玉・口薬などの申立、大円寺に天気揚げの御祈祷仰せ付ける）
1741年 10月28日 寛保元年　9月19日 陰晴　今朝近山まで雪降る （大間越町庄屋から当月分飯米50俵御払い願・申立どおり、17日駒越組中畑村に50男倒死）
1741年 10月29日 寛保元年　9月20日 曇　巳の刻より雨
1741年 10月30日 寛保元年　9月21日 晴　今朝霜 （17・18日の雨で藤代組南・北浮田村の田圃水湛などの被害）
1741年 10月31日 寛保元年　9月22日 快晴　今朝大雪(多分大霜の誤り:後日初雪の記録あり）
(*) 19日朝六時頃より小泊で破船51艘・6人死亡）

1741年　11月1日 寛保元年　　9月23日 陰晴 （20日田舎館組田舎館村に者倒死）
1741年　11月2日 寛保元年　　9月24日 陰晴 今朝大霜 （大間越町同心15日に熊取る）
1741年　11月3日 寛保元年　　9月25日 快晴 （駒越組の岩木川で30男川流れ死）
1741年　11月4日 寛保元年　　9月26日 陰晴 午の刻少し雨
1741年　11月5日 寛保元年　　9月27日 曇 昨未の下刻より雨 夜中
1741年　11月6日 寛保元年　　9月28日 晴
1741年　11月7日 寛保元年　　9月29日 快晴 今朝大霜
1741年　11月8日 寛保元年　　10月1日 曇 辰の下刻より雨 （9月中碇関出御印紙36枚他国者59御国人12人・切手紙25枚御国人40人・野内切手紙2枚御国人2人、千歳山下役人が駒越組五所で流死（25日の件））
1741年　11月9日 寛保元年　　10月2日 曇 （当田場左衛門を預け替え）
1741年 11月10日 寛保元年　　10月3日 曇 辰の刻過ぎより雨 終日に及ぶ
1741年 11月11日 寛保元年　　10月4日 陰晴 今朝大霜 巳の刻過ぎより雨 未の刻過ぎより雷発す
1741年 11月12日 寛保元年　　10月5日 晴 今朝霜
1741年 11月13日 寛保元年　　10月6日 晴 今朝大霜 下水氷る 戌の刻より小雨 夜に及ぶ
1741年 11月14日 寛保元年　　10月7日 晴
1741年 11月15日 寛保元年　　10月8日 快晴 夜に入り雨
1741年 11月16日 寛保元年　　10月9日 曇 昨夜中よりの雨終日に及ぶ 申の刻より丸雪降る
1741年 11月17日 寛保元年　10月10日 曇 昨夜中よりの雪風終日終夜に及ぶ （昨日初雪、9月中大間越:出入り人数合88人、同月野内:出入り都合146人、同月碇関:出入り人数合262人）
1741年 11月18日 寛保元年　10月11日 曇 昨夜中よりの雪終日に及ぶ （7月に介抱した新町の捨子病死）
1741年 11月19日 寛保元年　10月12日 曇 昨夜中よりの雨終日夜に及ぶ
1741年 11月20日 寛保元年　10月13日 曇 時々雪 戌の刻より雷発す
1741年 11月21日 寛保元年　10月14日 陰晴 時々小雪 夜に入り雨 （9日より10日までの大風で野内煤川?御番所被害）
1741年 11月22日 寛保元年　10月15日 陰晴
1741年 11月23日 寛保元年　10月16日 快晴 （柏木組横やちに者倒死、9日よりの大風・大波で鯵ヶ沢で所々破損・深浦で間かかり中の5艘破船）
1741年 11月24日 寛保元年　10月17日 快晴 今朝大霜 夜中雨 （赤石組代官が1500石余の銭納申立・700石の銭納を申付ける、油川組からも1800石申立・600石申付ける）
1741年 11月25日 寛保元年　10月18日 曇 昨夜中よりの雨終日に及ぶ
1741年 11月26日 寛保元年　10月19日 曇 巳の刻より風雨 終日に及ぶ
1741年 11月27日 寛保元年　10月20日 晴 夜に入り雨 （当田場左衛門預け替え）
1741年 11月28日 寛保元年　10月21日 晴
1741年 11月29日 寛保元年　10月22日 陰晴 時々雨
1741年 11月30日 寛保元年　10月23日 晴
1741年　12月1日 寛保元年　10月24日 晴 巳の刻過ぎ雨 （22日横内組高田村で外馬屋焼失）
1741年　12月2日 寛保元年　10月25日 陰晴
1741年　12月3日 寛保元年　10月26日 快晴 夜に入り小雨 （14日藤崎組横沢熊野宮に50坊主・11日大鰐組碇沢金山海道に50余男・1日藤崎組川部村に56男・20日大光寺組六羽川原に8才男子それぞれ倒死）
1741年　12月4日 寛保元年　10月27日 快晴
1741年　12月5日 寛保元年　10月28日 快晴 （常盤組葛野村に54・5道心と50余男・藤崎組林崎村に57・8男それぞれ倒死）
1741年　12月6日 寛保元年　10月29日 曇 夜に入り雪 （後潟組今別町山崎で屋敷・稲流失、春日町春日の社地で40男倒死）
1741年　12月7日 寛保元年　10月30日 陰晴 夜に入り小雪
1741年　12月8日 寛保元年　　11月1日 陰晴 （10月中碇関御印紙出41枚他国者54人・切手紙5枚7人・野内御印紙3枚他国者11人・切手紙3枚御国人9人、国上寺衆徒跡式倅に相違なく渡す）
1741年　12月9日 寛保元年　　11月2日 陰晴 辰の刻丸雪少々
1741年 12月10日 寛保元年　　11月3日 快晴 夜に入り雨 （当田場左衛門を召し放し）
1741年 12月11日 寛保元年　　11月4日 曇 巳の刻雨
1741年 12月12日 寛保元年　　11月5日 曇 昨夜小雪
1741年 12月13日 寛保元年　　11月6日 陰晴 夜に入り小雪 （南溜池東の方に死人、4人を斬罪、真教寺本堂で京都の男切腹・死亡）
1741年 12月14日 寛保元年　　11月7日 曇
1741年 12月15日 寛保元年　　11月8日 曇
1741年 12月16日 寛保元年　　11月9日 快晴
1741年 12月17日 寛保元年　11月10日 陰晴 （初鱈上がる、先月中野内:出入り人数都合255人）
1741年 12月18日 寛保元年　11月11日 曇 午の下刻より少し雨時々 （10月中大間越:出入り100人、大浦町の御堀の中に捨子死亡）
1741年 12月19日 寛保元年　11月12日 陰晴 卯之中刻地震 （蟹田町の鱈漁船8艘遭難・40人死亡）
1741年 12月20日 寛保元年　11月13日 快晴 子の刻小雨 （平岡町で火災1軒・稲乳（これは津軽の方言か）3個・馬1疋焼失・火元寺入り）
1741年 12月21日 寛保元年　11月14日 陰晴 未の中刻地震 申の八刻冬至に入る
1741年 12月22日 寛保元年　11月15日 曇
1741年 12月23日 寛保元年　11月16日 快晴 今朝大霜 夜中風
1741年 12月24日 寛保元年　11月17日 快晴 （10月中碇関:入り人数合241人）
1741年 12月25日 寛保元年　11月18日 陰晴
1741年 12月26日 寛保元年　11月19日 曇
1741年 12月27日 寛保元年　11月20日 曇
1741年 12月28日 寛保元年　11月21日 曇
1741年 12月29日 寛保元年　11月22日 晴 酉の刻より雪 夜に入る 辰の刻地震 （16日大光寺組田中村に盗人30人・米7・8斗銭5貫目取られる）
1741年 12月30日 寛保元年　11月23日 陰晴 （田舎館組田舎館村の山伏方に徒者（いたずらもの）24・5人・村内に徒なし）
1741年 12月31日 寛保元年　11月24日 陰晴 昨夜寅の刻より風時々雪 （田舎館村の徒者5人搦捕る）

1742年　1月1日 寛保元年　11月25日 陰晴　申の下刻より雪 （24日田舎館組諏訪堂村に火災（4間×9間：百姓）・外馬屋1軒稲400束焼失・火元村預け）
1742年　1月2日 寛保元年　11月26日 晴　昨夜より雪 （東長町に非人らしい13・4男倒死）
1742年　1月3日 寛保元年　11月27日 陰晴　雪時々 （12日夜の平岡町の火元の慎み赦免）
1742年　1月4日 寛保元年　11月28日 曇　昨夜中より雪時々　午の刻より晴 （22日後潟組後潟村で火災・火元村預け赦免、25日十三潟高根村より湊まで氷張る、昨年5日で節に引き合い9日早い）
1742年　1月5日 寛保元年　11月29日 陰晴　時々雪　夜亥の四刻より寒に入る
1742年　1月6日 寛保元年　11月30日 陰晴　　下から続く　　2寸5寸5歩7匁5分：・1寸7歩2寸2歩2匁5分：）・桜庭村の喜右衛門（1寸1寸5歩7分：）それぞれ熊とる、堀越組大清水と取上間に男倒死）
1742年　1月7日 寛保元年　12月1日 晴　甚寒 （金木組今泉村の庄屋助右衛門（胆長3寸廻り6寸生目60目：）・駒越組桜庭村の次郎三郎（1寸5歩1寸7歩3匁：）・中畑村の彦左衛門3疋（2寸5寸5匁5分：・　上に続く
1742年　1月8日 寛保元年　12月2日 曇　終日雪　甚寒 （11月中出他国者71人（碇関70人御印紙44枚・野内1人1枚）・御国人23人（碇関21人切手紙13枚・野内2人1枚））
1742年　1月9日 寛保元年　12月3日 晴　甚寒
1742年　1月10日 寛保元年　12月4日 晴　厳しい寒 （昨3日尾太銅山で口論・殺人あり）
1742年　1月11日 寛保元年　12月5日 快晴　甚寒
1742年　1月12日 寛保元年　12月6日 曇　時々雪　寒甚　　下から続く　　火事騒ぎに紛れ衣類盗み取る者あり・搦捕る）
1742年　1月13日 寛保元年　12月7日 晴　甚寒 （駒越組代官から籾納申し出る・了、先月晦日駒越組五代で火災・火元村預け・差許す、一昨5日藤崎組岩井村に盗人・捕まる、大鰐組八幡館村に火災・火元村預け、　上に続く
1742年　1月14日 寛保元年　12月8日 曇　雪時々 （11月中大間越：出入り人数43人）
1742年　1月15日 寛保元年　12月9日 陰晴　午の下刻より雪終日　夜に及ぶ
1742年　1月16日 寛保元年　12月10日 陰晴　巳の刻地震時々　風吹く　夜中に及ぶ （6日八幡館村の火元の村預け赦免）
1742年　1月17日 寛保元年　12月11日 晴　今朝雪時々 （11月中野内：出入り合165人）
1742年　1月18日 寛保元年　12月12日 晴
1742年　1月19日 寛保元年　12月13日 快晴
1742年　1月20日 寛保元年　12月14日 陰晴　雪
1742年　1月21日 寛保元年　12月15日 曇　昨夜中より吹雪　終日に及ぶ　雷発す　亥の刻大寒に入る （11月中碇関：入り142・出入り合253人）
1742年　1月22日 寛保元年　12月16日 曇　大寒甚々　昨夜より雪時々
1742年　1月23日 寛保元年　12月17日 曇　辰の刻より雪
1742年　1月24日 寛保元年　12月18日 快晴 （藤崎組深味村に45・6男倒死）
1742年　1月25日 寛保元年　12月19日 快晴　暮れ頃より雨　亥の刻まで
1742年　1月26日 寛保元年　12月20日 曇　昨夜亥の刻より大雨終日　夜に及ぶ （一昨18日柏木組松倉村で火災（3間×5間：高無）・火元村預け、土手町で潰れ家1軒死者1人・多分雪による）
1742年　1月27日 寛保元年　12月21日 快晴
1742年　1月28日 寛保元年　12月22日 快晴 （先だって出火の赤石組舞戸村・柏木組松倉村の火元の村預け赦免、此の間の雪で城内の松5本折れる）
1742年　1月29日 寛保元年　12月23日 晴 （20日尾太銅山で雪なて（雪崩）・死者4人、江戸からの飛脚に今十内組石沢弥八郎）
1742年　1月30日 寛保元年　12月24日 陰晴　時々雨　終日終夜に及ぶ
1742年　1月31日 寛保元年　12月25日 晴
1742年　2月1日 寛保元年　12月26日 曇　今朝より雪 （昨晩喜多村監物の家来自害）
1742年　2月2日 寛保元年　12月27日 快晴 （25日広須新田蓮田村で火災（4間×6間：百姓）・火元五人組預け）
1742年　2月3日 寛保元年　12月28日 陰晴　度々雪 （駒越組で熊2疋（胆長5寸廻り3寸生目23匁：・3寸2歩6寸20匁：）取る、25日広須新田の火元の村預け赦免、三新田からお手当米申立）
1742年　2月4日 寛保元年　12月29日 曇　終日雪
1742年　2月5日 寛保2年　正月1日　曇　卯の刻より雪　終日に及ぶ
1742年　2月6日 寛保2年　正月2日　曇　今朝小雪
1742年　2月7日 寛保2年　正月3日　快晴
1742年　2月8日 寛保2年　正月4日　陰晴
1742年　2月9日 寛保2年　正月5日　晴　辰の中刻まで雪少々
1742年　2月10日 寛保2年　正月6日　晴　巳の刻過ぎまで雪　それより晴　申の刻過ぎ雪
1742年　2月11日 寛保2年　正月7日　快晴
1742年　2月12日 寛保2年　正月8日　曇　時々雪　夜に及ぶ
1742年　2月13日 寛保2年　正月9日　曇　時々小雪 （寺社が新年登城）
1742年　2月14日 寛保2年　正月10日　晴
1742年　2月15日 寛保2年　正月11日　陰晴
1742年　2月16日 寛保2年　正月12日　快晴 （12月中碇関：87・出27・出入り人数合114人、同月中野内：出入り都合108人）
1742年　2月17日 寛保2年　正月13日　陰晴
1742年　2月18日 寛保2年　正月14日　晴　時々雪
1742年　2月19日 寛保2年　正月15日　陰晴　巳の刻まで雪　午の中刻晴
1742年　2月20日 寛保2年　正月16日　晴　昨夜中より雪今朝卯の刻まで　それより曇　午の刻より晴
1742年　2月21日 寛保2年　正月17日　陰晴　今朝小雪時々
1742年　2月22日 寛保2年　正月18日　晴
1742年　2月23日 寛保2年　正月19日　陰晴　未の刻より雪　申の下刻より大雪 （12月中出碇関御印紙42枚他国者51人・切手紙19枚御国人24人・野内と大間越は各切手紙1枚御国人1人）
1742年　2月24日 寛保2年　正月20日　曇　昨夜中より大雪　終日に及ぶ （17日猿賀組猿賀村で外馬屋焼失・火元呵置く）
1742年　2月25日 寛保2年　正月21日　陰晴　夜に入り雪
1742年　2月26日 寛保2年　正月22日　晴
1742年　2月27日 寛保2年　正月23日　晴
1742年　2月28日 寛保2年　正月24日　曇　辰の下刻より雪　終日に及ぶ （正月中大間越：出入り数合77人）

1742年　3月1日 寛保2年 正月25日　曇　辰の下刻雪時々
1742年　3月2日 寛保2年 正月26日　快晴 （24日堀越組福村で火災・家と馬2疋・火元村預け、昨25日（多分）青森町常光寺位牌堂に50余男縊死）
1742年　3月3日 寛保2年 正月27日　曇
1742年　3月4日 寛保2年 正月28日　快晴　酉の刻過ぎより雨 （去る22日尾太銅山で雪なで・1人死亡）
1742年　3月5日 寛保2年 正月29日　曇 （諸組代官より熊取り候との注進あり）
1742年　3月6日 寛保2年 正月30日　陰晴　昨夜中より雪　巳の刻まで （御児小姓頭土岐渡人に一粒金丹3粒、20日福村の火元（26日には24日と記述されている人物）の村預け免許）
1742年　3月7日 寛保2年　2月1日 晴 （当月29日田舎館組豊蒔村で火災2軒外馬屋1軒・火元給地百姓、藤代組湯船・北浮田・浮田・出木嶋4村の高無どもに御救い米）
1742年　3月8日 寛保2年　2月2日 快晴 （坂元町に50女非人倒死、御家中屋敷前塀際に12・3男（非人か）倒死）
1742年　3月9日 寛保2年　2月3日 陰晴 （後潟組郷沢（59人）・板木沢（62）・瀬辺地（55）・広瀬（228）各村の高無に御救い米願・見分を申し付ける、駒越組真土村で火災・男子2人焼死）
1742年　3月10日 寛保2年　2月4日 曇　辰の下刻より雨　終夜に及ぶ
1742年　3月11日 寛保2年　2月5日 曇　昨夜より小雨
1742年　3月12日 寛保2年　2月6日 曇　小雪時々　終日に及ぶ　亥の刻過ぎ雷発す （御家中屋敷脇小路に薦包みの死人）
1742年　3月13日 寛保2年　2月7日 曇　昨夜中より雪　今日終日に及ぶ （正月中碇関：入り77・出入り合123人、同大間越：人数合154・出入り人数合170人、同野内：出入り都合44人）
1742年　3月14日 寛保2年　2月8日 陰晴　小雪時々 （柏木組瀬良沢村に27・8男倒死）
1742年　3月15日 寛保2年　2月9日 晴　辰の刻小雪　同中刻より快晴
1742年　3月16日 寛保2年　2月10日 快晴　午の刻より雨
1742年　3月17日 寛保2年　2月11日 快晴　未の刻より風雨　夜に及ぶ
1742年　3月18日 寛保2年　2月12日 快晴
1742年　3月19日 寛保2年　2月13日 快晴　子の刻過ぎより雨　丑の刻より大風雨
1742年　3月20日 寛保2年　2月14日 曇　昨夜中より風雨　終日に及ぶ　戌の下刻より風止（正に見える）む （昨夜富田町で家1軒吹き倒れ）
1742年　3月21日 寛保2年　2月15日 陰晴 （一昨夜の大風でご家中の屋根破損）
1742年　3月22日 寛保2年　2月16日 晴
1742年　3月23日 寛保2年　2月17日 曇　戌の刻過ぎより雨　終夜に及ぶ
1742年　3月24日 寛保2年　2月18日 曇　辰の下刻より雪終日　夜中大吹雪 （松前箱館の船が袰月で破船・死者あり）
1742年　3月25日 寛保2年　2月19日 昨夜中より吹雪　巳の下刻より止む　時々風雪　但彼岸に入る　雪厚5寸ほど （12日の大風で青森御蔵屋根吹きはげ）
1742年　3月26日 寛保2年　2月20日 曇　昨夜中より大雪　雪終日に及ぶ　雪深さ5寸ほど
1742年　3月27日 寛保2年　2月21日 陰晴　辰の下刻より少し雪
1742年　3月28日 寛保2年　2月22日 晴　酉の刻より雨
1742年　3月29日 寛保2年　2月23日 陰晴　時々雪　夜に入る
1742年　3月30日 寛保2年　2月24日 陰晴
1742年　3月31日 寛保2年　2月25日 快晴 （赤田組板屋野木村の御蔵米船積み場所川欠け）
1742年　4月1日 寛保2年　2月26日 快晴 （22日十三潟が船通るように明ける）
1742年　4月2日 寛保2年　2月27日 晴　申の下刻より雨風　夜に及ぶ （昨日大清水村の堰の内に足軽の倅死亡）
1742年　4月3日 寛保2年　2月28日 曇　辰の刻より雪　終日に及ぶ
1742年　4月4日 寛保2年　2月29日 曇　時々風雨 （昨晩本町に極月生まれの男子捨子）
1742年　4月5日 寛保2年　3月1日 快晴 （当月15日朝十三中川原に鯨寄せる）
1742年　4月6日 寛保2年　3月2日 曇　巳の下刻小雨 （先月29日赤石組亀ヶ崎浜に鯨の一部寄せる、猿賀・浦町組で熊取る）
1742年　4月7日 寛保2年　3月3日 快晴　夜に小雨 （弘前廻り35人の袖乞いに土米3・4升づつお手当て）
1742年　4月8日 寛保2年　3月4日 快晴 （一昨晩紺屋町に3歳男子捨子）
1742年　4月9日 寛保2年　3月5日 晴 （赤石組驫木村に鯨寄せる）
1742年　4月10日 寛保2年　3月6日 快晴　今朝大霜
1742年　4月11日 寛保2年　3月7日 曇　昨夜中雨　巳の刻まで （2月中大間越：出入り183人、同野内：出入り222人、尾太銅山の出高などの質問に回答）
1742年　4月12日 寛保2年　3月8日 曇　風立つ （長勝寺林内に倒（死）者）
1742年　4月13日 寛保2年　3月9日 晴
1742年　4月14日 寛保2年　3月10日 晴　今朝大霜 （2月中碇関：出入り合205人、大間越町庄屋が飯米70俵仰せ付け願い・50俵を1俵18匁8分3厘で申付ける）
1742年　4月15日 寛保2年　3月11日 晴 （例のとおり五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1742年　4月16日 寛保2年　3月12日 快晴　今朝大霜
1742年　4月17日 寛保2年　3月13日 晴 （10日夜三新田福原村で火災・火元預け、大間越町奉行が熊・狼対策として6匁玉などを申し立てる・申付ける）
1742年　4月18日 寛保2年　3月14日 晴　申の刻小雨　同中刻晴 （大円寺後南溜池に死人）
1742年　4月19日 寛保2年　3月15日 快晴　巳の三刻より土用入り （10日吹野村の火元の村預け免許）
1742年　4月20日 寛保2年　3月16日 曇　辰の下刻小雨　終日に及ぶ
1742年　4月21日 寛保2年　3月17日 晴　風立つ
1742年　4月22日 寛保2年　3月18日 快晴
1742年　4月23日 寛保2年　3月19日 晴 （14日後潟組清水村に野火2か所（50間×30間が二つ））
1742年　4月24日 寛保2年　3月20日 曇　時々雨
1742年　4月25日 寛保2年　3月21日 曇　辰の刻過ぎより雨　巳の下刻晴 （（金木組）柏木で野火（500間×200間）、2日紺屋町の3歳男子捨子病死）
1742年　4月26日 寛保2年　3月22日 陰晴　夜に入り大雨
1742年　4月27日 寛保2年　3月23日 陰晴 （誓願寺前で針医者縊死、石渡・駒越川洪水・段々落ち水）
1742年　4月28日 寛保2年　3月24日 曇　今朝霞　午の刻晴
1742年　4月29日 寛保2年　3月25日 快晴
1742年　4月30日 寛保2年　3月26日 快晴 （昨夜和徳町で火災）

1742年　5月1日 寛保2年　3月27日 快晴　申の下刻より小雨　終夜に及ぶ （一昨22日津梅川洪水・土留破れる、25日の鐘が遅く火の見足軽押込、23日三新田遠山里村で火災・火元五人組預け）
1742年　5月2日 寛保2年　3月28日 曇　終日雨 （今日岩木川洪水・大組より1組・諸手より2組出す、23日遠山里村の火元の村預け免許）
1742年　5月3日 寛保2年　3月29日 曇　巳の下刻より雨 （岩木川の橋が28間ほど流れる、前田野目山で野火（200間×150間））
1742年　5月4日 寛保2年　3月30日 晴
1742年　5月5日 寛保2年　4月1日 晴　今朝少し霜 （27日虹貝山で山火事（100間×50間））
1742年　5月6日 寛保2年　4月2日 快晴 （25日今別の山で南部の男縊死）
1742年　5月7日 寛保2年　4月3日 快晴
1742年　5月8日 寛保2年　4月4日 快晴 （御用人喜多村監物に一粒金丹10粒）
1742年　5月9日 寛保2年　4月5日 快晴
1742年　5月10日 寛保2年　4月6日 快晴
1742年　5月11日 寛保2年　4月7日 快晴 （昨6日北尾太に山火事、昨5日碇関大落前沢で野火（1丁×50間）
1742年　5月12日 寛保2年　4月8日 快晴　亥の刻より小雨　夜に及ぶ （御用人津軽頼母に一粒金丹10粒、去月18日平内御境目で山火事（120間×50間）、北尾太の山火事は2町四方）
1742年　5月13日 寛保2年　4月9日 曇　午の刻より晴 （去月25日和徳町の火元の寺落を時分柄赦免、大間越：出入り合77人、野内：出入り合189人）
1742年　5月14日 寛保2年　4月10日 快晴
1742年　5月15日 寛保2年　4月11日 曇　辰の中刻より雨　巳の中刻より晴 （3月中碇関：入り220・出人603人、大間越町庄屋が当月分飯米60俵御払い願・当時相場に駄賃運賃加え1俵19匁1分3厘で40俵申付ける）
1742年　5月16日 寛保2年　4月12日 曇　卯の刻より霧　小雨時々
1742年　5月17日 寛保2年　4月13日 快晴　巳の刻過ぎより曇 （一昨10日金木組沖館詰村で火災（4間×7間：給地百姓）と外馬屋（3間×2間）、8日和徳組小沢村で野火（30間×10間）、8日後潟組小国村で野火（80間×25・6間））
1742年　5月18日 寛保2年　4月14日 快晴
1742年　5月19日 寛保2年　4月15日 快晴　月蝕子の刻甚だしい （今別町の者共御蔵米100俵御払い願・1俵19匁7分で申付ける）
1742年　5月20日 寛保2年　4月16日 快晴　巳の中刻過ぎ曇
1742年　5月21日 寛保2年　4月17日 快晴
1742年　5月22日 寛保2年　4月18日 快晴　辰の刻より曇　未の刻より風　終日　少々雨降　申の下刻止む
1742年　5月23日 寛保2年　4月19日 晴
1742年　5月24日 寛保2年　4月20日 晴　今朝小雨 （3月中碇関353人（他国者79御印紙55枚・御国人274切手紙87枚）、野内3人（他国者1人1枚・御国人2人1枚）、青森湊御国人2人2枚）
1742年　5月25日 寛保2年　4月21日 快晴　卯の中刻より雨　夜に入る （25日和徳町出火の際の早鐘打ちの押し込め赦免）
1742年　5月26日 寛保2年　4月22日 快晴
1742年　5月27日 寛保2年　4月23日 快晴 （22日夜藤崎組藤崎村で火災・藤崎村御蔵高無村預け）
1742年　5月28日 寛保2年　4月24日 快晴
1742年　5月29日 寛保2年　4月25日 快晴 （14日浪岡組杉沢村に野火・松90本など焼失）
1742年　5月30日 寛保2年　4月26日 快晴　巳の刻まで曇　申の中刻雷発す （昨朝増館組水木村で火災（2間×5間：百生（この通りの記述です・こんな例は俵を表に書いたり色々です）・火元村預け）
1742年　5月31日 寛保2年　4月27日 曇　午の刻より雨 （22日藤崎村の火元の村預け赦免・御家中の妻流死）
1742年　6月1日 寛保2年　4月28日 陰晴　昨夜中雨　今朝曇　辰の刻より晴天 （25日昼より碇関板沢に山火事（20間×10間））
1742年　6月2日 寛保2年　4月29日 晴 （去る12月尾太の雪なでで死亡の2人発見、23日相馬山で野火（80間×50間））
1742年　6月3日 寛保2年　5月1日 快晴　日蝕　巳の五刻甚だしい　星三つ見ゆる　片時計りの内闇 （先月14日沖館詰村と25日水木村の火元の村預け赦免、藤崎組大表村?に30男倒死）
1742年　6月4日 寛保2年　5月2日 快晴 （24日御屋形様江戸御発駕）
1742年　6月5日 寛保2年　5月3日 快晴
1742年　6月6日 寛保2年　5月4日 快晴　未の下刻より夜中雨
1742年　6月7日 寛保2年　5月5日 曇（日偏に雲）　昨夜中より雨時々終日
1742年　6月8日 寛保2年　5月6日 快晴
1742年　6月9日 寛保2年　5月7日 快晴 （3日横内組根小屋沢に火災・火元村預け・赦免）
1742年　6月10日 寛保2年　5月8日 曇　午の刻小雨暫く　則止む （4月中大間越：人数合36・出入り数合51人、4月中野内：都合人数116・出入り合249人）
1742年　6月11日 寛保2年　5月9日 快晴
1742年　6月12日 寛保2年　5月10日 快晴
1742年　6月13日 寛保2年　5月11日 晴　辰の刻小雨
1742年　6月14日 寛保2年　5月12日 曇 （日偏に雲）　巳の刻より雨　終日
1742年　6月15日 寛保2年　5月13日 晴　巳の刻まで時々小雨　それより晴 （午の下刻御屋形様御着城）
1742年　6月16日 寛保2年　5月14日 晴 （2月27日の本町の捨て子病死）
1742年　6月17日 寛保2年　5月15日 陰晴　今朝巳の刻過ぎ時々小雨　辰の刻雷発す
1742年　6月18日 寛保2年　5月16日 快晴 （13日深浦町で火災13軒、昨14日横内組宮崎村で火災1軒と外馬屋・火元百姓預け、4月中碇関：出入り281人）
1742年　6月19日 寛保2年　5月17日 快晴　酉の刻より雨時々
1742年　6月20日 寛保2年　5月18日 快晴
1742年　6月21日 寛保2年　5月19日 陰晴　午の中刻より雨　雷発す
1742年　6月22日 寛保2年　5月20日 晴　辰の下刻より快晴 （14日宮崎村の火元の百姓預け赦免）
1742年　6月23日 寛保2年　5月21日 快晴 （四社に五穀成就の御祈祷仰せ付ける、四社の外に和徳稲荷にも）
1742年　6月24日 寛保2年　5月22日 快晴
1742年　6月25日 寛保2年　5月23日 曇　卯の刻より雨時々
1742年　6月26日 寛保2年　5月24日 陰晴　巳の下刻まで時々小雨
1742年　6月27日 寛保2年　5月25日 晴
1742年　6月28日 寛保2年　5月26日 曇　今朝丑の中刻より雨　午の刻止む　それより晴
1742年　6月29日 寛保2年　5月27日 陰晴　申の中刻より雨　終夜に及ぶ （喜多村監物が御家老に）
1742年　6月30日 寛保2年　5月28日 晴

1742年　7月1日 寛保2年　5月29日 陰晴 （5月11日藤代組の給地百姓行方不明）
1742年　7月2日 寛保2年　6月1日 晴
1742年　7月3日 寛保2年　6月2日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ （大鰐村より初まふり(真瓜?)）
1742年　7月4日 寛保2年　6月3日 曇　辰の刻より雨時々　終日に及ぶ　雷発す
1742年　7月5日 寛保2年　6月4日 陰晴
1742年　7月6日 寛保2年　6月5日 快晴
1742年　7月7日 寛保2年　6月6日 快晴
1742年　7月8日 寛保2年　6月7日 快晴 （隈部伊織が長病で御役御免、6月9日植付仕廻）
1742年　7月9日 寛保2年　6月8日 快晴
1742年　7月10日 寛保2年　6月9日 快晴 （大間越町(庄屋)から飯米70俵御払い願・1俵18匁3厘で60俵を申付ける）
1742年　7月11日 寛保2年　6月10日 快晴
1742年　7月12日 寛保2年　6月11日 快晴 （昨晩大鰐組石川村で火災・火元村預け）　下から続く　先月13日深浦町の火元の入寺免許、5月中野内:都合159・出入り人数280人）
1742年　7月13日 寛保2年　6月12日 曇　霧　小雨少々　巳の下刻より晴 （5月中出碇関309人(御印紙78御国人10他国者238人・切手紙35御国人61人)・野内2人(他国者御国人各1人)・大間越3人(切手紙1枚)、　上に続く
1742年　7月14日 寛保2年　6月13日 快晴　今朝辰の刻まで霞　それより晴
1742年　7月15日 寛保2年　6月14日 快晴 （石川村の火元5日で免許）
1742年　7月16日 寛保2年　6月15日 晴　巳の下刻少し雨　則止む　未の下刻より雨時々　夜に及ぶ （大円寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1742年　7月17日 寛保2年　6月16日 陰晴 （5月中碇関:入り人数227・出人数69人）
1742年　7月18日 寛保2年　6月17日 快晴
1742年　7月19日 寛保2年　6月18日 晴　午の刻過ぎ少し雨　酉の刻より土用
1742年　7月20日 寛保2年　6月19日 陰晴　午の中刻小雨 （御用人笠原武左衛門に一粒金丹10粒）
1742年　7月21日 寛保2年　6月20日 曇　小雨時々　午の下刻大雨
1742年　7月22日 寛保2年　6月21日 陰晴　甚暑　巳の中刻過ぎより雨　則止む
1742年　7月23日 寛保2年　6月22日 陰晴　甚暑
1742年　7月24日 寛保2年　6月23日 陰晴　時々雨　甚暑
1742年　7月25日 寛保2年　6月24日 曇　昨夜寅の刻より雨　今朝辰の刻晴　午の中刻より晴
1742年　7月26日 寛保2年　6月25日 快晴　卯の刻地震
1742年　7月27日 寛保2年　6月26日 快晴　申の刻前雷発す　申の刻過ぎ雨　即刻止む （菊地幸左衛門に一粒金丹2粒）
1742年　7月28日 寛保2年　6月27日 陰晴　未の刻より雨　夜に及ぶ
1742年　7月29日 寛保2年　6月28日 曇　昨夜中より雨　辰の下刻晴
1742年　7月30日 寛保2年　6月29日 快晴　申の下刻雷発す　稲妻
1742年　7月31日 寛保2年　6月30日 曇　辰の下刻小雨時々　雷発す　午の下刻より晴
1742年　8月1日 寛保2年　7月1日 晴
1742年　8月2日 寛保2年　7月2日 曇　辰の刻より風雨　雷時々　戌の刻より大雨　二三度雷発す （先月28日赤石組轟村で塩釜焼失）
1742年　8月3日 寛保2年　7月3日 快晴 （横内・浦町・後潟組の川が洪水、駒越・藤崎渡の船が不通）
1742年　8月4日 寛保2年　7月4日 陰晴 （2日朝の大雨で飯詰組一ノ坪村で百姓家10人中8人流死・鰺ヶ沢の御家中長屋が山崩れで前進・七つ石村で5・6軒床上浸水）
1742年　8月5日 寛保2年　7月5日 曇　今朝寅の刻より小雨　辰の下刻まて
1742年　8月6日 寛保2年　7月6日 曇　昨夜中雨　今日終日に及ぶ （大円寺に天気揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1742年　8月7日 寛保2年　7月7日 曇
1742年　8月8日 寛保2年　7月8日 曇　巳の刻より時々小雨
1742年　8月9日 寛保2年　7月9日 晴 （このたびの洪水により小泊村で潰れ家4・傷み家3・水主1人流死）　下から続く　321人、野内:出入り人数合173人、大間越:出入り人数合63人）
1742年　8月10日 寛保2年　7月10日 晴 （6月中出碇関115人(他国者78御印紙61・御国人37切手紙23)・野内他国者2人御印紙1・大間越御国人14人切手紙6・今別湊御国人1人切手紙1、6月中碇関:出入り都合　上に続く
1742年　8月11日 寛保2年　7月11日 快晴　昨夜中中より今朝まで余程冷える （2日朝の大雨に伴う被害状況あり、13日に郡奉行が報告しているので以下省略）
1742年　8月12日 寛保2年　7月12日 快晴 （2日大雨被害の報告あり）　下から続く　築堤崩222箇所・橋377・水湛307村・流失78軒・流死48人、馬10疋流死）
1742年　8月13日 寛保2年　7月13日 快晴　今朝冷気 （2日の大雨被害の郡奉行報告:田方1525町(高13733石)損耗・同386町(3312石)？・畑方582町(高1746石)損耗・同232町(高659石)川欠・石砂等・　上に続く
1742年　8月14日 寛保2年　7月14日 快晴
1742年　8月15日 寛保2年　7月15日 晴
1742年　8月16日 寛保2年　7月16日 晴
1742年　8月17日 寛保2年　7月17日 快晴　残暑強し （大鰐組大鰐村の加賀助・尾崎組大坊村の清次郎よ梨初米上る）
1742年　8月18日 寛保2年　7月18日 曇　残暑強し　巳の刻過ぎ小雨　午の刻過ぎ晴
1742年　8月19日 寛保2年　7月19日 快晴　残暑強し
1742年　8月20日 寛保2年　7月20日 快晴　残暑強し
1742年　8月21日 寛保2年　7月21日 曇　辰の刻過ぎ大雨　巳の刻小雨　辰の刻雷
1742年　8月22日 寛保2年　7月22日 晴
1742年　8月23日 寛保2年　7月23日 快晴 （20日夜油川組油川村で火災・33・4軒焼失）
1742年　8月24日 寛保2年　7月24日 曇　巳の刻より小雨時々
1742年　8月25日 寛保2年　7月25日 曇　巳の刻より小雨時々
1742年　8月26日 寛保2年　7月26日 曇　巳の刻よりはなはだしい雨終日　終夜に及ぶ
1742年　8月27日 寛保2年　7月27日 晴
1742年　8月28日 寛保2年　7月28日 晴
1742年　8月29日 寛保2年　7月29日 陰晴　午の下刻小雨　則止む
1742年　8月30日 寛保2年　8月1日 陰晴　申の下刻より小雨　夜に及ぶ （7月中出碇関102人(他国者85御印紙51・御国人17切手紙12)・野内他国者6御印紙2・大間越他国者2御印紙1）
1742年　8月31日 寛保2年　8月2日 曇　昨夜中の雨終日夜に及ぶ （大円寺境内に男倒死）

1742年　9月1日 寛保2年　8月3日 陰晴
1742年　9月2日 寛保2年　8月4日 快晴　今朝雷　巳の刻より晴　(田中伴右衛門に一粒金丹3粒)
1742年　9月3日 寛保2年　8月5日 曇　巳の刻より雨　(一昨2日浪岡組王余魚沢村(かれいざわむら)で外馬屋1軒と雑駄2疋焼失・火元村預け)
1742年　9月4日 寛保2年　8月6日 曇　終日大雨　(藤崎・駒越川ともさしたる被害なし)
1742年　9月5日 寛保2年　8月7日 曇　午の刻より晴　(虫歯で勤務が……なんて者あり、去る20日油川村の火元の村預け赦免)
1742年　9月6日 寛保2年　8月8日 陰晴　辰の中刻小雨
1742年　9月7日 寛保2年　8月9日 晴　(7月中野内:都合152・出入り都合247人)
1742年　9月8日 寛保2年　8月10日 晴　(2日王余魚沢村の火元の村預け免許、和徳町に投げ火、今別町で合船(丸木舟でない船を造ること)の船に1俵18匁8分5厘で飯米御払い、7月中碇関:入り人数179・出入り人数合291人)
1742年　9月9日 寛保2年　8月11日 曇　巳の刻過ぎより時々雨
1742年　9月10日 寛保2年　8月12日 陰晴　(7月中大間越:人数合23・出入り人数合57人)
1742年　9月11日 寛保2年　8月13日 晴　今朝水霜
1742年　9月12日 寛保2年　8月14日 陰晴　申の刻過ぎより雨　夜に及ぶ
1742年　9月13日 寛保2年　8月15日 曇　辰の刻まで雨
1742年　9月14日 寛保2年　8月16日 陰晴　卯の刻前雨暫く　則止む　(八幡祭礼)
1742年　9月15日 寛保2年　8月17日 陰晴
1742年　9月16日 寛保2年　8月18日 晴
1742年　9月17日 寛保2年　8月19日 曇　午の上刻より雨
1742年　9月18日 寛保2年　8月20日 曇　昨夜中大雨　卯の刻に及び止む　(今朝の洪水で石渡の舟橋流れる)
1742年　9月19日 寛保2年　8月21日 晴　(川除け御用の柴値段1しめが1匁8分)
1742年　9月20日 寛保2年　8月22日 快晴
1742年　9月21日 寛保2年　8月23日 陰晴
1742年　9月22日 寛保2年　8月24日 晴　夜に入り雨　終夜に及ぶ　(19日夜内真部湊付近の難風で水舟・水主行方不明、柴河車?の作り方)
1742年　9月23日 寛保2年　8月25日 陰晴
1742年　9月24日 寛保2年　8月26日 快晴
1742年　9月25日 寛保2年　8月27日 快晴　下から続く　骨もない様に柔らかい、今2日昼油川組新城・田村・後潟組清水村で・5日油川組油川村で計4人流死)
1742年　9月26日 寛保2年　8月28日 陰晴　今朝八つ半時雨　卯の刻に及び止む　時々雨　(6月晦日油川組細越村で百姓の女房が落雷ショック死、先月晦日(7月に晦日なし)増館組下十川村で男落雷死・疵はなく　上に続く
1742年　9月27日 寛保2年　8月29日 晴
1742年　9月28日 寛保2年　8月30日 陰晴　時々雨
1742年　9月29日 寛保2年　9月1日 陰晴
1742年　9月30日 寛保2年　9月2日 曇　辰の下刻より雨　終日に及ぶ　(先月29日今別に漁に出た青森舟が水舟に・水主行方不明)
1742年　10月1日 寛保2年　9月3日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　(去月27日内真部湊の浜に昨日の記事の死骸が上がる)
1742年　10月2日 寛保2年　9月4日 曇　昨夜中より今朝五時過ぎまで雨　終日時々雨
1742年　10月3日 寛保2年　9月5日 曇　昨夜中雨　卯の刻より止む　申の下刻より雨　雷発す　酉の刻より雷時々発す　雨
1742年　10月4日 寛保2年　9月6日 曇　昨夜中より雨　終日時々　(五山に天気揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1742年　10月5日 寛保2年　9月7日 曇　寅の下刻より雨　終日に及ぶ　夜子の中刻雷発す　雨
1742年　10月6日 寛保2年　9月8日 晴
1742年　10月7日 寛保2年　9月9日 晴
1742年　10月8日 寛保2年　9月10日 曇　卯の刻より雨　終日に及ぶ
1742年　10月9日 寛保2年　9月11日 晴　夜に入り小雨　(大間越町庄屋が当月分70俵御蔵米御払い願い・40俵申し付ける)
1742年 10月10日 寛保2年　9月12日 晴　夜に入り雨
1742年 10月11日 寛保2年　9月13日 晴　(十三より初鮭上がる)
1742年 10月12日 寛保2年　9月14日 陰晴　今朝大霜　未の刻より少し雨　夜に及ぶ
1742年 10月13日 寛保2年　9月15日 陰晴　今朝岩木山半分過ぎ雪見る　冷気立つ
1742年 10月14日 寛保2年　9月16日 晴　昨夜中時々風雨　卯の刻過ぎ止む
1742年 10月15日 寛保2年　9月17日 晴　今朝大霜
1742年 10月16日 寛保2年　9月18日 快晴
1742年 10月17日 寛保2年　9月19日 曇　巳の中刻過ぎより雨
1742年 10月18日 寛保2年　9月20日 快晴
1742年 10月19日 寛保2年　9月21日 晴　(角田三左衛門に一粒金丹3粒)
1742年 10月20日 寛保2年　9月22日 曇
1742年 10月21日 寛保2年　9月23日 快晴
1742年 10月22日 寛保2年　9月24日 晴　巳の刻より小雨時々　(8月中大間越:出入り人数45人・同野内:出入り人数129人・同碇関:出入り人数410人)
1742年 10月23日 寛保2年　9月25日 曇　未の中刻より雨　夜に入り時々
1742年 10月24日 寛保2年　9月26日 曇
1742年 10月25日 寛保2年　9月27日 曇　午の中刻より少し雨　時々風立つ
1742年 10月26日 寛保2年　9月28日 快晴
1742年 10月27日 寛保2年　9月29日 陰晴
1742年 10月28日 寛保2年　10月1日 曇　終日雨
1742年 10月29日 寛保2年　10月2日 晴　(先月27日金木新田葛野村で火災・火元免許)
1742年 10月30日 寛保2年　10月3日 快晴
1742年 10月31日 寛保2年　10月4日 快晴　今朝大雪(霜と思われるが、明らかに雪と記述)

1742年　11月1日 寛保2年　　10月5日 陰晴　午の刻過ぎ晴
1742年　11月2日 寛保2年　　10月6日 曇　雨時々　夜に及ぶ
1742年　11月3日 寛保2年　　10月7日 曇　時々雨
1742年　11月4日 寛保2年　　10月8日 陰晴
1742年　11月5日 寛保2年　　10月9日 曇　時々雨　未の刻前雷発す　(前家老隈部伊織知行召し放ち西館右膳預け、他にも預けあり)
1742年　11月6日 寛保2年　10月10日 陰晴　今朝雪　午の刻より晴　(今暁初雪)
1742年　11月7日 寛保2年　10月11日 陰晴　(去月21日秋田鹿渡の漁船が深浦湊沖に流れ寄せる・1人溺死)
1742年　11月8日 寛保2年　10月12日 晴　申の刻より小雨　(常盤組柳村に42・3男倒死)
1742年　11月9日 寛保2年　10月13日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1742年 11月10日 寛保2年　10月14日 曇　昨夜中より小雪
1742年 11月11日 寛保2年　10月15日 快晴　夜に入り雨　(人事異動若干)
1742年 11月12日 寛保2年　10月16日 快晴　夜に入り雨　(9月中野内:出入り合156人・碇関:190人、大間越出入り51人)
1742年 11月13日 寛保2年　10月17日 曇　時々小雨
1742年 11月14日 寛保2年　10月18日 曇　時々小雨　霰降る
1742年 11月15日 寛保2年　10月19日 快晴
1742年 11月16日 寛保2年　10月20日 晴　今朝大雪　(8日鰺ヶ沢町の名主が縊死)
1742年 11月17日 寛保2年　10月21日 快晴　今朝大霜　(橋雲寺を喜田長太夫預け)
1742年 11月18日 寛保2年　10月22日 快晴
1742年 11月19日 寛保2年　10月23日 曇　申の下刻雨　(19日飯詰組野里村で火煙・火元村預け・免許)
1742年 11月20日 寛保2年　10月24日 曇　時々雪　(浪岡八幡神主有馬左太夫召し放ち)
1742年 11月21日 寛保2年　10月25日 曇　午の刻より時々小雨
1742年 11月22日 寛保2年　10月26日 曇　時々雪　(23日大光寺組本町村で火災(1間半×2間:高無))
1742年 11月23日 寛保2年　10月27日 曇
1742年 11月24日 寛保2年　10月28日 快晴
1742年 11月25日 寛保2年　10月29日 快晴　今朝霜　(7月2日と6日の洪水被害の幕府への届けあり・7月13日の郡奉行報告よりはるかに少ない)
1742年 11月26日 寛保2年　10月30日 陰晴　今朝小雨　則刻止む　昼過ぎ風
1742年 11月27日 寛保2年　　11月1日 曇　昨夜中より雨　終日　(今日時疫除けの御札を下し置かれる)
1742年 11月28日 寛保2年　　11月2日 晴　昨夜中より雨　雷少々発す
1742年 11月29日 寛保2年　　11月3日 曇　昨夜中より雨　今朝明け方まで
1742年 11月30日 寛保2年　　11月4日 陰晴　午の下刻過ぎより時々小雪　(桶屋町川原に倒死者)
1742年　12月1日 寛保2年　　11月5日 晴
1742年　12月2日 寛保2年　　11月6日 曇　時々小雪　(青森より初鱈上がる、隈部伊織の病重い?、田村源太兵衛に一粒金丹10粒)
1742年　12月3日 寛保2年　　11月7日 曇　雪時々　　下から続く　　大風で番所屋根2坪被害)
1742年　12月4日 寛保2年　　11月8日 曇　雪時々　(赤石組から1500石銭納願・1俵18匁の仮値段で申付ける、10月中野内:入り人合99・出入り都合173人・大間越:人数合28・出入り人数合97人、1日浅虫の　　上に続く
1742年　12月5日 寛保2年　　11月9日 陰晴　時々雪　(裏付きの裃(上下と記述)で登城)
1742年　12月6日 寛保2年　11月10日 陰晴　(先月23日本町村の火元の慎み免許)
1742年　12月7日 寛保2年　11月11日 快晴　(大目付唐牛三左衛門に一粒金丹3粒)
1742年　12月8日 寛保2年　11月12日 快晴　(1日夜今別町で蔵破損)
1742年　12月9日 寛保2年　11月13日 曇　辰の刻過ぎより雪　午の刻より晴　夜に入り小雪
1742年 12月10日 寛保2年　11月14日 晴　(後潟組から銭納願・仮値段1俵18匁で)
1742年 12月11日 寛保2年　11月15日 曇　卯の刻より小雪時々
1742年 12月12日 寛保2年　11月16日 曇　時々小雪　夜に入り雪
1742年 12月13日 寛保2年　11月17日 曇　雪終日
1742年 12月14日 寛保2年　11月18日 曇　終日雪
1742年 12月15日 寛保2年　11月19日 陰晴　時々雪　(17日晩尾太銅山で小屋焼失7軒)
1742年 12月16日 寛保2年　11月20日 晴　午の下刻より時々雪　(米値段平均17匁5分6厘6毛)
1742年 12月17日 寛保2年　11月21日 曇　時々雪　(19日朝十三潟氷張る・去年は11月25日)
1742年 12月18日 寛保2年　11月22日 曇　時々雪　(20日?飯詰組原子村に男倒死)
1742年 12月19日 寛保2年　11月23日 快晴
1742年 12月20日 寛保2年　11月24日 曇　時々雪　夜に及ぶ
1742年 12月21日 寛保2年　11月25日 陰晴　卯の上刻冬に至る　時々雪
1742年 12月22日 寛保2年　11月26日 曇　時々雪　(24日赤石組田浦村で物置焼失・火元村預け)
1742年 12月23日 寛保2年　11月27日 陰晴　昨夜より雪時々　夜中雨時々
1742年 12月24日 寛保2年　11月28日 陰晴　時々雪　(このたび関東筋出水……)
1742年 12月25日 寛保2年　11月29日 曇
1742年 12月26日 寛保2年　11月30日 曇　時々雪　(油値段1升に付5匁から6匁に)　　下から続く　　:借家)・火元五人組組預け)
1742年 12月27日 寛保2年　　12月1日 曇　時々雪　(27日駒越組大秋村の新兵衛熊(胆長3寸5歩廻り4寸5歩生目55匁:)取る、24日夜田浦村の火元の村預け免許、昨夜金木新田八幡村で火災(2間×4間　　上に続く
1742年 12月28日 寛保2年　　12月2日 陰晴　時々雪
1742年 12月29日 寛保2年　　12月3日 陰晴
1742年 12月30日 寛保2年　　12月4日 晴
1742年 12月31日 寛保2年　　12月5日 晴　寒気甚だしく　(29日夜八幡村の火元の村預け差許)

1743年　1月1日 寛保2年　12月6日 晴
1743年　1月2日 寛保2年　12月7日 曇　雪終日に及ぶ
1743年　1月3日 寛保2年　12月8日 晴
1743年　1月4日 寛保2年　12月9日 曇 （西舘宇膳宅で隈部伊織に切腹仰せ付けられる、早道の者4人入牢）
1743年　1月5日 寛保2年　12月10日 曇　小雪時々　寅の刻より小寒に入る
1743年　1月6日 寛保2年　12月11日 晴
1743年　1月7日 寛保2年　12月12日 晴
1743年　1月8日 寛保2年　12月13日 晴　昨夜少し雨
1743年　1月9日 寛保2年　12月14日 陰晴 （御家中の軒先焼失・火元遠慮）
1743年　1月10日 寛保2年　12月15日 晴　雪時々
1743年　1月11日 寛保2年　12月16日 晴　昨夜雪
1743年　1月12日 寛保2年　12月17日 陰晴
1743年　1月13日 寛保2年　12月18日 快晴
1743年　1月14日 寛保2年　12月19日 曇　卯の刻前より雨　終日に及ぶ
1743年　1月15日 寛保2年　12月20日 曇　時々雪降り　酉の中刻地震少々
1743年　1月16日 寛保2年　12月21日 陰晴
1743年　1月17日 寛保2年　12月22日 陰晴 （奉行以下に異動あり）
1743年　1月18日 寛保2年　12月23日 曇　小雪時々
1743年　1月19日 寛保2年　12月24日 陰晴　酉の下刻より雪　卯の刻に及ぶ
1743年　1月20日 寛保2年　12月25日 陰晴　卯の下刻より雪降り
1743年　1月21日 寛保2年　12月26日 曇　小雪時々
1743年　1月22日 寛保2年　12月27日 曇　時々雪
1743年　1月23日 寛保2年　12月28日 陰晴　終日雪
1743年　1月24日 寛保2年　12月29日 陰晴 （この日の干支は甲寅と記述）
1743年　1月25日 寛保2年　12月30日　（日記の保存なし）
1743年　1月26日 寛保3年　正月1日　曇　卯の中刻より雪　巳の上刻より晴 （この日の干支は丙辰と記述:昨日の干支は乙卯のはずで不自然はない）
1743年　1月27日 寛保3年　正月2日　曇　寅の下刻雷発す　雪時々　終夜に及ぶ
1743年　1月28日 寛保3年　正月3日　快晴　未の下刻雪
1743年　1月29日 寛保3年　正月4日　晴
1743年　1月30日 寛保3年　正月5日　陰晴　寅の下刻より雪少々　それより午の刻過ぎより雷発す
1743年　1月31日 寛保3年　正月6日　陰晴　時々雪
1743年　2月1日 寛保3年　正月7日　晴
1743年　2月2日 寛保3年　正月8日　快晴
1743年　2月3日 寛保3年　正月9日　晴
1743年　2月4日 寛保3年　正月10日　快晴
1743年　2月5日 寛保3年　正月11日　陰晴
1743年　2月6日 寛保3年　正月12日　曇　午の刻より雷　翌辰の下刻まで
1743年　2月7日 寛保3年　正月13日　快晴 （11日浪岡組三嶋村で火災）
1743年　2月8日 寛保3年　正月14日　陰晴　時々雪
1743年　2月9日 寛保3年　正月15日　曇　卯の刻前より巳の刻まで大吹雪　それより晴時々雪
1743年　2月10日 寛保3年　正月16日　曇　雪終日に及ぶ
1743年　2月11日 寛保3年　正月17日　快晴　夜に入り雪風 （11日三嶋村の火元の村預け免許）
1743年　2月12日 寛保3年　正月18日　曇　昨夜中よりの雪風
1743年　2月13日 寛保3年　正月19日　陰晴
1743年　2月14日 寛保3年　正月20日　晴　時々雪　夜に入り雪風
1743年　2月15日 寛保3年　正月21日　曇　巳の刻より晴
1743年　2月16日 寛保3年　正月22日　陰晴　時々雪
1743年　2月17日 寛保3年　正月23日　曇　時々雪 （15日常盤組榊村に15・6男・?日広須新田吉岡村に60男倒死）
1743年　2月18日 寛保3年　正月24日　陰晴　時々雪
1743年　2月19日 寛保3年　正月25日　曇　卯の刻前より巳の尅まで大吹雪　それより晴時々雪　終夜に及ぶ
1743年　2月20日 寛保3年　正月26日　快晴
1743年　2月21日 寛保3年　正月27日　快晴　夜に入り雨雪
1743年　2月22日 寛保3年　正月28日　曇　雪時々
1743年　2月23日 寛保3年　正月29日　陰晴 （15日駒越組田代村の藤右衛門(胆長4寸8歩廻り7寸5分:)・大鰐組虹貝村の長右衛門(5寸4寸生目43匁:)それぞれ熊取る）
1743年　2月24日 寛保3年　2月1日 曇　時々雨 （油川組代官が御救い枚159人分願）
1743年　2月25日 寛保3年　2月2日 陰晴
1743年　2月26日 寛保3年　2月3日 陰晴　時々雨
1743年　2月27日 寛保3年　2月4日 陰晴　時々雨
1743年　2月28日 寛保3年　2月5日 晴 （昨3日浪岡組で火災・火元村預け、?日境関村の火元の村預け免許）

1743年　3月1日 寛保3年　　2月6日 快晴
1743年　3月2日 寛保3年　　2月7日 曇　昨夜より雪　終日に及ぶ　昼過ぎより晴　寅の刻余程地震 （昨11月中碇関:出入り人数合327人・同大間越:39人・同野内:144人）
1743年　3月3日 寛保3年　　2月8日 快晴
1743年　3月4日 寛保3年　　2月9日 晴　夜に入り吹雪 （正月中野内:出入り人数96人・同碇関118人・同大間越:33人）
1743年　3月5日 寛保3年　　2月10日 曇　雪終日に及ぶ （御役銀が急に出てくるようになった）
1743年　3月6日 寛保3年　　2月11日 曇　雪終日に及ぶ （3日浪岡組杉沢村の火元の村預け御免、去る12月中碇関:入り86・出入り合219人）
1743年　3月7日 寛保3年　　2月12日 晴
1743年　3月8日 寛保3年　　2月13日 快晴
1743年　3月9日 寛保3年　　2月14日 曇　時々雪降り
1743年　3月10日 寛保3年　　2月15日 曇　雪終日に及ぶ （御用人等の異動）
1743年　3月11日 寛保3年　　2月16日 曇　雪終日に及ぶ （大目付等の異動）
1743年　3月12日 寛保3年　　2月17日 陰晴
1743年　3月13日 寛保3年　　2月18日 快晴　八時雪　終日に及ぶ
1743年　3月14日 寛保3年　　2月19日 晴　夜に入り雪
1743年　3月15日 寛保3年　　2月20日 晴　夜半雪
1743年　3月16日 寛保3年　　2月21日 快晴　朝の内少々雪降り
1743年　3月17日 寛保3年　　2月22日 快晴
1743年　3月18日 寛保3年　　2月23日 曇　終日雪雨に及ぶ　戌の刻前雷　雪吹く
1743年　3月19日 寛保3年　　2月24日 曇　時々雪 （20日駒越組中野村で火災）
1743年　3月20日 寛保3年　　2月25日 晴
1743年　3月21日 寛保3年　　2月26日 曇　雨終日に及ぶ
1743年　3月22日 寛保3年　　2月27日 陰晴 （荒木関宇兵衛に一粒金丹3粒、20日中野村の火元の村預け免許）
1743年　3月23日 寛保3年　　2月28日 晴
1743年　3月24日 寛保3年　　2月29日 陰晴
1743年　3月25日 寛保3年　　2月30日 晴　申の中刻より雨降　翌日に至る （郡所物書き福眞林右衛門など3人に言葉などの褒美）
1743年　3月26日 寛保3年　　3月1日 曇　雨終日に及ぶ　夜中大風 （駒越川・千歳川などの洪水・所々の橋落ちる・屋形様大鰐に閉じ込められる）
1743年　3月27日 寛保3年　　3月2日 曇
1743年　3月28日 寛保3年　　3月3日 陰晴
1743年　3月29日 寛保3年　　3月4日 陰晴 （7日関札打ち・16日御発駕、油川組3村104人（11歳以上91・4～10歳13）に2度目・増館組5村308人（243・62）・三新田321人（270・51）に御救い米）
1743年　3月30日 寛保3年　　3月5日 快晴 （1日の洪水で藻川新田（広須組）藻川村で流失1軒・油川組でも水湛、油川組岡町村31人（20・4）に御救い米）
1743年　3月31日 寛保3年　　3月6日 快晴　霜
1743年　4月1日 寛保3年　　3月7日 快晴　霜 （飯詰組野里村55人（40・15）・同村346人（278・68）・前田野目村と駒野村102人（80・16）（2度目で10日分・1回目の場合は15日分）に御救い米）
1743年　4月2日 寛保3年　　3月8日 快晴 （飯詰・金木組3村と下岩崎村の55人（50・5）・毘沙門新田95人（85・10）・毘沙門村42人（39・3）に15日分の御救い米）
1743年　4月3日 寛保3年　　3月9日 快晴　霜
1743年　4月4日 寛保3年　　3月10日 快晴　霜 （増館組4村164人（124・40）に15日分・広田組2村289人（217・72）に3度目10日分の御救い米）
1743年　4月5日 寛保3年　　3月11日 快晴　霜 （十三潟8日に明ける・去年は2月14日、大光寺組から再検（地）願）
1743年　4月6日 寛保3年　　3月12日 快晴　霜
1743年　4月7日 寛保3年　　3月13日 曇　雨
1743年　4月8日 寛保3年　　3月14日 陰晴 （広須新田下富菟村57人（49・8）に15日分の御救い米・当月1日の洪水による）
1743年　4月9日 寛保3年　　3月15日 快晴　霜
1743年　4月10日 寛保3年　　3月16日 快晴　霜 （2月中出碇関122人（他国者54御印紙49・御国人68切手紙33）・野内御国人3人切手紙2、昨14日常盤組十川村で火災・火元村預け）
1743年　4月11日 寛保3年　　3月17日 快晴　霜　明け方小雨 （11日広須組田沼館（広須新田沼館村はあるがそのようには読めない）の火元の村預け赦免）
1743年　4月12日 寛保3年　　3月18日 快晴
1743年　4月13日 寛保3年　　3月19日 快晴
1743年　4月14日 寛保3年　　3月20日 曇　雨終日 （14日十川村の火元の村預け赦免）
1743年　4月15日 寛保3年　　3月21日 陰晴
1743年　4月16日 寛保3年　　3月22日 快晴
1743年　4月17日 寛保3年　　3月23日 晴　風吹く　酉の刻より雨　卯の下刻止む （御屋形様痔・寒熱あり発駕延期）
1743年　4月18日 寛保3年　　3月24日 曇　雨終夜に及ぶ
1743年　4月19日 寛保3年　　3月25日 曇　雨終日に及ぶ　八つ時まで
1743年　4月20日 寛保3年　　3月26日 陰晴
1743年　4月21日 寛保3年　　3月27日 快晴
1743年　4月22日 寛保3年　　3月28日 快晴
1743年　4月23日 寛保3年　　3月29日 曇　卯の下刻雨少々　巳の刻過ぎより雨　終日に及ぶ　夜中雨
1743年　4月24日 寛保3年　　4月1日 曇　昨夜よりの雨巳の下刻まで　それより晴 （3月中出碇関106人（他国者45（内御国人2他国者45）御印紙31・御国人61切手紙35）・野内御国人3人2枚、当月20日深浦町沢部濱で破船2艘）
1743年　4月25日 寛保3年　　4月2日 快晴 （当月24日深浦町沢部・鳥井崎で破船2艘・大波、貞昌寺で寺僧縊死）
1743年　4月26日 寛保3年　　4月3日 陰晴 （隈部伊織連座の津軽外記・高屋権兵衛・唐牛三左衛門の遠慮御免・高屋は者頭格唐牛は寄合格などに）
1743年　4月27日 寛保3年　　4月4日 曇 （2日大鰐組宿川原村で火災3軒）
1743年　4月28日 寛保3年　　4月5日 快晴
1743年　4月29日 寛保3年　　4月6日 快晴 （御発駕を15日にする）
1743年　4月30日 寛保3年　　4月7日 晴　風吹く

1743年　5月1日 寛保3年　　4月8日 曇　風吹く（昨7日藤代組南浮田村で火災16軒、3日宿川原村の火元の村預け御免）
1743年　5月2日 寛保3年　　4月9日 快晴
1743年　5月3日 寛保3年　　4月10日 晴　夜に入り雨 （道中宿取り今日出発）
1743年　5月4日 寛保3年　　4月11日 晴　辰の刻過ぎより雨　それより晴
1743年　5月5日 寛保3年　　4月12日 晴　風少々立つ
1743年　5月6日 寛保3年　　4月13日 曇　雨雷　卯の中刻より巳の刻過ぎまで降る　それより晴
1743年　5月7日 寛保3年　　4月14日 陰晴 （参勤の御用金1400両）
1743年　5月8日 寛保3年　　4月15日 快晴　今夜月蝕　亥の五刻より丑の五刻終わる （八時過ぎ御発駕）
1743年　5月9日 寛保3年　　4月16日 陰晴 （昨日堀越組門外村に70男倒死）
1743年　5月10日 寛保3年　　4月17日 快晴
1743年　5月11日 寛保3年　　4月18日 陰晴　酉の刻小雨暫く
1743年　5月12日 寛保3年　　4月19日 曇　卯の刻より小雨　辰の刻まで　それより晴 （7日南浮田村の火元他損預け・13日板屋野木村の火元の村預けそれぞれ御免）
1743年　5月13日 寛保3年　　4月20日 陰晴　巳の中刻雨降り　それより晴 （和徳組和徳村で火災（家・外馬屋））
1743年　5月14日 寛保3年　　4月21日 快晴　風 （山上長之助末期申立て・従弟善八に御留守居組支配、19日和徳村の火元に呵置・押込）
1743年　5月15日 寛保3年　　4月22日 晴
1743年　5月16日 寛保3年　　4月23日 快晴
1743年　5月17日 寛保3年　　4月24日 晴　申の下刻より夜に入り時々雨 （尾太銅山奉行成田伴左衛門が煙毒）
1743年　5月18日 寛保3年　　4月25日 曇　雨時々
1743年　5月19日 寛保3年　　4月26日 快晴
1743年　5月20日 寛保3年　　4月27日 快晴
1743年　5月21日 寛保3年　　4月28日 快晴 （19日和徳村の火元の押込め赦免）　　下から続く　　・火元村預け・免許）
1743年　5月22日 寛保3年　　4月29日 陰晴　酉の刻過ぎ雨暫く （3月中大間越：人数合15・出入り人数合29人、同野内：出入り都合108人、同碇関：入り人数105・出入り人数合232人、10日柏木組館野越村で火災　　上に続く
1743年　5月23日 寛保3年　　4月30日 快晴 （25日横内組で助兵衛（胆長3寸8歩廻り5寸5歩生目形43匁：）・11日大鰐組長峰村の清兵衛（4寸5歩4寸50目：）それぞれ熊取る）
1743年　5月24日 寛保3年　閏4月1日　快晴　夜に入り雨 （4月中御印紙出碇関111人（御国人56・他国者55）46枚・切手紙出碇関116人58枚・同野内15人7枚）
1743年　5月25日 寛保3年　閏4月2日　快晴 （去月25日?高屋甚之丞出火・御奉公遠慮・免許）
1743年　5月26日 寛保3年　閏4月3日　快晴 （岩松様江戸へ御発駕）
1743年　5月27日 寛保3年　閏4月4日　快晴
1743年　5月28日 寛保3年　閏4月5日　陰晴　巳の刻小雨　同刻雷発す
1743年　5月29日 寛保3年　閏4月6日　快晴
1743年　5月30日 寛保3年　閏4月7日　晴　夜に入り雨 （街中の木戸が見える）
1743年　5月31日 寛保3年　閏4月8日　晴
1743年　6月1日 寛保3年　閏4月9日　晴
1743年　6月2日 寛保3年　閏4月10日　快晴
1743年　6月3日 寛保3年　閏4月11日　快晴
1743年　6月4日 寛保3年　閏4月12日　快晴
1743年　6月5日 寛保3年　閏4月13日　晴　時々風吹く （12日十三から鰺ヶ沢への小回り3艘が荷打ち（船の安全のため積み荷を海中に投ずること））
1743年　6月6日 寛保3年　閏4月14日　快晴　時々風
1743年　6月7日 寛保3年　閏4月15日　曇　卯の下刻より雨 （小鹿喜右衛門が今別町に御蔵米150俵払出し願・代銭上納の上75俵払い出す）
1743年　6月8日 寛保3年　閏4月16日　曇　雨 （水不足で板屋野木村の6720俵の川下げが成りかねる、くれかき差し支える、五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1743年　6月9日 寛保3年　閏4月17日　快晴
1743年　6月10日 寛保3年　閏4月18日　陰晴
1743年　6月11日 寛保3年　閏4月19日　曇　午の刻過ぎより雨 （4月中碇関：入り人数164・出入人数合406人、同大間越：人数合51・出入り人数合62人、同野内：人数97・出入り都合205人、14日油川組羽白村で火災4軒）
1743年　6月12日 寛保3年　閏4月20日　快晴
1743年　6月13日 寛保3年　閏4月21日　快晴 （3月中碇関61枚の表105人出切手・155人入り人数・合302人、60枚の表95人外に4人往来証文・97枚の表284人・入り人数220人・出入り合603人）
1743年　6月14日 寛保3年　閏4月22日　快晴 （十三湊で越中船の1人病死）
1743年　6月15日 寛保3年　閏4月23日　快晴　酉の中刻雨　夜中大雨 （8日（松前）志摩守様御死去）
1743年　6月16日 寛保3年　閏4月24日　曇　巳の刻雨少々　午の刻より晴
1743年　6月17日 寛保3年　閏4月25日　快晴 （13日尾崎組切明村で庄屋家火災・14日油川組油川村で火災・共に他損預け・共に免許）
1743年　6月18日 寛保3年　閏4月26日　快晴　午の下刻風吹く
1743年　6月19日 寛保3年　閏4月27日　快晴 （24日?藤代組湯舟村で火災・火元村預け・免許、大和沢山で野火・打ち消す）
1743年　6月20日 寛保3年　閏4月28日　快晴　酉の中刻より快晴 （14日?羽白村の火災に伴う御救い米、隈部伊織の子長太郎に遠慮御免）
1743年　6月21日 寛保3年　閏4月29日　晴 （御堀廻り入用の三羽舟繕いの儀申し出で……）
1743年　6月22日 寛保3年　　5月1日 快晴　甚暑 （4月中出碇関226人（御印紙60枚御国人46他国者76・切手紙48枚104）・同野内切手紙1枚1人） （5月の天候について問題あり、16日に記す）
1743年　6月23日 寛保3年　　5月2日 快晴　甚暑 （屋形様江戸で御不快・御祈祷）
1743年　6月24日 寛保3年　　5月3日 快晴　甚暑　午の刻雷少々
1743年　6月25日 寛保3年　　5月4日 陰晴　甚暑　卯の刻より雨　辰の上刻晴　巳の中刻雨 （先月27日広須新田山田村で火災・火元村預け・免許）
1743年　6月26日 寛保3年　　5月5日 陰晴　卯の刻小雨
1743年　6月27日 寛保3年　　5月6日 快晴
1743年　6月28日 寛保3年　　5月7日 陰晴 （常小屋請払い役申し立て候御堀藻取り三葉船……、閏4月中野内：出入り都合22人、同大間越：出入り人数合32人）
1743年　6月29日 寛保3年　　5月8日 快晴
1743年　6月30日 寛保3年　　5月9日 快晴 （竹内源太夫に一粒金丹?粒・江戸道中用）

1743年　7月1日 寛保3年　5月10日 快晴 （閏4月中碇関:入り353・出入り556人、大鰐村で馬盗人捕まる）
1743年　7月2日 寛保3年　5月11日 快晴
1743年　7月3日 寛保3年　5月12日 快晴 （誓願寺門前で男変死）
1743年　7月4日 寛保3年　5月13日 快晴 （屋形様御不快御全快）
1743年　7月5日 寛保3年　5月14日 快晴
1743年　7月6日 寛保3年　5月15日 曇　辰の刻より風雨終日　　下から続く　　考えた方が良さそうである。記入が何年も遅れており、特に不思議ではない。）
1743年　7月7日 寛保3年　5月16日 快晴　　（5月の天候は、ほぼ6月と同じ。1日・29日の干支壬子・庚辰も閏4月29日の壬午・6月1日の壬子と連続せず、6月と同じである。6月の天候を5月として記入したと　　上に続く
1743年　7月8日 寛保3年　5月17日 快晴
1743年　7月9日 寛保3年　5月18日 曇　小雨
1743年　7月10日 寛保3年　5月19日 快晴　朝曇り　風少し　小雨　辰の下刻より晴　残暑甚 （去月8日死去の松前志摩守に使者を出す）
1743年　7月11日 寛保3年　5月20日 曇　巳の中刻より雨　午の上刻より晴れる　雨時々
1743年　7月12日 寛保3年　5月21日 陰晴
1743年　7月13日 寛保3年　5月22日 快晴
1743年　7月14日 寛保3年　5月23日 快晴　亥の中刻雨暫くして止む　寅の中刻大雨暫くして止む
1743年　7月15日 寛保3年　5月24日 陰晴　時々小雨　夜に及ぶ （後潟組上磯村々に山鼠出て田畑作毛喰い申し候・山伏に御祈祷仰せ付ける）
1743年　7月16日 寛保3年　5月25日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　卯の刻過ぎ雷発す　夜に入り雨 （今朝の雨で桶屋町の家潰れる）
1743年　7月17日 寛保3年　5月26日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　雷三・四度発す
1743年　7月18日 寛保3年　5月27日 陰晴
1743年　7月19日 寛保3年　5月28日 快晴
1743年　7月20日 寛保3年　5月29日 快晴　巳の下刻小雨 （24・25日の大雨で今別町与茂内川洪水・橋落ちる、21日赤石組一森村の喜六熊（胆長2寸廻り2寸5歩生目18匁:）取る）
1743年　7月21日 寛保3年　6月1日 快晴　甚暑
1743年　7月22日 寛保3年　6月2日 快晴　甚暑
1743年　7月23日 寛保3年　6月3日 快晴　甚暑　午の刻雷少々　　下から続く　　切手紙1枚御国人1人、後潟組小国村で先月28日火災・火元村預け・御免）
1743年　7月24日 寛保3年　6月4日 快晴　甚暑　卯の刻より雨　辰の刻晴 （5月中出碇関175人（御印紙48枚（御国人57他国者71）・切手紙31枚御国人47）・同野内8人（御印紙3枚7人・切手紙1枚1人）・同小泊湊　　上に続く
1743年　7月25日 寛保3年　6月5日 陰晴　卯の刻小雨
1743年　7月26日 寛保3年　6月6日 快晴
1743年　7月27日 寛保3年　6月7日 陰晴
1743年　7月28日 寛保3年　6月8日 快晴
1743年　7月29日 寛保3年　6月9日 快晴
1743年　7月30日 寛保3年　6月10日 快晴
1743年　7月31日 寛保3年　6月11日 快晴
1743年　8月1日 寛保3年　6月12日 快晴
1743年　8月2日 寛保3年　6月13日 快晴
1743年　8月3日 寛保3年　6月14日 快晴
1743年　8月4日 寛保3年　6月15日 曇　風　辰の刻より小雨時々　午の刻雨
1743年　8月5日 寛保3年　6月16日 快晴
1743年　8月6日 寛保3年　6月17日 快晴
1743年　8月7日 寛保3年　6月18日 曇　小雨
1743年　8月8日 寛保3年　6月19日 快晴　朝の内曇　風少し　小雨　辰の下刻より快晴　残暑甚 （5月中大間越:人数30・出入り人数都合50人、同野内:出入り都合183人、同碇関:人数合195・出入り人数都合446人）
1743年　8月9日 寛保3年　6月20日 曇　巳の中刻雨　午の上刻より晴　雨時々　残暑甚　午の下刻晴 （大鰐・大坊村で初米出穂・閏4月22日植え付け、昨年は6月24日出穂・4月29日植え付け）
1743年　8月10日 寛保3年　6月21日 陰晴
1743年　8月11日 寛保3年　6月22日 快晴
1743年　8月12日 寛保3年　6月23日 快晴　亥の中刻雨暫くして止む　寅の中刻大雨暫くして止む
1743年　8月13日 寛保3年　6月24日 陰晴　時々小雨　夜に及ぶ
1743年　8月14日 寛保3年　6月25日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　卯の刻過ぎより雷発す　夜に入り雨 （石渡・岩木川6歩位往来留・丹後者を詮議、大橋官兵衛御奉公遠慮・他に2人）
1743年　8月15日 寛保3年　6月26日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ　雷三・四度発す （今朝より駒越川長船にて通す）
1743年　8月16日 寛保3年　6月27日 晴
1743年　8月17日 寛保3年　6月28日 快晴　未の刻小雨　それより快晴
1743年　8月18日 寛保3年　6月29日 快晴　巳の下刻小雨
1743年　8月19日 寛保3年　6月30日 快晴　残暑甚
1743年　8月20日 寛保3年　7月1日 快晴 （6月中碇関出119人（御印紙48枚他国者79・切手紙26枚御国人40）・同野内6人（御印紙2枚5・切手紙1枚1）・同大間越切手紙2枚2人）
1743年　8月21日 寛保3年　7月2日 快晴
1743年　8月22日 寛保3年　7月3日 曇　巳の刻過ぎより晴
1743年　8月23日 寛保3年　7月4日 快晴　暑気甚 （6月中大間越:出入り合20・入り人合30人、同野内:出人合78・入り人107人）
1743年　8月24日 寛保3年　7月5日 快晴　朝の内時々小雨
1743年　8月25日 寛保3年　7月6日 快晴
1743年　8月26日 寛保3年　7月7日 快晴
1743年　8月27日 寛保3年　7月8日 快晴 （昨7日金井沢村で南部船破船、昨5日鹿子山で山火事（20間×5・6間））
1743年　8月28日 寛保3年　7月9日 快晴 （勝岳院?境内に50男縊死）
1743年　8月29日 寛保3年　7月10日 快晴
1743年　8月30日 寛保3年　7月11日 快晴
1743年　8月31日 寛保3年　7月12日 晴　辰の中刻少々雨 （6月中碇関:出入り人数合438人）

1743年　9月1日 寛保3年　7月13日 快晴　残暑甚
1743年　9月2日 寛保3年　7月14日 晴　(本町で商家の手代縊死)
1743年　9月3日 寛保3年　7月15日 晴　丑の刻過ぎより雨
1743年　9月4日 寛保3年　7月16日 曇　昨夜より雨終日　(13日飯詰御山で山火事(90間×35間)、岩木川水増す)
1743年　9月5日 寛保3年　7月17日 陰晴　(大間越町庄屋が御蔵米50俵御払い願・30俵を1俵18匁3分で御払い仰せ付ける)
1743年　9月6日 寛保3年　7月18日 快晴
1743年　9月7日 寛保3年　7月19日 陰晴
1743年　9月8日 寛保3年　7月20日 曇
1743年　9月9日 寛保3年　7月21日 快晴
1743年　9月10日 寛保3年　7月22日 晴
1743年　9月11日 寛保3年　7月23日 快晴
1743年　9月12日 寛保3年　7月24日 快晴
1743年　9月13日 寛保3年　7月25日 曇　午の下刻より雨
1743年　9月14日 寛保3年　7月26日 陰晴
1743年　9月15日 寛保3年　7月27日 曇　雨終日に及ぶ　雷発す　(13日飯詰山で山火事(90間×39間))
1743年　9月16日 寛保3年　7月28日 快晴
1743年　9月17日 寛保3年　7月29日 快晴　夜に入り小雨
1743年　9月18日 寛保3年　8月1日 曇　午の下刻雨　夜に入り雨　(7月中出碇関117人(御印紙45枚他国者88・切手紙18枚御国人29)・同小泊湊切手紙1枚御国人1人)
1743年　9月19日 寛保3年　8月2日 晴　昨夜中より雨　辰の下刻晴　風少々
1743年　9月20日 寛保3年　8月3日 快晴
1743年　9月21日 寛保3年　8月4日 曇　卯の下刻より雨　巳の下刻晴
1743年　9月22日 寛保3年　8月5日 快晴　午の下刻小雨　(大橋官兵衛に御国元へ引っ越し仰せ付ける)
1743年　9月23日 寛保3年　8月6日 快晴　朝曇　巳の刻より晴
1743年　9月24日 寛保3年　8月7日 快晴　(当月1日青森堤川の荒川と駒籠川の流木流失)
1743年　9月25日 寛保3年　8月8日 曇　卯の刻過ぎより雨　午の下刻より晴
1743年　9月26日 寛保3年　8月9日 快晴
1743年　9月27日 寛保3年　8月10日 快晴
1743年　9月28日 寛保3年　8月11日 快晴　(屋形様御不快、7月中大間越:人数合24・出入り合49人、同野内:入り人134・出入り合206人、金木組今泉村の庄屋助右衛門が鉄砲で熊取る)
1743年　9月29日 寛保3年　8月12日 晴　(7月中碇関:入り人数284・出入り人数399人、7日小泊沖で越後船が水船に・1人流死)
1743年　9月30日 寛保3年　8月13日 曇　卯の刻過ぎより終日雨　午の刻過ぎより風吹く　夜に入り風雨
1743年　10月1日 寛保3年　8月14日 陰晴　風立つ　時々小雨
1743年　10月2日 寛保3年　8月15日 陰晴　午の刻小雨　(閏4月14日三馬屋の3人乗り船行方不明)
1743年　10月3日 寛保3年　8月16日 曇　寅の刻過ぎより小雨　巳の刻より止む　それより時々雨　(8月8日どこかで破船1艘)
1743年　10月4日 寛保3年　8月17日 曇　辰の刻より小雨　巳の中刻止む　(日和揚げの御祈祷を大円寺に仰せ付ける、1日洪水で福島渡の上の御用木流失)
1743年　10月5日 寛保3年　8月18日 曇　辰の刻より小雨　巳の中刻止む
1743年　10月6日 寛保3年　8月19日 快晴
1743年　10月7日 寛保3年　8月20日 快晴
1743年　10月8日 寛保3年　8月21日 晴　(初鮭上がる)
1743年　10月9日 寛保3年　8月22日 晴　昨亥の刻より小雨　雷時々　寅の刻雨　今朝辰の刻過ぎより晴
1743年 10月10日 寛保3年　8月23日 快晴
1743年 10月11日 寛保3年　8月24日 快晴
1743年 10月12日 寛保3年　8月25日 曇　午の刻より雨
1743年 10月13日 寛保3年　8月26日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1743年 10月14日 寛保3年　8月27日 陰晴　下から続く　・2日金木組今泉村の庄屋助右衛門鉄砲で(2寸1寸8歩5匁:)それぞれ熊取る)
1743年 10月15日 寛保3年　8月28日 陰晴　岩木山に雪見る　下から続く　中畑村の彦左衛門(3寸5寸5歩20目:)・同組桜庭村の茂助(4寸6寸41匁5分:)・同組田代村の藤右衛門(3寸4寸17匁:)　上に続く
1743年 10月16日 寛保3年　8月29日 快晴　下から続く　・20日同人(4寸6寸1歩52匁5分:と4寸5寸5歩43匁:)・同村彦次郎(6寸8寸5歩98匁:)・15日尾崎組唐竹村の惣助(50目:)・25日駒越組　上に続く
1743年 10月17日 寛保3年　9月1日 快晴　朝大霜　(8月中出碇関176人(御印紙57・御国人14・他国者98、切手紙35・御国人64)、今28日堀越組一野坪村の小三郎(胆長3寸1歩廻り不明生目11匁:)　上に続く
1743年 10月18日 寛保3年　9月2日 快晴　今朝大霜　(類族小泉長次郎今朝病死)
1743年 10月19日 寛保3年　9月3日 曇　巳の刻小雨　午の刻より晴
1743年 10月20日 寛保3年　9月4日 快晴　(8月中野内:出入り合72. 出入り都合152人)
1743年 10月21日 寛保3年　9月5日 快晴　朝大霜
1743年 10月22日 寛保3年　9月6日 晴
1743年 10月23日 寛保3年　9月7日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ　(8月中大間越:人数合43・出入り合73人)
1743年 10月24日 寛保3年　9月8日 陰晴
1743年 10月25日 寛保3年　9月9日 曇　昨夜中より雨　今日終日に及ぶ
1743年 10月26日 寛保3年　9月10日 曇　四方山雪　風添える　里江雪丸終日
1743年 10月27日 寛保3年　9月11日 曇
1743年 10月28日 寛保3年　9月12日 陰晴　夜に入り雨　(8月中碇関:出入人都合356人)
1743年 10月29日 寛保3年　9月13日 曇　辰の下刻より雨時々　(昨9日朝大鰐組石川村に54・6男倒死)
1743年 10月30日 寛保3年　9月14日 快晴
1743年 10月31日 寛保3年　9月15日 快晴

1743年　11月1日 寛保3年　　9月16日 曇　夜に入り雨暫く
1743年　11月2日 寛保3年　　9月17日 曇　午の刻より晴
1743年　11月3日 寛保3年　　9月18日 快晴
1743年　11月4日 寛保3年　　9月19日 晴
1743年　11月5日 寛保3年　　9月20日 陰晴　寅の下刻より小雨
1743年　11月6日 寛保3年　　9月21日 快晴
1743年　11月7日 寛保3年　　9月22日 陰晴
1743年　11月8日 寛保3年　　9月23日 曇
1743年　11月9日 寛保3年　　9月24日 快晴　午の下刻少し雨 （蟹田御蔵の赤米106俵を1貫30目3分2厘・1俵9匁7分2厘）
1743年 11月10日 寛保3年　　9月25日 快晴　今朝大霜
1743年 11月11日 寛保3年　　9月26日 快晴 （9日夜十三湊番所等に大風被害）
1743年 11月12日 寛保3年　　9月27日 快晴　　下から続く　　4日大鰐組森山村の弥左衛門（6寸7寸55匁：）それぞれ熊取る）
1743年 11月13日 寛保3年　　9月28日 陰晴　辰の中刻雨暫く　　下から続く　　（2寸5歩4寸5歩29匁：）・17日同組中畑村の彦左衛門（2寸5歩5寸5歩25匁：）17日尾崎組唐竹村の甚左衛門（4寸5寸30目：）　　上に続く
1743年 11月14日 寛保3年　　9月29日 晴　　下から続く　　5寸20匁：）・22日赤石組種里村の彦十郎（4寸5寸5歩35匁：）・28日同村の三郎四郎（3寸2寸5歩25匁：）・2日駒越組田代村の次右衛門　　上に続く
1743年 11月15日 寛保3年　　9月30日 快晴 （12日和徳組一野坪村の彦四郎（胆長4寸廻り6寸生目形65匁：）同日同村の三右衛門（4寸5歩5寸1歩20匁：）・27日同村の彦次郎（4寸5寸23匁：と4寸5歩　　上に続く
1743年 11月16日 寛保3年　　10月1日 陰晴 （請願寺裏の堰で母・男子の2人水死、9月中出碇関64人（御印紙32枚他国者41・切手紙17枚御国人23）・同野内切手紙1枚御国人1人）
1743年 11月17日 寛保3年　　10月2日 曇　寅の刻より時々雨 （山田三郎兵衛に一粒金丹10粒）
1743年 11月18日 寛保3年　　10月3日 曇　時々雨
1743年 11月19日 寛保3年　　10月4日 快晴
1743年 11月20日 寛保3年　　10月5日 晴　申の下刻より雨　終夜に及ぶ
1743年 11月21日 寛保3年　　10月6日 陰晴　夜中より雨　辰の下刻止む （石渡川水4分位・馬船小舟とも渡せない）
1743年 11月22日 寛保3年　　10月7日 晴　卯の中刻小雪　少し風吹く 夜中雪　子の下刻地震
1743年 11月23日 寛保3年　　10月8日 陰晴　夜中雪　巳の刻に及び少々 （去月9日十三町で大風）
1743年 11月24日 寛保3年　　10月9日 快晴　辰の刻雪少々
1743年 11月25日 寛保3年　　10月10日 曇　雨降　夜入風雨 （9月中碇関：入り人数114・出入人数合224人、同大間越：人数合33・出入人数合90人、同野内：出入り人数合131・出入り都合190人）
1743年 11月26日 寛保3年　　10月11日 曇　雪時々　終日に及ぶ （青森町の端舟2人乗り行方不明・10日に死骸上がる）
1743年 11月27日 寛保3年　　10月12日 曇　雨終日　卯の刻過ぎ雷少々発す
1743年 11月28日 寛保3年　　10月13日 曇
1743年 11月29日 寛保3年　　10月14日 曇　夜中風雨
1743年 11月30日 寛保3年　　10月15日 晴　夜に入り雪少々
1743年　12月1日 寛保3年　　10月16日 快晴
1743年　12月2日 寛保3年　　10月17日 曇　時々雨 （藤代組三世寺村に袖乞10歳女子倒死）
1743年　12月3日 寛保3年　　10月18日 快晴　未の刻より陰晴
1743年　12月4日 寛保3年　　10月19日 晴　子の刻前後雨
1743年　12月5日 寛保3年　　10月20日 曇　雨終日　夜に及ぶ
1743年　12月6日 寛保3年　　10月21日 陰晴　夜に入り風吹く　申の下刻雨
1743年　12月7日 寛保3年　　10月22日 曇　時々雪　夜に及ぶ
1743年　12月8日 寛保3年　　10月23日 陰晴　時々小雪
1743年　12月9日 寛保3年　　10月24日 陰晴
1743年 12月10日 寛保3年　　10月25日 陰晴　卯の刻過ぎより小雨　それより雪
1743年 12月11日 寛保3年　　10月26日 陰晴
1743年 12月12日 寛保3年　　10月27日 陰晴 （23日藤代組出来島村に50男倒死）
1743年 12月13日 寛保3年　　10月28日 陰晴　巳の下刻雨
1743年 12月14日 寛保3年　　10月29日 陰晴　酉の下刻雷発す （20日後潟組蓬田村で大東風・家屋敷欠け崩れ6人）
1743年 12月15日 寛保3年　　10月30日 晴 （浪岡組徳才子村の定右衛門熊（胆長4寸廻り5寸目方28匁：）取る）
1743年 12月16日 寛保3年　　11月1日 晴 （10月中出碇関75人（御印紙39枚他国者59・切手紙11枚御国人16）・大間越2人（各1枚）・野内5人（切手紙2枚）、伴新八に一粒金丹3粒）
1743年 12月17日 寛保3年　　11月2日 快晴　未の刻地震
1743年 12月18日 寛保3年　　11月3日 陰晴　申の中刻地震
1743年 12月19日 寛保3年　　11月4日 晴　夜に入り雪 （今日昼金木組金木村で火災（2間半×3間：高無）、当年漆実成宜しからず……）
1743年 12月20日 寛保3年　　11月5日 曇　時々雪
1743年 12月21日 寛保3年　　11月6日 快晴　冬至寅の刻
1743年 12月22日 寛保3年　　11月7日 快晴
1743年 12月23日 寛保3年　　11月8日 曇　時々小雨 （2日昼金木村の火元の村預け御免）
1743年 12月24日 寛保3年　　11月9日 曇
1743年 12月25日 寛保3年　　11月10日 曇 （去月野内：出入り都合111人、先月中大間越：出入り人数合62人）
1743年 12月26日 寛保3年　　11月11日 曇　時々小雪　夜に及ぶ
1743年 12月27日 寛保3年　　11月12日 陰晴　時々小雪
1743年 12月28日 寛保3年　　11月13日 陰晴
1743年 12月29日 寛保3年　　11月14日 陰晴　時々小雪
1743年 12月30日 寛保3年　　11月15日 陰晴　申の刻より雨　夜に入り大雨 （19日増館組樽沢村で火災（3間×6間：高無）・馬2疋・稲3100束余焼失・火元村預け）
1743年 12月31日 寛保3年　　11月16日 陰晴　時々小雪　夜に入り風吹

1744年　1月1日 寛保3年　11月17日 陰晴 （一昨12日青森町に付け火）
1744年　1月2日 寛保3年　11月18日 曇　時々雪降り （山田十郎兵衛病死）
1744年　1月3日 寛保3年　11月19日 快晴 （13日樽沢村の村預け免許、小人町の6間×20間家13坪と五十石町の17間×24間を勝手替え）
1744年　1月4日 寛保3年　11月20日 快晴
1744年　1月5日 寛保3年　11月21日 陰晴
1744年　1月6日 寛保3年　11月22日 陰晴　今日巳の上刻小寒入り　時々小雪　寅の刻雨少々 （米入札（1俵沖役1匁2分を含む）：弘前16匁3分7厘・青森18匁5分3厘・鰺ヶ沢18匁2厘）
1744年　1月7日 寛保3年　11月23日 曇　時々雨
1744年　1月8日 寛保3年　11月24日 快晴 （今日寒入り3日目・御用人裏付き上下着用、21日藤代組南浮田村で火災・小荷駄1疋等焼失）
1744年　1月9日 寛保3年　11月25日 曇　終日雪
1744年　1月10日 寛保3年　11月26日 陰晴　雪時々 （笹武助子供など徒者多し）　　下から続く　　47・8男雪倒死、21日南浮田村の火元の村預け御免）
1744年　1月11日 寛保3年　11月27日 陰晴　酉の下刻辰巳の方より雷発す　稲光三四度　小雨時々　夜に及ぶ （昨25日夜柏木組大俵村で火災（4間×12間：百姓）・小荷駄4疋・火元村預け、油川組岡町村に　　上に続く
1744年　1月12日 寛保3年　11月28日 曇　時々雪 （駒越組五代村に40男倒死）
1744年　1月13日 寛保3年　11月29日 曇　辰の刻より雨 （去月22日鰺ヶ沢町で紙漉きが行方不明）
1744年　1月14日 寛保3年　11月30日 快晴
1744年　1月15日 寛保3年　12月1日 晴　夜に入り時々雨風 （去月25日大俵村の火元の村預け御免、赤石組から350石分の銭納願）
1744年　1月16日 寛保3年　12月2日 晴 （先月19日油川組で高無縊死）
1744年　1月17日 寛保3年　12月3日 曇　雨 （御家中の嫡子が先月13日行方不明）
1744年　1月18日 寛保3年　12月4日 陰晴　申の下刻風 （11月中出碇関64人（他国者53御印紙38枚・御国人11切手紙6枚）・野内他国者1人御印紙1枚）
1744年　1月19日 寛保3年　12月5日 陰晴　辰の刻より小雨暫く
1744年　1月20日 寛保3年　12月6日 陰晴
1744年　1月21日 寛保3年　12月7日 曇　終日雪 （一昨夜新田木作村で火災・外馬屋（3間×5間）・稲乳（800束ほどと300束ほど）・火元五人組預け）
1744年　1月22日 寛保3年　12月8日 陰晴　卯の下刻雪暫く
1744年　1月23日 寛保3年　12月9日 晴　時々小雨 （不都合があった浪岡八幡の社司有馬を罷免・阿部左門に）
1744年　1月24日 寛保3年　12月10日 晴　夜に入り雪
1744年　1月25日 寛保3年　12月11日 曇　時々雪 （11月中野内：入り66・出入り都合122人、5日木作村の火元の村預け免許、去る8日飯詰組（神山）で火災・火元村預け）
1744年　1月26日 寛保3年　12月12日 晴
1744年　1月27日 寛保3年　12月13日 晴
1744年　1月28日 寛保3年　12月14日 晴　申の下刻小雨
1744年　1月29日 寛保3年　12月15日 陰晴　時々雪 （8日神山村の火元の村預け免許、11月中大間越：人数合38・出入り人数合61人、11月中碇関：入り人数94・出入り人数170人）
1744年　1月30日 寛保3年　12月16日 陰晴　昼の内時々雪
1744年　1月31日 寛保3年　12月17日 陰晴　昼の内時々雪
1744年　2月1日 寛保3年　12月18日 陰晴　辰の刻前後少々雪
1744年　2月2日 寛保3年　12月19日 快晴 （9月11日より12月15日までに全組の御収納米皆済）
1744年　2月3日 寛保3年　12月20日 陰晴　卯の下刻少し雪　晴　未の刻雪　　下から続く　　6月15日出穂・8月10日稲刈を始め、9月8日稲村納）
1744年　2月4日 寛保3年　12月21日 陰晴　卯の刻前より雪少々時々　夜に入り雪 （大湯彦八に一粒金丹10粒、今年の農作業：3月3日種浸・15日田打、4月23日くれかき・28日種蒔、閏4月10日田植、5月9日草取り、　　上に続く
1744年　2月5日 寛保3年　12月22日 曇
1744年　2月6日 寛保3年　12月23日 快晴
1744年　2月7日 寛保3年　12月24日 快晴
1744年　2月8日 寛保3年　12月25日 快晴
1744年　2月9日 寛保3年　12月26日 陰晴
1744年　2月10日 寛保3年　12月27日 快晴
1744年　2月11日 寛保3年　12月28日 陰晴
1744年　2月12日 寛保3年　12月29日 晴
1744年　2月13日 寛保3年　12月30日 晴　午の刻前雪時々　夜に入る
1744年　2月14日 寛保4年　正月1日　曇　時々雪 （12月中出人都合114人（碇関御印紙37枚（御国人53・他国者46）切手紙9枚御国人12・野内切手紙2枚御国人3）
1744年　2月15日 寛保4年　正月2日　曇　時々雪
1744年　2月16日 寛保4年　正月3日　曇　終日雪
1744年　2月17日 寛保4年　正月4日　快晴
1744年　2月18日 寛保4年　正月5日　快晴 （12月28日油川組沖館村で火災・火元免許）
1744年　2月19日 寛保4年　正月6日　快晴
1744年　2月20日 寛保4年　正月7日　陰晴
1744年　2月21日 寛保4年　正月8日　晴 （熊野権現神主に長利唐之助）
1744年　2月22日 寛保4年　正月9日　晴
1744年　2月23日 寛保4年　正月10日　晴
1744年　2月24日 寛保4年　正月11日　晴
1744年　2月25日 寛保4年　正月12日　晴
1744年　2月26日 寛保4年　正月13日　曇　終日雪
1744年　2月27日 寛保4年　正月14日　晴
1744年　2月28日 寛保4年　正月15日　曇　今晩雨
1744年　2月29日 寛保4年　正月16日　晴 （昨日藤代組大川村の百姓縊死）

1744年　3月1日 寛保4年 正月17日　陰晴
1744年　3月2日 寛保4年 正月18日　陰晴 （一昨15日夜十三町で火災3軒・火元入寺、16日より十三潟明ける・去年3月8日・当年53日早い）
1744年　3月3日 寛保4年 正月19日　曇 昨夜より雪 今日終日に及ぶ 余寒甚だしい
1744年　3月4日 寛保4年 正月20日　陰晴 （12月中碇関:出入り人数合113人、同大間越:出入り人数合20人、同野内:出入り人数都合125人）
1744年　3月5日 寛保4年 正月21日　陰晴
1744年　3月6日 寛保4年 正月22日　快晴
1744年　3月7日 寛保4年 正月23日　陰晴 酉の後刻より雨夜に及ぶ
1744年　3月8日 寛保4年 正月24日　曇 （故山上羽右衛門6両2人扶持の子善八（3両2人扶持）を柳原付き近習坊主3両4人扶持に）
1744年　3月9日 寛保4年 正月25日　晴
1744年　3月10日 寛保4年 正月26日　曇
1744年　3月11日 寛保4年 正月27日　曇
1744年　3月12日 寛保4年 正月28日　晴 （山上善八を万嘉と改名）
1744年　3月13日 寛保4年 正月29日　曇 （長柄足軽が青森柳町の米留勤務中に16日出奔・長柄奉行遠慮）
1744年　3月14日 寛保4年　2月1日 陰晴 （藤代組出木嶋村の13軒77人（11歳以上68人・4～10歳9人）に御救い米）
1744年　3月15日 寛保4年　2月2日 晴 夜五時過ぎ頃より小雨時々 同夜寅の刻雨強く風添える
1744年　3月16日 寛保4年　2月3日 曇 昨夜より雨 今日終日に及ぶ　下から続く　228人（198・30）に御救い米20日分）
1744年　3月17日 寛保4年　2月4日 曇 雨 雷発す （昨朔日三新田長岡村で火災（2間×3間:不明）・火元預け、広須組7村の124軒551人（447・104）・藤代組小友村の34軒132人（108・25）・三新田3村の43軒　上に続く
1744年　3月18日 寛保4年　2月5日 曇 朝の内晴 巳の刻より曇 時々雨 （昨4日駒越組国吉村で落雷火災、去る2日尾崎組新屋村に野火、広須新田村々17軒106人（96・10）に御救い米20日分）
1744年　3月19日 寛保4年　2月6日 晴　下から続く　広須新田8村86軒375人（319・28）・広田組4村39軒159人（131・28）に20日分の御救い米）
1744年　3月20日 寛保4年　2月7日 快晴 （1日広須新田永森村の火元の村預け免許、一昨4日尾崎組切明村で火災2軒（小屋3間×4軒・家2間半×3間:高無）、国吉村の落雷は4日昼四ツ半過ぎ屋根3尺ほど焼く、　上に続く
1744年　3月21日 寛保4年　2月8日 陰晴
1744年　3月22日 寛保4年　2月9日 晴
1744年　3月23日 寛保4年　2月10日 晴 （今夜四つ時親方町で火災・火元入寺、昨夜半亀甲町で小火?）
1744年　3月24日 寛保4年　2月11日 晴 （正月中碇関:出入り人数合144人、同野内:出入り人数合98人、同大間越:出入り人数合341人）
1744年　3月25日 寛保4年　2月12日 晴
1744年　3月26日 寛保4年　2月13日 曇 暁方より小雨時々 夜に入り雪
1744年　3月27日 寛保4年　2月14日 曇 暁方より雪風 今朝に・三寸降る 終日風 （投げ火の沙汰あり、8日元寺町で出火）
1744年　3月28日 寛保4年　2月15日 晴
1744年　3月29日 寛保4年　2月16日 陰晴 （昨14日青森新町で男変死）
1744年　3月30日 寛保4年　2月17日 陰晴 （昨晩銅屋町で小火、岩木川水6歩半・馬舟長船とも往来止める）
1744年　3月31日 寛保4年　2月18日 晴
1744年　4月1日 寛保4年　2月19日 曇 巳の下刻小雨 （藤崎組手代が18日晩切腹・夜死亡、高岡から狼用玉・薬申し出で、詮議の上筒薬と口薬は申付けず）
1744年　4月2日 寛保4年　2月20日 曇 雨終日に及ぶ （大間越町庄屋が御蔵米古米60俵御払い願い・駄賃運賃加え1俵17匁3分3厘で申しつける）
1744年　4月3日 寛保4年　2月21日 陰晴 夜中小雪 （去月15日十三町の火元の入寺赦免）
1744年　4月4日 寛保4年　2月22日 曇 （17日後潟組（三馬屋）で火災（4間×3間:かふたいん:多分アイヌ））
1744年　4月5日 寛保4年　2月23日 曇 小雪時々 風巳の下刻止む
1744年　4月6日 寛保4年　2月24日 快晴 （正月中出174人・碇関170人（御印紙23枚御国人127・他国者29・切手紙10枚御国人14）・野内切手紙1枚4人、17日三馬屋村の火元の村預け免許、8日元寺町の火元の入寺御免）
1744年　4月7日 寛保4年　2月25日 陰晴
1744年　4月8日 寛保4年　2月26日 快晴
1744年　4月9日 寛保4年　2月27日 快晴 （小沢村方面で山火事、浪岡組高屋敷村に野火）
1744年　4月10日 寛保4年　2月28日 晴 （昨日の小沢柏木館野の山火事（30間×10丁）、御家老棟方作右衛門・杉山八兵衛に一粒金丹各30粒）
1744年　4月11日 寛保4年　2月29日 曇
1744年　4月12日 寛保4年　2月30日 陰晴 （24日昼頃相内山に野火、各村443軒3497人に20日分の御救い米）
1744年　4月13日 寛保4年　3月1日 快晴 申の下刻少々地震 （2月中出都合85人（碇関84人（御印紙36枚他国者48・切手紙22枚御国人36）・野内御印紙1枚他国者1人））
1744年　4月14日 寛保4年　3月2日 晴 卯の刻過ぎより時々小雨 辰の刻過ぎ雷発す
1744年　4月15日 寛保4年　3月3日 快晴 今朝強き霜厚し
1744年　4月16日 寛保4年　3月4日 快晴
1744年　4月17日 寛保4年　3月5日 曇 卯の中刻より雨 午の中刻に及び止む
1744年　4月18日 寛保4年　3月6日 曇 雨終日に及ぶ
1744年　4月19日 寛保4年　3月7日 快晴
1744年　4月20日 寛保4年　3月8日 曇 朝の内霞 巳の刻より快晴 （2月中野内:出人96・入り人64・都合160人）
1744年　4月21日 寛保4年　3月9日 晴 （長柄足軽が笹森町入り口木戸で暴れる）
1744年　4月22日 寛保4年　3月10日 晴 （近年足軽に小男多し・しっかり選ぶようにとの指示）
1744年　4月23日 寛保4年　3月11日 曇 今朝霧 小雨時々
1744年　4月24日 寛保4年　3月12日 快晴 （先月29日延享と改元、5日岩崎村に破船1艘）
1744年　4月25日 寛保4年　3月13日 晴
1744年　4月26日 寛保4年　3月14日 陰晴
1744年　4月27日 寛保4年　3月15日 晴 （高森三四郎用立て米の利息2割、2月中碇関:入り88・出入り人数合195人）
1744年　4月28日 寛保4年　3月16日 陰晴
1744年　4月29日 寛保4年　3月17日 晴 （大間越町奉行に狼等対策用6匁玉など）
1744年　4月30日 寛保4年　3月18日 晴

1744年　5月1日 寛保4年　3月19日 晴
1744年　5月2日 寛保4年　3月20日 晴
1744年　5月3日 寛保4年　3月21日 快晴 （那須豊太郎様・?豊次郎殿お目見えの儀に付7・800両御入用、昨20日尾太滝野沢で山火事）
1744年　5月4日 寛保4年　3月22日 曇　辰の刻過ぎ小雨 （尾太の山火事300間×150間、今朝田舎館組境松村で40男縊死）
1744年　5月5日 寛保4年　3月23日 陰晴　辰の中刻より雨
1744年　5月6日 寛保4年　3月24日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨
1744年　5月7日 寛保4年　3月25日 快晴
1744年　5月8日 寛保4年　3月26日 曇　雨終日に及ぶ
1744年　5月9日 寛保4年　3月27日 陰晴 （笹森勘解由左衛門病死）
1744年　5月10日 寛保4年　3月28日 晴
1744年　5月11日 寛保4年　3月29日 曇　卯の刻過ぎより雨　終日に及ぶ
1744年　5月12日 延享元年　4月1日 快晴
1744年　5月13日 延享元年　4月2日 快晴　今朝霜 （3月中出人都合408人碇関406人（御印紙40枚（御国人32・他国者68）・切手紙112枚御国人306人）・野内切手紙1枚御国人2人）
1744年　5月14日 延享元年　4月3日 快晴
1744年　5月15日 延享元年　4月4日 快晴 （7日山上万嘉江戸へ、太田新左衛門牢死）
1744年　5月16日 延享元年　4月5日 晴
1744年　5月17日 延享元年　4月6日 快晴　小風
1744年　5月18日 延享元年　4月7日 快晴　終日風立つ （昨2日藤代組廻関村で火災（3間×4間：高無）・駒1疋・火元村預け）
1744年　5月19日 延享元年　4月8日 陰晴　朝より風立つ （去月26日後潟組奥内・前田の浜に朽ち鯨寄せる、2日廻関村の火災の火元の村預け免許）
1744年　5月20日 延享元年　4月9日 快晴 （和徳組湯口山に山火事）
1744年　5月21日 延享元年　4月10日 快晴
1744年　5月22日 延享元年　4月11日 曇　小雨時々　終日に及ぶ
1744年　5月23日 延享元年　4月12日 快晴
1744年　5月24日 延享元年　4月13日 陰晴
1744年　5月25日 延享元年　4月14日 快晴
1744年　5月26日 延享元年　4月15日 快晴 （10日朝柏木組夕顔関村で火災（6間×15間：御蔵百姓）・内馬屋・外馬屋・土蔵3つ焼失・火元村預け）
1744年　5月27日 延享元年　4月16日 快晴
1744年　5月28日 延享元年　4月17日 快晴 （3月中野内：都合84・出入り合185人、同大間越：人数合48・出入り人数合70人、10日夕顔関村の火元の村預け免許）
1744年　5月29日 延享元年　4月18日 快晴 （当月22日屋形様江戸発駕予定（延びる））
1744年　5月30日 延享元年　4月19日 快晴 （?月中碇関：入り人数146・出入り人数合562人、相内山で山火事）
1744年　5月31日 延享元年　4月20日 曇　今朝辰の下刻より雨　終日に及ぶ
1744年　6月1日 延享元年　4月21日 陰晴　午の中刻より雨　暫くして止む
1744年　6月2日 延享元年　4月22日 快晴
1744年　6月3日 延享元年　4月23日 快晴
1744年　6月4日 延享元年　4月24日 快晴 （15日駒籠山で山火事（800間×300間）・17日昼過ぎ防ぐ、17日大鰐組碇関山で山火事（100間×15間）、2月18日切腹の藤代組手代の後任決まる）
1744年　6月5日 延享元年　4月25日 快晴 （晴天と冬の雪なく水不足）
1744年　6月6日 延享元年　4月26日 快晴
1744年　6月7日 延享元年　4月27日 快晴
1744年　6月8日 延享元年　4月28日 快晴
1744年　6月9日 延享元年　4月29日 晴　申の下刻より雨 （この間旱魃に付五穀成就の御祈祷を大円寺に）
1744年　6月10日 延享元年　4月30日 陰晴　朝少々雨 （増館組下十川村に37・8男倒死、先達て石浜山で山火事・檜2500本ほど）　下から続く　先月27日内真部山で山火事（120間×70間））
1744年　6月11日 延享元年　5月1日 快晴 （?月中出266人・碇関257人（御印紙69枚御国人20・他国者136・切手紙49枚御国人101）・野内7人（御印紙1枚1人・切手紙3枚6人）・鰺ヶ沢湊口切手紙1枚2人、　上に続く
1744年　6月12日 延享元年　5月2日 晴 （屋形様御不快・発駕26日、松平伊豆守御逝去、天台4ヶ寺と長勝寺に雨の御祈祷を仰せ付ける）
1744年　6月13日 延享元年　5月3日 晴　午の中刻より小雨　未の刻に及び止む
1744年　6月14日 延享元年　5月4日 快晴 （先月21日深浦湊支配新屋崎浜に破船1艘）
1744年　6月15日 延享元年　5月5日 快晴
1744年　6月16日 延享元年　5月6日 快晴 （大行院の雨乞い御祈祷用品あり）
1744年　6月17日 延享元年　5月7日 快晴 （昨6日川端町で小火）
1744年　6月18日 延享元年　5月8日 快晴　寅の下刻雷発す　雨少々
1744年　6月19日 延享元年　5月9日 晴　戌の刻小雨　則止む （屋形様宇都宮辺りで洪水に合い遅れ、4月中野内：出入り都合232人、本町に小火）
1744年　6月20日 延享元年　5月10日 快晴 （4月中大間越：出入り人数合51人）
1744年　6月21日 延享元年　5月11日 快晴 （今日七時過ぎ本町から下土手町まで大火）
1744年　6月22日 延享元年　5月12日 快晴 （昨晩南風烈しく・御家中12・3軒・親方町に男焼死、4月中碇関：出入り人数433人）
1744年　6月23日 延享元年　5月13日 快晴
1744年　6月24日 延享元年　5月14日 快晴 （昨日尾太銅山で山火事、11日の火災に伴い着城順は代官町・和徳町・東長町・東門とする、昨夜五つ頃常源寺に投げ火?）
1744年　6月25日 延享元年　5月15日 曇 （尾太の山火事850間×200間、11日本町の大火（大家227軒・借家170軒・土蔵57・家中12軒）
1744年　6月26日 延享元年　5月16日 陰晴 （屋形様御機嫌能今晩八時過ぎ碇関え御着座）
1744年　6月27日 延享元年　5月17日 快晴 （辰の中刻碇関発駕・古懸参詣後着城）
1744年　6月28日 延享元年　5月18日 快晴
1744年　6月29日 延享元年　5月19日 晴　辰の後刻小雨　則止む
1744年　6月30日 延享元年　5月20日 快晴 （初真瓜大鰐より上がる、昨夜土手町2階で小火）

1744年　7月1日 延享元年　5月21日 曇　時々雨
1744年　7月2日 延享元年　5月22日 陰晴
1744年　7月3日 延享元年　5月23日 曇　巳の中刻より雨
1744年　7月4日 延享元年　5月24日 朝の内曇　小雨　巳の刻より晴れ （御不快に付き神宮寺で命乞御祈祷）
1744年　7月5日 延享元年　5月25日 晴 （卯の下刻屋形様御逝去）
1744年　7月6日 延享元年　5月26日 快晴
1744年　7月7日 延享元年　5月27日 曇 （出棺酉の刻・長勝寺に）
1744年　7月8日 延享元年　5月28日 晴　巳の下刻雨　暫くして止む
1744年　7月9日 延享元年　5月29日 昨夜中より時々雨
1744年　7月10日 延享元年　6月1日 曇　朝の内霧　巳の下刻大雨暫く　それより時々小雨 （5月中出人都合209人（碇関206人（御印紙50枚御国人10他国者143・切手紙32枚御国人53）・野内切手紙2枚御国人3人））
1744年　7月11日 延享元年　6月2日 快晴　朝霧
1744年　7月12日 延享元年　6月3日 曇　時々小雨 （御家老棟方付き与力に山上仁兵衛）
1744年　7月13日 延享元年　6月4日 晴　朝の内小雨
1744年　7月14日 延享元年　6月5日 陰晴 （昨夜東長町で男縊死）
1744年　7月15日 延享元年　6月6日 晴 （昨晩御家中に投げ火）
1744年　7月16日 延享元年　6月7日 晴　寅の下刻大雨　雷発す　辰の中刻止む　それより晴れ
1744年　7月17日 延享元年　6月8日 曇
1744年　7月18日 延享元年　6月9日 陰晴　翌寅の七刻土用に入る （十三町の小回り船が出木嶋沖から赤平磯で破船、誓願寺前で小火）
1744年　7月19日 延享元年　6月10日 陰晴
1744年　7月20日 延享元年　6月11日 快晴
1744年　7月21日 延享元年　6月12日 陰晴　辰の中刻小雨　暫時止む （藤代組出木嶋海道辺りで小回り船が御米280俵荷打ち）
1744年　7月22日 延享元年　6月13日 快晴 （御馬廻り・御留守居組頭堀五郎左衛門を除き病気）
1744年　7月23日 延享元年　6月14日 陰晴
1744年　7月24日 延享元年　6月15日 曇　寅の下刻より雨　卯の刻過ぎに到る　午の刻過ぎ雷発す　時々雨
1744年　7月25日 延享元年　6月16日 快晴
1744年　7月26日 延享元年　6月17日 快晴　甚暑
1744年　7月27日 延享元年　6月18日 陰晴　雨　雷少し （屋形様が25日夜四時30歳で死去と公儀へ報告）
1744年　7月28日 延享元年　6月19日 快晴 （長勝寺埋葬に付き天台宗ともめる、大鰐村加賀介から初米上がる・4月20日植付6月18日出穂・昨年閏4月22日植付6月18日出穂）
1744年　7月29日 延享元年　6月20日 快晴 （昨18日浪岡組竹鼻村で火災・火元村預け、5月中碇関:入り人数266・出入り人数合512人、同野内:出入り人数合337人、同大間越:出入り人数合62人）
1744年　7月30日 延享元年　6月21日 陰晴　辰の上刻小雨
1744年　7月31日 延享元年　6月22日 晴
1744年　8月1日 延享元年　6月23日 快晴　甚暑
1744年　8月2日 延享元年　6月24日 晴 （18日竹鼻村の火元の村預け免許）
1744年　8月3日 延享元年　6月25日 曇 （昨昼時よりの雨で岩木川水5歩ほどの洪水）
1744年　8月4日 延享元年　6月26日 快晴　甚暑
1744年　8月5日 延享元年　6月27日 曇　卯の刻過ぎより雷発す　雨降り （岩木川8歩余・石川大橋の柱1本流失）
1744年　8月6日 延享元年　6月28日 曇　昨夜より雨　巳の刻止む （藤崎川夜中より水落長船で往還）
1744年　8月7日 延享元年　6月29日 曇　辰の刻より大雨　終日に及ぶ （一昨27日石渡川10歩位の出水から落水・石渡の二橋残らず押し流す）
1744年　8月8日 延享元年　7月1日 快晴 （今晩薬王院前の橋流失、昨夜長柄足軽流死）
1744年　8月9日 延享元年　7月2日 快晴　朝の内雨 （昨日の洪水で小栗山などの橋3箇所流失・堤川大橋6・7間落ちる）
1744年　8月10日 延享元年　7月3日 陰晴 （20日江戸発で9日ぶりに命じられた飛脚が4日遅れて到着）
1744年　8月11日 延享元年　7月4日 快晴
1744年　8月12日 延享元年　7月5日 快晴
1744年　8月13日 延享元年　7月6日 陰晴
1744年　8月14日 延享元年　7月7日 快晴 （先月19日北横町で持仏堂から出火・火元戸締め免許）
1744年　8月15日 延享元年　7月8日 快晴　残暑
1744年　8月16日 延享元年　7月9日 快晴 （6月中野内:出入り都合160人、赤石組姥袋村に50男倒死）
1744年　8月17日 延享元年　7月10日 曇　寅の下刻より雨 （6月29日洪水被害:田1981町歩17110石・畑5800町歩2854石・長荒れ田441町歩4411石・畑681町歩2574石、溜池571ヵ所、橋流失264ヶ所、潰れ家41軒、流死男10人）
1744年　8月18日 延享元年　7月11日 快晴
1744年　8月19日 延享元年　7月12日 快晴 （元早道村市藤右衛門牢死）
1744年　8月20日 延享元年　7月13日 陰晴
1744年　8月21日 延享元年　7月14日 曇　巳の刻過ぎより雨暫く
1744年　8月22日 延享元年　7月15日 快晴 （元早道今儀助牢死）
1744年　8月23日 延享元年　7月16日 曇　卯の刻過ぎ雨　辰の刻より晴 （対馬茂左衛門外1人牢死）
1744年　8月24日 延享元年　7月17日 曇 （先月中碇関:出入り人数合427人）
1744年　8月25日 延享元年　7月18日 陰晴
1744年　8月26日 延享元年　7月19日 曇
1744年　8月27日 延享元年　7月20日 快晴
1744年　8月28日 延享元年　7月21日 快晴
1744年　8月29日 延享元年　7月22日 快晴 （御用人笠原武左衛門に一粒金丹?粒）
1744年　8月30日 延享元年　7月23日 晴
1744年　8月31日 延享元年　7月24日 晴

1744年　9月1日 延享元年　7月25日 曇　辰の刻過ぎより雨 （山上仁兵衛5日江戸発、17日深浦で破船1艘）
1744年　9月2日 延享元年　7月26日 晴 （18日白神前浜で破船1艘、本町大火の火元の入寺免許）
1744年　9月3日 延享元年　7月27日 晴
1744年　9月4日 延享元年　7月28日 晴　　下から続く　　・小泊湊2人（切手紙1））
1744年　9月5日 延享元年　7月29日 快晴 （6月中出245人碇関233人（御印紙48枚85人（御国人23・他国者62）・切手紙58枚御国人148人）・野内8人（御印紙1他国者3・切手紙2御国人3）・大間越4人（切手紙2）　　上に続く
1744年　9月6日 延享元年　7月30日 曇　巳の刻より小雨
1744年　9月7日 延享元年　8月1日 晴
1744年　9月8日 延享元年　8月2日 快晴 （7月中出222人碇関217人（御印紙39枚90人（御国人49・他国者41）・切手紙49枚御国人127人）・野内4人切手紙2・大間越1人切手紙1）
1744年　9月9日 延享元年　8月3日 陰晴 （御手廻り変死）
1744年　9月10日 延享元年　8月4日 陰晴
1744年　9月11日 延享元年　8月5日 快晴　申の刻過ぎ雨　暫くして止む
1744年　9月12日 延享元年　8月6日 快晴
1744年　9月13日 延享元年　8月7日 陰晴　申の刻雨 （此の度の洪水で三新田10村349人（11歳以上308人に3合宛5日分・4歳～10歳41人に2合宛5日分）に御救い米・5石3升、先月中大間越：出入り人数合55人）
1744年　9月14日 延享元年　8月8日 陰晴
1744年　9月15日 延享元年　8月9日 晴
1744年　9月16日 延享元年　8月10日 曇　午の下刻より小雨 （先月中野内：出入290人）
1744年　9月17日 延享元年　8月11日 曇　巳の刻より小雨
1744年　9月18日 延享元年　8月12日 曇　風立つ
1744年　9月19日 延享元年　8月13日 曇
1744年　9月20日 延享元年　8月14日 快晴
1744年　9月21日 延享元年　8月15日 晴
1744年　9月22日 延享元年　8月16日 曇　卯の刻過ぎ小雨
1744年　9月23日 延享元年　8月17日 快晴　彼岸に入る （4月1日江戸町で暴れた足軽の呵置免許、15日青森毘沙門境内で男縊死、13日後潟組清水村に50男倒死）
1744年　9月24日 延享元年　8月18日 快晴
1744年　9月25日 延享元年　8月19日 晴 （11～13日鯵ヶ沢で大風、昨晩（いつか不明）鯵ヶ沢で船頭病死、長浜に破船1艘、御用人白鳥弥兵衛に一粒金丹7粒）
1744年　9月26日 延享元年　8月20日 曇　雨 （7月中碇関：入り人数255・出入り合511人）
1744年　9月27日 延享元年　8月21日 陰晴 （深浦に死人2人流れ寄せる）
1744年　9月28日 延享元年　8月22日 快晴
1744年　9月29日 延享元年　8月23日 晴
1744年　9月30日 延享元年　8月24日 陰晴 （5月7日戸〆の芦野村の庄屋差許）
1744年　10月1日 延享元年　8月25日 晴
1744年　10月2日 延享元年　8月26日 晴
1744年　10月3日 延享元年　8月27日 快晴 （今日初鮭上がる）
1744年　10月4日 延享元年　8月28日 快晴
1744年　10月5日 延享元年　8月29日 曇　小雨
1744年　10月6日 延享元年　9月1日 曇　昨夜寅の刻過ぎより時々大雨　丸雪
1744年　10月7日 延享元年　9月2日 快晴
1744年　10月8日 延享元年　9月3日 快晴
1744年　10月9日 延享元年　9月4日 快晴　昼七時より雨時々　終夜に及ぶ
1744年 10月10日 延享元年　9月5日 晴　昨夜雨　今日辰の下刻まで
1744年 10月11日 延享元年　9月6日 晴　朝の内雨時々降る
1744年 10月12日 延享元年　9月7日 快晴
1744年 10月13日 延享元年　9月8日 快晴
1744年 10月14日 延享元年　9月9日 快晴
1744年 10月15日 延享元年　9月10日 晴 （8月中大間越：出入り人数合106人、長利唐之助申し立て：熊野宮例年6月15日御神事・御中陰の内にて相務め申さず・仰せ付けを）
1744年 10月16日 延享元年　9月11日 快晴
1744年 10月17日 延享元年　9月12日 快晴 （初御収納米、8月中野内：出入り都合162人）
1744年 10月18日 延享元年　9月13日 快晴
1744年 10月19日 延享元年　9月14日 曇　卯の下刻小雨　暫くして止む
1744年 10月20日 延享元年　9月15日 曇　雨天　朝の内風立つ （11月夜青森本町で小火・火元呵置、8月中碇関：出入り人数合390人）
1744年 10月21日 延享元年　9月16日 晴
1744年 10月22日 延享元年　9月17日 快晴　呵今朝霜見ゆる （8月中出152人碇関御印紙43枚（御国人10人・他国者59人）・切手紙30枚御国人83人）
1744年 10月23日 延享元年　9月18日 晴
1744年 10月24日 延享元年　9月19日 陰晴 （深浦で破船1艘）
1744年 10月25日 延享元年　9月20日 快晴　今朝大雪（霜だろうがどう見ても雪に見える）
1744年 10月26日 延享元年　9月21日 雨天
1744年 10月27日 延享元年　9月22日 曇　時々小雨
1744年 10月28日 延享元年　9月23日 終日雨天
1744年 10月29日 延享元年　9月24日 晴 （田舎館組境松村に70余道心倒死）
1744年 10月30日 延享元年　9月25日 晴
1744年 10月31日 延享元年　9月26日 曇　小雨

1744年　11月1日 延享元年　　9月27日 曇　朝七つ過ぎより晴
1744年　11月2日 延享元年　　9月28日 快晴　(人事異動あり)
1744年　11月3日 延享元年　　9月29日 快晴　(鯵ヶ沢湊で破船1艘)
1744年　11月4日 延享元年　　10月1日 曇　昨夜未の刻より雨
1744年　11月5日 延享元年　　10月2日 曇
1744年　11月6日 延享元年　　10月3日 陰晴　(当月1日日蝕あり)
1744年　11月7日 延享元年　　10月4日 快晴　(2日油川組古川村に50女倒死)
1744年　11月8日 延享元年　　10月5日 陰晴　(日和揚げ御祈祷を四社に仰せ付ける)
1744年　11月9日 延享元年　　10月6日 快晴　亥の上刻少し地震　　下から続く　　8月20日より村預けの庄屋等3人御免)
1744年 11月10日 延享元年　　10月7日 陰晴　(9月中出189人(碇関175人(御印紙50枚(御国人15・他国者90)・切手紙36枚70人)・大間越3人御印紙1枚・野内6人(御印紙1枚他国者2人・切手紙2枚御国人4人)、　上に続く
1744年 11月11日 延享元年　　10月8日 曇
1744年 11月12日 延享元年　　10月9日 陰晴
1744年 11月13日 延享元年　10月10日 快晴
1744年 11月14日 延享元年　10月11日 曇　昨夜中より少々雨
1744年 11月15日 延享元年　10月12日 曇　時々雨
1744年 11月16日 延享元年　10月13日 陰晴　午の刻少々地震
1744年 11月17日 延享元年　10月14日 曇　少々雨
1744年 11月18日 延享元年　10月15日 曇　時々小雪　(先月中野内:出入185人、同大間越:出入151人、同碇関:出入347人)
1744年 11月19日 延享元年　10月16日 快晴(一昨夜猿賀組浅瀬石村で火災(2間×3間))
1744年 11月20日 延享元年　10月17日 快晴　(増館組下十川村に50男倒死)
1744年 11月21日 延享元年　10月18日 曇
1744年 11月22日 延享元年　10月19日 曇　時々小雪
1744年 11月23日 延享元年　10月20日 快晴　(14日浅瀬石村の火元の村預け免許)
1744年 11月24日 延享元年　10月21日 快晴
1744年 11月25日 延享元年　10月22日 快晴
1744年 11月26日 延享元年　10月23日 快晴
1744年 11月27日 延享元年　10月24日 陰晴
1744年 11月28日 延享元年　10月25日 曇　時々雪
1744年 11月29日 延享元年　10月26日 曇　昨夜中より雪
1744年 11月30日 延享元年　10月27日 晴　卯の下刻小雨
1744年　12月1日 延享元年　10月28日 快晴
1744年　12月2日 延享元年　10月29日 快晴
1744年　12月3日 延享元年　10月30日 曇　卯の下刻雨
1744年　12月4日 延享元年　　11月1日 陰晴　(10月中出91人(碇関御印紙46枚他国者61人・切手紙15枚30人))
1744年　12月5日 延享元年　　11月2日 快晴
1744年　12月6日 延享元年　　11月3日 陰晴
1744年　12月7日 延享元年　　11月4日 曇
1744年　12月8日 延享元年　　11月5日 曇　(後潟組代官が800石銭納願・浦町・横内組代官が350石銭納願・300石と50石を仮値段1俵16匁で申し付ける)
1744年　12月9日 延享元年　　11月6日 曇
1744年 12月10日 延享元年　　11月7日 曇　時々小雪　(?月中野内:出入り人数190人)
1744年 12月11日 延享元年　　11月8日 曇　時々小雪
1744年 12月12日 延享元年　　11月9日 晴
1744年 12月13日 延享元年　11月10日 晴　(9日朝十三潟に氷張る・去年は11月3日、10月中大間越:出入り人数108人)
1744年 12月14日 延享元年　11月11日 晴　昨夜子の刻より雨　丑の刻雷発す
1744年 12月15日 延享元年　11月12日 曇　時々雪
1744年 12月16日 延享元年　11月13日 曇　時々雪
1744年 12月17日 延享元年　11月14日 快晴
1744年 12月18日 延享元年　11月15日 陰晴　(先月中碇関:出入人数都合340人)
1744年 12月19日 延享元年　11月16日 晴　(13日油川組油川村で下人縊死)
1744年 12月20日 延享元年　11月17日 曇　午の刻過ぎ雨
1744年 12月21日 延享元年　11月18日 曇
1744年 12月22日 延享元年　11月19日 曇　雪　雨　(赤石組代官が1000石に加え550石銭納願・仮値段1俵18匁で300石銭納を申し付ける)
1744年 12月23日 延享元年　11月20日 曇　雪吹く
1744年 12月24日 延享元年　11月21日 曇　雪
1744年 12月25日 延享元年　11月22日 晴
1744年 12月26日 延享元年　11月23日 快晴
1744年 12月27日 延享元年　11月24日 快晴　朝雪
1744年 12月28日 延享元年　11月25日 快晴
1744年 12月29日 延享元年　11月26日 晴
1744年 12月30日 延享元年　11月27日 快晴
1744年 12月31日 延享元年　11月28日 晴

1745年　1月1日 延享元年　11月29日 陰晴
1745年　1月2日 延享元年　11月30日 曇　雪
1745年　1月3日 延享元年　12月1日 曇　雪 （8月中出84人碇関御印紙43枚他国者63人・切手紙15枚21人）
1745年　1月4日 延享元年　12月2日 陰晴
1745年　1月5日 延享元年　12月3日 快晴
1745年　1月6日 延享元年　12月4日 曇　朝少々雪
1745年　1月7日 延享元年　12月5日 陰晴
1745年　1月8日 延享元年　12月6日 曇
1745年　1月9日 延享元年　12月7日 晴 （大目付八木橋武右衛門と御目付け伴新八に一粒金丹5粒と3粒）
1745年　1月10日 延享元年　12月8日 曇　小雪
1745年　1月11日 延享元年　12月9日 快晴 （先月中野内:人別124人、同大間越:出入人別73人、粒油平均値段1文目に付き1升7合2夕）
1745年　1月12日 延享元年　12月10日 曇　朝の内雪
1745年　1月13日 延享元年　12月11日 曇　雪
1745年　1月14日 延享元年　12月12日 曇　雪 （11月中碇関出入り人数合232人、御城付き足軽田中伴右衛門に一粒金丹?粒、広須新田の村々に御救い米）
1745年　1月15日 延享元年　12月13日 快晴
1745年　1月16日 延享元年　12月14日 陰晴
1745年　1月17日 延享元年　12月15日 晴 （10日夜平館村前浜で破船1艘）
1745年　1月18日 延享元年　12月16日 曇　時々雪 （先月21日江戸発の飛脚が大雪で23日振りに秋田湊に）　下から続く　3軒13人に20日分の御救い米）
1745年　1月19日 延享元年　12月17日 陰晴 （赤田・広須・広田・藤代組代官が籾納願・了、広須新田13村380人(311・69)・6村50軒277人(240・37)・7村56軒346人(289・57)・?村41軒269人(235・34)・遠山里村　上に続く
1745年　1月20日 延享元年　12月18日 快晴
1745年　1月21日 延享元年　12月19日 陰晴　昼七時より大雪
1745年　1月22日 延享元年　12月20日 快晴　酉の刻前雪 （龍吐水の値段を問い合わせる、藤崎・柏木組代官が御収納の籾願・了）
1745年　1月23日 延享元年　12月21日 曇　時々雪 （藤代組出来嶋村54人(46・8)・広須新田5村182人(156・26)・赤田組2村266人に御救い米20日分）
1745年　1月24日 延享元年　12月22日 曇　時々雪
1745年　1月25日 延享元年　12月23日 時々雪　曇
1745年　1月26日 延享元年　12月24日 曇　時々雪
1745年　1月27日 延享元年　12月25日 快晴 （4日江戸発の飛脚が22日振りに到着）
1745年　1月28日 延享元年　12月26日 陰晴
1745年　1月29日 延享元年　12月27日 陰晴
1745年　1月30日 延享元年　12月28日 曇　雨 （御家老棟方作右衛門に一粒金丹30粒、八幡宮物置に27・8男縊死、広田組4村444人(356・88)に御救い米20日分）
1745年　1月31日 延享元年　12月29日 なし(日記は存在するが天気の記述なし)
1745年　2月1日 延享2年　正月1日　快晴
1745年　2月2日 延享2年　正月2日　陰晴
1745年　2月3日 延享2年　正月3日　快晴　申の下刻より雪降り
1745年　2月4日 延享2年　正月4日　曇　昨夜中より大雨終日
1745年　2月5日 延享2年　正月5日　曇　雪吹く終日
1745年　2月6日 延享2年　正月6日　曇　雪吹く終日
1745年　2月7日 延享2年　正月7日　陰晴
1745年　2月8日 延享2年　正月8日　陰晴 （熊野権現神主は長利唐之助、後潟組広瀬村の前浜で水主死亡、一昨11日の夜東風大荒れ蟹田前浜で破船1艘、八幡宮物置に別の死骸あり）
1745年　2月9日 延享2年　正月9日　晴
1745年　2月10日 延享2年　正月10日　晴
1745年　2月11日 延享2年　正月11日　晴 （人事異動）
1745年　2月12日 延享2年　正月12日　快晴
1745年　2月13日 延享2年　正月13日　快晴
1745年　2月14日 延享2年　正月14日　陰晴　雪少々
1745年　2月15日 延享2年　正月15日　晴　雪時々
1745年　2月16日 延享2年　正月16日　曇　雪時々　夜中雪風
1745年　2月17日 延享2年　正月17日　快晴
1745年　2月18日 延享2年　正月18日　快晴　夜中雪
1745年　2月19日 延享2年　正月19日　曇 （11月中出74人碇関70人(他国者42人御印紙37・御国人28人切手紙18)・野内4人(他国者2人御印紙1・御国人2人切手紙1)）
1745年　2月20日 延享2年　正月20日　晴
1745年　2月21日 延享2年　正月21日　快晴 （9月18日より12月29日で御収納米皆済）
1745年　2月22日 延享2年　正月22日　晴 （藤代組代官申し立て:18軒54人に御救い米20日分）
1745年　2月23日 延享2年　正月23日　曇
1745年　2月24日 延享2年　正月24日　曇　終日雪 （三新田代官申し立て:37村239軒1491人に42石7斗9合の2度目の御救い米、広須新田代官申し立て:78軒378人に4石2斗の御救い米）
1745年　2月25日 延享2年　正月25日　陰晴
1745年　2月26日 延享2年　正月26日　陰晴
1745年　2月27日 延享2年　正月27日　曇　雪　午の刻より陰晴 （12月中大間越:出入り人数41人、青森米町に男倒死）
1745年　2月28日 延享2年　正月28日　陰晴　辰の中刻雪　夜中雪 （広田組代官申し立て:6村146軒710人に3度目の御救い米20日分、広須新田代官申し立て:56村365軒2140人に2度目の御救い米20日分）

1745年　3月1日 延享2年 正月29日　陰晴 （増館組女鹿沢村に30男倒死、広田組2村16軒60人に御救い米）
1745年　3月2日 延享2年 正月30日　陰晴
1745年　3月3日 延享2年　　2月1日 曇
1745年　3月4日 延享2年　　2月2日 曇　辰の刻雪少々　それより晴
1745年　3月5日 延享2年　　2月3日 晴
1745年　3月6日 延享2年　　2月4日 晴　酉の上刻地震 （御城付足軽頭田中伴右衛門に一粒金丹3粒）
1745年　3月7日 延享2年　　2月5日 曇　今朝辰の刻より雪暫く　夜中大雪 （昨夜北横町に出火・太鼓鳴らない?）
1745年　3月8日 延享2年　　2月6日 晴　朝の内雪 （一昨晩9時北横町に火災・やけど1人、藤代組藤代村に袖乞い男倒死）
1745年　3月9日 延享2年　　2月7日 快晴 （御小姓組高瀬尚右衛門に一粒金丹?粒）
1745年　3月10日 延享2年　　2月8日 晴　朝の内雪少々
1745年　3月11日 延享2年　　2月9日 晴
1745年　3月12日 延享2年　　2月10日 曇　時々雪　午の下刻雷一度発す　戌の下刻より夜中大風
1745年　3月13日 延享2年　　2月11日 曇　夜中より風　辰の中刻止む　雨時々
1745年　3月14日 延享2年　　2月12日 晴 （昨夜の風で薬王院・長勝寺の杉が折れる）
1745年　3月15日 延享2年　　2月13日 晴 （尾太銅山雪悉く降る・毎日3・4尺・一昨11日雪崩れ・1人死亡3・4軒破損）
1745年　3月16日 延享2年　　2月14日 快晴
1745年　3月17日 延享2年　　2月15日 晴
1745年　3月18日 延享2年　　2月16日 晴
1745年　3月19日 延享2年　　2月17日 晴 （正月中碇関:出入り人数124人、同大間越:人数出入り合130人、同野内:出入り人数合45人）
1745年　3月20日 延享2年　　2月18日 晴 （津軽内記病死）
1745年　3月21日 延享2年　　2月19日 曇　小雨
1745年　3月22日 延享2年　　2月20日 快晴 （昨19日夜9時過ぎ馬喰町の牢屋出火・9人焼死3人引き出す、誓願寺の龍泉寺変死）
1745年　3月23日 延享2年　　2月21日 快晴
1745年　3月24日 延享2年　　2月22日 陰晴　午の刻過ぎ雪暫く　則刻止む （近年の日記が1カ月450・460枚で御家中の湯治願・乞食小屋入れ願いなど44項目を省略することとする）
1745年　3月25日 延享2年　　2月23日 快晴　戌の刻地震暫く
1745年　3月26日 延享2年　　2月24日 快晴　夜に入り小雨 （御目付伴新八に一粒金丹2粒）
1745年　3月27日 延享2年　　2月25日 快晴
1745年　3月28日 延享2年　　2月26日 曇　辰の下刻小雨　午の下刻より大雨
1745年　3月29日 延享2年　　2月27日 曇　朝の内丸雪 （藤崎組に20男倒死、御目付佐々木源次郎と三上孫左衛門に一粒金丹2粒宛）
1745年　3月30日 延享2年　　2月28日 晴
1745年　3月31日 延享2年　　2月29日 快晴
1745年　4月1日 延享2年　　2月30日 晴
1745年　4月2日 延享2年　　3月1日 晴　午の二刻日蝕 （2月中出54人碇関47人（他国者27人御印紙22・御国人20人切手紙13枚）・野内御国人6人切手紙2・大間越御国人1人切手紙1）
1745年　4月3日 延享2年　　3月2日 晴
1745年　4月4日 延享2年　　3月3日 快晴　朝の内霞
1745年　4月5日 延享2年　　3月4日 晴
1745年　4月6日 延享2年　　3月5日 快晴 （3月11日の晩より13日昼まで(このように書いてある)に早川口まで十三潟明ける）
1745年　4月7日 延享2年　　3月6日 快晴
1745年　4月8日 延享2年　　3月7日 快晴 （先月中野内:出入109人）
1745年　4月9日 延享2年　　3月8日 快晴 （2月中大間越:出入り人数215人）
1745年　4月10日 延享2年　　3月9日 陰晴　亥の下刻より雨
1745年　4月11日 延享2年　　3月10日 曇　昨夜中雨　申の刻より雪夜に及ぶ　寅の刻より風雨強し （牢火付けの調べ）
1745年　4月12日 延享2年　　3月11日 曇　雨時々 （昨夜赤田組灰沼村で火災(4間×6間:給地百姓)）
1745年　4月13日 延享2年　　3月12日 快晴 （和徳組富田村に26・7男倒死）
1745年　4月14日 延享2年　　3月13日 快晴
1745年　4月15日 延享2年　　3月14日 快晴
1745年　4月16日 延享2年　　3月15日 曇　午の刻小雨 （2月中大間越:出入163人）
1745年　4月17日 延享2年　　3月16日 晴
1745年　4月18日 延享2年　　3月17日 快晴
1745年　4月19日 延享2年　　3月18日 快晴
1745年　4月20日 延享2年　　3月19日 快晴
1745年　4月21日 延享2年　　3月20日 曇　今朝卯の下刻より巳の下刻過ぎ雨　午の刻晴
1745年　4月22日 延享2年　　3月21日 快晴　今朝大霜
1745年　4月23日 延享2年　　3月22日 曇　時々小雨
1745年　4月24日 延享2年　　3月23日 快晴
1745年　4月25日 延享2年　　3月24日 快晴(14丙戌日とあり14日が正しいかも・24日なら乙申のはず）
1745年　4月26日 延享2年　　3月25日 快晴
1745年　4月27日 延享2年　　3月26日 快晴
1745年　4月28日 延享2年　　3月27日 快晴
1745年　4月29日 延享2年　　3月28日 快晴
1745年　4月30日 延享2年　　3月29日 晴 （一昨27日昼過ぎ赤石組深谷村で火災・類焼あり）

1745年　5月1日 延享2年　3月30日 快晴　朝の内霞
1745年　5月2日 延享2年　4月1日 快晴　(3月中出101人(碇関91人(他国者42人御印紙33・御国人49人切手紙28)・野内御国人8人切手紙3・大間越2人切手紙2))
1745年　5月3日 延享2年　4月2日 快晴　亥の刻小雨
1745年　5月4日 延享2年　4月3日 快晴
1745年　5月5日 延享2年　4月4日 晴　今朝曇　午の刻より晴　(27日?深谷村と舞戸村の火元の村預け御免)
1745年　5月6日 延享2年　4月5日 快晴
1745年　5月7日 延享2年　4月6日 快晴
1745年　5月8日 延享2年　4月7日 曇　朝の内小雨　巳の刻より快晴　酉の刻より雨　(近年足軽・小人の背丈が小さい・実子であっても……)
1745年　5月9日 延享2年　4月8日 曇　辰の下刻より雨　巳の下刻より晴　(先月中野内:出入145人)
1745年　5月10日 延享2年　4月9日 快晴
1745年　5月11日 延享2年　4月10日 快晴　(4月中野内:出入り人数62人)
1745年　5月12日 延享2年　4月11日 曇　卯の刻過ぎより小雨　(5日浦町組瀧澤村で火災・火元村預け・御免)
1745年　5月13日 延享2年　4月12日 曇　卯の刻過ぎより霧　巳の刻より晴
1745年　5月14日 延享2年　4月13日 快晴　(時鐘撞が4人扶持)
1745年　5月15日 延享2年　4月14日 晴　朝の内霞少々
1745年　5月16日 延享2年　4月15日 晴
1745年　5月17日 延享2年　4月16日 晴　夜中雨
1745年　5月18日 延享2年　4月17日 曇　昨夜中より雨　巳の刻過ぎより晴
1745年　5月19日 延享2年　4月18日 快晴
1745年　5月20日 延享2年　4月19日 晴　(12日足軽が出奔・大組足軽頭遠慮)
1745年　5月21日 延享2年　4月20日 晴　巳の刻過ぎより晴
1745年　5月22日 延享2年　4月21日 晴
1745年　5月23日 延享2年　4月22日 晴　(駒越組の男が兼平山で縊死)
1745年　5月24日 延享2年　4月23日 晴　午の上刻より風少々
1745年　5月25日 延享2年　4月24日 晴
1745年　5月26日 延享2年　4月25日 快晴　申の下刻より雨少々
1745年　5月27日 延享2年　4月26日 快晴　夜に入り小雨
1745年　5月28日 延享2年　4月27日 快晴　朝の内少々曇
1745年　5月29日 延享2年　4月28日 曇　朝の内霧雨　(3月中碇関:入り人数202・出入り人数合298人)
1745年　5月30日 延享2年　4月29日 晴　(用水不足・五穀成就の御祈祷を五山に仰せ付ける)
1745年　5月31日 延享2年　5月1日 曇　辰の刻雨　(4月中出624人(碇関623人(御国人85人他国者121人御印紙72・御国人417人切手紙142)・野内御国人1人切手紙1))
1745年　6月1日 延享2年　5月2日 陰晴　申の刻雨
1745年　6月2日 延享2年　5月3日 晴　朝の内小雨　辰の刻風立つ
1745年　6月3日 延享2年　5月4日 快晴
1745年　6月4日 延享2年　5月5日 晴
1745年　6月5日 延享2年　5月6日 快晴
1745年　6月6日 延享2年　5月7日 晴　夜に入り雨
1745年　6月7日 延享2年　5月8日 曇　時々小雨
1745年　6月8日 延享2年　5月9日 陰晴　時々雨　暮に至り雷発す(暮至雷発)　(高杉組高杉村で乱心殺人)
1745年　6月9日 延享2年　5月10日 曇　時々雨
1745年　6月10日 延享2年　5月11日 陰晴　(先月中大間越:出入り人数合47人・同野内:283人・同碇関761人)
1745年　6月11日 延享2年　5月12日 陰晴　未の刻より雨
1745年　6月12日 延享2年　5月13日 陰晴　朝の内霧　夜に入り雨
1745年　6月13日 延享2年　5月14日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1745年　6月14日 延享2年　5月15日 曇　昨夜より雨時々
1745年　6月15日 延享2年　5月16日 晴
1745年　6月16日 延享2年　5月17日 陰晴
1745年　6月17日 延享2年　5月18日 快晴　辰の刻前小雨
1745年　6月18日 延享2年　5月19日 快晴
1745年　6月19日 延享2年　5月20日 陰晴　夜中より雨　終日に及ぶ(?:こう書いてある)
1745年　6月20日 延享2年　5月21日 曇　終日雨
1745年　6月21日 延享2年　5月22日 快晴
1745年　6月22日 延享2年　5月23日 快晴
1745年　6月23日 延享2年　5月24日 晴　午の刻過ぎ曇　雷発す　大雨　申の刻過ぎ晴
1745年　6月24日 延享2年　5月25日 曇　卯の刻雨　終日に及ぶ
1745年　6月25日 延享2年　5月26日 晴
1745年　6月26日 延享2年　5月27日 晴　朝の内雨
1745年　6月27日 延享2年　5月28日 陰晴
1745年　6月28日 延享2年　5月29日 晴
1745年　6月29日 延享2年　5月30日 晴
1745年　6月30日 延享2年　6月1日 陰晴　(5月中出(碇関158人(他国者102人御印紙56・御国人56人切手紙29)・野内御国人8人切手紙3・大間越御国人8人切手紙3)、拷問牢の大きさ:幅1尺6寸高さ2尺3寸)

1745年　7月1日 延享2年　6月2日 曇　午の中刻より小雨時々
1745年　7月2日 延享2年　6月3日 快晴
1745年　7月3日 延享2年　6月4日 快晴
1745年　7月4日 延享2年　6月5日 曇　雨終日　夜に及ぶ
1745年　7月5日 延享2年　6月6日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1745年　7月6日 延享2年　6月7日 陰晴
1745年　7月7日 延享2年　6月8日 快晴
1745年　7月8日 延享2年　6月9日 陰晴 (五穀成就の御祈祷を四社に仰せ付ける)
1745年　7月9日 延享2年　6月10日 曇　昨夜より今朝午の刻まで雨　それより晴
1745年　7月10日 延享2年　6月11日 快晴
1745年　7月11日 延享2年　6月12日 晴　卯の上刻前雨
1745年　7月12日 延享2年　6月13日 快晴
1745年　7月13日 延享2年　6月14日 快晴
1745年　7月14日 延享2年　6月15日 快晴
1745年　7月15日 延享2年　6月16日 陰晴 (2月19日焼失の大牢出来・もう一度入牢させる)
1745年　7月16日 延享2年　6月17日 快晴 (5月中碇関:出入り人数合504人・同大間越:出入り人数52人・同野内:出入り人数504人)
1745年　7月17日 延享2年　6月18日 快晴
1745年　7月18日 延享2年　6月19日 曇　辰の刻より雨降り　雷発す　午の刻止む
1745年　7月19日 延享2年　6月20日 快晴　巳の刻土用入り　丑の刻大雨降
1745年　7月20日 延享2年　6月21日 曇　卯の刻より時々雨　午の刻より晴
1745年　7月21日 延享2年　6月22日 快晴
1745年　7月22日 延享2年　6月23日 曇　丑の刻より雨
1745年　7月23日 延享2年　6月24日 曇　時々雨　終日に及ぶ　午の刻過ぎ雷発す
1745年　7月24日 延享2年　6月25日 陰晴
1745年　7月25日 延享2年　6月26日 晴
1745年　7月26日 延享2年　6月27日 陰晴　午の刻過ぎ小雨
1745年　7月27日 延享2年　6月28日 快晴 (戸〆の場合隣家から出入りするらしい)
1745年　7月28日 延享2年　6月29日 快晴
1745年　7月29日 延享2年　7月1日 快晴 (6月中出106人(碇関98人(他国者52人御印紙43・御国人46人切手紙32)・野内8人(他国者3人御印紙3・御国人5人切手紙3)))
1745年　7月30日 延享2年　7月2日 快晴 (昨27日十三沖で破船4艘)
1745年　7月31日 延享2年　7月3日 陰晴
1745年　8月1日 延享2年　7月4日 陰晴
1745年　8月2日 延享2年　7月5日 快晴
1745年　8月3日 延享2年　7月6日 快晴 (大鰐組大鰐村の嘉々助・尾崎組大坊村の清次郎が初米上げる・5月7日植付7月6日出穂)
1745年　8月4日 延享2年　7月7日 晴　夜中時々雨 (6月中大間越:出入り人数61人・同野内:出入り人数300人)
1745年　8月5日 延享2年　7月8日 曇　終日雨
1745年　8月6日 延享2年　7月9日 曇　時々雨 (神宮寺境内に50余男倒死)
1745年　8月7日 延享2年　7月10日 曇　朝の内雨 (6月中碇関:出入人都合373人)
1745年　8月8日 延享2年　7月11日 快晴
1745年　8月9日 延享2年　7月12日 曇　午の中刻小雨
1745年　8月10日 延享2年　7月13日 晴
1745年　8月11日 延享2年　7月14日 晴　未の刻より小雨　終夜に及ぶ (例年に比べ出穂遅い・土用以来東風吹き続く・冷気・五穀成就の御祈祷を申し付ける)
1745年　8月12日 延享2年　7月15日 曇　昨夜より雨　今朝迄　巳の刻より大風　申の刻止む
1745年　8月13日 延享2年　7月16日 快晴 (茂森町で女房が井戸に落ち死亡)
1745年　8月14日 延享2年　7月17日 快晴
1745年　8月15日 延享2年　7月18日 快晴
1745年　8月16日 延享2年　7月19日 快晴
1745年　8月17日 延享2年　7月20日 快晴 (15日赤根沢(今別町茜沢か)沖で荷打ち(荒天中に船の安全を図るために積み荷を海中に投ずること)・水主1人死亡)
1745年　8月18日 延享2年　7月21日 快晴　残暑甚だしい (赤田組板屋野木村で男縊死)
1745年　8月19日 延享2年　7月22日 曇　辰の中刻大雨　午の中刻晴
1745年　8月20日 延享2年　7月23日 曇　昨夜中より雨　今朝卯の下刻止む　午の下刻晴
1745年　8月21日 延享2年　7月24日 快晴
1745年　8月22日 延享2年　7月25日 快晴 (今朝紺屋町に家持男縊死)
1745年　8月23日 延享2年　7月26日 陰晴　朝の内曇　巳の下刻より晴
1745年　8月24日 延享2年　7月27日 陰晴　朝の内曇　午の刻より晴
1745年　8月25日 延享2年　7月28日 晴
1745年　8月26日 延享2年　7月29日 快晴
1745年　8月27日 延享2年　8月1日 快晴　残暑甚 (7月中出145人(碇関138人(御国人13人他国者52人御印紙46・御国人73人切手紙37)・三馬屋湊他国者3人御印紙1・野内御国人2人切手紙1・大間越御国人2人切手紙1))
1745年　8月28日 延享2年　8月2日 快晴　残暑甚
1745年　8月29日 延享2年　8月3日 曇　午の上刻より小雨降　夜に入り雨
1745年　8月30日 延享2年　8月4日 快晴
1745年　8月31日 延享2年　8月5日 曇

1745年　9月1日 延享2年　8月6日 快晴　夜中午の中刻より雨 （御馬廻り与力が酒の上で手傷）
1745年　9月2日 延享2年　8月7日 曇　終日雨 （昨日の口上書多数）
1745年　9月3日 延享2年　8月8日 曇　時々雨
1745年　9月4日 延享2年　8月9日 晴 （御城付足軽頭田中伴左衛門に一粒金丹3粒、大間越町庄屋が飯米御払い願い・1俵18文目で40俵申し付ける）
1745年　9月5日 延享2年　8月10日 曇　雨 （外馬場土居に桜を植えることとし勘定奉行三上仁左衛門に差し出す）
1745年　9月6日 延享2年　8月11日 晴
1745年　9月7日 延享2年　8月12日 晴　朝の内小雨 （龍吐水は作事方預かりとする）
1745年　9月8日 延享2年　8月13日 快晴
1745年　9月9日 延享2年　8月14日 快晴
1745年　9月10日 延享2年　8月15日 快晴　戌の下刻雨暫く
1745年　9月11日 延享2年　8月16日 曇　卯の下刻より雨時々　夜中雨
1745年　9月12日 延享2年　8月17日 曇　終日雨 （御用人笠原武左衛門に一粒金丹?粒）
1745年　9月13日 延享2年　8月18日 曇　終日雨 （天気悪しく神明宮で日和揚げ御祈祷）
1745年　9月14日 延享2年　8月19日 快晴 （御留守居組頭白取弥兵衛に一粒金丹?粒）
1745年　9月15日 延享2年　8月20日 曇　時々雨 （1俵19匁・両替75匁9分）
1745年　9月16日 延享2年　8月21日 陰晴　午の中刻過ぎより雨 （御目付木村伊右衛門に一粒金丹3粒、先月中大間越:出入り人数45人・同碇関:出入り人数485人・同野内:出入り人数287人）
1745年　9月17日 延享2年　8月22日 陰晴　午の刻過ぎより小雨
1745年　9月18日 延享2年　8月23日 曇
1745年　9月19日 延享2年　8月24日 快晴 （昨23日油川組十三森の浜に15・6男の死体が丸木舟で流寄せる）
1745年　9月20日 延享2年　8月25日 快晴
1745年　9月21日 延享2年　8月26日 快晴
1745年　9月22日 延享2年　8月27日 曇　辰の下刻より小雨降 （青森御蔵米御払い願い・1俵22文目7分で200俵払い出す、大間越町庄屋が飯米御払い願い・1俵23匁6分で70俵申し付ける）
1745年　9月23日 延享2年　8月28日 曇
1745年　9月24日 延享2年　8月29日 快晴
1745年　9月25日 延享2年　8月30日 快晴　午の中刻雨
1745年　9月26日 延享2年　9月1日 快晴 （8月中出167人（碇関149人（他国者111人御印紙73・御国人38人切手紙24・野内18人（他国者16人御印紙5・御国人2人切手紙1)))
1745年　9月27日 延享2年　9月2日 曇
1745年　9月28日 延享2年　9月3日 陰晴 （8月6日夜の酒狂い与力2人を双方腰抜け払い）
1745年　9月29日 延享2年　9月4日 快晴　午の刻過ぎ小雨少々
1745年　9月30日 延享2年　9月5日 快晴
1745年　10月1日 延享2年　9月6日 陰晴
1745年　10月2日 延享2年　9月7日 曇
1745年　10月3日 延享2年　9月8日 曇　朝の内雨　午の刻過ぎより晴
1745年　10月4日 延享2年　9月9日 曇　亥の下刻より雨
1745年　10月5日 延享2年　9月10日 曇　時々雨　巳の下刻雷発す
1745年　10月6日 延享2年　9月11日 晴　寅の刻より卯の刻まで小雨
1745年　10月7日 延享2年　9月12日 快晴 （6日増館組杉村で火災・火元村預け・免許）
1745年　10月8日 延享2年　9月13日 曇　辰の刻小雨少々
1745年　10月9日 延享2年　9月14日 曇　朝の内雨　午の刻過ぎより晴
1745年 10月10日 延享2年　9月15日 曇　時々小雨
1745年 10月11日 延享2年　9月16日 曇　時々小雨
1745年 10月12日 延享2年　9月17日 陰晴　巳の刻小雨 （打ち続き天気悪しく大円寺に日和上げ御祈祷を申し付ける、先月中碇関:出入り人数合427人・同野内:出入り人数合181人・同大間越:59人、朔日将軍宣下）
1745年 10月13日 延享2年　9月18日 陰晴　夜に入り小雨
1745年 10月14日 延享2年　9月19日 曇　昨夜より雨終日　亥の刻過ぎより夜中風
1745年 10月15日 延享2年　9月20日 晴
1745年 10月16日 延享2年　9月21日 曇
1745年 10月17日 延享2年　9月22日 曇　昨夜より雨　辰の刻過ぎより止む （古懸山不動尊御出汗・五山で御祈祷）
1745年 10月18日 延享2年　9月23日 陰晴　夜に入り電少々　雨時々
1745年 10月19日 延享2年　9月24日 晴
1745年 10月20日 延享2年　9月25日 快晴
1745年 10月21日 延享2年　9月26日 快晴
1745年 10月22日 延享2年　9月27日 快晴
1745年 10月23日 延享2年　9月28日 曇　辰の上刻より雨　夜に入る （20日赤石組松神前浜で破船1艘）
1745年 10月24日 延享2年　9月29日 時々小雨
1745年 10月25日 延享2年　10月1日 快晴 （9月中出94人（碇関92人（御国人16人他国者46人御印紙42・御国人30人切手紙19)・野内他国者2人御印紙1))
1745年 10月26日 延享2年　10月2日 快晴　今朝霜
1745年 10月27日 延享2年　10月3日 陰晴
1745年 10月28日 延享2年　10月4日 快晴
1745年 10月29日 延享2年　10月5日 快晴
1745年 10月30日 延享2年　10月6日 快晴
1745年 10月31日 延享2年　10月7日 快晴

1745年　11月1日 延享2年　　10月8日 陰晴　未の下刻より雨 （一昨日和徳町で女房自害・今朝死亡）
1745年　11月2日 延享2年　　10月9日 曇　辰の刻より小雨
1745年　11月3日 延享2年　10月10日 快晴
1745年　11月4日 延享2年　10月11日 陰晴
1745年　11月5日 延享2年　10月12日 晴
1745年　11月6日 延享2年　10月13日 曇　卯の刻過ぎより雨　終日に及ぶ （御家老喜多村監物役儀召し放ち）
1745年　11月7日 延享2年　10月14日 快晴
1745年　11月8日 延享2年　10月15日 快晴
1745年　11月9日 延享2年　10月16日 快晴
1745年 11月10日 延享2年　10月17日 晴　寅の刻過ぎ小雨
1745年 11月11日 延享2年　10月18日 曇　夜中雨　寅の刻より雷暫く発す
1745年 11月12日 延享2年　10月19日 曇 （9月中碇関:出入り人数339人・同大間越:出入り人数47人・同野内:出入り人数192人）
1745年 11月13日 延享2年　10月20日 快晴
1745年 11月14日 延享2年　10月21日 快晴
1745年 11月15日 延享2年　10月22日 快晴　戌の刻より雨時々
1745年 11月16日 延享2年　10月23日 陰晴　夜中雨
1745年 11月17日 延享2年　10月24日 曇　昨夜中より今朝まで雨　辰の刻過ぎ晴
1745年 11月18日 延享2年　10月25日 曇　時々雪
1745年 11月19日 延享2年　10月26日 快晴
1745年 11月20日 延享2年　10月27日 快晴
1745年 11月21日 延享2年　10月28日 快晴　今朝大霜
1745年 11月22日 延享2年　10月29日 曇　巳の刻より小雨　終日に及ぶ
1745年 11月23日 延享2年　　11月1日 曇　巳の刻より初雪 （10月中出86人（碇関94人（御国人1人他国者67人御印紙57・御国人26人切手紙18））、古懸不動尊御出汗・御祈祷、駒越組枯木平村で火災（26日か）・火元村預け・免許）
1745年 11月24日 延享2年　　11月2日 陰晴 （油川・後潟組代官が1100石銭納願・3が1を1俵24匁の仮値段で申しつける）
1745年 11月25日 延享2年　　11月3日 晴　朝の内少々雪　夜中少々雨
1745年 11月26日 延享2年　　11月4日 曇　時々小雨　夜中雪
1745年 11月27日 延享2年　　11月5日 曇　雪少々
1745年 11月28日 延享2年　　11月6日 曇
1745年 11月29日 延享2年　　11月7日 快晴　酉の刻より小雨 （10月中大間越:出入り人数111人）
1745年 11月30日 延享2年　　11月8日 陰晴 （10月中野内:180人）
1745年　12月1日 延享2年　　11月9日 快晴 （4日俵元新田米田村で火災・火元村預け・免許、組頭津軽外記に一粒金丹?粒）
1745年　12月2日 延享2年　11月10日 快晴
1745年　12月3日 延享2年　11月11日 快晴 （浦町・横内組代官が950石銭納申し出・3が1を1俵24匁で上納申し付ける、新町で小火）
1745年　12月4日 延享2年　11月12日 晴　申の刻より大風　夜中共
1745年　12月5日 延享2年　11月13日 曇　昨夜中よりの雨夜に及ぶ （藤代組尾原村で火災（2間×3間）・火元村預け）
1745年　12月6日 延享2年　11月14日 曇　夜中霙
1745年　12月7日 延享2年　11月15日 晴 （11日尾原村の火元（高無）の村預け免許、10月中碇関:出入り人数合255人）
1745年　12月8日 延享2年　11月16日 陰晴　時々雨 （赤石組代官が1100石の銭納願・300石申し付ける、12日牢屋火災焼失の火付けが牢死）
1745年　12月9日 延享2年　11月17日 陰晴　時々雪 （15日夜三新田出崎村で火災）
1745年 12月10日 延享2年　11月18日 快晴
1745年 12月11日 延享2年　11月19日 快晴 （深浦・今別町の年寄りが屋敷物成りの銭納申し立て・仮値段1俵25匁宛上納申し付ける、出崎村の火元の村預け免許）
1745年 12月12日 延享2年　11月20日 晴　朝の内雨暫く　夜中雨
1745年 12月13日 延享2年　11月21日 曇　終日雨降　雷暫く発す
1745年 12月14日 延享2年　11月22日 曇　終日霙 （19日後潟組阿弥陀川村で火災・類焼も、10日夜弘前のどこかで出火・火元戸〆・免許）
1745年 12月15日 延享2年　11月23日 曇　時々雪
1745年 12月16日 延享2年　11月24日 曇 （油川湊で水主死亡）
1745年 12月17日 延享2年　11月25日 曇
1745年 12月18日 延享2年　11月26日 曇　時々小雨 （西舘宇膳御家老に、磔2人・獄門1人）
1745年 12月19日 延享2年　11月27日 曇　辰の刻より雪時々 （藤代組代官が妙見崎村の悪米に付き銭納願・1俵22匁値段で申し付ける、阿弥陀川村の火元の村預け免許）
1745年 12月20日 延享2年　11月28日 晴
1745年 12月21日 延享2年　11月29日 陰晴　冬至申の刻に入る　雪時々
1745年 12月22日 延享2年　11月30日 晴
1745年 12月23日 延享2年　　12月1日 曇　昨夜中小雨　終夜に及ぶ （11月中出147人（碇関143（御国人34他国者63御印紙57・御国人46切手紙19）・野内4（他国者3御国人1・各1枚）））
1745年 12月24日 延享2年　　12月2日 曇　時々雪　終日に及ぶ
1745年 12月25日 延享2年　　12月3日 曇　雪終日
1745年 12月26日 延享2年　　12月4日 曇　時々雪
1745年 12月27日 延享2年　　12月5日 曇　時々雪
1745年 12月28日 延享2年　　12月6日 曇　時々雪
1745年 12月29日 延享2年　　12月7日 曇　昨夜中より甚雪
1745年 12月30日 延享2年　　12月8日 快晴 （朔日朝より3日朝まで十三潟氷張る・去年11月6日より25日遅く節に引合2日遅い）
1745年 12月31日 延享2年　　12月9日 曇　時々小雨

1746年　1月1日 延享2年　12月10日 曇　雨
1746年　1月2日 延享2年　12月11日 陰晴　夜中風 （9日金木新田今岡村で稲乳4500束焼失・火元村預け）
1746年　1月3日 延享2年　12月12日 曇　終日雪
1746年　1月4日 延享2年　12月13日 曇　終日雪
1746年　1月5日 延享2年　12月14日 曇　亥の一刻寒に入る （西舘宇膳改名勘解由に）
1746年　1月6日 延享2年　12月15日 曇　午の下刻より雪時々 （11日赤石組岩崎村で火災17軒・馬6疋焼失、12日広田組喰川村で火災2軒）
1746年　1月7日 延享2年　12月16日 晴
1746年　1月8日 延享2年　12月17日 曇　時々雪 （9日今岡村の火元の村預け御免）
1746年　1月9日 延享2年　12月18日 晴
1746年　1月10日 延享2年　12月19日 晴 （8月中碇関:出入り人数合313人・同野内:出入り合157人・同大間越:出入り合48人）
1746年　1月11日 延享2年　12月20日 曇　卯の下刻より雨終日　夜に及ぶ （昨18日朝増館組郷山前村で火災・火元村預け、12日喰川村の火元の村預け免許）
1746年　1月12日 延享2年　12月21日 陰晴　午の刻雨少々 （古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける）
1746年　1月13日 延享2年　12月22日 晴
1746年　1月14日 延享2年　12月23日 陰晴　辰の下刻雪少々
1746年　1月15日 延享2年　12月24日 曇　終日雪 （11日岩崎村・18日郷山前村の火元それぞれ他村預け）
1746年　1月16日 延享2年　12月25日 曇　時々雪
1746年　1月17日 延享2年　12月26日 晴　午の中刻雪少々 （6日杉山八兵衛が江戸で病死）
1746年　1月18日 延享2年　12月27日 晴
1746年　1月19日 延享2年　12月28日 晴
1746年　1月20日 延享2年　12月29日 晴
1746年　1月21日 延享2年　12月30日 晴 （15日浪岡組徳才子村の定右衛門が熊(胆長1寸5歩廻り1寸6歩生目方5匁:)取る）
1746年　1月22日 延享2年 閏12月1日 陰晴 （12月中出150人(碇関143人(御国人29他国者64御印紙55・御国人50切手紙15)・野内7人(他国者3御印紙2・御国人4切手紙3)))
1746年　1月23日 延享2年 閏12月2日 陰晴
1746年　1月24日 延享2年 閏12月3日 晴
1746年　1月25日 延享2年 閏12月4日 陰晴 （2日高杉組鬼沢村で火災・火元村預け）
1746年　1月26日 延享2年 閏12月5日 曇　卯の刻過ぎより小雨終日　夜に入り少し雪
1746年　1月27日 延享2年 閏12月6日 晴
1746年　1月28日 延享2年 閏12月7日 晴 （今井源五右衛門を御家老に、2日鬼沢村の火元の預け御免、御用米を出した町人8人に帯刀御免など）
1746年　1月29日 延享2年 閏12月8日 晴
1746年　1月30日 延享2年 閏12月9日 快晴　今朝大霜 （先月中碇関:293人・同野内:人数合135人・同大間越:人数合45人）
1746年　1月31日 延享2年 閏12月10日曇　午の刻小雨　それより少々晴　夜に入り小雪 （今朝茂森町で男縊死）
1746年　2月1日 延享2年 閏12月11日陰晴　昨夜中より雪時々　終日に及ぶ
1746年　2月2日 延享2年 閏12月12日曇　午の刻より小雨
1746年　2月3日 延享2年 閏12月13日快晴
1746年　2月4日 延享2年 閏12月14日曇　終日雨　夜中
1746年　2月5日 延享2年 閏12月15日晴　夜中雪少々
1746年　2月6日 延享2年 閏12月16日晴　朝の内雪少々
1746年　2月7日 延享2年 閏12月17日曇　時々雪 （長内新右衛門・吉崎佐野右衛門に一粒金丹3粒づつ、海蔵寺裏に20斗男縊死）
1746年　2月8日 延享2年 閏12月18日陰晴
1746年　2月9日 延享2年 閏12月19日曇　時々雪
1746年　2月10日 延享2年 閏12月20日快晴 （当月16日朝十三潟明ける・去年3月2日で当年は76日早く節に比較して55日早い、来秋までの酒値段1升:1匁2分）
1746年　2月11日 延享2年 閏12月21日陰晴
1746年　2月12日 延享2年 閏12月22日晴 （田舎館組畑中村で百姓の家来が武士の弟に討たれる）
1746年　2月13日 延享2年 閏12月23日曇　昨夜中より雪降　丑の下刻より晴
1746年　2月14日 延享2年 閏12月24日晴　昨夜雪降り　終夜に及ぶ （今朝土手町で火災）
1746年　2月15日 延享2年 閏12月25日陰晴
1746年　2月16日 延享2年 閏12月26日晴　夜中雪少々
1746年　2月17日 延享2年 閏12月27日快晴 （土手町の火元入寺・御免、当月22日御収納が皆済、龍吐水を御普請方に預け使用を命ず）
1746年　2月18日 延享2年 閏12月28日曇　時々吹雪
1746年　2月19日 延享2年 閏12月29日曇　時々雪　終日に及ぶ
1746年　2月20日 延享3年 正月1日　晴
1746年　2月21日 延享3年 正月2日　曇　雪時々
1746年　2月22日 延享3年 正月3日　快晴
1746年　2月23日 延享3年 正月4日　曇　時々雪
1746年　2月24日 延享3年 正月5日　快晴
1746年　2月25日 延享3年 正月6日　曇　時々水雪　酉の下刻雷発す
1746年　2月26日 延享3年 正月7日　曇　夜中より雪時々 （去月29日油川組油川村に倒死者）
1746年　2月27日 延享3年 正月8日　曇　朝の内雪
1746年　2月28日 延享3年 正月9日　快晴

1746年　3月1日 延享3年 正月10日　曇　巳の刻より雨
1746年　3月2日 延享3年 正月11日　晴
1746年　3月3日 延享3年 正月12日　晴
1746年　3月4日 延享3年 正月13日　曇　終日雪
1746年　3月5日 延享3年 正月14日　陰晴
1746年　3月6日 延享3年 正月15日　曇　昨夜中より風雨 （土手町の小見世内に頃日生まれの女子捨子）
1746年　3月7日 延享3年 正月16日　曇 （先月27日より御隠居様少々御不快・御祈祷）
1746年　3月8日 延享3年 正月17日　快晴
1746年　3月9日 延享3年 正月18日　晴
1746年　3月10日 延享3年 正月19日　晴
1746年　3月11日 延享3年 正月20日　晴
1746年　3月12日 延享3年 正月21日　陰晴 （閏12月中出71人（碇関66人（他国者54人御印紙43・御国人12人切手紙9）・野内5人（他国者1人御印紙1・御国人4人切手紙2)））
1746年　3月13日 延享3年 正月22日　快晴 （12月中碇関：出入り人数合190人・同野内：出入り人数合139人・同大間越：出入り人数合25人）
1746年　3月14日 延享3年 正月23日　曇　巳の下刻より雪　夜中に及ぶ
1746年　3月15日 延享3年 正月24日　快晴
1746年　3月16日 延享3年 正月25日　曇　朝の内雪
1746年　3月17日 延享3年 正月26日　曇　卯の下刻より雪吹
1746年　3月18日 延享3年 正月27日　陰晴
1746年　3月19日 延享3年 正月28日　快晴
1746年　3月20日 延享3年 正月29日　晴
1746年　3月21日 延享3年 正月30日　曇　巳の下刻より雨
1746年　3月22日 延享3年　2月1日 快晴 （正月中出52人（碇関47人（他国者37人御印紙29・御国人10人切手紙7）・野内5人（他国者2人御印紙1・他国者?3人切手紙2)）、大間越町庄屋が御蔵米60俵御払願・30俵を申付ける）
1746年　3月23日 延享3年　2月2日 陰晴 （20日朝御隠居様御逝去）
1746年　3月24日 延享3年　2月3日 陰晴　夜に入り少し雨
1746年　3月25日 延享3年　2月4日 快晴
1746年　3月26日 延享3年　2月5日 快晴
1746年　3月27日 延享3年　2月6日 陰晴　巳の中刻より雨降り
1746年　3月28日 延享3年　2月7日 快晴 （高杉組?で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1746年　3月29日 延享3年　2月8日 快晴 （藤崎組藤崎村の摂取院変死）
1746年　3月30日 延享3年　2月9日 陰晴 （6日十三潟明ける、去月28日柏木組松倉村で火災）
1746年　3月31日 延享3年　2月10日 陰晴
1746年　4月1日 延享3年　2月11日 晴　昨夜中寅の刻より小雪少々 （正月中大間越：出入り人数帳面で・同野内：）
1746年　4月2日 延享3年　2月12日 快晴　午の刻過ぎ雨風 （正月中碇関：出55（他国者37・御国人18）・入り125人）
1746年　4月3日 延享3年　2月13日 陰晴
1746年　4月4日 延享3年　2月14日 陰晴
1746年　4月5日 延享3年　2月15日 曇　昨夜子の刻雨
1746年　4月6日 延享3年　2月16日 陰晴　巳の刻より小雪 （14日飯詰組飯詰村で火災・火元村預け）
1746年　4月7日 延享3年　2月17日 快晴 （5日高杉組独鈷村で火災・火元村預け・免許）
1746年　4月8日 延享3年　2月18日 曇　卯の刻より雨終日
1746年　4月9日 延享3年　2月19日 晴　昨夜中風吹く　時々小雪
1746年　4月10日 延享3年　2月20日 快晴 （11日油川組沖（27日の記述で沖館）・14日飯詰村の火元の村預け免許）
1746年　4月11日 延享3年　2月21日 快晴　酉の刻より雨少々
1746年　4月12日 延享3年　2月22日 陰晴　午の刻より少々丸雪　未の刻より雪 （昨夜9時過ぎ土手町で火災）
1746年　4月13日 延享3年　2月23日 曇　時々小雪
1746年　4月14日 延享3年　2月24日 快晴　風少々 （19日十三浜で破船）
1746年　4月15日 延享3年　2月25日 晴
1746年　4月16日 延享3年　2月26日 曇　時々小雨
1746年　4月17日 延享3年　2月27日 陰晴
1746年　4月18日 延享3年　2月28日 曇　雨雪終日に及ぶ
1746年　4月19日 延享3年　2月29日 快晴 （21日深浦に4尋余の鯨寄せる）
1746年　4月20日 延享3年　2月30日 快晴
1746年　4月21日 延享3年　3月1日 陰晴　風時々 （2月中出135人（碇関127人（御国者37他国者43御印紙33・御国者47切手紙23）・野内御国人8人切手紙3枚））
1746年　4月22日 延享3年　3月2日 曇　終日風雨 （一昨晦日昼田舎館組田舎館村で火災）
1746年　4月23日 延享3年　3月3日 陰晴　申の下刻より雨少々
1746年　4月24日 延享3年　3月4日 快晴　風少々 （先月28日十三湊で破船）
1746年　4月25日 延享3年　3月5日 快晴
1746年　4月26日 延享3年　3月6日 快晴　午の刻過ぎ雨風
1746年　4月27日 延享3年　3月7日 晴
1746年　4月28日 延享3年　3月8日 快晴
1746年　4月29日 延享3年　3月9日 快晴　昼風少々立つ
1746年　4月30日 延享3年　3月10日 曇　今酉の刻より時々雨 （昨8日夜藤代組出来嶋村で火災（2間×5間）・火元村預け）

1746年　5月1日 延享3年　3月11日 曇　時々雨
1746年　5月2日 延享3年　3月12日 快晴
1746年　5月3日 延享3年　3月13日 快晴　(今日10日昼金木組岩崎村?に野火入る)
1746年　5月4日 延享3年　3月14日 快晴
1746年　5月5日 延享3年　3月15日 曇　辰の下刻より雨　午の下刻より晴　風少々立つ　(8日出来嶋村の火元の村預け御免)
1746年　5月6日 延享3年　3月16日 快晴　(郡所物書き福眞林右衛門を巡検使(将軍交代(この場合は吉宗から9代家重)ごとに全国に派遣される)の宿の手配等で浅虫に派遣する)
1746年　5月7日 延享3年　3月17日 快晴　申の刻地震　(去月29日田舎館組高樋村で火災・火元村預け御免)
1746年　5月8日 延享3年　3月18日 快晴　風少し
1746年　5月9日 延享3年　3月19日 快晴　(10日十三濱で破船)
1746年　5月10日 延享3年　3月20日 曇　昨夜中雨　今朝に至る
1746年　5月11日 延享3年　3月21日 曇　終日雨　(18日昼過ぎ湯口山(駒越組相馬か)に野火)
1746年　5月12日 延享3年　3月22日 晴　時々小風
1746年　5月13日 延享3年　3月23日 晴
1746年　5月14日 延享3年　3月24日 快晴　戌の上刻地震　(郡所物書き(3両2分2人扶持)福眞林右衛門を三新田物書き(勤料として1両)に昇格)
1746年　5月15日 延享3年　3月25日 陰晴
1746年　5月16日 延享3年　3月26日 晴　時々小雨　(先月中大間越:出入り合45人・同野内:出入り合136人・同碇関:308人)
1746年　5月17日 延享3年　3月27日 快晴
1746年　5月18日 延享3年　3月28日 陰晴　辰の中刻より雨少々　巳の刻晴　(赤石組追良瀬村で塩釜小屋焼失、25日深浦町森山浜で山役人が海に入り死亡)
1746年　5月19日 延享3年　3月29日 晴　申の下刻より酉の刻まで小雨
1746年　5月20日 延享3年　4月1日 晴　朝の内霞　(3月中出428人(碇関421人(他国者70御印紙51・御国人351切手紙114)・野内御国人3人切手紙1・大間越御国人4人切手紙3))
1746年　5月21日 延享3年　4月2日 晴　昨夜雨　夜に及ぶ
1746年　5月22日 延享3年　4月3日 快晴
1746年　5月23日 延享3年　4月4日 陰晴　(去月23日後潟組後潟村で火災・火元他村預け・御免)
1746年　5月24日 延享3年　4月5日 晴
1746年　5月25日 延享3年　4月6日 晴
1746年　5月26日 延享3年　4月7日 快晴
1746年　5月27日 延享3年　4月8日 陰晴
1746年　5月28日 延享3年　4月9日 陰晴　朝の内小雨
1746年　5月29日 延享3年　4月10日 快晴　(4日金木新田八幡村で火災・?・免許)
1746年　5月30日 延享3年　4月11日 晴　子の刻より雨
1746年　5月31日 延享3年　4月12日 曇　昨夜中より雨
1746年　6月1日 延享3年　4月13日 快晴
1746年　6月2日 延享3年　4月14日 快晴　朝の内曇
1746年　6月3日 延享3年　4月15日 曇　辰の刻雨　巳の刻晴　(5日堀越組小栗山・同境関村で火災・火元村預け・免許)
1746年　6月4日 延享3年　4月16日 快晴
1746年　6月5日 延享3年　4月17日 快晴　(藤崎組藤崎村に者(22日の記録で男)縊死、先月中大間越:出入人合62人・同野内:222人・同碇関645人)
1746年　6月6日 延享3年　4月18日 曇
1746年　6月7日 延享3年　4月19日 曇　小雨時々風
1746年　6月8日 延享3年　4月20日 快晴　(朽ち米3俵入札:22匁5分)
1746年　6月9日 延享3年　4月21日 曇　午の刻より晴
1746年　6月10日 延享3年　4月22日 快晴　(17日後潟組郷沢村で火災・火元村預け・免許、14日板屋野木村で男行方不明・藤崎村の縊死者と判明)
1746年　6月11日 延享3年　4月23日 快晴　(昨22日夜御手廻り組頭拝借長屋の物置焼失)
1746年　6月12日 延享3年　4月24日 陰晴　(昨23日御城代津軽将曹病死)
1746年　6月13日 延享3年　4月25日 陰晴　午の刻雷二・三度　雨暫く　あられ(雨かんむりに丸:こんな文字はないが意訳)交降る　未の刻晴れる
1746年　6月14日 延享3年　4月26日 陰晴　巳の下刻雨
1746年　6月15日 延享3年　4月27日 陰晴　午の上刻小雨
1746年　6月16日 延享3年　4月28日 快晴
1746年　6月17日 延享3年　4月29日 曇　昨夜より時々小雨　午の刻晴
1746年　6月18日 延享3年　4月30日 晴
1746年　6月19日 延享3年　5月1日 快晴
1746年　6月20日 延享3年　5月2日 快晴
1746年　6月21日 延享3年　5月3日 快晴
1746年　6月22日 延享3年　5月4日 快晴
1746年　6月23日 延享3年　5月5日 快晴　酉の下刻少し雨
1746年　6月24日 延享3年　5月6日 陰晴　申の中刻小雨
1746年　6月25日 延享3年　5月7日 快晴
1746年　6月26日 延享3年　5月8日 快晴　(相馬村湯口山で山火事)
1746年　6月27日 延享3年　5月9日 快晴　(湯口山の火事は60間×30間)
1746年　6月28日 延享3年　5月10日 曇　時々小雨
1746年　6月29日 延享3年　5月11日 陰晴　(?月中野内:御印紙表171人・御切手紙の表40人・入り切手の表154人)
1746年　6月30日 延享3年　5月12日 快晴　(大光寺組袋村で1軒3人走る)

1746年　7月1日 延享3年　5月13日 快晴
1746年　7月2日 延享3年　5月14日 陰晴
1746年　7月3日 延享3年　5月15日 晴 （当4月中碇関:出御印紙167人切手紙103人外に4人・入り152人・出入り人数合426人）
1746年　7月4日 延享3年　5月16日 陰晴
1746年　7月5日 延享3年　5月17日 快晴 （大手前江罷り出るはず……、本年の稲の植付4月18日より5月14日まで）
1746年　7月6日 延享3年　5月18日 快晴 風少々 （山上双築?江戸詰より到着）
1746年　7月7日 延享3年　5月19日 陰晴
1746年　7月8日 延享3年　5月20日 陰晴 雨少々 午の下刻雷発す （4月中出247人（碇関244人（他国者170人御印紙97・御国人74人切手紙50）・野内御国人2人切手紙1・大間越御国人1人切手紙1））
1746年　7月9日 延享3年　5月21日 曇 卯の刻より雨終日
1746年　7月10日 延享3年　5月22日 曇 （御巡検使御着）
1746年　7月11日 延享3年　5月23日 快晴 朝の内霜 （御巡検使弘前御出足）
1746年　7月12日 延享3年　5月24日 快晴
1746年　7月13日 延享3年　5月25日 曇
1746年　7月14日 延享3年　5月26日 快晴
1746年　7月15日 延享3年　5月27日 曇 朝の内雨 巳の刻より晴 （天子に欠字?）
1746年　7月16日 延享3年　5月28日 快晴 （23日佐々木玄端?の子が鯵ヶ沢で川にはまり水死）
1746年　7月17日 延享3年　5月29日 快晴
1746年　7月18日 延享3年　6月1日 快晴 未の刻過ぎ雷発す （5月中出118人（碇関108人（他国者54人御印紙41・御国人54人切手紙31）・野内他国者2人御印紙1・大間越他国者8人御印紙3））
1746年　7月19日 延享3年　6月2日 快晴 申の五刻より土用に入る 午の下刻より雷発す 曇 小雨
1746年　7月20日 延享3年　6月3日 陰晴 辰の下刻より雨 午の中刻より大雨 雷暫く発す
1746年　7月21日 延享3年　6月4日 快晴 未の下刻雷少々発す （駒越組田代村に50男倒死）
1746年　7月22日 延享3年　6月5日 快晴
1746年　7月23日 延享3年　6月6日 快晴
1746年　7月24日 延享3年　6月7日 快晴 大暑
1746年　7月25日 延享3年　6月8日 快晴 朝の内曇
1746年　7月26日 延享3年　6月9日 快晴
1746年　7月27日 延享3年　6月10日 快晴
1746年　7月28日 延享3年　6月11日 快晴
1746年　7月29日 延享3年　6月12日 快晴 （当年は雨降りも御座なく渇水……、昨日（飯詰組）小田川山に山火事、先月中野内:出入り人数333人・同大間越:出入り人数合60人・同碇関:出入り人数434人）
1746年　7月30日 延享3年　6月13日 快晴
1746年　7月31日 延享3年　6月14日 快晴 （大円寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1746年　8月1日 延享3年　6月15日 快晴
1746年　8月2日 延享3年　6月16日 快晴 午の中刻より雨 （米値段1俵27匁5分位・南部米値段金1歩に1斗4・5升）
1746年　8月3日 延享3年　6月17日 陰晴 午の下刻より雨 （後潟組奥内山で14日山火事（100間×50間））
1746年　8月4日 延享3年　6月18日 陰晴 午の下刻より小雨 夜中雨折々
1746年　8月5日 延享3年　6月19日 曇 終日雨 夜に入る
1746年　8月6日 延享3年　6月20日 晴 夜中雨
1746年　8月7日 延享3年　6月21日 曇 終日雨 （19日夜中青森で大風・破船1艘死亡1人）
1746年　8月8日 延享3年　6月22日 陰晴
1746年　8月9日 延享3年　6月23日 快晴
1746年　8月10日 延享3年　6月24日 陰晴
1746年　8月11日 延享3年　6月25日 快晴
1746年　8月12日 延享3年　6月26日 快晴
1746年　8月13日 延享3年　6月27日 快晴
1746年　8月14日 延享3年　6月28日 快晴
1746年　8月15日 延享3年　6月29日 陰晴 辰の下刻より小雨時々
1746年　8月16日 延享3年　6月30日 快晴
1746年　8月17日 延享3年　7月1日 快晴 （山上双築御側坊主?）
1746年　8月18日 延享3年　7月2日 陰晴 （今25日夜油川組沖館村で火災・火元村預け・差許）
1746年　8月19日 延享3年　7月3日 快晴 残暑甚
1746年　8月20日 延享3年　7月4日 快晴 残暑甚 午の下刻大雨 終日に及ぶ
1746年　8月21日 延享3年　7月5日 晴 朝の内小雨
1746年　8月22日 延享3年　7月6日 快晴
1746年　8月23日 延享3年　7月7日 快晴 申の下刻雷 （3日横内組宮崎村で火災（3間×6間:百姓・2間半×4間:高無・外馬屋2間×2間）・火元他村預け、大鰐村加賀助・大坊村清次郎より初米上る）
1746年　8月24日 延享3年　7月8日 陰晴 （3日後潟組内真部村で火災・火元村預け・免許）
1746年　8月25日 延享3年　7月9日 陰晴 午の刻小雨
1746年　8月26日 延享3年　7月10日 快晴
1746年　8月27日 延享3年　7月11日 陰晴 午の刻小雨
1746年　8月28日 延享3年　7月12日 曇 終日雨
1746年　8月29日 延享3年　7月13日 快晴
1746年　8月30日 延享3年　7月14日 快晴
1746年　8月31日 延享3年　7月15日 陰晴 朝の内小雨

1746年　9月1日 延享3年　7月16日 快晴
1746年　9月2日 延享3年　7月17日 快晴 (6月中碇関:出入り人数合479人・同大間越:出入り人数合29人・同野内:出入り人数合346人)
1746年　9月3日 延享3年　7月18日 快晴
1746年　9月4日 延享3年　7月19日 陰晴
1746年　9月5日 延享3年　7月20日 曇　辰の刻雨　午の刻雷
1746年　9月6日 延享3年　7月21日 快晴
1746年　9月7日 延享3年　7月22日 曇　終日雨
1746年　9月8日 延享3年　7月23日 曇　昨夜中雨今朝迄 (紺屋町で男縊死)
1746年　9月9日 延享3年　7月24日 曇　時々雨　夜中大雨
1746年　9月10日 延享3年　7月25日 晴
1746年　9月11日 延享3年　7月26日 陰晴　東風終日
1746年　9月12日 延享3年　7月27日 曇
1746年　9月13日 延享3年　7月28日 曇
1746年　9月14日 延享3年　7月29日 陰晴
1746年　9月15日 延享3年　8月1日 晴
1746年　9月16日 延享3年　8月2日 陰晴
1746年　9月17日 延享3年　8月3日 快晴
1746年　9月18日 延享3年　8月4日 快晴
1746年　9月19日 延享3年　8月5日 陰晴　夜中雨
1746年　9月20日 延享3年　8月6日 曇　巳の刻より晴　夜に入り雨
1746年　9月21日 延享3年　8月7日 晴
1746年　9月22日 延享3年　8月8日 快晴
1746年　9月23日 延享3年　8月9日 快晴　彼岸入り
1746年　9月24日 延享3年　8月10日 快晴　朝の内少々雨 (7月中出200人(碇関195人(御国人25他国者95御印紙57・御国者75切手紙25)・野内御国者1人切手紙1・大間越他国者5人御印紙3)、8日藤崎組藤崎村に10歳女子倒死)
1746年　9月25日 延享3年　8月11日 曇　時々雨
1746年　9月26日 延享3年　8月12日 快晴
1746年　9月27日 延享3年　8月13日 快晴
1746年　9月28日 延享3年　8月14日 陰晴　昨夜中より時々少し雨　夜に入り小雨
1746年　9月29日 延享3年　8月15日 快晴
1746年　9月30日 延享3年　8月16日 快晴　夜に入り雨
1746年　10月1日 延享3年　8月17日 曇　雨時々
1746年　10月2日 延享3年　8月18日 曇　時々小雨
1746年　10月3日 延享3年　8月19日 陰晴　巳の刻過ぎ雨
1746年　10月4日 延享3年　8月20日 快晴
1746年　10月5日 延享3年　8月21日 陰晴
1746年　10月6日 延享3年　8月22日 快晴 (7月中大間越:出34人御印紙27切手紙7・入り30・都合64人、同野内:出35!・入り243・都合368人・同碇関:出188・入り278・出入り466人)
1746年　10月7日 延享3年　8月23日 曇　終日雨
1746年　10月8日 延享3年　8月24日 快晴 (雨天打ち続く・嵩湯治停止)
1746年　10月9日 延享3年　8月25日 曇　風終日時々　昨夜中風雨強し
1746年 10月10日 延享3年　8月26日 快晴
1746年 10月11日 延享3年　8月27日 曇　酉の刻より雨
1746年 10月12日 延享3年　8月28日 快晴 (24日夜より25日朝まで赤石・駒越組で大風雨・被害あり再検見を代官が申し立てる)
1746年 10月13日 延享3年　8月29日 快晴
1746年 10月14日 延享3年　8月30日 快晴 (26日親方町に3・4歳女子捨子)
1746年 10月15日 延享3年　9月1日 晴　終日冷気　岩木山に雪少々見える (8月中出166人(碇関150人(御国人13他国者91御印紙66・御国者46切手紙23)・野内16人(他国者12御印紙8・御国人4切手紙3)))
1746年 10月16日 延享3年　9月2日 快晴　大霜
1746年 10月17日 延享3年　9月3日 快晴　今朝大霜
1746年 10月18日 延享3年　9月4日 曇　小雨時々降る　終日に及ぶ
1746年 10月19日 延享3年　9月5日 快晴　大霜
1746年 10月20日 延享3年　9月6日 曇　申の刻雷　夜に入り小雨
1746年 10月21日 延享3年　9月7日 曇　大霜　夜中雨
1746年 10月22日 延享3年　9月8日 曇　朝の内小雨
1746年 10月23日 延享3年　9月9日 晴　大霜
1746年 10月24日 延享3年　9月10日 曇
1746年 10月25日 延享3年　9月11日 晴　辰の下刻小雨(大坂御回米33485石2斗9升8合・この代金35212両2歩、但し2俵53匁・両替63文目)
1746年 10月26日 延享3年　9月12日 快晴
1746年 10月27日 延享3年　9月13日 曇
1746年 10月28日 延享3年　9月14日 快晴
1746年 10月29日 延享3年　9月15日 晴
1746年 10月30日 延享3年　9月16日 快晴　戌の上刻より雨暫く
1746年 10月31日 延享3年　9月17日 快晴 (御城付一番組足軽20俵2人扶持新岡弥三兵衛病身・倅弥太右衛門を新規召抱え、8月中大間越:出入28人・同碇関:出入356人・同野内:出入212人)

1746年　11月1日 延享3年　　9月18日 曇
1746年　11月2日 延享3年　　9月19日 曇　時々小雨
1746年　11月3日 延享3年　　9月20日 晴
1746年　11月4日 延享3年　　9月21日 曇　時々雨　夜に及ぶ
1746年　11月5日 延享3年　　9月22日 晴　夜に入り雨　(去月24日青森で大風・御仮屋廻り所々破損)
1746年　11月6日 延享3年　　9月23日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　午の下刻より晴天
1746年　11月7日 延享3年　　9月24日　　(日記が存在しない)
1746年　11月8日 延享3年　　9月25日 陰晴　朝の内曇　それより晴
1746年　11月9日 延享3年　　9月26日 曇　時々雨
1746年 11月10日 延享3年　　9月27日 快晴
1746年 11月11日 延享3年　　9月28日 曇　午の刻より少々雨
1746年 11月12日 延享3年　　9月29日 曇　時々雨　夜中に及ぶ(夜中二をよふ)
1746年 11月13日 延享3年　　10月1日 曇　卯の下刻より小雪時々　夜に入る　(9月中出232人(碇関228人(御国人80他国者89御印紙61・御国人59切手紙28)・大間越御国人4人切手紙2))
1746年 11月14日 延享3年　　10月2日 晴　夜中雪
1746年 11月15日 延享3年　　10月3日 晴
1746年 11月16日 延享3年　　10月4日 陰晴　午の下刻雪降り　(赤石組代官が1600石の銭納申し出で・1000石を(1俵)24匁で申付ける)
1746年 11月17日 延享3年　　10月5日 晴
1746年 11月18日 延享3年　　10月6日 晴　夜中小雪　(先月28日夜中大風・鰺ヶ沢で破船死亡4人)
1746年 11月19日 延享3年　　10月7日 曇　小雪時々
1746年 11月20日 延享3年　　10月8日 陰晴
1746年 11月21日 延享3年　　10月9日 晴　今朝霜少々
1746年 11月22日 延享3年　　10月10日 曇　時々小雨　夜中雪少々
1746年 11月23日 延享3年　　10月11日 曇　時々雪
1746年 11月24日 延享3年　　10月12日 快晴　夜中雪少し
1746年 11月25日 延享3年　　10月13日 晴
1746年 11月26日 延享3年　　10月14日 陰晴
1746年 11月27日 延享3年　　10月15日 晴　今朝大雪
1746年 11月28日 延享3年　　10月16日 曇　時々雪
1746年 11月29日 延享3年　　10月17日 曇
1746年 11月30日 延享3年　　10月18日 快晴　(10日金木組小田川村で50女変死・同居者行方不明)
1746年　12月1日 延享3年　　10月19日 快晴　夜中雨
1746年　12月2日 延享3年　　10月20日 曇　終日風雪
1746年　12月3日 延享3年　　10月21日 晴
1746年　12月4日 延享3年　　10月22日 快晴
1746年　12月5日 延享3年　　10月23日 晴
1746年　12月6日 延享3年　　10月24日 曇　時々雨
1746年　12月7日 延享3年　　10月25日 晴
1746年　12月8日 延享3年　　10月26日 曇　時々雪
1746年　12月9日 延享3年　　10月27日 曇　時々雪
1746年 12月10日 延享3年　　10月28日 陰晴　午の刻小雪
1746年 12月11日 延享3年　　10月29日 晴　(9月中大間越:出72(御印紙45切手紙27)・入り24・合96人、同碇関:出174(御印紙88切手紙86)・入り137・合311人、同野内:出96(御印紙69切手紙27)・入り151・都合247人)
1746年 12月12日 延享3年　　11月1日 晴　午の刻小雨　(10月中出103人(碇関98人(他国者86御印紙64・御国人12切手紙8)・大間越他国者5人御印紙3))
1746年 12月13日 延享3年　　11月2日 快晴
1746年 12月14日 延享3年　　11月3日 快晴
1746年 12月15日 延享3年　　11月4日 曇　巳の刻より小雨　終日に及ぶ
1746年 12月16日 延享3年　　11月5日 陰晴
1746年 12月17日 延享3年　　11月6日 曇　終日雪
1746年 12月18日 延享3年　　11月7日 陰晴　辰の刻雪降り　それより時々雪　(広須組強巻村で50男坊主縊死)
1746年 12月19日 延享3年　　11月8日 晴
1746年 12月20日 延享3年　　11月9日 晴　時々雪　夜中大雪
1746年 12月21日 延享3年　　11月10日 晴　朝の内小雪
1746年 12月22日 延享3年　　11月11日 晴　夜中雪少々
1746年 12月23日 延享3年　　11月12日 曇
1746年 12月24日 延享3年　　11月13日 快晴
1746年 12月25日 延享3年　　11月14日 快晴
1746年 12月26日 延享3年　　11月15日 曇　時々雪
1746年 12月27日 延享3年　　11月16日 快晴　夜に入り雪　雷発す
1746年 12月28日 延享3年　　11月17日 曇　雪時々　夜中雪時々
1746年 12月29日 延享3年　　11月18日 陰晴　今朝雪少し　早(申のつもりか)の刻より雪吹く
1746年 12月30日 延享3年　　11月19日 晴　夜中雪
1746年 12月31日 延享3年　　11月20日 曇　時々雪

1747年　1月1日 延享3年　11月21日 晴　夜中雪時々
1747年　1月2日 延享3年　11月22日 曇　時々雪
1747年　1月3日 延享3年　11月23日 曇　時々雪
1747年　1月4日 延享3年　11月24日 曇　時々雪
1747年　1月5日 延享3年　11月25日 晴　翌寅の初刻寒入
1747年　1月6日 延享3年　11月26日 曇　寒気甚敷
1747年　1月7日 延享3年　11月27日 陰晴　(昨24日三新田宮川村で火災(3間×6間)・火元村預け)
1747年　1月8日 延享3年　11月28日 曇　時々雪
1747年　1月9日 延享3年　11月29日 陰晴
1747年　1月10日 延享3年　11月30日 曇　時々雪　(11月中出78人(碇関72人(他国者59御印紙40・御国人13切手紙8)・野内6人(他国者2御印紙2・御国人4切手紙2))、三新田松岡村で火災(3間×6間:百姓)・火元村預け)
1747年　1月11日 延享3年　12月1日 晴　申の下刻より夜中小雪　(10月分碇関:入り118・出入り人数合240人、同大間越:入り17・出入り人数合89人、同野内:入り248・出入り人数合374人、去月24日宮川村の火元の村預け免許)
1747年　1月12日 延享3年　12月2日 曇　時々雪
1747年　1月13日 延享3年　12月3日 晴　朝の内少々雪
1747年　1月14日 延享3年　12月4日 晴　(去月28日松岡村の火元の村預け免許)
1747年　1月15日 延享3年　12月5日 快晴
1747年　1月16日 延享3年　12月6日 曇　巳の刻過ぎより雨　申の刻過ぎより雪
1747年　1月17日 延享3年　12月7日 曇　朝の内雪　夜中雪
1747年　1月18日 延享3年　12月8日 陰晴　今朝雪少々　(先月24日高倉喜市郎の妹19歳出奔)
1747年　1月19日 延享3年　12月9日 快晴　朝の内雪少々　(青森御蔵米2500俵を沖役入り1俵26匁両替79匁3分で売る)
1747年　1月20日 延享3年　12月10日 晴
1747年　1月21日 延享3年　12月11日 晴
1747年　1月22日 延享3年　12月12日 陰晴　巳の刻より小雨　申の下刻より晴
1747年　1月23日 延享3年　12月13日 快晴
1747年　1月24日 延享3年　12月14日 晴
1747年　1月25日 延享3年　12月15日 曇　雪時々　夜中少々雪　(三新田物書福眞林右衛門等に御巡検使御用出精の御褒美200疋)
1747年　1月26日 延享3年　12月16日 今朝雪　時々雪
1747年　1月27日 延享3年　12月17日 陰晴　(三新田細沼村で百姓が切り殺される)
1747年　1月28日 延享3年　12月18日 晴(晴と思われるが目偏である)
1747年　1月29日 延享3年　12月19日 晴　朝の内小雪　夜中雪
1747年　1月30日 延享3年　12月20日 快晴
1747年　1月31日 延享3年　12月21日 快晴　申の刻前より大雪
1747年　2月1日 延享3年　12月22日 陰晴　(先月中碇関:出入り人数合279人、同野内:出入り人数合174人、同大間越:75人)
1747年　2月2日 延享3年　12月23日 曇　時々雪
1747年　2月3日 延享3年　12月24日 晴　時々雪
1747年　2月4日 延享3年　12月25日 晴
1747年　2月5日 延享3年　12月26日 晴　甚寒
1747年　2月6日 延享3年　12月27日 陰晴　吹雪
1747年　2月7日 延享3年　12月28日 陰晴
1747年　2月8日 延享3年　12月29日 快晴
1747年　2月9日 延享3年　12月30日 快晴　(12月中出86人(碇関86人(他国者73御印紙54・御国人13切手紙8)))
1747年　2月10日 延享4年　正月1日　晴
1747年　2月11日 延享4年　正月2日　快晴
1747年　2月12日 延享4年　正月3日　快晴　夜中雪
1747年　2月13日 延享4年　正月4日　陰晴　吹雪
1747年　2月14日 延享4年　正月5日　快晴
1747年　2月15日 延享4年　正月6日　快晴
1747年　2月16日 延享4年　正月7日　快晴
1747年　2月17日 延享4年　正月8日　快晴　夜のうち雨
1747年　2月18日 延享4年　正月9日　曇　朝の内雪
1747年　2月19日 延享4年　正月10日　晴
1747年　2月20日 延享4年　正月11日　晴　(和徳組高崎村に者倒死)
1747年　2月21日 延享4年　正月12日　快晴　夜に入り雨
1747年　2月22日 延享4年　正月13日　晴　朝の内小雨
1747年　2月23日 延享4年　正月14日　曇　終日雨
1747年　2月24日 延享4年　正月15日　晴
1747年　2月25日 延享4年　正月16日　晴
1747年　2月26日 延享4年　正月17日　晴
1747年　2月27日 延享4年　正月18日　晴
1747年　2月28日 延享4年　正月19日　晴　未の中刻小雨

1747年　3月1日 延享4年 正月20日　陰晴　卯の下刻より雨　終日に及ぶ （去暮金木組薄市村で者吹き倒れ死）
1747年　3月2日 延享4年 正月21日　陰晴
1747年　3月3日 延享4年 正月22日　陰晴　辰の下刻小雪暫く （12月中碇関：出103（御印紙79切手紙23他に御指図で1人）・入り99・出入り人数合202人、同野内：出68・出入り都合106人、同大間越：出7・入り13・都合20人）
1747年　3月4日 延享4年 正月23日　陰晴
1747年　3月5日 延享4年 正月24日　快晴
1747年　3月6日 延享4年 正月25日　陰晴　時々小雪
1747年　3月7日 延享4年 正月26日　陰晴
1747年　3月8日 延享4年 正月27日　陰晴　夜中雪少々
1747年　3月9日 延享4年 正月28日　曇　時々雪
1747年　3月10日 延享4年 正月29日　陰晴　時々小雪
1747年　3月11日 延享4年　2月1日 曇　朝の内小雨　昼時々雪 （正月中出碇関138人（御国人39他国者4：このように書いてある））
1747年　3月12日 延享4年　2月2日 陰晴　夜に入り風吹く
1747年　3月13日 延享4年　2月3日 曇　午の下刻より小雨
1747年　3月14日 延享4年　2月4日 陰晴
1747年　3月15日 延享4年　2月5日 快晴
1747年　3月16日 延享4年　2月6日 晴　時々風吹く
1747年　3月17日 延享4年　2月7日 曇　今朝小雨　それより晴 （4日朝までに十三潟氷明ける・一昨年3月2日と12月15日今年は2月4日潟明）
1747年　3月18日 延享4年　2月8日 陰晴　夜中雪少々
1747年　3月19日 延享4年　2月9日 曇
1747年　3月20日 延享4年　2月10日 曇　小雪時々 （8日後潟組清水村で火災）
1747年　3月21日 延享4年　2月11日 曇　時々雪
1747年　3月22日 延享4年　2月12日 晴　戌の刻より雪　夜中少々 （8日清水村の火災（3間×4間と8間×4間：給地百姓）馬4疋種籾等焼失・火元押籠呵置く）
1747年　3月23日 延享4年　2月13日 曇　時々雪 （茂森新町で男自害）
1747年　3月24日 延享4年　2月14日 曇　時々雪
1747年　3月25日 延享4年　2月15日 陰晴　巳の下刻より雪 （11日三新田蓮川村で火災（2間半×3間：借地）・火元村預け）
1747年　3月26日 延享4年　2月16日 陰晴
1747年　3月27日 延享4年　2月17日 快晴
1747年　3月28日 延享4年　2月18日 陰晴
1747年　3月29日 延享4年　2月19日 曇　時々小雨
1747年　3月30日 延享4年　2月20日 曇　時々雨　夜中少々 （8日清水村の火元の押込め叱置き・11日蓮川村の火元の村預け免許）
1747年　3月31日 延享4年　2月21日 晴
1747年　4月1日 延享4年　2月22日 陰晴　夜中雪少々
1747年　4月2日 延享4年　2月23日 陰晴　小雪時々
1747年　4月3日 延享4年　2月24日 晴
1747年　4月4日 延享4年　2月25日 曇　午の刻過ぎより小雨
1747年　4月5日 延享4年　2月26日 曇　時々雪　夜に及ぶ
1747年　4月6日 延享4年　2月27日 曇　夜中より雪時々
1747年　4月7日 延享4年　2月28日 陰晴　夜中雨
1747年　4月8日 延享4年　2月29日 晴
1747年　4月9日 延享4年　2月30日 晴
1747年　4月10日 延享4年　3月1日 曇　巳の下刻より小雨　午の中刻雷暫く発す　寅の刻より小雪 （2月中出94人（碇関90人（他国者46人御印紙39・御国人44人切手紙28）・野内御国人4人切手紙1））
1747年　4月11日 延享4年　3月2日 陰晴
1747年　4月12日 延享4年　3月3日 快晴 （山上双築姉高屋彦太郎方江）
1747年　4月13日 延享4年　3月4日 曇　時々小雨　終日に及ぶ
1747年　4月14日 延享4年　3月5日 晴
1747年　4月15日 延享4年　3月6日 陰晴　辰の刻より小雨
1747年　4月16日 延享4年　3月7日 快晴
1747年　4月17日 延享4年　3月8日 曇　時々小雨
1747年　4月18日 延享4年　3月9日 曇　夜中雪　巳の刻過ぎまで
1747年　4月19日 延享4年　3月10日 陰晴
1747年　4月20日 延享4年　3月11日 陰晴
1747年　4月21日 延享4年　3月12日 陰晴　辰の刻より小雨　巳の刻より晴
1747年　4月22日 延享4年　3月13日 晴　夜に入り小雨
1747年　4月23日 延享4年　3月14日 曇　巳の中刻より雨　午の上刻晴
1747年　4月24日 延享4年　3月15日 快晴
1747年　4月25日 延享4年　3月16日 陰晴　辰の下刻小雨 （14日駒越組大秋村で火災2軒（1間半×2間が2：共に借家）・火元他村預け、泉光院裏に50男倒死、6日増館組増館村に50男倒死）
1747年　4月26日 延享4年　3月17日 快晴
1747年　4月27日 延享4年　3月18日 晴　夜に入り風雨
1747年　4月28日 延享4年　3月19日 晴　夜中より時々風雨
1747年　4月29日 延享4年　3月20日 快晴
1747年　4月30日 延享4年　3月21日 快晴

1747年　5月1日 延享4年　3月22日 快晴
1747年　5月2日 延享4年　3月23日 快晴 （22日夜九時頃青森下鍛冶町より出火・5町94軒と借家41軒焼失）
1747年　5月3日 延享4年　3月24日 曇 朝の内小雨 巳の下刻より晴 （藤崎組藤崎村で川船より道心が入水死亡）
1747年　5月4日 延享4年　3月25日 快晴 少々風
1747年　5月5日 延享4年　3月26日 快晴
1747年　5月6日 延享4年　3月27日 曇 午の上刻少々雨 （17日後潟組長科村で火災・類焼あり火元他村預け・免許）
1747年　5月7日 延享4年　3月28日 曇 時々雨 夜に及ぶ
1747年　5月8日 延享4年　3月29日 晴 朝の内小雨 風少々 （11日赤石組赤石村沖で破船1艘1人死亡）
1747年　5月9日 延享4年　4月1日 陰晴 朝の内小雨 （2月中碇関：入り358・出入り人数合465人、同野内：出入り都合137人、同大間越：出入り都合61人、去28日大荒れ・鰺ヶ沢で破船死者あり）
1747年　5月10日 延享4年　4月2日 曇 卯の刻より小雨時々 （多分鰺ヶ沢で大阪御廻船の内魚崎善吉船が28日破船・12人死亡、他に3艘破船）
1747年　5月11日 延享4年　4月3日 曇
1747年　5月12日 延享4年　4月4日 快晴
1747年　5月13日 延享4年　4月5日 陰晴
1747年　5月14日 延享4年　4月6日 曇（日偏に雲） 辰の中刻より雨 巳の下刻晴
1747年　5月15日 延享4年　4月7日 陰晴　下から続く　弥太右衛門が病気・弟兼次郎20歳に）
1747年　5月16日 延享4年　4月8日 晴 （3月中出197人（碇関183人（他国者49御国人40御印紙43・御国人94切手紙54）・野内14人（他国者5御印紙2・御国人9切手紙5））、御城付一番組足軽20俵2人扶持新岡　上に続く
1747年　5月17日 延享4年　4月9日 曇 昼九時小雨 夜中少し雨 （青森町の22日の類焼70軒に御手当として150俵、5日金木組中里村で外馬屋焼失）
1747年　5月18日 延享4年　4月10日 快晴
1747年　5月19日 延享4年　4月11日 快晴 （10日昼八時大鰐組大鰐村で火災（3間×4間：高無）など8軒焼失・火元他村預け）
1747年　5月20日 延享4年　4月12日 快晴 （5日夜中里村の火元の村預け免許）
1747年　5月21日 延享4年　4月13日 陰晴 戌の下刻より雨時々
1747年　5月22日 延享4年　4月14日 曇
1747年　5月23日 延享4年　4月15日 曇
1747年　5月24日 延享4年　4月16日 快晴 （先だって五山で御祈祷・まだ寒・五穀成就の御祈祷を四社に仰せ付ける）
1747年　5月25日 延享4年　4月17日 快晴
1747年　5月26日 延享4年　4月18日 快晴
1747年　5月27日 延享4年　4月19日 快晴
1747年　5月28日 延享4年　4月20日 快晴
1747年　5月29日 延享4年　4月21日 快晴
1747年　5月30日 延享4年　4月22日 快晴
1747年　5月31日 延享4年　4月23日 快晴 戌の下刻より夜中雨
1747年　6月1日 延享4年　4月24日 曇 辰の下刻より雨
1747年　6月2日 延享4年　4月25日 晴 朝の内曇
1747年　6月3日 延享4年　4月26日 快晴 （昨年10月10日の小田川村の殺人者4人獄門）
1747年　6月4日 延享4年　4月27日 快晴
1747年　6月5日 延享4年　4月28日 快晴
1747年　6月6日 延享4年　4月29日 快晴 （米金仮値段1俵18匁・金1両78文目、3月中大間越：出9・入り26・出入り合35人、同碇関：出188・入り110・出入り合298、同野内：出111・入り91・出入り合202人）
1747年　6月7日 延享4年　4月30日 晴
1747年　6月8日 延享4年　5月1日 曇　下から続く　深浦で加賀の船頭病死）
1747年　6月9日 延享4年　5月2日 陰晴 （4月中出916人（碇関902人（御国人57他国者345御印紙67・御国人500切手紙162）・野内他国者3人御印紙2・大間越他国者1人御印紙1・平館湊他国者1人御印紙1、　上に続く
1747年　6月10日 延享4年　5月3日 快晴
1747年　6月11日 延享4年　5月4日 快晴
1747年　6月12日 延享4年　5月5日 快晴
1747年　6月13日 延享4年　5月6日 快晴
1747年　6月14日 延享4年　5月7日 曇 朝の内小雨
1747年　6月15日 延享4年　5月8日 快晴
1747年　6月16日 延享4年　5月9日 曇 午の刻より雨 丑の下刻より晴
1747年　6月17日 延享4年　5月10日 晴
1747年　6月18日 延享4年　5月11日 快晴
1747年　6月19日 延享4年　5月12日 快晴
1747年　6月20日 延享4年　5月13日 晴 午の刻より小雨 雷発す
1747年　6月21日 延享4年　5月14日 快晴
1747年　6月22日 延享4年　5月15日 快晴 （新田物書福眞林右衛門を郡所小頭に・今までの勤料のほかに1両2歩勤料増）
1747年　6月23日 延享4年　5月16日 快晴 （大鰐組碇関村に40男倒死）
1747年　6月24日 延享4年　5月17日 曇
1747年　6月25日 延享4年　5月18日 曇 午の刻より小雨
1747年　6月26日 延享4年　5月19日 晴 夜に入り雨
1747年　6月27日 延享4年　5月20日 陰晴 巳の刻前少し雨
1747年　6月28日 延享4年　5月21日 快晴
1747年　6月29日 延享4年　5月22日 快晴
1747年　6月30日 延享4年　5月23日 快晴 （15日今泉山で殺人・犯人入牢）

1747年　7月1日 延享4年　5月24日 快晴 （先月中大間越:出入り人数合39人、同碇関:出入り人数合1196人、同野内:出入り人数合423人）
1747年　7月2日 延享4年　5月25日 快晴　未の下刻より雨降　夜に及ぶ
1747年　7月3日 延享4年　5月26日 曇　昨夜中より雨　辰の下刻晴
1747年　7月4日 延享4年　5月27日 快晴 （諸手六番組並足軽山上源次郎江戸より下着、蟹田町同心警固捨身?）
1747年　7月5日 延享4年　5月28日 快晴
1747年　7月6日 延享4年　5月29日 快晴 （今27日昼平館村で大火・平館湊御番所など20軒余焼失）
1747年　7月7日 延享4年　5月30日 陰晴　時々小雨
1747年　7月8日 延享4年　6月1日 曇　夜中雨少々
1747年　7月9日 延享4年　6月2日 晴 （3月12日(22日か)夜青森鍛冶町の火元の寺落赦免）
1747年　7月10日 延享4年　6月3日 曇　巳の下刻より雨
1747年　7月11日 延享4年　6月4日 曇
1747年　7月12日 延享4年　6月5日 快晴
1747年　7月13日 延享4年　6月6日 快晴
1747年　7月14日 延享4年　6月7日 曇　午の上刻小雨時々　夜に及ぶ
1747年　7月15日 延享4年　6月8日 曇　昨夜より雨時々
1747年　7月16日 延享4年　6月9日 快晴
1747年　7月17日 延享4年　6月10日 快晴　申の下刻雨　終夜
1747年　7月18日 延享4年　6月11日 陰晴　昨夜より雨　巳の刻より晴
1747年　7月19日 延享4年　6月12日 陰晴　亥の下刻より土用 （大円寺に五穀成就・天気揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1747年　7月20日 延享4年　6月13日 陰晴
1747年　7月21日 延享4年　6月14日 快晴　夜中雨
1747年　7月22日 延享4年　6月15日 晴　朝の内雨
1747年　7月23日 延享4年　6月16日 陰晴
1747年　7月24日 延享4年　6月17日 陰晴
1747年　7月25日 延享4年　6月18日 曇　巳の下刻より雨時々　午の中刻大雨
1747年　7月26日 延享4年　6月19日 晴　朝の内小雨時々
1747年　7月27日 延享4年　6月20日 曇　時々小雨
1747年　7月28日 延享4年　6月21日 曇　朝の内小雨
1747年　7月29日 延享4年　6月22日 晴
1747年　7月30日 延享4年　6月23日 曇　卯の下刻より雨　巳の下刻より晴　申の下刻より雨暫く
1747年　7月31日 延享4年　6月24日 陰晴　午の下刻より雨
1747年　8月1日 延享4年　6月25日 陰晴
1747年　8月2日 延享4年　6月26日 快晴
1747年　8月3日 延享4年　6月27日 快晴 （去月27日平館村の火災の家数31軒・内湊御番所1ヶ所郷蔵1つ焼失・火元他村預け・赦免）
1747年　8月4日 延享4年　6月28日 晴
1747年　8月5日 延享4年　6月29日 快晴
1747年　8月6日 延享4年　7月1日 快晴　酉の五刻日蝕　　下から続く　　御国人2切手紙2)))
1747年　8月7日 延享4年　7月2日 快晴 （6月中出人都合118人(碇関94人(他国者62御印紙48・御国人32切手紙18)・野内6人(他国者2御印紙2・御国人4切手紙2)・大間越18人(御国人13他国者3御印紙2・　　上に続く
1747年　8月8日 延享4年　7月3日 曇　辰の刻雨　雷発す　終日雨 （町同心の弟自害）
1747年　8月9日 延享4年　7月4日 快晴 （薬王院に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1747年　8月10日 延享4年　7月5日 快晴
1747年　8月11日 延享4年　7月6日 陰晴
1747年　8月12日 延享4年　7月7日 快晴 （2日夜中より飯詰組高野村等で水湛・新田を除き11村で301町歩ほどの田が水湛最大6尺ほど・五穀成就の御祈祷を神明宮和徳稲荷に仰せ付ける）
1747年　8月13日 延享4年　7月8日 曇　時々小雨
1747年　8月14日 延享4年　7月9日 快晴 （堀越組境関村で道心変死）
1747年　8月15日 延享4年　7月10日 快晴
1747年　8月16日 延享4年　7月11日 快晴 （五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1747年　8月17日 延享4年　7月12日 快晴
1747年　8月18日 延享4年　7月13日 陰晴　申の下刻雨
1747年　8月19日 延享4年　7月14日 快晴　夜中雨時々
1747年　8月20日 延享4年　7月15日 快晴　戌の二刻月蝕
1747年　8月21日 延享4年　7月16日 快晴
1747年　8月22日 延享4年　7月17日 快晴
1747年　8月23日 延享4年　7月18日 快晴
1747年　8月24日 延享4年　7月19日 快晴
1747年　8月25日 延享4年　7月20日 快晴　朝の内小雨　風吹く (明21日大鰐村加賀介と大坊村清次郎が初米上げる)
1747年　8月26日 延享4年　7月21日 快晴　夜中大雨
1747年　8月27日 延享4年　7月22日 曇　終日雨 （一昨19日夜高杉組中別所村で火災(3間半×7間:百姓)・火元村預け）
1747年　8月28日 延享4年　7月23日 快晴 (12日夜青森毘沙門堂司の妻縊死）
1747年　8月29日 延享4年　7月24日 曇　時々小雨　夜中雨
1747年　8月30日 延享4年　7月25日 晴
1747年　8月31日 延享4年　7月26日 陰晴

1747年　9月1日 延享4年　7月27日 晴 （12日鳶の者行方不明、19日中別所村の火元の村預け差許、21日飯詰御山に山火事(20間×10間)）
1747年　9月2日 延享4年　7月28日 陰晴
1747年　9月3日 延享4年　7月29日 陰晴　午の下刻より雨
1747年　9月4日 延享4年　7月30日 曇　終日雨 （7月中出77人(碇関73人(他国者52御印紙43・御国人21切手紙7)・野内他国者2人御印紙2・青森湊口他国者2人御印紙1)、岩木川洪水）
1747年　9月5日 延享4年　8月1日 晴　申の刻過ぎ雨 （龍泉寺変死）
1747年　9月6日 延享4年　8月2日 曇　時々小雨
1747年　9月7日 延享4年　8月3日 曇　夜中雨　午の上刻より雨晴れる
1747年　9月8日 延享4年　8月4日 曇
1747年　9月9日 延享4年　8月5日 陰晴
1747年　9月10日 延享4年　8月6日 快晴
1747年　9月11日 延享4年　8月7日 晴
1747年　9月12日 延享4年　8月8日 快晴
1747年　9月13日 延享4年　8月9日 快晴
1747年　9月14日 延享4年　8月10日 快晴
1747年　9月15日 延享4年　8月11日 晴 （駒越組相馬村で作業員流死）
1747年　9月16日 延享4年　8月12日 陰晴　未の刻過ぎより雨 （先月中碇関:出56・入り297・出入り合374人、同大間越:入り89・出入り合97人、同野内:出入り人数337人）
1747年　9月17日 延享4年　8月13日 曇　今朝小雨　終日に及ぶ
1747年　9月18日 延享4年　8月14日 快晴
1747年　9月19日 延享4年　8月15日 快晴
1747年　9月20日 延享4年　8月16日 陰晴
1747年　9月21日 延享4年　8月17日 快晴
1747年　9月22日 延享4年　8月18日 曇　時々雨
1747年　9月23日 延享4年　8月19日 曇　午の刻より小雨
1747年　9月24日 延享4年　8月20日 曇　昨夜中より風雨 （岩木川洪水・土手町東長町の橋が危うい・間もなく引く）
1747年　9月25日 延享4年　8月21日 快晴
1747年　9月26日 延享4年　8月22日 快晴
1747年　9月27日 延享4年　8月23日 陰晴　卯の刻雨　巳の刻晴
1747年　9月28日 延享4年　8月24日 陰晴
1747年　9月29日 延享4年　8月25日 快晴
1747年　9月30日 延享4年　8月26日 陰晴
1747年　10月1日 延享4年　8月27日 曇　終日雨
1747年　10月2日 延享4年　8月28日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1747年　10月3日 延享4年　8月29日 快晴
1747年　10月4日 延享4年　9月1日 快晴 （8月中出156人(碇関133人(他国者109御印紙64・御国人24切手紙12)・野内14人(他国者12御印紙4・御国人2切手紙1)・大間越他国者9人御印紙3)）
1747年　10月5日 延享4年　9月2日 快晴
1747年　10月6日 延享4年　9月3日 晴　昨夜中雨
1747年　10月7日 延享4年　9月4日 快晴
1747年　10月8日 延享4年　9月5日 晴
1747年　10月9日 延享4年　9月6日 曇　昨夜小雨　今朝迄に及ぶ(及今朝迄)
1747年 10月10日 延享4年　9月7日 陰晴
1747年 10月11日 延享4年　9月8日 快晴
1747年 10月12日 延享4年　9月9日 曇　時々小雨
1747年 10月13日 延享4年　9月10日 快晴　午の中刻より雨
1747年 10月14日 延享4年　9月11日 快晴
1747年 10月15日 延享4年　9月12日 陰晴 （8月中碇関:出入り合348人、同大間越:出入り人数合53人、同野内;出入り人数合233人）
1747年 10月16日 延享4年　9月13日 晴
1747年 10月17日 延享4年　9月14日 曇　辰の下刻より雨
1747年 10月18日 延享4年　9月15日 晴　今朝岩木山雪見ゆる　時々雨
1747年 10月19日 延享4年　9月16日 快晴
1747年 10月20日 延享4年　9月17日 曇　時々小雨
1747年 10月21日 延享4年　9月18日 晴　昨夜中より今日まで雨　午の刻止む
1747年 10月22日 延享4年　9月19日 陰晴
1747年 10月23日 延享4年　9月20日 曇　巳の下刻小雨
1747年 10月24日 延享4年　9月21日 曇　時々小雨　朝雪少し　夜に入り雷発す （昨夜誓願寺出火・専求院に引篭もり）
1747年 10月25日 延享4年　9月22日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1747年 10月26日 延享4年　9月23日 陰晴　朝の内小雨
1747年 10月27日 延享4年　9月24日 曇　時々小雨 （藤崎組藤崎村に50男倒死）
1747年 10月28日 延享4年　9月25日 陰晴
1747年 10月29日 延享4年　9月26日 陰晴
1747年 10月30日 延享4年　9月27日 快晴 （時鐘撞きは4人扶持）
1747年 10月31日 延享4年　9月28日 快晴

1747年　11月1日 延享4年　　9月29日 陰晴　時々小雨
1747年　11月2日 延享4年　　9月30日 快晴
1747年　11月3日 延享4年　　10月1日 快晴　(9月中出140人(碇関130人(他国者64御印紙51・御国人66切手紙25)・野内御国人8人切手紙3・大間越御国人2人切手紙1))
1747年　11月4日 延享4年　　10月2日 曇　時々小雨
1747年　11月5日 延享4年　　10月3日 快晴
1747年　11月6日 延享4年　　10月4日 快晴
1747年　11月7日 延享4年　　10月5日 陰晴　風少々　未の刻より小雨時々
1747年　11月8日 延享4年　　10月6日 曇　夜中より雨風　終日に及ぶ
1747年　11月9日 延享4年　　10月7日 曇　昨夜中より風雨　雪丸時々
1747年 11月10日 延享4年　　10月8日 快晴　(昨5日昼大鰐組石川大橋の橋板が大風で吹き飛ぶ・男女3人落下女1人死亡)
1747年 11月11日 延享4年　　10月9日 晴
1747年 11月12日 延享4年　10月10日 晴　夜中風雨
1747年 11月13日 延享4年　10月11日 曇　終日雨雪　風少々　(5月15日今泉山の杣子殺し斬罪)
1747年 11月14日 延享4年　10月12日 曇　時々小雪　(先月中大間越:出入り合54人、同碇関:出入り合332人、同野内:出入り合170人)
1747年 11月15日 延享4年　10月13日 晴　大雪(霜であろうが霜には見えない)
1747年 11月16日 延享4年　10月14日 晴　大雪(霜であろうが霜には見えない)
1747年 11月17日 延享4年　10月15日 曇　時々小雨　午の刻より晴れる
1747年 11月18日 延享4年　10月16日 晴　時々雨
1747年 11月19日 延享4年　10月17日 曇　時々小雨
1747年 11月20日 延享4年　10月18日 快晴　朝の内曇　夜雨風甚
1747年 11月21日 延享4年　10月19日 曇　夜中風雨翌巳の刻まで　(藤代組藤代村の紺屋町後ろに54・5男倒死)
1747年 11月22日 延享4年　10月20日 陰晴　風少々
1747年 11月23日 延享4年　10月21日 晴
1747年 11月24日 延享4年　10月22日 快晴　昨夜酉の下刻より小雨　同刻大雨風　雷暫く発す　丑の下刻まで雨　終日に及ぶ
1747年 11月25日 延享4年　10月23日 曇　時々小雨
1747年 11月26日 延享4年　10月24日 朝の内晴天　午の下刻より小雨
1747年 11月27日 延享4年　10月25日 曇　夜中より時々雪
1747年 11月28日 延享4年　10月26日 快晴
1747年 11月29日 延享4年　10月27日 曇　風少々　夜中小雪
1747年 11月30日 延享4年　10月28日 晴　夜中小雨
1747年　12月1日 延享4年　10月29日 快晴
1747年　12月2日 延享4年　　11月1日 曇　卯の刻過ぎより小雨　午の下刻より晴　(10月中御関所出人都合96人(碇関93人(他国者85御印紙64・御国人8切手紙6)・野内御国人3人切手紙1))
1747年　12月3日 延享4年　　11月2日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1747年　12月4日 延享4年　　11月3日 快晴
1747年　12月5日 延享4年　　11月4日 曇　時々雪
1747年　12月6日 延享4年　　11月5日 晴　(昨3日広須新田下中野村で火災(3間×7間:給地百姓)・小荷駄2疋稲200束など焼失、春日町の裏の畑に50道心倒死)
1747年　12月7日 延享4年　　11月6日 快晴
1747年　12月8日 延享4年　　11月7日 陰晴
1747年　12月9日 延享4年　　11月8日 曇
1747年 12月10日 延享4年　　11月9日 陰晴　小雪
1747年 12月11日 延享4年　10月10日 快晴
1747年 12月12日 延享4年　11月11日 快晴　大霜
1747年 12月13日 延享4年　11月12日 快晴
1747年 12月14日 延享4年　11月13日 快晴
1747年 12月15日 延享4年　11月14日 曇　昨夜中より雨　巳の刻より雪
1747年 12月16日 延享4年　11月15日 曇　時々雪
1747年 12月17日 延享4年　11月16日 陰晴　夜に入り雪
1747年 12月18日 延享4年　11月17日 曇　雪終日　(東長町に6歳位女子倒死)
1747年 12月19日 延享4年　11月18日 快晴
1747年 12月20日 延享4年　11月19日 快晴　夜中小雪時々
1747年 12月21日 延享4年　11月20日 曇　雨終日　寅の刻冬至に入る
1747年 12月22日 延享4年　11月21日 陰晴
1747年 12月23日 延享4年　11月22日 快晴　未の刻小雨　夜中小雨
1747年 12月24日 延享4年　11月23日 曇　時々小雨
1747年 12月25日 延享4年　11月24日 曇
1747年 12月26日 延享4年　11月25日 陰晴
1747年 12月27日 延享4年　11月26日 陰晴　(田町に50ばかりの道心者倒死)
1747年 12月28日 延享4年　11月27日 晴
1747年 12月29日 延享4年　11月28日 曇　雪時々
1747年 12月30日 延享4年　11月29日 快晴
1747年 12月31日 延享4年　11月30日 快晴　夜中小雨暫く　(11月中御関所出人都合87人(碇関87人(他国者70御印紙43・御国人17切手紙10)))

1748年　1月1日 延享4年　12月1日 曇　辰の刻より少し雨終日 （先月中大間越:出入り人数合67人、同碇関:出入り人数合230人、同野内:出入り人数合425人）
1748年　1月2日 延享4年　12月2日 陰晴　雪少々
1748年　1月3日 延享4年　12月3日 陰晴　雪時々
1748年　1月4日 延享4年　12月4日 陰晴
1748年　1月5日 延享4年　12月5日 陰晴
1748年　1月6日 延享4年　12月6日 快晴　辰の刻寒入り　戌の刻小雨
1748年　1月7日 延享4年　12月7日 快晴
1748年　1月8日 延享4年　12月8日 快晴
1748年　1月9日 延享4年　12月9日 快晴
1748年　1月10日 延享4年　12月10日 曇　辰の刻より巳の刻まで雪　午の刻より晴
1748年　1月11日 延享4年　12月11日 陰晴
1748年　1月12日 延享4年　12月12日 陰晴
1748年　1月13日 延享4年　12月13日 快晴
1748年　1月14日 延享4年　12月14日 陰晴　夜中雪少々 （昨10日浪岡組五本松村に20男倒死?狼に喰蓮候て……、和徳組堅田村に者倒死）
1748年　1月15日 延享4年　12月15日 晴　時々雪
1748年　1月16日 延享4年　12月16日 晴
1748年　1月17日 延享4年　12月17日 曇 （昨五時富田町出火、先月中野内:出入り合169人、同大間越:出入り人数合111人、同碇関:出入り人数合244人）
1748年　1月18日 延享4年　12月18日 晴
1748年　1月19日 延享4年　12月19日 快晴
1748年　1月20日 延享4年　12月20日 陰晴 （尾崎組が当御収納皆済）
1748年　1月21日 延享4年　12月21日 曇　時々雪 （田舎館組も皆済）
1748年　1月22日 延享4年　12月22日 快晴
1748年　1月23日 延享4年　12月23日 晴　丸雪時々
1748年　1月24日 延享4年　12月24日 快晴
1748年　1月25日 延享4年　12月25日 快晴 （不作に伴う減員?）
1748年　1月26日 延享4年　12月26日 曇　時々雪 （広須新田長浜村で口論の上死亡者あり）
1748年　1月27日 延享4年　12月27日 陰晴　朝の内雪少々 （昨日大風で東御門東土居の北の方吹き倒れる）
1748年　1月28日 延享4年　12月28日 晴　時々雪
1748年　1月29日 延享4年　12月29日 晴 （12月中所々御関所出人都合108人（碇関106人（他国者80御印紙56・御国人26切手紙16）・野内御国人2人切手紙1））
1748年　1月30日 延享5年　正月1日　晴
1748年　1月31日 延享5年　正月2日　晴
1748年　2月1日 延享5年　正月3日　晴
1748年　2月2日 延享5年　正月4日　陰晴
1748年　2月3日 延享5年　正月5日　曇　夜中雪
1748年　2月4日 延享5年　正月6日　曇　時々雪
1748年　2月5日 延享5年　正月7日　快晴
1748年　2月6日 延享5年　正月8日　快晴
1748年　2月7日 延享5年　正月9日　快晴 （6日夜後潟組蓬田村で火災（4間×8間:百姓・不明借家・3間×5間:高無）・女牛1疋その他焼失・火元他村預け）
1748年　2月8日 延享5年　正月10日　快晴
1748年　2月9日 延享5年　正月11日　曇　雪時々 （人事異動）
1748年　2月10日 延享5年　正月12日　快晴
1748年　2月11日 延享5年　正月13日　晴
1748年　2月12日 延享5年　正月14日　陰晴
1748年　2月13日 延享5年　正月15日　晴
1748年　2月14日 延享5年　正月16日　晴　申の刻小雪
1748年　2月15日 延享5年　正月17日　晴
1748年　2月16日 延享5年　正月18日　曇　余寒強し　雪終日
1748年　2月17日 延享5年　正月19日　陰晴　余寒強し　小雪少々
1748年　2月18日 延享5年　正月20日　陰晴
1748年　2月19日 延享5年　正月21日　曇　雪時々
1748年　2月20日 延享5年　正月22日　晴 （日付が20日とあるが、干支では22日に適合している）
1748年　2月21日 延享5年　正月23日　晴　夜中雨少々
1748年　2月22日 延享5年　正月24日　曇　辰の下刻小雨暫く
1748年　2月23日 延享5年　正月25日　曇　時々雪
1748年　2月24日 延享5年　正月26日　晴
1748年　2月25日 延享5年　正月27日　晴
1748年　2月26日 延享5年　正月28日　晴 （12月中大間越:出入り人数合7人、同野内:出入り人数171人）
1748年　2月27日 延享5年　正月29日　快晴
1748年　2月28日 延享5年　2月1日 快晴　風少々 （正月中碇関御関所出人49人（他国者40人御印紙34・御国人9人切手紙6））
1748年　2月29日 延享5年　2月2日 陰晴

1748年　3月1日 延享5年　2月3日 陰晴
1748年　3月2日 延享5年　2月4日 晴
1748年　3月3日 延享5年　2月5日 晴　夜に入り雪
1748年　3月4日 延享5年　2月6日 晴
1748年　3月5日 延享5年　2月7日 快晴
1748年　3月6日 延享5年　2月8日 曇　終日雨
1748年　3月7日 延享5年　2月9日 快晴
1748年　3月8日 延享5年　2月10日 快晴　(正月中野内:出43・入り63・出入り合106人、同大間越:出7・入り135・出入り人数合142人)
1748年　3月9日 延享5年　2月11日 陰晴　夜中雨　(9日より十三潟明ける)
1748年　3月10日 延享5年　2月12日 晴　(10日朝までに十三潟明ける・去年より4日早く節に引合7日早い)
1748年　3月11日 延享5年　2月13日 快晴　夜中大風
1748年　3月12日 延享5年　2月14日 陰晴　終日風　未の刻小雨
1748年　3月13日 延享5年　2月15日 陰晴　酉の刻より雪
1748年　3月14日 延享5年　2月16日 曇　昨夜より雪時々
1748年　3月15日 延享5年　2月17日 晴
1748年　3月16日 延享5年　2月18日 快晴
1748年　3月17日 延享5年　2月19日 曇　卯の刻より雨
1748年　3月18日 延享5年　2月20日 曇　昨夜より大風　終日雪　(田茂木町に70男倒死、先月中碇関:出入り人数合238人)
1748年　3月19日 延享5年　2月21日 快晴　(卯(昨年のこと)正月より同12月まで野内出入り御役並びに諸役銭取立て額12貫778匁9分1厘7毛を上納)
1748年　3月20日 延享5年　2月22日 曇　小雨
1748年　3月21日 延享5年　2月23日 陰晴
1748年　3月22日 延享5年　2月24日 陰晴　時々小風　申の刻雪少々
1748年　3月23日 延享5年　2月25日 陰晴
1748年　3月24日 延享5年　2月26日 快晴
1748年　3月25日 延享5年　2月27日 快晴
1748年　3月26日 延享5年　2月28日 快晴
1748年　3月27日 延享5年　2月29日 晴
1748年　3月28日 延享5年　2月30日 陰晴
1748年　3月29日 延享5年　3月1日 快晴
1748年　3月30日 延享5年　3月2日 曇　時々小雨　夜に及ぶ　(2月中出414人(碇関410人(他国者372御印紙36・御国人38切手紙24)・野内御国人4人切手紙2))
1748年　3月31日 延享5年　3月3日 曇　昨夜より雨
1748年　4月1日 延享5年　3月4日 曇　終日小雨
1748年　4月2日 延享5年　3月5日 曇
1748年　4月3日 延享5年　3月6日 晴　風立つ
1748年　4月4日 延享5年　3月7日 曇
1748年　4月5日 延享5年　3月8日 快晴
1748年　4月6日 延享5年　3月9日 陰晴
1748年　4月7日 延享5年　3月10日 曇　雨終日に及ぶ
1748年　4月8日 延享5年　3月11日 曇　(古懸不動尊御出汗)
1748年　4月9日 延享5年　3月12日 快晴
1748年　4月10日 延享5年　3月13日 曇　朝の内小雪
1748年　4月11日 延享5年　3月14日 曇　夜中雪
1748年　4月12日 延享5年　3月15日 曇　昨夜中より雪　今朝に及ぶ　辰の下刻丸雪暫く　夜中雨　(先月18日夜出火の節火の見櫓の鐘が遅れ番人押込め・差許)
1748年　4月13日 延享5年　3月16日 曇　小雨
1748年　4月14日 延享5年　3月17日 曇　朝の内小雪　申の下刻雪　夜に入り雪　(四社に五穀成就・日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1748年　4月15日 延享5年　3月18日 晴
1748年　4月16日 延享5年　3月19日 陰晴
1748年　4月17日 延享5年　3月20日 晴
1748年　4月18日 延享5年　3月21日 快晴　(大間越:出11・入り307・出入り数合318人、野内:出94・入り65・出入り都合159人、碇関:出90・入り394・出入り合485人)
1748年　4月19日 延享5年　3月22日 曇　昨夜より雨
1748年　4月20日 延享5年　3月23日 快晴　朝のうち小風　(今日風立ち荒れ候間……)
1748年　4月21日 延享5年　3月24日 陰晴　時々風立つ
1748年　4月22日 延享5年　3月25日 快晴
1748年　4月23日 延享5年　3月26日 快晴
1748年　4月24日 延享5年　3月27日 快晴　(昨暮前広須新田福富村で火災・3歳女子焼死)
1748年　4月25日 延享5年　3月28日 快晴
1748年　4月26日 延享5年　3月29日 陰晴
1748年　4月27日 延享5年　3月30日 陰晴
1748年　4月28日 延享5年　4月1日 快晴　(3月中出174人(碇関170人(他国者47御印紙40・御国人123切手紙51)・野内他国者1人御印紙1・大間越御国人3人切手紙1))
1748年　4月29日 延享5年　4月2日 陰晴　風少々
1748年　4月30日 延享5年　4月3日 快晴　(先月晦日夜四半時浦町組野沢村で火災1軒雑駄4疋焼死・火元村預け)

1748年　5月1日 延享5年　4月4日 曇　昨夜中より小雨今日まで降る
1748年　5月2日 延享5年　4月5日 曇　午の刻より雨
1748年　5月3日 延享5年　4月6日 曇　終日雨
1748年　5月4日 延享5年　4月7日 曇　時々雨
1748年　5月5日 延享5年　4月8日 快晴
1748年　5月6日 延享5年　4月9日 快晴　(3月中碇関:入り108・出入り合192人・他に往来証文4人、同大間越:出入り人数合103人、同野内:出入り合203人)
1748年　5月7日 延享5年　4月10日 晴　(昨日鉄砲に中り死者あり)
1748年　5月8日 延享5年　4月11日 快晴
1748年　5月9日 延享5年　4月12日 快晴
1748年　5月10日 延享5年　4月13日 快晴
1748年　5月11日 延享5年　4月14日 曇　午の刻より雨降
1748年　5月12日 延享5年　4月15日 陰晴　雨時々　午の刻過ぎ晴
1748年　5月13日 延享5年　4月16日 快晴
1748年　5月14日 延享5年　4月17日 快晴
1748年　5月15日 延享5年　4月18日 曇　終日小雨　夜中雨少々
1748年　5月16日 延享5年　4月19日 快晴
1748年　5月17日 延享5年　4月20日 陰晴
1748年　5月18日 延享5年　4月21日 陰晴　午の刻過ぎより雷暫く発す
1748年　5月19日 延享5年　4月22日 曇　午の刻より小雨　未の刻より晴
1748年　5月20日 延享5年　4月23日 曇　卯の中刻小雨　それより晴　(20日夜後潟組後潟村で火災7軒他に外馬屋等焼失・火元他村預け・西風烈しく防ぎかねる)
1748年　5月21日 延享5年　4月24日 晴　朝の内曇
1748年　5月22日 延享5年　4月25日 快晴
1748年　5月23日 延享5年　4月26日 快晴
1748年　5月24日 延享5年　4月27日 陰晴　夜中小雨　(浪岡組で喧嘩・死者1人)
1748年　5月25日 延享5年　4月28日 曇　終日小雨
1748年　5月26日 延享5年　4月29日 曇　夜中より巳の刻まで小雨　風立つ　下から続く　21・2人行方不明(6月2日の記事ではもう少し少ないかも)か)
1748年　5月27日 延享5年　5月1日 快晴　(4月中出633人(碇関628人(御国人14他国者318御印紙124・御国人296切手紙98)・野内御国人5人切手紙4)、此間(先月28日か)鰺ヶ沢で難風・破船16艘　上に続く
1748年　5月28日 延享5年　5月2日 快晴
1748年　5月29日 延享5年　5月3日 曇　卯の中刻より雨
1748年　5月30日 延享5年　5月4日 快晴
1748年　5月31日 延享5年　5月5日 快晴
1748年　6月1日 延享5年　5月6日 快晴
1748年　6月2日 延享5年　5月7日 曇　巳の中刻より晴
1748年　6月3日 延享5年　5月8日 陰晴
1748年　6月4日 延享5年　5月9日 曇　昨夜中小雨　今日風少々立つ
1748年　6月5日 延享5年　5月10日 晴
1748年　6月6日 延享5年　5月11日 晴　巳の下刻より雨　夜に及ぶ　(4月中大間越:出入り人数合57人、同野内:出入り人数合323人、同碇関:出入り人数合816人)
1748年　6月7日 延享5年　5月12日 曇　夜中より雨　卯の中刻過ぎ雷数々発す
1748年　6月8日 延享5年　5月13日 曇
1748年　6月9日 延享5年　5月14日 快晴　巳の刻過ぎより曇
1748年　6月10日 延享5年　5月15日 曇　朝の内晴　午の刻より曇　雷発す　時々小雨
1748年　6月11日 延享5年　5月16日 快晴
1748年　6月12日 延享5年　5月17日 快晴
1748年　6月13日 延享5年　5月18日 曇　時々小雨
1748年　6月14日 延享5年　5月19日 曇　午の上刻より小雨　夜に及ぶ
1748年　6月15日 延享5年　5月20日 曇　卯の刻より巳の下刻まで雨
1748年　6月16日 延享5年　5月21日 陰晴　夜に入り小雨
1748年　6月17日 延享5年　5月22日 晴
1748年　6月18日 延享5年　5月23日 晴
1748年　6月19日 延享5年　5月24日 快晴
1748年　6月20日 延享5年　5月25日 曇　時々小雨
1748年　6月21日 延享5年　5月26日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1748年　6月22日 延享5年　5月27日 快晴
1748年　6月23日 延享5年　5月28日 快晴　(御家中の弟病気で縊死)
1748年　6月24日 延享5年　5月29日 快晴
1748年　6月25日 延享5年　5月30日 快晴　下から続く　野内御国人2人切手紙1・小泊湊口御国人2人切手紙1))
1748年　6月26日 延享5年　6月1日 快晴　(5月中出194人(碇関181人(他国者129御印紙62・御国人52切手紙22)・大間越8人(他国者3人御印紙1・御国人5人切手紙3)・鰺ヶ沢湊口他国者1人御印紙1・　上に続く
1748年　6月27日 延享5年　6月2日 快晴
1748年　6月28日 延享5年　6月3日 快晴　(取上で獄門あり)
1748年　6月29日 延享5年　6月4日 快晴
1748年　6月30日 延享5年　6月5日 快晴

1748年　7月1日 延享5年　6月6日 曇
1748年　7月2日 延享5年　6月7日 晴 （5月3･4日より6月2日までで田植え完了）
1748年　7月3日 延享5年　6月8日 曇 朝の内雨 巳の刻より晴 （四社に五穀成就の御祈祷仰せ付ける）
1748年　7月4日 延享5年　6月9日 晴 （5月中大間越:出入り人数60人、同野内:出入り人数合233人、同碇関:出入り人数合519人内1人往来證文）
1748年　7月5日 延享5年　6月10日 快晴
1748年　7月6日 延享5年　6月11日 快晴
1748年　7月7日 延享5年　6月12日 曇 辰の下刻より雨 午の刻より晴
1748年　7月8日 延享5年　6月13日 快晴
1748年　7月9日 延享5年　6月14日 快晴 （8日横内組戸崎村で酒狂い殺人）
1748年　7月10日 延享5年　6月15日 快晴
1748年　7月11日 延享5年　6月16日 快晴 丑の刻雨
1748年　7月12日 延享5年　6月17日 曇
1748年　7月13日 延享5年　6月18日 陰晴
1748年　7月14日 延享5年　6月19日 快晴
1748年　7月15日 延享5年　6月20日 快晴
1748年　7月16日 延享5年　6月21日 快晴 夜の内雨
1748年　7月17日 延享5年　6月22日 陰晴 （今朝七時過ぎ大光寺組金屋村で火災家3軒外馬屋2軒(4間×11間:御蔵百姓･4間×7間:御蔵百姓･2間×4間:高無)）
1748年　7月18日 延享5年　6月23日 快晴 昨夜雨少々降る 翌寅の四刻土用に入る
1748年　7月19日 延享5年　6月24日 晴
1748年　7月20日 延享5年　6月25日 晴 午の刻過ぎ小雨
1748年　7月21日 延享5年　6月26日 曇 昨夜夜よりの雨 終日に及ぶ(及終日に)
1748年　7月22日 延享5年　6月27日 曇 巳の刻より晴
1748年　7月23日 延享5年　6月28日 快晴
1748年　7月24日 延享5年　6月29日 快晴
1748年　7月25日 延享5年　7月1日 陰晴 （6月中出111人(碇関97人(他国者66御印紙50･御国人31人切手紙18)･野内13人(他国者1･御国人12人切手紙2)･青森湊口他国者1人御印紙1)）
1748年　7月26日 延享5年　7月2日 快晴
1748年　7月27日 延享5年　7月3日 快晴 甚暑
1748年　7月28日 延享5年　7月4日 快晴 甚暑 （和徳稲荷で五穀成就の御祈祷仰せ付ける）
1748年　7月29日 延享5年　7月5日 甚暑 午の下刻雷発す
1748年　7月30日 延享5年　7月6日 快晴 甚暑
1748年　7月31日 延享5年　7月7日 快晴 大暑
1748年　8月1日 延享5年　7月8日 甚暑
1748年　8月2日 延享5年　7月9日 快晴 甚暑
1748年　8月3日 延享5年　7月10日 快晴 甚暑 （大坊村で5月10日植付の稲が7月7日出穂）
1748年　8月4日 延享5年　7月11日 快晴
1748年　8月5日 延享5年　7月12日 快晴
1748年　8月6日 延享5年　7月13日 快晴 残暑強し
1748年　8月7日 延享5年　7月14日 快晴 残暑強し
1748年　8月8日 延享5年　7月15日 快晴 未の下刻雷少々発す
1748年　8月9日 延享5年　7月16日 快晴
1748年　8月10日 延享5年　7月17日 快晴 残暑強し （12日昼油川組戸門山で山火事）
1748年　8月11日 延享5年　7月18日 快晴
1748年　8月12日 延享5年　7月19日 快晴
1748年　8月13日 延享5年　7月20日 快晴
1748年　8月14日 延享5年　7月21日 快晴 未の上刻地震少々 （6月中碇関:出109･入り177･出入り人数合286人、同大間越:出34･入り15･出入り合49人、同野内:出108･入り96･出入り合204人）
1748年　8月15日 延享5年　7月22日 快晴
1748年　8月16日 延享5年　7月23日 快晴 残暑強し
1748年　8月17日 延享5年　7月24日 曇 午の下刻小雨 則刻晴 未の下刻より雨
1748年　8月18日 延享5年　7月25日 曇 巳の中刻より晴
1748年　8月19日 延享5年　7月26日 快晴
1748年　8月20日 延享5年　7月27日 快晴 （明日大鰐村の加賀助･大坊村の長左衛門より初米上がる）
1748年　8月21日 延享5年　7月28日 快晴
1748年　8月22日 延享5年　7月29日 快晴
1748年　8月23日 延享5年　7月30日 快晴 （大光寺組小和森村に打殺された山伏あり、金木組宮野沢で山火事）
1748年　8月24日 延享5年　8月1日 晴 （今22日夜五時頃後潟山で山火事(10間×4間)、7月中出64人(碇関62人(他国者49御印紙43･御国人13切手紙9)･野内他国者2人御印紙2)）
1748年　8月25日 延享5年　8月2日 曇 巳の中刻より小雨 （堀越組境関村に者倒死、昨19日年号改元）
1748年　8月26日 延享5年　8月3日 快晴
1748年　8月27日 延享5年　8月4日 快晴 （年号は「寛延」となる、先月29日喜良市山の山火事80間×40間、先月晦日大和沢山の山火事50間×10間）
1748年　8月28日 延享5年　8月5日 快晴
1748年　8月29日 延享5年　8月6日 快晴 朝の内少々風 終日夜に及ぶ （宮野沢山火事大火、大和沢山火事又々煙出る、湯口山も山火事、それぞれの火消しに正規兵が多数出る）
1748年　8月30日 延享5年　8月7日 曇 辰の刻前より小雨 それより風立つ （大和沢山火事昼までに打ち消す）
1748年　8月31日 延享5年　8月8日 陰晴 終日風 （大和沢山火事に人夫5276人、湯口山火事出人足1136人）

1748年　9月1日 延享5年　8月9日 曇　風吹く（六枚橋山火事下火、宮野沢山火事昨7日晩打ち消す）
1748年　9月2日 延享5年　8月10日 快晴　((先月30日記述の)小和森村の殺人者戸〆・盗人が脇差しで手向かったので打殺したもの)
1748年　9月3日 延享5年　8月11日 快晴　（東長町大橋の上河原の内に15・6歳女倒死、山火事昨日までに残らず消す）
1748年　9月4日 延享5年　8月12日 曇
1748年　9月5日 延享5年　8月13日 快晴
1748年　9月6日 延享5年　8月14日 快晴
1748年　9月7日 延享5年　8月15日 曇　時々小雨
1748年　9月8日 延享5年　8月16日 曇　時々夜中小雨
1748年　9月9日 延享5年　8月17日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まで　それより陰晴
1748年　9月10日 延享5年　8月18日 曇　昨夜中雨　今日終日に及ぶ
1748年　9月11日 延享5年　8月19日 曇　時々小雨
1748年　9月12日 延享5年　8月20日 陰晴
1748年　9月13日 延享5年　8月21日 快晴
1748年　9月14日 延享5年　8月22日 快晴
1748年　9月15日 延享5年　8月23日 晴　亥の刻過ぎより夜中雨
1748年　9月16日 延享5年　8月24日 曇　夜中より雨　卯の刻過ぎ止む
1748年　9月17日 延享5年　8月25日 快晴
1748年　9月18日 延享5年　8月26日 曇　丑の下刻より雨
1748年　9月19日 延享5年　8月27日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1748年　9月20日 延享5年　8月28日 曇
1748年　9月21日 延享5年　8月29日 晴　子の刻雷発す　雨降　寅の刻晴
1748年　9月22日 延享5年　8月30日 陰晴　昨夜丑の下刻雨　寅の刻過ぎ晴
1748年　9月23日 寛延元年　9月1日 曇　（8月中出165人（碇関152人（御国人11他国者73御印紙59・御国人68切手紙21）・野内他国者13人御印紙4）、野萱5尺縄1〆の代米2升・1丈で8升）
1748年　9月24日 寛延元年　9月2日 曇　卯の刻過ぎ小雨　辰の下刻晴　夜中雨少々
1748年　9月25日 寛延元年　9月3日 曇　今晩より雨　巳の刻雷発す
1748年　9月26日 寛延元年　9月4日 曇　昨夜酉の中刻より雨大風　暁方に及び鎮まる（及暁方鎮）　子の刻過ぎより雨時々　今日に及ぶ（今日二及）
1748年　9月27日 寛延元年　9月5日 晴　昨夜戌の刻過ぎまで時々風雨にて風やまず
1748年　9月28日 寛延元年　9月6日 曇　未の刻過ぎより雨少々
1748年　9月29日 寛延元年　9月7日 快晴
1748年　9月30日 寛延元年　9月8日 快晴
1748年　10月1日 寛延元年　9月9日 快晴
1748年　10月2日 寛延元年　9月10日 曇　夜に入り雨
1748年　10月3日 寛延元年　9月11日 曇　（7日藤崎組藤崎村に60余道心者倒・死）
1748年　10月4日 寛延元年　9月12日 陰晴
1748年　10月5日 寛延元年　9月13日 快晴
1748年　10月6日 寛延元年　9月14日 陰晴
1748年　10月7日 寛延元年　9月15日 晴　昨夜亥の上刻余程地震スル
1748年　10月8日 寛延元年　9月16日 快晴
1748年　10月9日 寛延元年　9月17日 陰晴
1748年 10月10日 寛延元年　9月18日 曇　昨夜亥の下刻より雨　終夜風雨　今日至夜中とも雨　（青森町毘沙門堂境内鳥井に者縊死、15日油川組安田村で火災（3間×2間：高無）・火元村預け）
1748年 10月11日 寛延元年　9月19日 晴
1748年 10月12日 寛延元年　9月20日 晴　夜に入り雨　酉の刻より雷　夜中度々
1748年 10月13日 寛延元年　9月21日 快晴　（8月中野内：出79・入り74・都合153人、同碇関：出入り人数都合344人、同大間越：都合50人）
1748年 10月14日 寛延元年　9月22日 曇　辰の上刻より雨　則刻過ぎ晴
1748年 10月15日 寛延元年　9月23日 曇　今朝岩木山に雪見る　時々小雨
1748年 10月16日 寛延元年　9月24日 曇　夜に入り雨
1748年 10月17日 寛延元年　9月25日 曇　昨夜亥の刻より雨　終日に及ぶ
1748年 10月18日 寛延元年　9月26日 曇　夜中より風雨　今朝時々雨
1748年 10月19日 寛延元年　9月27日 快晴
1748年 10月20日 寛延元年　9月28日 快晴　夜に入り雨
1748年 10月21日 寛延元年　9月29日 曇　昨夜より雨時々　辰の刻丸雪少し降る
1748年 10月22日 寛延元年　10月1日 曇　雪　小雨時々　（9月中出都合67人（碇関60人（他国者46御印紙38・御国人14切手紙7）・野内5人（他国者1人・御国人4切手紙2）・大間越御国人2人切手紙1））
1748年 10月23日 寛延元年　10月2日 曇　辰の刻より雨時々　巳の下刻より晴　午の刻過ぎ雨　（青森御蔵米300俵の平米値段1俵に付き19匁5分、25日夜九時頃岩崎村沖で破船・水死10人）
1748年 10月24日 寛延元年　10月3日 曇　昨夜中雨　辰の中刻より晴
1748年 10月25日 寛延元年　10月4日 曇　昨夜少々雨　丸雪降る　（倹約を仰せ付けている）
1748年 10月26日 寛延元年　10月5日 晴　昨夜中風雨余程強し　今朝に及ぶ　（日和揚げの御祈祷を薬王院に申し付ける）
1748年 10月27日 寛延元年　10月6日 陰晴　雨時々　午の刻より晴
1748年 10月28日 寛延元年　10月7日 陰晴　夜中雨
1748年 10月29日 寛延元年　10月8日 曇　終日雨　午の下刻より晴　（9月25日夜十三湊で破船・5人死亡）
1748年 10月30日 寛延元年　10月9日 快晴　（9月24日大間越湊支配黒崎村で杉焼帆柱（長15尋3尺・元口1尺8寸四方・末口8寸四方）拾う）
1748年 10月31日 寛延元年　10月10日 快晴

1748年　11月1日 寛延元年　10月11日 曇　時々小雨 （茂森町で縊死）
1748年　11月2日 寛延元年　10月12日 快晴　雪時々
1748年　11月3日 寛延元年　10月13日 陰晴
1748年　11月4日 寛延元年　10月14日 曇　終日雨
1748年　11月5日 寛延元年　10月15日 曇　時々小雨
1748年　11月6日 寛延元年　10月16日 曇　辰の下刻より雨　午の下刻晴
1748年　11月7日 寛延元年　10月17日 陰晴
1748年　11月8日 寛延元年　10月18日 晴
1748年　11月9日 寛延元年　10月19日 快晴　夜に入り雨　雷三四度発す
1748年 11月10日 寛延元年　10月20日 陰晴 （先月中野内:出82・入り67・出入り人数合149人、同大間越:出89・入り22・出入り人数都合111人、同碇関:出68・入り133・出入り人数都合201人）
1748年 11月11日 寛延元年　10月21日 快晴
1748年 11月12日 寛延元年　10月22日 晴
1748年 11月13日 寛延元年　10月23日 陰晴
1748年 11月14日 寛延元年　10月24日 快晴　寅の下刻より雷発す
1748年 11月15日 寛延元年　10月25日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1748年 11月16日 寛延元年　10月26日 曇
1748年 11月17日 寛延元年　10月27日 快晴
1748年 11月18日 寛延元年　10月28日 快晴
1748年 11月19日 寛延元年　10月29日 曇　辰の刻小雨少々
1748年 11月20日 寛延元年　10月30日 曇　辰の上刻より時々小雪
1748年 11月21日 寛延元年閏10月1日 陰晴　朝の内雪 （10月中出460人（碇関460人（御国人335他国者91御印紙60・御国者34切手紙14））、去月24日高杉組中別所村で火災・火元村預け・差免）
1748年 11月22日 寛延元年閏10月2日 陰晴 （本町で?下人変死）
1748年 11月23日 寛延元年閏10月3日 曇　時々小雨　夜中雨
1748年 11月24日 寛延元年閏10月4日 曇　今朝雷発す　雨時々
1748年 11月25日 寛延元年閏10月5日 陰晴　夜中雨
1748年 11月26日 寛延元年閏10月6日 曇　昨夜中の雨終日に及ぶ
1748年 11月27日 寛延元年閏10月7日 曇　昨夜中より雪終日に及ぶ
1748年 11月28日 寛延元年閏10月8日 快晴 （去る3日朝鯵ヶ沢の漁船4艘16人行方不明・1人死亡）
1748年 11月29日 寛延元年閏10月9日 快晴
1748年 11月30日 寛延元年閏10月10日陰晴 （8月8日より10月までの大風霜による損毛並びに破損:田34746石・畑7111石・浪欠け300間余・流家1軒・破船7艘・溺死22人・倒木21本）
1748年　12月1日 寛延元年閏10月11日快晴　朝の内小雪
1748年　12月2日 寛延元年閏10月12日陰晴
1748年　12月3日 寛延元年閏10月13日曇　昨夜より雨終日　夜に入る
1748年　12月4日 寛延元年閏10月14日陰晴　夜中雨
1748年　12月5日 寛延元年閏10月15日曇　昨夜中より雨
1748年　12月6日 寛延元年閏10月16日曇　卯の中刻より風雨　戌の刻雷発す
1748年　12月7日 寛延元年閏10月17日晴
1748年　12月8日 寛延元年閏10月18日陰晴
1748年　12月9日 寛延元年閏10月19日陰晴　夜に入り雪
1748年 12月10日 寛延元年閏10月20日曇　時々雪　夜に及ぶ （10月中大間越:出135・入り21・出入り人数合156人、同野内:出66・入り104人、同碇関:出143・入り112・出入り人数合255人）
1748年 12月11日 寛延元年閏10月21日曇　昨夜中より雪　午の刻より晴
1748年 12月12日 寛延元年閏10月22日晴　卯の下刻地震
1748年 12月13日 寛延元年閏10月23日晴
1748年 12月14日 寛延元年閏10月24日陰晴 （閏10月21日夜九時より22日昼九時まで十三潟氷張る・去年11月23日・当年33日早く節に引合12日早い）
1748年 12月15日 寛延元年閏10月25日陰晴
1748年 12月16日 寛延元年閏10月26日陰晴
1748年 12月17日 寛延元年閏10月27日快晴
1748年 12月18日 寛延元年閏10月28日晴
1748年 12月19日 寛延元年閏10月29日快晴
1748年 12月20日 寛延元年　11月1日 快晴　酉の刻雷発す （閏10月中出63人（碇関61人（他国者51御印紙40・御国人10切手紙7）・野内御国人2人切手紙1））
1748年 12月21日 寛延元年　11月2日 曇　夜中よ利雨降　終日に及ぶ　巳の二刻冬至に入る
1748年 12月22日 寛延元年　11月3日 曇
1748年 12月23日 寛延元年　11月4日 快晴
1748年 12月24日 寛延元年　11月5日 陰晴 （常盤組徳下村に者倒死）
1748年 12月25日 寛延元年　11月6日 曇　卯の刻過ぎより雪時々
1748年 12月26日 寛延元年　11月7日 曇　時々雪 （人事異動あり）
1748年 12月27日 寛延元年　11月8日 快晴　昨夜殊の外寒ル
1748年 12月28日 寛延元年　11月9日 曇　時々雪
1748年 12月29日 寛延元年　11月10日 曇　時々雪
1748年 12月30日 寛延元年　11月11日 快晴
1748年 12月31日 寛延元年　11月12日 快晴

1749年　1月1日 寛延元年　11月13日 快晴
1749年　1月2日 寛延元年　11月14日 陰晴
1749年　1月3日 寛延元年　11月15日 陰晴
1749年　1月4日 寛延元年　11月16日 陰晴　夜中より雪時々
1749年　1月5日 寛延元年　11月17日 曇　時々雪　小寒未の刻に入る
1749年　1月6日 寛延元年　11月18日 曇　夜中より風吹く
1749年　1月7日 寛延元年　11月19日 快晴
1749年　1月8日 寛延元年　11月20日 陰晴　(閏10月中大間越:出111・入り25・出入り人数合136人、同碇関:出74・入り134・出入り合226人、同野内:出83・入り84・出入り人数合167人)
1749年　1月9日 寛延元年　11月21日 曇　時々雪　(斬罪2・磔1)
1749年　1月10日 寛延元年　11月22日 陰晴　夜中雪少々　(石渡川で女房おぼれ死亡)
1749年　1月11日 寛延元年　11月23日 陰晴　時々雪
1749年　1月12日 寛延元年　11月24日 曇　卯の刻過ぎより風吹く
1749年　1月13日 寛延元年　11月25日 曇　時々雪
1749年　1月14日 寛延元年　11月26日 晴
1749年　1月15日 寛延元年　11月27日 陰晴
1749年　1月16日 寛延元年　11月28日 陰晴
1749年　1月17日 寛延元年　11月29日 快晴
1749年　1月18日 寛延元年　11月30日 快晴
1749年　1月19日 寛延元年　12月1日 快晴　(11月中出113人(碇関112人(他国者89御印紙67・御国人23切手紙13)・野内他国者1人御印紙1))
1749年　1月20日 寛延元年　12月2日 陰晴
1749年　1月21日 寛延元年　12月3日 快晴
1749年　1月22日 寛延元年　12月4日 快晴　(本年の耕作日程(初め省略):種浸2月23日・田打3月11日・種蒔29日・く蓮かき4月10日・田植5月1日・田草取25日・出穂7月7日・稲刈10月2日・稲村納19日)
1749年　1月23日 寛延元年　12月5日 曇　巳の刻より雨時々
1749年　1月24日 寛延元年　12月6日 快晴
1749年　1月25日 寛延元年　12月7日 快晴　(当月朔日夜火災で相つつしんでいた御家中慎み御免、22日?金木組いたわり沢と浦町組大野村で(火災か)で村預けになっていた2人を差許)
1749年　1月26日 寛延元年　12月8日 陰晴
1749年　1月27日 寛延元年　12月9日 曇　時々雪
1749年　1月28日 寛延元年　12月10日 曇　小雨時々
1749年　1月29日 寛延元年　12月11日 曇　時々雪　夜中雪
1749年　1月30日 寛延元年　12月12日 曇　昨夜中雪　終日に及ぶ
1749年　1月31日 寛延元年　12月13日 曇　時々雪
1749年　2月1日 寛延元年　12月14日 陰晴
1749年　2月2日 寛延元年　12月15日 快晴
1749年　2月3日 寛延元年　12月16日 快晴
1749年　2月4日 寛延元年　12月17日 快晴　夜中雨少々　(11月中碇関:出113・入り123・出入り合241人、同大間越:出25・入り10・出入り合35人、同野内:出入り人数123人)
1749年　2月5日 寛延元年　12月18日 晴
1749年　2月6日 寛延元年　12月19日 晴
1749年　2月7日 寛延元年　12月20日 曇　時々雨
1749年　2月8日 寛延元年　12月21日 曇　小雪
1749年　2月9日 寛延元年　12月22日 陰晴
1749年　2月10日 寛延元年　12月23日 曇　時々雪
1749年　2月11日 寛延元年　12月24日 曇　時々雪
1749年　2月12日 寛延元年　12月25日 快晴
1749年　2月13日 寛延元年　12月26日 陰晴
1749年　2月14日 寛延元年　12月27日 陰晴　雪時々　夜中に及ぶ
1749年　2月15日 寛延元年　12月28日 晴
1749年　2月16日 寛延元年　12月29日 曇　時々雪
1749年　2月17日 寛延2年　正月1日　陰晴　今朝時々小雪　(12月中出人都合256人(碇関249人(御国人150他国者83御印紙64・御国人16切手紙10)・野内御国人7人切手紙4))
1749年　2月18日 寛延2年　正月2日　快晴　夜中少々雪
1749年　2月19日 寛延2年　正月3日　曇　時々雪
1749年　2月20日 寛延2年　正月4日　快晴
1749年　2月21日 寛延2年　正月5日　快晴
1749年　2月22日 寛延2年　正月6日　快晴　明け方小雪
1749年　2月23日 寛延2年　正月7日　陰晴　辰の刻過ぎ時々雪
1749年　2月24日 寛延2年　正月8日　曇　時々雪
1749年　2月25日 寛延2年　正月9日　快晴
1749年　2月26日 寛延2年　正月10日　快晴
1749年　2月27日 寛延2年　正月11日　陰晴　(人事異動)
1749年　2月28日 寛延2年　正月12日　陰晴　卯の刻前雨

1749年　3月1日 寛延2年 正月13日　晴
1749年　3月2日 寛延2年 正月14日　晴
1749年　3月3日 寛延2年 正月15日　曇　辰の刻より雨時々
1749年　3月4日 寛延2年 正月16日　曇　終日雪　夜中大雪
1749年　3月5日 寛延2年 正月17日　陰晴　昨夜中の雪辰の下刻までに及ぶ　時々雪
1749年　3月6日 寛延2年 正月18日　曇　時々雪
1749年　3月7日 寛延2年 正月19日　陰晴　今朝少々小雪
1749年　3月8日 寛延2年 正月20日　陰晴
1749年　3月9日 寛延2年 正月21日　陰晴
1749年　3月10日 寛延2年 正月22日　晴　卯の刻より小雨　辰の刻晴
1749年　3月11日 寛延2年 正月23日　晴　(一族の下女が井の中で(不倫)変死)
1749年　3月12日 寛延2年 正月24日　陰晴　朝の内小雨時々
1749年　3月13日 寛延2年 正月25日　陰晴
1749年　3月14日 寛延2年 正月26日　陰晴　夜中大雪
1749年　3月15日 寛延2年 正月27日　陰晴　(12月中碇関:出91・入り96・出入り人数合214人、同大間越:出9・入り18・出入り人数合27人、同野内:出57・入り55・出入り人数合112人)
1749年　3月16日 寛延2年 正月28日　快晴
1749年　3月17日 寛延2年 正月29日　快晴
1749年　3月18日 寛延2年 正月30日　陰晴　夜中雪
1749年　3月19日 寛延2年　2月1日 曇　夜中より雪　(正月中出人都合536人(碇関534人(御国人485他国者31御印紙28・御国人18切手紙10)・野内他国者2人御印紙1))
1749年　3月20日 寛延2年　2月2日 曇　大雪吹　昨夜中より終日に及ぶ
1749年　3月21日 寛延2年　2月3日 快晴
1749年　3月22日 寛延2年　2月4日 晴
1749年　3月23日 寛延2年　2月5日 快晴
1749年　3月24日 寛延2年　2月6日 快晴　午の刻より小雨
1749年　3月25日 寛延2年　2月7日 快晴
1749年　3月26日 寛延2年　2月8日 快晴　(6日より7日までで早川口より十三まで明ける・去年より2日早く節に引合18日早い)
1749年　3月27日 寛延2年　2月9日 快晴
1749年　3月28日 寛延2年　2月10日 快晴
1749年　3月29日 寛延2年　2月11日 快晴　(8日朝六つ時過ぎ今別町で火災・58軒と借家5軒男1人馬5疋焼失・火元入寺)
1749年　3月30日 寛延2年　2月12日 快晴
1749年　3月31日 寛延2年　2月13日 快晴
1749年　4月1日 寛延2年　2月14日 快晴　(富田町で母が井に入り変死)
1749年　4月2日 寛延2年　2月15日 晴
1749年　4月3日 寛延2年　2月16日 陰晴
1749年　4月4日 寛延2年　2月17日 快晴
1749年　4月5日 寛延2年　2月18日 晴　小雨
1749年　4月6日 寛延2年　2月19日 快晴
1749年　4月7日 寛延2年　2月20日 快晴　(昨夜八つ時頃広須新田下福原村で火災家1軒外馬屋1軒小荷駄4疋焼失・火元村預け、正月中碇関:出入り合138人、同大間越:出入り合312人、同野内:出入り人数合75人)
1749年　4月8日 寛延2年　2月21日 曇
1749年　4月9日 寛延2年　2月22日 快晴
1749年　4月10日 寛延2年　2月23日 情晴(快晴の誤りか)
1749年　4月11日 寛延2年　2月24日 快晴　(20日昼四つ頃蟹田町で火災・本家86軒借家29軒馬1疋焼失)
1749年　4月12日 寛延2年　2月25日 快晴
1749年　4月13日 寛延2年　2月26日 快晴　(取上で2人斬罪)
1749年　4月14日 寛延2年　2月27日 曇　終日小雨
1749年　4月15日 寛延2年　2月28日 快晴　少々風
1749年　4月16日 寛延2年　2月29日 陰晴
1749年　4月17日 寛延2年　3月1日 曇　昨夜風雨時々小雨　終日に及ぶ　酉の上刻雷発す　(2月中出99人(碇関98人(御国人10他国者35御印紙35・御国人53切手紙21)・青森湊口御国人1人))
1749年　4月18日 寛延2年　3月2日 曇　巳の刻土用に入る　夜中より雨終日に及ぶ　(昨28日夜九時過ぎ頃後潟組長科村で火災・家2軒(3間×9間・4間×7間:百姓)外馬屋2軒(2間×4間×2)焼失、昨晩堀越組小栗山村で男縊死)
1749年　4月19日 寛延2年　3月3日 快晴
1749年　4月20日 寛延2年　3月4日 快晴
1749年　4月21日 寛延2年　3月5日 陰晴
1749年　4月22日 寛延2年　3月6日 陰晴
1749年　4月23日 寛延2年　3月7日 快晴
1749年　4月24日 寛延2年　3月8日 陰晴　時々風立つ　戌の刻過ぎより大風雨
1749年　4月25日 寛延2年　3月9日 陰晴
1749年　4月26日 寛延2年　3月10日 快晴　今朝大霜　(4日昼四時過ぎ横内組長森村で火災2軒(3間×2間×2:高無)・火元村預け)
1749年　4月27日 寛延2年　3月11日 曇　昨夜より雨　今朝に至る(至今朝ニ)　(8日夜油川組安田村で火災3軒(4間×5間・3間×4間・4間×5間:全部高無)・火元他村預け)
1749年　4月28日 寛延2年　3月12日 快晴
1749年　4月29日 寛延2年　3月13日 快晴
1749年　4月30日 寛延2年　3月14日 陰晴　夜に入り小雨

1749年　5月1日 寛延2年　3月15日 曇　朝の内小雨　午の上刻より雷強く発す　氷(ひょう・こおり・又はひと読む:おそらく雹)
1749年　5月2日 寛延2年　3月16日 曇
1749年　5月3日 寛延2年　3月17日 曇　午の下刻小雨　夜に及ぶ
1749年　5月4日 寛延2年　3月18日 晴
1749年　5月5日 寛延2年　3月19日 曇　午の刻より雨
1749年　5月6日 寛延2年　3月20日 曇　時々雨
1749年　5月7日 寛延2年　3月21日 曇　時々小雨
1749年　5月8日 寛延2年　3月22日 曇　小雨時々
1749年　5月9日 寛延2年　3月23日 快晴
1749年　5月10日 寛延2年　3月24日 曇　(2月中大間越:入り56・出入り合71人、同野内:出入り人数合117人、同碇関:出入り人数合382人)
1749年　5月11日 寛延2年　3月25日 晴　朝の内曇　(昨夜九時過ぎ駒越町で火災1軒駒1疋焼死・火元入寺)
1749年　5月12日 寛延2年　3月26日 快晴
1749年　5月13日 寛延2年　3月27日 曇
1749年　5月14日 寛延2年　3月28日 晴
1749年　5月15日 寛延2年　3月29日 晴　寅の刻過ぎ地震
1749年　5月16日 寛延2年　4月1日 快晴
1749年　5月17日 寛延2年　4月2日 快晴　(3月中出人都合322人(碇関320人(御国人71他国者60御印紙53・御国人189切手紙62)・大間越他国者1人・野内御国人1人))
1749年　5月18日 寛延2年　4月3日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ
1749年　5月19日 寛延2年　4月4日 陰晴
1749年　5月20日 寛延2年　4月5日 快晴
1749年　5月21日 寛延2年　4月6日 曇　辰の中刻雨　それより時々に及ぶ(夫より及時々)　(碇関組?大鰐・蔵館辺りに乞食15人内6人は秋田者・送り返す)
1749年　5月22日 寛延2年　4月7日 曇
1749年　5月23日 寛延2年　4月8日 陰晴　時々小雨
1749年　5月24日 寛延2年　4月9日 快晴
1749年　5月25日 寛延2年　4月10日 陰晴
1749年　5月26日 寛延2年　4月11日 快晴　朝の内霧　(3月中碇関:出入り人数合405人、同野内:出入り人数合120人、同大間越:出入り人数合64人)
1749年　5月27日 寛延2年　4月12日 快晴
1749年　5月28日 寛延2年　4月13日 快晴　(大坂の米相場2俵で45・6匁位・金60目5分)
1749年　5月29日 寛延2年　4月14日 曇　朝六時より雨　終日に及ぶ　(昨11日四時頃足軽目付の妻自害)
1749年　5月30日 寛延2年　4月15日 曇
1749年　5月31日 寛延2年　4月16日 快晴
1749年　6月1日 寛延2年　4月17日 陰晴
1749年　6月2日 寛延2年　4月18日 快晴
1749年　6月3日 寛延2年　4月19日 快晴
1749年　6月4日 寛延2年　4月20日 快晴
1749年　6月5日 寛延2年　4月21日 快晴
1749年　6月6日 寛延2年　4月22日 陰晴　時々小雨
1749年　6月7日 寛延2年　4月23日 快晴
1749年　6月8日 寛延2年　4月24日 陰晴
1749年　6月9日 寛延2年　4月25日 快晴　(御手廻り組の父縊死)
1749年　6月10日 寛延2年　4月26日 曇　卯の刻過ぎより小雨　(斬罪2人)
1749年　6月11日 寛延2年　4月27日 快晴　朝の内風立つ　終日に及ぶ　(百沢寺と和徳稲荷に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1749年　6月12日 寛延2年　4月28日 快晴
1749年　6月13日 寛延2年　4月29日 快晴
1749年　6月14日 寛延2年　4月30日 晴
1749年　6月15日 寛延2年　5月1日 快晴　(4月中御関所出人都合696人(碇関695人(御国人125他国者345御印紙132・御国人225切手紙75)・野内御国人1人切手紙1))
1749年　6月16日 寛延2年　5月2日 快晴　(秋田・南部の非人8人を送り返す)
1749年　6月17日 寛延2年　5月3日 曇
1749年　6月18日 寛延2年　5月4日 快晴
1749年　6月19日 寛延2年　5月5日 曇　昨夜中雨　今日終日に及ぶ　巳の刻過ぎ少々地震
1749年　6月20日 寛延2年　5月6日 曇　巳の刻過ぎより晴　夜に入り雨
1749年　6月21日 寛延2年　5月7日 曇　時々雨
1749年　6月22日 寛延2年　5月8日 晴
1749年　6月23日 寛延2年　5月9日 晴
1749年　6月24日 寛延2年　5月10日 陰晴　午の刻より雨
1749年　6月25日 寛延2年　5月11日 曇　終日大雨
1749年　6月26日 寛延2年　5月12日 陰晴
1749年　6月27日 寛延2年　5月13日 晴
1749年　6月28日 寛延2年　5月14日 快晴
1749年　6月29日 寛延2年　5月15日 陰晴
1749年　6月30日 寛延2年　5月16日 快晴

1749年　7月1日 寛延2年　5月17日 快晴
1749年　7月2日 寛延2年　5月18日 晴
1749年　7月3日 寛延2年　5月19日 晴
1749年　7月4日 寛延2年　5月20日 快晴
1749年　7月5日 寛延2年　5月21日 快晴
1749年　7月6日 寛延2年　5月22日 陰晴
1749年　7月7日 寛延2年　5月23日 晴　昨夜より今朝まで雨
1749年　7月8日 寛延2年　5月24日 陰晴　(4月中碇関:出入り人数合915人、同野内:出入り人数合206人、同大間越:出入り人数合33人)
1749年　7月9日 寛延2年　5月25日 快晴
1749年　7月10日 寛延2年　5月26日 快晴
1749年　7月11日 寛延2年　5月27日 快晴
1749年　7月12日 寛延2年　5月28日 快晴　夜に入り雨　(稲に虫付く)
1749年　7月13日 寛延2年　5月29日 陰晴　夜に入り雨　(大光組新里村に27・8男倒死)
1749年　7月14日 寛延2年　6月1日 曇　夜中小雨少々
1749年　7月15日 寛延2年　6月2日 曇　時々小雨
1749年　7月16日 寛延2年　6月3日 晴　夜に入り雨
1749年　7月17日 寛延2年　6月4日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1749年　7月18日 寛延2年　6月5日 陰晴
1749年　7月19日 寛延2年　6月6日 陰晴　巳の刻より土用に入る
1749年　7月20日 寛延2年　6月7日 晴
1749年　7月21日 寛延2年　6月8日 陰晴
1749年　7月22日 寛延2年　6月9日 曇　時々小雨
1749年　7月23日 寛延2年　6月10日 晴　未の刻過ぎ雨
1749年　7月24日 寛延2年　6月11日 曇　午の刻より小雨　未の刻より大雨　夜中に及ぶ　(去月17日火の見矢倉で火を漏らした足軽召し放ち)
1749年　7月25日 寛延2年　6月12日 快晴
1749年　7月26日 寛延2年　6月13日 快晴
1749年　7月27日 寛延2年　6月14日 快晴
1749年　7月28日 寛延2年　6月15日 快晴
1749年　7月29日 寛延2年　6月16日 快晴
1749年　7月30日 寛延2年　6月17日 曇　少し雨少々
1749年　7月31日 寛延2年　6月18日 快晴　夜に入り小雨
1749年　8月1日 寛延2年　6月19日 曇　終日雨
1749年　8月2日 寛延2年　6月20日 陰晴
1749年　8月3日 寛延2年　6月21日 曇　夜に入り雨　(先月中碇関:出入り人数合463人、同野内:出入り人数合188人、同大間越:41人)
1749年　8月4日 寛延2年　6月22日 曇
1749年　8月5日 寛延2年　6月23日 快晴　夜中雨
1749年　8月6日 寛延2年　6月24日 曇　時々小雨　丑の刻地震　(長勝寺境内で45・6男縊死、御馬廻が呼んだ按摩の座等を切り殺す)
1749年　8月7日 寛延2年　6月25日 陰晴
1749年　8月8日 寛延2年　6月26日 陰晴
1749年　8月9日 寛延2年　6月27日 陰晴　辰の刻より雨　午の下刻より晴
1749年　8月10日 寛延2年　6月28日 陰晴　午の刻小雨
1749年　8月11日 寛延2年　6月29日 曇　辰の上刻より雨　午の刻晴
1749年　8月12日 寛延2年　6月30日 曇　雨終日に及ぶ　申の刻過ぎより大風　明け方止む
1749年　8月13日 寛延2年　7月1日 陰晴
1749年　8月14日 寛延2年　7月2日 快晴　(6月中出123人(碇関120人(御国人17他国者81御印紙60・御国人22切手紙15)・野内3人(他国者2御印紙2・御国人1切手紙1))、国上寺等3寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1749年　8月15日 寛延2年　7月3日 陰晴　辰の中刻小雨
1749年　8月16日 寛延2年　7月4日 陰晴
1749年　8月17日 寛延2年　7月5日 快晴
1749年　8月18日 寛延2年　7月6日 快晴
1749年　8月19日 寛延2年　7月7日 快晴
1749年　8月20日 寛延2年　7月8日 快晴　(円明寺境内に50男縊死、先月晦日より朔日まで鰺ヶ沢大荒れ・破船15艘)
1749年　8月21日 寛延2年　7月9日 快晴
1749年　8月22日 寛延2年　7月10日 快晴　朝の内曇
1749年　8月23日 寛延2年　7月11日 快晴
1749年　8月24日 寛延2年　7月12日 曇　巳の刻過ぎより雨時々　(6月中碇関:出108・入り189・出入り人都合297人、同野内:出84・入り92・出入り人数合176人)
1749年　8月25日 寛延2年　7月13日 快晴
1749年　8月26日 寛延2年　7月14日 晴　巳の刻雨
1749年　8月27日 寛延2年　7月15日 曇　夜中より小雨　(11日後潟組阿弥陀川村で火災3軒(4間×11間:御蔵百姓・4間×10間:不明・4間×9間:不明)外馬屋3軒焼失・火元他村預け)
1749年　8月28日 寛延2年　7月16日 曇　朝の内小雨　夜中雨　(松前大火南部米切れに付き抜米に注意するよう指示)
1749年　8月29日 寛延2年　7月17日 快晴
1749年　8月30日 寛延2年　7月18日 快晴
1749年　8月31日 寛延2年　7月19日 快晴　(常盤組葛野村で17歳男が変死)

1749年　9月1日 寛延2年　7月20日 快晴 （大鰐村・大坊村より初米6箱上がる・去年7月28日今年は20日）
1749年　9月2日 寛延2年　7月21日 快晴　未の下刻雨暫く　雷発す
1749年　9月3日 寛延2年　7月22日 快晴
1749年　9月4日 寛延2年　7月23日 曇　辰の刻雷発す　巳の刻より雨時々小雨
1749年　9月5日 寛延2年　7月24日 曇 （17日後潟組左堰村で火災・火元村預け・免許、16日寺小路で木小屋焼失・火元慎・免許、朔日山(8月1日に岩木山に登る行事)今年は登山なし）
1749年　9月6日 寛延2年　7月25日 快晴
1749年　9月7日 寛延2年　7月26日 晴
1749年　9月8日 寛延2年　7月27日 快晴
1749年　9月9日 寛延2年　7月28日 快晴 （先月晦日洪水・各組田方水湛(町歩)：猿賀0.6・高杉37・広須25・広田175・同藻川新田32・藤代115・柏木20・飯詰20町歩）
1749年　9月10日 寛延2年　7月29日 快晴
1749年　9月11日 寛延2年　7月30日 快晴
1749年　9月12日 寛延2年　8月1日 曇　終日雨 （7月中出105人碇関101人(御国人13他国者54御印紙42・御国人34切手紙22)・野内御国人2人切手紙1・大間越御国人2人切手紙1）
1749年　9月13日 寛延2年　8月2日 晴　朝の内曇
1749年　9月14日 寛延2年　8月3日 陰晴
1749年　9月15日 寛延2年　8月4日 晴 （昨朔日岩木山風雨強く百沢寺の代僧登山・至って雪雨強く種蒔苗代(山頂の大分下)より漸く罷り帰る）
1749年　9月16日 寛延2年　8月5日 快晴
1749年　9月17日 寛延2年　8月6日 曇　午の刻より雨 （法源寺境内に非人?縊死）
1749年　9月18日 寛延2年　8月7日 陰晴
1749年　9月19日 寛延2年　8月8日 快晴
1749年　9月20日 寛延2年　8月9日 快晴
1749年　9月21日 寛延2年　8月10日 快晴
1749年　9月22日 寛延2年　8月11日 晴
1749年　9月23日 寛延2年　8月12日 快晴
1749年　9月24日 寛延2年　8月13日 晴　夜中小雨時々
1749年　9月25日 寛延2年　8月14日 曇　小雨時々　午の刻過ぎより晴 （10日佐竹様御逝去）
1749年　9月26日 寛延2年　8月15日 晴　丑の刻より雨暫 （7月中碇関：出104・出入り合245人・同大間越：出35・入り9・出入り合44人・同野内：出91・入り91・出入り合182人）
1749年　9月27日 寛延2年　8月16日 陰晴
1749年　9月28日 寛延2年　8月17日 曇　時々小雨
1749年　9月29日 寛延2年　8月18日 快晴
1749年　9月30日 寛延2年　8月19日 曇　終日雨
1749年　10月1日 寛延2年　8月20日 曇
1749年　10月2日 寛延2年　8月21日 快晴
1749年　10月3日 寛延2年　8月22日 快晴　午の刻過ぎより雨降　雷数度発す
1749年　10月4日 寛延2年　8月23日 快晴
1749年　10月5日 寛延2年　8月24日 陰晴　午の下刻より小雨　夜中止まず
1749年　10月6日 寛延2年　8月25日 快晴
1749年　10月7日 寛延2年　8月26日 曇　辰の刻過ぎより雨時々
1749年　10月8日 寛延2年　8月27日 陰晴　朝少々雨 （油川組油川村で19男絞殺される）
1749年　10月9日 寛延2年　8月28日 快晴　夜中雨　雷発す （先月15日葛野村における変死を他殺と認定）
1749年 10月10日 寛延2年　8月29日 曇　　下から続く　　大間越他国者1人御印紙1）
1749年 10月11日 寛延2年　9月1日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　昨晩岩木山江雪少々 （8月中出107人碇関97人(他国者76御印紙53・御国人21切手紙12)・野内9人(他国者3御印紙1・御国人6切手紙4)・　　上に続く
1749年 10月12日 寛延2年　9月2日 快晴 （昨夜御家中屋敷に(盗みに)入った23・4男が切り殺される）
1749年 10月13日 寛延2年　9月3日 快晴 （当年不作に付き酒造・菓子類・麺類作り無用とのこと）
1749年 10月14日 寛延2年　9月4日 快晴
1749年 10月15日 寛延2年　9月5日 曇　巳の刻より雨　それより晴
1749年 10月16日 寛延2年　9月6日 快晴
1749年 10月17日 寛延2年　9月7日 陰晴　昨夜中雨
1749年 10月18日 寛延2年　9月8日 曇　終日雨 （当年以ての外不作に付き御家中江申し触れ：供廻り減らせ・鑓持ち不要等）
1749年 10月19日 寛延2年　9月9日 曇　昨夜中より雨終日
1749年 10月20日 寛延2年　9月10日 曇　雨時々　終日に及ぶ　夜に入り雷風雨
1749年 10月21日 寛延2年　9月11日 曇　岩木山江雪見る　霜降る
1749年 10月22日 寛延2年　9月12日 快晴
1749年 10月23日 寛延2年　9月13日 曇　巳の刻雨時々
1749年 10月24日 寛延2年　9月14日 快晴　戌の刻より時々雨
1749年 10月25日 寛延2年　9月15日 曇　時々雨 （11日後方組山崎村で火災6軒・火元村預け、先月中野内：出入り人数合160人）
1749年 10月26日 寛延2年　9月16日 快晴　朝の内曇　丸雪少々
1749年 10月27日 寛延2年　9月17日 快晴　大霜　夜中雨　午の刻前雷暫く発す （昨16日堀越組松木平村で火災・火元給地百姓呵置く）
1749年 10月28日 寛延2年　9月18日 快晴　霜少々 （昨朝堀越組境関村で火災(2間×3間：高無)・火元村預け）
1749年 10月29日 寛延2年　9月19日 曇　辰の刻より雨終日
1749年 10月30日 寛延2年　9月20日 曇
1749年 10月31日 寛延2年　9月21日 陰晴 （松木平村の火元の押込め免許、時鐘撞きは4人扶持）

1749年　11月1日 寛延2年　　9月22日 快晴　今朝大霜　(昨18日夜飯詰組飯詰村で火災外馬屋(2間×3間)焼失・給地百姓火元戸〆)
1749年　11月2日 寛延2年　　9月23日 曇　子の刻より雨　終日に及ぶ　夜に入り霜少々
1749年　11月3日 寛延2年　　9月24日 曇　今朝初雪　雨終日　(米作不作隣国も……15ページにわたる対策あり)
1749年　11月4日 寛延2年　　9月25日 曇　時々雨
1749年　11月5日 寛延2年　　9月26日 曇　(6月21日にあんまを切り捨てた(6月24日記述)御馬廻の身上召し上げ)
1749年　11月6日 寛延2年　　9月27日 快晴　今朝大霜　(16日飯詰村の火元の戸〆差免)
1749年　11月7日 寛延2年　　9月28日 晴　朝少々霜
1749年　11月8日 寛延2年　　9月29日 晴
1749年　11月9日 寛延2年　　9月30日 快晴　今朝霜　申の下刻より夜中雨
1749年 11月10日 寛延2年　　10月1日 曇　朝の内雨少々　(9月中出人都合90人碇関93人(御国人12他国者34御印紙28・御国人47切手紙21)・大間越御国人3人切手紙2・野内御国人3人切手紙1)
1749年 11月11日 寛延2年　　10月2日 陰晴　夜中小雨　(西大工町に縊死)
1749年 11月12日 寛延2年　　10月3日 曇　巳の下刻小雨
1749年 11月13日 寛延2年　　10月4日 陰晴　(青森安方・蜆貝町の漁師共290人分の御救い米申し立て・再申請を申し付ける、鍛冶町で男縊死、(6日前)広須新田木筒村で火災・火元村預け・6日たち免許)
1749年 11月14日 寛延2年　　10月5日 陰晴
1749年 11月15日 寛延2年　　10月6日 曇　辰の下刻小雨　同刻晴ル　(昨夜御家中の下女縊死、取上で斬罪4人)
1749年 11月16日 寛延2年　　10月7日 陰晴
1749年 11月17日 寛延2年　　10月8日 晴　卯の上刻地震
1749年 11月18日 寛延2年　　10月9日 快晴　今朝雪
1749年 11月19日 寛延2年　10月10日 快晴
1749年 11月20日 寛延2年　10月11日 陰晴　(先月中碇関:出入り人数合217人、同大間越:出入り人数合53人、同野内:出入り人数合138人)
1749年 11月21日 寛延2年　10月12日 陰晴　今朝雪終日　夜中に及ぶ
1749年 11月22日 寛延2年　10月13日 曇　雪時々
1749年 11月23日 寛延2年　10月14日 晴　夜中より雨
1749年 11月24日 寛延2年　10月15日 曇　終日雨
1749年 11月25日 寛延2年　10月16日 曇　終日小雨
1749年 11月26日 寛延2年　10月17日 曇　雨時々
1749年 11月27日 寛延2年　10月18日 陰晴　(神明宮・赤田組板屋野木村龍渕寺にそれぞれ50男倒死)
1749年 11月28日 寛延2年　10月19日 晴
1749年 11月29日 寛延2年　10月20日 快晴
1749年 11月30日 寛延2年　10月21日 快晴
1749年　12月1日 寛延2年　10月22日 曇　午の刻より小雨降　夜中大雨
1749年　12月2日 寛延2年　10月23日 曇　卯の刻過ぎより風雨終日　夜中まで
1749年　12月3日 寛延2年　10月24日 曇　終日風雨　午の刻より霰　(当作毛先年亥年(1743・寛保3年か)以来の不作に付き……)
1749年　12月4日 寛延2年　10月25日 曇　霜終日　(9月28日浅草で献上の鷹に付き添いの者が馬を切られる・馬を切りし者阿かり屋江参り候由)
1749年　12月5日 寛延2年　10月26日 快晴　夜中雪少々
1749年　12月6日 寛延2年　10月27日 曇　終日夜雪
1749年　12月7日 寛延2年　10月28日 曇　終日雪
1749年　12月8日 寛延2年　10月29日 快晴
1749年　12月9日 寛延2年　10月30日 快晴
1749年 12月10日 寛延2年　　11月1日 陰晴　(10月中出76人(碇関70人(他国者50御印紙42・御国人20切手紙13)・大間越2人(他国者1・御国人1)・野内御国者4人切手紙1))
1749年 12月11日 寛延2年　　11月2日 快晴　(藤代組町田村で盗人にさばさきで刺された男が29日死亡)
1749年 12月12日 寛延2年　　11月3日 曇
1749年 12月13日 寛延2年　　11月4日 快晴
1749年 12月14日 寛延2年　　11月5日 快晴　夜中雨
1749年 12月15日 寛延2年　　11月6日 曇　朝の内雨暫くして止む(朝之内雨暫止)　昼過ぎ又々雨
1749年 12月16日 寛延2年　　11月7日 晴　時々雪吹
1749年 12月17日 寛延2年　　11月8日 快晴
1749年 12月18日 寛延2年　　11月9日 晴　(最勝院寺庵の門前に40男縊死、青森町の米相場:1俵につき33匁)
1749年 12月19日 寛延2年　10月10日 快晴
1749年 12月20日 寛延2年　11月11日 曇　辰の下刻より雨時々　雷発す　(諸手六番組並足軽山上源次郎から28歳源七に)
1749年 12月21日 寛延2年　11月12日 曇　今日より冬至入り　夜中大雪
1749年 12月22日 寛延2年　11月13日 曇　夜中より大雪降
1749年 12月23日 寛延2年　11月14日 陰晴
1749年 12月24日 寛延2年　11月15日 陰晴
1749年 12月25日 寛延2年　11月16日 陰晴
1749年 12月26日 寛延2年　11月17日 快晴　(9日後潟組松ヶ崎村で火災・類焼あり他村預け・免許、10月中碇関:出96・入り81・出入り人数合177人、同大間越:出34・入り21・出入り人数合55人、同野内:出67・入り78・出入り合145人)
1749年 12月27日 寛延2年　11月18日 陰晴　朝の内小雨
1749年 12月28日 寛延2年　11月19日 快晴　(不作に付き御家中への渡し方4～5割引に……)　　下から続く　　(4間×10間:百姓)外馬屋・馬2疋・米6俵・稲3500束等焼失)
1749年 12月29日 寛延2年　11月20日 陰晴　(16日夜金木組小泊村で火災5軒焼失、17日夜柏木組瀧井村で外馬屋(2間×2間)焼失・火元村預け、17日赤石組嶋村で火災・類火あり、17日金木組嘉瀬村で火災　　上に続く
1749年 12月30日 寛延2年　11月21日 曇　小雪時々
1749年 12月31日 寛延2年　11月22日 快晴　(当年御領分中元禄八年以来之不作……)

1750年　1月1日 寛延2年　11月23日 陰晴　午の刻より小雨　(17日嶋村の火災16軒(百姓7軒・高無9軒)・火元村預け)
1750年　1月2日 寛延2年　11月24日 曇　時々小雨　(19日横内組泉野村で火災・火元村預け、嘉瀬村・小泊村・嶋村の火元の村預け免許、19日油川組小国村で火災3軒・火元村預け)
1750年　1月3日 寛延2年　11月25日 快晴
1750年　1月4日 寛延2年　11月26日 曇　朝の内雨
1750年　1月5日 寛延2年　11月27日 快晴　夜戌の刻より寒入　(19日夜泉野村の村預け・小国村の他村預け・中里村の他村預けの火元免許)
1750年　1月6日 寛延2年　11月28日 曇　巳の刻雨　(酒屋は(不作のためか)夜中に酒売り候に付き……)
1750年　1月7日 寛延2年　11月29日 快晴
1750年　1月8日 寛延2年　12月1日 快晴　(11月中所々御関所出人都合64人(碇関70人(他国者50御印紙34・御国者20切手紙10)・野内御国者2人)、御救い米大人1日3合・10歳以下2合)
1750年　1月9日 寛延2年　12月2日 快晴　(先月28日金木組中里村で火災2軒と外馬屋焼失・火元他村預け)
1750年　1月10日 寛延2年　12月3日 陰晴　夜中雪
1750年　1月11日 寛延2年　12月4日 曇　(一昨2日暮六時頃尾崎組柏木村で火災3軒と外馬屋2軒焼失・火元他村預け、去月27日夜増館組下十川村で火災・火元村預け)
1750年　1月12日 寛延2年　12月5日 快晴
1750年　1月13日 寛延2年　12月6日 快晴　昨夜酉の刻より地震
1750年　1月14日 寛延2年　12月7日 陰晴　(当年耕作初:種浸2月8日・田打18日・種蒔3月7日・くれかき16日・田植4月19日・草取5月11日・出穂6月18日・稲刈8月28日・稲村納10月10日)
1750年　1月15日 寛延2年　12月8日 曇　辰の中刻過ぎ小雨　夜中より雪降　(一昨6日夜和徳組悪戸村で火災・火元村預け)
1750年　1月16日 寛延2年　12月9日 曇　時々雪
1750年　1月17日 寛延2年　12月10日 曇　雪終日に及ぶ　下から続く　御蔵百姓・稲乳2つ900束・次籾4石8斗・蕎麦1石2斗・稗8斗、4間半×8間半:不明・次籾4石・蕎麦1石・稗8斗、2間半×3間:不明、3間×3間半:不明)焼失)
1750年　1月18日 寛延2年　12月11日 曇　朝の内雷　(8日夜後潟組四戸橋村で火災6軒(3間半×12間:給地百姓・籾5石・蕎麦1石5斗・稗2石2斗・馬5疋、3間半×7間:給地百姓・次籾3石5斗・稗1石2斗、3間半×12間:　上に続く
1750年　1月19日 寛延2年　12月12日 快晴
1750年　1月20日 寛延2年　12月13日 陰晴　夜中小雪
1750年　1月21日 寛延2年　12月14日 陰晴　朝の内小雪　下から続く　・免許、柏木組瀧井村で火災・火元村預け・免許、8日四戸橋村の火元戸〆)
1750年　1月22日 寛延2年　12月15日 曇　(6日前(10日か)田舎館組東光寺村に火災・(多分村預け)免許、7日夜後潟組大川平村で火災2軒(3間半×5間:高無・馬5疋、4間×5間:高無・馬1疋焼失)・火元村預け　上に続く
1750年　1月23日 寛延2年　12月16日 快晴　下から続く　:入り53・出入り合109人)
1750年　1月24日 寛延2年　12月17日 快晴　(12日夜油川組野田村で火災3軒・火元村預け、油川組新城村で高無が女房を打殺す、11月中碇関:入り83・出入り合181人、同大間越:入り44・出入り合157人、同野内　上に続く
1750年　1月25日 寛延2年　12月18日 陰晴　(5月に御出奔の御家中の嫡子が昨夜帰宅・縊死)
1750年　1月26日 寛延2年　12月19日 曇　時々雪
1750年　1月27日 寛延2年　12月20日 陰晴　(12日後潟組(17日に油川組野田村としたものか)・同日赤石組赤石村・(多分)15日高杉組高杉村で火災・火元村預け・免許)
1750年　1月28日 寛延2年　12月21日 快晴　(この頃非人小屋がたくさんできて粥を支給している)
1750年　1月29日 寛延2年　12月22日 陰晴
1750年　1月30日 寛延2年　12月23日 陰晴　(この夏蒔き付けの麦の反別の記録:1253町余)　下から続く　火災(家と外馬屋・米5斗・籾9石1斗・蕎麦2石・稗7石・大豆8斗焼失)・火元村預け)
1750年　1月31日 寛延2年　12月24日 快晴　甚寒　(21日金木組宮野沢村で火災(4間×8間:高無・籾11俵焼失)、大鰐村の初米担当を三太郎に、20日広須組木作村で火災3軒・火元他村預け、昨夜後潟組左堰村で　上に続く
1750年　2月1日 寛延2年　12月25日 快晴
1750年　2月2日 寛延2年　12月26日 晴
1750年　2月3日 寛延2年　12月27日 陰晴　(昨夜尾崎組柏木村で火災・火元相百姓預け、昨夜広田組藻川村で火災・火元村預け、20日左関村・21日宮野沢村・22日藻川村・20日木作村の火元の村預け免許)
1750年　2月4日 寛延2年　12月28日 曇　時々雪　(最勝院寺庵の門に40男縊死、昨夜増館組富柳村で火災(3間×4間・馬1疋・米1俵3斗・粟4俵焼失)、25日広須新田橘村で火災2軒(4間×9間:人寄せ　下の欄外(*)に続く
1750年　2月5日 寛延2年　12月29日 陰晴　雪吹　(25日橘村の火元の村預け免許、26日広須新田鶴美里村で火災1軒・馬4疋焼失・火元村預け、27日油川組鹿渡沼村で火災・火元村預け)
1750年　2月6日 寛延2年　12月30日 陰晴　(油川・青森の町人約20人に戸〆、27日金木組中里村で火災(3間×4間:高無)・火元村預け、28日夜青森米町で投げ火、昨夜猿賀組日沼村で火災・火元村預け)
1750年　2月7日 寛延3年　正月1日　晴
1750年　2月8日 寛延3年　正月2日　快晴
1750年　2月9日 寛延3年　正月3日　快晴
1750年　2月10日 寛延3年　正月4日　快晴　午の下刻より小雨
1750年　2月11日 寛延3年　正月5日　陰晴　時々雪
1750年　2月12日 寛延3年　正月6日　晴　時々小雨　下から続く　幸畑村で外馬屋焼失・火元村預け)
1750年　2月13日 寛延3年　正月7日　曇　(去月晦日大鰐組唐牛村・油川組阿弥陀川村で火災・火元村預け、3日金木組小泊村で火災8軒・火元他村預け、同日尾崎組町居村で火災3軒・馬1疋焼失、去月29日横内組　上に続く
1750年　2月14日 寛延3年　正月8日　快晴　(12月晦日唐牛村・阿弥陀川村と29日幸畑村の村預け免許)
1750年　2月15日 寛延3年　正月9日　陰晴
1750年　2月16日 寛延3年　正月10日　晴　(3日夜尾崎組町居村の百姓預け・12月29日猿賀組日沼村の火元の村預け免許)
1750年　2月17日 寛延3年　正月11日　快晴
1750年　2月18日 寛延3年　正月12日　曇　小雪　(昨10日和徳組黒滝村で火災5軒・火元他村預け、10日夜常盤組中嶋村で火災、3日小泊村・5日中里村の火元の他村・村預け免許)
1750年　2月19日 寛延3年　正月13日　晴
1750年　2月20日 寛延3年　正月14日　晴　(11日夜油川組石神村で火災(4間×9間:給地百姓・外馬屋・雑駄10疋焼失)・火元相百姓預け(村預け)、9日夜油川組飛鳥村で火災(3間×10間:御蔵百姓)・火元村預け)
1750年　2月21日 寛延3年　正月15日　陰晴　辰の中刻地震少々　(11日夜金木組嘉瀬村で火災・火元村預け、13日夜大光寺組苗生松村で外馬屋火災・火元村預け)
1750年　2月22日 寛延3年　正月16日　陰晴
1750年　2月23日 寛延3年　正月17日　快晴
1750年　2月24日 寛延3年　正月18日　快晴
1750年　2月25日 寛延3年　正月19日　快晴
1750年　2月26日 寛延3年　正月20日　曇　夜中小雨　(赤石組中村で殺人事件)
1750年　2月27日 寛延3年　正月21日　曇　終日水雪
1750年　2月28日 寛延3年　正月22日　曇　時々小雪
(*)　・馬2疋、2間×3間:借家)・火元他村預け)

1750年　3月1日 寛延3年 正月23日　陰晴　朝の内小雪少々
1750年　3月2日 寛延3年 正月24日　快晴　朝少々霜
1750年　3月3日 寛延3年 正月25日　快晴
1750年　3月4日 寛延3年 正月26日　曇
1750年　3月5日 寛延3年 正月27日　曇　今朝時々丸雪　(非人江粥下されたのは去月12月8日より、非人の収容数・死者数などあり)
1750年　3月6日 寛延3年 正月28日　快晴　(12月中碇関:出112・入り70・出入人数合182人、同野内:出41・入り61・出入合102人、同大間越:出15・入り15・出入人数合30人、23日夜油川組孫内村で火災・雑駄2疋・火元村預け)
1750年　3月7日 寛延3年 正月29日　晴
1750年　3月8日 寛延3年　2月1日 晴　酉の刻小雨　(去28日尾崎組尾崎村で火災2軒外馬屋1軒駒1疋焼失・火元他村預け、正月中出32人(碇関31人(他国者16御印紙13・御国人15切手紙7)・野内御国人1人切手紙1枚))
1750年　3月9日 寛延3年　2月2日 快晴　(昨晩青森米町で火災)
1750年　3月10日 寛延3年　2月3日 快晴　今朝霜　(昨夜青森米町に投げ火・3軒焼失、十三潟明ける)
1750年　3月11日 寛延3年　2月4日 曇　終日小雨時々
1750年　3月12日 寛延3年　2月5日 晴　卯の刻過ぎより雨降
1750年　3月13日 寛延3年　2月6日 陰晴　午の中刻より晴　(去10月町田村の殺人(11月2日記述)者など3人斬罪)
1750年　3月14日 寛延3年　2月7日 晴　(2日夜後潟組前田村で火災(5間×5間・5間×2間:御蔵百姓)・火元村預け)
1750年　3月15日 寛延3年　2月8日 曇　夜中雪少々
1750年　3月16日 寛延3年　2月9日 曇　卯の刻過ぎより雨降　(最勝院で五穀成就と時疫除けの御祈祷を計画?)
1750年　3月17日 寛延3年　2月10日 快晴　昨夜風立つ　(昨7日夜駒越組相馬村で火災(4間×9間半:百姓・馬4疋焼失)・火元相百姓預け、藤代組田代村に45・6男倒死)
1750年　3月18日 寛延3年　2月11日 陰晴
1750年　3月19日 寛延3年　2月12日 快晴　夜に入り雨
1750年　3月20日 寛延3年　2月13日 曇　小雪　未の刻雷発す
1750年　3月21日 寛延3年　2月14日 曇　終日雪
1750年　3月22日 寛延3年　2月15日 快晴
1750年　3月23日 寛延3年　2月16日 陰晴
1750年　3月24日 寛延3年　2月17日 晴　彼岸に入る　(13日後潟組石崎前浜で破船1艘、昨夜久渡寺門前で火災(2間×3間:高無)・火元逼塞、今日風激しく候に付き……)
1750年　3月25日 寛延3年　2月18日 晴　午の下刻小風　申の刻雨
1750年　3月26日 寛延3年　2月19日 曇　風終日
1750年　3月27日 寛延3年　2月20日 快晴　夜中より雪
1750年　3月28日 寛延3年　2月21日 曇　朝の内雪　終日風雨　(在々浦々で時疫流行・最勝院で御祈祷・御札出す、例年より雪が遅く消えた・農作業の遅れがないよう指示)　下から続く　・入り31・出入り人数合60人)
1750年　3月29日 寛延3年　2月22日 曇　朝の内雪降　(一昨20日夜飯詰組松野木村で火災2軒と外馬屋、正月中碇関:出27・入り69・出入り合人数114人、同大間越:出16・入り97・出入り合114人、同野内:出29　上に続く
1750年　3月30日 寛延3年　2月23日 快晴
1750年　3月31日 寛延3年　2月24日 陰晴　午の中刻小雨
1750年　4月1日 寛延3年　2月25日 快晴　朝の内小雪少々　(慈雲院境内墓所に40余男縊死、22日夜油川組新城村(1軒と外馬屋)・津軽坂村(2軒)に火災・前者村預け後者他村預け)
1750年　4月2日 寛延3年　2月26日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ　下から続く　大泊で火災・火元他村預け)
1750年　4月3日 寛延3年　2月27日 曇　午の刻過ぎより小雨　夜中雪5寸程降　(20日広須新田平野村・21日同蓮川村・22日新城村・同日津軽坂村で火災・前3者村預け津軽坂村は他村預け、昨20日後潟組今別領　上に続く
1750年　4月4日 寛延3年　2月28日 陰晴　朝の内雪降
1750年　4月5日 寛延3年　2月29日 陰晴　(後潟組野田から南部領に出た漁船が19日の風でふす泊というところで破船3艘・15人中6人死亡)
1750年　4月6日 寛延3年　2月30日 快晴
1750年　4月7日 寛延3年　3月1日 陰晴　(去る16日夜蟹田町で土蔵焼失)
1750年　4月8日 寛延3年　3月2日 快晴
1750年　4月9日 寛延3年　3月3日 快晴　(2月中出人都合46人(碇関他国者28人御印紙24・御国人18人切手紙10))
1750年　4月10日 寛延3年　3月4日 快晴
1750年　4月11日 寛延3年　3月5日 曇　辰の刻過ぎ雷発す　巳の刻過ぎより雨降
1750年　4月12日 寛延3年　3月6日 快晴　(昨夜堀越組福村で火災・火元村預け)　下から続く　火災・家10軒と外馬屋2軒焼失・火元他村預け、斬罪1人)
1750年　4月13日 寛延3年　3月7日 曇　辰の刻より大風雨　終日に及ぶ　申の刻より子の刻まで大洪水　十分余の水　(岩木・土淵川洪水、一昨4日浪岡組王余魚沢村で火災1軒駄馬1疋・火元村預け、浦町組で　上に続く
1750年　4月14日 寛延3年　3月8日 晴　朝の内小雨　夜中小雪　(藤崎川洪水・仮橋流失・不通、狼あれ候に付から鉄砲打ちたいとの申し出でを断る)
1750年　4月15日 寛延3年　3月9日 快晴　(古懸不動尊が一昨7日御出汗・五山で御祈祷)
1750年　4月16日 寛延3年　3月10日 陰晴　(?月碇関:出52・入り74・出入り人都合126人、同大間越:出25・入り85・出入り人数合110人、同野内:出30・入り39. 出入り人数合69人)
1750年　4月17日 寛延3年　3月11日 陰晴　小雨時々　(三新田桑野木田村に7日夜から8日の洪水で男3人女14人流れ寄せる・18・9歳男倒死、7日夜百沢寺に盗人・手向かいあり突き殺す)
1750年　4月18日 寛延3年　3月12日 快晴　(十三の2里南に破船1艘・死者1人、7日十三の浜で破船1艘)
1750年　4月19日 寛延3年　3月13日 快晴　辰の四刻土用に入る
1750年　4月20日 寛延3年　3月14日 快晴
1750年　4月21日 寛延3年　3月15日 曇　卯の刻過ぎより小雨　(十三町の人数1014人、11日夜赤田組大巻村で火災・火元村預け)
1750年　4月22日 寛延3年　3月16日 曇　雨終日に及ぶ　夜中小雨　(岩木川洪水)
1750年　4月23日 寛延3年　3月17日 陰晴　(岩木川水防活動、大間越町の者共当月分飯米として御蔵米70俵御払い願・15俵を1俵31匁で払い出す)
1750年　4月24日 寛延3年　3月18日 快晴　風立つ　(昼平岡町で馬屋火災・火元戸〆)
1750年　4月25日 寛延3年　3月19日 快晴　風　(投げ火あり・町回り強化)
1750年　4月26日 寛延3年　3月20日 陰晴　夜中風雨　(17日夜油川組三内村で火災・火元村預け、本町五丁目に投げ火・今朝新鍛冶町でも)
1750年　4月27日 寛延3年　3月21日 晴　巳の刻より風
1750年　4月28日 寛延3年　3月22日 陰晴　風吹　(神明宮へ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1750年　4月29日 寛延3年　3月23日 快晴　(大間越町奉行から鉄砲玉などの要求・半分出す)　下から続く　火災(1間半×2間:高無)・火元村預け、油川村の抜け米者に過料等仰せ付ける)
1750年　4月30日 寛延3年　3月24日 快晴　夜中雨　(一昨22日浪岡組高屋敷村で火災2軒(4間×9間:給地百姓・2間×3間:不明)・外馬屋焼失、19日油川組津軽坂で山火事(100間×25・6間)、21日浪岡組竹鼻村で　上に続く

1750年　5月1日 寛延3年　3月25日 曇　辰の刻雨
1750年　5月2日 寛延3年　3月26日 曇　時々雨 （青森の抜け米者に過料など）
1750年　5月3日 寛延3年　3月27日 曇 （23日夜飯詰組金山領長者森で野火（250間×100間））
1750年　5月4日 寛延3年　3月28日 快晴 （21日夜油川組大泊村で火災2軒）
1750年　5月5日 寛延3年　3月29日 晴 （24日後潟組蓬田村で火災6軒（百姓2・高無4、百姓で種籾1石8斗と1石2斗焼失）、同日広須新田増館村で火災1軒種籾40俵（2斗6升入り）など焼失）
1750年　5月6日 寛延3年　4月1日 快晴 （3月中出人都合166人（碇関163人（御国人16他国者43御印紙40・御国人104切手紙40）・野内御国人3人切手紙2））　下から続く　川成等、畑方66町歩余・　下の欄外(*)に続く
1750年　5月7日 寛延3年　4月2日 快晴 （昨夜大鰐組長峰村で火災6軒外馬屋4軒・種籾は蒔き入れ後で焼失なし、24日昼大鰐組大鰐村の館山で野火（50間余×30間余）、先月7日16日の被害：田方200町歩余・　上に続く
1750年　5月8日 寛延3年　4月3日 快晴　夜中雨
1750年　5月9日 寛延3年　4月4日 曇　終日雨 （29日油川組孫内村で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1750年　5月10日 寛延3年　4月5日 快晴 （朔日夜浦町組大野村で火災・火元村預け、103人の町人に約1万石の用立てを申し付ける、浪岡組浪岡村で子供?死亡）
1750年　5月11日 寛延3年　4月6日 快晴
1750年　5月12日 寛延3年　4月7日 曇 （昨3日夜油川組飛鳥村で火災4軒・火元他村預け、青森町では旧冬より非人小屋で粥の炊き出し・御救い米願・沙汰）
1750年　5月13日 寛延3年　4月8日 曇　未の中刻より小雨　下から続く　同野内：出47・入り49人）
1750年　5月14日 寛延3年　4月9日 陰晴　未の刻より小雨暫く （和徳稲荷に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、6日後潟組後潟村で火災2軒・火元他村預け、3月中碇関：出356・入り188人、同大間越：出15・入り14人、　上に続く
1750年　5月15日 寛延3年　4月10日 晴　風立つ
1750年　5月16日 寛延3年　4月11日 快晴
1750年　5月17日 寛延3年　4月12日 曇　卯の刻より小雨時々　巳の刻過ぎより晴 （本町五丁目に7日投げ火）
1750年　5月18日 寛延3年　4月13日 快晴
1750年　5月19日 寛延3年　4月14日 快晴
1750年　5月20日 寛延3年　4月15日 快晴　夜中小雨 （9日夜と11日夜広須新田長浜村で火災（4間×8間：百姓・3間×5間：庄屋）・火元共に村預け）
1750年　5月21日 寛延3年　4月16日 陰晴
1750年　5月22日 寛延3年　4月17日 快晴 （14日夜金木組持子沢村で火災1軒、13日油川組新城村で火災・火元村預け）
1750年　5月23日 寛延3年　4月18日 快晴
1750年　5月24日 寛延3年　4月19日 快晴　巳の刻地震 （17日夜大鰐組大鰐村に火災23軒・火元他村預け、18日大光寺組長田村で火災）
1750年　5月25日 寛延3年　4月20日 快晴　未の下刻風雨　雷発す　申の下刻止む （18日夜本町一丁目に投げ火、18日長田村の火元親類預け、上人参1両（4匁か）代金5両）
1750年　5月26日 寛延3年　4月21日 快晴　朝の内少々風
1750年　5月27日 寛延3年　4月22日 曇　辰の刻過ぎより雨
1750年　5月28日 寛延3年　4月23日 快晴
1750年　5月29日 寛延3年　4月24日 曇 （21日小泊入津中の水夫病死、猿賀組日沼村・その他の村に試苗（早収種を探しているのか））
1750年　5月30日 寛延3年　4月25日 快晴 （四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、飯詰組下石川村に盗人・包丁で手向かい打殺される）
1750年　5月31日 寛延3年　4月26日 曇　巳の下刻過ぎ小雨　夜中雨 （昨夜和徳組高崎村で火災（2間半×4間：御蔵百姓）・火元村預け、斬罪2人獄門1人）
1750年　6月1日 寛延3年　4月27日 陰晴　朝の内小雨
1750年　6月2日 寛延3年　4月28日 快晴　朝の内霞 （25日夜横内組平新田村で火災2軒馬屋2軒・火元他村預け）
1750年　6月3日 寛延3年　4月29日 陰晴　朝の内雷発す　巳の刻小雨　申の刻大雨　夜に及ぶ （所々から植え初めの報）　下から続く　（3間×2間：高無）、（25日の）高崎村・平新田村の火元の村預け免許）
1750年　6月4日 寛延3年　5月1日 晴 （4月中出人189人（碇関181人（御国人34他国者63御印紙37・御国人84切手紙28）・野内御国人5人切手紙3・青森湊口3人切手紙1）、先月27日夜油川組津軽坂村で火災　上に続く
1750年　6月5日 寛延3年　5月2日 陰晴　朝の内曇小雨
1750年　6月6日 寛延3年　5月3日 陰晴
1750年　6月7日 寛延3年　5月4日 晴 （去月29日赤石組深谷村で火災（3間半×9間：高無）雑駄4疋焼失・火元村預け）
1750年　6月8日 寛延3年　5月5日 曇　時々小雨 （3日横内組桑原村で火災（3間×8間：百姓）外馬屋3軒焼失・火元他村預け、昨23日申の刻江戸で大風雨・氷雹しく降る・所々破損（江戸日記にも丸雪とあるが大きさなどなし））
1750年　6月9日 寛延3年　5月6日 曇
1750年　6月10日 寛延3年　5月7日 陰晴
1750年　6月11日 寛延3年　5月8日 快晴
1750年　6月12日 寛延3年　5月9日 快晴 （3日桑原村の金木組相内村の火元の村預け免許）
1750年　6月13日 寛延3年　5月10日 曇　辰の下刻より雨　午の下刻より晴 （4月中碇関：出入人数合218人、同大間越31人、同野内138人）
1750年　6月14日 寛延3年　5月11日 曇　時々小雨 （昨夜御家老棟方作右衛門病死）
1750年　6月15日 寛延3年　5月12日 曇　時々小雨
1750年　6月16日 寛延3年　5月13日 曇　巳の刻小雨
1750年　6月17日 寛延3年　5月14日 曇　朝の内小雨少々
1750年　6月18日 寛延3年　5月15日 快晴　朝の内曇
1750年　6月19日 寛延3年　5月16日 曇　朝の内小雨
1750年　6月20日 寛延3年　5月17日 曇　朝の内小雨　午の刻より大雨　終日に及ぶ
1750年　6月21日 寛延3年　5月18日 曇
1750年　6月22日 寛延3年　5月19日 晴
1750年　6月23日 寛延3年　5月20日 曇　午の刻雨少々 （馬屋町外馬場土居外に27・8女倒死、12日藤崎組藤崎村に25男倒死）
1750年　6月24日 寛延3年　5月21日 快晴 （今年は一粒金丹調合差扣（差控え））
1750年　6月25日 寛延3年　5月22日 快晴
1750年　6月26日 寛延3年　5月23日 晴
1750年　6月27日 寛延3年　5月24日 陰晴　朝の内雨
1750年　6月28日 寛延3年　5月25日 快晴
1750年　6月29日 寛延3年　5月26日 快晴
1750年　6月30日 寛延3年　5月27日 快晴

(*) 川除け堤82か所、橋101か所、家33軒等、なぜか死者なし）

1750年　7月1日 寛延3年　5月28日 陰晴
1750年　7月2日 寛延3年　5月29日 快晴
1750年　7月3日 寛延3年　5月30日 快晴
1750年　7月4日 寛延3年　6月1日 快晴 （5月中出175人（碇関164人（御国人12他国者101御印紙55・御国人51切手紙22）・野内御国人11人切手紙2）、去29日夜碇関町で火災6軒馬1疋焼失）
1750年　7月5日 寛延3年　6月2日 快晴 （火罪1人分の消耗品リストあり、5月28日横内組浅虫村で火災3軒）
1750年　7月6日 寛延3年　6月3日 快晴 朝の内小風
1750年　7月7日 寛延3年　6月4日 快晴 朝の内小風 亥の下刻より風雨 （東風吹き続き五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1750年　7月8日 寛延3年　6月5日 曇 夜中より雨
1750年　7月9日 寛延3年　6月6日 曇 昨夜中より時々小雨 （火罪1・斬罪1・磔2）
1750年　7月10日 寛延3年　6月7日 晴 午の刻過ぎより雨 酉の刻より雷発す 大雨 子の刻止む （南溜池に女倒死、3日夜後潟組小橋村で火災6軒・火元他村預け、5日?人買い男が捕えられる）
1750年　7月11日 寛延3年　6月8日 曇 巳の刻過ぎより大雨 暫くして止む （増館組増館村に40男倒死）
1750年　7月12日 寛延3年　6月9日 晴 時々風 （神明宮境内に23・4男倒死）
1750年　7月13日 寛延3年　6月10日 陰晴
1750年　7月14日 寛延3年　6月11日 曇 雨時々 （8日朝7日記述の人買いが逃亡）
1750年　7月15日 寛延3年　6月12日 曇 終日雨 酉の下刻より止む
1750年　7月16日 寛延3年　6月13日 快晴
1750年　7月17日 寛延3年　6月14日 快晴 朝の内曇 （仙台の人買いが禰宜町に泊まる）
1750年　7月18日 寛延3年　6月15日 曇 昨夜亥の刻より雨 午の刻より晴 夜に入り雨 （四社に日和揚げ御祈祷仰せ付ける）
1750年　7月19日 寛延3年　6月16日 快晴 申の二刻土用に入る
1750年　7月20日 寛延3年　6月17日 曇 （5月中碇関:出212・入り192人、同野内:出103・入り81人）
1750年　7月21日 寛延3年　6月18日 快晴
1750年　7月22日 寛延3年　6月19日 快晴 （先月30日春台院様?御逝去）　下から続く　火災21軒・火元村預け）
1750年　7月23日 寛延3年　6月20日 曇 卯の下刻より小雨 未の刻より大雨 雷発す （秋田の人買い入牢、18日油川組細越村で火災3軒（3間半×6間・3間×4間・3間×4間）・火元他村預け、18日大鰐組碇関村で　上に続く
1750年　7月24日 寛延3年　6月21日 快晴 甚暑
1750年　7月25日 寛延3年　6月22日 陰晴 暑気
1750年　7月26日 寛延3年　6月23日 曇 寅の下刻地震 （昨日和徳組堅田村に30男倒死）
1750年　7月27日 寛延3年　6月24日 快晴 甚暑 （秋田の人買い2人入牢）
1750年　7月28日 寛延3年　6月25日 快晴 大暑
1750年　7月29日 寛延3年　6月26日 快晴 大暑 （百石町裏に者倒死）
1750年　7月30日 寛延3年　6月27日 快晴 大暑 巳の下刻より未の上刻まで風
1750年　7月31日 寛延3年　6月28日 快晴 大暑 （本町五丁目で男縊死）
1750年　8月1日 寛延3年　6月29日 快晴 大暑
1750年　8月2日 寛延3年　7月1日 快晴 大暑 巳の下刻より曇 午の刻より雨暫く 雷数々発す （6月中出65人（碇関64人（他国者37御印紙29・御国人27切手紙12）・野内御国人1人切手紙1））
1750年　8月3日 寛延3年　7月2日 快晴 （昨夜親方町で男縊死、27日夜油川組細越村で火災（3間×4間:高無）・火元村預け）
1750年　8月4日 寛延3年　7月3日 曇 辰の中刻より大雨降 午の刻より晴 （石渡川・岩木川洪水・織座辺り土居破れ紺屋町水湛）
1750年　8月5日 寛延3年　7月4日 曇 朝の内小雨少し 夜に入り雨
1750年　8月6日 寛延3年　7月5日 快晴 時々小風 午の上刻過ぎ小雨 則刻晴る
1750年　8月7日 寛延3年　7月6日 快晴 残暑 （油川・青森の町人の抜け米に過料等の処分に対応して青森町奉行・代官にも業務停止等）
1750年　8月8日 寛延3年　7月7日 快晴 残暑強
1750年　8月9日 寛延3年　7月8日 曇 朝より終日雨
1750年　8月10日 寛延3年　7月9日 陰晴 残暑甚
1750年　8月11日 寛延3年　7月10日 晴 残暑甚 （先月中碇関:出78・入り113・出入り合191人、同野内:出49・入り52人、同大間越:出8・入り8・出入り人数合16人）
1750年　8月12日 寛延3年　7月11日 快晴 残暑甚
1750年　8月13日 寛延3年　7月12日 快晴 残暑甚 （猿賀組新山村における試田報告:種浸し2月5日・巻き込み3月5日・植付4月22日・現在の出穂20ヶ1）
1750年　8月14日 寛延3年　7月13日 快晴 残暑甚
1750年　8月15日 寛延3年　7月14日 快晴 残暑甚
1750年　8月16日 寛延3年　7月15日 快晴 残暑甚
1750年　8月17日 寛延3年　7月16日 快晴 残暑甚
1750年　8月18日 寛延3年　7月17日 快晴 残暑甚
1750年　8月19日 寛延3年　7月18日 快晴 午の刻過ぎ大雨暫く 雷発す ただし未の上刻より酉の下刻まで時々雨
1750年　8月20日 寛延3年　7月19日 快晴 小風 暑
1750年　8月21日 寛延3年　7月20日 快晴 小風 暑
1750年　8月22日 寛延3年　7月21日 快晴 残暑甚 夜中より時々雨
1750年　8月23日 寛延3年　7月22日 曇 時々雨 夜に及ぶ 暑
1750年　8月24日 寛延3年　7月23日 快晴 暑
1750年　8月25日 寛延3年　7月24日 快晴 朝の内曇 巳の刻過ぎ小雨 それより快晴 残暑甚
1750年　8月26日 寛延3年　7月25日 快晴 午の刻過ぎ小雨少々 残暑 （黒石市花巻駐在の米留?(この場合足軽目付)が乱心・1人殺害1人傷害・入牢）
1750年　8月27日 寛延3年　7月26日 快晴 申の刻雷発す 雨夜中に及ぶ
1750年　8月28日 寛延3年　7月27日 快晴 残暑 申の下刻より大雨 雷発す 夜に及ぶ （今日大鰐村・大坊村より初米上る）
1750年　8月29日 寛延3年　7月28日 晴 （25日記述の乱心足軽の鉄砲町の屋敷を取り上げる）
1750年　8月30日 寛延3年　7月29日 快晴 （昨夜赤田組板屋野木村に盗人・追った手代（代官所の下役人・足軽またはそれ以下）が殺される・盗人逃亡）
1750年　8月31日 寛延3年　7月30日 晴

1750年　9月1日 寛延3年　8月1日 曇　卯の中刻西の方に虹少々見る　巳の刻より大雨　午の中刻より時々雨　同刻雷発す　残暑甚々　夜中雨　(7月中出人50人碇関50人(他国者41御印紙32・御国人9切手紙7)・　下に続く
1750年　9月2日 寛延3年　8月2日 曇　朝の内雨　午の刻晴　上から続く　諸手六番組足軽山上源七から傳八に)
1750年　9月3日 寛延3年　8月3日 陰晴
1750年　9月4日 寛延3年　8月4日 曇　終日雨　(半知(知行の半分)借り上げを申し付ける?・その他いろいろ制約)
1750年　9月5日 寛延3年　8月5日 快晴　午の刻過ぎより小雨
1750年　9月6日 寛延3年　8月6日 快晴
1750年　9月7日 寛延3年　8月7日 曇　時々小雨
1750年　9月8日 寛延3年　8月8日 曇　時々小雨
1750年　9月9日 寛延3年　8月9日 陰晴
1750年　9月10日 寛延3年　8月10日 快晴　(岩木登山今年も停止・嵩湯治も停止だが検討する)
1750年　9月11日 寛延3年　8月11日 曇
1750年　9月12日 寛延3年　8月12日 陰晴　午の上刻より小雨
1750年　9月13日 寛延3年　8月13日 曇　辰の刻より小雨　其より大雨　辰の中刻より時々雷発す
1750年　9月14日 寛延3年　8月14日 快晴
1750年　9月15日 寛延3年　8月15日 曇　辰の下刻小雨
1750年　9月16日 寛延3年　8月16日 曇　昨夜中より大雨時々　今日巳の刻大雨殊強
1750年　9月17日 寛延3年　8月17日 快晴
1750年　9月18日 寛延3年　8月18日 曇　夜中より小雨
1750年　9月19日 寛延3年　8月19日 曇　時々雨　朝の内少々虹
1750年　9月20日 寛延3年　8月20日 快晴
1750年　9月21日 寛延3年　8月21日 快晴　(7月中大間越:出17・入り15・出入り人数合32人、同碇関:出63・入り113・出入り人数合176人、同野内:出24・入り90・出入り人数合114人)
1750年　9月22日 寛延3年　8月22日 快晴　夜に入り雨
1750年　9月23日 寛延3年　8月23日 曇　雨時々大風　彼岸に入る
1750年　9月24日 寛延3年　8月24日 快晴　(昨23日大風に付き御家中面々寄せ場に相詰め候)
1750年　9月25日 寛延3年　8月25日 陰晴
1750年　9月26日 寛延3年　8月26日 曇　時々雨
1750年　9月27日 寛延3年　8月27日 快晴
1750年　9月28日 寛延3年　8月28日 快晴　(24日小泊新派前浜に死人流れ寄せる、24日小泊入津中の水主病死)
1750年　9月29日 寛延3年　8月29日 陰晴
1750年　9月30日 寛延3年　9月1日 快晴　(8月中出人65人碇関65人(他国者48御印紙39・御国人17切手紙10)、23日の大風で大光寺組・猿賀組の稲3が1・粟3が1・大豆小豆残らず吹きこぼれ・蕎麦別けても痛損)
1750年　10月1日 寛延3年　9月2日 晴
1750年　10月2日 寛延3年　9月3日 曇　時々風　夜に入り風雨　(青森・油川村の抜け米の過料の支払いが滞った4人を闕所処分)
1750年　10月3日 寛延3年　9月4日 快晴　(先月23日朝鯵ヶ沢で大風・大波被害・潰れ家4軒蔵1)
1750年　10月4日 寛延3年　9月5日 陰晴
1750年　10月5日 寛延3年　9月6日 陰晴　(金74両2歩13匁6分2厘代米240俵1斗3升9合・ただし米(1俵)22匁5分・金(1両)72匁4分)
1750年　10月6日 寛延3年　9月7日 快晴　申の刻より小雨　雷発す　夜中雨　雷暫く
1750年　10月7日 寛延3年　9月8日 曇　昨夜中雨　今日終日降
1750年　10月8日 寛延3年　9月9日 曇　朝の内大雨　終日に及ぶ
1750年　10月9日 寛延3年　9月10日 快晴　昨夜小雨　(門外村で農作物を取った盗人2人を村人が集まり打殺す・代表2人戸〆)
1750年 10月10日 寛延3年　9月11日 晴　夜中小雨　(8月9日に藤代組南浮田村・北浮田村で大雨・成沢川洪水・稲水下に)　下から続く　・入り57・出入り合103人)
1750年 10月11日 寛延3年　9月12日 曇　時々雨　今朝岩木山江雪見得る　(9日金井沢湊で5人行方不明、8月中碇関:出80・入り97・出入り人数合177人、同大間越:出30・入り18・出入り人数合48人、同野内:出46　上に続く
1750年 10月12日 寛延3年　9月13日 曇　時々雨
1750年 10月13日 寛延3年　9月14日 曇
1750年 10月14日 寛延3年　9月15日 快晴　(3月よりの洪水・8月23日の大風・虫付き損耗をまとめ江戸に報告、9月出来嶋浜で破船、23日の風で水船の船が鯵ヶ沢湊に入り4日の荒れで破船)
1750年 10月15日 寛延3年　9月16日 快晴
1750年 10月16日 寛延3年　9月17日 快晴　(7日より9日までの大風雨で藤代組南・北浮田村の稲被害が11万6千束ほど、9日夜赤石組黒崎村の塩釜屋1軒(12間×5間)焼失)
1750年 10月17日 寛延3年　9月18日 快晴
1750年 10月18日 寛延3年　9月19日 快晴
1750年 10月19日 寛延3年　9月20日 陰晴　(9日大間越磯に破船1艘・死者1人)
1750年 10月20日 寛延3年　9月21日 晴　朝の内小雨　(油川組・後潟組代官の遠慮御免)
1750年 10月21日 寛延3年　9月22日 晴　朝の内小雨　夜中雨
1750年 10月22日 寛延3年　9月23日 曇　辰の下刻雨晴れる　夜に入り雨
1750年 10月23日 寛延3年　9月24日 曇　(当年米値段下値:16・7匁)
1750年 10月24日 寛延3年　9月25日 曇　昨夜中初雪
1750年 10月25日 寛延3年　9月26日 快晴
1750年 10月26日 寛延3年　9月27日 快晴
1750年 10月27日 寛延3年　9月28日 快晴
1750年 10月28日 寛延3年　9月29日 快晴
1750年 10月29日 寛延3年　9月30日 快晴
1750年 10月30日 寛延3年　10月1日 快晴　(9月中出人都合126人(碇関117人(御国人35他国者39御印紙34・御国人43切手紙9)・野内御国人6人切手紙3・大間越御国人3人切手紙3))
1750年 10月31日 寛延3年　10月2日 曇

1750年　11月1日 寛延3年　　10月3日 曇　時々雪
1750年　11月2日 寛延3年　　10月4日 快晴
1750年　11月3日 寛延3年　　10月5日 曇　午の刻より雨
1750年　11月4日 寛延3年　　10月6日 曇　時々霰降
1750年　11月5日 寛延3年　　10月7日 曇　終日雨　夜中時々小雨
1750年　11月6日 寛延3年　　10月8日 曇　終日雨
1750年　11月7日 寛延3年　　10月9日 曇　朝の内雪少々
1750年　11月8日 寛延3年　10月10日 曇
1750年　11月9日 寛延3年　10月11日 快晴　(御留守居組頭八木橋武右衛門に一粒金丹3粒)
1750年 11月10日 寛延3年　10月12日 快晴
1750年 11月11日 寛延3年　10月13日 曇　終日雨
1750年 11月12日 寛延3年　10月14日 曇
1750年 11月13日 寛延3年　10月15日 曇　終日小雨　夜中に及ぶ
1750年 11月14日 寛延3年　10月16日 快晴　　下から続く　　酒田米177石9斗3升4合が199両2歩と9匁7分と運賃1両2歩と4匁6分、両替70目9分)
1750年 11月15日 寛延3年　10月17日 曇　午の刻より小雨　(13日横内組戸山村で外馬屋1軒火災・火元村預け、新潟米移入:216石4斗4升1合が202両2分と運賃16両2歩と4匁8分・3斗7升入り1俵26匁6厘、　　上に続く
1750年 11月16日 寛延3年　10月18日 快晴
1750年 11月17日 寛延3年　10月19日 快晴　今朝霜　丑の刻雷発す　風雨
1750年 11月18日 寛延3年　10月20日 曇　大風　昨夜より雨　終日に及ぶ　(9月9日金井ヶ澤湊で破船1艘4人死亡、後潟組砂ヶ森前浜に破船1艘、佐々木又右衛門に一粒金丹?粒)
1750年 11月19日 寛延3年　10月21日 曇　夜中雨　(古懸不動尊御出汗・五山で御祈祷仰せ付ける)
1750年 11月20日 寛延3年　10月22日 陰晴
1750年 11月21日 寛延3年　10月23日 曇　巳の下刻より雨降
1750年 11月22日 寛延3年　10月24日 陰晴
1750年 11月23日 寛延3年　10月25日 陰晴　夜中雪
1750年 11月24日 寛延3年　10月26日 曇　時々小雪
1750年 11月25日 寛延3年　10月27日 曇　朝の内雪　夜中雨
1750年 11月26日 寛延3年　10月28日 快晴　戌の刻地震　(人事異動あり)
1750年 11月27日 寛延3年　10月29日 快晴　夜に入り雨
1750年 11月28日 寛延3年　10月30日 快晴　夜中雨　雷発す　　下から続く　　奥平部前浜に破船1艘)
1750年 11月29日 寛延3年　　11月1日 曇　夜中雨少々　(10月中出人都合89人(碇関87人(御国人15他国者51御印紙37・御国人21切手紙6)・野内他国者1人御印紙1・青森湊口御国人1人切手紙1)、去月24日　　上に続く
1750年 11月30日 寛延3年　　11月2日 曇　辰の刻より雨終日　辰の中刻より虹見る　(町奉行管理下に非人77人?)
1750年　12月1日 寛延3年　　11月3日 陰晴　朝の内少々曇
1750年　12月2日 寛延3年　　11月4日 曇　辰の刻より雨
1750年　12月3日 寛延3年　　11月5日 快晴
1750年　12月4日 寛延3年　　11月6日 曇　辰の刻より雨終日　夜に及ぶ
1750年　12月5日 寛延3年　　11月7日 晴　昨夜中雨　(9月中碇関:出109・入り113・出入り合222人、同大間越:出140・入り28・出入り人数168人、同野内:出70・入り94人)
1750年　12月6日 寛延3年　　11月8日 曇　時々雪　(先月29日小国川山の杣子が杣子に投殺される)
1750年　12月7日 寛延3年　　11月9日 陰晴　時々雨
1750年　12月8日 寛延3年　11月10日 陰晴
1750年　12月9日 寛延3年　11月11日 快晴　(5日宇田湊で破船1艘)
1750年 12月10日 寛延3年　11月12日 晴　朝の内小雨
1750年 12月11日 寛延3年　11月13日 曇　終日雨
1750年 12月12日 寛延3年　11月14日 陰晴
1750年 12月13日 寛延3年　11月15日 陰晴
1750年 12月14日 寛延3年　11月16日 晴
1750年 12月15日 寛延3年　11月17日 曇　時々小雪　夜に及ぶ
1750年 12月16日 寛延3年　11月18日 快晴
1750年 12月17日 寛延3年　11月19日 曇　夜中雨　時々雪
1750年 12月18日 寛延3年　11月20日 曇　雨時々　未の刻より晴
1750年 12月19日 寛延3年　11月21日 陰晴　(10月中碇関:出102・入り84・出入り人都合186人、同大間越:出79・入り18・出入り人数合97人、同野内:出40・入り101・出入り人数合101人)
1750年 12月20日 寛延3年　11月22日 曇　終日雪風　(16日頃より馬放場の草焼が漏れて野火(300間×200間))
1750年 12月21日 寛延3年　11月23日 陰晴　時々曇
1750年 12月22日 寛延3年　11月24日 陰晴　朝の内雪　(日和待ち船に米を1俵19匁で売る)
1750年 12月23日 寛延3年　11月25日 快晴　朝の内小雪時々
1750年 12月24日 寛延3年　11月26日 曇　終日雪　(八幡宮で神馬死亡、神明神主斎藤衛門屋敷の馬屋焼失、21日大風・赤石組関村・金井ヶ沢村で破船2艘・5人行方不明)
1750年 12月25日 寛延3年　11月27日 陰晴　卯の中刻より雪　(25日朝五時までに十三潟氷張る・去年は11月15日で今年より11日早く節に引合同じ)
1750年 12月26日 寛延3年　11月28日 快晴　申の刻過ぎより大雪
1750年 12月27日 寛延3年　11月29日 曇　昨夜より大雨終日　(21日袰月湊で破船1艘)
1750年 12月28日 寛延3年　11月30日 曇　時々雪　(昨28日藤崎組深味村で火災(3間×2間:高無)・火元村預け、昨夜の大雪で新町・紺屋町で潰れ家2軒)
1750年 12月29日 寛延3年　　12月1日 晴　(11月中出人都合44人(碇関41人(他国者28御印紙23・御国人13切手紙6)・野内3人(他国者1御印紙1・御国人2切手紙1)))
1750年 12月30日 寛延3年　　12月2日 曇　雪時々
1750年 12月31日 寛延3年　　12月3日 曇　時々雪

1751年　1月1日 寛延3年　12月4日 曇　時々雪 （蒔苗市兵衛に一粒金丹5粒、当年耕作初:種浸2月15日・田打17日・種蒔3月17日・くれかき4月6日・田植26日・草取5月23日・出穂7月1日・稲刈8月25日・村納9月27日）
1751年　1月2日 寛延3年　12月5日 快晴
1751年　1月3日 寛延3年　12月6日 快晴 （黒石で乱心・尼切り殺しの解死人斬罪・他に盗人4人斬罪）
1751年　1月4日 寛延3年　12月7日 陰晴　辰の刻より雪降
1751年　1月5日 寛延3年　12月8日 曇　小雪時々　丑の下刻寒入り
1751年　1月6日 寛延3年　12月9日 曇　卯の上刻地震
1751年　1月7日 寛延3年　12月10日 曇　夜中より雪時々
1751年　1月8日 寛延3年　12月11日 陰晴　夜中雪
1751年　1月9日 寛延3年　12月12日 曇　雪時々
1751年　1月10日 寛延3年　12月13日 陰晴
1751年　1月11日 寛延3年　12月14日 陰晴　時々雪
1751年　1月12日 寛延3年　12月15日 陰晴 （一寸した人事異動）
1751年　1月13日 寛延3年　12月16日 快晴　未の刻雪少々降
1751年　1月14日 寛延3年　12月17日 陰晴　朝の内少々雪 （この度半知御借り米・江戸勝手の面々は3ヶ1御借り米らしい）
1751年　1月15日 寛延3年　12月18日 曇　雪朝の内
1751年　1月16日 寛延3年　12月19日 快晴　戌の刻地震
1751年　1月17日 寛延3年　12月20日 曇　巳の刻より雪　夜中より雨 （多分尾太の11月中出高:鉛109固10貫目）
1751年　1月18日 寛延3年　12月21日 快晴
1751年　1月19日 寛延3年　12月22日 快晴　辰の上刻地震
1751年　1月20日 寛延3年　12月23日 曇　時々雨　夜中風
1751年　1月21日 寛延3年　12月24日 曇 （11月中碇関:入り人数94人・出人数55人、大間越:出人数56人・入り人数25人、野内:出人数71人・入り人数37人）
1751年　1月22日 寛延3年　12月25日 晴
1751年　1月23日 寛延3年　12月26日 陰晴 （20日夜常盤組西中野目村で火災(5間×9間:御蔵百姓)・稲500束大豆7斗蕎麦5斗など焼失・火元村預け）
1751年　1月24日 寛延3年　12月27日 曇　時々小雪
1751年　1月25日 寛延3年　12月28日 快晴 （郡所小頭福眞林右衛門などに褒美）
1751年　1月26日 寛延3年　12月29日 陰晴　終日雪吹　寒気甚
1751年　1月27日 寛延4年　正月1日　曇　時々雪 （12月中碇関出人:他国者37人御印紙27枚・御国人16人切手紙9枚、野内出御国人2人切手紙1枚）
1751年　1月28日 寛延4年　正月2日　晴　夜中風雨
1751年　1月29日 寛延4年　正月3日　曇　時々小雪
1751年　1月30日 寛延4年　正月4日　晴
1751年　1月31日 寛延4年　正月5日　快晴
1751年　2月1日 寛延4年　正月6日　曇　時々小雪
1751年　2月2日 寛延4年　正月7日　曇　朝の内吹雪　時々小雪
1751年　2月3日 寛延4年　正月8日　陰晴
1751年　2月4日 寛延4年　正月9日　快晴
1751年　2月5日 寛延4年　正月10日　陰晴
1751年　2月6日 寛延4年　正月11日　陰晴 （一寸した人事異動、男2人牢死:詳細17日に記述）
1751年　2月7日 寛延4年　正月12日　陰晴
1751年　2月8日 寛延4年　正月13日　曇
1751年　2月9日 寛延4年　正月14日　快晴　夜中雪余程ふ里
1751年　2月10日 寛延4年　正月15日　快晴　午の刻雨　申の刻雪
1751年　2月11日 寛延4年　正月16日　曇　時々雪
1751年　2月12日 寛延4年　正月17日　曇　時々雪 （高杉村の座敷牢で男牢死、3日朝男牢死・10日朝男2人牢死:この2人は11日記述と同じ）
1751年　2月13日 寛延4年　正月18日　快晴
1751年　2月14日 寛延4年　正月19日　晴　　下から続く　　出御切手紙21人入切手紙2人)・野内?(御印紙19人御切手紙15人入切手紙41人))
1751年　2月15日 寛延4年　正月20日　陰晴 （15日夜横内組四石村で火災(5間×7間:高無)雑駄3疋焼失、12月出入り人数合:碇関125人(出御印紙37人出御切手紙27人入切手紙52人)・大間越23人(出御印紙19人　　上に続く
1751年　2月16日 寛延4年　正月21日　快晴　午の刻より雪 （四石村の火元の村預け免許、今朝男牢死）
1751年　2月17日 寛延4年　正月22日　快晴　午の刻より雪
1751年　2月18日 寛延4年　正月23日　晴　時々雪
1751年　2月19日 寛延4年　正月24日　陰晴
1751年　2月20日 寛延4年　正月25日　晴
1751年　2月21日 寛延4年　正月26日　快晴
1751年　2月22日 寛延4年　正月27日　陰晴 （今朝男牢死:御家中も含めて病死者が多い）
1751年　2月23日 寛延4年　正月28日　陰晴　酉の刻地震 （今朝男牢死）
1751年　2月24日 寛延4年　正月29日　曇
1751年　2月25日 寛延4年　正月30日　曇　亥の刻より大風　今朝に及ぶ
1751年　2月26日 寛延4年　2月1日 陰晴 （正月中出人都合70人:碇関御印紙出54人(他国者29人御国人25人)切手紙出御国人10人・野内切手紙出御国人6人）
1751年　2月27日 寛延4年　2月2日 陰晴
1751年　2月28日 寛延4年　2月3日 曇 （去月晦日鯵ヶ沢の御蔵に盗人・捕まり入牢）

1751年　3月1日 寛延4年　　2月4日 陰晴 （十三町屋敷御物成：米23俵1斗1升8合8夕6才・1俵に付き19匁5分替え）
1751年　3月2日 寛延4年　　2月5日 陰晴
1751年　3月3日 寛延4年　　2月6日 晴　昨夜風立つ
1751年　3月4日 寛延4年　　2月7日 快晴
1751年　3月5日 寛延4年　　2月8日 曇　時々雨
1751年　3月6日 寛延4年　　2月9日 曇　夜中より雪
1751年　3月7日 寛延4年　　2月10日 晴
1751年　3月8日 寛延4年　　2月11日 快晴　夜中風雨　雁来賓（文字はこのようになっているが意味不明・雁が渡る?）（先月28日大間越町で火災4軒（4間×8間・2間半×3間・3間×4間・3間×4間：全部高無）・火元入寺）
1751年　3月9日 寛延4年　　2月12日 快晴
1751年　3月10日 寛延4年　　2月13日 晴
1751年　3月11日 寛延4年　　2月14日 陰晴　夜に入り少し雨
1751年　3月12日 寛延4年　　2月15日 曇　時々雪 （10日夜八つ時広須新田三つ館村で火災・火元村預け、正月中碇関御関所入人数56・出入合96人、大間越御関所入人数1人・出入合22人、野内御関所入人数26・出入合45人）
1751年　3月13日 寛延4年　　2月16日 陰晴 （広須新田長濱に骨だけの鯨20ばかり寄せる）
1751年　3月14日 寛延4年　　2月17日 晴 （一昨15日昼飯詰組下石川村に火災（2間×4間：高無）・火元村預け）
1751年　3月15日 寛延4年　　2月18日 陰晴　時々小雪　午の下刻雷発す
1751年　3月16日 寛延4年　　2月19日 曇　終日大雪
1751年　3月17日 寛延4年　　2月20日 陰晴
1751年　3月18日 寛延4年　　2月21日 陰晴
1751年　3月19日 寛延4年　　2月22日 快晴
1751年　3月20日 寛延4年　　2月23日 快晴
1751年　3月21日 寛延4年　　2月24日 快晴
1751年　3月22日 寛延4年　　2月25日 曇　終日雨
1751年　3月23日 寛延4年　　2月26日 曇　朝の内雨　午の刻より晴
1751年　3月24日 寛延4年　　2月27日 快晴 （一昨日洪水、古懸不動尊御出汗・例の通り御神楽）
1751年　3月25日 寛延4年　　2月28日 快晴 （来月渡し月割御切米：金131両・銭11貫750目、25日の洪水で大鰐組・青森町等で仮橋流れる）
1751年　3月26日 寛延4年　　2月29日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1751年　3月27日 寛延4年　　3月1日 晴 （2月中碇関御関所出他国者38（御印紙27）・御国人9（切手紙8）、野内御関所出他国者1（御印紙1）・御国人2（切手紙1））
1751年　3月28日 寛延4年　　3月2日 快晴 （今朝男牢死・この男を斬罪）
1751年　3月29日 寛延4年　　3月3日 昨夜中より雨　終日に及ぶ （先月25日洪水で紺屋町等で水たたえる）
1751年　3月30日 寛延4年　　3月4日 快晴 （先月29日十三潟明ける）
1751年　3月31日 寛延4年　　3月5日 快晴
1751年　4月1日 寛延4年　　3月6日 晴
1751年　4月2日 寛延4年　　3月7日 快晴
1751年　4月3日 寛延4年　　3月8日 晴 （当月2日までに十三潟が早川口まで残らず開ける・去年より31日遅く節に引き合い20日遅い、酒値段9分から1匁になる）
1751年　4月4日 寛延4年　　3月9日 曇
1751年　4月5日 寛延4年　　3月10日 快晴
1751年　4月6日 寛延4年　　3月11日 曇　夜に入り雨 （田中伴右衛門に一粒金丹3粒）
1751年　4月7日 寛延4年　　3月12日 曇　終日雨 （2月中碇関出37（御印紙26）・出37（切手紙26）・入切手134・出入り都合202人、野内出30・入り56・出入合86人、大間越出18・入り150・出入人数合168人）
1751年　4月8日 寛延4年　　3月13日 晴　卯の上刻地震　辰の刻右同（辰の刻にも地震の意）
1751年　4月9日 寛延4年　　3月14日 快晴
1751年　4月10日 寛延4年　　3月15日 快晴 （人事異動、2月中尾太鉛出高68箇11貫目・1月53箇9貫目）
1751年　4月11日 寛延4年　　3月16日 晴
1751年　4月12日 寛延4年　　3月17日 曇　辰の上刻より雨 （牢舎の者どもの食事1人に付き片飯白米2合・汁はかかみ汁塩さひ、男牢死）
1751年　4月13日 寛延4年　　3月18日 晴
1751年　4月14日 寛延4年　　3月19日 快晴
1751年　4月15日 寛延4年　　3月20日 晴 （上方御廻米4万5千石のはず……）
1751年　4月16日 寛延4年　　3月21日 陰晴
1751年　4月17日 寛延4年　　3月22日 快晴
1751年　4月18日 寛延4年　　3月23日 快晴
1751年　4月19日 寛延4年　　3月24日 曇　終日雨
1751年　4月20日 寛延4年　　3月25日 曇　巳の刻より小雨　午の下刻に及ぶ
1751年　4月21日 寛延4年　　3月26日 快晴　午の刻より曇　氷交ノ雨ふる
1751年　4月22日 寛延4年　　3月27日 曇　辰の刻より雨
1751年　4月23日 寛延4年　　3月28日 晴
1751年　4月24日 寛延4年　　3月29日 陰晴　時々風吹く　寅の下刻地震
1751年　4月25日 寛延4年　　3月30日 曇　終日雨
1751年　4月26日 寛延4年　　4月1日 曇　朝の内小雨　午の下刻晴 （碇関口御関所出人他国者30（御印紙26）・御国人81（切手紙24）、野内御関所出人他国者2（御印紙2）・御国人2（切手紙1）、青森湊出人御国人1人（切手紙1））
1751年　4月27日 寛延4年　　4月2日 晴
1751年　4月28日 寛延4年　　4月3日 快晴
1751年　4月29日 寛延4年　　4月4日 快晴
1751年　4月30日 寛延4年　　4月5日 快晴　午の刻まで快晴

1751年　5月1日 寛延4年　　4月6日 曇　時々雨
1751年　5月2日 寛延4年　　4月7日 曇　時々雨 （田中与四右衛門に一粒金丹2粒、郡所小頭福眞林右衛門娘に婿養子）
1751年　5月3日 寛延4年　　4月8日 陰晴　時々雨 （去月晦日の大風で五所川原村の百姓家潰れる・18男子死亡・駒と雑駄が怪我）
1751年　5月4日 寛延4年　　4月9日 曇　終日小雨　夜中雨 （3月中尾太鉛出高109箇5貫目・2月68箇11貫目）
1751年　5月5日 寛延4年　　4月10日 晴 （3月中碇関：出126（御印紙26枚で30人と出切手33枚で96人）・入り139・出入人数合265人、大間越：出17・入り31・合48人、野内：出59（御印紙32・切手紙27）・入り42・合101人）
1751年　5月6日 寛延4年　　4月11日 快晴
1751年　5月7日 寛延4年　　4月12日 快晴
1751年　5月8日 寛延4年　　4月13日 曇　巳の刻より雨　終日に及ぶ
1751年　5月9日 寛延4年　　4月14日 曇　時々雨
1751年　5月10日 寛延4年　　4月15日 陰晴
1751年　5月11日 寛延4年　　4月16日 晴
1751年　5月12日 寛延4年　　4月17日 晴 （八木橋武右衛門に一粒金丹3粒）
1751年　5月13日 寛延4年　　4月18日 曇
1751年　5月14日 寛延4年　　4月19日 晴
1751年　5月15日 寛延4年　　4月20日 陰晴　昨夜中の雨今朝に至る　巳の刻より晴
1751年　5月16日 寛延4年　　4月21日 快晴
1751年　5月17日 寛延4年　　4月22日 陰晴
1751年　5月18日 寛延4年　　4月23日 晴
1751年　5月19日 寛延4年　　4月24日 快晴 （今朝五時男牢死）
1751年　5月20日 寛延4年　　4月25日 快晴
1751年　5月21日 寛延4年　　4月26日 快晴 （去る10月小田川山で男を鐇で打ち殺した男（11月8日記述）を取上御仕置場で斬罪、昨晩七つ時男牢死）
1751年　5月22日 寛延4年　　4月27日 快晴 （23日沢田村で火災1軒・火元慎み）
1751年　5月23日 寛延4年　　4月28日 晴 （炭値段1俵に付き1匁1分・去年は1匁）
1751年　5月24日 寛延4年　　4月29日 曇　時々雨
1751年　5月25日 寛延4年　　5月1日 快晴 （4月中出人都合540人：碇関：御印紙205（御国人37・他国者168）・切手紙327、野内御印紙5（他国者）・切手紙1（御国人）、青森湊口切手紙1人、御用人竹内源太夫に一粒金丹10粒）
1751年　5月26日 寛延4年　　5月2日 快晴
1751年　5月27日 寛延4年　　5月3日 快晴
1751年　5月28日 寛延4年　　5月4日 快晴
1751年　5月29日 寛延4年　　5月5日 快晴
1751年　5月30日 寛延4年　　5月6日 快晴　昨夜子の刻雷雨
1751年　5月31日 寛延4年　　5月7日 曇　時々小雨
1751年　6月1日 寛延4年　　5月8日 陰晴　朝の内晴
1751年　6月2日 寛延4年　　5月9日 快晴　寅の刻雨
1751年　6月3日 寛延4年　　5月10日 快晴　朝の内曇
1751年　6月4日 寛延4年　　5月11日 曇　終日風　昨夜雨暫く　子の刻過ぎ雷発す
1751年　6月5日 寛延4年　　5月12日 曇
1751年　6月6日 寛延4年　　5月13日 快晴
1751年　6月7日 寛延4年　　5月14日 快晴
1751年　6月8日 寛延4年　　5月15日 快晴 （11日夜四時浅虫村に火災（5間×4間：高無）・火元村預け、今朝四時頃男牢死）
1751年　6月9日 寛延4年　　5月16日 曇　朝の内小雨
1751年　6月10日 寛延4年　　5月17日 快晴
1751年　6月11日 寛延4年　　5月18日 快晴
1751年　6月12日 寛延4年　　5月19日 快晴
1751年　6月13日 寛延4年　　5月20日 快晴 （16日夜八時過ぎ俵元新田福山村で火災（2間×5間：給地百姓））
1751年　6月14日 寛延4年　　5月21日 曇　卯の中刻より雷発す　巳の下刻より晴
1751年　6月15日 寛延4年　　5月22日 快晴 （和徳組代官から畑作に虫多く付いたとの報告・他の組から申し出でがないが薬王院に御祈祷を申付ける）
1751年　6月16日 寛延4年　　5月23日 快晴　午の下刻より雨　亥の刻過ぎまで
1751年　6月17日 寛延4年　　5月24日 曇　時々雨　終日に及ぶ
1751年　6月18日 寛延4年　　5月25日 曇
1751年　6月19日 寛延4年　　5月26日 曇　時々雨
1751年　6月20日 寛延4年　　5月27日 陰晴 （虫除けの札1000枚を和徳・堀越・横内・浦町組の1軒に1枚宛下しおかれる
1751年　6月21日 寛延4年　　5月28日 快晴 （知行地の百姓から田地を取り上げようとした御馬廻があり・百姓とその家族が困窮する・88ページ?にわたり調査報告あり）
1751年　6月22日 寛延4年　　5月29日 快晴 （先月中碇関：出501（御印紙57枚で156人・切手紙111枚で345人）・入人90人・出入人数合591人、同大間越：出9（3枚4人・3枚5人）・入32人、同野内：出73（61・12）・入75・合148人）
1751年　6月23日 寛延4年　　6月1日 曇 （5月中所々御関所出人都合115人：御印紙碇関他国者24枚で26人・大間越3枚御国人57人他国者1人・青森湊口1枚他国者1人・切手紙碇関10枚御国者14人・大間越5枚御国者15人）
1751年　6月24日 寛延4年　　6月2日 曇　巳の刻より晴
1751年　6月25日 寛延4年　　6月3日 曇　辰の上刻より雨　終日に及ぶ （町人を御家中の実弟と嘘をついて養子にした八十三騎（御国替えに同行を申し出た百姓83人の子孫で中級武士）を弘前五里四方追放）
1751年　6月26日 寛延4年　　6月4日 快晴
1751年　6月27日 寛延4年　　6月5日 快晴
1751年　6月28日 寛延4年　　6月6日 快晴 （取上で男4人斬罪（盗人・蔵破り・追放立ち帰り））
1751年　6月29日 寛延4年　　6月7日 曇　巳の刻より小雨
1751年　6月30日 寛延4年　　6月8日 晴

1751年　7月1日 寛延4年　　6月9日 快晴
1751年　7月2日 寛延4年　　6月10日 晴　半夏生 （5日暮?植田町に男倒死）
1751年　7月3日 寛延4年　　6月11日 曇　朝の内小雨
1751年　7月4日 寛延4年　　6月12日 快晴
1751年　7月5日 寛延4年　　6月13日 快晴
1751年　7月6日 寛延4年　　6月14日 曇　辰の刻小雨
1751年　7月7日 寛延4年　　6月15日 曇　辰の刻より小雨時々 （13日晩七つ時頃深浦町で火災40軒ほど）
1751年　7月8日 寛延4年　　6月16日 曇　雨時々　午の下刻より晴
1751年　7月9日 寛延4年　　6月17日 快晴 （13日夜深浦町の火災40軒・火元入寺）
1751年　7月10日 寛延4年　　6月18日 快晴
1751年　7月11日 寛延4年　　6月19日 曇　午の下刻雨　戌の下刻まで　　下から続く　　・出入人数合114人、野内:出77人（御印紙出62人・切手紙出15人）・入り127人・出入人数合204人）
1751年　7月12日 寛延4年　　6月20日 曇　午の上刻少し雨 （先月中碇関:出102人（御印紙45枚77人・切手紙17枚25人）・入り207人・出入人数合309人、大間越:出74（御印紙9枚68人・切手紙7枚16人）・入り30人　　上に続く
1751年　7月13日 寛延4年　　6月21日 快晴
1751年　7月14日 寛延4年　　6月22日 曇　終日雨 （江戸詰めの足軽どもの借金・帰国の路銀不足・管理していたはずの火消し道具不足などもめている）
1751年　7月15日 寛延4年　　6月23日 曇　朝の内小雨　終日雨時々
1751年　7月16日 寛延4年　　6月24日 曇　巳の刻過ぎより晴る
1751年　7月17日 寛延4年　　6月25日 快晴
1751年　7月18日 寛延4年　　6月26日 曇
1751年　7月19日 寛延4年　　6月27日 曇　雨未の刻より晴る　亥の一刻土用に入る （打ち続き天気相宜しからず……）
1751年　7月20日 寛延4年　　6月28日 晴 （人事異動）
1751年　7月21日 寛延4年　　6月29日 快晴
1751年　7月22日 寛延4年　　6月30日 快晴 （20日大御所様薨御）
1751年　7月23日 寛延4年　閏6月1日　曇　終日小雨　午の下刻大雨 （所々御関所出人都合90人（碇関:他国者51人御印紙5枚・御国人34人切手紙22枚、野内:他国者5人御印紙3枚））
1751年　7月24日 寛延4年　閏6月2日　快晴　朝の内曇　辰の下刻より快晴
1751年　7月25日 寛延4年　閏6月3日　快晴
1751年　7月26日 寛延4年　閏6月4日　快晴　大暑
1751年　7月27日 寛延4年　閏6月5日　快晴　甚暑
1751年　7月28日 寛延4年　閏6月6日　晴
1751年　7月29日 寛延4年　閏6月7日　快晴　大暑 （尾太6月吹き高:銅7箇12貫目・鉛106箇2貫目）
1751年　7月30日 寛延4年　閏6月8日　快晴　大暑 （石岡十蔵に一粒金丹3粒）
1751年　7月31日 寛延4年　閏6月9日　快晴　大暑 （青田の内笛吹くなと指示したのに吹いた者あるとのこと・御家中の屋敷内で花火をするなと指示したのにした者あるとのこと・又申し渡す）
1751年　8月1日 寛延4年　閏6月10日 快晴　大暑
1751年　8月2日 寛延4年　閏6月11日 快晴　大暑 （5月10日植え付けの稲が昨日より出穂・去年は4月23日植付け7月朔日出穂、今朝森岡主膳病死）
1751年　8月3日 寛延4年　閏6月12日 快晴　未の中刻雷発す　同刻雨　申の下刻晴れる （今日九時男牢死）
1751年　8月4日 寛延4年　閏6月13日 快晴　大暑　未の下刻雷時々発す
1751年　8月5日 寛延4年　閏6月14日 快晴　大暑　未の下刻雷時々発す
1751年　8月6日 寛延4年　閏6月15日 快晴　残暑甚 （土手町名主の申し立てにより類族の女2人に米2俵下し置かれる）
1751年　8月7日 寛延4年　閏6月16日 快晴　残暑甚
1751年　8月8日 寛延4年　閏6月17日 快晴　残暑甚
1751年　8月9日 寛延4年　閏6月18日 快晴　残暑甚 （去る15日夜九時過ぎ永井三郎兵衛の支配所で出火・火元入寺）
1751年　8月10日 寛延4年　閏6月19日 曇　残暑甚　辰の中刻より雨　終日に及ぶ
1751年　8月11日 寛延4年　閏6月20日 曇 （去年8月領内の有馬:27603疋）
1751年　8月12日 寛延4年　閏6月21日 快晴
1751年　8月13日 寛延4年　閏6月22日 快晴　残暑甚　丑の刻地震 （6月13日深浦の火元の入寺御赦免）
1751年　8月14日 寛延4年　閏6月23日 快晴
1751年　8月15日 寛延4年　閏6月24日 快晴
1751年　8月16日 寛延4年　閏6月25日 快晴
1751年　8月17日 寛延4年　閏6月26日 快晴
1751年　8月18日 寛延4年　閏6月27日 快晴　卯の上刻小雨
1751年　8月19日 寛延4年　閏6月28日 曇　終日雨
1751年　8月20日 寛延4年　閏6月29日 快晴
1751年　8月21日 寛延4年　　7月1日 曇　巳の上刻より雨時々　子の刻より雨暫く （閏6月中所々御関所出人都合180人（碇関:御印紙61枚151人切手紙17枚25人、野内:御印紙1人切手紙1人・青森湊:御印紙1人切手紙1人））
1751年　8月22日 寛延4年　　7月2日 快晴
1751年　8月23日 寛延4年　　7月3日 曇　終日雨　雷発す
1751年　8月24日 寛延4年　　7月4日 曇 （大鰐より御初米6箱差し上げる（翌年の7月12日の記事では2日だったものが御精進日だったので4日にしたらしい）、御家中の二男・三男が暴れまわっている）
1751年　8月25日 寛延4年　　7月5日 快晴
1751年　8月26日 寛延4年　　7月6日 快晴
1751年　8月27日 寛延4年　　7月7日 快晴　残暑甚　子の刻雨少々
1751年　8月28日 寛延4年　　7月8日 快晴　残暑甚　午の中刻雨
1751年　8月29日 寛延4年　　7月9日 曇　申の下刻小雨　丑の刻大雨　雷甚発す （先月中尾太銅山鉛吹き高:128箇と1貫目）
1751年　8月30日 寛延4年　　7月10日 陰晴　　下から続く　　野内:御印紙出41御切手紙出48・入り71人）
1751年　8月31日 寛延4年　　7月11日 曇　朝の内時々小雨 （閏6月中碇関:御印紙出81人御切手紙出33人・入り人数203・出入人数合317人、大間越:御印紙出6人御切手紙出13人・入り10人・出入人数合30人、　　上に続く

1751年　9月1日 寛延4年　7月12日 快晴　朝の内曇 （今朝五時過ぎ男牢死）
1751年　9月2日 寛延4年　7月13日 晴　夜に入り雨降
1751年　9月3日 寛延4年　7月14日 快晴
1751年　9月4日 寛延4年　7月15日 快晴
1751年　9月5日 寛延4年　7月16日 晴
1751年　9月6日 寛延4年　7月17日 快晴　昨夜亥の刻より小雨
1751年　9月7日 寛延4年　7月18日 曇
1751年　9月8日 寛延4年　7月19日 快晴
1751年　9月9日 寛延4年　7月20日 快晴　申の刻より雨　夜に入る
1751年　9月10日 寛延4年　7月21日 曇　昨夜より雨　終日に及ぶ
1751年　9月11日 寛延4年　7月22日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1751年　9月12日 寛延4年　7月23日 快晴
1751年　9月13日 寛延4年　7月24日 陰晴　時々雨
1751年　9月14日 寛延4年　7月25日 陰晴
1751年　9月15日 寛延4年　7月26日 晴
1751年　9月16日 寛延4年　7月27日 快晴
1751年　9月17日 寛延4年　7月28日 陰晴　午の刻過ぎ曇
1751年　9月18日 寛延4年　7月29日 曇　昨午の刻より雨　卯の刻に及ぶ　風立つ
1751年　9月19日 寛延4年　7月30日 快晴
1751年　9月20日 寛延4年　8月1日 陰晴 （7月中所々御関所出人120人(碇関:御印紙出94切手紙出16・野内:御印紙出5切手紙出3・青森港:切手紙出2)、南溜池樋口御普請出来）
1751年　9月21日 寛延4年　8月2日 快晴 （百沢寺より苔の実差上げる）
1751年　9月22日 寛延4年　8月3日 晴
1751年　9月23日 寛延4年　8月4日 曇　朝の内小雨時々
1751年　9月24日 寛延4年　8月5日 曇　午の刻より晴
1751年　9月25日 寛延4年　8月6日 快晴　午の刻過ぎ地震
1751年　9月26日 寛延4年　8月7日 陰晴　時々小雨　申の刻より大雨
1751年　9月27日 寛延4年　8月8日 快晴
1751年　9月28日 寛延4年　8月9日 陰晴　夜に入り雨
1751年　9月29日 寛延4年　8月10日 曇　時々雨　西の方に虹見る （7日尾崎組仲館村で親子喧嘩・親死亡子供切腹入牢）
1751年　9月30日 寛延4年　8月11日 陰晴
1751年　10月1日 寛延4年　8月12日 快晴　午の刻大雨　雷発す
1751年　10月2日 寛延4年　8月13日 快晴
1751年　10月3日 寛延4年　8月14日 快晴
1751年　10月4日 寛延4年　8月15日 快晴 （初鮭並びに初菱喰上がる、7月中碇関:出124(御印紙95切手紙29)・入り195・出入合319人、同野内:出99・入り113・出入合212人、同大間越:出36・入り23・出入人数合59人）
1751年　10月5日 寛延4年　8月16日 快晴　午の刻小雨　未の中刻大雨　同刻雷発す　東虹見る
1751年　10月6日 寛延4年　8月17日 快晴 （一昨15日八幡宮で例年通り御神事）
1751年　10月7日 寛延4年　8月18日 快晴
1751年　10月8日 寛延4年　8月19日 曇
1751年　10月9日 寛延4年　8月20日 曇　時々雨
1751年 10月10日 寛延4年　8月21日 陰晴　昨子の刻小雨　同下刻止む
1751年 10月11日 寛延4年　8月22日 快晴
1751年 10月12日 寛延4年　8月23日 曇　卯の下刻より雨降
1751年 10月13日 寛延4年　8月24日 曇
1751年 10月14日 寛延4年　8月25日 曇　昨夜中雨　辰の中刻大雨　子の刻過ぎより雷　風雨
1751年 10月15日 寛延4年　8月26日 曇　昨夜丸雪　風雨　今朝岩木山江雪降
1751年 10月16日 寛延4年　8月27日 快晴
1751年 10月17日 寛延4年　8月28日 快晴
1751年 10月18日 寛延4年　8月29日 快晴 （妊娠中の女が入牢している・産気づいたら牢守り方に引き取るよう申付ける）
1751年 10月19日 寛延4年　9月1日 曇　時々小雨 （8月中所々御関所出人130人(碇関:御印紙出89切手紙出39人・大間越:切手紙出2人)）
1751年 10月20日 寛延4年　9月2日 晴　子の下刻雷発す　風雨暫く
1751年 10月21日 寛延4年　9月3日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　巳の刻より晴
1751年 10月22日 寛延4年　9月4日 快晴
1751年 10月23日 寛延4年　9月5日 曇
1751年 10月24日 寛延4年　9月6日 曇　時々雨
1751年 10月25日 寛延4年　9月7日 曇
1751年 10月26日 寛延4年　9月8日 快晴　寅の刻雨　今朝に及ぶ　岩木山江雪見る
1751年 10月27日 寛延4年　9月9日 曇　終日雨
1751年 10月28日 寛延4年　9月10日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　巳の下刻霰降　終日雨
1751年 10月29日 寛延4年　9月11日 晴　昨夜雨時々　今朝に及ぶ （今朝五時男牢死、妊娠中の女は居村預けとする）
1751年 10月30日 寛延4年　9月12日 快晴 （尾太8月中鉛吹き高:116箇8貫目・7月は101箇12貫目）
1751年 10月31日 寛延4年　9月13日 曇　時々雨　朝の内虹見ゆる

1751年　11月1日 寛延4年　　9月14日 曇　時々雨　北の方虹見る
1751年　11月2日 寛延4年　　9月15日 陰晴
1751年　11月3日 寛延4年　　9月16日 曇　時々雨　夜に入る　戌の下刻雷少し発す
1751年　11月4日 寛延4年　　9月17日 曇　昨夜戌の刻より雨　（打ち続き天気相宜しからずに付き四社に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける、深浦町奉行御仮屋に鉄砲が30丁有ったが……）
1751年　11月5日 寛延4年　　9月18日 曇　亥の刻晴　午の刻雨
1751年　11月6日 寛延4年　　9月19日 曇　今朝雨
1751年　11月7日 寛延4年　　9月20日 曇　昨夜雨　今朝小雨　終日時々
1751年　11月8日 寛延4年　　9月21日 快晴　（今朝五時男牢死）
1751年　11月9日 寛延4年　　9月22日 陰晴　（報恩寺御法事御用として「御濃茶」、六十六部が国内に入っているらしい）
1751年 11月10日 寛延4年　　9月23日 陰晴
1751年 11月11日 寛延4年　　9月24日 快晴
1751年 11月12日 寛延4年　　9月25日 快晴　大霜
1751年 11月13日 寛延4年　　9月26日 快晴
1751年 11月14日 寛延4年　　9月27日 曇　時々雨　（古懸不動尊御出汗）
1751年 11月15日 寛延4年　　9月28日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　終日雪
1751年 11月16日 寛延4年　　9月29日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ　終日雪
1751年 11月17日 寛延4年　　9月30日 快晴　（29日元大工町で六十六部を見つける・碇関口から返す）
1751年 11月18日 寛延4年　　10月1日 快晴　（9月中所々御関所出人都合166人（碇関御印紙出130（御国人69・他国者61）切手紙出30・野内御印紙出3（他国者のみ）切手紙出3）
1751年 11月19日 寛延4年　　10月2日 晴　午の下刻小雨
1751年 11月20日 寛延4年　　10月3日 曇　時々雪雨
1751年 11月21日 寛延4年　　10月4日 曇　（神明に日和揚げ御祈祷仰せ付ける）
1751年 11月22日 寛延4年　　10月5日 曇
1751年 11月23日 寛延4年　　10月6日 快晴
1751年 11月24日 寛延4年　　10月7日 快晴　丑の刻より雪
1751年 11月25日 寛延4年　　10月8日 曇　終日雪
1751年 11月26日 寛延4年　　10月9日 曇　時々小雪　（在々町々の女共が停止であるにもかかわらず伊勢参宮多い）　　下から続く　　・入り61・出入り都合146人）
1751年 11月27日 寛延4年　　10月10日 曇　時々小雪　（9月中出入：碇関出96（御印紙61切手紙35）・入り91・出入都合187人、大間越出12（御印紙9切手紙3）・入り25・出入都合37人、野内出85（御印紙61切手紙24）　　上に続く
1751年 11月28日 寛延4年　　10月11日 曇
1751年 11月29日 寛延4年　　10月12日 曇
1751年 11月30日 寛延4年　　10月13日 曇
1751年　12月1日 寛延4年　　10月14日 陰晴　昨夜雪少々　終日雪時々　（古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける）
1751年　12月2日 寛延4年　　10月15日 陰晴　少々雪降　（尾太銅山先月中鉛吹き高：86箇3貫目・8月出高116箇8貫目）
1751年　12月3日 寛延4年　　10月16日 曇　巳の下刻より雪　終日に及ぶ　昨夜寒甚　今朝に及ぶ
1751年　12月4日 寛延4年　　10月17日 晴　朝の内雪　（落書き停止を改めて仰せ付ける）
1751年　12月5日 寛延4年　　10月18日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ
1751年　12月6日 寛延4年　　10月19日 曇　今朝より小雪時々
1751年　12月7日 寛延4年　　10月20日 陰晴
1751年　12月8日 寛延4年　　10月21日 快晴　（今朝五時過ぎ男牢死）
1751年　12月9日 寛延4年　　10月22日 快晴　申の刻より小雨　夜中
1751年 12月10日 寛延4年　　10月23日 快晴
1751年 12月11日 寛延4年　　10月24日 晴　（当月20日昼九時より同21日昼四時まで十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は11月24日より・当年は34日早く節に引き合い15日早い）
1751年 12月12日 寛延4年　　10月25日 曇
1751年 12月13日 寛延4年　　10月26日 快晴　（取上で盗人男3人斬罪・謀判扶持米受け取りの御家中獄門1人、牢前で所払いが立ち帰り盗みなどの男1人斬罪）
1751年 12月14日 寛延4年　　10月27日 曇　申の下刻地震
1751年 12月15日 寛延4年　　10月28日 快晴　申の下刻雨　酉の下刻止む
1751年 12月16日 寛延4年　　10月29日 曇　昨夜雪　今朝に及ぶ
1751年 12月17日 寛延4年　　10月30日 快晴
1751年 12月18日 寛延4年　　11月1日 快晴　（10月中所々御関所出人66人（碇関御印紙出45（他国者）切手紙出20（御国人）・野内切手紙1（御国人）））
1751年 12月19日 寛延4年　　11月2日 快晴
1751年 12月20日 寛延4年　　11月3日 曇
1751年 12月21日 寛延4年　　11月4日 快晴　丑の七刻冬時　（去月26日赤石組艫作村で火災1軒・火元村預け・免許）
1751年 12月22日 寛延4年　　11月5日 快晴　昨夜小雨
1751年 12月23日 寛延4年　　11月6日 快晴
1751年 12月24日 寛延4年　　11月7日 陰晴　時々雪　夜中雪
1751年 12月25日 寛延4年　　11月8日 快晴　朝の内雪　午の下刻より雪　（先月中尾太銅山鉛吹き高：105箇2貫目・9月中8貫6箇3貫目（拾が貫に化けているらしい））
1751年 12月26日 寛延4年　　11月9日 快晴
1751年 12月27日 寛延4年　　11月10日 陰晴　昨夜中雪
1751年 12月28日 寛延4年　　11月11日 曇　午の刻より晴　（10月中碇関出入り人数合163人・大間越出入り人数合19人・野内出入人数合169人）
1751年 12月29日 寛延4年　　11月12日 快晴
1751年 12月30日 寛延4年　　11月13日 快晴　雪少々　（目明し久助が出奔・捕まる）
1751年 12月31日 寛延4年　　11月14日 曇　終日雪

1752年　1月1日 寛延4年　11月15日 曇　時々小雨
1752年　1月2日 寛延4年　11月16日 曇　朝の内雪
1752年　1月3日 寛延4年　11月17日 快晴　(御手廻与力の父(隠居)変死(自害かな))
1752年　1月4日 寛延4年　11月18日 陰晴
1752年　1月5日 寛延4年　11月19日 曇
1752年　1月6日 寛延4年　11月20日 陰晴　昨夜中大雪　小寒辰の四刻に入る　雪終日に及ぶ　雷発す
1752年　1月7日 寛延4年　11月21日 曇　終日雪
1752年　1月8日 寛延4年　11月22日 曇
1752年　1月9日 寛延4年　11月23日 曇　時々雪
1752年　1月10日 寛延4年　11月24日 快晴　(去る3日年号改元の御廻状江戸屋敷に届く)
1752年　1月11日 寛延4年　11月25日 快晴
1752年　1月12日 寛延4年　11月26日 快晴
1752年　1月13日 寛延4年　11月27日 晴　(当月3日年号宝暦と改元)
1752年　1月14日 寛延4年　11月28日 曇　時々雪
1752年　1月15日 寛延4年　11月29日 晴　(米値段175俵の代銭:4貫397匁5分)
1752年　1月16日 宝暦元年　12月1日 陰晴　(11月所々御関所出人72人:碇関67(御印紙出51(他国者)切手紙出16(御国人))・野内5(御印紙出1(他国者)切手紙出4(御国人)))
1752年　1月17日 宝暦元年　12月2日 曇　終日雪
1752年　1月18日 宝暦元年　12月3日 快晴　午の刻より曇　雪　(御留守居支配山上仁兵衛の身上召し上げ追放、牢前で瓦師頭?斬罪、多くの御家中等に追放等)
1752年　1月19日 宝暦元年　12月4日 快晴
1752年　1月20日 宝暦元年　12月5日 快晴　(追放等の関係者(上司・親類)遠慮40人ほど)
1752年　1月21日 宝暦元年　12月6日 快晴
1752年　1月22日 宝暦元年　12月7日 快晴　(遠慮の面々残らず御免)
1752年　1月23日 宝暦元年　12月8日 陰晴
1752年　1月24日 宝暦元年　12月9日 曇　終日雪
1752年　1月25日 宝暦元年　12月10日 曇
1752年　1月26日 宝暦元年　12月11日 快晴
1752年　1月27日 宝暦元年　12月12日 陰晴　朝の内雪
1752年　1月28日 宝暦元年　12月13日 快晴
1752年　1月29日 宝暦元年　12月14日 晴
1752年　1月30日 宝暦元年　12月15日 快晴　(先月中尾太銅山鉛吹き高:91箇13貫目・10月中105箇2貫目)
1752年　1月31日 宝暦元年　12月16日 晴
1752年　2月1日 宝暦元年　12月17日 晴　今朝霜　(近年御繰合せ差支え(多分)金をかき集めた町人8人に金子500疋などを下しおかれる)
1752年　2月2日 宝暦元年　12月18日 晴　今朝雪
1752年　2月3日 宝暦元年　12月19日 快晴　昨夜中雪
1752年　2月4日 宝暦元年　12月20日 晴
1752年　2月5日 宝暦元年　12月21日 陰晴
1752年　2月6日 宝暦元年　12月22日 曇
1752年　2月7日 宝暦元年　12月23日 曇
1752年　2月8日 宝暦元年　12月24日 曇　(当御収納米が9月19日より今日までに皆済)
1752年　2月9日 宝暦元年　12月25日 陰晴
1752年　2月10日 宝暦元年　12月26日 陰晴
1752年　2月11日 宝暦元年　12月27日 曇　午の刻より吹雪
1752年　2月12日 宝暦元年　12月28日 曇　時々雪
1752年　2月13日 宝暦元年　12月29日 曇　時々雪
1752年　2月14日 宝暦元年　12月30日 快晴
1752年　2月15日 宝暦2年　正月1日　曇　時々雪　(12月中所々御関所出人都合56人(碇関50:御印紙45切手紙5・野内4:御印紙1切手紙3・青森湊2:御印紙))
1752年　2月16日 宝暦2年　正月2日　晴　夜中風雨
1752年　2月17日 宝暦2年　正月3日　曇　時々小雨
1752年　2月18日 宝暦2年　正月4日　晴
1752年　2月19日 宝暦2年　正月5日　快晴
1752年　2月20日 宝暦2年　正月6日　曇　時々小雨
1752年　2月21日 宝暦2年　正月7日　曇　朝の内雪吹　時々小雨
1752年　2月22日 宝暦2年　正月8日　陰晴
1752年　2月23日 宝暦2年　正月9日　快晴
1752年　2月24日 宝暦2年　正月10日　陰晴
1752年　2月25日 宝暦2年　正月11日　陰晴　(人事異動、郡方小頭福眞林右衛門が40俵2人扶持となる)
1752年　2月26日 宝暦2年　正月12日　陰晴
1752年　2月27日 宝暦2年　正月13日　曇
1752年　2月28日 宝暦2年　正月14日　快晴　夜中雪
1752年　2月29日 宝暦2年　正月15日　快晴　午の刻雨　申の刻雪

1752年　3月1日 宝暦2年 正月16日　曇　時々雪
1752年　3月2日 宝暦2年 正月17日　曇　時々雪
1752年　3月3日 宝暦2年 正月18日　快晴
1752年　3月4日 宝暦2年 正月19日　晴
1752年　3月5日 宝暦2年 正月20日　陰晴 （去る12月中碇関:出入人数合151人・同大間越:出入人数合12人・同野内:出入人数合78人）
1752年　3月6日 宝暦2年 正月21日　快晴 （江戸で今晩御謡初）
1752年　3月7日 宝暦2年 正月22日　快晴　午の刻より雪
1752年　3月8日 宝暦2年 正月23日　晴　時々雪
1752年　3月9日 宝暦2年 正月24日　陰晴
1752年　3月10日 宝暦2年 正月25日　陰晴
1752年　3月11日 宝暦2年 正月26日　快晴
1752年　3月12日 宝暦2年 正月27日　陰晴 （黒石領から米5500石などを大阪廻米としたい・了、山下町の無人の上ヶ屋敷から出火・1間四方ほど）
1752年　3月13日 宝暦2年 正月28日　陰晴　酉の上刻地震
1752年　3月14日 宝暦2年 正月29日　曇
1752年　3月15日 宝暦2年 正月30日　曇　亥の刻より大風雨　今朝に及ぶ
1752年　3月16日 宝暦2年　2月1日 陰晴 （正月中御関所出人都合119人（碇関119（御印紙出108切手紙出11）））
1752年　3月17日 宝暦2年　2月2日 陰晴 （一昨晦日の大風で新岡村で百姓家（4間×7間）潰れ出火・女房死亡・馬5疋・種籾5俵・米3俵2斗・蕎麦4俵・大豆3俵焼失）
1752年　3月18日 宝暦2年　2月3日 快晴 （27日の火災時に居合わせなかった足軽2人追放）
1752年　3月19日 宝暦2年　2月4日 陰晴
1752年　3月20日 宝暦2年　2月5日 曇　昨夜中雨
1752年　3月21日 宝暦2年　2月6日 陰晴
1752年　3月22日 宝暦2年　2月7日 晴
1752年　3月23日 宝暦2年　2月8日 晴
1752年　3月24日 宝暦2年　2月9日 曇　昨夜中より雪　終日に及ぶ　彼岸に成る
1752年　3月25日 宝暦2年　2月10日 快晴 （当月6日より7日朝五時まで十三潟の早川口より残らず氷明ける・去年より24日早く節に引き合い5日早い）
1752年　3月26日 宝暦2年　2月11日 曇 （当正月中碇関:出入人数合137人（御印紙出31切手紙出13・入り93）、同大間越:出入人数合202人（御印紙出8・入り194）、同野内:出入合54人?（御印紙出12切手紙出12・入り54））
1752年　3月27日 宝暦2年　2月12日 快晴
1752年　3月28日 宝暦2年　2月13日 曇　終日水雪 （今日男牢死・馬盗み関所の脇道で捕まったのでこれを斬罪とする）
1752年　3月29日 宝暦2年　2月14日 曇　終日小雪
1752年　3月30日 宝暦2年　2月15日 晴
1752年　3月31日 宝暦2年　2月16日 陰晴　酉の下刻雨
1752年　4月1日 宝暦2年　2月17日 快晴 （蟹田町屋敷物成高:米6石8斗3升3合・同所諸家業御役銭:銭1貫155匁5分、藤崎組村々に狐館（きつねだち）出現）
1752年　4月2日 宝暦2年　2月18日 曇　午の上刻より雨
1752年　4月3日 宝暦2年　2月19日 快晴
1752年　4月4日 宝暦2年　2月20日 晴
1752年　4月5日 宝暦2年　2月21日 晴
1752年　4月6日 宝暦2年　2月22日 快晴
1752年　4月7日 宝暦2年　2月23日 快晴　今朝霜
1752年　4月8日 宝暦2年　2月24日 快晴
1752年　4月9日 宝暦2年　2月25日 陰晴
1752年　4月10日 宝暦2年　2月26日 曇　辰の下刻より雨 （取上御仕置場で斬罪（盗人累犯）・磔2人（馬盗み脇道でつかまる・親切り殺し（去年8月10日記述分か）））
1752年　4月11日 宝暦2年　2月27日 曇
1752年　4月12日 宝暦2年　2月28日 快晴 （人事異動）　下から続く　21日尾崎組で（3寸5寸32匁:4才）それぞれ取る）
1752年　4月13日 宝暦2年　2月29日 快晴 （13日高杉組で熊（胆長3寸廻り3寸5歩目方11匁:4才）・2日（4寸7寸80目:3才）・17日横内組で（4寸5寸8歩22匁:4才）・26日で（6寸6寸5歩目方不明:5歳）・　上に続く
1752年　4月14日 宝暦2年　3月1日 曇　辰の刻より小雨終日　夜に及ぶ （2月中御関所出人都合214人（御印紙出194切手紙出20）、去月25日に蟹田町を出た船が小島沖で強風・水主死亡）
1752年　4月15日 宝暦2年　3月2日 曇
1752年　4月16日 宝暦2年　3月3日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　夜中雨
1752年　4月17日 宝暦2年　3月4日 快晴 （惣納高:藤崎御蔵14888俵余・浪岡27000俵余・青森25818俵余・板屋野木26972俵余・五所川原29092俵・金木8241俵余・八幡6650俵余・木作18400俵余・鰺ヶ沢9400俵余）
1752年　4月18日 宝暦2年　3月5日 晴　酉の刻より雨
1752年　4月19日 宝暦2年　3月6日 曇　昨夜中雨　終日に及ぶ
1752年　4月20日 宝暦2年　3月7日 曇
1752年　4月21日 宝暦2年　3月8日 快晴
1752年　4月22日 宝暦2年　3月9日 快晴　巳の刻より陰晴 （御飛脚の持つ御状箱の重さは3貫目・重さが増すと……）
1752年　4月23日 宝暦2年　3月10日 曇　未の刻より雨　夜に及ぶ
1752年　4月24日 宝暦2年　3月11日 曇　昨夜中雨時々　今朝至る
1752年　4月25日 宝暦2年　3月12日 快晴
1752年　4月26日 宝暦2年　3月13日 快晴
1752年　4月27日 宝暦2年　3月14日 快晴
1752年　4月28日 宝暦2年　3月15日 陰晴 （先月中碇関出入り人数合245人（御印紙出29御切手出29・入り187）、同大間越59人（御印紙出6切手紙出2・入り51）、同野内73人（御印紙出21切手紙出12・入り40））
1752年　4月29日 宝暦2年　3月16日 陰晴
1752年　4月30日 宝暦2年　3月17日 快晴 （2月中尾太の鉛:56箇・正月中37箇8貫目）

1752年　5月1日 宝暦2年　3月18日 曇
1752年　5月2日 宝暦2年　3月19日 曇　午の下刻小雨
1752年　5月3日 宝暦2年　3月20日 快晴　時々雨　丑の刻過ぎ大風
1752年　5月4日 宝暦2年　3月21日 快晴　昨夜中雨
1752年　5月5日 宝暦2年　3月22日 快晴
1752年　5月6日 宝暦2年　3月23日 快晴
1752年　5月7日 宝暦2年　3月24日 快晴　(一昨夜白山宮が祈祷中に飛び火・焼失・社司遠慮)
1752年　5月8日 宝暦2年　3月25日 快晴
1752年　5月9日 宝暦2年　3月26日 快晴
1752年　5月10日 宝暦2年　3月27日 陰晴　(21日白山宮焼失の社司の遠慮御免)
1752年　5月11日 宝暦2年　3月28日 快晴
1752年　5月12日 宝暦2年　3月29日 快晴
1752年　5月13日 宝暦2年　3月30日 曇　雨
1752年　5月14日 宝暦2年　4月1日 曇　午の下刻より雨　(3月中所々御関所出人都合158人(碇関153(御印紙出44切手紙出109)・青森湊口3(御印紙出2切手紙出1)・野内2(切手紙2)))
1752年　5月15日 宝暦2年　4月2日 曇　時々小雨
1752年　5月16日 宝暦2年　4月3日 曇　辰の刻雷発す　巳の刻雨　雷発す
1752年　5月17日 宝暦2年　4月4日 陰晴
1752年　5月18日 宝暦2年　4月5日 曇
1752年　5月19日 宝暦2年　4月6日 曇
1752年　5月20日 宝暦2年　4月7日 快晴　　下から続く　　切手紙28・入り68)、暮れ頃諸手11番組足軽切腹・死亡)
1752年　5月21日 宝暦2年　4月8日 快晴　(3月中碇関出入273人(御印紙出46往来証文4切手紙出123・入り100)、同大間越出入合27人(御印紙出5切手紙出2・入り20)、同野内出入合84人!(御印紙出88切手紙出28・入り68))
1752年　5月22日 宝暦2年　4月9日 曇　辰の刻小雨　時々に及ぶ?(曇　辰之刻小雨及時々)
1752年　5月23日 宝暦2年　4月10日 快晴
1752年　5月24日 宝暦2年　4月11日 快晴　(御家中が御用で在方に出る際馬上で行けずに駕籠とする場合人夫賃を自分で払うように申付ける)
1752年　5月25日 宝暦2年　4月12日 快晴　(赤石組で狼荒れ鉄砲打ち派遣・大組足軽長利某が打取る・褒美300文)
1752年　5月26日 宝暦2年　4月13日 快晴
1752年　5月27日 宝暦2年　4月14日 快晴
1752年　5月28日 宝暦2年　4月15日 快晴　昨夜中雨時々　(四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1752年　5月29日 宝暦2年　4月16日 曇
1752年　5月30日 宝暦2年　4月17日 曇　時々風雨
1752年　5月31日 宝暦2年　4月18日 陰晴
1752年　6月1日 宝暦2年　4月19日 曇
1752年　6月2日 宝暦2年　4月20日 快晴
1752年　6月3日 宝暦2年　4月21日 快晴
1752年　6月4日 宝暦2年　4月22日 快晴
1752年　6月5日 宝暦2年　4月23日 快晴
1752年　6月6日 宝暦2年　4月24日 快晴　(昨夜五つ時過ぎ駒越組田代村に火災(3間×5間:不明)・火元村預け)
1752年　6月7日 宝暦2年　4月25日 曇　卯の下刻より雨　巳の刻より晴
1752年　6月8日 宝暦2年　4月26日 快晴
1752年　6月9日 宝暦2年　4月27日 快晴　午の刻より陰晴　(昨23日昼過ぎ頃より後潟組六枚橋山に山火事・24日の朝までに打消す(80間×40間ほど)、23日昼八つ時過ぎより後潟村で火災5軒土蔵2つ・火元百姓他村預け)
1752年　6月10日 宝暦2年　4月28日 曇　終日雨
1752年　6月11日 宝暦2年　4月29日 陰晴　午の刻より小雨
1752年　6月12日 宝暦2年　5月1日 陰晴　(4月中所々御関所出人都合589人!御馬3疋(碇関御印紙出3疋254人切手紙出319・大間越御印紙出14・野内切手紙3))
1752年　6月13日 宝暦2年　5月2日 陰晴　入梅　(江戸登りの山野十右衛門に一粒金丹10粒、去月23日の後潟組火元百姓の他村預け御免)
1752年　6月14日 宝暦2年　5月3日 曇　今朝より雨時々　風少々
1752年　6月15日 宝暦2年　5月4日 晴
1752年　6月16日 宝暦2年　5月5日 晴
1752年　6月17日 宝暦2年　5月6日 快晴
1752年　6月18日 宝暦2年　5月7日 快晴
1752年　6月19日 宝暦2年　5月8日 快晴
1752年　6月20日 宝暦2年　5月9日 快晴
1752年　6月21日 宝暦2年　5月10日 晴
1752年　6月22日 宝暦2年　5月11日 曇　時々雨
1752年　6月23日 宝暦2年　5月12日 快晴
1752年　6月24日 宝暦2年　5月13日 快晴
1752年　6月25日 宝暦2年　5月14日 曇　昨夜中雨　今日時々小雨
1752年　6月26日 宝暦2年　5月15日 陰晴　半夏生
1752年　6月27日 宝暦2年　5月16日 曇
1752年　6月28日 宝暦2年　5月17日 陰晴　(御家中に病死者が多いような気がする)
1752年　6月29日 宝暦2年　5月18日 陰晴
1752年　6月30日 宝暦2年　5月19日 快晴　午の上刻暫く小雨　即刻晴れる

1752年　7月1日 宝暦2年　5月20日 陰晴
1752年　7月2日 宝暦2年　5月21日 晴
1752年　7月3日 宝暦2年　5月22日 快晴　夜に入り戌の下刻雨
1752年　7月4日 宝暦2年　5月23日 曇　朝の内西方に虹見得る
1752年　7月5日 宝暦2年　5月24日 快晴
1752年　7月6日 宝暦2年　5月25日 快晴
1752年　7月7日 宝暦2年　5月26日 快晴
1752年　7月8日 宝暦2年　5月27日 快晴　（今日昼頃大道寺の屋敷守りの子南溜池で溺れ死）
1752年　7月9日 宝暦2年　5月28日 快晴
1752年　7月10日 宝暦2年　5月29日 快晴
1752年　7月11日 宝暦2年　6月1日 快晴　（5月中所々御関所出人都合142!人（碇関124（御印紙出66切手紙出58）・野内8（御印紙出6切手紙出2）））
1752年　7月12日 宝暦2年　6月2日 陰晴
1752年　7月13日 宝暦2年　6月3日 快晴
1752年　7月14日 宝暦2年　6月4日 快晴　巳の下刻より小雨　酉の下刻大雨　（五穀成就の御祈祷仰せ付ける）
1752年　7月15日 宝暦2年　6月5日 曇
1752年　7月16日 宝暦2年　6月6日 曇　午の刻小雨　（取上で男斬罪(盗人で関所脇道)・男磔(盗み・弘前立帰り・目明しに採用・また盗み）
1752年　7月17日 宝暦2年　6月7日 曇　昨夜亥の刻より雨　終夜に及ぶ
1752年　7月18日 宝暦2年　6月8日 曇　雨終日に及ぶ　寅の刻より土用に入る
1752年　7月19日 宝暦2年　6月9日 曇　雨終日に及ぶ　（花火停止を申し渡す）
1752年　7月20日 宝暦2年　6月10日 雨終日に及ぶ
1752年　7月21日 宝暦2年　6月11日 曇
1752年　7月22日 宝暦2年　6月12日 快晴
1752年　7月23日 宝暦2年　6月13日 曇　快晴
1752年　7月24日 宝暦2年　6月14日 曇　午の刻より大雨
1752年　7月25日 宝暦2年　6月15日 陰晴　申の刻より雨　夜に入り晴　（当月7日の大雨で増館組十川・俵升・福館村など12ヶ村92丁歩ほど・赤田組でも1200丁以上水湛）
1752年　7月26日 宝暦2年　6月16日 陰晴
1752年　7月27日 宝暦2年　6月17日 曇　時々雨　午の下刻雷少々発す　（当月7日よりの大雨で柏木組10ヶ村340丁ほど水湛、8日よりの大雨で増館組3ヶ村14町歩ほど水湛）
1752年　7月28日 宝暦2年　6月18日 曇　昨夜子の刻雨　雷少々発す
1752年　7月29日 宝暦2年　6月19日 陰晴　（五穀成就の御祈祷を五山に仰せ付ける）
1752年　7月30日 宝暦2年　6月20日 曇　巳の下刻小雨
1752年　7月31日 宝暦2年　6月21日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨
1752年　8月1日 宝暦2年　6月22日 晴　夜中稲光
1752年　8月2日 宝暦2年　6月23日 快晴
1752年　8月3日 宝暦2年　6月24日 快晴　辰の下刻雨　（赤田組板屋野木村で男縊死）
1752年　8月4日 宝暦2年　6月25日 曇　（七半過ぎ南溜池の仮土居押し破る・今朝明け六つ頃北横町大橋押し流す）
1752年　8月5日 宝暦2年　6月26日 曇　申の中刻雨　（藻川新田で当月10日より18日まで11丁水湛）
1752年　8月6日 宝暦2年　6月27日 陰晴　（南溜池樋口普請所残らず破損・土手町大橋柱7本橋板3が1・御徒町橋残らず・東長町大橋残らず・薬王院橋残らず・北横町の橋南の方13間ほど流失北の方4間ほど残る）
1752年　8月7日 宝暦2年　6月28日 快晴　午の刻より雷　時々雨　（24日浪岡組吉内村落雷で15歳男即死・11歳男子九死に一生の体・馬2疋即死、田浦某に一粒金丹3粒）
1752年　8月8日 宝暦2年　6月29日 曇　今朝より雨　午の刻より晴　夜中大雨　（四社・五山に日和揚げ御祈祷仰せ付けられたがまだ回復しない・薬王院にも日和揚げの御祈祷仰せ付ける）
1752年　8月9日 宝暦2年　6月30日 快晴　亥の中刻小雨
1752年　8月10日 宝暦2年　7月1日 晴　午の下刻より雷強く発す　大風雨暫く　未の上刻止む　白き毛降る　（6月中所々御関所出人都合79人（碇関76（御印紙出50切手紙出26）・野内3（御印紙出1切手紙出2）））
1752年　8月11日 宝暦2年　7月2日 快晴　未の上刻小雨　それより止む　（（尾太銅山の）昨今の相稼ぎ候人数138人・内71人が暇を取り67人が残っている：ストライキかな）
1752年　8月12日 宝暦2年　7月3日 曇　卯ノ上刻よ里小雨降ル　午ノ刻晴ル
1752年　8月13日 宝暦2年　7月4日 陰晴
1752年　8月14日 宝暦2年　7月5日 快晴　残暑強
1752年　8月15日 宝暦2年　7月6日 快晴
1752年　8月16日 宝暦2年　7月7日 快晴
1752年　8月17日 宝暦2年　7月8日 快晴
1752年　8月18日 宝暦2年　7月9日 快晴　残暑強し
1752年　8月19日 宝暦2年　7月10日 曇　卯の刻より大雨　雷強く発す　巳の中刻より晴る
1752年　8月20日 宝暦2年　7月11日 快晴　残暑至って甚
1752年　8月21日 宝暦2年　7月12日 陰晴　（大鰐より初米6箱差し上げる・5箱は江戸に1箱は高岡に差し上げる・去年との比較あり）
1752年　8月22日 宝暦2年　7月13日 快晴
1752年　8月23日 宝暦2年　7月14日 快晴
1752年　8月24日 宝暦2年　7月15日 快晴
1752年　8月25日 宝暦2年　7月16日 陰晴　朝の内小雨少々　酉の刻より雨終日
1752年　8月26日 宝暦2年　7月17日 曇　辰の下刻小雨　巳の上刻晴レ但し虹見ゆる
1752年　8月27日 宝暦2年　7月18日 快晴
1752年　8月28日 宝暦2年　7月19日 快晴
1752年　8月29日 宝暦2年　7月20日 陰晴　巳の下刻小雨
1752年　8月30日 宝暦2年　7月21日 陰晴　卯の上刻小雨　それより晴れ　巳の下刻より雨　申の下刻より雷発す　酉の下刻より夜中雨時々　子の刻より大雨　　下から続く　　切手紙出21・入り85・出入り合154人）
1752年　8月31日 宝暦2年　7月22日 曇　時々雨　（当6月中碇関：御印紙出57往来証文3切手紙出38・入り112・出入人数210人、同大間越：御印紙出17!切手紙出9・入り27・出入り都合63人、同野内：御印紙出48　　上に続く

1752年　9月1日 宝暦2年　7月23日 晴　未の刻過ぎ雨暫く降る　申の中刻虹東に見る
1752年　9月2日 宝暦2年　7月24日 晴
1752年　9月3日 宝暦2年　7月25日 曇　今朝霜　未の刻過ぎ雨
1752年　9月4日 宝暦2年　7月26日 快晴　朝の内曇
1752年　9月5日 宝暦2年　7月27日 晴
1752年　9月6日 宝暦2年　7月28日 晴
1752年　9月7日 宝暦2年　7月29日 曇　　下から続く　　先月16日夜の大風雨で赤石組村々に塩きり当り作毛損ず）
1752年　9月8日 宝暦2年　8月1日 曇　辰の上刻小雨　それより晴　巳の中刻より雨　終日に及ぶ　（7月中所々御関所出人都合86人:碇関83（御印紙出55切手紙出28）・大間越御印紙出2・青森湊口切手紙出1、　　上に続く
1752年　9月9日 宝暦2年　8月2日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　（昨日例年の通り百沢寺が苔実差し上げる、重田某に一粒金丹2粒）
1752年　9月10日 宝暦2年　8月3日 陰晴
1752年　9月11日 宝暦2年　8月4日 快晴　辰の下刻西北の方虹見る
1752年　9月12日 宝暦2年　8月5日 快晴
1752年　9月13日 宝暦2年　8月6日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ　夜に入り雨
1752年　9月14日 宝暦2年　8月7日 快晴　（御家中屋敷で花火しないよう申付ける）
1752年　9月15日 宝暦2年　8月8日 快晴
1752年　9月16日 宝暦2年　8月9日 曇　今朝辰の上刻雨　それより段々雨　午の下刻大雨　終日　夜に及ぶ
1752年　9月17日 宝暦2年　8月10日 曇　昨夜中より雨　巳の刻より止む
1752年　9月18日 宝暦2年　8月11日 曇　昨夜中より雨　夜に入（ルか）（7月中碇関:御印紙出55切手紙出36・入155・出入人数合246人、同大間越:御印紙出7・入10・出入合17人、同野内:御印紙出24・入96・出入合169人）
1752年　9月19日 宝暦2年　8月12日 曇　時々雨　申のこく過ぎ西の方に虹見る　（7月中尾太銅山鉛出高:67箇2貫目・4月出高67箇2貫目（5月6月は稼ぎ方相止む））
1752年　9月20日 宝暦2年　8月13日 晴　巳の刻過ぎ雷少し　時々小雨
1752年　9月21日 宝暦2年　8月14日 陰晴　時々小雨
1752年　9月22日 宝暦2年　8月15日 快晴　（三新田で熊荒れ3匁5分玉の鉄砲貸し出す）
1752年　9月23日 宝暦2年　8月16日 快晴　卯の刻前雁渡る
1752年　9月24日 宝暦2年　8月17日 曇　巳の下刻より小雨　亥の下刻より風立つ　それより小雨
1752年　9月25日 宝暦2年　8月18日 晴　時々小雨
1752年　9月26日 宝暦2年　8月19日 快晴
1752年　9月27日 宝暦2年　8月20日 快晴
1752年　9月28日 宝暦2年　8月21日 晴　（取上で斬罪2人（江戸荷物を盗み取り売り払った御家中の養父、盗人・追放立帰り男））
1752年　9月29日 宝暦2年　8月22日 快晴
1752年　9月30日 宝暦2年　8月23日 晴
1752年　10月1日 宝暦2年　8月24日 晴
1752年　10月2日 宝暦2年　8月25日 陰晴　申の刻より時々雨
1752年　10月3日 宝暦2年　8月26日 曇　雨　（昨日御停止の六十六部2人が新寺町に居る・送り返す）
1752年　10月4日 宝暦2年　8月27日 快晴
1752年　10月5日 宝暦2年　8月28日 快晴　（人事異動・工藤嘉左衛門が寄合）
1752年　10月6日 宝暦2年　8月29日 曇　時々小雨
1752年　10月7日 宝暦2年　9月1日 陰晴　午の刻過ぎより雨時々　（8月中所々御関所出人都合110人（碇関御印紙出74切手紙出14・大間越御印紙出5切手紙出6・野内御印紙出11）、亀甲町で男縊死）
1752年　10月8日 宝暦2年　9月2日 快晴　今朝寅の下刻強い地震
1752年　10月9日 宝暦2年　9月3日 曇
1752年 10月10日 宝暦2年　9月4日 曇　終日雨　（御家中の娘が家来を連れて出奔）
1752年 10月11日 宝暦2年　9月5日 いのｎ
1752年 10月12日 宝暦2年　9月6日 晴　朝の内少々小雨　巳の刻より晴
1752年 10月13日 宝暦2年　9月7日 陰晴
1752年 10月14日 宝暦2年　9月8日 快晴　昨夜中雨　（8月中碇関:入り116・出入り人数合214人、同大間越:出入人数合58人、同野内:出入合171人）
1752年 10月15日 宝暦2年　9月9日 快晴　夜中雨
1752年 10月16日 宝暦2年　9月10日 曇　時々雨　午の刻丸雪降　岩木山に初雪
1752年 10月17日 宝暦2年　9月11日 晴　今朝大霜　午の刻過ぎより曇風立つ　未の上刻小雨　亥の上刻雷発す
1752年 10月18日 宝暦2年　9月12日 曇　今朝岩木山半ふく迄雪見る　終日風立つ
1752年 10月19日 宝暦2年　9月13日 晴　昨夜中小雨　未の刻過ぎより小雨　酉の下刻雷強く発し雨降
1752年 10月20日 宝暦2年　9月14日 曇
1752年 10月21日 宝暦2年　9月15日 曇　卯の中刻雷発す　卯の下刻より雨　（近年檜払底……）
1752年 10月22日 宝暦2年　9月16日 陰晴
1752年 10月23日 宝暦2年　9月17日 晴　午の下刻より曇
1752年 10月24日 宝暦2年　9月18日 陰晴　今朝小雨　申の上刻雨雪　雷発す　酉の刻風立つ　夜中雨
1752年 10月25日 宝暦2年　9月19日 曇　未の中刻虹見る　申の下刻より雨　酉の上刻より亥の刻まで強雷発す　亥の中刻止む　時々雨
1752年 10月26日 宝暦2年　9月20日 曇　朝の内水雪小雨　酉の刻雷発す　夜中時々雨　（天気宜しからず嵩並びに湯段とも湯治人停止）
1752年 10月27日 宝暦2年　9月21日 晴
1752年 10月28日 宝暦2年　9月22日 晴　亥の中刻小雨　丑の中刻風立ち小雨　雷少々発す　それより小雨
1752年 10月29日 宝暦2年　9月23日 晴　朝の内晴　午の中刻風立つ　それより小雨
1752年 10月30日 宝暦2年　9月24日 晴　昨夜中時々小雨　（19日夜柏木組梅田村に落雷・稲乳（におのことですな）2つ焼失）
1752年 10月31日 宝暦2年　9月25日 快晴

1752年　11月1日 宝暦2年　　9月26日 快晴　今朝大霜
1752年　11月2日 宝暦2年　　9月27日 晴　今朝大霜　夜中雨
1752年　11月3日 宝暦2年　　9月28日 快晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1752年　11月4日 宝暦2年　　9月29日 曇　終日雨
1752年　11月5日 宝暦2年　　9月30日 晴　昨夜中風雨　巳の中刻より晴
1752年　11月6日 宝暦2年　　10月1日 快晴　夜中風立つ　(9月中所々御関所出人都合117人(碇関御印紙出64切手紙出52・青森湊口切手紙出1))
1752年　11月7日 宝暦2年　　10月2日 曇　今朝戌亥の方虹見る　巳の刻より雨　未の下刻より時々風
1752年　11月8日 宝暦2年　　10月3日 快晴
1752年　11月9日 宝暦2年　　10月4日 快晴
1752年 11月10日 宝暦2年　　10月5日 晴　今朝大霜　申の刻北の方虹見る　酉の上刻雷少し発す　時々雨
1752年 11月11日 宝暦2年　　10月6日 曇　未の下刻より雨
1752年 11月12日 宝暦2年　　10月7日 曇　昨夜中雨　今朝初雪　終日に及ぶ
1752年 11月13日 宝暦2年　　10月8日 陰晴
1752年 11月14日 宝暦2年　　10月9日 晴　(御献上の塩鮭等を御家老衆が内見・初鮭は8月15日に上がったとのこと)
1752年 11月15日 宝暦2年　10月10日 晴　今朝雪
1752年 11月16日 宝暦2年　10月11日 陰晴　今朝大雪　夜中雨
1752年 11月17日 宝暦2年　10月12日 曇　昨夜中時々小雨　風立つ　辰の刻より小雪
1752年 11月18日 宝暦2年　10月13日 曇　昨夜中小雨　風立つ　辰の下刻より小雪
1752年 11月19日 宝暦2年　10月14日 曇　昨巳の下刻より雪降　夜に入り晴れる　巳の下刻雨
1752年 11月20日 宝暦2年　10月15日 陰晴
1752年 11月21日 宝暦2年　10月16日 快晴　昨夜霜二寸余降
1752年 11月22日 宝暦2年　10月17日 陰晴　午の刻より晴
1752年 11月23日 宝暦2年　10月18日 快晴
1752年 11月24日 宝暦2年　10月19日 快晴
1752年 11月25日 宝暦2年　10月20日 快晴
1752年 11月26日 宝暦2年　10月21日 快晴　(9月中碇関:出64馬3他に2人が往来証文・入人数122人、同大間越:御印紙出7切手紙出4松前往来出2・入13・出入人数合23人、同野内:御印紙出49切手紙出11・入70・出入合130人)
1752年 11月27日 宝暦2年　10月22日 曇　巳の下刻小雨　終日雨降
1752年 11月28日 宝暦2年　10月23日 曇　巳の刻小雨　終日雨降
1752年 11月29日 宝暦2年　10月24日 曇　昨夜より雪吹く　今朝に至る　終日雪時々
1752年 11月30日 宝暦2年　10月25日 陰晴
1752年　12月1日 宝暦2年　10月26日 快晴　(青森で牢死か:青森町奉行から死亡の報告あり)
1752年　12月2日 宝暦2年　10月27日 曇　辰の下刻小雨　雪少々　(解死人の山伏を還俗させ俗名にして刑に服させたいとの申し出で・了、今朝誓願寺境に変死(40歳男縊死)あり)
1752年　12月3日 宝暦2年　10月28日 曇　終日雪
1752年　12月4日 宝暦2年　10月29日 なし(日記は存在するが天候の記述なし)
1752年　12月5日 宝暦2年　10月30日 晴
1752年　12月6日 宝暦2年　　11月1日 快晴　(10月中所々御関所出人173人(碇関:御印紙出78切手紙出92・野内:御印紙出1切手紙出2))
1752年　12月7日 宝暦2年　　11月2日 快晴　亥の上刻雷発す　大風雨強し　(昨朝橋雲寺門前に火災(2間×3間)・火元戸〆)
1752年　12月8日 宝暦2年　　11月3日 曇　風立つ　丸雪降る　夜中風雪
1752年　12月9日 宝暦2年　　11月4日 曇　時々雪
1752年 12月10日 宝暦2年　　11月5日 曇　時々雪
1752年 12月11日 宝暦2年　　11月6日 曇　時々雪
1752年 12月12日 宝暦2年　　11月7日 快晴
1752年 12月13日 宝暦2年　　11月8日 曇　(御家中の着服の規制を再確認)
1752年 12月14日 宝暦2年　　11月9日 快晴　氷強
1752年 12月15日 宝暦2年　11月10日 曇　昨夜中よりの雨終日に及ぶ　(10月中碇関:入り人数86・出入り人数合275人、同野内:出入合108人、同大間越:出入人数合57人)
1752年 12月16日 宝暦2年　11月11日 曇　昨夜中よりの雪吹今朝に及ぶ　今日時々雪　(9月中尾太出高:鉛110箇13貫目・先月中90箇5貫目)
1752年 12月17日 宝暦2年　11月12日 快晴
1752年 12月18日 宝暦2年　11月13日 陰晴
1752年 12月19日 宝暦2年　11月14日 快晴　　下から続く　　11日夜油川組十門(戸門?)村で火災・火元御蔵百姓村預け)
1752年 12月20日 宝暦2年　11月15日 晴　朝の内時々雪　(当月11日朝七つ時より昼九つ時まで早川口より残らず氷張る・去年は10月20日で今年は22日遅く節に引き合い12日遅い、種市伝助に一粒金丹3粒、　　上に続く
1752年 12月21日 宝暦2年　11月16日 曇　今日より冬至に入る
1752年 12月22日 宝暦2年　11月17日 快晴　昨夜子の刻過ぎより寅の刻まで雨
1752年 12月23日 宝暦2年　11月18日 快晴　夜に入り雨
1752年 12月24日 宝暦2年　11月19日 曇　終日雪
1752年 12月25日 宝暦2年　11月20日 曇　午の刻より晴　亥の中刻地震　(当年御献上の鱈がまだ1本も上がらない)
1752年 12月26日 宝暦2年　11月21日 曇　時々雪
1752年 12月27日 宝暦2年　11月22日 快晴　(外崎十郎左衛門に一粒金丹3粒、藤代組が米4654石9斗9升3合(11637俵1斗9升3合)の御収納を21日に皆済)
1752年 12月28日 宝暦2年　11月23日 晴
1752年 12月29日 宝暦2年　11月24日 曇　今朝雨
1752年 12月30日 宝暦2年　11月25日 曇　昨夜中より雪吹く　今朝に及び時々雪
1752年 12月31日 宝暦2年　11月26日 曇　終日雪

1753年　1月1日 宝暦2年　11月27日 快晴
1753年　1月2日 宝暦2年　11月28日 快晴
1753年　1月3日 宝暦2年　11月29日 曇　　下から続く　　生目形75匁:5歳)取る)
1753年　1月4日 宝暦2年　12月1日 曇　昨夜中より時々雪 (11月中所々御関所出人都合47人(碇関45:御印紙出41切手紙出4・野内2:御印紙出1切手紙出1)、28日大秋村の新兵衛が熊(胆長4寸廻り7寸　　上に続く
1753年　1月5日 宝暦2年　12月2日 陰晴　昨夜中雪時々　未の三刻小寒に入る
1753年　1月6日 宝暦2年　12月3日 曇　時々雪
1753年　1月7日 宝暦2年　12月4日 快晴　昨夜中より雨　今朝晴
1753年　1月8日 宝暦2年　12月5日 快晴
1753年　1月9日 宝暦2年　12月6日 快晴　巳の上刻小雨暫く
1753年　1月10日 宝暦2年　12月7日 曇 (御献上の鱈御家老中御見分)
1753年　1月11日 宝暦2年　12月8日 快晴　午の上刻より雨
1753年　1月12日 宝暦2年　12月9日 曇　昨夜中より風吹く　終日に及ぶ　申の中刻地震 (11月中碇関出人数141人(御印紙出42切手紙出40・入83)・同大間越出入合50人(出16入34)・同野内(御印紙出34切手紙出12・入47人)
1753年　1月13日 宝暦2年　12月10日 曇　時々雪
1753年　1月14日 宝暦2年　12月11日 陰晴 (当月8日晩藤代組南浮田村の鳴沢川の橋板残らず吹き飛ばす・家も6・7軒吹き倒れる)
1753年　1月15日 宝暦2年　12月12日 晴　時々雪
1753年　1月16日 宝暦2年　12月13日 晴　時々風吹く (5日横内組野尻村で火災・火元焼死、瑞厳院様(屋形様になれずに亡くなった若殿)23回忌で大赦・10人出牢)
1753年　1月17日 宝暦2年　12月14日 曇　昨夜中雪降り　終日に及ぶ
1753年　1月18日 宝暦2年　12月15日 快晴 (9日の朝大泊沖合いで大風・南部船破船・11人中6人死亡、同日袰月港で破船1艘、13日鰺ヶ沢町の男縊死)
1753年　1月19日 宝暦2年　12月16日 快晴
1753年　1月20日 宝暦2年　12月17日 曇　時々雪 (10月中尾太銅山出高:鉛90箇5貫目・先月中90箇7貫目
1753年　1月21日 宝暦2年　12月18日 陰晴　戌の下刻雨時々
1753年　1月22日 宝暦2年　12月19日 陰晴　昨夜中雪
1753年　1月23日 宝暦2年　12月20日 晴　今寅の下刻地震　朝の内雪 (正月4日には江戸に御吉例金として200両送る)
1753年　1月24日 宝暦2年　12月21日 曇　昨夜中雨
1753年　1月25日 宝暦2年　12月22日 晴
1753年　1月26日 宝暦2年　12月23日 快晴
1753年　1月27日 宝暦2年　12月24日 快晴　夜に入り雪 (黒石領からの来年の津出高を米6000石大豆150俵と認める)
1753年　1月28日 宝暦2年　12月25日 曇　昨夜中より雪
1753年　1月29日 宝暦2年　12月26日 曇
1753年　1月30日 宝暦2年　12月27日 快晴　昨夜丑の刻地震 (御入部(屋形様としての初の国入り)用の畳などを用意している)
1753年　1月31日 宝暦2年　12月28日 快晴　夜に入り雪 (当御収納今日までに皆済)
1753年　2月1日 宝暦2年　12月29日 曇　時々雪
1753年　2月2日 宝暦2年　12月30日 陰晴　時々雪
1753年　2月3日 宝暦3年　正月1日　曇　終日時々雪　昨夜中吹雪
1753年　2月4日 宝暦3年　正月2日　曇
1753年　2月5日 宝暦3年　正月3日　曇
1753年　2月6日 宝暦3年　正月4日　晴
1753年　2月7日 宝暦3年　正月5日　快晴
1753年　2月8日 宝暦3年　正月6日　晴
1753年　2月9日 宝暦3年　正月7日　快晴
1753年　2月10日 宝暦3年　正月8日　快晴
1753年　2月11日 宝暦3年　正月9日　晴　余寒強し
1753年　2月12日 宝暦3年　正月10日　晴　朝の内雪
1753年　2月13日 宝暦3年　正月11日　曇　昨夜中雪　今朝まで (乳井市郎左衛門を勘定奉行に)
1753年　2月14日 宝暦3年　正月12日　快晴
1753年　2月15日 宝暦3年　正月13日　晴　朝の内小雪
1753年　2月16日 宝暦3年　正月14日　晴
1753年　2月17日 宝暦3年　正月15日　快晴
1753年　2月18日 宝暦3年　正月16日　晴
1753年　2月19日 宝暦3年　正月17日　晴 (去る12月中所々御関所出人都合52人(碇関48:御印紙出33切手紙出15・野内4:切手紙4))
1753年　2月20日 宝暦3年　正月18日　快晴
1753年　2月21日 宝暦3年　正月19日　晴　午の刻雪　夜中に及ぶ
1753年　2月22日 宝暦3年　正月20日　曇　巳の下刻より小雪時々
1753年　2月23日 宝暦3年　正月21日　曇　辰の上刻より小雪 (江戸で3日御謡初)
1753年　2月24日 宝暦3年　正月22日　晴
1753年　2月25日 宝暦3年　正月23日　快晴
1753年　2月26日 宝暦3年　正月24日　快晴
1753年　2月27日 宝暦3年　正月25日　曇
1753年　2月28日 宝暦3年　正月26日　快晴

1753年　3月1日 宝暦3年 正月27日　晴
1753年　3月2日 宝暦3年 正月28日　快晴 （御用人竹内源太夫に一粒金丹10粒）
1753年　3月3日 宝暦3年 正月29日　陰晴
1753年　3月4日 宝暦3年 正月30日　晴　戌の下刻より夜中時々雨
1753年　3月5日 宝暦3年　2月1日 曇　時々雨 （正月中所々御関所出人都合280人（碇関280：御印紙出271切手紙出9））
1753年　3月6日 宝暦3年　2月2日 陰晴 （御内分御蔵奉行は御馬廻りなのだ）
1753年　3月7日 宝暦3年　2月3日 陰晴
1753年　3月8日 宝暦3年　2月4日 陰晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ （昨2日大工町で男縊死）
1753年　3月9日 宝暦3年　2月5日 快晴
1753年　3月10日 宝暦3年　2月6日 快晴 （取上御仕置き場で男斬罪・広田村で男を切り殺したもの、盗みをした追放者は御領の者には左・他領の者には右手の甲に差渡1寸5歩輪の形の刺青をして追放するようにする）
1753年　3月11日 宝暦3年　2月7日 晴 （大間越領に長さ3間余の寄せ鯨・ひれ・たけりなどなければ大間越の者どもに下し置かれる）
1753年　3月12日 宝暦3年　2月8日 晴　辰の中刻小雨
1753年　3月13日 宝暦3年　2月9日 曇　朝の内雪降　巳の刻過ぎより晴れる
1753年　3月14日 宝暦3年　2月10日 陰晴 （米9000俵など津出、遠慮中の御家中の倅が病気で隣家から医者を入れる許可を得ている、当年の御廻米上方に69500石江戸へ27040石〆96540石仰せ付けられる）
1753年　3月15日 宝暦3年　2月11日 晴　昼時々雪 （牢奉行が刺青のための鉄針7本などを申し出でる）
1753年　3月16日 宝暦3年　2月12日 晴
1753年　3月17日 宝暦3年　2月13日 曇
1753年　3月18日 宝暦3年　2月14日 曇
1753年　3月19日 宝暦3年　2月15日 陰晴　少々雪降
1753年　3月20日 宝暦3年　2月16日 曇　午の刻過ぎより雨
1753年　3月21日 宝暦3年　2月17日 曇　巳の刻より曇
1753年　3月22日 宝暦3年　2月18日 曇　終日雪吹
1753年　3月23日 宝暦3年　2月19日 曇
1753年　3月24日 宝暦3年　2月20日 曇　彼岸に入る
1753年　3月25日 宝暦3年　2月21日 陰晴　申の下刻水雪　酉の刻に及ぶ　夜中雪
1753年　3月26日 宝暦3年　2月22日 晴　今朝雪時々　巳の刻より晴れる
1753年　3月27日 宝暦3年　2月23日 曇　時々雪
1753年　3月28日 宝暦3年　2月24日 曇　今朝より小雨
1753年　3月29日 宝暦3年　2月25日 曇　終日風雨
1753年　3月30日 宝暦3年　2月26日 曇　時々丸雪
1753年　3月31日 宝暦3年　2月27日 曇 （当月23日より24日の朝四時までに十三潟が早川口より残らず氷明ける・去年より17日遅く節に引き合い6日遅い）
1753年　4月1日 宝暦3年　2月28日 曇
1753年　4月2日 宝暦3年　2月29日 快晴
1753年　4月3日 宝暦3年　2月30日 快晴
1753年　4月4日 宝暦3年　3月1日 晴　今朝小雪 （2月中所々御関所出人都合138人（碇関：御印紙出21切手紙出115・野内：切手紙出2））
1753年　4月5日 宝暦3年　3月2日 陰晴　戌の中刻より夜中時々雨
1753年　4月6日 宝暦3年　3月3日 曇　昨夜中よりの雨今朝に及ぶ　昼時に雨　亥の中刻より風立つ　寅の刻止む
1753年　4月7日 宝暦3年　3月4日 快晴 （正月から戸〆の柏木組館野越村の百姓免許）
1753年　4月8日 宝暦3年　3月5日 曇　時々小雨
1753年　4月9日 宝暦3年　3月6日 晴 （4日鰺ヶ沢で出火、取上御仕置場で盗人男2人斬罪）
1753年　4月10日 宝暦3年　3月7日 陰晴　朝の内時々雪
1753年　4月11日 宝暦3年　3月8日 陰晴
1753年　4月12日 宝暦3年　3月9日 曇　昨夜亥の下刻より雨　終日に及ぶ
1753年　4月13日 宝暦3年　3月10日 快晴
1753年　4月14日 宝暦3年　3月11日 快晴
1753年　4月15日 宝暦3年　3月12日 快晴
1753年　4月16日 宝暦3年　3月13日 快晴　風立つ
1753年　4月17日 宝暦3年　3月14日 晴
1753年　4月18日 宝暦3年　3月15日 陰晴
1753年　4月19日 宝暦3年　3月16日 快晴
1753年　4月20日 宝暦3年　3月17日 快晴 （昨晩堀越組小比内村で火災（4間×2間半と外馬屋2間×2間：給地百姓））
1753年　4月21日 宝暦3年　3月18日 曇　昨夜亥の上刻より雨　終日に及ぶ
1753年　4月22日 宝暦3年　3月19日 曇
1753年　4月23日 宝暦3年　3月20日 快晴
1753年　4月24日 宝暦3年　3月21日 快晴
1753年　4月25日 宝暦3年　3月22日 陰晴　午の刻過ぎ風立つ　酉の上刻より夜中時々風雨　亥の中刻雷発す
1753年　4月26日 宝暦3年　3月23日 晴
1753年　4月27日 宝暦3年　3月24日 快晴　巳の刻過ぎ時々あられ降 （14日の晩御留守居組頭白取弥兵衛の娘出奔）
1753年　4月28日 宝暦3年　3月25日 快晴　今朝霜　終日時々風立つ
1753年　4月29日 宝暦3年　3月26日 曇　朝の内雨　風立つ　午の刻より晴
1753年　4月30日 宝暦3年　3月27日 快晴 （当月22日鹿子山に山火事・打消す）

1753年　5月1日 宝暦3年　3月28日 快晴　今朝霜
1753年　5月2日 宝暦3年　3月29日 快晴　(昨日九時長勝寺境内林に野火・相鎮める)
1753年　5月3日 宝暦3年　4月1日 快晴　(3月中御関所出人都合238人(碇関225:御印紙出57切手紙出168・大間越6:御印紙出4切手紙出2・野内7:御印紙出3切手紙出4)、2月17日～3月26日までの酸ヶ湯の入湯者821人)
1753年　5月4日 宝暦3年　4月2日 快晴　終日風立つ
1753年　5月5日 宝暦3年　4月3日 陰晴　未の刻より雨少々
1753年　5月6日 宝暦3年　4月4日 曇　辰の下刻より快晴
1753年　5月7日 宝暦3年　4月5日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　巳の下刻晴
1753年　5月8日 宝暦3年　4月6日 曇　辰の中刻より雨　終日に及ぶ
1753年　5月9日 宝暦3年　4月7日 陰晴
1753年　5月10日 宝暦3年　4月8日 快晴
1753年　5月11日 宝暦3年　4月9日 曇　終日雨　昨夜中雷発す
1753年　5月12日 宝暦3年　4月10日 陰晴　(去る21日江戸で御家督御祝儀の御囃子)
1753年　5月13日 宝暦3年　4月11日 快晴
1753年　5月14日 宝暦3年　4月12日 陰晴
1753年　5月15日 宝暦3年　4月13日 曇　昨夜雨時々　風立つ
1753年　5月16日 宝暦3年　4月14日 快晴
1753年　5月17日 宝暦3年　4月15日 快晴　(去る巳の年(1749・寛延2年)御領分不熟に付き翌午の年より御貸増(御家中から藩に貸した事になっていて返さない……、知行取の場合は半知など)の一部が免除される)
1753年　5月18日 宝暦3年　4月16日 快晴
1753年　5月19日 宝暦3年　4月17日 快晴
1753年　5月20日 宝暦3年　4月18日 快晴
1753年　5月21日 宝暦3年　4月19日 快晴　酉の刻地震　(駒越町の男の子今朝五時牢死)
1753年　5月22日 宝暦3年　4月20日 快晴
1753年　5月23日 宝暦3年　4月21日 快晴　(御用人毛内有右衛門に一粒金丹10粒)
1753年　5月24日 宝暦3年　4月22日 陰晴
1753年　5月25日 宝暦3年　4月23日 曇　申の刻より雨　夜に入り大雨　亥の刻雷
1753年　5月26日 宝暦3年　4月24日 陰晴
1753年　5月27日 宝暦3年　4月25日 曇　小雨
1753年　5月28日 宝暦3年　4月26日 曇　朝の内小雨
1753年　5月29日 宝暦3年　4月27日 曇
1753年　5月30日 宝暦3年　4月28日 快晴
1753年　5月31日 宝暦3年　4月29日 晴
1753年　6月1日 宝暦3年　4月30日 快晴
1753年　6月2日 宝暦3年　5月1日 陰晴　午の刻より快晴　(人事異動、4月中所々御関所出人都合360人馬17疋(碇関御印紙出124人と17疋切手紙出179・大間越御印紙出36切手紙出18・野内切手紙出3))
1753年　6月3日 宝暦3年　5月2日 快晴　(御留守居組頭白取弥兵衛に一粒金丹3粒)
1753年　6月4日 宝暦3年　5月3日 快晴　(牢者の女大病に付き出牢・親共預け)
1753年　6月5日 宝暦3年　5月4日 快晴
1753年　6月6日 宝暦3年　5月5日 快晴
1753年　6月7日 宝暦3年　5月6日 曇　午の中刻より雨　夜中に及ぶ
1753年　6月8日 宝暦3年　5月7日 快晴　時々風　午の中刻雨時々
1753年　6月9日 宝暦3年　5月8日 晴　朝の内少々曇
1753年　6月10日 宝暦3年　5月9日 快晴
1753年　6月11日 宝暦3年　5月10日 快晴
1753年　6月12日 宝暦3年　5月11日 曇　朝の内小雨　巳の下刻より晴れる　(去る8日禰宜町で出火、金相場74匁4分・米1俵に付き12文目)
1753年　6月13日 宝暦3年　5月12日 曇
1753年　6月14日 宝暦3年　5月13日 曇　辰の中刻より雨　(御米方勘定奉行高森三四郎に人参1両下し置かれる)
1753年　6月15日 宝暦3年　5月14日 曇　午の刻大雨　(御家中の中間2人出奔・指名手配)
1753年　6月16日 宝暦3年　5月15日 快晴
1753年　6月17日 宝暦3年　5月16日 陰晴
1753年　6月18日 宝暦3年　5月17日 陰晴　午の刻過ぎ雷発す　雨暫く
1753年　6月19日 宝暦3年　5月18日 陰晴　午の上刻雷発す
1753年　6月20日 宝暦3年　5月19日 曇
1753年　6月21日 宝暦3年　5月20日 快晴　(一昨17日昼九半時堀越組大清水村に落雷・男1人死亡)
1753年　6月22日 宝暦3年　5月21日 快晴
1753年　6月23日 宝暦3年　5月22日 陰晴　昨夜中雨
1753年　6月24日 宝暦3年　5月23日 曇　巳の刻より陰晴
1753年　6月25日 宝暦3年　5月24日 快晴
1753年　6月26日 宝暦3年　5月25日 陰晴
1753年　6月27日 宝暦3年　5月26日 陰晴
1753年　6月28日 宝暦3年　5月27日 曇
1753年　6月29日 宝暦3年　5月28日 曇　昨夜雨降　午の刻より晴
1753年　6月30日 宝暦3年　5月29日 快晴

1753年　7月1日 宝暦3年　6月1日 曇　午の刻過ぎより快晴 （5月中所々御関所出人都合198人（碇関御印紙出159切手紙出33・大間越御印紙出3切手紙出2・野内切手紙出1））
1753年　7月2日 宝暦3年　6月2日 快晴 （昨朔日歌舞伎芝居の後で酒に酔い口論・町内払い）
1753年　7月3日 宝暦3年　6月3日 快晴
1753年　7月4日 宝暦3年　6月4日 曇　時々雨　午の刻過ぎ大雨　雷暫く発す　終日に及ぶ （四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1753年　7月5日 宝暦3年　6月5日 曇　昨夜中小雨
1753年　7月6日 宝暦3年　6月6日 陰晴　巳の刻過ぎ雨暫く
1753年　7月7日 宝暦3年　6月7日 快晴
1753年　7月8日 宝暦3年　6月8日 快晴
1753年　7月9日 宝暦3年　6月9日 曇
1753年　7月10日 宝暦3年　6月10日 快晴　朝の内曇　巳の刻より晴
1753年　7月11日 宝暦3年　6月11日 快晴 （本町で家守が変死）
1753年　7月12日 宝暦3年　6月12日 快晴　未の下刻雨　夜中に及ぶ （当秋より収納1万石に付き千俵宛の囲い籾を仰せ付けられる）
1753年　7月13日 宝暦3年　6月13日 曇　巳の下刻雨
1753年　7月14日 宝暦3年　6月14日 陰晴　巳の刻過ぎ小雨
1753年　7月15日 宝暦3年　6月15日 快晴　午の刻過ぎ小雨 （先月28日松前から船頭と水主の2人帰る・2月に野内村を出て鯡取りの出稼ぎを乗せ23人が奥尻に吹き寄せられ・21人が流死したもの）
1753年　7月16日 宝暦3年　6月16日 快晴
1753年　7月17日 宝暦3年　6月17日 快晴
1753年　7月18日 宝暦3年　6月18日 快晴
1753年　7月19日 宝暦3年　6月19日 快晴　未の五刻土用入り　大暑
1753年　7月20日 宝暦3年　6月20日 曇　卯の中刻雷少々　同刻雨　辰の下刻地震
1753年　7月21日 宝暦3年　6月21日 曇
1753年　7月22日 宝暦3年　6月22日 陰晴　朝の内曇
1753年　7月23日 宝暦3年　6月23日 陰晴　午の刻より雨時々
1753年　7月24日 宝暦3年　6月24日 曇　時々雨　申の刻風
1753年　7月25日 宝暦3年　6月25日 曇　時々雨
1753年　7月26日 宝暦3年　6月26日 曇
1753年　7月27日 宝暦3年　6月27日 晴　午の刻雨少々
1753年　7月28日 宝暦3年　6月28日 曇　昨夜中大雨　雷発す　酉の刻風立つ （四社に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1753年　7月29日 宝暦3年　6月29日 陰晴
1753年　7月30日 宝暦3年　7月1日 快晴 （6月中所々御関所出人都合107人（御印紙出91人!:碇関76大間越3野内12・切手紙出26人:碇関25野内1））
1753年　7月31日 宝暦3年　7月2日 快晴
1753年　8月1日 宝暦3年　7月3日 快晴
1753年　8月2日 宝暦3年　7月4日 快晴
1753年　8月3日 宝暦3年　7月5日 快晴　朝の内曇
1753年　8月4日 宝暦3年　7月6日 快晴
1753年　8月5日 宝暦3年　7月7日 陰晴
1753年　8月6日 宝暦3年　7月8日 快晴
1753年　8月7日 宝暦3年　7月9日 曇　卯の刻より小雨　午の刻より大雨　雷発す　申の中刻東の方虹見る
1753年　8月8日 宝暦3年　7月10日 快晴
1753年　8月9日 宝暦3年　7月11日 快晴　暮れに及び小雨　子の刻より大雨　同下刻止む （5月朔日植え付けの稲が昨10日出穂・去年4月20日植付け6月20日出穂）
1753年　8月10日 宝暦3年　7月12日 快晴　巳の下刻雨少々
1753年　8月11日 宝暦3年　7月13日 晴　午の下刻大雨暫く　申の下刻止む
1753年　8月12日 宝暦3年　7月14日 曇　巳の刻より小雨
1753年　8月13日 宝暦3年　7月15日 快晴
1753年　8月14日 宝暦3年　7月16日 快晴
1753年　8月15日 宝暦3年　7月17日 快晴　午の刻より曇
1753年　8月16日 宝暦3年　7月18日 晴　今朝雨少々
1753年　8月17日 宝暦3年　7月19日 快晴
1753年　8月18日 宝暦3年　7月20日 曇　卯の中刻より雨終日　夜に及ぶ （16日夜青森堤町の男が踊りの場所で乱暴・盆中の喧嘩で呵置く）
1753年　8月19日 宝暦3年　7月21日 曇　今朝西の方虹見る
1753年　8月20日 宝暦3年　7月22日 快晴　昨夜中雨
1753年　8月21日 宝暦3年　7月23日 快晴
1753年　8月22日 宝暦3年　7月24日 曇　今朝より雨　午の刻より晴
1753年　8月23日 宝暦3年　7月25日 曇　未の下刻地震
1753年　8月24日 宝暦3年　7月26日 快晴
1753年　8月25日 宝暦3年　7月27日 快晴
1753年　8月26日 宝暦3年　7月28日 快晴 （人事異動）
1753年　8月27日 宝暦3年　7月29日 陰晴
1753年　8月28日 宝暦3年　7月30日 快晴　昨夜子の上刻より雨　同中刻雷発す　卯の刻止む
1753年　8月29日 宝暦3年　8月1日 陰晴 （7月中所々御関所出人都合84人:御印紙出70人（碇関66大間越3野内1）・切手紙出14人（碇関12大間越2）、大鰐村より初米差し上げる・去年は7月12日で今年が8日遅い）
1753年　8月30日 宝暦3年　8月2日 曇　昼時々雨
1753年　8月31日 宝暦3年　8月3日 陰晴

1753年　9月1日 宝暦3年　8月4日 晴
1753年　9月2日 宝暦3年　8月5日 快晴
1753年　9月3日 宝暦3年　8月6日 快晴
1753年　9月4日 宝暦3年　8月7日 晴 （四社に天気揚げ御祈祷仰せ付ける）
1753年　9月5日 宝暦3年　8月8日 陰晴
1753年　9月6日 宝暦3年　8月9日 快晴
1753年　9月7日 宝暦3年　8月10日 快晴
1753年　9月8日 宝暦3年　8月11日 快晴
1753年　9月9日 宝暦3年　8月12日 晴
1753年　9月10日 宝暦3年　8月13日 晴
1753年　9月11日 宝暦3年　8月14日 晴　午の下刻雷発す
1753年　9月12日 宝暦3年　8月15日 快晴
1753年　9月13日 宝暦3年　8月16日 陰晴
1753年　9月14日 宝暦3年　8月17日 曇
1753年　9月15日 宝暦3年　8月18日 陰晴
1753年　9月16日 宝暦3年　8月19日 曇　巳の刻より雨　夜中大雨
1753年　9月17日 宝暦3年　8月20日 陰晴
1753年　9月18日 宝暦3年　8月21日 陰晴
1753年　9月19日 宝暦3年　8月22日 快晴
1753年　9月20日 宝暦3年　8月23日 快晴
1753年　9月21日 宝暦3年　8月24日 曇　申の刻過ぎ雨　夜に入り風暫く　酉の刻過ぎ雁渡る
1753年　9月22日 宝暦3年　8月25日 陰晴
1753年　9月23日 宝暦3年　8月26日 快晴
1753年　9月24日 宝暦3年　8月27日 快晴
1753年　9月25日 宝暦3年　8月28日 晴　戌の下刻雨時々雷
1753年　9月26日 宝暦3年　8月29日 曇　巳の刻より雨　西の方虹見ゆる
1753年　9月27日 宝暦3年　9月1日 快晴 （8月中所々御関所出人都合123人：御印紙出85人（碇関84野内1）・切手紙出38人（碇関37青森湊口1））
1753年　9月28日 宝暦3年　9月2日 曇　巳の中刻より小雨 （先月20日佐竹様御逝去）
1753年　9月29日 宝暦3年　9月3日 曇　時々風雨　午の中刻北の方に虹見る
1753年　9月30日 宝暦3年　9月4日 曇　昨夜亥の下刻雷発す　暫くして止む　丑の上刻雷発す　今朝初めて岩木山半伏?迄雪見る　亥の中刻戌亥の間に虹見る　時々小雨
1753年　10月1日 宝暦3年　9月5日 曇　時々雨
1753年　10月2日 宝暦3年　9月6日 快晴　午の刻より曇　時々小雨　未の刻晴　夜に入り稲光有
1753年　10月3日 宝暦3年　9月7日 快晴　午の中刻雨 （先月19日屋形様の御縁組が決まった）
1753年　10月4日 宝暦3年　9月8日 曇
1753年　10月5日 宝暦3年　9月9日 晴
1753年　10月6日 宝暦3年　9月10日 晴
1753年　10月7日 宝暦3年　9月11日 快晴
1753年　10月8日 宝暦3年　9月12日 快晴　午の下刻風立つ
1753年　10月9日 宝暦3年　9月13日 快晴
1753年 10月10日 宝暦3年　9月14日 晴　巳の下刻より申の上刻まで時々雷発す　風雨申の下刻止む
1753年 10月11日 宝暦3年　9月15日 曇　終日雨
1753年 10月12日 宝暦3年　9月16日 快晴　酉の刻過ぎ月喰　三歩程遺る
1753年 10月13日 宝暦3年　9月17日 曇　辰の刻過ぎより雷発す　巳の刻より雨　雷強く発す　巳の下刻止む　風立つ
1753年 10月14日 宝暦3年　9月18日 晴
1753年 10月15日 宝暦3年　9月19日 晴
1753年 10月16日 宝暦3年　9月20日 快晴　今朝霜
1753年 10月17日 宝暦3年　9月21日 快晴　今朝霜
1753年 10月18日 宝暦3年　9月22日 快晴　昨夜中より風立つ
1753年 10月19日 宝暦3年　9月23日 曇　午の刻晴　風立つ
1753年 10月20日 宝暦3年　9月24日 快晴
1753年 10月21日 宝暦3年　9月25日 晴　子の刻まで曇
1753年 10月22日 宝暦3年　9月26日 快晴　子の刻小雨　霜
1753年 10月23日 宝暦3年　9月27日 快晴　午の下刻より雨　それより止む
1753年 10月24日 宝暦3年　9月28日 快晴　今朝霜　昨夜中より小雨
1753年 10月25日 宝暦3年　9月29日 快晴　亥の中刻稲光有
1753年 10月26日 宝暦3年　10月1日 曇　卯の刻雷発す　時々雨　今朝西の方虹見る （9月中所々御関所出人都合125人：御印紙出80人（碇関79野内1）・切手紙出45人（碇関40大間越1野内2青森湊口2））
1753年 10月27日 宝暦3年　10月2日 曇　時々雨
1753年 10月28日 宝暦3年　10月3日 晴
1753年 10月29日 宝暦3年　10月4日 快晴　今朝霜
1753年 10月30日 宝暦3年　10月5日 陰晴
1753年 10月31日 宝暦3年　10月6日 晴

1753年　11月1日 宝暦3年　　10月7日 快晴
1753年　11月2日 宝暦3年　　10月8日 曇
1753年　11月3日 宝暦3年　　10月9日 快晴　今朝大霜
1753年　11月4日 宝暦3年　　10月10日 曇　辰の下刻雨
1753年　11月5日 宝暦3年　　10月11日 曇　辰の刻雷発す　終日雨
1753年　11月6日 宝暦3年　　10月12日 快晴　昨夜中風
1753年　11月7日 宝暦3年　　10月13日 曇
1753年　11月8日 宝暦3年　　10月14日 曇　終日雨
1753年　11月9日 宝暦3年　　10月15日 曇　初雪　終日雪吹
1753年 11月10日 宝暦3年　　10月16日 曇　時々雨
1753年 11月11日 宝暦3年　　10月17日 曇　午の刻晴
1753年 11月12日 宝暦3年　　10月18日 快晴
1753年 11月13日 宝暦3年　　10月19日 快晴
1753年 11月14日 宝暦3年　　10月20日 曇　昨夜中雨　雷発す　巳の刻丸雪
1753年 11月15日 宝暦3年　　10月21日 晴　昨酉の刻風雨雷発す　夜中風雨
1753年 11月16日 宝暦3年　　10月22日 快晴　午の刻雨
1753年 11月17日 宝暦3年　　10月23日 曇　終日雨
1753年 11月18日 宝暦3年　　10月24日 快晴
1753年 11月19日 宝暦3年　　10月25日 晴　朝の内雨
1753年 11月20日 宝暦3年　　10月26日 陰晴　昨夜雨　（勘定奉行2人を半知御留守居組に・石渡御蔵立会い目付け（御手廻）と御蔵奉行3人（御馬廻）並びに勘定人4人に暇・勘定小頭等5人はお目見え以下御留守居支配に）
1753年 11月21日 宝暦3年　　10月27日 曇　（昨夜御馬廻変死）
1753年 11月22日 宝暦3年　　10月28日 曇　終日雨
1753年 11月23日 宝暦3年　　10月29日 曇　終日雨
1753年 11月24日 宝暦3年　　10月30日 陰晴　午の刻雪
1753年 11月25日 宝暦3年　　11月1日 快晴　（10月中所々御関所出入り?都合87人：御印紙出65人（碇関61野内3青森湊口1）・切手紙出22人（碇関16野内6）、人事異動）
1753年 11月26日 宝暦3年　　11月2日 快晴
1753年 11月27日 宝暦3年　　11月3日 晴　巳の刻より雨　北の方虹見ゆる
1753年 11月28日 宝暦3年　　11月4日 曇　時々小雪
1753年 11月29日 宝暦3年　　11月5日 陰晴　午の刻過ぎより時々雪
1753年 11月30日 宝暦3年　　11月6日 曇　時々雪
1753年　12月1日 宝暦3年　　11月7日 晴　（先達て流死の後潟組浜名村高無の死骸が10月25日に流れ寄せる）
1753年　12月2日 宝暦3年　　11月8日 晴　（郡奉行に書付：御検見人に組・村から賄賂（たばこに金子を差添えるなど）が贈られる・させる代官・庄屋・手代は不実だ・賄賂を受けた検見人は弘前で報告する・その村の庄屋は死罪に）
1753年　12月3日 宝暦3年　　11月9日 曇　今朝霜
1753年　12月4日 宝暦3年　　11月10日 曇　昨夜より雨
1753年　12月5日 宝暦3年　　11月11日 快晴
1753年　12月6日 宝暦3年　　11月12日 曇　昨夜中時々雨
1753年　12月7日 宝暦3年　　11月13日 陰晴
1753年　12月8日 宝暦3年　　11月14日 曇　時々雨
1753年　12月9日 宝暦3年　　11月15日 曇　午の刻より晴れる
1753年 12月10日 宝暦3年　　11月16日 快晴
1753年 12月11日 宝暦3年　　11月17日 晴
1753年 12月12日 宝暦3年　　11月18日 晴　卯の刻過ぎより小雨　巳の刻過ぎ晴　虹見る
1753年 12月13日 宝暦3年　　11月19日 曇
1753年 12月14日 宝暦3年　　11月20日 曇　時々雪
1753年 12月15日 宝暦3年　　11月21日 曇　時々雪
1753年 12月16日 宝暦3年　　11月22日 曇　時々雪
1753年 12月17日 宝暦3年　　11月23日 晴
1753年 12月18日 宝暦3年　　11月24日 曇　寅の下刻地震
1753年 12月19日 宝暦3年　　11月25日 曇　昨夜中雪　今日終日に及ぶ
1753年 12月20日 宝暦3年　　11月26日 陰晴
1753年 12月21日 宝暦3年　　11月27日 快晴　冬至　　下から続く　　古銭684文目・黄金1枚（大判金だから7両2分）を御金蔵から探し出す・お金がないので有効に使えるようにする）
1753年 12月22日 宝暦3年　　11月28日 陰晴　辰の刻雨少々　（25日より26日昼四時まで十三潟が早川口より氷張る・去年は11月11日より氷張る・今年は15日遅く節に引き合い2日遅い、慶長金18両・古金50両3歩　　上に続く
1753年 12月23日 宝暦3年　　11月29日 晴
1753年 12月24日 宝暦3年　　11月30日 快晴
1753年 12月25日 宝暦3年　　12月1日 快晴　今朝霜　（11月中所々御関所出人都合80人：御印紙出60人（碇関56野内4）・切手紙出20人（碇関20））
1753年 12月26日 宝暦3年　　12月2日 快晴　今朝霜
1753年 12月27日 宝暦3年　　12月3日 快晴　今朝霜　（取上御仕置き場で男（盗み多数）斬罪）
1753年 12月28日 宝暦3年　　12月4日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻過ぎより雨　終日に及ぶ
1753年 12月29日 宝暦3年　　12月5日 陰晴　午の刻より小雨　夜中風雪　卯の中刻西の方に虹見ゆる
1753年 12月30日 宝暦3年　　12月6日 曇　終日雪
1753年 12月31日 宝暦3年　　12月7日 曇　終日雪　夜中に及ぶ　（当年耕作初：種浸2月25日・田打3月10日・種蒔3月23日・くれかき4月2日・田植5月2日・田草取5月26日・出穂7月10日・稲刈9月4日・稲村納9月20日）

1754年　1月1日 宝暦3年　　12月8日 曇　時々雪
1754年　1月2日 宝暦3年　　12月9日 曇　時々雪
1754年　1月3日 宝暦3年　12月10日 快晴
1754年　1月4日 宝暦3年　12月11日 晴　(御献上の鱈御家老中御見分・初鱈11月4日に上がる)　　下から続く　　稲2000束ほど・次米50俵(4斗入り)・家財残らず焼失・火元村預け)
1754年　1月5日 宝暦3年　12月12日 快晴　(後潟組代官から種籾(1反歩に付き1斗3升5合)拝借願い・2割の利息で秋まで貸す、昨10日夜四つ半頃浦町組牛館村で火災家1軒(4間×15間:百姓)・馬14疋・　　上に続く
1754年　1月6日 宝暦3年　12月13日 快晴　卯の中刻過ぎ雨少々　申の刻過ぎ雷発す　稲光　風雨　子の中刻寒に入る
1754年　1月7日 宝暦3年　12月14日 曇
1754年　1月8日 宝暦3年　12月15日 曇　時々雪
1754年　1月9日 宝暦3年　12月16日 曇　時々雪
1754年　1月10日 宝暦3年　12月17日 快晴　(正月4日に江戸表に御吉例金として200両送る、10日浦町組牛館村の火元の預け免許)
1754年　1月11日 宝暦3年　12月18日 快晴
1754年　1月12日 宝暦3年　12月19日 曇　時々小雨　　下から続く　　7日振り……9日振りがあり・10から12日振り66匁9分5厘金に〆1両と6匁9分5厘(45匁8分2厘9毛金に〆3歩と8分2厘9毛))
1754年　1月13日 宝暦3年　12月20日 快晴　(両替75匁7分、10月より翌2月まで(3月より9月)の御飛脚1人分路銀:6日振り201匁1分6厘3毛金に〆3両1歩と6匁1分6厘3毛(137匁7分1毛金に〆2両1歩と2匁7分1毛)　　上に続く
1754年　1月14日 宝暦3年　12月21日 陰晴　時々小雪
1754年　1月15日 宝暦3年　12月22日 快晴
1754年　1月16日 宝暦3年　12月23日 晴
1754年　1月17日 宝暦3年　12月24日 曇　寅の中刻より雨　終日に及ぶ
1754年　1月18日 宝暦3年　12月25日 曇　時々雪吹　午の刻より晴
1754年　1月19日 宝暦3年　12月26日 曇　時々雪
1754年　1月20日 宝暦3年　12月27日 曇　時々雪
1754年　1月21日 宝暦3年　12月28日 曇　時々雪
1754年　1月22日 宝暦3年　12月29日 曇　時々雪　(当番の面々残らず裏付きの上下着る)
1754年　1月23日 宝暦4年　正月1日　快晴　朝の内小雪
1754年　1月24日 宝暦4年　正月2日　曇　辰の中刻より時々雪
1754年　1月25日 宝暦4年　正月3日　曇　時々雪　未の中刻地震
1754年　1月26日 宝暦4年　正月4日　曇　時々雪　戌の上刻地震
1754年　1月27日 宝暦4年　正月5日　曇　時々雪風　寅の下刻地震
1754年　1月28日 宝暦4年　正月6日　快晴
1754年　1月29日 宝暦4年　正月7日　曇　時々雪
1754年　1月30日 宝暦4年　正月8日　快晴　時々雪
1754年　1月31日 宝暦4年　正月9日　晴　朝の内風雪
1754年　2月1日 宝暦4年　正月10日　曇　辰の下刻雷発す　時々雪吹
1754年　2月2日 宝暦4年　正月11日　快晴
1754年　2月3日 宝暦4年　正月12日　快晴(去月18日屋形様叙爵:土佐守)
1754年　2月4日 宝暦4年　正月13日　快晴
1754年　2月5日 宝暦4年　正月14日　曇　時々雪
1754年　2月6日 宝暦4年　正月15日　曇　時々雪　(人事異動)
1754年　2月7日 宝暦4年　正月16日　快晴
1754年　2月8日 宝暦4年　正月17日　陰晴　朝の内小雪
1754年　2月9日 宝暦4年　正月18日　快晴　朝の内小雪
1754年　2月10日 宝暦4年　正月19日　陰晴　時々雪
1754年　2月11日 宝暦4年　正月20日　陰晴
1754年　2月12日 宝暦4年　正月21日　陰晴　朝の内曇雪　午の刻過ぎより晴
1754年　2月13日 宝暦4年　正月22日　陰晴　時々雪　(江戸で3日御謡初)
1754年　2月14日 宝暦4年　正月23日　晴　時々雪
1754年　2月15日 宝暦4年　正月24日　曇　時々雪
1754年　2月16日 宝暦4年　正月25日　曇　終日雪
1754年　2月17日 宝暦4年　正月26日　曇　終日雪
1754年　2月18日 宝暦4年　正月27日　陰晴　午の刻過ぎより小雪
1754年　2月19日 宝暦4年　正月28日　快晴
1754年　2月20日 宝暦4年　正月29日　陰晴　申の刻過ぎ雨
1754年　2月21日 宝暦4年　正月30日　陰晴　(12月中所々御関所出人都合57人:碇関御印紙出34人切手紙出18人・野内切手紙出5人)
1754年　2月22日 宝暦4年　　2月1日 曇　巳の下刻より雪　(正月中碇関口御関所出人都合340人:御印紙17枚330人(御国人311他国者19)・切手紙6枚10人、近年青森・鰺ヶ沢の遊女が入り込んでいる・返す)
1754年　2月23日 宝暦4年　　2月2日 陰晴
1754年　2月24日 宝暦4年　　2月3日 曇　時々雪　(江戸御用金500両登、旧ろう急の飛脚で数日遅くなり諸手足軽2人の御給分召放)
1754年　2月25日 宝暦4年　　2月4日 晴　(代官の組替えあり)
1754年　2月26日 宝暦4年　　2月5日 曇　終日雪　(御家老堀五郎左衛門に一粒金丹30粒)
1754年　2月27日 宝暦4年　　2月6日 曇　時々雪
1754年　2月28日 宝暦4年　　2月7日 曇　巳の下刻より雨

1754年　3月1日 宝暦4年　　2月8日 曇　終日小雪
1754年　3月2日 宝暦4年　　2月9日 陰晴　時々雪 （目明し石の助入牢）
1754年　3月3日 宝暦4年　　2月10日 陰晴　時々雪
1754年　3月4日 宝暦4年　　2月11日 陰晴　朝の内雪　昼小雪
1754年　3月5日 宝暦4年　　2月12日 陰晴
1754年　3月6日 宝暦4年　　2月13日 晴
1754年　3月7日 宝暦4年　　2月14日 快晴
1754年　3月8日 宝暦4年　　2月15日 快晴 （足羽次郎三郎に10人扶持）
1754年　3月9日 宝暦4年　　2月16日 快晴
1754年　3月10日 宝暦4年　　2月17日 快晴　未の下刻より曇雪
1754年　3月11日 宝暦4年　　2月18日 曇　時々雪
1754年　3月12日 宝暦4年　　2月19日 快晴
1754年　3月13日 宝暦4年　　2月20日 曇　卯の刻氷雪　それより雨　終日に至る
1754年　3月14日 宝暦4年　　2月21日 曇　昨夜中時々雨　今日時々雪
1754年　3月15日 宝暦4年　　2月22日 曇　昨夜中風　時々雪　今日時々雪
1754年　3月16日 宝暦4年　　2月23日 快晴
1754年　3月17日 宝暦4年　　2月24日 曇　時々雨
1754年　3月18日 宝暦4年　　2月25日 曇　時々雪　午の刻より晴
1754年　3月19日 宝暦4年　　2月26日 快晴　朝の内小雪
1754年　3月20日 宝暦4年　　2月27日 曇　終日雪 （大目付小山内新右衛門に一粒金丹5粒）
1754年　3月21日 宝暦4年　　2月28日 曇
1754年　3月22日 宝暦4年　　2月29日 曇　時々雪
1754年　3月23日 宝暦4年　　2月30日 曇　時々雪 （博打で沢山の男が追放される）
1754年　3月24日 宝暦4年　閏2月1日　快晴　彼岸に入る （2月中所々御関所出人都合139人：碇関御印紙出118・切手紙出21）
1754年　3月25日 宝暦4年　閏2月2日　曇　時々風雨
1754年　3月26日 宝暦4年　閏2月3日　曇　時々雨
1754年　3月27日 宝暦4年　閏2月4日　快晴　午の刻雷 （御馬廻組頭八木橋武右衛門に一粒金丹7粒）
1754年　3月28日 宝暦4年　閏2月5日　快晴
1754年　3月29日 宝暦4年　閏2月6日　曇　時々雪
1754年　3月30日 宝暦4年　閏2月7日　陰晴　午の刻小雨
1754年　3月31日 宝暦4年　閏2月8日　快晴
1754年　4月1日 宝暦4年　閏2月9日　快晴
1754年　4月2日 宝暦4年　閏2月10日　快晴
1754年　4月3日 宝暦4年　閏2月11日　曇　午の刻小雨
1754年　4月4日 宝暦4年　閏2月12日　快晴
1754年　4月5日 宝暦4年　閏2月13日　快晴　巳の刻地震
1754年　4月6日 宝暦4年　閏2月14日　陰晴　巳の刻風立つ （当月11日夜七時頃大光寺組で火災3軒、火元他村預け）
1754年　4月7日 宝暦4年　閏2月15日　快晴　朝の内曇
1754年　4月8日 宝暦4年　閏2月16日　快晴 （今昼四半時頃青森蜆貝町で式部様（黒石の殿様かな?）御蔵奉行が御蔵立会いを討留め切腹）
1754年　4月9日 宝暦4年　閏2月17日　快晴
1754年　4月10日 宝暦4年　閏2月18日　曇　終日雨 （乳井市郎左衛門がこの度仰せ付けられたお米切手御印紙を差し出す・彫り方を申付ける）
1754年　4月11日 宝暦4年　閏2月19日　快晴　時々風
1754年　4月12日 宝暦4年　閏2月20日　曇　時々雪　雷発す（曇時々雪雷発）
1754年　4月13日 宝暦4年　閏2月21日　快晴　夜中雨
1754年　4月14日 宝暦4年　閏2月22日　曇 （20日夜九時頃油川組新城村に火災2軒（3間×7間・3間×6間：共に御蔵百姓））
1754年　4月15日 宝暦4年　閏2月23日　晴　朝の内丸雪
1754年　4月16日 宝暦4年　閏2月24日　快晴 （寺社奉行佐々木又右衛門に一粒金丹?粒）
1754年　4月17日 宝暦4年　閏2月25日　曇　巳の刻地震 （東長町の大橋の長さ16間幅3間・高欄鉄物つき）
1754年　4月18日 宝暦4年　閏2月26日　快晴 （10人ほどに御暇、追放・御目見以上（御徒目付）を御目見以下御留守居支配に格下げなどの罰が下されている）
1754年　4月19日 宝暦4年　閏2月27日　陰晴　午の刻より雨時々
1754年　4月20日 宝暦4年　閏2月28日　快晴　風立つ （当月11日に金屋村で出火・火元他村預け）
1754年　4月21日 宝暦4年　閏2月29日　晴
1754年　4月22日 宝暦4年　　3月1日 快晴 （閏2月中御関所出人都合64人：碇関御印紙出33切手紙出28・野内切手紙出3）
1754年　4月23日 宝暦4年　　3月2日 快晴
1754年　4月24日 宝暦4年　　3月3日 快晴
1754年　4月25日 宝暦4年　　3月4日 快晴
1754年　4月26日 宝暦4年　　3月5日 曇　昨夜酉の刻より雨
1754年　4月27日 宝暦4年　　3月6日 曇
1754年　4月28日 宝暦4年　　3月7日 快晴
1754年　4月29日 宝暦4年　　3月8日 快晴
1754年　4月30日 宝暦4年　　3月9日 曇　昨夜亥の中刻より風立つ　丑の刻過ぎに及ぶ　今朝西の方に虹見る

1754年　5月1日 宝暦4年　3月10日 陰晴
1754年　5月2日 宝暦4年　3月11日 曇　卯の上刻雪少々　昨夜中の雨今朝に及ぶ　雪少々混じり午の刻過ぎ雨少々
1754年　5月3日 宝暦4年　3月12日 快晴
1754年　5月4日 宝暦4年　3月13日 快晴
1754年　5月5日 宝暦4年　3月14日 陰晴　申の刻より夜中雨
1754年　5月6日 宝暦4年　3月15日 曇　酉の刻より雨　夜に及ぶ
1754年　5月7日 宝暦4年　3月16日 曇　昨夜中雨　午の刻過ぎより雨　未の刻過ぎ霰降る
1754年　5月8日 宝暦4年　3月17日 曇　時々雨
1754年　5月9日 宝暦4年　3月18日 曇　朝の内時々小雨　それより晴
1754年　5月10日 宝暦4年　3月19日 晴
1754年　5月11日 宝暦4年　3月20日 曇　寅の下刻より雨　終日に及ぶ
1754年　5月12日 宝暦4年　3月21日 曇　朝の内晴時々雨　午の刻晴れる
1754年　5月13日 宝暦4年　3月22日 曇　時々小雨
1754年　5月14日 宝暦4年　3月23日 快晴　申の上刻雷発す　雨降　巳午の方に虹見る
1754年　5月15日 宝暦4年　3月24日 快晴　(当月5･6日頃より段々蒔き付け･霜か水が冷たいか殊の外生え立ちかねる･四社に五穀成就のご祈祷を仰せ付ける)
1754年　5月16日 宝暦4年　3月25日 快晴　(本行寺が30両借りて両替を申付けたら受源院が持ち逃げ?)
1754年　5月17日 宝暦4年　3月26日 快晴　(身上召し放ち永の御暇4人)
1754年　5月18日 宝暦4年　3月27日 晴
1754年　5月19日 宝暦4年　3月28日 曇　昨夜中午の下刻より雨時々
1754年　5月20日 宝暦4年　3月29日 晴　朝の内曇
1754年　5月21日 宝暦4年　3月30日 曇　夜中時々風　(昨27日夜金木組中里村で火災･類焼5軒･火元他村預け、給分召し上げ･追放などあり、ばくちで追放6人)
1754年　5月22日 宝暦4年　4月1日 曇　朝の内雨　(3月中所々御関所出人都合453人:碇関442人(御印紙出386･切手紙出56)･大間越切手紙出1人･野内切手紙出10人)
1754年　5月23日 宝暦4年　4月2日 曇　午の刻雨　申の刻東の方虹見る
1754年　5月24日 宝暦4年　4月3日 陰晴
1754年　5月25日 宝暦4年　4月4日 快晴　朝の内曇
1754年　5月26日 宝暦4年　4月5日 快晴
1754年　5月27日 宝暦4年　4月6日 快晴
1754年　5月28日 宝暦4年　4月7日 快晴
1754年　5月29日 宝暦4年　4月8日 快晴
1754年　5月30日 宝暦4年　4月9日 快晴　(御馳走御用金2000両登･御馬廻り1人諸手足軽警固1人並足軽2人で立つ、諸手足軽警固の給分召放永の暇･諸手足軽2人の給分15俵減らし御城付足軽に格下げ)
1754年　5月31日 宝暦4年　4月10日 曇　時々小雨
1754年　6月1日 宝暦4年　4月11日 曇　巳の刻過ぎ小雨　(今昼八時より後潟組内真部で山火事･庄屋五人組人足召し連れ七半時頃打ち消す)
1754年　6月2日 宝暦4年　4月12日 晴　戌の中刻より夜中時々雨
1754年　6月3日 宝暦4年　4月13日 陰晴　(勘定人(御目見え以上)を御目見え以下御留守居支配に格下げ･2人の給分召上げ永の暇)
1754年　6月4日 宝暦4年　4月14日 快晴
1754年　6月5日 宝暦4年　4月15日 陰晴
1754年　6月6日 宝暦4年　4月16日 陰晴
1754年　6月7日 宝暦4年　4月17日 快晴
1754年　6月8日 宝暦4年　4月18日 曇　卯の下刻より雨
1754年　6月9日 宝暦4年　4月19日 快晴
1754年　6月10日 宝暦4年　4月20日 晴　朝の内曇
1754年　6月11日 宝暦4年　4月21日 快晴　朝の内曇
1754年　6月12日 宝暦4年　4月22日 曇　朝の内霧　午の刻過ぎより雷発す
1754年　6月13日 宝暦4年　4月23日 曇　昨夜中より今日午の刻まで雨　雷発す
1754年　6月14日 宝暦4年　4月24日 快晴
1754年　6月15日 宝暦4年　4月25日 快晴　今朝霧
1754年　6月16日 宝暦4年　4月26日 快晴　朝の内霧　(長利唐之助(熊野宮の神主で24日には山王宮で神楽を勤めていた)の給分召上げ三里四方追放･関係する諸手足軽と寺社方物書きも給分召上げ等の処分)
1754年　6月17日 宝暦4年　4月27日 晴
1754年　6月18日 宝暦4年　4月28日 快晴　未の中刻雷少々
1754年　6月19日 宝暦4年　4月29日 陰晴
1754年　6月20日 宝暦4年　4月30日 快晴
1754年　6月21日 宝暦4年　5月1日 快晴　(4月中所々御関所出人都合642人:碇関635(御印紙出203･切手紙出432)･野内6(御印紙出4･切手紙出2)･大間越1(切手紙出1)、工藤嘉左衛門を十三町奉行に等の人事異動)
1754年　6月22日 宝暦4年　5月2日 晴　今朝より雨少々
1754年　6月23日 宝暦4年　5月3日 陰晴　昨夜中時々雨
1754年　6月24日 宝暦4年　5月4日 快晴　朝の内曇　亥の中刻風立つ
1754年　6月25日 宝暦4年　5月5日 陰晴　今朝寅の刻雷少々　朝の内雨
1754年　6月26日 宝暦4年　5月6日 快晴　午の中刻より曇
1754年　6月27日 宝暦4年　5月7日 快晴　辰の刻より風立つ　(御用人棟方十左衛門に一粒金丹10粒(粒が位になっている))
1754年　6月28日 宝暦4年　5月8日 曇　時々風
1754年　6月29日 宝暦4年　5月9日 晴　(昨夜八時頃青森安方町から出火･東風強く30軒焼失･火元入寺、4月中碇関:出人645･入り131･都合776人、同野内:出124･入り117･合241人、同大間越:出24･入り23)
1754年　6月30日 宝暦4年　5月10日 快晴

1754年　7月1日 宝暦4年　5月11日 晴 （今日昼八時頃飯詰村で30歳男変死（自害））
1754年　7月2日 宝暦4年　5月12日 曇 時々風
1754年　7月3日 宝暦4年　5月13日 曇 終日東風立つ （給分召上げ永の暇など3人）
1754年　7月4日 宝暦4年　5月14日 曇 昨夜雨
1754年　7月5日 宝暦4年　5月15日 快晴 朝の内曇
1754年　7月6日 宝暦4年　5月16日 快晴
1754年　7月7日 宝暦4年　5月17日 曇 終日雨 卯の中刻西南の方虹見る
1754年　7月8日 宝暦4年　5月18日 晴 申の下刻より雨 亥の下刻地震
1754年　7月9日 宝暦4年　5月19日 曇 朝の内雨
1754年　7月10日 宝暦4年　5月20日 曇 終日雨 未の刻大雨 雷発す （1日早く到着した飛脚2人に御褒美金200疋宛下し置かれる）
1754年　7月11日 宝暦4年　5月21日 陰晴
1754年　7月12日 宝暦4年　5月22日 曇 時々雨
1754年　7月13日 宝暦4年　5月23日 陰晴 辰の下刻雨
1754年　7月14日 宝暦4年　5月24日 陰晴 夜中雨時々
1754年　7月15日 宝暦4年　5月25日 陰晴
1754年　7月16日 宝暦4年　5月26日 曇 朝の内大雨 午の刻過ぎ晴
1754年　7月17日 宝暦4年　5月27日 晴
1754年　7月18日 宝暦4年　5月28日 快晴 （当月24日夜浪岡村で出火・火元村預け・5日になり耕作の時分であり免許、昨日七時頃本町二丁目で男切腹・今朝死亡）
1754年　7月19日 宝暦4年　5月29日 陰晴
1754年　7月20日 宝暦4年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合303人：碇関258人（御印紙出228・切手紙出30）・大間越36人（御印紙出30・切手紙出6）・野内8人（御印紙出8））
1754年　7月21日 宝暦4年　6月2日 晴 未の刻過ぎ雷発す （先月22日御留守居組頭の倅行方不明、4月11日植付けの大鰐村の稲出穂・去年は5月朔日植付け7月10日出穂）
1754年　7月22日 宝暦4年　6月3日 快晴
1754年　7月23日 宝暦4年　6月4日 曇 午の刻氷大雨 雷発す
1754年　7月24日 宝暦4年　6月5日 快晴 大暑
1754年　7月25日 宝暦4年　6月6日 快晴 大暑 （親不孝の大工を入牢、去年11月に冨田村茶屋で傷害事件を起こした男（大行院を追い出された元山伏）を取上御仕置場で斬罪）
1754年　7月26日 宝暦4年　6月7日 快晴 大暑
1754年　7月27日 宝暦4年　6月8日 快晴 大暑
1754年　7月28日 宝暦4年　6月9日 快晴 大暑
1754年　7月29日 宝暦4年　6月10日 快晴 大暑
1754年　7月30日 宝暦4年　6月11日 曇 申の刻虹見る 夜に入り電時々雨
1754年　7月31日 宝暦4年　6月12日 陰晴 未の刻雷発す
1754年　8月1日 宝暦4年　6月13日 快晴 大暑
1754年　8月2日 宝暦4年　6月14日 快晴
1754年　8月3日 宝暦4年　6月15日 快晴
1754年　8月4日 宝暦4年　6月16日 快晴
1754年　8月5日 宝暦4年　6月17日 快晴 朝の内霧
1754年　8月6日 宝暦4年　6月18日 陰晴
1754年　8月7日 宝暦4年　6月19日 曇 寅の中刻雨 卯の中刻止む
1754年　8月8日 宝暦4年　6月20日 快晴
1754年　8月9日 宝暦4年　6月21日 快晴
1754年　8月10日 宝暦4年　6月22日 快晴
1754年　8月11日 宝暦4年　6月23日 快晴
1754年　8月12日 宝暦4年　6月24日 快晴 （御初米23日に上がる・去年は8月朔日）
1754年　8月13日 宝暦4年　6月25日 快晴
1754年　8月14日 宝暦4年　6月26日 快晴 残暑甚 （隠し女あり・関係者追放・女は親元に帰す）
1754年　8月15日 宝暦4年　6月27日 快晴
1754年　8月16日 宝暦4年　6月28日 快晴 （先月10日獅子打ちを仰せ付けられた足軽2人が猪獅子1・熊獅子4打留める・青銅500文宛下し置かれる）
1754年　8月17日 宝暦4年　6月29日 快晴 酉の刻電
1754年　8月18日 宝暦4年　7月1日 快晴 未の中刻雷少々発す 酉の上刻稲光あり （6月中所々御関所出人都合88人：碇関81人（御印紙出59・切手紙出22）・野内5人（御印紙出4・切手紙出1）・青森湊口2人（切手紙））
1754年　8月19日 宝暦4年　7月2日 快晴
1754年　8月20日 宝暦4年　7月3日 快晴 昨夜中雷少々発す
1754年　8月21日 宝暦4年　7月4日 快晴 （これまで盗人で追放の場合手の中に刺青・無用ではないかと申し出でがあり止める、相馬山の6ヶ沢を当春明山にしたが度々山火事（記録ないな）が出て秋過ぎまで御留め山とする）
1754年　8月22日 宝暦4年　7月5日 快晴
1754年　8月23日 宝暦4年　7月6日 陰晴
1754年　8月24日 宝暦4年　7月7日 快晴 亥の上刻地震
1754年　8月25日 宝暦4年　7月8日 晴 巳の刻過ぎ風立つ
1754年　8月26日 宝暦4年　7月9日 陰晴 残暑甚 （大円寺に五穀成就・降雨の御祈祷を仰せ付ける）
1754年　8月27日 宝暦4年　7月10日 陰晴 午の刻より快晴
1754年　8月28日 宝暦4年　7月11日 快晴 朝の内陰晴
1754年　8月29日 宝暦4年　7月12日 快晴
1754年　8月30日 宝暦4年　7月13日 曇 卯の刻雨 辰の刻晴 未の刻雨 則刻晴
1754年　8月31日 宝暦4年　7月14日 晴 午の刻風雨 則刻晴れる （浄心院様御大病）

1754年　9月1日 宝暦4年　7月15日 快晴
1754年　9月2日 宝暦4年　7月16日 快晴　未の中刻雷発す （浄心院様(何者?知らん)7日御遠行）
1754年　9月3日 宝暦4年　7月17日 快晴　朝の内陰晴
1754年　9月4日 宝暦4年　7月18日 陰晴　未の刻過ぎ大雨　雷発す　酉の刻過ぎ止む
1754年　9月5日 宝暦4年　7月19日 曇　昨夜中より雨　今日終日に及ぶ　雷少々
1754年　9月6日 宝暦4年　7月20日 陰晴　酉の刻雨
1754年　9月7日 宝暦4年　7月21日 陰晴　時々小雨
1754年　9月8日 宝暦4年　7月22日 快晴
1754年　9月9日 宝暦4年　7月23日 陰晴　午の下刻より雨
1754年　9月10日 宝暦4年　7月24日 陰晴　朝の内雨　子の刻過ぎ大風雨　雷少々発す　稲光あり （(雨が降ったので)4日に御留山にした相馬山を明山とする）
1754年　9月11日 宝暦4年　7月25日 晴
1754年　9月12日 宝暦4年　7月26日 曇　時々小雨
1754年　9月13日 宝暦4年　7月27日 曇　昨夜中時々雨　丑の下刻雷発す　今朝卯の中刻雷発す
1754年　9月14日 宝暦4年　7月28日 曇　昨夜中より雨終日時々 （小山次弟?兵衛に一粒金丹5粒）
1754年　9月15日 宝暦4年　7月29日 曇　終日雨　夜中に及ぶ
1754年　9月16日 宝暦4年　7月30日 晴　朝の内雨
1754年　9月17日 宝暦4年　8月1日 陰晴 （7月中所々御関所出人都合136人:碇関128人(御印紙出82・切手紙出46)・大間越3人(御印紙出3)・野内4人(切手紙出4)・小泊湊口1人(切手紙出1)）
1754年　9月18日 宝暦4年　8月2日 快晴 （2月9日入牢の目明しが今朝牢死）
1754年　9月19日 宝暦4年　8月3日 曇　午の上刻より雨　酉の刻大雨　夜中に及ぶ
1754年　9月20日 宝暦4年　8月4日 陰晴 （古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷を仰せ付ける、去る朔日青森大工町で作業場が小火・火元慎み、金銀銭の相場あり:建前かな）
1754年　9月21日 宝暦4年　8月5日 陰晴
1754年　9月22日 宝暦4年　8月6日 晴　辰の上刻地震　昨夜中雨
1754年　9月23日 宝暦4年　8月7日 曇　終日雨
1754年　9月24日 宝暦4年　8月8日 晴
1754年　9月25日 宝暦4年　8月9日 曇　時々雨
1754年　9月26日 宝暦4年　8月10日 快晴　今朝初めて岩木山に雪見ゆる
1754年　9月27日 宝暦4年　8月11日 快晴 （御手廻組頭に気づかなかった東御門当日当番の御手廻与力の御奉公遠慮・呵置く(しかりおく)、去る酉12月入牢の御手廻の兄・当閏2月入牢の広須新田の男今朝牢死）
1754年　9月28日 宝暦4年　8月12日 陰晴 （青森町同心に算筆できるものが居ないので……）
1754年　9月29日 宝暦4年　8月13日 晴　寅の刻より雨　今朝に及ぶ　朝の内曇　辰の下刻より晴
1754年　9月30日 宝暦4年　8月14日 曇　午の刻小雨
1754年　10月1日 宝暦4年　8月15日 曇　時々雨　酉の刻より戌の刻まで日蝕 （当月朔日青森大工町の火元慎み免許）
1754年　10月2日 宝暦4年　8月16日 晴 （碇関御関所の外12・3丁の釜屋沢の内の出口に男らしい者倒死）
1754年　10月3日 宝暦4年　8月17日 快晴　今朝霜 （なぜか2月17日となっている）
1754年　10月4日 宝暦4年　8月18日 晴　朝の内曇
1754年　10月5日 宝暦4年　8月19日 曇　午の上刻雨少々 （乳井市郎左衛門を郡奉行手伝いに）
1754年　10月6日 宝暦4年　8月20日 曇　時々雨
1754年　10月7日 宝暦4年　8月21日 曇　今朝岩木山に雪見ゆる　三ヶ一程
1754年　10月8日 宝暦4年　8月22日 曇　岩木山に昨朝の雪今朝も見ゆる　昨夜中より雨　終日に及ぶ （御家中の家来が子供を殺害本人も切腹）
1754年　10月9日 宝暦4年　8月23日 陰晴
1754年 10月10日 宝暦4年　8月24日 曇　朝の内晴　巳の刻より雨
1754年 10月11日 宝暦4年　8月25日 曇　今朝霜　時々小雨
1754年 10月12日 宝暦4年　8月26日 快晴　今日大霜 （先達て(8月11日)御奉公遠慮の2人の与力に対して今晩遠慮御免）
1754年 10月13日 宝暦4年　8月27日 快晴　今朝霜 （8月14日に初菱喰・8月21日に初鮭上がる）
1754年 10月14日 宝暦4年　8月28日 陰晴　申の下刻より夜中時々雨
1754年 10月15日 宝暦4年　8月29日 晴　巳の中刻小雨 （楮町の名主が咽ふえ切り自害）
1754年 10月16日 宝暦4年　9月1日 曇　酉の下刻より雨　戌の上刻雷発す （8月中所々御関所出人都合139人:碇関124人(御印紙出80・切手紙出44)・大間越2人(御印紙出)・野内13人(御印紙出8・切手紙出5)）
1754年 10月17日 宝暦4年　9月2日 晴　昨夜中より雨今朝に及ぶ　辰の上刻晴　亥の刻雨
1754年 10月18日 宝暦4年　9月3日 曇　今朝卯の刻雷発す　今日時々雨
1754年 10月19日 宝暦4年　9月4日 快晴　申の中刻より小雨　酉の刻に及ぶ （十三より1里余上浜で破船1艘）
1754年 10月20日 宝暦4年　9月5日 陰晴
1754年 10月21日 宝暦4年　9月6日 快晴 （御給分召放永の暇・格下げ・追放多数、褒美も数人）
1754年 10月22日 宝暦4年　9月7日 晴　朝の内曇　酉の刻過ぎより雨　終日に及ぶ （昨朔日大間越前浜に元船を乗り捨て橋船で9人(乗員全員)が流れ寄せる、南京商船が八丈島に漂着したとの報）
1754年 10月23日 宝暦4年　9月8日 曇　昨夜中の雨　今朝に及ぶ
1754年 10月24日 宝暦4年　9月9日 曇　昨夜中より雨　辰の刻まで （松前城下で去月28日昼頃出火・城下200軒余御城角櫓焼失）
1754年 10月25日 宝暦4年　9月10日 曇　夜中よりの雨終日に及ぶ
1754年 10月26日 宝暦4年　9月11日 曇　夜に入り雨
1754年 10月27日 宝暦4年　9月12日 曇　終日雨 （吉住?村の男牢死）
1754年 10月28日 宝暦4年　9月13日 曇　時々雨
1754年 10月29日 宝暦4年　9月14日 曇
1754年 10月30日 宝暦4年　9月15日 快晴
1754年 10月31日 宝暦4年　9月16日 曇　午の刻雨　夜に入り雷発す

1754年　11月1日 宝暦4年　　9月17日 曇　今朝雷発す　丸雪　終日風雨
1754年　11月2日 宝暦4年　　9月18日 晴　今朝岩木山半伏まで雪見る
1754年　11月3日 宝暦4年　　9月19日 陰晴
1754年　11月4日 宝暦4年　　9月20日 曇　時々雨
1754年　11月5日 宝暦4年　　9月21日 快晴　今朝岩木山雪身ゆる （御目付佐野吉郎兵衛に一粒金丹3粒）
1754年　11月6日 宝暦4年　　9月22日 快晴 （大組足軽頭戸田清左衛門に一粒金丹3粒）
1754年　11月7日 宝暦4年　　9月23日 曇　今朝霜　申の刻風雨　雷発す　夜中雨
1754年　11月8日 宝暦4年　　9月24日 曇　終日雨
1754年　11月9日 宝暦4年　　9月25日 曇　今朝より雪時々
1754年 11月10日 宝暦4年　　9月26日 曇　時々雪
1754年 11月11日 宝暦4年　　9月27日 曇　丸雪時々
1754年 11月12日 宝暦4年　　9月28日 快晴
1754年 11月13日 宝暦4年　　9月29日 曇　時々雨
1754年 11月14日 宝暦4年　　10月1日 晴 （9月中所々御関所出人都合127人：碇関123人（御印紙出86・切手紙出37）・大間越2人（御印紙出2）・野内2人（切手紙出2））
1754年 11月15日 宝暦4年　　10月2日 陰晴
1754年 11月16日 宝暦4年　　10月3日 快晴
1754年 11月17日 宝暦4年　　10月4日 快晴
1754年 11月18日 宝暦4年　　10月5日 曇　申の中刻小雨　夜中時々雨降る
1754年 11月19日 宝暦4年　　10月6日 晴　今朝霜　朝の内少々雨
1754年 11月20日 宝暦4年　　10月7日 快晴　今朝霜
1754年 11月21日 宝暦4年　　10月8日 曇　昨夜中の雨　今日終日 （十三町の親孝行夫婦に御米5俵）
1754年 11月22日 宝暦4年　　10月9日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1754年 11月23日 宝暦4年　　10月10日 曇　昨夜中雪　今日時々雪 （江戸登りを仰せ付けられた毛内有右衛門に一粒金丹10粒）
1754年 11月24日 宝暦4年　　10月11日 陰晴　巳の刻小雨
1754年 11月25日 宝暦4年　　10月12日 晴　申の刻より風雪　夜中に及ぶ （老母に孝行の男に御米5俵）
1754年 11月26日 宝暦4年　　10月13日 晴　午の刻小雨　夜中に及ぶ
1754年 11月27日 宝暦4年　　10月14日 晴
1754年 11月28日 宝暦4年　　10月15日 快晴
1754年 11月29日 宝暦4年　　10月16日 快晴　午の刻より曇
1754年 11月30日 宝暦4年　　10月17日 快晴
1754年　12月1日 宝暦4年　　10月18日 快晴
1754年　12月2日 宝暦4年　　10月19日 曇　午の刻より雨　丑の刻雷発す
1754年　12月3日 宝暦4年　　10月20日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　辰の刻西の方虹見る　雨終日 （姑と甥を守って頑張っている男の妻に御米5俵・親不孝男を追放）
1754年　12月4日 宝暦4年　　10月21日 曇　昨夜中風立つ
1754年　12月5日 宝暦4年　　10月22日 曇　時々雨
1754年　12月6日 宝暦4年　　10月23日 曇　午の刻過ぎより雨
1754年　12月7日 宝暦4年　　10月24日 晴　時々雪
1754年　12月8日 宝暦4年　　10月25日 快晴　昨夜中雪
1754年　12月9日 宝暦4年　　10月26日 曇　昨夜中時々雪　今朝に及ぶ　それより終日時々雪
1754年 12月10日 宝暦4年　　10月27日 陰晴　昨夜中より雪　今朝三寸ほど
1754年 12月11日 宝暦4年　　10月28日 快晴　未の刻過ぎ小雨
1754年 12月12日 宝暦4年　　10月29日 曇　昨夜中雨　今日終日雪降る
1754年 12月13日 宝暦4年　　10月30日 曇　時々雪　昨夜中強き風立つ　雪三寸ほどふる
1754年 12月14日 宝暦4年　　11月1日 曇　時々雪 （10月中所々御関所出人都合102人：碇関100人（御印紙出70・切手紙出30）・野内2人（切手紙出2））
1754年 12月15日 宝暦4年　　11月2日 快晴
1754年 12月16日 宝暦4年　　11月3日 曇　昨夜中雪五寸ほど　今日時々雪 （30位の女鞘師町付近で倒死）
1754年 12月17日 宝暦4年　　11月4日 晴　朝の間雪吹く　巳の刻より晴 （これまで水油1升を240文に仰せ付けられていたが300文にしたいとの申し出で・1升250文に申付ける）
1754年 12月18日 宝暦4年　　11月5日 晴　昨夜中雪少々 （去月29日油川の船が破船・1人助かり1人死亡1人が行方不明）
1754年 12月19日 宝暦4年　　11月6日 曇　昨夜中雪降　今日終日雪
1754年 12月20日 宝暦4年　　11月7日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1754年 12月21日 宝暦4年　　11月8日 快晴　酉の七刻冬至入る
1754年 12月22日 宝暦4年　　11月9日 晴
1754年 12月23日 宝暦4年　　11月10日 曇　終日小雪
1754年 12月24日 宝暦4年　　11月11日 曇　昨夜中より雪一尺ほど
1754年 12月25日 宝暦4年　　11月12日 晴　朝の内曇
1754年 12月26日 宝暦4年　　11月13日 晴 （勘定奉行・御目付（3人）の御役召し放ち半知御留守居組に・御手廻にも永の御暇）
1754年 12月27日 宝暦4年　　11月14日 快晴
1754年 12月28日 宝暦4年　　11月15日 快晴
1754年 12月29日 宝暦4年　　11月16日 快晴
1754年 12月30日 宝暦4年　　11月17日 快晴
1754年 12月31日 宝暦4年　　11月18日 曇　時々小雨

1755年　1月1日 宝暦4年　11月19日 曇　時々雪
1755年　1月2日 宝暦4年　11月20日 陰晴　(15日の夜大風で青森浜町の船が平館沖で破船・死亡者なし)
1755年　1月3日 宝暦4年　11月21日 陰晴
1755年　1月4日 宝暦4年　11月22日 曇　時々雪
1755年　1月5日 宝暦4年　11月23日 曇　昨夜中雪　子の中刻雨　今朝に及ぶ　子の四刻寒に入る　(転び切支丹類族病死(66歳))
1755年　1月6日 宝暦4年　11月24日 曇　時々雪
1755年　1月7日 宝暦4年　11月25日 陰晴
1755年　1月8日 宝暦4年　11月26日 曇
1755年　1月9日 宝暦4年　11月27日 曇　夜中雪五寸ほど　今日時々雪
1755年　1月10日 宝暦4年　11月28日 陰晴　夜中雪　今朝に及ぶ　今日時々雪　(掃除小人の御切米3貫文2人扶持)
1755年　1月11日 宝暦4年　11月29日 晴　(初鱈が11月朔日に上がった)
1755年　1月12日 宝暦4年　12月1日 快晴　(11月中所々御関所出人都合116人:碇関109人(御印紙出90・切手紙出19)・野内7人(御印紙出3・切手紙出4))
1755年　1月13日 宝暦4年　12月2日 曇　時々雪
1755年　1月14日 宝暦4年　12月3日 曇　昨夜中雪風　今朝に及ぶ　時々雪　(御馬廻組頭添田儀左衛門・御留守居組頭岡文左衛門御役御免半知、御手廻・御馬廻など9人に永の御暇)
1755年　1月15日 宝暦4年　12月4日 快晴
1755年　1月16日 宝暦4年　12月5日 晴　昨夜中の雪五寸ほど　今暁寅の刻地震　早速止む　(3日の処分に関連して25人に御奉公遠慮・御奉公遠慮御免は12月7日)
1755年　1月17日 宝暦4年　12月6日 快晴
1755年　1月18日 宝暦4年　12月7日 快晴　(当年の耕作初:種浸始閏2月4日・田打初同15日・種蒔初3月3日・くれかき初同3日・田植初4月21日・田草取初5月12日・出穂初6月朔日・稲刈初8月8日・稲村納初9月4日)
1755年　1月19日 宝暦4年　12月8日 陰晴
1755年　1月20日 宝暦4年　12月9日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日時々雪　(諸手者頭兼勘定奉行の身上召上げ10人扶持御留守居支配に・早道の者(藩の忍者)6人を御目見え以下御留守居支配に等の処分あり)
1755年　1月21日 宝暦4年　12月10日 曇　時々雪
1755年　1月22日 宝暦4年　12月11日 晴
1755年　1月23日 宝暦4年　12月12日 陰晴　(6日の処分に関連して10人が御奉公遠慮・慎み)
1755年　1月24日 宝暦4年　12月13日 曇　時々雪
1755年　1月25日 宝暦4年　12月14日 陰晴　(12日の御奉公遠慮等御免)
1755年　1月26日 宝暦4年　12月15日 晴　(公儀よりの書付:古銀を蓄えるな・慶長銀古銀10貫目を文字銀11貫200目で買い入れる、人事異動)
1755年　1月27日 宝暦4年　12月16日 晴
1755年　1月28日 宝暦4年　12月17日 快晴　夜中雪
1755年　1月29日 宝暦4年　12月18日 曇　(桂光院(津軽信義)様百回忌に伴う大赦・54人出牢)
1755年　1月30日 宝暦4年　12月19日 曇　時々雪
1755年　1月31日 宝暦4年　12月20日 曇　終日雪　(今度御借方御返済に付御家中大半ご辞退の儀申出・尤之至に候得共……(福眞には何が行われているか不明))
1755年　2月1日 宝暦4年　12月21日 快晴
1755年　2月2日 宝暦4年　12月22日 晴　昨夜中雪　五寸ほど降る
1755年　2月3日 宝暦4年　12月23日 晴　朝の内曇
1755年　2月4日 宝暦4年　12月24日 快晴　(御用向きに出精の町人(ほとんどが山形屋・米屋などの屋号を苗字?にしている)58人に褒美(銀子2枚宛)下し置かれる、他に御紋上下を下し置かれたり・郷侍を申付けられたりしている)
1755年　2月5日 宝暦4年　12月25日 快晴　夜中雪　(黒石役人から5000石の津出願い・了、9日に処分された早道の者の御奉公遠慮御免)
1755年　2月6日 宝暦4年　12月26日 曇
1755年　2月7日 宝暦4年　12月27日 陰晴
1755年　2月8日 宝暦4年　12月28日 陰晴　時々小雪　(岩木山下居宮神主の倅を熊野宮山王宮の神主(4月26日に神主が追放され欠員)とする、褒美多数)
1755年　2月9日 宝暦4年　12月29日 陰晴
1755年　2月10日 宝暦4年　12月30日 晴　時々雪
1755年　2月11日 宝暦5年　正月1日　晴
1755年　2月12日 宝暦5年　正月2日　陰晴　朝の内雪
1755年　2月13日 宝暦5年　正月3日　陰晴　昨夜中より雪　今朝時々雪
1755年　2月14日 宝暦5年　正月4日　晴
1755年　2月15日 宝暦5年　正月5日　曇　終日雪　(今朝五つ時山伏牢死)
1755年　2月16日 宝暦5年　正月6日　曇　時々雪
1755年　2月17日 宝暦5年　正月7日　晴　朝の内雪　それより時々雪　(七種のご祝儀)
1755年　2月18日 宝暦5年　正月8日　曇　朝の内小雪
1755年　2月19日 宝暦5年　正月9日　快晴　朝の内曇
1755年　2月20日 宝暦5年　正月10日　陰晴　時々雪
1755年　2月21日 宝暦5年　正月11日　陰晴　時々雪　(人事異動:高倉五兵衛を御用人になど)
1755年　2月22日 宝暦5年　正月12日　陰晴　時々雪
1755年　2月23日 宝暦5年　正月13日　陰晴　朝の内小雪　(近年米下値・知行俵子取(米の石又は俵数で給与の御家中)の面々の給与から運賃分を差し引いていたが今年は御用赦・金給の面々にも相当のお手当て、褒美多数に)
1755年　2月24日 宝暦5年　正月14日　曇　時々小雪　(今朝五時五幾形村の山伏牢死)
1755年　2月25日 宝暦5年　正月15日　晴
1755年　2月26日 宝暦5年　正月16日　晴
1755年　2月27日 宝暦5年　正月17日　晴　(12月中所々御関所出人都合74人:碇関71人(御印紙出52・切手紙出19)・野内3人(切手紙出3))
1755年　2月28日 宝暦5年　正月18日　晴

1755年　3月1日 宝暦5年 正月19日　快晴
1755年　3月2日 宝暦5年 正月20日　陰晴　酉の刻過ぎより雨　夜中雪吹
1755年　3月3日 宝暦5年 正月21日　曇　時々小雪　申の刻より夜中大吹雪
1755年　3月4日 宝暦5年 正月22日　陰晴　時々雪　辰の下刻地震少し （去月晦日尾太銅山稼ぎの者2人が雪なてにて死亡(死骸上がらず)）
1755年　3月5日 宝暦5年 正月23日　陰晴
1755年　3月6日 宝暦5年 正月24日　曇　巳の刻より時々雨 （取毀した千年山の御茶屋を此の度取建てることとする、御入部(館様の初入国)に伴う橋の修復等に2000両余、大間越町同心どもに苗字を付ける）
1755年　3月7日 宝暦5年 正月25日　陰晴　時々小雪
1755年　3月8日 宝暦5年 正月26日　曇　時々雪
1755年　3月9日 宝暦5年 正月27日　陰晴　昨夜中より雪　今朝卯の刻まで （当月18日昼油川の船が船火事・火元戸〆・日数10日になり差許、昨21日金井ヶ沢村で漁船が沈み3人死亡、今朝五時過ぎ「ませ」(男女不明)牢死）
1755年　3月10日 宝暦5年 正月28日　陰晴
1755年　3月11日 宝暦5年 正月29日　快晴
1755年　3月12日 宝暦5年 正月30日　陰晴 （12日金木組宮の沢村の庄左衛門(胆長3寸3歩廻り5寸生目形33文目:3才)・4日尾崎組切明村の衛門作(胆長4寸丸5寸5歩生目形43文目)が熊取る、今朝男2人牢死）
1755年　3月13日 宝暦5年　2月1日 陰晴　朝の内小雪　卯の中刻日蝕 （正月中所々御関所出人都合419人:碇ヶ関417人(御印紙出399・切手紙出18)・野内2人(切手紙出2)）
1755年　3月14日 宝暦5年　2月2日 陰晴 （去月29日夜横内組平館村で火災(百姓)・火元村預け・日数8日になり村預け免許）
1755年　3月15日 宝暦5年　2月3日 曇　時々雪
1755年　3月16日 宝暦5年　2月4日 曇　昨夜中雪三四寸ふる　今日時々雪
1755年　3月17日 宝暦5年　2月5日 快晴
1755年　3月18日 宝暦5年　2月6日 快晴　初雁来賓　彼岸入り　昨夜中雪三四寸ふる　今朝小雪
1755年　3月19日 宝暦5年　2月7日 快晴
1755年　3月20日 宝暦5年　2月8日 晴　巳の刻より霰ふる　午の刻過ぎより雨 （21日朝金井ヶ沢村の海難:8人で漁に出・5人を助け3人死亡）
1755年　3月21日 宝暦5年　2月9日 曇　昨夜中より雨雪　終日ふる （金貸しの御家中を永の御暇・慎み、町方2人を弘前追放）
1755年　3月22日 宝暦5年　2月10日 陰晴　昨夜中より今日終日風強し （7日昼内真部領長科村前浜に2日に青森を出た2人の死人を乗せた船が流れ着く）
1755年　3月23日 宝暦5年　2月11日 晴
1755年　3月24日 宝暦5年　2月12日 曇　昨夜中時々雨 （長嶺村領福嶋渡橋新規懸渡し:長32間・惣幅2間・高1条2尺・開き2間宛・地福高欄附・川中に橋台倉(意味不明)三つ）
1755年　3月25日 宝暦5年　2月13日 曇　卯の刻過ぎ雷少々　朝の内小雪　午の刻晴 （代官所手代(足軽相当の代官所役人・名字帯刀)4人が私欲専らとして居村追放、郡所物書(手代より少し上位)が永の御暇、その他数人も）
1755年　3月26日 宝暦5年　2月14日 陰晴　昨夜中の雪五・六寸降
1755年　3月27日 宝暦5年　2月15日 晴 （奉公人の給金:若党が1両2歩・中間(上1両1歩・中1両・下3歩)・小者2歩・女(上1両・中3歩2朱・下2歩2朱)・江戸登りの増し金は主人次第、旧冬御家中半減の御借り米を止めた?）
1755年　3月28日 宝暦5年　2月16日 陰晴
1755年　3月29日 宝暦5年　2月17日 曇　時々雪　申の刻過ぎ地震
1755年　3月30日 宝暦5年　2月18日 快晴 （馬盗人男今日牢死）
1755年　3月31日 宝暦5年　2月19日 曇　時々雨
1755年　4月1日 宝暦5年　2月20日 快晴
1755年　4月2日 宝暦5年　2月21日 曇　時々雨
1755年　4月3日 宝暦5年　2月22日 快晴
1755年　4月4日 宝暦5年　2月23日 曇　終日雨
1755年　4月5日 宝暦5年　2月24日 晴 （6月8日入牢の親不孝男今朝牢死）
1755年　4月6日 宝暦5年　2月25日 晴
1755年　4月7日 宝暦5年　2月26日 快晴 （不行跡の御徒3人の御給分召上げ、度々盗み致した徒男と御家中のふりをした盗人男を取上御仕置き場で斬罪）
1755年　4月8日 宝暦5年　2月27日 快晴
1755年　4月9日 宝暦5年　2月28日 快晴
1755年　4月10日 宝暦5年　2月29日 曇
1755年　4月11日 宝暦5年　2月30日 晴 （当月27日より28日の朝五時まで十三潟が早川口より残らず氷明ける・(去年より)21日遅く節に引き合い10日遅い、斬罪予定の百姓が今朝牢死、脇道番人21人に永の御暇）
1755年　4月12日 宝暦5年　3月1日 快晴 （2月中所々御関所出人都合128人:碇関127人(御印紙出91・切手紙出36)・大間越1人(切手紙出1)）
1755年　4月13日 宝暦5年　3月2日 快晴
1755年　4月14日 宝暦5年　3月3日 快晴
1755年　4月15日 宝暦5年　3月4日 晴　今暁雨　辰の上刻晴れる （去る戌(去年)6月入牢の親不孝男今朝五時過ぎ牢死）
1755年　4月16日 宝暦5年　3月5日 快晴　巳の上刻より下刻まで地震三度
1755年　4月17日 宝暦5年　3月6日 快晴
1755年　4月18日 宝暦5年　3月7日 曇　今朝寅の中刻より雨時々　午の中刻より晴れる
1755年　4月19日 宝暦5年　3月8日 快晴　今朝大霜 （今朝五時過ぎ山伏牢死）
1755年　4月20日 宝暦5年　3月9日 快晴　今朝大霜 （取上御仕置き場で謀判の郡所小使いを刎首獄門）
1755年　4月21日 宝暦5年　3月10日 快晴
1755年　4月22日 宝暦5年　3月11日 快晴 （9日昼浪岡組本郷村で火災(2間×3間:借地)・火元村預け）
1755年　4月23日 宝暦5年　3月12日 曇　午の刻より雨
1755年　4月24日 宝暦5年　3月13日 曇　終日雨 （百姓休日に違反し我侭に休み注意した庄屋の作毛を狩り捨てた男2人を11日から引き回し獄門、正月27日・2月30日牢死の2人は獄門であったが牢死したとの旗を引き回す）
1755年　4月25日 宝暦5年　3月14日 快晴
1755年　4月26日 宝暦5年　3月15日 快晴
1755年　4月27日 宝暦5年　3月16日 快晴 （時鐘撞の御切米金1両2歩2人扶持）
1755年　4月28日 宝暦5年　3月17日 曇　夜中より今日巳の刻過ぎまで大風
1755年　4月29日 宝暦5年　3月18日 曇　巳の刻丸雪降
1755年　4月30日 宝暦5年　3月19日 曇　今朝丸雪 （乳井市郎左衛門に一粒金丹20粒）

1755年　5月1日 宝暦5年　3月20日 快晴
1755年　5月2日 宝暦5年　3月21日 快晴　今朝霜 （24人に50俵宛下し置かれ大庄屋に申付ける・代官10人に与力を命ずる・代官手代・代官小使は残らず引き取る）
1755年　5月3日 宝暦5年　3月22日 晴　昨夜亥の刻より小雨　今朝に及ぶ
1755年　5月4日 宝暦5年　3月23日 快晴 （遊女町で仕事をした?鯵ヶ沢町同心に永の御暇）
1755年　5月5日 宝暦5年　3月24日 快晴　今朝霜
1755年　5月6日 宝暦5年　3月25日 曇
1755年　5月7日 宝暦5年　3月26日 快晴
1755年　5月8日 宝暦5年　3月27日 快晴
1755年　5月9日 宝暦5年　3月28日 晴　昨夜亥の刻より雨　今朝に及ぶ
1755年　5月10日 宝暦5年　3月29日 晴
1755年　5月11日 宝暦5年　4月1日 晴　午の刻より曇 （3月中所々御関所出人都合383人：碇関365人（御印紙出136・切手紙出229）・大間越4人（御印紙出4）・野内14人（御印紙出2・切手紙出12））
1755年　5月12日 宝暦5年　4月2日 晴　風立つ
1755年　5月13日 宝暦5年　4月3日 曇　酉の刻より雨少々
1755年　5月14日 宝暦5年　4月4日 曇　終日風添う
1755年　5月15日 宝暦5年　4月5日 快晴
1755年　5月16日 宝暦5年　4月6日 快晴 （蟹田町の親孝行男に褒美）
1755年　5月17日 宝暦5年　4月7日 快晴 （江戸より1日早く着いた飛脚・諸手足軽に褒美200疋宛）
1755年　5月18日 宝暦5年　4月8日 快晴　下から続く　その御馬廻の身上召上げ、部下の管理が不適切な長柄小頭2人を永の暇、追放沢山、盗人を乞食支配）
1755年　5月19日 宝暦5年　4月9日 曇　今暁より雨　午の刻に及ぶ （青森本町の男5日に行方不明・7日に浦町支配の内の田堰で死骸見つかる、御馬廻の身上召上げ追放、不法な金貸しをした御馬廻の親追放・　上に続く
1755年　5月20日 宝暦5年　4月10日 曇　今朝霧　午の刻より雨
1755年　5月21日 宝暦5年　4月11日 曇　卯の刻地震少々
1755年　5月22日 宝暦5年　4月12日 曇　朝の内霧　巳の中刻より快晴 （盗み杣をした庄屋等の5人の田畑家屋敷御取上家財闕所（取上と闕所（けっしょ）の区別は知らないが没収のこと））
1755年　5月23日 宝暦5年　4月13日 快晴　今朝霜
1755年　5月24日 宝暦5年　4月14日 曇　午の刻より雨
1755年　5月25日 宝暦5年　4月15日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ
1755年　5月26日 宝暦5年　4月16日 晴
1755年　5月27日 宝暦5年　4月17日 曇　昨夜戌の刻過ぎよりの雨今朝に及ぶ
1755年　5月28日 宝暦5年　4月18日 曇　昨夜子の刻雨
1755年　5月29日 宝暦5年　4月19日 曇　昨夜亥の刻より雨　今日終日に及ぶ
1755年　5月30日 宝暦5年　4月20日 曇　朝の内快晴　午の刻過ぎより曇雨　今朝霜
1755年　5月31日 宝暦5年　4月21日 快晴
1755年　6月1日 宝暦5年　4月22日 曇　終日雨　夜に及ぶ
1755年　6月2日 宝暦5年　4月23日 曇
1755年　6月3日 宝暦5年　4月24日 曇　時々雨
1755年　6月4日 宝暦5年　4月25日 曇
1755年　6月5日 宝暦5年　4月26日 曇 （勤め方私曲の青森町同心警固を御給分召上げ追放）
1755年　6月6日 宝暦5年　4月27日 快晴
1755年　6月7日 宝暦5年　4月28日 快晴　朝の内霧
1755年　6月8日 宝暦5年　4月29日 快晴　入梅
1755年　6月9日 宝暦5年　4月30日 快晴
1755年　6月10日 宝暦5年　5月1日 曇　今朝卯の刻過ぎより時々小雨 （4月中所々御関所出人都合718人：碇関709人（御印紙出388・切手紙出321）・野内7人（御印紙出2・切手紙出5）小泊湊口2人（御印紙出1・切手紙出1））
1755年　6月11日 宝暦5年　5月2日 晴　朝の内霧　申の刻雷少し発す
1755年　6月12日 宝暦5年　5月3日 曇　間々小雨 （御家中の家来5人を追放）
1755年　6月13日 宝暦5年　5月4日 曇　午の刻前雨少し
1755年　6月14日 宝暦5年　5月5日 曇　時々雨　巳の刻より時々雷 （江戸より半日余早く着いた飛脚の諸手足軽に褒美青銅1貫文）
1755年　6月15日 宝暦5年　5月6日 曇
1755年　6月16日 宝暦5年　5月7日 曇　朝の内快晴
1755年　6月17日 宝暦5年　5月8日 曇　午の下刻より雨少々
1755年　6月18日 宝暦5年　5月9日 曇　時々雨
1755年　6月19日 宝暦5年　5月10日 快晴　朝の内曇
1755年　6月20日 宝暦5年　5月11日 快晴　下から続く　去月29日牢破りの2人を搦捕った小田川村手代に褒美青銅2貫文）
1755年　6月21日 宝暦5年　5月12日 曇　下から続く　置かれた家屋敷を貸して自分は町宅に住んで居る者あり・御給分の半分と家屋敷を召上げ御目見以下御留守居支配に格下げ、親不孝の御家中を追放、　上に続く
1755年　6月22日 宝暦5年　5月13日 快晴 （去月29日夜2人の男が破牢・逃亡、牢奉行2人に永の御暇・牢守2人を弘前追放・牢番人3人追放、金貸し御徒永の御暇、親不孝御徒追放、御目見以上の御家中が下し　上に続く
1755年　6月23日 宝暦5年　5月14日 曇　辰の刻雨
1755年　6月24日 宝暦5年　5月15日 快晴　戌の刻地震
1755年　6月25日 宝暦5年　5月16日 快晴　朝の内霧
1755年　6月26日 宝暦5年　5月17日 快晴
1755年　6月27日 宝暦5年　5月18日 曇　小雨　午の刻より快晴
1755年　6月28日 宝暦5年　5月19日 快晴
1755年　6月29日 宝暦5年　5月20日 曇　巳の刻過ぎより時々小雨　午の刻より雨　夜中に及ぶ
1755年　6月30日 宝暦5年　5月21日 曇　昨夜中雨 （江戸より2日余早く到着の飛脚大組足軽諸手足軽の2人に褒美金300疋宛）

1755年　7月1日 宝暦5年　5月22日 晴　昨夜中大雨　　下から続く　　御留守居組に・不行跡の御手廻4人に永の御暇、5人の御手廻を御馬廻に格下げ、御徒小頭・御家老与力・御徒など8人に永の御暇）
1755年　7月2日 宝暦5年　5月23日 曇　半夏　時々小雨　（盗み杣の庄屋等2人それぞれ3日間別の村々を引廻しの上刎首獄門、悪米納入の撫牛子村の男3日間村々を引廻しの上刎首獄門、御手廻3人を半知　　上に続く
1755年　7月3日 宝暦5年　5月24日 曇　昨夜中大雨　今朝に及ぶ　今日時々小雨　（昨夜より今朝まで岩木川九歩くらいの洪水、御用人牧野左次郎御役御免）
1755年　7月4日 宝暦5年　5月25日 曇　時々霧
1755年　7月5日 宝暦5年　5月26日 晴　（和徳町で秋田久保田の男を見る・碇関口に送り返す、24日の朝七時頃より青森堤川洪水・橋中10間ほど流失）
1755年　7月6日 宝暦5年　5月27日 快晴　朝の内曇
1755年　7月7日 宝暦5年　5月28日 快晴　朝の内曇霧　（人事異動）
1755年　7月8日 宝暦5年　5月29日 晴　朝の内曇　霧少々　（諸手足軽63人を富田町の足軽屋敷に引移す）　　下から続く　　・三馬屋湊口8人（御印紙出8）、天気不宜に付き五山四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1755年　7月9日 宝暦5年　6月1日 曇　昨夜中よりの雨今朝に及ぶ　時々雨　（5月中所々御関所出人都合126人：碇関99人（御印紙出55・切手紙出44）・大間越1人（御印紙出1）・野内18人（御印紙出5・切手紙出13）　　上に続く
1755年　7月10日 宝暦5年　6月2日 快晴
1755年　7月11日 宝暦5年　6月3日 快晴　（去月24日の洪水で秋田能代水戸口で御朱印船が破船、母不幸の御家中を追放）
1755年　7月12日 宝暦5年　6月4日 快晴
1755年　7月13日 宝暦5年　6月5日 陰晴
1755年　7月14日 宝暦5年　6月6日 陰晴　今暁小雨　則刻止む　午の刻小雨　午の中刻雷発す
1755年　7月15日 宝暦5年　6月7日 曇
1755年　7月16日 宝暦5年　6月8日 快晴　朝の内曇　（津軽外記から御囲い人参の内目形半両（りょう：薬の目方で1両が4匁）を代銭上納の上お払い願・代銭上納に及ばず下し置かれる）
1755年　7月17日 宝暦5年　6月9日 快晴　朝の内曇
1755年　7月18日 宝暦5年　6月10日 快晴　巳の刻過ぎ風立つ
1755年　7月19日 宝暦5年　6月11日 曇　酉の八刻土用に入る　卯の中刻より大雨　午の中刻より止む
1755年　7月20日 宝暦5年　6月12日 曇　辰の中刻より小雨
1755年　7月21日 宝暦5年　6月13日 快晴　午の下刻小雨
1755年　7月22日 宝暦5年　6月14日 陰晴
1755年　7月23日 宝暦5年　6月15日 快晴　戌の下刻雨少々
1755年　7月24日 宝暦5年　6月16日 陰晴
1755年　7月25日 宝暦5年　6月17日 快晴　朝の内少し曇　（神明宮・天台四ヶ寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1755年　7月26日 宝暦5年　6月18日 曇　午の刻小雨
1755年　7月27日 宝暦5年　6月19日 陰晴　夜中大雨
1755年　7月28日 宝暦5年　6月20日 曇　（不行跡の大組警固（書いていないが35俵2人扶持のはず）を20俵2人扶持の長柄の者に格下げ、母孝行の茂森新町の男に褒美金200疋）
1755年　7月29日 宝暦5年　6月21日 晴
1755年　7月30日 宝暦5年　6月22日 晴
1755年　7月31日 宝暦5年　6月23日 曇　辰の下刻より雨
1755年　8月1日 宝暦5年　6月24日 曇
1755年　8月2日 宝暦5年　6月25日 曇　辰の中刻より昼時々小雨　夜中に及ぶ　（来子の年御入部（屋形様になって初入国）、去月9日・同27日・去る6日江戸で御家中永の御暇4人・格下げ3人）
1755年　8月3日 宝暦5年　6月26日 陰晴　（狂言師に永の御暇、勘定人2人を御目見以下御留守居組に格下げ）
1755年　8月4日 宝暦5年　6月27日 快晴　（蟹田町のばくち打ち2人追放）
1755年　8月5日 宝暦5年　6月28日 曇　昨夜亥の下刻より雨　今朝に及ぶ　それより時々雨
1755年　8月6日 宝暦5年　6月29日 曇　昨夜中より未申の風吹く　（今日大鰐組より初穂上がる、去る15日に江戸を立ち指示より1日早く着いた飛脚大組足軽と諸手足軽に御褒美、御馬廻番頭を御留守居組に格下げ）
1755年　8月7日 宝暦5年　6月30日 快晴　（8日金木組相内村の三十郎・紋右衛門が熊（胆長2寸廻り3寸生目10匁：2歳）・10日駒越組田代村の猟師次右衛門も（胆長2寸9歩廻り2寸生目7匁5分：2歳）それぞれ取る）
1755年　8月8日 宝暦5年　7月1日 快晴　（6月中所々御関所出人都合107人：碇関98人（御印紙出71・切手紙出27）・大間越2人（御印紙出2）・野内7人（御印紙出3・切手紙出4）、人事異動、母孝行の男に金300疋）
1755年　8月9日 宝暦5年　7月2日 快晴　残暑甚
1755年　8月10日 宝暦5年　7月3日 陰晴　今朝雨　午の刻過ぎより時々雨　（酒の代わりに流木を受け取った野内町の男・流木を流した野内町の山子男追放）
1755年　8月11日 宝暦5年　7月4日 陰晴　残暑甚
1755年　8月12日 宝暦5年　7月5日 晴　残暑甚
1755年　8月13日 宝暦5年　7月6日 陰晴　昨夜中より今朝まで大雨
1755年　8月14日 宝暦5年　7月7日 陰晴　午の上刻小雨　同中刻より大雨
1755年　8月15日 宝暦5年　7月8日 陰晴　午の下刻小雨
1755年　8月16日 宝暦5年　7月9日 曇　辰の中刻小雨
1755年　8月17日 宝暦5年　7月10日 快晴
1755年　8月18日 宝暦5年　7月11日 晴　（青森の博打家業の男追放）
1755年　8月19日 宝暦5年　7月12日 快晴　（弘前追放を立ち帰り徘徊した苗字が付いた男2人を再び追放・立ち帰りを搦捕らなかった男（こちらは苗字なし）2人も追放）
1755年　8月20日 宝暦5年　7月13日 曇　午の刻より雨　夜中に及ぶ　（盆中ニ付御家老御用人大目付其の外御役人登城無之：登と城の間に改行：平出の例）
1755年　8月21日 宝暦5年　7月14日 曇　終日雨　夜中に及ぶ
1755年　8月22日 宝暦5年　7月15日 陰晴　午の刻より雨　夜中に及ぶ
1755年　8月23日 宝暦5年　7月16日 曇　終日小雨時々
1755年　8月24日 宝暦5年　7月17日 快晴
1755年　8月25日 宝暦5年　7月18日 快晴　（朔日屋敷内で御家中の子供が放った稽古の矢が隣の子供に当たる・昨夜その子供死亡・怪我（現在の用法とは異なり「事故」の意）なので止むなしとする）
1755年　8月26日 宝暦5年　7月19日 晴
1755年　8月27日 宝暦5年　7月20日 快晴　（大鰐村より御初米六箱上がる・一筥（箱と同じ）は高岡に三箱は江戸へ差し上げる・去年6月23日植付け日との比較で去年より12日遅く節に引き合い16日遅い）
1755年　8月28日 宝暦5年　7月21日 陰晴　今朝辰の上刻雨少々　巳の刻より雨曇
1755年　8月29日 宝暦5年　7月22日 曇　今朝辰の刻西の方に虹見る　時々雨　午の刻大雨　（和徳稲荷で五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1755年　8月30日 宝暦5年　7月23日 陰晴　（御徒など4人に永の御暇・追放数人）
1755年　8月31日 宝暦5年　7月24日 曇

1755年　9月1日 宝暦5年　7月25日 快晴 （申ノ下刻ヨリ雨　夜中に及ぶ）
1755年　9月2日 宝暦5年　7月26日 曇
1755年　9月3日 宝暦5年　7月27日 曇　卯の刻過ぎより雨　それより時々小雨
1755年　9月4日 宝暦5年　7月28日 陰晴
1755年　9月5日 宝暦5年　7月29日 晴
1755年　9月6日 宝暦5年　8月1日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ （7月中所々御関所出人都合233人：碇関230人（御印紙出193・切手紙出37）・野内2人（御印紙出1・切手紙出1）・大間越1人（切手紙出1））
1755年　9月7日 宝暦5年　8月2日 陰晴
1755年　9月8日 宝暦5年　8月3日 陰晴 （この度数年来の御家中御借り米をも御免、江戸で不調法などで数人にお暇などの処分）
1755年　9月9日 宝暦5年　8月4日 快晴
1755年　9月10日 宝暦5年　8月5日 快晴
1755年　9月11日 宝暦5年　8月6日 快晴 （寺社奉行・郡奉行・町奉行・勘定奉行の各1人（4人）を御意により隠居、酒などを出させた江戸の門番に永の暇、意趣を持って2人を縄下にした牢守を追放）
1755年　9月12日 宝暦5年　8月7日 陰晴　巳の刻まで快晴
1755年　9月13日 宝暦5年　8月8日 陰晴
1755年　9月14日 宝暦5年　8月9日 曇　昨夜中より今日午の刻過ぎまで小雨
1755年　9月15日 宝暦5年　8月10日 陰晴
1755年　9月16日 宝暦5年　8月11日 陰晴　酉の中刻稲光あり　雨少々　戌の上刻雷発す　同刻雨　稲光強く雷強く発す
1755年　9月17日 宝暦5年　8月12日 陰晴 （佐竹右京太夫様の御祖母が亡くなり3日間の鳴り物停止を仰せ付けられる：なんで?）
1755年　9月18日 宝暦5年　8月13日 曇　午の上刻雷発す　申の下刻雷発す　夜中時々雨
1755年　9月19日 宝暦5年　8月14日 快晴
1755年　9月20日 宝暦5年　8月15日 晴　今日より彼岸に入る　卯の下刻雷発す　辰の刻より雨　巳の刻より晴　酉の刻より月蝕戌の刻迄 （人事異動、江戸より半日早着の飛脚諸手足軽2人に褒美青銅1貫文宛、御借米不残御免）
1755年　9月21日 宝暦5年　8月16日 快晴
1755年　9月22日 宝暦5年　8月17日 快晴 （竹内源太夫の御用人兼役御免）
1755年　9月23日 宝暦5年　8月18日 晴　昨夜中よりの雨今日時々　酉の刻雷二度発す
1755年　9月24日 宝暦5年　8月19日 曇　今朝雨　辰の中刻西の方に虹見える
1755年　9月25日 宝暦5年　8月20日 晴　朝の内曇 （昨19日尾崎組新館村で御蔵百姓と高無が喧嘩・御蔵百姓死亡高無入牢）
1755年　9月26日 宝暦5年　8月21日 快晴
1755年　9月27日 宝暦5年　8月22日 快晴 （18日晩深浦湊支配広戸村沖で破船1艘・全員無事）
1755年　9月28日 宝暦5年　8月23日 快晴 （22日朝浪岡組五本松村の松山に40歳ほどの男縊死）
1755年　9月29日 宝暦5年　8月24日 曇　辰の上刻より雨
1755年　9月30日 宝暦5年　8月25日 曇　時々小雨
1755年　10月1日 宝暦5年　8月26日 曇　昨夜中より時々風雨　今朝辰の刻戌亥の方虹見ゆる （昨25日古懸不動尊御出汗・五山江御祈祷・神明八幡両社江御神楽仰付ける、十三町の柏木盗人所払い、外北御門枡形に男縊死）
1755年　10月2日 宝暦5年　8月27日 晴 （油川村に24・5歳の男倒死）
1755年　10月3日 宝暦5年　8月28日 快晴　今朝霜少々
1755年　10月4日 宝暦5年　8月29日 快晴　今朝霜少々
1755年　10月5日 宝暦5年　8月30日 快晴
1755年　10月6日 宝暦5年　9月1日 快晴 （8月中所々御関所出人都合213人：碇関205人（御印紙出134・切手紙出71）・大間越4人（御印紙出1・切手紙出3）・野内4人（御印紙出3・切手紙出1））
1755年　10月7日 宝暦5年　9月2日 快晴
1755年　10月8日 宝暦5年　9月3日 快晴
1755年　10月9日 宝暦5年　9月4日 曇　昨夜よりの雨今日終日に及ぶ
1755年 10月10日 宝暦5年　9月5日 快晴　今朝辰の下刻まで曇　雨時々
1755年 10月11日 宝暦5年　9月6日 晴 （青森の乞食小屋で博打をした男3人所払い）
1755年 10月12日 宝暦5年　9月7日 曇　辰の中刻より時々雨降
1755年 10月13日 宝暦5年　9月8日 曇　下から続く　御郡内当作合不熟に付き御家中の内皆無或は拾ヶ1五ヶ1の族数多く有之候に付き……）
1755年 10月14日 宝暦5年　9月9日 曇　未の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ （昨日神宮寺境内の観音林に当夏生まれらしい女子捨て子・門前にて養育を申付ける、1日半早着の大組・諸手足軽に御褒美金200疋宛、　上に続く
1755年 10月15日 宝暦5年　9月10日 快晴
1755年 10月16日 宝暦5年　9月11日 快晴　戌の刻雷発す　風雨　巳の刻過ぎ地震
1755年 10月17日 宝暦5年　9月12日 快晴
1755年 10月18日 宝暦5年　9月13日 快晴　今朝霜 （御給分半減など4人・永の暇1人、江戸からの便りに：当作不熟の由先便おおせ越され猶昨日町飛脚にていよいよ凶作相極り候旨御役人まで委細申し来候に付き……）
1755年 10月19日 宝暦5年　9月14日 快晴 （昨13日金木組中柏木村の山で男縊死）
1755年 10月20日 宝暦5年　9月15日 快晴　今朝霜
1755年 10月21日 宝暦5年　9月16日 快晴
1755年 10月22日 宝暦5年　9月17日 快晴
1755年 10月23日 宝暦5年　9月18日 晴 （当町（弘前町）並びに九浦（青森・鰺ヶ沢・深浦・十三・蟹田・今別・大間越・碇関・野内の9町）在々（その他の村々）の酒屋共が不熟に付き造酒止めたいと申し立てる・止めるよう申付ける）
1755年 10月24日 宝暦5年　9月19日 曇　今暁より雨
1755年 10月25日 宝暦5年　9月20日 快晴
1755年 10月26日 宝暦5年　9月21日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今暁寅の下刻雷発す　今朝岩木半腹まで初雪見ゆる
1755年 10月27日 宝暦5年　9月22日 曇　今暁寅の刻過ぎ雷発す　辰の刻より終日風雨　夜中霰降る
1755年 10月28日 宝暦5年　9月23日 曇　辰の刻過ぎ霰　時々雨降
1755年 10月29日 宝暦5年　9月24日 快晴　昨夜中時々雨
1755年 10月30日 宝暦5年　9月25日 晴
1755年 10月31日 宝暦5年　9月26日 晴　戌の刻過ぎ雷少々発す

1755年　11月1日 宝暦5年　　9月27日 曇　昨夜中の雨今朝まで　午の刻より雷少々発す　亥の刻過ぎより風雨
1755年　11月2日 宝暦5年　　9月28日 曇　昨夜中の風雨今朝に及ぶ　終日時々雨
1755年　11月3日 宝暦5年　　9月29日 快晴
1755年　11月4日 宝暦5年　　10月1日 曇　今朝霜　(9月中所々御関所出人都合199人:碇関191人(御印紙出67・切手紙出124)・大間越1人(御印紙出1)・野内7人(切手紙出7))
1755年　11月5日 宝暦5年　　10月2日 曇　昨夜中の雨今暁まで　巳の刻過ぎより小雨時々
1755年　11月6日 宝暦5年　　10月3日 曇
1755年　11月7日 宝暦5年　　10月4日 曇　辰の刻過ぎ雨少々　則刻止む　戌の刻過ぎより雨　子の刻過ぎ雷発す　(松前若狭守から米4000俵欲しいとの依頼・若狭守様御飯料として300俵を津出し)
1755年　11月8日 宝暦5年　　10月5日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　それより昼の内時々雨
1755年　11月9日 宝暦5年　　10月6日 快晴　(損耗の覚え:高46000石の内34280石・新田196353石5斗2升の内161130石余)
1755年 11月10日 宝暦5年　　10月7日 快晴　子の刻過ぎより曇　子の刻頃雨少々
1755年 11月11日 宝暦5年　　10月8日 快晴　(知行を御倉米渡しに変更)
1755年 11月12日 宝暦5年　　10月9日 曇　巳の刻より雨降る　それより風雨
1755年 11月13日 宝暦5年　10月10日 曇　昨夜中より今日終日雨　(古懸不動尊御出汗・五山で御祈祷)
1755年 11月14日 宝暦5年　10月11日 曇　昨夜中の霰今朝に及ぶ　今日も時々雪　夜中風
1755年 11月15日 宝暦5年　10月12日 快晴　未の刻過ぎ雨少々　酉の刻過ぎ雨少々
1755年 11月16日 宝暦5年　10月13日 曇　朝の内晴　午の刻より小雨
1755年 11月17日 宝暦5年　10月14日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日も終日雨
1755年 11月18日 宝暦5年　10月15日 快晴
1755年 11月19日 宝暦5年　10月16日 晴
1755年 11月20日 宝暦5年　10月17日 快晴　昨夜中小雪
1755年 11月21日 宝暦5年　10月18日 曇　戌の中刻雷少々発す
1755年 11月22日 宝暦5年　10月19日 陰晴
1755年 11月23日 宝暦5年　10月20日 快晴　巳の刻より曇　午の刻過ぎ雨少々
1755年 11月24日 宝暦5年　10月21日 快晴　今朝霜
1755年 11月25日 宝暦5年　10月22日 曇　時々雪
1755年 11月26日 宝暦5年　10月23日 快晴　今朝霜
1755年 11月27日 宝暦5年　10月24日 曇　昨夜中雨　寅の刻過ぎ雷発す　巳の刻過ぎ晴
1755年 11月28日 宝暦5年　10月25日 曇
1755年 11月29日 宝暦5年　10月26日 曇　今暁より雨　未の刻過ぎ雷発す
1755年 11月30日 宝暦5年　10月27日 曇　昨夜中より雪時々1寸ほど降る　(御家中屋敷前に3歳くらいの女子捨て子)
1755年　12月1日 宝暦5年　10月28日 曇　辰の刻より時々雪　昨夜中雪3寸ほど降る　(禰宜町に借宅の御家中から出火・火元御奉公遠慮)
1755年　12月2日 宝暦5年　10月29日 晴　午の刻雷少々発す　午の刻過ぎより雪降る　(26日浪岡組柳ヶ久保村と山里村の境に27・8位女倒死)
1755年　12月3日 宝暦5年　　11月1日 曇　時々小雪　申の刻より大雪吹　(10月中所々御関所出人都合139人:碇関144人(御印紙出125・切手紙出19)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2))
1755年　12月4日 宝暦5年　　11月2日 曇　時々雪
1755年　12月5日 宝暦5年　　11月3日 陰晴
1755年　12月6日 宝暦5年　　11月4日 陰晴
1755年　12月7日 宝暦5年　　11月5日 曇　時々雪　(当月2日の晩七つより3日の昼九つまで十三潟の早川口より残らず氷張る・去年は10月18日で当年は6日遅く節に引き合い候えば7日早い)
1755年　12月8日 宝暦5年　　11月6日 陰晴　(御馬廻組頭八木橋某に一粒金丹7粒)
1755年　12月9日 宝暦5年　　11月7日 曇　時々雪
1755年 12月10日 宝暦5年　　11月8日 曇　時々雪　(当月2日広須組本増村で百姓家出火・火元村預け・日数7日になり差許す)
1755年 12月11日 宝暦5年　　11月9日 曇　今朝より時々雪　(当8月9日尾崎組新館村で口論相手を打ち殺した男を斬罪)
1755年 12月12日 宝暦5年　11月10日 曇　今朝雪　午の刻雨
1755年 12月13日 宝暦5年　11月11日 曇　時々雪
1755年 12月14日 宝暦5年　11月12日 陰晴
1755年 12月15日 宝暦5年　11月13日 曇　時々雪吹
1755年 12月16日 宝暦5年　11月14日 快晴
1755年 12月17日 宝暦5年　11月15日 曇　時々雨　(人事異動:郡奉行工藤嘉左衛門の子御手廻工藤嘉左衛門が御目付けに)
1755年 12月18日 宝暦5年　11月16日 曇　時々雪
1755年 12月19日 宝暦5年　11月17日 曇　時々雪　(去る13日追放の男が左関村で倒死)
1755年 12月20日 宝暦5年　11月18日 快晴
1755年 12月21日 宝暦5年　11月19日 快晴　朝の内小雪
1755年 12月22日 宝暦5年　11月20日 快晴　冬至
1755年 12月23日 宝暦5年　11月21日 陰晴　時々雪
1755年 12月24日 宝暦5年　11月22日 曇　時々雪
1755年 12月25日 宝暦5年　11月23日 晴　朝の内小雪
1755年 12月26日 宝暦5年　11月24日 陰晴　時々雪
1755年 12月27日 宝暦5年　11月25日 曇　時々雪
1755年 12月28日 宝暦5年　11月26日 曇　時々雪
1755年 12月29日 宝暦5年　11月27日 快晴
1755年 12月30日 宝暦5年　11月28日 曇　昨夜中雪
1755年 12月31日 宝暦5年　11月29日 曇　雪吹

1756年　1月1日 宝暦5年　11月30日 晴
1756年　1月2日 宝暦5年　12月1日 陰晴 （11月中所々御関所出人都合96人：碇関93人（御印紙出73・切手紙出20）・野内3人（切手紙出3））
1756年　1月3日 宝暦5年　12月2日 曇 時々雪
1756年　1月4日 宝暦5年　12月3日 陰晴 時々雪 （御運送方の者共137人（弘前23：江戸屋等の屋号・在々85：ほとんどが田澤等の苗字・青森12・鰺ヶ沢9・その他8）に御料理（内容の記述あり）下される）
1756年　1月5日 宝暦5年　12月4日 晴 時々雪
1756年　1月6日 宝暦5年　12月5日 曇 卯の三刻小寒に入る 時々雪
1756年　1月7日 宝暦5年　12月6日 晴 （諸組大庄屋申し立て：当出穀至って不足・来春他領より米1万石運送いたすべき）
1756年　1月8日 宝暦5年　12月7日 快晴 午の中刻より小雪 （今日例年の通り御献上の鱈箱詰めを見分する）
1756年　1月9日 宝暦5年　12月8日 快晴　下から続く　するよう申付ける、当年凶作に付き御切米取の場合は5～6歩引きとして支給する）
1756年　1月10日 宝暦5年　12月9日 曇 時々雪 （築館村の高無に褒美青銅2貫文、当年凶作に付き御家中が追出した家守・下屋敷守が飢渇に及ぶ体の者あり・来夏中まで渇命に及ばないようその主人が介抱　上に続く
1756年　1月11日 宝暦5年　12月10日 曇 巳の中刻地震強し （当年耕作初：種籾浸し2月19日・田打ち3月10日・種蒔20日・くれかき24日・植付け4月28日・草取り5月23日・出穂7月12日・稲刈り9月16日・稲村納め10月10日）
1756年　1月12日 宝暦5年　12月11日 曇 時々雪 （8日夜青森蜆貝町で火災・類焼10件・火元の親寺落ち）
1756年　1月13日 宝暦5年　12月12日 曇 時々雪
1756年　1月14日 宝暦5年　12月13日 晴
1756年　1月15日 宝暦5年　12月14日 陰晴
1756年　1月16日 宝暦5年　12月15日 曇 今朝より時々雪 （毛内有右衛門が去月26日江戸で御家老職を仰せ付けられたが辞退・御聞届け）
1756年　1月17日 宝暦5年　12月16日 快晴
1756年　1月18日 宝暦5年　12月17日 陰晴 亥の刻過ぎ地震
1756年　1月19日 宝暦5年　12月18日 曇 朝の内雪 巳の刻過ぎ晴
1756年　1月20日 宝暦5年　12月19日 曇 時々雪
1756年　1月21日 宝暦5年　12月20日 曇 大寒に入る 時々雪
1756年　1月22日 宝暦5年　12月21日 晴時々雪 （秋田御領分が他国者を本国に戻している・御国者か疑わしい者共が宿もなく碇関に押しかける・入れなければ御関外で倒死申すべき体・とにかく入れて弘前で本格的詮議を・了）
1756年　1月23日 宝暦5年　12月22日 曇 時々雪 （郡奉行松田兼次郎に一粒金丹3粒）
1756年　1月24日 宝暦5年　12月23日 快晴
1756年　1月25日 宝暦5年　12月24日 快晴
1756年　1月26日 宝暦5年　12月25日 快晴
1756年　1月27日 宝暦5年　12月26日 快晴 午の刻過ぎより雨 未の刻過ぎ雷少々 尤も三度発す
1756年　1月28日 宝暦5年　12月27日 快晴 （大目付小山内新右衛門に一粒金丹5粒）
1756年　1月29日 宝暦5年　12月28日 晴 （御馬廻鈴木某に一粒金丹2粒）
1756年　1月30日 宝暦5年　12月29日 曇 時々雪
1756年　1月31日 宝暦6年　正月1日　陰晴 時々雪
1756年　2月1日 宝暦6年　正月2日　快晴
1756年　2月2日 宝暦6年　正月3日　曇 時々雪
1756年　2月3日 宝暦6年　正月4日　曇 時々雪
1756年　2月4日 宝暦6年　正月5日　曇 時々雪吹
1756年　2月5日 宝暦6年　正月6日　晴
1756年　2月6日 宝暦6年　正月7日　晴 巳の刻より小雪少々
1756年　2月7日 宝暦6年　正月8日　快晴
1756年　2月8日 宝暦6年　正月9日　快晴
1756年　2月9日 宝暦6年　正月10日　快晴 （去12月中三関所出入人数：碇関出91（御印紙出62・往来証文3・切手紙出26）・入り83・出入り合174人、野内出46・入り62・出入り合128人、大間越出72・入り33・出入り合105人）
1756年　2月10日 宝暦6年　正月11日　快晴
1756年　2月11日 宝暦6年　正月12日　陰晴
1756年　2月12日 宝暦6年　正月13日　曇 時々雪
1756年　2月13日 宝暦6年　正月14日　晴 朝の内小雪少々 それより雪吹時々 （毛内有右衛門が去る23日御用人御免名差除く・乳井市郎左衛門が御前で御元司仰せ付けられ御用人次順仰せ付けられる、江戸で数人に御暇）
1756年　2月14日 宝暦6年　正月15日　晴
1756年　2月15日 宝暦6年　正月16日　晴
1756年　2月16日 宝暦6年　正月17日　曇 今暁寅の刻より雨 今日終日雪 （12月中所々御関所出人都合79人：碇関74人（御印紙出54・切手紙出20）・野内5人（御印紙出1・切手紙出4））
1756年　2月17日 宝暦6年　正月18日　曇 終日雪 （当月11日浅虫村で松前に向かう南部の飛脚が病死・同村に土葬）
1756年　2月18日 宝暦6年　正月19日　曇 終日雪 （江戸で3日御謡初・毛内有右衛門と乳井市郎左衛門が御相伴）
1756年　2月19日 宝暦6年　正月20日　晴
1756年　2月20日 宝暦6年　正月21日　曇 終日雪
1756年　2月21日 宝暦6年　正月22日　晴
1756年　2月22日 宝暦6年　正月23日　晴 （不調法ありとして間宮・八木橋の2人半知・隠居）
1756年　2月23日 宝暦6年　正月24日　晴 （町同心に永の御暇）
1756年　2月24日 宝暦6年　正月25日　曇 卯の刻過ぎ風立つ それより時々雪 （14日金木組今泉村で火災・火付け3人を搦捕る）
1756年　2月25日 宝暦6年　正月26日　陰晴 朝の内雪
1756年　2月26日 宝暦6年　正月27日　快晴 朝の内小雪
1756年　2月27日 宝暦6年　正月28日　快晴 （小人事異動）
1756年　2月28日 宝暦6年　正月29日　快晴 今朝霜
1756年　2月29日 宝暦6年　正月30日　快晴

1756年　3月1日 宝暦6年　　2月1日 曇　巳の下刻より雨　午の上刻より霰降る （正月中所々御関所出人都合96人：碇関90人（御印紙出57・切手紙出33）・野内6人（切手紙出6））
1756年　3月2日 宝暦6年　　2月2日 晴　時々雨　それより晴れる　申の刻より雨　夜中雪少々 （御家中160人ほどから米・銭差し上げる：何のためかは分からない）
1756年　3月3日 宝暦6年　　2月3日 陰晴　午の刻過ぎより雨
1756年　3月4日 宝暦6年　　2月4日 曇　昨夜中の雪今朝五寸ほど　終日時々雪
1756年　3月5日 宝暦6年　　2月5日 曇　時々雪
1756年　3月6日 宝暦6年　　2月6日 曇　時々雪
1756年　3月7日 宝暦6年　　2月7日 曇　時々雪
1756年　3月8日 宝暦6年　　2月8日 曇　昨夜中の雪今朝五寸ほど　終日雪
1756年　3月9日 宝暦6年　　2月9日 曇　午の中刻より大雪吹　今日も終日雪
1756年　3月10日 宝暦6年　　2月10日 陰晴
1756年　3月11日 宝暦6年　　2月11日 陰晴　昨夜中霰降る　午の刻過ぎ小雨　酉の刻より雪
1756年　3月12日 宝暦6年　　2月12日 曇　昨夜中の雪今朝七寸ほど
1756年　3月13日 宝暦6年　　2月13日 陰晴　時々小雪 （褒美2人・追放2人）
1756年　3月14日 宝暦6年　　2月14日 快晴
1756年　3月15日 宝暦6年　　2月15日 陰晴　昨夜中雪　今朝一尺ほど積もる　午の中刻より快晴
1756年　3月16日 宝暦6年　　2月16日 晴 （追放6人）
1756年　3月17日 宝暦6年　　2月17日 曇　今日より彼岸に入る　今朝より雪終日　夜中に及ぶ
1756年　3月18日 宝暦6年　　2月18日 陰晴　昨夜中の雪今朝七寸ほど　巳の中刻より雪 （当月11日南部船が油川湊より銭3貫文茶5斤を隠津出・犯人入牢・捕まえた湊手附に鳥目1貫文下し置かれる）
1756年　3月19日 宝暦6年　　2月19日 快晴　うまの中刻過ぎより酉の刻まで雨降る　夜中風立つ
1756年　3月20日 宝暦6年　　2月20日 陰晴　巳の中刻過ぎ小雪少々
1756年　3月21日 宝暦6年　　2月21日 快晴 （御手廻与力7人が三民（農工商のこと）御助成の端にも御加下されたいとして数百文づつ差し出す）
1756年　3月22日 宝暦6年　　2月22日 快晴
1756年　3月23日 宝暦6年　　2月23日 快晴　辰の刻より風立つ
1756年　3月24日 宝暦6年　　2月24日 快晴
1756年　3月25日 宝暦6年　　2月25日 曇　巳の刻過ぎより雨　夜中時々雨
1756年　3月26日 宝暦6年　　2月26日 晴　朝の内曇 （取上御仕置き場で追放から立帰り盗みをした男・二度の追放を立帰った男斬罪、（背の高い）御陸尺10人（5尺5寸5歩から5尺7寸）の召抱え、追放4人）
1756年　3月27日 宝暦6年　　2月27日 陰晴　午の下刻より雨　夜中に及ぶ
1756年　3月28日 宝暦6年　　2月28日 曇　昨夜中より風時々小雪
1756年　3月29日 宝暦6年　　2月29日 快晴
1756年　3月30日 宝暦6年　　2月30日 曇　巳の刻より風吹　終日雪　午の刻より大雪吹
1756年　3月31日 宝暦6年　　3月1日 曇　昨夜中の雪今朝五寸ほど　今朝巳の刻過ぎまで小雪　巳の刻より晴 （2月中所々御関所出人都合136人：碇関135人（御印紙出39・切手紙出96）・野内1人（御印紙出1））
1756年　4月1日 宝暦6年　　3月2日 陰晴　昨夜中の雪今朝4寸ほど積もる　辰の中刻より終夜時々雪
1756年　4月2日 宝暦6年　　3月3日 曇　時々雪　終日大雪吹　水雪夜に及ぶ
1756年　4月3日 宝暦6年　　3月4日 陰晴　朝の内小雪
1756年　4月4日 宝暦6年　　3月5日 晴 （買越米の海上無難の御祈祷を行う）
1756年　4月5日 宝暦6年　　3月6日 曇　昨夜中大雪吹　今朝一尺ほど　終日小雪　申の刻より夜中大雪吹 （追放3人）
1756年　4月6日 宝暦6年　　3月7日 曇　昨夜中よりの雪今朝六寸ほど積もる　時々雪 （御家老与力12人から月に1貫文宛差し上げたいとの申し出で・承届ける）
1756年　4月7日 宝暦6年　　3月8日 快晴
1756年　4月8日 宝暦6年　　3月9日 曇　辰の刻まで雨　それより晴れる
1756年　4月9日 宝暦6年　　3月10日 曇　昨夜中小風　時々小雨　丑の下刻雷発す
1756年　4月10日 宝暦6年　　3月11日 曇　今暁より風雨　辰の刻過ぎより大風吹　今暁丑の刻より辰の刻過ぎまで雷発す　午の刻より夜中大風
1756年　4月11日 宝暦6年　　3月12日 陰晴　今朝雪三寸ほど積もる
1756年　4月12日 宝暦6年　　3月13日 晴
1756年　4月13日 宝暦6年　　3月14日 快晴 （御家老西館織部に一粒金丹30粒）
1756年　4月14日 宝暦6年　　3月15日 曇　朝の内雪　辰の刻過ぎ雨少々 （昨11日十三潟が船通路相成る）
1756年　4月15日 宝暦6年　　3月16日 快晴 （当月10日夜七時より11日朝五つ時まで早川口より残らず氷明ける・去年より日数で14日遅く節に引き合っても2日遅い）
1756年　4月16日 宝暦6年　　3月17日 曇　今朝霜少々　午の刻過ぎ雨少々
1756年　4月17日 宝暦6年　　3月18日 快晴 （追放1人）
1756年　4月18日 宝暦6年　　3月19日 快晴　今朝霜少々　今日酉の一刻に土用に入る
1756年　4月19日 宝暦6年　　3月20日 快晴
1756年　4月20日 宝暦6年　　3月21日 曇　朝の内霧
1756年　4月21日 宝暦6年　　3月22日 曇　今朝霜 （鳶の者7人（勢5尺6寸～5尺2寸）新規御召抱え）
1756年　4月22日 宝暦6年　　3月23日 快晴　朝の内霧 （追放3人）
1756年　4月23日 宝暦6年　　3月24日 曇　寅の刻より雨　終日大雨　夜に及ぶ
1756年　4月24日 宝暦6年　　3月25日 快晴　今朝霜　未の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1756年　4月25日 宝暦6年　　3月26日 陰晴　辰の中刻より小雨時々　申の下刻より戌の刻過ぎまで時々雷発す　時々強し　酉の下刻稲光強し　雨時々 （御扶持人と偽り銭借りの正月に還俗した元山伏など男3人を斬罪・男1人追放）
1756年　4月26日 宝暦6年　　3月27日 曇　夜中時々雨 （半日早く着いた飛脚に褒美金100疋宛、追放1人）
1756年　4月27日 宝暦6年　　3月28日 曇　卯の刻過ぎ霰少々　今朝辰の刻過ぎ雪少々ふる
1756年　4月28日 宝暦6年　　3月29日 晴　朝の内小雨 （追放3人）
1756年　4月29日 宝暦6年　　4月1日 快晴 （3月中所々御関所出人都合180人：碇関171人（御印紙出61・切手紙出110）・大間越4人（切手紙出4）・野内5人（切手紙出5））
1756年　4月30日 宝暦6年　　4月2日 晴　夜中雨

1756年　5月1日 宝暦6年　　4月3日 晴　朝の内曇　時々風立つ
1756年　5月2日 宝暦6年　　4月4日 陰晴
1756年　5月3日 宝暦6年　　4月5日 曇　今朝卯の刻前より巳の刻過ぎまで雨　その後晴　申の刻より雨　酉の刻まで
1756年　5月4日 宝暦6年　　4月6日 快晴
1756年　5月5日 宝暦6年　　4月7日 晴
1756年　5月6日 宝暦6年　　4月8日 快晴　今朝霜　巳の刻過ぎより風立つ　　下から続く　　古懸不動尊御出汗）
1756年　5月7日 宝暦6年　　4月9日 曇　昨夜中子の刻過ぎより風雨　今朝に及ぶ　今朝霰　巳の刻過ぎより雪マチリ終日風雨立つ （御家中が知行米蔵入りになったにもかかわらず百姓に先納などを申付ける、　　上に続く
1756年　5月8日 宝暦6年　　4月10日 快晴
1756年　5月9日 宝暦6年　　4月11日 快晴
1756年　5月10日 宝暦6年　　4月12日 曇　今朝雨少々降る　辰の刻過ぎより雨　申の刻過ぎより快晴　夜中霧
1756年　5月11日 宝暦6年　　4月13日 快晴　夜に及び曇　卯の刻雨少々則止む （御持筒足軽永の暇・大組足軽の親追放・関所破りの座当斬罪）
1756年　5月12日 宝暦6年　　4月14日 曇
1756年　5月13日 宝暦6年　　4月15日 快晴　今朝霧
1756年　5月14日 宝暦6年　　4月16日 快晴
1756年　5月15日 宝暦6年　　4月17日 快晴　巳の中刻より陰晴　申の刻雨終日　夜に及ぶ
1756年　5月16日 宝暦6年　　4月18日 曇　昨夜中よりの雨終日に及ぶ （御家中奉公人が欠落・搦捕る・当3月5日より逃げたものが22人・〆にならないので入牢）
1756年　5月17日 宝暦6年　　4月19日 快晴
1756年　5月18日 宝暦6年　　4月20日 快晴　今朝水霜 （盗人等4人追放）
1756年　5月19日 宝暦6年　　4月21日 快晴　今朝水霜少々　巳の刻より晴れる　未の刻過ぎより雨時々
1756年　5月20日 宝暦6年　　4月22日 快晴　未の刻より風立つ　曇
1756年　5月21日 宝暦6年　　4月23日 快晴 （追放立ち返りを搦捕入牢、永の暇3人・追放2人）
1756年　5月22日 宝暦6年　　4月24日 快晴
1756年　5月23日 宝暦6年　　4月25日 曇　午の刻より雨時々 （屋形様来る21日江戸御発駕）
1756年　5月24日 宝暦6年　　4月26日 陰晴　昨夜中時々雨　申の下刻より夜中風強し （去年11月10日夜鞍に銭を隠した馬を抑え10貫600文を上納24貫文を配分した野内町同心警固など3人斬罪、謀判・御切米受取り男獄門）
1756年　5月25日 宝暦6年　　4月27日 曇　時々雨 （屋形様は来月9日御着城予定、酒田から買い受けた米を輸送するための御家中を出しているのか）
1756年　5月26日 宝暦6年　　4月28日 曇　朝の内雨　巳の下刻より晴れる　午の刻より快晴
1756年　5月27日 宝暦6年　　4月29日 快晴　今朝水霜 （昨28日朝七半時頃青森柳町で出火・本家借家とも10軒焼失・火元入寺、御関札打ち到着）
1756年　5月28日 宝暦6年　　4月30日 快晴　朝の内霧 （大庄屋の差図を無視した八幡館村の百姓3人追放・財産は妻子江下しおかれる）
1756年　5月29日 宝暦6年　　5月1日 曇　朝の内霧　巳の刻過ぎより小雨 （4月中所々御関所出人都合109人：碇関102人（御印紙出71・切手紙出31）・野内1人（切手紙出1）、十三町の諸材木盗取り男1人を縄下・男1人逃亡）
1756年　5月30日 宝暦6年　　5月2日 曇　昨夜中より雨今朝巳の刻過ぎまて　午の刻より晴
1756年　5月31日 宝暦6年　　5月3日 晴　時々風立つ （予定より1日余早く到着の飛脚に褒美200疋宛）
1756年　6月1日 宝暦6年　　5月4日 快晴　夜に入り雨 （朔日碇関御境山火事下草のみ）
1756年　6月2日 宝暦6年　　5月5日 曇　卯の中刻雨　辰の刻西の方に虹見ゆる　巳の刻より時々風雨　午の刻より大風　酉の刻過ぎ止む　夜中雨
1756年　6月3日 宝暦6年　　5月6日 快晴　時々風雨　午の刻より大風　酉の刻過ぎ止む　夜中雨（昨日と今日の天候が引っ掛るが止むを得ない） （盗み杣・博打・盗人・賭博宿の4人追放）
1756年　6月4日 宝暦6年　　5月7日 快晴　未の中刻過ぎより曇　申の刻小雨少々　艮の刻止む
1756年　6月5日 宝暦6年　　5月8日 曇　午の刻前より雨　夜中時々
1756年　6月6日 宝暦6年　　5月9日 快晴 （屋形様（津軽信寧）今日八半時御着城、去る5日十三浜に佐州（佐渡）腰細浦の船が駆け上がり破船・船頭水主怪我なし）
1756年　6月7日 宝暦6年　　5月10日 快晴
1756年　6月8日 宝暦6年　　5月11日 快晴
1756年　6月9日 宝暦6年　　5月12日 陰晴
1756年　6月10日 宝暦6年　　5月13日 曇　今朝西南の方虹 （去る5日夜深浦領舮作村磯辺に大坂船走り上がり破船・2人水死）
1756年　6月11日 宝暦6年　　5月14日 快晴
1756年　6月12日 宝暦6年　　5月15日 快晴
1756年　6月13日 宝暦6年　　5月16日 曇　辰の中刻より雨　巳の上刻より雷発す
1756年　6月14日 宝暦6年　　5月17日 曇　午の刻より快晴　夜に入り小雨
1756年　6月15日 宝暦6年　　5月18日 曇　朝の内霧
1756年　6月16日 宝暦6年　　5月19日 快晴　朝の内曇　巳の刻過ぎより快晴
1756年　6月17日 宝暦6年　　5月20日 快晴　今朝霧　亥の刻地震　子の刻地震　卯の刻過ぎ地震
1756年　6月18日 宝暦6年　　5月21日 陰晴　卯の刻過ぎ地震　朝の内快晴　未の刻過ぎ雨
1756年　6月19日 宝暦6年　　5月22日 曇　昨夜中の雨今朝巳の刻過ぎまて　それより晴　午の中刻前雨
1756年　6月20日 宝暦6年　　5月23日 晴　未の刻過ぎ雨　申の刻雷一度発す　亥の刻過ぎ風立つ
1756年　6月21日 宝暦6年　　5月24日 陰晴
1756年　6月22日 宝暦6年　　5月25日 晴 （先だって喜良市村で出火・火元村預け・差許）
1756年　6月23日 宝暦6年　　5月26日 快晴 （来月朔日まで御継目御祝儀御能）
1756年　6月24日 宝暦6年　　5月27日 快晴
1756年　6月25日 宝暦6年　　5月28日 快晴　朝の内霧
1756年　6月26日 宝暦6年　　5月29日 快晴　朝の内霧　午の中刻過ぎより風立つ　酉の中刻過ぎより夜中節々雨
1756年　6月27日 宝暦6年　　6月1日 晴　午の中刻小雨少しの内
1756年　6月28日 宝暦6年　　6月2日 曇　昨夜中雨時々　午の刻過ぎより風立つ　辰の刻西方に虹見ゆる
1756年　6月29日 宝暦6年　　6月3日 曇　午の刻より雨時々
1756年　6月30日 宝暦6年　　6月4日 晴　今朝卯の上刻雷発す　尤も三度発す　稲光強し　同大雨卯の刻過ぎまで　申の刻過ぎ雷

1756年　7月1日 宝暦6年　6月5日 晩　朝の内雨
1756年　7月2日 宝暦6年　6月6日 晩　今朝大霜　辰の刻小雨　巳の刻過ぎ又々小雨 （人事異動）
1756年　7月3日 宝暦6年　6月7日 快晴　朝の内霧
1756年　7月4日 宝暦6年　6月8日 快晴　朝の内曇
1756年　7月5日 宝暦6年　6月9日 曇　終日雨
1756年　7月6日 宝暦6年　6月10日 曇　昨夜子の刻より雨　今日時々雨
1756年　7月7日 宝暦6年　6月11日 曇
1756年　7月8日 宝暦6年　6月12日 曇　午の刻過ぎより陰晴
1756年　7月9日 宝暦6年　6月13日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻まて　午の刻より少し晴
1756年　7月10日 宝暦6年　6月14日 晴
1756年　7月11日 宝暦6年　6月15日 快晴
1756年　7月12日 宝暦6年　6月16日 快晴　午の中刻過ぎ雨少々
1756年　7月13日 宝暦6年　6月17日 晴　巳の下刻より雨
1756年　7月14日 宝暦6年　6月18日 晴　少々風立つ　未の刻より雷発す　同刻過ぎより雨　稲光強し　未の中刻過ぎ東方に虹見ゆる （代官と大庄屋を当分御元司直支配とする:郡奉行から権限を集中したということか）
1756年　7月15日 宝暦6年　6月19日 陰晴 （顕休院様の十三回忌で入牢の者26人を出牢・御構いの者89人を御構い御免）
1756年　7月16日 宝暦6年　6月20日 晴
1756年　7月17日 宝暦6年　6月21日 晴　巳の刻より午の刻まて少々曇
1756年　7月18日 宝暦6年　6月22日 晴　大暑
1756年　7月19日 宝暦6年　6月23日 曇　今暁子の七刻に土用に入る　未の刻小雨　則刻止む
1756年　7月20日 宝暦6年　6月24日 快晴　今朝辰の刻まで小暑　巳の刻より大暑（大暑とは二十四節気の一つでグレゴリオ暦の7月23プラスマイナス1日になるはずだが?）
1756年　7月21日 宝暦6年　6月25日 快晴　大暑
1756年　7月22日 宝暦6年　6月26日 快晴　今暁丑の刻小雨　則刻止む　大暑
1756年　7月23日 宝暦6年　6月27日 快晴
1756年　7月24日 宝暦6年　6月28日 曇　昨夜中時々小雨　今日巳の中刻より大雨
1756年　7月25日 宝暦6年　6月29日 曇　巳の刻より雨
1756年　7月26日 宝暦6年　6月30日 快晴
1756年　7月27日 宝暦6年　7月1日 快晴 （勘定算者・代官算者等23人を御用なしとして御留守居支配御目見え以下とする）
1756年　7月28日 宝暦6年　7月2日 晴　申の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ （昨日乳井市郎左衛門を貢と称するよう仰せ出される）
1756年　7月29日 宝暦6年　7月3日 曇　卯の刻過ぎより雨　午の刻より晴 （御家中の剣術高覧、転び切支丹類族伊崎三陸?弟が病死）
1756年　7月30日 宝暦6年　7月4日 快晴 （御家中馬乗り方高覧）
1756年　7月31日 宝暦6年　7月5日 快晴
1756年　8月1日 宝暦6年　7月6日 陰晴　申の下刻より雨　夜中に及ぶ
1756年　8月2日 宝暦6年　7月7日 曇　終日雨
1756年　8月3日 宝暦6年　7月8日 快晴　巳の上刻地震 （御相撲（角力と書くことも多い）13人新規召抱え・御給分金3両4人扶持のほか菜金1ヶ月1人に2歩宛下し置かれる）
1756年　8月4日 宝暦6年　7月9日 快晴　未の刻過ぎ少し雨
1756年　8月5日 宝暦6年　7月10日 快晴
1756年　8月6日 宝暦6年　7月11日 晴
1756年　8月7日 宝暦6年　7月12日 晴　夜に入り雨
1756年　8月8日 宝暦6年　7月13日 陰晴　夜中雨 （盆中に付き登城なし）
1756年　8月9日 宝暦6年　7月14日 晴
1756年　8月10日 宝暦6年　7月15日 晴
1756年　8月11日 宝暦6年　7月16日 曇　巳の刻より午の刻まて雨
1756年　8月12日 宝暦6年　7月17日 曇　巳の中刻より雨　未の刻より申の刻まで大雨
1756年　8月13日 宝暦6年　7月18日 快晴　巳の中刻より未の刻まで風立つ （大鰐村より初米5俵上がる）
1756年　8月14日 宝暦6年　7月19日 快晴　辰の刻過ぎ小雨
1756年　8月15日 宝暦6年　7月20日 快晴　午の刻過ぎ小雨
1756年　8月16日 宝暦6年　7月21日 快晴
1756年　8月17日 宝暦6年　7月22日 晴 （駒越川原に御風呂屋口より御出であそばされる）
1756年　8月18日 宝暦6年　7月23日 快晴
1756年　8月19日 宝暦6年　7月24日 曇　巳の刻過ぎより小雨時々　夜中に及ぶ
1756年　8月20日 宝暦6年　7月25日 陰晴
1756年　8月21日 宝暦6年　7月26日 晴 （不届きな御中小姓に永の御暇、2月２３日金木新田久米田村で娘を刺し殺し手箱盗みの男を獄門）
1756年　8月22日 宝暦6年　7月27日 晴 （不届き者2人を追放）
1756年　8月23日 宝暦6年　7月28日 晴 （人事異動）
1756年　8月24日 宝暦6年　7月29日 陰晴　朝の内曇　未の中刻より雨　夜中に及ぶ　雷四度発す
1756年　8月25日 宝暦6年　7月30日 曇　時々雨　夜中に及び風立つ
1756年　8月26日 宝暦6年　8月1日 曇　終日雨 （小人事異動）
1756年　8月27日 宝暦6年　8月2日 快晴
1756年　8月28日 宝暦6年　8月3日 快晴
1756年　8月29日 宝暦6年　8月4日 陰晴
1756年　8月30日 宝暦6年　8月5日 陰晴　巳の刻少々の内小雨
1756年　8月31日 宝暦6年　8月6日 曇　終日雨 （表坊主4人勤め方不〆に付き永の御暇）

1756年　9月1日 宝暦6年　8月7日 陰晴
1756年　9月2日 宝暦6年　8月8日 陰晴
1756年　9月3日 宝暦6年　8月9日 快晴
1756年　9月4日 宝暦6年　8月10日 快晴 （西の郭で御角力高覧）
1756年　9月5日 宝暦6年　8月11日 曇　時々雨　夜に入る
1756年　9月6日 宝暦6年　8月12日 晴　風立つ （桜庭某に一粒金丹5粒）
1756年　9月7日 宝暦6年　8月13日 曇　巳の中刻小雨　風立つ
1756年　9月8日 宝暦6年　8月14日 曇　時々小雨
1756年　9月9日 宝暦6年　8月15日 曇　辰の中刻西に虹　巳の中刻小雨　則止む　午の刻小雨　同下刻より晴 （今日八幡宮御祭礼）
1756年　9月10日 宝暦6年　8月16日 陰晴　未の下刻より雨　夜中に及ぶ （小人事異動、百姓3人追放）
1756年　9月11日 宝暦6年　8月17日 曇　終日雨
1756年　9月12日 宝暦6年　8月18日 快晴
1756年　9月13日 宝暦6年　8月19日 快晴
1756年　9月14日 宝暦6年　8月20日 快晴　午の上刻より陰晴　亥の刻過ぎより夜中雨
1756年　9月15日 宝暦6年　8月21日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1756年　9月16日 宝暦6年　8月22日 曇　卯の中刻雨降　西に虹出る　雷少々発し折々雨降　申の刻東に虹見える
1756年　9月17日 宝暦6年　8月23日 曇　時々雨 （1日余早くついた飛脚に御褒美鳥目1貫500文宛）
1756年　9月18日 宝暦6年　8月24日 陰晴　昨夜中亥の刻過ぎより雨 （御元司九浦の実見にまかり下る）
1756年　9月19日 宝暦6年　8月25日 曇　午の刻より晴　今朝辰の上刻西に虹見える　彼岸に入る
1756年　9月20日 宝暦6年　8月26日 快晴　亥の刻過ぎより時々少し雨
1756年　9月21日 宝暦6年　8月27日 快晴　今暁少し雨　卯の刻過ぎより晴
1756年　9月22日 宝暦6年　8月28日 晴　大暑　夜に入り雨
1756年　9月23日 宝暦6年　8月29日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　終日雨　尤も夜に入り時々雨
1756年　9月24日 宝暦6年　9月1日 快晴
1756年　9月25日 宝暦6年　9月2日 快晴
1756年　9月26日 宝暦6年　9月3日 曇　終日雨　夜中大雨 （勘定奉行・御目付を閉門・御役召し放ち）
1756年　9月27日 宝暦6年　9月4日 曇　終日雨　風立つ
1756年　9月28日 宝暦6年　9月5日 快晴
1756年　9月29日 宝暦6年　9月6日 晴
1756年　9月30日 宝暦6年　9月7日 曇　時々小雨　夜に入り風立つ
1756年　10月1日 宝暦6年　9月8日 快晴
1756年　10月2日 宝暦6年　9月9日 快晴　昨夜中小雨 （5月4日御国石崎村の船（4人乗り）が朝鮮国江原道江陵と申すところに漂着）
1756年　10月3日 宝暦6年　9月10日 陰晴
1756年　10月4日 宝暦6年　9月11日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日終日雨　夜に及ぶ （去月24日まかり越した乳井貢が昨夜まかり上る・貢は不快に付き今日登城なし）
1756年　10月5日 宝暦6年　9月12日 曇　夜に入り雨　今暁小雨
1756年　10月6日 宝暦6年　9月13日 曇　時々雨
1756年　10月7日 宝暦6年　9月14日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日も終日雨
1756年　10月8日 宝暦6年　9月15日 曇　（去る酉年（宝暦3年）漸く御借り米お返しなされる・自分借金・諸上納は残らず皆捨て?：何を言ってるのか分からない）
1756年　10月9日 宝暦6年　9月16日 曇　時々雨
1756年 10月10日 宝暦6年　9月17日 曇　昨夜中の雨今日も終日降る
1756年 10月11日 宝暦6年　9月18日 陰晴　昨夜中雨
1756年 10月12日 宝暦6年　9月19日 曇　時々雨　夜中小雨
1756年 10月13日 宝暦6年　9月20日 快晴
1756年 10月14日 宝暦6年　9月21日 曇　夜中亥の刻過ぎより時々雨
1756年 10月15日 宝暦6年　9月22日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　岩木山に初めて雪見ゆる　辰の刻過ぎより雨　巳の刻過ぎ止む
1756年 10月16日 宝暦6年　9月23日 快晴　今朝大霜　申の刻より陰晴
1756年 10月17日 宝暦6年　9月24日 曇　午の刻より晴 （小普請金上納御免・時鐘茂合い上納御免・柾木舞・諸材木等の代金等の上納御免・年賦上納ありの分皆捨て：何を言ってるのか分からない）
1756年 10月18日 宝暦6年　9月25日 晴　朝の内曇
1756年 10月19日 宝暦6年　9月26日 快晴　申の刻過ぎ雨少々　酉の刻過ぎ雷発す （弐時余早着の飛脚2人に御褒美鳥目500文宛）
1756年 10月20日 宝暦6年　9月27日 快晴
1756年 10月21日 宝暦6年　9月28日 快晴　夜中雨
1756年 10月22日 宝暦6年　9月29日 曇　終日雨
1756年 10月23日 宝暦6年　9月30日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日も終日雨
1756年 10月24日 宝暦6年　10月1日 陰晴　夜中雨
1756年 10月25日 宝暦6年　10月2日 曇　終日雨　夜中雨 （盗人3人追放）
1756年 10月26日 宝暦6年　10月3日 曇　昨夜中雨今朝に及ぶ　今日も時々雨
1756年 10月27日 宝暦6年　10月4日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日も時々雨
1756年 10月28日 宝暦6年　10月5日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今朝西の方に虹見る　時々風雨
1756年 10月29日 宝暦6年　10月6日 晴 （盗人10人追放）
1756年 10月30日 宝暦6年　10月7日 晴
1756年 10月31日 宝暦6年　10月8日 晴

1756年　11月1日 宝暦6年　　10月9日 快晴　夜に入り雨　亥の刻雷発す
1756年　11月2日 宝暦6年　　10月10日 晴　（人事異動）
1756年　11月3日 宝暦6年　　10月11日 快晴　今朝霜　（今日御鷹野に御風呂屋口より御出で遊ばされ候）（日記には御家老・御用人・御元司・大目付の毎日の出勤状況が記されている、今日から御元司が御用人より上位になる）
1756年　11月4日 宝暦6年　　10月12日 快晴　辰の刻過ぎより小雨　それより晴ルル
1756年　11月5日 宝暦6年　　10月13日 晴
1756年　11月6日 宝暦6年　　10月14日 快晴　今朝大霜
1756年　11月7日 宝暦6年　　10月15日 曇　時々雨　戌の刻過ぎ小雨　（人事異動、御能）
1756年　11月8日 宝暦6年　　10月16日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日も終日雨　午の刻過ぎ雷発す
1756年　11月9日 宝暦6年　　10月17日 曇　昨夜中時々水雪　夜中風立つ
1756年 11月10日 宝暦6年　　10月18日 曇　戌の刻過ぎ雷発す
1756年 11月11日 宝暦6年　　10月19日 曇　酉の刻より戌の刻まで小雨
1756年 11月12日 宝暦6年　　10月20日 曇　午の刻より小雨　（御囃子）
1756年 11月13日 宝暦6年　　10月21日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　午の刻過ぎより晴
1756年 11月14日 宝暦6年　　10月22日 晴　巳の中刻過ぎより快晴
1756年 11月15日 宝暦6年　　10月23日 曇　卯の刻より巳の刻まで雨　それより快晴
1756年 11月16日 宝暦6年　　10月24日 晴　昨夜中小雨　午の刻より曇　（今日初雪・御機嫌伺いに三組頭登城、御献上の鮭検分、外馬場で御家中馬術高覧）
1756年 11月17日 宝暦6年　　10月25日 陰晴　今朝暫くの内雪
1756年 11月18日 宝暦6年　　10月26日 曇　昨夜水雪　今朝に及ぶ　午の刻より晴
1756年 11月19日 宝暦6年　　10月27日 曇　昨夜中水雪　今朝に及ぶ　終日雪降る
1756年 11月20日 宝暦6年　　10月28日 快晴　未の中刻小雨　申の刻東に虹見ゆる
1756年 11月21日 宝暦6年　　10月29日 陰晴　（知行を御蔵渡しとする・御蔵渡しは10・2・7・9月とする・今日御家中に標符を渡す）
1756年 11月22日 宝暦6年　　11月1日 曇　昨夜中の雨今朝に及び時々　（人事異動）
1756年 11月23日 宝暦6年　　11月2日 曇　時々小雨　夜中に及ぶ
1756年 11月24日 宝暦6年　　11月3日 晴
1756年 11月25日 宝暦6年　　11月4日 曇　昨夜中雨　辰の刻過ぎ雷発す　終日雨
1756年 11月26日 宝暦6年　　11月5日 快晴　夜中戌の刻より雨　亥の刻過ぎより風立つ　同刻雷発す
1756年 11月27日 宝暦6年　　11月6日 曇　今朝卯の刻より風雨　午の刻過ぎより強風　夜中に及ぶ
1756年 11月28日 宝暦6年　　11月7日 曇　昨夜中より今暁まで強風　雪時々降る
1756年 11月29日 宝暦6年　　11月8日 曇　終日小雪
1756年 11月30日 宝暦6年　　11月9日 曇　終日小雪
1756年　12月1日 宝暦6年　　11月10日 曇　終日小雪　夜中に及ぶ
1756年　12月2日 宝暦6年　　11月11日 曇　午の刻過ぎより晴
1756年　12月3日 宝暦6年　　11月12日 快晴　子の刻過ぎより曇　小雨
1756年　12月4日 宝暦6年　　11月13日 快晴　午の刻過ぎより曇
1756年　12月5日 宝暦6年　　11月14日 曇　終日雪降る
1756年　12月6日 宝暦6年　　11月15日 曇　終日水雪　（人事異動）
1756年　12月7日 宝暦6年　　11月16日 曇　時々小雪
1756年　12月8日 宝暦6年　　11月17日 快晴
1756年　12月9日 宝暦6年　　11月18日 曇　終日雪降る
1756年 12月10日 宝暦6年　　11月19日 陰晴　時々雪
1756年 12月11日 宝暦6年　　11月20日 曇　終日雪
1756年 12月12日 宝暦6年　　11月21日 曇　時々雪降
1756年 12月13日 宝暦6年　　11月22日 陰晴　朝の内小雪
1756年 12月14日 宝暦6年　　11月23日 曇　時々小雪
1756年 12月15日 宝暦6年　　11月24日 曇　終日雨
1756年 12月16日 宝暦6年　　11月25日 陰晴　午の中刻小雪
1756年 12月17日 宝暦6年　　11月26日 快晴
1756年 12月18日 宝暦6年　　11月27日 陰晴　昨夜雨降る
1756年 12月19日 宝暦6年　　11月28日 曇
1756年 12月20日 宝暦6年　　11月29日 陰晴　（御持筒足軽頭高瀬直右衛門に一粒金丹5粒）
1756年 12月21日 宝暦6年　　11月30日 曇　昨夜中雨
1756年 12月22日 宝暦6年　閏11月1日　曇　時々小雪
1756年 12月23日 宝暦6年　閏11月2日　曇
1756年 12月24日 宝暦6年　閏11月3日　曇　終日雪降る
1756年 12月25日 宝暦6年　閏11月4日　曇　時々雪
1756年 12月26日 宝暦6年　閏11月5日　曇　時々小雪
1756年 12月27日 宝暦6年　閏11月6日　曇
1756年 12月28日 宝暦6年　閏11月7日　曇　時々雪
1756年 12月29日 宝暦6年　閏11月8日　陰晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今朝雪七寸ほど積もる
1756年 12月30日 宝暦6年　閏11月9日　晴　朝の内巳の刻まで雪降
1756年 12月31日 宝暦6年　閏11月10日曇　午の刻過ぎ小雪

1757年　1月1日 宝暦6年 閏11月11日曇　昨夜中雪吹　今朝に及ぶ　今日も雪吹
1757年　1月2日 宝暦6年 閏11月12日晴
1757年　1月3日 宝暦6年 閏11月13日曇　時々小雪
1757年　1月4日 宝暦6年 閏11月14日曇　朝の内小雪
1757年　1月5日 宝暦6年 閏11月15日陰晴
1757年　1月6日 宝暦6年 閏11月16日曇　今朝辰の刻より巳の中刻小雪　同刻より時々雪降る
1757年　1月7日 宝暦6年 閏11月17日曇　終日雪降る
1757年　1月8日 宝暦6年 閏11月18日曇
1757年　1月9日 宝暦6年 閏11月19日快晴　今朝巳の刻まて小雪
1757年　1月10日 宝暦6年 閏11月20日快晴　朝の内小雪
1757年　1月11日 宝暦6年 閏11月21日晴　午の刻より雨降る
1757年　1月12日 宝暦6年 閏11月22日晴
1757年　1月13日 宝暦6年 閏11月23日曇　時々雪　(今日八つ半時過ぎに御供揃えにて貢方江御入遊ばされ候、御目付工藤三之助に一粒金丹5粒)
1757年　1月14日 宝暦6年 閏11月24日陰晴
1757年　1月15日 宝暦6年 閏11月25日曇　今朝雪
1757年　1月16日 宝暦6年 閏11月26日曇　時々雪
1757年　1月17日 宝暦6年 閏11月27日曇　終日雪降る
1757年　1月18日 宝暦6年 閏11月28日陰晴
1757年　1月19日 宝暦6年 閏11月29日曇　終日小雪
1757年　1月20日 宝暦6年　12月1日 曇
1757年　1月21日 宝暦6年　12月2日 晴　朝の内雪　(勘定奉行佐野吉郎兵衛に一粒金胆5粒)
1757年　1月22日 宝暦6年　12月3日 快晴
1757年　1月23日 宝暦6年　12月4日 陰晴　(青沼求馬(乗馬の師範かな)に一粒金丹5粒)
1757年　1月24日 宝暦6年　12月5日 快晴　(瑞祥院様150回忌法要)
1757年　1月25日 宝暦6年　12月6日 陰晴
1757年　1月26日 宝暦6年　12月7日 晴　未の刻雨　酉の刻より戌の刻まて雨降る
1757年　1月27日 宝暦6年　12月8日 曇　終日雪降る
1757年　1月28日 宝暦6年　12月9日 晦　終日雪降る　(150回忌法要の大赦:出牢2人・追放解除が6人か)
1757年　1月29日 宝暦6年　12月10日 曇　終日雪降る
1757年　1月30日 宝暦6年　12月11日 曇　終日小雪
1757年　1月31日 宝暦6年　12月12日 晴　朝の内小雪
1757年　2月1日 宝暦6年　12月13日 快晴
1757年　2月2日 宝暦6年　12月14日 晴　朝の内小雪　(戸田清左衛門に一粒金丹5粒)
1757年　2月3日 宝暦6年　12月15日 快晴
1757年　2月4日 宝暦6年　12月16日 陰晴　辰の刻より午の刻まで雪降る
1757年　2月5日 宝暦6年　12月17日 陰晴　昨夜中雪五寸ほど降る
1757年　2月6日 宝暦6年　12月18日 陰晴
1757年　2月7日 宝暦6年　12月19日 曇
1757年　2月8日 宝暦6年　12月20日 陰晴　時々雪　(小山次弟兵衛？を追放・その方儀　上之御損害に及ぶ儀……)
1757年　2月9日 宝暦6年　12月21日 快晴
1757年　2月10日 宝暦6年　12月22日 曇
1757年　2月11日 宝暦6年　12月23日 快晴
1757年　2月12日 宝暦6年　12月24日 快晴
1757年　2月13日 宝暦6年　12月25日 陰晴
1757年　2月14日 宝暦6年　12月26日 曇　終日雪
1757年　2月15日 宝暦6年　12月27日 曇　時々小雪
1757年　2月16日 宝暦6年　12月28日 曇
1757年　2月17日 宝暦6年　12月29日 陰晴
1757年　2月18日 宝暦7年　正月1日　快晴　朝の内曇
1757年　2月19日 宝暦7年　正月2日　曇　時々雪　昨夜中雪尺余積もる
1757年　2月20日 宝暦7年　正月3日　曇　朝より終日雪　(今晩御謡初)
1757年　2月21日 宝暦7年　正月4日　曇　今暁卯の刻地震
1757年　2月22日 宝暦7年　正月5日　快晴
1757年　2月23日 宝暦7年　正月6日　快晴
1757年　2月24日 宝暦7年　正月7日　快晴　今朝霜　夜中雷
1757年　2月25日 宝暦7年　正月8日　曇　時々雪　(5月4日に岩崎村の船(4人乗り)が朝鮮国江原道に漂着・去月対馬に着船)
1757年　2月26日 宝暦7年　正月9日　陰晴　昨夜中の雪今朝まて
1757年　2月27日 宝暦7年　正月10日　快晴
1757年　2月28日 宝暦7年　正月11日　快晴　今暁小雪　(人事異動)

1757年　3月1日 宝暦7年 正月12日　陰晴 （御能）
1757年　3月2日 宝暦7年 正月13日　晴　酉の刻過ぎ小雪
1757年　3月3日 宝暦7年 正月14日　快晴
1757年　3月4日 宝暦7年 正月15日　晴　昨夜中雪少し
1757年　3月5日 宝暦7年 正月16日　曇　朝の内小雪
1757年　3月6日 宝暦7年 正月17日　晴
1757年　3月7日 宝暦7年 正月18日　陰晴　今朝霜少し （笠原八郎兵衛(武左衛門養子)から男子1人あるが弟(その後妾腹に生まれた武左衛門の子)を嫡子にしたいとの申し出で、御発駕を3月12日と仰せ出だされる）
1757年　3月8日 宝暦7年 正月19日　快晴
1757年　3月9日 宝暦7年 正月20日　快晴
1757年　3月10日 宝暦7年 正月21日　快晴 （御慰の御能）
1757年　3月11日 宝暦7年 正月22日　陰晴
1757年　3月12日 宝暦7年 正月23日　快晴
1757年　3月13日 宝暦7年 正月24日　陰晴　昨夜中より大風終日　雪五歩ほど積もる
1757年　3月14日 宝暦7年 正月25日　曇　終日雪降る
1757年　3月15日 宝暦7年 正月26日　曇　時々雪
1757年　3月16日 宝暦7年 正月27日　曇　終日雪
1757年　3月17日 宝暦7年 正月28日　曇　昨夜中より雪
1757年　3月18日 宝暦7年 正月29日　曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ
1757年　3月19日 宝暦7年 正月30日　曇　時々雪降る
1757年　3月20日 宝暦7年　2月1日 快晴 （去々年より去年までの凶作時に奇特な働きをした町人13人に金品を下し置かれる:例青森の池田屋半兵衛に銀5枚・この席に足羽次郎三郎が出座）
1757年　3月21日 宝暦7年　2月2日 快晴
1757年　3月22日 宝暦7年　2月3日 快晴　申の中刻大雨 （御慰の御能）
1757年　3月23日 宝暦7年　2月4日 快晴
1757年　3月24日 宝暦7年　2月5日 快晴
1757年　3月25日 宝暦7年　2月6日 快晴
1757年　3月26日 宝暦7年　2月7日 快晴　朝の内霞
1757年　3月27日 宝暦7年　2月8日 陰晴　夜中大雨
1757年　3月28日 宝暦7年　2月9日 曇 （御姫様御髪置御祝儀・御能）
1757年　3月29日 宝暦7年　2月10日 曇　終日雨
1757年　3月30日 宝暦7年　2月11日 陰晴　終日霧
1757年　3月31日 宝暦7年　2月12日 快晴
1757年　4月1日 宝暦7年　2月13日 陰晴
1757年　4月2日 宝暦7年　2月14日 快晴　今暁小雪
1757年　4月3日 宝暦7年　2月15日 陰晴
1757年　4月4日 宝暦7年　2月16日 曇　昨夜丑の刻大雨　終日雪降る(曇　昨夜丑ノ刻大雨終日雪降ル）
1757年　4月5日 宝暦7年　2月17日 曇　昨夜中大風大雨
1757年　4月6日 宝暦7年　2月18日 陰晴
1757年　4月7日 宝暦7年　2月19日 陰晴
1757年　4月8日 宝暦7年　2月20日 曇　終日雨
1757年　4月9日 宝暦7年　2月21日 曇　終日風吹
1757年　4月10日 宝暦7年　2月22日 曇　朝より昼までの内小雨
1757年　4月11日 宝暦7年　2月23日 晴
1757年　4月12日 宝暦7年　2月24日 晴
1757年　4月13日 宝暦7年　2月25日 曇
1757年　4月14日 宝暦7年　2月26日 快晴
1757年　4月15日 宝暦7年　2月27日 曇 （今日御誕生日に付き御能）
1757年　4月16日 宝暦7年　2月28日 快晴
1757年　4月17日 宝暦7年　2月29日 晴　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今朝辰の刻過ぎより風立つ　朝の内西に虹見る
1757年　4月18日 宝暦7年　3月1日 快晴 （発駕御祝儀の御料理・御能）
1757年　4月19日 宝暦7年　3月2日 晴
1757年　4月20日 宝暦7年　3月3日 曇 （乳井貢に御染筆(ごせんぴつ:屋形様の自筆かな)御書付を以て録(普通は禄のはずだが)千石下し置かれる、乳井左市郎に勤料300俵）
1757年　4月21日 宝暦7年　3月4日 曇
1757年　4月22日 宝暦7年　3月5日 曇　時々小雨　昨夜中雨
1757年　4月23日 宝暦7年　3月6日 快晴
1757年　4月24日 宝暦7年　3月7日 陰晴　今朝霜
1757年　4月25日 宝暦7年　3月8日 晴　朝の内小雨
1757年　4月26日 宝暦7年　3月9日 曇　昨夜中雨
1757年　4月27日 宝暦7年　3月10日 快晴
1757年　4月28日 宝暦7年　3月11日 曇　終日雨 （人事異動）
1757年　4月29日 宝暦7年　3月12日 陰晴　午の刻小雨 （午の上刻御発駕・御供乳井貢等）
1757年　4月30日 宝暦7年　3月13日 陰晴　昨夜中雨

1757年　5月1日 宝暦7年　3月14日 快晴
1757年　5月2日 宝暦7年　3月15日 曇　時々雨 （寺社役伊東文次郎出奔）
1757年　5月3日 宝暦7年　3月16日 快晴
1757年　5月4日 宝暦7年　3月17日 晴
1757年　5月5日 宝暦7年　3月18日 快晴　朝の内曇
1757年　5月6日 宝暦7年　3月19日 曇 （足羽長十郎に江戸登り申しつける）
1757年　5月7日 宝暦7年　3月20日 快晴
1757年　5月8日 宝暦7年　3月21日 快晴
1757年　5月9日 宝暦7年　3月22日 曇　午の刻より小雨　夜中に及ぶ
1757年　5月10日 宝暦7年　3月23日 快晴
1757年　5月11日 宝暦7年　3月24日 曇　巳の刻過ぎ小雨　則止む
1757年　5月12日 宝暦7年　3月25日 快晴　風吹く
1757年　5月13日 宝暦7年　3月26日 陰晴
1757年　5月14日 宝暦7年　3月27日 快晴
1757年　5月15日 宝暦7年　3月28日 晴
1757年　5月16日 宝暦7年　3月29日 曇　今暁寅の刻頃より雨終日
1757年　5月17日 宝暦7年　3月30日 快晴　朝の内曇　巳の刻より晴れる
1757年　5月18日 宝暦7年　4月1日 快晴　巳の刻より未の中刻まで南風吹く
1757年　5月19日 宝暦7年　4月2日 晴　午の刻より南風吹く （昨日黒石で鷹匠野沢友右衛門が同僚を切り殺す・入牢）
1757年　5月20日 宝暦7年　4月3日 快晴　未の刻より北風強く吹く
1757年　5月21日 宝暦7年　4月4日 陰晴
1757年　5月22日 宝暦7年　4月5日 快晴　申の刻過ぎより風立つ
1757年　5月23日 宝暦7年　4月6日 快晴　巳の中刻より風強く吹く　申の刻止む （江戸で永の御暇4人）
1757年　5月24日 宝暦7年　4月7日 晴　辰の中刻より南風吹く　申の下刻止む
1757年　5月25日 宝暦7年　4月8日 快晴　午の刻より終日北風吹く　申の刻より少し強し
1757年　5月26日 宝暦7年　4月9日 晴　朝の内曇　辰の刻より晴れる　同刻過ぎより申の刻まで東風吹く
1757年　5月27日 宝暦7年　4月10日 曇　昨日東風吹く　申の中刻より酉の刻まで小雨　夜中明まで降る
1757年　5月28日 宝暦7年　4月11日 曇　未明よりの雨午の上刻まで　同刻より晴れる　申の下刻より夜中雨　終日東風吹く
1757年　5月29日 宝暦7年　4月12日 曇　昨夜中の雨　今晩まで降る　卯の下刻止む　巳の刻より風立つ　同中刻より雨　午の刻止む
1757年　5月30日 宝暦7年　4月13日 陰晴　午の刻より晴　東風吹く
1757年　5月31日 宝暦7年　4月14日 快晴　少々風立つ
1757年　6月1日 宝暦7年　4月15日 快晴　北風立つ （去る朔日屋形様御上府）
1757年　6月2日 宝暦7年　4月16日 快晴
1757年　6月3日 宝暦7年　4月17日 曇　巳の刻より終日雨降　北風立つ　夜亥の刻過ぎ晴れる
1757年　6月4日 宝暦7年　4月18日 曇　東風立つ　未の刻より快晴
1757年　6月5日 宝暦7年　4月19日 快晴　未の刻過ぎより北風立つ
1757年　6月6日 宝暦7年　4月20日 晴
1757年　6月7日 宝暦7年　4月21日 曇　巳の刻より雨終日 （去月16日　近衛左府様関白　宣下同日御拝賀……:天皇の行動を始めてみたような気がする・とすれば近衛様の欠字はともかく「宣下」は台頭とすべきものかな?）
1757年　6月8日 宝暦7年　4月22日 曇　朝の内霞
1757年　6月9日 宝暦7年　4月23日 曇　辰の中刻より雨降
1757年　6月10日 宝暦7年　4月24日 曇　昨夜中時々小雨　今朝辰の刻より小雨
1757年　6月11日 宝暦7年　4月25日 晴
1757年　6月12日 宝暦7年　4月26日 快晴
1757年　6月13日 宝暦7年　4月27日 曇　卯の中刻より時々小雨
1757年　6月14日 宝暦7年　4月28日 曇　昨夜中小雨
1757年　6月15日 宝暦7年　4月29日 陰晴
1757年　6月16日 宝暦7年　4月30日 曇　時々小雨
1757年　6月17日 宝暦7年　5月1日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の刻まて大雨
1757年　6月18日 宝暦7年　5月2日 曇　昨夜中の雨　今朝に及ぶ　時々小雨
1757年　6月19日 宝暦7年　5月3日 陰晴　辰の刻過ぎ少しの内小雨　同刻過ぎより晴
1757年　6月20日 宝暦7年　5月4日 曇　卯の中刻西に虹見得る　辰の中刻小雨　未の刻過ぎ大雨終日　申の中刻過ぎ稲光　雷一度発す
1757年　6月21日 宝暦7年　5月5日 曇　今朝霧　巳の刻より陰晴
1757年　6月22日 宝暦7年　5月6日 曇　昨夜中時々小雨　今朝に及ぶ　朝の内霧
1757年　6月23日 宝暦7年　5月7日 陰晴　昨夜中時々小雨　今朝霧
1757年　6月24日 宝暦7年　5月8日 陰晴
1757年　6月25日 宝暦7年　5月9日 陰晴
1757年　6月26日 宝暦7年　5月10日 曇　今朝辰の中刻まて霧り　午の中刻雷少し発す　同刻小雨
1757年　6月27日 宝暦7年　5月11日 晴
1757年　6月28日 宝暦7年　5月12日 晴
1757年　6月29日 宝暦7年　5月13日 曇　巳の中刻より雨終日
1757年　6月30日 宝暦7年　5月14日 曇

1757年　7月1日 宝暦7年　5月15日 晴
1757年　7月2日 宝暦7年　5月16日 陰晴 （人事異動、飛脚の遅速の褒美等あり:1日早ければ1人に金100疋宛・2日200疋・3日1両・3日半より4日5両・病気等で遅れて着いた者は役下げ）
1757年　7月3日 宝暦7年　5月17日 曇
1757年　7月4日 宝暦7年　5月18日 曇
1757年　7月5日 宝暦7年　5月19日 陰晴 今朝霧 （栄源院様(どなたかな貞昌寺に埋葬か)150回忌の大赦で2人出牢）
1757年　7月6日 宝暦7年　5月20日 快晴 （飛脚御定めより遅くなり2人に御暇）
1757年　7月7日 宝暦7年　5月21日 快晴 （今日御献上の蕨荷物差し立てる）
1757年　7月8日 宝暦7年　5月22日 快晴 （近衛様関白宣下に付き……:「宣下」に欠字さえ行っていない）
1757年　7月9日 宝暦7年　5月23日 陰晴
1757年　7月10日 宝暦7年　5月24日 曇 昨夜中雨 今朝辰の中刻まて その後晴 （人事異動）
1757年　7月11日 宝暦7年　5月25日 曇 今朝辰の中刻少しの内雨 同刻止む
1757年　7月12日 宝暦7年　5月26日 陰晴 辰の刻小雨 則刻止む （先月(4月2日記述)酒狂いで同僚を切り殺した鷹匠を斬罪、大目付田村源太兵衛に一粒金丹）
1757年　7月13日 宝暦7年　5月27日 曇 昨夜中雨 今朝辰の中刻まて
1757年　7月14日 宝暦7年　5月28日 曇 昨夜中雨 今朝巳の刻過ぎまて 巳の中刻雷一度発す
1757年　7月15日 宝暦7年　5月29日 晴 今朝霧
1757年　7月16日 宝暦7年　6月1日 陰晴 暑気強
1757年　7月17日 宝暦7年　6月2日 曇 昨夜子の刻より雨降 卯の中刻より度々雷発す （四社に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1757年　7月18日 宝暦7年　6月3日 晴 終日北風吹く
1757年　7月19日 宝暦7年　6月4日 曇 辰の中刻まで霧雨降
1757年　7月20日 宝暦7年　6月5日 曇 終日東風吹
1757年　7月21日 宝暦7年　6月6日 晴 巳の刻過ぎまで曇 申の刻過ぎ小雨降
1757年　7月22日 宝暦7年　6月7日 曇 今暁丑の刻頃より雨 今朝に及ぶ
1757年　7月23日 宝暦7年　6月8日 曇
1757年　7月24日 宝暦7年　6月9日 快晴
1757年　7月25日 宝暦7年　6月10日 快晴 朝より暑気強
1757年　7月26日 宝暦7年　6月11日 晴
1757年　7月27日 宝暦7年　6月12日 快晴 未の刻より申の中刻頃まで雷発す 時々雨 辰巳両所に虹見る
1757年　7月28日 宝暦7年　6月13日 快晴 午の刻過ぎ曇 小雨 稲光雷強く発す （乳井貢昨夜江戸から下着・御元司御用向き当分御家老御用番にて取り扱うこととする）
1757年　7月29日 宝暦7年　6月14日 晴 午の中刻より曇 同下刻より大雷大雨稲光度々 未の刻雷雨止む
1757年　7月30日 宝暦7年　6月15日 晴 今朝辰の刻まで霧 巳の下刻まで曇 午の中刻晴れる
1757年　7月31日 宝暦7年　6月16日 晴 巳の中刻過ぎ少しの内村雨 早東止む
1757年　8月1日 宝暦7年　6月17日 快晴 終日東風吹く
1757年　8月2日 宝暦7年　6月18日 快晴 午の中刻過ぎより曇 稲光雷大雨 申の刻頃まで それより東方に虹見る
1757年　8月3日 宝暦7年　6月19日 快晴
1757年　8月4日 宝暦7年　6月20日 晴 午の刻過ぎより申の刻まで雷発す 午の中刻頃より村雨
1757年　8月5日 宝暦7年　6月21日 快晴 巳の中刻より南の方曇 雷発す 同刻村雨 早速止む 東の方虹見る 夜に入り快晴
1757年　8月6日 宝暦7年　6月22日 快晴
1757年　8月7日 宝暦7年　6月23日 快晴 大暑 （御運送役司取足羽次郎三郎に御咎・町預け）
1757年　8月8日 宝暦7年　6月24日 快晴 朝より大暑
1757年　8月9日 宝暦7年　6月25日 快晴 今朝より大暑 夜中子の刻より雨降 （園受院様(昔の屋形様の側室)17回忌法要に関する大赦・2人出牢2人に御国徘徊御免(追放の解除?)）
1757年　8月10日 宝暦7年　6月26日 快晴 昨夜中の雨今朝に及ぶ 巳の刻より晴れる
1757年　8月11日 宝暦7年　6月27日 曇 昨夜亥の刻より雨 今朝に及ぶ 終日雨降 （久しぶりに貢が登城している）
1757年　8月12日 宝暦7年　6月28日 晴 （去年朝鮮国に漂着の石崎村の4人が大坂に帰る）
1757年　8月13日 宝暦7年　6月29日 晴 （昨日浅虫より初米差し上げる、通帳廃止・御蔵渡しとする）
1757年　8月14日 宝暦7年　6月30日 曇 巳の中刻より小雨降 （今日大鰐村より初米差し上げる）
1757年　8月15日 宝暦7年　7月1日 陰晴 午の下刻より雨 夜中に及ぶ
1757年　8月16日 宝暦7年　7月2日 曇 今朝より雨 午の刻過ぎまで 申の刻過ぎ止む
1757年　8月17日 宝暦7年　7月3日 陰晴 時々小雨
1757年　8月18日 宝暦7年　7月4日 曇 辰の中刻より小雨 巳の中刻より大雨 則刻止む
1757年　8月19日 宝暦7年　7月5日 曇 今朝西の方に虹見る 今日終日雨 夜中時々雨
1757年　8月20日 宝暦7年　7月6日 曇 昨夜中の雨今巳の刻まで それより止む （御家老棟方十左衛門に一粒金丹5粒）
1757年　8月21日 宝暦7年　7月7日 曇 卯の中刻小雨
1757年　8月22日 宝暦7年　7月8日 晴
1757年　8月23日 宝暦7年　7月9日 快晴 （海老名弥門・福士傳右衛門に一粒金丹5粒宛）
1757年　8月24日 宝暦7年　7月10日 快晴
1757年　8月25日 宝暦7年　7月11日 快晴
1757年　8月26日 宝暦7年　7月12日 快晴
1757年　8月27日 宝暦7年　7月13日 晴 午の中刻より大雨 稲光雷発す
1757年　8月28日 宝暦7年　7月14日 陰晴 午の刻過ぎより雨降 雷発す 夜に入り稲光
1757年　8月29日 宝暦7年　7月15日 曇 午の刻過ぎ小雨 雷発す 夜に入り晴
1757年　8月30日 宝暦7年　7月16日 快晴
1757年　8月31日 宝暦7年　7月17日 快晴

1757年　9月1日 宝暦7年　7月18日 快晴 （福眞林右衛門が茂太夫・弥兵衛のいずれかに改名願い・了）
1757年　9月2日 宝暦7年　7月19日 快晴
1757年　9月3日 宝暦7年　7月20日 快晴 （名前を変えることが流行っている・今日だけで14人?・毎日のように10人余）
1757年　9月4日 宝暦7年　7月21日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ
1757年　9月5日 宝暦7年　7月22日 快晴 （来月20日に乳井貢を立ち帰り登り仰せ付けられる、知行・俵子の渡し方を家内の人数割りとする?：分からん）
1757年　9月6日 宝暦7年　7月23日 快晴
1757年　9月7日 宝暦7年　7月24日 晴
1757年　9月8日 宝暦7年　7月25日 曇
1757年　9月9日 宝暦7年　7月26日 快晴 （乳井貢が尾太銅山にまかり越す、23人が改名）
1757年　9月10日 宝暦7年　7月27日 曇　巳の中刻小雨　早速止む
1757年　9月11日 宝暦7年　7月28日 快晴
1757年　9月12日 宝暦7年　7月29日 快晴
1757年　9月13日 宝暦7年　8月1日 快晴 （今日も貢が御家老と御用人の間に出勤している・でも仕事から干されたか）
1757年　9月14日 宝暦7年　8月2日 曇　今朝巳の刻より小雨　申の刻過ぎ暫く大雨 （乳井貢の出勤なし）
1757年　9月15日 宝暦7年　8月3日 快晴　昨夜中雨　今朝まで時々小雨　巳の刻より晴
1757年　9月16日 宝暦7年　8月4日 快晴
1757年　9月17日 宝暦7年　8月5日 快晴　夜に入り曇　戌の刻より雨時々稲光　亥の刻過ぎより晴 （御家老と同時に乳井貢出勤・その前に御用人）
1757年　9月18日 宝暦7年　8月6日 曇　今朝辰の刻より雨終日
1757年　9月19日 宝暦7年　8月7日 曇　昨夜中時々雨　稲光　午の刻雷発す
1757年　9月20日 宝暦7年　8月8日 曇　今日より彼岸に入る　昨夜中時々雨　未の下刻小雨　東の方に虹見る
1757年　9月21日 宝暦7年　8月9日 曇　昨夜中雨　巳の刻より陰晴　時々小雨
1757年　9月22日 宝暦7年　8月10日 曇　辰の中刻西の方虹見る　申の刻北の方に虹　稲光度々
1757年　9月23日 宝暦7年　8月11日 曇　今朝卯の上刻より雨　申の刻丑寅の方に虹見る
1757年　9月24日 宝暦7年　8月12日 晴　午の刻少しの内小雨　申の刻雷発す
1757年　9月25日 宝暦7年　8月13日 曇　今日時々小雨
1757年　9月26日 宝暦7年　8月14日 曇　昨夜子の刻より今晩まで大雨　今日時々小雨　夜に入り晴 （鳶の者新規召抱え5人（5尺3寸3歩～5尺4寸2歩））
1757年　9月27日 宝暦7年　8月15日 快晴 （乳井貢が江戸表に発足、銀135匁=金1両1歩）
1757年　9月28日 宝暦7年　8月16日 快晴
1757年　9月29日 宝暦7年　8月17日 快晴　卯の刻少し小雨　申の中刻東の方虹見る
1757年　9月30日 宝暦7年　8月18日 快晴
1757年　10月1日 宝暦7年　8月19日 晴　戌の刻より雨　夜中に及ぶ
1757年　10月2日 宝暦7年　8月20日 曇　昨夜中風雨　終日小雨 （青森蜆貝町より初鮭差し上げる）
1757年　10月3日 宝暦7年　8月21日 曇　昨夜中の雨　今朝に及ぶ　昨夜雷度々
1757年　10月4日 宝暦7年　8月22日 快晴　夜中時々雨
1757年　10月5日 宝暦7年　8月23日 快晴
1757年　10月6日 宝暦7年　8月24日 曇　昨夜中時々雨
1757年　10月7日 宝暦7年　8月25日 晴 （足羽長十郎が縄網かけた駕籠で碇関着）
1757年　10月8日 宝暦7年　8月26日 曇　午の中刻過ぎより暮れ頃まで時々雨 （長十郎入牢）
1757年　10月9日 宝暦7年　8月27日 晴　昨夜中時々小雨　辰の刻より晴
1757年 10月10日 宝暦7年　8月28日 晴
1757年 10月11日 宝暦7年　8月29日 曇　夜中時々雨
1757年 10月12日 宝暦7年　8月30日 曇　午の刻より晴
1757年 10月13日 宝暦7年　9月1日 曇　今朝大霜　未の下刻雷雨　風立つ （検見の仕方が若干変更になったのかも・割に具体的に書いてある）
1757年 10月14日 宝暦7年　9月2日 快晴
1757年 10月15日 宝暦7年　9月3日 晴　今朝大霜
1757年 10月16日 宝暦7年　9月4日 快晴 （39人改名）
1757年 10月17日 宝暦7年　9月5日 晴
1757年 10月18日 宝暦7年　9月6日 曇　時々雨　風立つ
1757年 10月19日 宝暦7年　9月7日 曇　朔夜中より時々雨　雷発す
1757年 10月20日 宝暦7年　9月8日 曇　今朝初めて岩木山に雪見ゆる　時々雨
1757年 10月21日 宝暦7年　9月9日 曇　時々雨　寒冷強し
1757年 10月22日 宝暦7年　9月10日 曇　辰の刻より水雪降る
1757年 10月23日 宝暦7年　9月11日 曇　時々小雨　未の刻地震
1757年 10月24日 宝暦7年　9月12日 曇　時々雨 （佐渡の小木港を出た江戸の船が6日明け方舮作村で破船・4人死亡）
1757年 10月25日 宝暦7年　9月13日 陰晴
1757年 10月26日 宝暦7年　9月14日 曇　時々小雨
1757年 10月27日 宝暦7年　9月15日 曇　時々雪降
1757年 10月28日 宝暦7年　9月16日 曇　時々小雨
1757年 10月29日 宝暦7年　9月17日 快晴
1757年 10月30日 宝暦7年　9月18日 快晴
1757年 10月31日 宝暦7年　9月19日 晴

1757年　11月1日 宝暦7年　　9月20日 曇　時々雨
1757年　11月2日 宝暦7年　　9月21日 曇　風雨　雷発す
1757年　11月3日 宝暦7年　　9月22日 晴
1757年　11月4日 宝暦7年　　9月23日 陰晴
1757年　11月5日 宝暦7年　　9月24日 晴
1757年　11月6日 宝暦7年　　9月25日 快晴　今朝霜
1757年　11月7日 宝暦7年　　9月26日 快晴
1757年　11月8日 宝暦7年　　9月27日 快晴
1757年　11月9日 宝暦7年　　9月28日 陰晴　巳の刻少々雨　同刻止む（今般茨木屋手代が下着・鮭2尺下し置かれる）
1757年 11月10日 宝暦7年　　9月29日 快晴
1757年 11月11日 宝暦7年　　9月30日 晴
1757年 11月12日 宝暦7年　　10月1日 曇
1757年 11月13日 宝暦7年　　10月2日 曇
1757年 11月14日 宝暦7年　　10月3日 晴
1757年 11月15日 宝暦7年　　10月4日 晴
1757年 11月16日 宝暦7年　　10月5日 晴　朝の内曇
1757年 11月17日 宝暦7年　　10月6日 陰晴　申の下刻より雨　夜中に及ぶ（足羽次郎三郎など入牢・家屋敷取り上げ・闕所）
1757年 11月18日 宝暦7年　　10月7日 快晴
1757年 11月19日 宝暦7年　　10月8日 陰晴（御献上の塩鮭を検分）
1757年 11月20日 宝暦7年　　10月9日 曇（矢城庄左衛門が弘前着・（東門から評定所へ：昨日の記事）・評定所から腰縄・新屋敷江押し込め）
1757年 11月21日 宝暦7年　10月10日 晴
1757年 11月22日 宝暦7年　10月11日 曇　辰の刻過ぎより時々雨
1757年 11月23日 宝暦7年　10月12日 曇　昨夜中より時々雨
1757年 11月24日 宝暦7年　10月13日 曇
1757年 11月25日 宝暦7年　10月14日 曇　今朝大霜　辰の刻小雨
1757年 11月26日 宝暦7年　10月15日 曇　終日小雨
1757年 11月27日 宝暦7年　10月16日 曇　今暁より大風雨
1757年 11月28日 宝暦7年　10月17日 曇
1757年 11月29日 宝暦7年　10月18日 晴
1757年 11月30日 宝暦7年　10月19日 曇　終日水雪　夜に入り雷発す
1757年　12月1日 宝暦7年　10月20日 曇　午の刻より晴れる
1757年　12月2日 宝暦7年　10月21日 晴（江戸の誰かに金子を送ろうとする場合勘定方に金子を上納して江戸で為替を渡すようにするらしいのだ・意図不明・金を藩に集中しようとしているのか）
1757年　12月3日 宝暦7年　10月22日 快晴（人事異動）
1757年　12月4日 宝暦7年　10月23日 快晴
1757年　12月5日 宝暦7年　10月24日 快晴
1757年　12月6日 宝暦7年　10月25日 快晴
1757年　12月7日 宝暦7年　10月26日 曇
1757年　12月8日 宝暦7年　10月27日 曇　昨夜中の雨巳の中刻まて　それより晴
1757年　12月9日 宝暦7年　10月28日 曇
1757年 12月10日 宝暦7年　10月29日 曇　昨夜中より今朝まて小雪
1757年 12月11日 宝暦7年　　11月1日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日終日
1757年 12月12日 宝暦7年　　11月2日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日終日
1757年 12月13日 宝暦7年　　11月3日 快晴　午の刻時々雪
1757年 12月14日 宝暦7年　　11月4日 曇　昨夜中よりの雪　今日終日大雪吹
1757年 12月15日 宝暦7年　　11月5日 曇　昨夜中の雪今日終日
1757年 12月16日 宝暦7年　　11月6日 曇　時々雪
1757年 12月17日 宝暦7年　　11月7日 快晴
1757年 12月18日 宝暦7年　　11月8日 曇　今朝時々小雪
1757年 12月19日 宝暦7年　　11月9日 曇　未の刻より時々雪
1757年 12月20日 宝暦7年　11月10日 曇　今朝より時々雪
1757年 12月21日 宝暦7年　11月11日 快晴　申の刻より小雪
1757年 12月22日 宝暦7年　11月12日 曇　今朝より時々雪
1757年 12月23日 宝暦7年　11月13日 曇　時々雪
1757年 12月24日 宝暦7年　11月14日 快晴
1757年 12月25日 宝暦7年　11月15日 曇　昨夜中の水雪今朝に及ぶ　今日終日　昨夜戌の刻雷三・四度発す
1757年 12月26日 宝暦7年　11月16日 陰晴
1757年 12月27日 宝暦7年　11月17日 晴
1757年 12月28日 宝暦7年　11月18日 快晴　申の刻より酉の刻まて小雨
1757年 12月29日 宝暦7年　11月19日 快晴
1757年 12月30日 宝暦7年　11月20日 曇　巳の刻より雨
1757年 12月31日 宝暦7年　11月21日 曇　巳の刻より雨（御掃除・御貸馬屋小人に5人採用（4尺8寸5歩・5尺2寸5歩～5尺4寸2歩）

1758年　1月1日 宝暦7年　11月22日 曇　終日雪降る
1758年　1月2日 宝暦7年　11月23日 快晴
1758年　1月3日 宝暦7年　11月24日 快晴
1758年　1月4日 宝暦7年　11月25日 曇　昨夜中雨
1758年　1月5日 宝暦7年　11月26日 曇　終日雪降る （御献上の鱈がそろった）
1758年　1月6日 宝暦7年　11月27日 曇　時々雪 （松前で御先代様の御法事で牢舎から12人放免・額の内に突き阿さ有・見かけたら詮議し他国者は本国・御国者は出所に返すようにする）
1758年　1月7日 宝暦7年　11月28日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1758年　1月8日 宝暦7年　11月29日 曇　終日雪
1758年　1月9日 宝暦7年　11月30日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ
1758年　1月10日 宝暦7年　12月1日 晴
1758年　1月11日 宝暦7年　12月2日 快晴
1758年　1月12日 宝暦7年　12月3日 快晴
1758年　1月13日 宝暦7年　12月4日 曇　時々雪 （誰かさん（玄圭院様）の13回忌の法事に関する大赦で13人出牢）
1758年　1月14日 宝暦7年　12月5日 陰晴 （蔦の者5人（5尺3寸5歩～5尺5寸7歩）新規召抱え）
1758年　1月15日 宝暦7年　12月6日 曇　時々雪
1758年　1月16日 宝暦7年　12月7日 曇　時々小雪
1758年　1月17日 宝暦7年　12月8日 曇　時々雪
1758年　1月18日 宝暦7年　12月9日 快晴　未の刻より雪
1758年　1月19日 宝暦7年　12月10日 曇　終日雪　暮れ頃より大吹雪
1758年　1月20日 宝暦7年　12月11日 曇　終日雪
1758年　1月21日 宝暦7年　12月12日 曇　終日雪
1758年　1月22日 宝暦7年　12月13日 快晴　未の中刻小雨
1758年　1月23日 宝暦7年　12月14日 曇　終日雪
1758年　1月24日 宝暦7年　12月15日 陰晴
1758年　1月25日 宝暦7年　12月16日 晴　朝の内雪吹
1758年　1月26日 宝暦7年　12月17日 晴
1758年　1月27日 宝暦7年　12月18日 曇　終日雪
1758年　1月28日 宝暦7年　12月19日 曇　終日雪
1758年　1月29日 宝暦7年　12月20日 曇　時々雪
1758年　1月30日 宝暦7年　12月21日 陰晴
1758年　1月31日 宝暦7年　12月22日 曇　時々風立つ
1758年　2月1日 宝暦7年　12月23日 曇　時々小雨
1758年　2月2日 宝暦7年　12月24日 曇　時々雪
1758年　2月3日 宝暦7年　12月25日 曇　終日雪
1758年　2月4日 宝暦7年　12月26日 晴
1758年　2月5日 宝暦7年　12月27日 曇　終日雪
1758年　2月6日 宝暦7年　12月28日 晴　朝の内少し雪
1758年　2月7日 宝暦7年　12月29日 快晴　昨夜亥の刻地震
1758年　2月8日 宝暦8年　正月1日　快晴　朝の内小雪
1758年　2月9日 宝暦8年　正月2日　快晴
1758年　2月10日 宝暦8年　正月3日　曇　巳の中刻頃より時々雪
1758年　2月11日 宝暦8年　正月4日　曇　時々雪
1758年　2月12日 宝暦8年　正月5日　快晴
1758年　2月13日 宝暦8年　正月6日　なし（日記はあるが天気の記述なし）
1758年　2月14日 宝暦8年　正月7日　快晴
1758年　2月15日 宝暦8年　正月8日　快晴　昨夜中雪
1758年　2月16日 宝暦8年　正月9日　快晴
1758年　2月17日 宝暦8年　正月10日　快晴
1758年　2月18日 宝暦8年　正月11日　陰晴　夜中より時々小雪　終日に及ぶ
1758年　2月19日 宝暦8年　正月12日　曇　時々雪
1758年　2月20日 宝暦8年　正月13日　晴　酉の刻過ぎより小雨　夜中時々
1758年　2月21日 宝暦8年　正月14日　曇　今暁より辰の刻まて小雨
1758年　2月22日 宝暦8年　正月15日　晴　朝の内雪
1758年　2月23日 宝暦8年　正月16日　快晴　今朝卯の刻過ぎより辰の刻頃まて小雨
1758年　2月24日 宝暦8年　正月17日　晴
1758年　2月25日 宝暦8年　正月18日　曇　今朝より雪尺余降 （江戸で3日御謡初）
1758年　2月26日 宝暦8年　正月19日　曇　今朝より時々雪
1758年　2月27日 宝暦8年　正月20日　曇　終日小雪
1758年　2月28日 宝暦8年　正月21日　快晴　午の刻少しの内地震 （借貸利足の儀2歩2割の御定め・当寅の年（宝暦8年）より来々辰の年（宝暦10年）まて3ヵ年のうち3歩に3割まて相対次第とする）

1758年　3月1日 宝暦8年 正月22日　晴　今日初雁渡る
1758年　3月2日 宝暦8年 正月23日　晴　夜中雨
1758年　3月3日 宝暦8年 正月24日　快晴
1758年　3月4日 宝暦8年 正月25日　曇　今朝より水雪
1758年　3月5日 宝暦8年 正月26日　晴
1758年　3月6日 宝暦8年 正月27日　晴　風少々立つ
1758年　3月7日 宝暦8年 正月28日　快晴　余寒強　申の刻より水雪
1758年　3月8日 宝暦8年 正月29日　晴　昨夜中雨　（先年呂宋国に漂着した船の乗員で帰りたくない者6人あり・内1人が小泊村の長松・その妻子・親類は切支丹類族扱いとする）
1758年　3月9日 宝暦8年 正月30日　曇　時々雪
1758年　3月10日 宝暦8年　2月1日 快晴　（人事異動）
1758年　3月11日 宝暦8年　2月2日 快晴
1758年　3月12日 宝暦8年　2月3日 快晴
1758年　3月13日 宝暦8年　2月4日 曇
1758年　3月14日 宝暦8年　2月5日 曇
1758年　3月15日 宝暦8年　2月6日 快晴
1758年　3月16日 宝暦8年　2月7日 快晴
1758年　3月17日 宝暦8年　2月8日 快晴
1758年　3月18日 宝暦8年　2月9日 晴
1758年　3月19日 宝暦8年　2月10日 晴
1758年　3月20日 宝暦8年　2月11日 快晴
1758年　3月21日 宝暦8年　2月12日 曇　今暁寅の刻より雨　辰の刻まで　丑の刻過ぎ地震　（御用人森岡金吾に一粒金丹5粒）
1758年　3月22日 宝暦8年　2月13日 曇　今朝少しの内小雪
1758年　3月23日 宝暦8年　2月14日 陰晴
1758年　3月24日 宝暦8年　2月15日 曇　今晩子の刻より雨時々
1758年　3月25日 宝暦8年　2月16日 晴　（2月12日昼九時より十三潟の氷明ける）
1758年　3月26日 宝暦8年　2月17日 快晴
1758年　3月27日 宝暦8年　2月18日 快晴
1758年　3月28日 宝暦8年　2月19日 晴　朝の内曇　昼過ぎ雨婦る（昼過ぎ雨降る）
1758年　3月29日 宝暦8年　2月20日 曇　終日水雪　夜中に及ぶ
1758年　3月30日 宝暦8年　2月21日 快晴　（5人出牢：足羽姓が2人）
1758年　3月31日 宝暦8年　2月22日 快晴
1758年　4月1日 宝暦8年　2月23日 快晴　（御手廻矢城庄左衛門（昨年10月9日に江戸から縄駕籠で着いた）の半知召上げ御留守居組に）
1758年　4月2日 宝暦8年　2月24日 曇　朝の内小雨
1758年　4月3日 宝暦8年　2月25日 曇
1758年　4月4日 宝暦8年　2月26日 快晴　朝の内四方一円霞　（切支丹類族扱いの小泊村の長松の従弟が14日に死亡ししっかり検分している）
1758年　4月5日 宝暦8年　2月27日 陰晴
1758年　4月6日 宝暦8年　2月28日 快晴　昨夜子の刻より雨　今朝巳の刻頃まで　それより快晴
1758年　4月7日 宝暦8年　2月29日 快晴　今暁霜大分見る
1758年　4月8日 宝暦8年　3月1日 快晴
1758年　4月9日 宝暦8年　3月2日 曇　終日小雨
1758年　4月10日 宝暦8年　3月3日 曇　終日小雨
1758年　4月11日 宝暦8年　3月4日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日終日
1758年　4月12日 宝暦8年　3月5日 晴
1758年　4月13日 宝暦8年　3月6日 陰晴　卯の中刻より小雨
1758年　4月14日 宝暦8年　3月7日 曇　昨夜中雨　卯の中刻雷発す
1758年　4月15日 宝暦8年　3月8日 快晴　午の刻より曇　酉の刻より夜中雨
1758年　4月16日 宝暦8年　3月9日 快晴
1758年　4月17日 宝暦8年　3月10日 陰晴　昨夜中風雨　雷三四度強く発す　（去る九日乳井左市郎の側務め御免・御国下がりを仰せ付ける）
1758年　4月18日 宝暦8年　3月11日 快晴　（昨夜親方町で夫婦が脇差で死亡）
1758年　4月19日 宝暦8年　3月12日 快晴
1758年　4月20日 宝暦8年　3月13日 快晴
1758年　4月21日 宝暦8年　3月14日 曇　昨夜中雨
1758年　4月22日 宝暦8年　3月15日 晴　朝の内雨
1758年　4月23日 宝暦8年　3月16日 晴　終日雨風
1758年　4月24日 宝暦8年　3月17日 陰晴　丑の刻地震　（乳井貢が去月17日大坂表を出立し昨夜中到着・御家老棟方十左衛門宅で退役の申し渡し・出座多数40人ほど）
1758年　4月25日 宝暦8年　3月18日 曇　今暁より雨時々
1758年　4月26日 宝暦8年　3月19日 曇　昨夜中より時々小雨　今日終日　（黒石より米5000石の津出願い）
1758年　4月27日 宝暦8年　3月20日 曇
1758年　4月28日 宝暦8年　3月21日 曇　終日雨
1758年　4月29日 宝暦8年　3月22日 快晴　朝の内曇　時々風立つ
1758年　4月30日 宝暦8年　3月23日 快晴　今日西風立つ

1758年　5月1日 宝暦8年　3月24日 快晴
1758年　5月2日 宝暦8年　3月25日 陰晴
1758年　5月3日 宝暦8年　3月26日 快晴
1758年　5月4日 宝暦8年　3月27日 快晴
1758年　5月5日 宝暦8年　3月28日 快晴 （ミニ人事異動）
1758年　5月6日 宝暦8年　3月29日 晴
1758年　5月7日 宝暦8年　4月1日 陰晴 （3月21日より29日までの碇関口御関所出人都合244人：他国者20人・御国人224人）
1758年　5月8日 宝暦8年　4月2日 曇
1758年　5月9日 宝暦8年　4月3日 曇　今朝より時々小雨　未の刻より申の刻過ぎまて大風
1758年　5月10日 宝暦8年　4月4日 曇　昨夜中より時々雨　寅の刻過ぎより卯の中刻まで大風　今日も終日風雨
1758年　5月11日 宝暦8年　4月5日 陰晴　今朝卯の中刻雨　西の方に虹見る
1758年　5月12日 宝暦8年　4月6日 快晴　坤之風吹（未申の風吹く）
1758年　5月13日 宝暦8年　4月7日 晴
1758年　5月14日 宝暦8年　4月8日 快晴
1758年　5月15日 宝暦8年　4月9日 快晴
1758年　5月16日 宝暦8年　4月10日 晴　昨夜中雨　巳の刻まて曇　朝の内風立つ
1758年　5月17日 宝暦8年　4月11日 快晴 （野内領で六十六部見当てる・秋田領の者とのことで碇関口まで村送りで返す）
1758年　5月18日 宝暦8年　4月12日 快晴
1758年　5月19日 宝暦8年　4月13日 快晴
1758年　5月20日 宝暦8年　4月14日 曇　今朝卯の中刻雷発す　終日雨 （佐竹右京太夫御逝去に付き使者（御持筒者頭）吉村場左衛門・供の人数16人の編成もある）
1758年　5月21日 宝暦8年　4月15日 曇　午の刻少しの内小雨
1758年　5月22日 宝暦8年　4月16日 晴　朝の内曇
1758年　5月23日 宝暦8年　4月17日 快晴
1758年　5月24日 宝暦8年　4月18日 晴
1758年　5月25日 宝暦8年　4月19日 快晴
1758年　5月26日 宝暦8年　4月20日 快晴
1758年　5月27日 宝暦8年　4月21日 曇　東風終日立つ　時々小雨　東の方虹見る
1758年　5月28日 宝暦8年　4月22日 晴　時々風立つ
1758年　5月29日 宝暦8年　4月23日 陰晴　昨夜中風強く吹く
1758年　5月30日 宝暦8年　4月24日 快晴　朝の内寒　辰の中刻雨
1758年　5月31日 宝暦8年　4月25日 晴　昨夜中風　今日も終日
1758年　6月1日 宝暦8年　4月26日 快晴
1758年　6月2日 宝暦8年　4月27日 快晴
1758年　6月3日 宝暦8年　4月28日 快晴
1758年　6月4日 宝暦8年　4月29日 快晴
1758年　6月5日 宝暦8年　4月30日 快晴
1758年　6月6日 宝暦8年　5月1日 快晴 （4月朔日より晦日まで御関所出人都合173人：碇関出人170人（御印紙出104・切手紙出66）・野内出人3人（御印紙出1・切手紙出2）、来る29日屋形様御発駕と仰せ出される）
1758年　6月7日 宝暦8年　5月2日 快晴 （早瀬野に山火事）
1758年　6月8日 宝暦8年　5月3日 陰晴　未の刻過ぎより雨降　雷発す
1758年　6月9日 宝暦8年　5月4日 曇　昨夜中雨　今朝卯の刻過ぎまて　午の刻より晴　未の刻より時々小雨　東の方虹見える
1758年　6月10日 宝暦8年　5月5日 快晴
1758年　6月11日 宝暦8年　5月6日 陰晴　暁方少々雨　未の刻過ぎ小雨 （この度在々用水不足に付き大円寺に御祈祷仰せ付ける）
1758年　6月12日 宝暦8年　5月7日 快晴　卯の刻雨　則刻止む　辰の刻過ぎ右同断（「辰の刻過ぎ雨　則刻止む」の意）
1758年　6月13日 宝暦8年　5月8日 快晴　未申の方より風吹く （御下向の御関札打ちが昼頃到着）
1758年　6月14日 宝暦8年　5月9日 快晴
1758年　6月15日 宝暦8年　5月10日 陰晴　昨夜中雨　今朝卯の中刻頃まて　同刻雷発す
1758年　6月16日 宝暦8年　5月11日 曇
1758年　6月17日 宝暦8年　5月12日 陰晴　巳の刻過ぎ地震
1758年　6月18日 宝暦8年　5月13日 曇　昨夜中時々小雨　今朝霧
1758年　6月19日 宝暦8年　5月14日 曇　巳の中刻過ぎより快晴　午の刻より大雷
1758年　6月20日 宝暦8年　5月15日 陰晴　今朝辰の刻過ぎより霧　午の刻過ぎより雨
1758年　6月21日 宝暦8年　5月16日 快晴
1758年　6月22日 宝暦8年　5月17日 快晴
1758年　6月23日 宝暦8年　5月18日 曇　卯の中刻より雨 （屋形様は去月29日御発駕・今日八時過ぎ御着城）
1758年　6月24日 宝暦8年　5月19日 曇　昨夜中より今日終日雨
1758年　6月25日 宝暦8年　5月20日 曇
1758年　6月26日 宝暦8年　5月21日 快晴
1758年　6月27日 宝暦8年　5月22日 曇　巳の中刻より雷発す　未の刻過ぎ止む　同下刻より度々雷発す
1758年　6月28日 宝暦8年　5月23日 曇　巳の刻少々雨降る
1758年　6月29日 宝暦8年　5月24日 快晴
1758年　6月30日 宝暦8年　5月25日 快晴

1758年　7月1日 宝暦8年　5月26日 陰晴　朝の内霧 （牢内の足羽次郎三郎を追放）
1758年　7月2日 宝暦8年　5月27日 快晴
1758年　7月3日 宝暦8年　5月28日 快晴　朝の内霧四方一円　辰の刻晴
1758年　7月4日 宝暦8年　5月29日 快晴
1758年　7月5日 宝暦8年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合217人：碇関208人（御印紙出165・切手紙出43）・野内9人（御印紙出8・切手紙出1））
1758年　7月6日 宝暦8年　6月2日 快晴
1758年　7月7日 宝暦8年　6月3日 晴　未の刻より陰晴　申の刻より曇　小雨　同刻西の方に虹見ユル （御着城御祝儀の御能・狂言）
1758年　7月8日 宝暦8年　6月4日 快晴　午の刻雷　未の刻大雨
1758年　7月9日 宝暦8年　6月5日 曇　未の刻より時々雨
1758年　7月10日 宝暦8年　6月6日 晴　朝の内曇
1758年　7月11日 宝暦8年　6月7日 曇　巳の刻より晴
1758年　7月12日 宝暦8年　6月8日 陰晴
1758年　7月13日 宝暦8年　6月9日 晴　午の中刻k祖雨　早刻止む （人事異動、福眞弥兵衛（郡所小頭）を御中小姓格に勤料1人扶持）
1758年　7月14日 宝暦8年　6月10日 曇　朝の内霧
1758年　7月15日 宝暦8年　6月11日 陰晴　朝の内曇
1758年　7月16日 宝暦8年　6月12日 陰晴　午の刻前より快晴になる
1758年　7月17日 宝暦8年　6月13日 曇　辰の中刻より雨　巳の刻より晴
1758年　7月18日 宝暦8年　6月14日 快晴　朝の内曇　申の刻より小雨
1758年　7月19日 宝暦8年　6月15日 曇　今朝より雨 （御用人高倉五兵衛を御家老に、人事小異動）
1758年　7月20日 宝暦8年　6月16日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1758年　7月21日 宝暦8年　6月17日 曇
1758年　7月22日 宝暦8年　6月18日 快晴
1758年　7月23日 宝暦8年　6月19日 晴
1758年　7月24日 宝暦8年　6月20日 曇　今暁より雨　終日
1758年　7月25日 宝暦8年　6月21日 曇　巳の刻より陰晴 （打ち続き天気勝たず岩木嵩への湯治人引き取る）
1758年　7月26日 宝暦8年　6月22日 晴
1758年　7月27日 宝暦8年　6月23日 晴 （大鰐村の兵左衛門と加賀助より初米の出穂差し上げる）
1758年　7月28日 宝暦8年　6月24日 曇　巳の刻より陰晴
1758年　7月29日 宝暦8年　6月25日 陰晴
1758年　7月30日 宝暦8年　6月26日 曇　大暑
1758年　7月31日 宝暦8年　6月27日 陰晴
1758年　8月1日 宝暦8年　6月28日 快晴
1758年　8月2日 宝暦8年　6月29日 快晴
1758年　8月3日 宝暦8年　6月30日 晴　大暑　酉の刻より稲光度々
1758年　8月4日 宝暦8年　7月1日 快晴　雷二度発す （6月中所々御関所出人都合126人：碇関120人（御印紙出87・切手紙出33）・野内6人（御印紙出3・切手紙出3））
1758年　8月5日 宝暦8年　7月2日 晴
1758年　8月6日 宝暦8年　7月3日 快晴 （乳井貢が俵子100俵御留守居組に下がった乳井左市郎にお預け）
1758年　8月7日 宝暦8年　7月4日 快晴　今暁小雨　雷度々発す
1758年　8月8日 宝暦8年　7月5日 晴
1758年　8月9日 宝暦8年　7月6日 快晴　朝の内霧
1758年　8月10日 宝暦8年　7月7日 快晴
1758年　8月11日 宝暦8年　7月8日 快晴　未の刻雷発す
1758年　8月12日 宝暦8年　7月9日 快晴　未の刻より申の刻まで大雨
1758年　8月13日 宝暦8年　7月10日 快晴　未の刻少し雨　則刻止む （大鰐村・浅虫村より初米差し上げる）
1758年　8月14日 宝暦8年　7月11日 陰晴　午の刻小雨　則刻止む
1758年　8月15日 宝暦8年　7月12日 陰晴　今暁より辰の刻まで雨
1758年　8月16日 宝暦8年　7月13日 快晴 （今10日金木新田田茂木村で火災・火元村預け）
1758年　8月17日 宝暦8年　7月14日 晴
1758年　8月18日 宝暦8年　7月15日 晴
1758年　8月19日 宝暦8年　7月16日 曇　巳の刻より風雨　雷発す （御膳番須藤五郎太夫に一粒金丹3粒）
1758年　8月20日 宝暦8年　7月17日 晴
1758年　8月21日 宝暦8年　7月18日 快晴
1758年　8月22日 宝暦8年　7月19日 晴
1758年　8月23日 宝暦8年　7月20日 快晴
1758年　8月24日 宝暦8年　7月21日 曇　巳の刻より雨 （人事異動）
1758年　8月25日 宝暦8年　7月22日 曇　巳の中刻小雨 （西の郭で相撲高覧）
1758年　8月26日 宝暦8年　7月23日 曇　巳の刻より雨
1758年　8月27日 宝暦8年　7月24日 晴 （今日も西の郭で相撲高覧）
1758年　8月28日 宝暦8年　7月25日 快晴
1758年　8月29日 宝暦8年　7月26日 快晴 （江戸登りの御家老棟方十左衛門に一粒金丹30粒・熊胆一つ、鉛を御蔵から盗み出し売った男5人追放）
1758年　8月30日 宝暦8年　7月27日 快晴 （三上傳八に一粒金丹3粒）
1758年　8月31日 宝暦8年　7月28日 快晴

1758年　9月1日 宝暦8年　7月29日 快晴　東の方虹見る
1758年　9月2日 宝暦8年　8月1日 曇　今晩雷稲光度々　未の刻大雨雷発す則刻止む　南の方虹見る （7月中所々御関所出人合170人：碇関161人（御印紙123・切手紙38）・大間越2人（御印紙）野内7人（御印紙5・切手紙2））
1758年　9月3日 宝暦8年　8月2日 陰晴 （御手廻木村専次郎に一粒金丹3粒）　下から続く　已上六ヶ一、15俵（石の誤りか）・20俵・3両2歩已上七ヶ一、10石・10俵・2両2歩已上八ヶ一、8石・7俵　下の欄外(*)に続く
1758年　9月4日 宝暦8年　8月3日 曇　未の刻より時々雨降 （御家中御借り米仰せ付けの割合：百石・105俵・15両已上三ヶ一、50石・100俵・10両已上四ヶ一、35石・50俵・7両2歩已上五ヶ一、25石・30俵・5両　上に続く
1758年　9月5日 宝暦8年　8月4日 陰晴　未の刻村雨　同刻東の方虹見る
1758年　9月6日 宝暦8年　8月5日 陰晴 （今晩和徳辺り江御鷹野御風呂屋口より御出で遊ばされ候）
1758年　9月7日 宝暦8年　8月6日 曇　時々雨　辰の刻西の方虹見る （京都本国寺より足羽次郎三郎父子の助命願いが出ている、御軍用金（半分御用捨する）・時鐘茂合は古来の通り上納するようにする）
1758年　9月8日 宝暦8年　8月7日 曇　昨夜中雨
1758年　9月9日 宝暦8年　8月8日 曇　終日雨降 （三上傳八に一粒金丹3粒）
1758年　9月10日 宝暦8年　8月9日 快晴　午の刻より曇　申の中刻より酉の上刻頃まで大雨 （野呂某に一粒金丹3粒）
1758年　9月11日 宝暦8年　8月10日 晴　辰の中刻より時々小雨降
1758年　9月12日 宝暦8年　8月11日 晴　未の中刻より風雨
1758年　9月13日 宝暦8年　8月12日 曇　時々雨夜中強し
1758年　9月14日 宝暦8年　8月13日 快晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ　辰の刻より晴
1758年　9月15日 宝暦8年　8月14日 晴 （平沢某に一粒金丹3粒）
1758年　9月16日 宝暦8年　8月15日 曇　今暁丑の刻より大雨　未の刻止む （今日雨天に付き八幡御祭礼相止む）
1758年　9月17日 宝暦8年　8月16日 曇　申の刻より雨強し　夜中に及ぶ （八幡宮御祭礼）
1758年　9月18日 宝暦8年　8月17日 曇 （山田彦兵衛を御用人などの人事異動、白取数馬に一粒金丹3粒、御運送役から大坂表に一粒金丹等の願い・一粒金丹20粒熊胆三つ下し置かれる）
1758年　9月19日 宝暦8年　8月18日 曇　時々小雨　夜半頃雷度々発す　稲光度々 （大円寺で日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1758年　9月20日 宝暦8年　8月19日 曇　今日より彼岸　朝の内小雨降
1758年　9月21日 宝暦8年　8月20日 曇
1758年　9月22日 宝暦8年　8月21日 曇
1758年　9月23日 宝暦8年　8月22日 曇　終日雨降 （御用人沢与左衛門に一粒金丹10粒）
1758年　9月24日 宝暦8年　8月23日 曇　辰の刻まで小雨降
1758年　9月25日 宝暦8年　8月24日 曇 （乳井左市郎に遠慮御免）
1758年　9月26日 宝暦8年　8月25日 曇　卯の刻前雨降
1758年　9月27日 宝暦8年　8月26日 陰晴
1758年　9月28日 宝暦8年　8月27日 快晴
1758年　9月29日 宝暦8年　8月28日 曇
1758年　9月30日 宝暦8年　8月29日 晴　午の刻少し雨降 （去る20日平岡町洪水・平岡町後通の欠け崩れを防ぎ褒美）
1758年　10月1日 宝暦8年　8月30日 快晴　今朝子の刻前地震
1758年　10月2日 宝暦8年　9月1日 陰晴 （8月中所々御関所出人都合149人：碇関137人（御印紙出121・切手紙出26）・大間越2人（御印紙））
1758年　10月3日 宝暦8年　9月2日 快晴 （深浦入船中の羽州船の乗客病死）
1758年　10月4日 宝暦8年　9月3日 快晴 （中崎辺り江御鷹野・四時過ぎ御風呂屋口より御出で遊ばされる）
1758年　10月5日 宝暦8年　9月4日 曇　昨夜中より終日小雨　午の刻過ぎ雷発す
1758年　10月6日 宝暦8年　9月5日 快晴　昨夜中雨　今晩（暁の間違いか）寅の刻大雨　午の刻より小雨
1758年　10月7日 宝暦8年　9月6日 陰晴
1758年　10月8日 宝暦8年　9月7日 陰晴　昨夜中雨
1758年　10月9日 宝暦8年　9月8日 快晴
1758年 10月10日 宝暦8年　9月9日 曇　辰の刻より時々小雨　亥の刻少し前地震　申の刻過ぎ東の方虹見る
1758年 10月11日 宝暦8年　9月10日 陰晴
1758年 10月12日 宝暦8年　9月11日 曇　昨夜中より雨　午の刻過ぎ地震 （西の郭で御家中の射術高覧のはずが雨天で延引）
1758年 10月13日 宝暦8年　9月12日 陰晴　今朝岩木山初雪見る　夜中雨丸雪　下から続く　昨11日薄市村で婿（36歳せい5尺位）が女房ののどを鎌で切り欠落ち）
1758年 10月14日 宝暦8年　9月13日 快晴 （3月に抜け参りで伊勢参宮の石沢村の女房が秋田領前山村で病死・同人弟を前山村に派遣・路銀と関係者への礼として金子3歩下し置かれる：抜け参りに暖かい対応だな、　上に続く
1758年 10月15日 宝暦8年　9月14日 快晴
1758年 10月16日 宝暦8年　9月15日 快晴
1758年 10月17日 宝暦8年　9月16日 曇　朝の内風　巳の中刻雨　則止む
1758年 10月18日 宝暦8年　9月17日 陰晴　昨夜中小雨 （当年より3ヶ年御手繰りのため御借り米：高50石・俵子100俵・20人扶持・金20両以上は四ヶ一引き）
1758年 10月19日 宝暦8年　9月18日 曇　昨夜中雨　雷度々発す　今朝岩木山雪　今日時々小雨 （13日青森安方町の鮭つり船から海中に落ち1人行方不明）
1758年 10月20日 宝暦8年　9月19日 晴
1758年 10月21日 宝暦8年　9月20日 晴　昨夜中雨 （西の郭で射術高覧）
1758年 10月22日 宝暦8年　9月21日 快晴
1758年 10月23日 宝暦8年　9月22日 快晴　夜に入り曇 （今日五時お供揃えにて中崎村辺り江御鷹野に御出であそばされ候）
1758年 10月24日 宝暦8年　9月23日 曇　昨夜中の雨　今日も終日雨
1758年 10月25日 宝暦8年　9月24日 晴　昨夜中より今朝まて　雨夜中雷発す （御金300疋頂戴して秋田領前山に派遣された死者の弟が帰る）
1758年 10月26日 宝暦8年　9月25日 陰晴　辰の刻頃小雨
1758年 10月27日 宝暦8年　9月26日 曇　巳の刻より雨終日 （永の御暇2人（翌日の記事で御手廻と御馬廻））
1758年 10月28日 宝暦8年　9月27日 曇　終日雨　昨夜中雷雨度々
1758年 10月29日 宝暦8年　9月28日 曇　時々雨
1758年 10月30日 宝暦8年　9月29日 陰晴　昨夜中小雨 （古来の通り来る10月朔日より銭60文を1文目と定め）
1758年 10月31日 宝暦8年　9月30日 曇　昨夜中より雨　今朝雷発す　午の刻前丸雪

(*) ・1両1歩已上九ヶ一、右（本書では左の意）已下十ヶ一、御目見以下では40俵以上七ヶ一・30俵已上八ヶ一・20俵已上九ヶ一・右（本書では左）已下拾ヶ一）

1758年　11月1日 宝暦8年　　10月1日 曇　昨夜中時々小雨　今朝四方近山まて雪見る （9月中所々御関所出人都合148人：碇関130人（御印紙出71・切手紙出31）・野内9人（御印紙出6・切手紙出3）・三馬屋湊口13人・大間越3人）
1758年　11月2日 宝暦8年　　10月2日 陰晴
1758年　11月3日 宝暦8年　　10月3日 曇　昨夜中雨　今朝まて （南の方に御鷹野御出での節は御表より・東北御門より御出での節は御風呂屋口から御出で遊ばされるようにする）
1758年　11月4日 宝暦8年　　10月4日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日終日雨　巳の刻雷発す （四社に御祈祷を仰せ付ける）
1758年　11月5日 宝暦8年　　10月5日 晴　昨夜中より大雨　夜半に至り雷三四度発す
1758年　11月6日 宝暦8年　　10月6日 快晴　今朝大霜
1758年　11月7日 宝暦8年　　10月7日 曇　午の刻より時々小雨
1758年　11月8日 宝暦8年　　10月8日 晴　昨夜中雨　今朝辰の刻過ぎ小雨
1758年　11月9日 宝暦8年　　10月9日 曇　終日雪降る　尤も初雪なり
1758年 11月10日 宝暦8年　10月10日 晴
1758年 11月11日 宝暦8年　10月11日 晴
1758年 11月12日 宝暦8年　10月12日 晴　昨夜中の雪今朝五寸ほど　巳の刻前雷両度発す
1758年 11月13日 宝暦8年　10月13日 快晴
1758年 11月14日 宝暦8年　10月14日 陰晴
1758年 11月15日 宝暦8年　10月15日 曇
1758年 11月16日 宝暦8年　10月16日 陰晴
1758年 11月17日 宝暦8年　10月17日 曇　卯の刻過ぎ雷発す
1758年 11月18日 宝暦8年　10月18日 晴
1758年 11月19日 宝暦8年　10月19日 晴
1758年 11月20日 宝暦8年　10月20日 曇
1758年 11月21日 宝暦8年　10月21日 曇
1758年 11月22日 宝暦8年　10月22日 曇
1758年 11月23日 宝暦8年　10月23日 陰晴
1758年 11月24日 宝暦8年　10月24日 曇
1758年 11月25日 宝暦8年　10月25日 曇　終日小雪　戌の中刻地震
1758年 11月26日 宝暦8年　10月26日 快晴
1758年 11月27日 宝暦8年　10月27日 快晴
1758年 11月28日 宝暦8年　10月28日 快晴
1758年 11月29日 宝暦8年　10月29日 曇　今朝辰の刻前大雷発す　辰の刻過ぎより雨降
1758年 11月30日 宝暦8年　10月30日 陰晴
1758年　12月1日 宝暦8年　　11月1日 晴　朝の内快晴 （今晩御囃子、10月中所々御関所出人都合113人：碇関111人（御印紙出86・切手紙出25）・野内1人（御印紙出）・青森湊口1人（御印紙出））
1758年　12月2日 宝暦8年　　11月2日 曇 （土蔵破り盗みの瀬戸子村の男を弘前並びに居村（瀬戸子村）より五里追放、熊胆を松平宮内少輔様が所望・差登すようにする）
1758年　12月3日 宝暦8年　　11月3日 曇
1758年　12月4日 宝暦8年　　11月4日 曇　終日小雨
1758年　12月5日 宝暦8年　　11月5日 快晴
1758年　12月6日 宝暦8年　　11月6日 快晴　今朝大霜　未の中刻より曇　申の刻より雨　夜中に及ぶ
1758年　12月7日 宝暦8年　　11月7日 曇　昨夜中小雪　今日も終日小雪
1758年　12月8日 宝暦8年　　11月8日 陰晴　昨夜中小雪　今朝に及ぶ
1758年　12月9日 宝暦8年　　11月9日 曇　午の刻より時々雨
1758年 12月10日 宝暦8年　11月10日 曇　昨夜中より水雪　今日終日
1758年 12月11日 宝暦8年　11月11日 晴　昨夜中雪
1758年 12月12日 宝暦8年　11月12日 曇　昨夜中雪　今日終日に及ぶ （御用人笹森勘解由解任）
1758年 12月13日 宝暦8年　11月13日 快晴
1758年 12月14日 宝暦8年　11月14日 晴　卯の刻前辰の刻前小雨　則刻止む
1758年 12月15日 宝暦8年　11月15日 曇　今日終日雨　亥の刻前より雷度々
1758年 12月16日 宝暦8年　11月16日 曇　昨夜中雨　今暁に及ぶ　今日終日
1758年 12月17日 宝暦8年　11月17日 曇　夜中雪　今日に及ぶ （今晩御囃子）
1758年 12月18日 宝暦8年　11月18日 曇　今日も終日大雪
1758年 12月19日 宝暦8年　11月19日 陰晴
1758年 12月20日 宝暦8年　11月20日 快晴　暮れ頃より雨　酉の刻より稲光度々　子の刻頃雷発す
1758年 12月21日 宝暦8年　11月21日 曇　酉の刻より冬至に入る　今日時々雪
1758年 12月22日 宝暦8年　11月22日 曇　時々小雪　夜中風
1758年 12月23日 宝暦8年　11月23日 曇　時々雪
1758年 12月24日 宝暦8年　11月24日 曇　今日終日雪
1758年 12月25日 宝暦8年　11月25日 曇　今日時々小雪
1758年 12月26日 宝暦8年　11月26日 曇　朝より雪降る
1758年 12月27日 宝暦8年　11月27日 陰晴　今朝より雪時々
1758年 12月28日 宝暦8年　11月28日 曇　時々小雪　夜中大雪吹 （11月23日より24日昼九時まで十三潟が早川口まで残らず氷張る）
1758年 12月29日 宝暦8年　11月29日 曇　今日も終日雪
1758年 12月30日 宝暦8年　　12月1日 晴　未の刻より雷　則夜に及ぶ （11月中所々御関所出人都合104人：碇関96人（御印紙出78・切手紙出18）・野内8人（切手紙出）、御家中剣術高覧）
1758年 12月31日 宝暦8年　　12月2日 晴

1759年　1月1日 宝暦8年　12月3日 陰晴　時々小雪降
1759年　1月2日 宝暦8年　12月4日 陰晴
1759年　1月3日 宝暦8年　12月5日 晴　朝の内曇　辰の刻より巳の刻まて雨
1759年　1月4日 宝暦8年　12月6日 陰晴　昨夜中雨　今朝巳の刻まて
1759年　1月5日 宝暦8年　12月7日 曇　昨夜中より今日も終日雪　（御献上の鱈などが揃う、小泊村長松類族の内船家業のものは他所往来禁止・松前に行っていた者は呼び返す）
1759年　1月6日 宝暦8年　12月8日 晴　朝の内曇　雪時々
1759年　1月7日 宝暦8年　12月9日 曇　朝の内雪降る　（年始並びに諸御礼の差上物は代銭とする・太刀一腰3匁・束本（分からん）1通木台共に5匁・扇子（白木台共）3本入り1匁5分2本入り1匁・干鱈一折3枚入り1匁5分2枚1匁）
1759年　1月8日 宝暦8年　12月10日 曇　終日雪降る
1759年　1月9日 宝暦8年　12月11日 曇　昨夜中の雨今暁に及ぶ　今日雪終日降　（御献上の塩鱈高覧）
1759年　1月10日 宝暦8年　12月12日 曇
1759年　1月11日 宝暦8年　12月13日 陰晴
1759年　1月12日 宝暦8年　12月14日 曇　時々雪
1759年　1月13日 宝暦8年　12月15日 曇　時々小雪
1759年　1月14日 宝暦8年　12月16日 陰晴
1759年　1月15日 宝暦8年　12月17日 快晴
1759年　1月16日 宝暦8年　12月18日 快晴
1759年　1月17日 宝暦8年　12月19日 快晴
1759年　1月18日 宝暦8年　12月20日 曇　時々小雨　暖なり
1759年　1月19日 宝暦8年　12月21日 陰晴　昨夜中雪　今日午の刻まで　同刻より雪晴　（御能）
1759年　1月20日 宝暦8年　12月22日 曇
1759年　1月21日 宝暦8年　12月23日 終日風吹　雪降
1759年　1月22日 宝暦8年　12月24日 曇　昨夜中雪1尺積
1759年　1月23日 宝暦8年　12月25日 快晴
1759年　1月24日 宝暦8年　12月26日 快晴
1759年　1月25日 宝暦8年　12月27日 曇
1759年　1月26日 宝暦8年　12月28日 曇
1759年　1月27日 宝暦8年　12月29日 陰晴
1759年　1月28日 宝暦8年　12月30日 晴　未の刻頃より丸雪
1759年　1月29日 宝暦9年　正月1日　晴
1759年　1月30日 宝暦9年　正月2日　快晴
1759年　1月31日 宝暦9年　正月3日　快晴　（御謡初）
1759年　2月1日 宝暦9年　正月4日　陰晴
1759年　2月2日 宝暦9年　正月5日　晴　（大鰐より七種差上げる）
1759年　2月3日 宝暦9年　正月6日　快晴　未の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1759年　2月4日 宝暦9年　正月7日　曇　今朝辰の刻より小雪時々
1759年　2月5日 宝暦9年　正月8日　快晴
1759年　2月6日 宝暦9年　正月9日　曇　朝の内快晴　辰の中刻より雪
1759年　2月7日 宝暦9年　正月10日　曇　昨夜中風雪
1759年　2月8日 宝暦9年　正月11日　陰晴　（人事異動、今日御具足餅御祝）
1759年　2月9日 宝暦9年　正月12日　晴　午の刻過ぎ小雪少しの内　（御能・狂言）
1759年　2月10日 宝暦9年　正月13日　陰晴　時々雪降
1759年　2月11日 宝暦9年　正月14日　陰晴　今朝より時々雪
1759年　2月12日 宝暦9年　正月15日　陰晴　朝の内雪吹　昨夜雪吹　寒強し
1759年　2月13日 宝暦9年　正月16日　曇　終日時々雪降　寒強し　　下から続く　　・役所の建物帳面等焼失・1人焼死）
1759年　2月14日 宝暦9年　正月17日　晴　午の刻過ぎ小雪　（12月中所々御関所出人都合103人：碇関101人（御印紙出82・切手紙出19）・野内2人（切手紙出）、昨14日明七つ時油川組代官役所（7間×4間半）出火　　上に続く
1759年　2月15日 宝暦9年　正月18日　陰晴
1759年　2月16日 宝暦9年　正月19日　陰晴
1759年　2月17日 宝暦9年　正月20日　快晴　（当年は百姓共仮子奉公人が払底・松前に鯡漁に行っている：関所を通らずに出られたのかなあ）
1759年　2月18日 宝暦9年　正月21日　快晴
1759年　2月19日 宝暦9年　正月22日　快晴　（白取数馬に一粒金丹3粒）
1759年　2月20日 宝暦9年　正月23日　晴
1759年　2月21日 宝暦9年　正月24日　晴　申の刻より小雪　夜中に及ぶ
1759年　2月22日 宝暦9年　正月25日　曇　昨夜中少し雪　今暁に及ぶ　今日小雪吹
1759年　2月23日 宝暦9年　正月26日　晴　今朝より時々雪　（去る12月12日に弘前を出た御献上の鱈が29日に道中越堀村の火災で焼失）
1759年　2月24日 宝暦9年　正月27日　曇　昨夜中の雪今日に及ぶ　時々小雪
1759年　2月25日 宝暦9年　正月28日　曇　昨夜中雪六七寸降　今日も終日雪婦る
1759年　2月26日 宝暦9年　正月29日　曇　昨夜より終日雪降
1759年　2月27日 宝暦9年　2月1日 快晴　（正月中所々御関所出人?人：碇関61人（御印紙出43・切手紙出18）・野内1人（御印紙出）、御慰の御囃子）
1759年　2月28日 宝暦9年　2月2日 快晴

1759年　3月1日 宝暦9年　2月3日 快晴 （鑓術高覧）
1759年　3月2日 宝暦9年　2月4日 快晴
1759年　3月3日 宝暦9年　2月5日 快晴
1759年　3月4日 宝暦9年　2月6日 快晴
1759年　3月5日 宝暦9年　2月7日 陰晴　未の刻過ぎ雨
1759年　3月6日 宝暦9年　2月8日 曇　昼頃より晴 （御発駕を来月12日と仰せ出される）
1759年　3月7日 宝暦9年　2月9日 陰晴
1759年　3月8日 宝暦9年　2月10日 曇　昨夜中より今日終日雪降
1759年　3月9日 宝暦9年　2月11日 晴
1759年　3月10日 宝暦9年　2月12日 快晴　昨夜中小雪
1759年　3月11日 宝暦9年　2月13日 快晴
1759年　3月12日 宝暦9年　2月14日 陰晴　夜中雨　寅の刻過ぎ小雪
1759年　3月13日 宝暦9年　2月15日 晴
1759年　3月14日 宝暦9年　2月16日 曇　巳の刻過ぎより雪　朝の内快晴
1759年　3月15日 宝暦9年　2月17日 曇　昨夜中大雪吹　今日終日大雪吹
1759年　3月16日 宝暦9年　2月18日 快晴
1759年　3月17日 宝暦9年　2月19日 曇　時々雪
1759年　3月18日 宝暦9年　2月20日 陰晴　昨夜中小雪　今日午の中刻小雪　申の刻過ぎより大雪
1759年　3月19日 宝暦9年　2月21日 晴
1759年　3月20日 宝暦9年　2月22日 曇　昨夜中より小雪 （発駕御祝儀の御能四時過ぎ初まり夜四時に終わる・御運送役5人も出ている）
1759年　3月21日 宝暦9年　2月23日 晴　昨夜中小雪
1759年　3月22日 宝暦9年　2月24日 快晴
1759年　3月23日 宝暦9年　2月25日 快晴
1759年　3月24日 宝暦9年　2月26日 快晴 （永の御暇2人など）
1759年　3月25日 宝暦9年　2月27日 快晴 （今日御誕生日・御囃子）
1759年　3月26日 宝暦9年　2月28日 曇　今朝辰の刻より終日雨
1759年　3月27日 宝暦9年　2月29日 快晴
1759年　3月28日 宝暦9年　2月30日 曇　時々雪　午の刻より大風　則刻止む　未の刻又々大風　則刻過ぎ止む
1759年　3月29日 宝暦9年　3月1日 曇　時々小雪　風立つ
1759年　3月30日 宝暦9年　3月2日 曇　昨夜中より時々小雪 （御発駕を15日と仰せ出される）
1759年　3月31日 宝暦9年　3月3日 晴　朝の内時々雪
1759年　4月1日 宝暦9年　3月4日 陰晴　昨夜中雪吹
1759年　4月2日 宝暦9年　3月5日 快晴 （関札打ち等の面々出立）
1759年　4月3日 宝暦9年　3月6日 快晴
1759年　4月4日 宝暦9年　3月7日 晴　未の刻頃より雨　夜中に及ぶ
1759年　4月5日 宝暦9年　3月8日 陰晴　今朝小雨時々
1759年　4月6日 宝暦9年　3月9日 快晴　今朝霞立つ
1759年　4月7日 宝暦9年　3月10日 快晴　巳の刻より風立つ
1759年　4月8日 宝暦9年　3月11日 快晴
1759年　4月9日 宝暦9年　3月12日 曇　時々小雨
1759年　4月10日 宝暦9年　3月13日 晴　昨夜中の風今日終日
1759年　4月11日 宝暦9年　3月14日 快晴　昨夜中より風
1759年　4月12日 宝暦9年　3月15日 晴　朝の内曇　巳の刻より暮れ頃まで風立つ （屋形様辰の中刻御発駕）
1759年　4月13日 宝暦9年　3月16日 晴　今朝より風立つ　午の刻より大風になる　未の刻風雨　申の刻過ぎ雷数度発す　甚だ強し　同刻前霰ふる
1759年　4月14日 宝暦9年　3月17日 陰晴　今日終日風立つ
1759年　4月15日 宝暦9年　3月18日 快晴　今日も風立つ
1759年　4月16日 宝暦9年　3月19日 晴　時々風立つ
1759年　4月17日 宝暦9年　3月20日 晴 （昨朝(いつか知らない)綴子を出た屋形様が大風で宿に戻る・翌早朝出発）
1759年　4月18日 宝暦9年　3月21日 曇　昨夜中戌の刻より雨　今日終日降なり
1759年　4月19日 宝暦9年　3月22日 快晴　今朝霜
1759年　4月20日 宝暦9年　3月23日 晴　今朝より風立つ
1759年　4月21日 宝暦9年　3月24日 晴　風立つ
1759年　4月22日 宝暦9年　3月25日 曇　風立つ　巳の刻より小雨
1759年　4月23日 宝暦9年　3月26日 曇　時々小雨　終夜に及ぶ
1759年　4月24日 宝暦9年　3月27日 曇　今朝より午の刻頃まで雨
1759年　4月25日 宝暦9年　3月28日 陰晴　昨夜中時々雨　今日巳の刻過ぎ丸雪時々婦る
1759年　4月26日 宝暦9年　3月29日 陰晴　今朝大霜
1759年　4月27日 宝暦9年　4月1日 快晴　今朝大霜 （3月中所々御関所出人都合187人：碇ヶ関164人（御印紙出95・切手紙出69）・青森湊口16人（御印紙出）・野内7人（切手紙出））
1759年　4月28日 宝暦9年　4月2日 曇　昨夜中より今朝巳の刻まて雨
1759年　4月29日 宝暦9年　4月3日 曇　風立つ
1759年　4月30日 宝暦9年　4月4日 陰晴　昨夜中風立つ （御手道具頭樋口某に一粒金丹3粒）

1759年　5月1日 宝暦9年　4月5日 快晴　風立つ
1759年　5月2日 宝暦9年　4月6日 曇　今日風立つ （深浦に入津中の船員が傷寒・死亡、四社・五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1759年　5月3日 宝暦9年　4月7日 快晴　午の刻より北風少々 （先月25日より木作新田山通村で狼荒れる（男7人（3歳男子死亡）女4人馬1疋怪我）・25日冨菟村で取る）
1759年　5月4日 宝暦9年　4月8日 晴　四方一円霞　午の刻風立つ
1759年　5月5日 宝暦9年　4月9日 快晴 （御用人溝江半右衛門昨夜病死、御用人沢與左衛門に一粒金丹?粒）
1759年　5月6日 宝暦9年　4月10日 快晴　曇　風立つ　時々雨
1759年　5月7日 宝暦9年　4月11日 晴
1759年　5月8日 宝暦9年　4月12日 晴　酉の刻より小雨　夜中に及ぶ
1759年　5月9日 宝暦9年　4月13日 快晴
1759年　5月10日 宝暦9年　4月14日 快晴
1759年　5月11日 宝暦9年　4月15日 陰晴 （建部登に一粒金丹3粒、屋形様今日（5日?）御着座・今朝草下（加）を出て直ちに御老中様に御勤め遊ばされ八時（午後2時）過ぎに・綴子の御逗留はあったが滞りなし）
1759年　5月12日 宝暦9年　4月16日 快晴
1759年　5月13日 宝暦9年　4月17日 曇　卯の刻頃より時々雨
1759年　5月14日 宝暦9年　4月18日 曇　終日冷気
1759年　5月15日 宝暦9年　4月19日 快晴
1759年　5月16日 宝暦9年　4月20日 快晴 （当年上方詰御元方勘定奉行兼平理左衛門に一粒金丹20粒）
1759年　5月17日 宝暦9年　4月21日 曇　昨夜中亥の刻過ぎ雨　今朝に及ぶ
1759年　5月18日 宝暦9年　4月22日 快晴　昼過ぎより風立つ
1759年　5月19日 宝暦9年　4月23日 快晴　昼より風立つ
1759年　5月20日 宝暦9年　4月24日 快晴 （昨21日暮六時より大間越町で出火・勤番所等の他4軒焼失・御仮屋別状なし、御馬廻間山某に一粒金丹3粒）
1759年　5月21日 宝暦9年　4月25日 曇　午の刻より風立つ
1759年　5月22日 宝暦9年　4月26日 陰晴　辰の刻頃雨　巳の刻小雷　申の下刻より稲光雷度々
1759年　5月23日 宝暦9年　4月27日 陰晴
1759年　5月24日 宝暦9年　4月28日 曇　辰の刻より雨時々風立つ
1759年　5月25日 宝暦9年　4月29日 快晴
1759年　5月26日 宝暦9年　5月1日 晴 （4月中所々御関所出人都合222人：碇関212人（御印紙出98・切手紙出114）・大間越1人（御印紙出）・野内9人（御印紙出2・切手紙出7））
1759年　5月27日 宝暦9年　5月2日 曇　今朝卯の中刻より雨　午の刻暫くの内大雨
1759年　5月28日 宝暦9年　5月3日 快晴　昨夜中雨時々
1759年　5月29日 宝暦9年　5月4日 晴
1759年　5月30日 宝暦9年　5月5日 快晴 （勘定奉行兼平理左衛門が去る16日大坂表で病死）
1759年　5月31日 宝暦9年　5月6日 陰晴
1759年　6月1日 宝暦9年　5月7日 曇　昨夜子の刻より雨　今朝に及ぶ
1759年　6月2日 宝暦9年　5月8日 晴　風立つ
1759年　6月3日 宝暦9年　5月9日 快晴 （今日四つ時前比佐姫様御発駕）
1759年　6月4日 宝暦9年　5月10日 曇　朝の内霞 （今朝本長町で男縊死）
1759年　6月5日 宝暦9年　5月11日 陰晴　昨夜中小雨時々　今朝卯の刻頃より雷雨度々甚だ強く発す　同中刻雨雷止む　巳の刻より快晴になる
1759年　6月6日 宝暦9年　5月12日 快晴　申の刻過ぎより時々小雨　夜に入り少し強し
1759年　6月7日 宝暦9年　5月13日 快晴　朝の内曇　申の刻より曇　大雨　雷度々強く発す
1759年　6月8日 宝暦9年　5月14日 陰晴　朝の内曇 （大坂の船が御米を積み入れる節御米江塩水打ち申すべきところを差し止め問題になる・輸送する米に塩水を打つのがルールだったらしい）
1759年　6月9日 宝暦9年　5月15日 曇　今朝雷二度発す　今日時々雨　夜中に及ぶ
1759年　6月10日 宝暦9年　5月16日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まて　それより止む　又々時々降る
1759年　6月11日 宝暦9年　5月17日 快晴
1759年　6月12日 宝暦9年　5月18日 快晴 （青田の内笛吹き申さぬよう仰せ付ける）
1759年　6月13日 宝暦9年　5月19日 陰晴　巳の中刻頃より風立つ
1759年　6月14日 宝暦9年　5月20日 曇　今日終日雨
1759年　6月15日 宝暦9年　5月21日 快晴　朝の内曇
1759年　6月16日 宝暦9年　5月22日 陰晴　今晩大霧
1759年　6月17日 宝暦9年　5月23日 快晴
1759年　6月18日 宝暦9年　5月24日 快晴 （いろいろ褒美が出ている・この10年ほど信賞必罰かな?）
1759年　6月19日 宝暦9年　5月25日 快晴
1759年　6月20日 宝暦9年　5月26日 快晴　朝の内少々曇
1759年　6月21日 宝暦9年　5月27日 陰晴
1759年　6月22日 宝暦9年　5月28日 快晴
1759年　6月23日 宝暦9年　5月29日 快晴　未の下刻より雷度々　則刻雨暮れ頃まて　夜中時々小雨
1759年　6月24日 宝暦9年　5月30日 曇　午の刻より晴
1759年　6月25日 宝暦9年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合148人：碇関126人（御印紙出95・切手紙出31）・野内19人（御印紙出8・切手紙出11）・大間越3人（切手紙出））
1759年　6月26日 宝暦9年　6月2日 快晴
1759年　6月27日 宝暦9年　6月3日 快晴　朝の内霧一円之（朝の内一円が霧ということだろう……）
1759年　6月28日 宝暦9年　6月4日 快晴
1759年　6月29日 宝暦9年　6月5日 快晴
1759年　6月30日 宝暦9年　6月6日 曇　昨夜中雨　今朝より終日降

1759年　7月1日 宝暦9年　6月7日 曇　昨夜中雨　今日終日降
1759年　7月2日 宝暦9年　6月8日 晴　昨夜中の雨今朝に及ぶ　巳の刻まで曇　未の刻過ぎ雷発す　大雨頻り　同刻之内　暮れ過ぎ稲光度々　今日半夏
1759年　7月3日 宝暦9年　6月9日 曇　午の刻より雨
1759年　7月4日 宝暦9年　6月10日 曇
1759年　7月5日 宝暦9年　6月11日 快晴
1759年　7月6日 宝暦9年　6月12日 快晴
1759年　7月7日 宝暦9年　6月13日 快晴
1759年　7月8日 宝暦9年　6月14日 快晴
1759年　7月9日 宝暦9年　6月15日 快晴　朝の内曇　(人事異動:戸田清左衛門を御用人になど)
1759年　7月10日 宝暦9年　6月16日 快晴　朝の内曇
1759年　7月11日 宝暦9年　6月17日 快晴
1759年　7月12日 宝暦9年　6月18日 快晴
1759年　7月13日 宝暦9年　6月19日 快晴
1759年　7月14日 宝暦9年　6月20日 快晴
1759年　7月15日 宝暦9年　6月21日 快晴
1759年　7月16日 宝暦9年　6月22日 快晴　昨夜中小雨　早速止む　暑気強し
1759年　7月17日 宝暦9年　6月23日 快晴　暑気強し　昼の内少し曇
1759年　7月18日 宝暦9年　6月24日 晴　今暁少しの内小雨降
1759年　7月19日 宝暦9年　6月25日 陰晴　今暁雨　則刻止む　暑気強し
1759年　7月20日 宝暦9年　6月26日 快晴　暑気強し
1759年　7月21日 宝暦9年　6月27日 快晴　朝の内曇　未の刻前雷雨度々発す
1759年　7月22日 宝暦9年　6月28日 陰晴
1759年　7月23日 宝暦9年　6月29日 快晴
1759年　7月24日 宝暦9年　7月1日 快晴　大暑　(6月中所々御関所出人都合121人:碇関110人(御印紙出72・切手紙出38)・野内3人(御印紙出2・切手紙出1)・青森湊口4人(御印紙出)・三馬屋湊口4人(切手紙出))
1759年　7月25日 宝暦9年　7月2日 曇　朝の内雨　辰の中刻止む　申の刻過ぎ東方虹見る
1759年　7月26日 宝暦9年　7月3日 快晴　未の刻過ぎ雷三四度発す
1759年　7月27日 宝暦9年　7月4日 快晴　未の刻過ぎ雷発す　(某安兵衛に一粒金丹3粒)
1759年　7月28日 宝暦9年　7月5日 快晴　今朝辰の刻過ぎまで一円霧見る　暑気強し
1759年　7月29日 宝暦9年　7月6日 快晴　未の刻過ぎ村雨　同刻より申の刻頃まで雷発す　(大鰐村より初穂差上げる・5月8日植付け昨日出穂・去年は4月20日植付け6月23日出穂)
1759年　7月30日 宝暦9年　7月7日 快晴　朝の内四方一円きり見る
1759年　7月31日 宝暦9年　7月8日 曇　巳の刻過ぎより雨　午の刻過ぎより晴
1759年　8月1日 宝暦9年　7月9日 晴　今朝卯の刻過ぎ暫く雨　早速止む　未の刻過ぎ少し雷
1759年　8月2日 宝暦9年　7月10日 晴　朝の内霧　午の刻雷　雨度々
1759年　8月3日 宝暦9年　7月11日 快晴　(樋口金次郎(19日の記述では御手廻)に一粒金丹3粒)
1759年　8月4日 宝暦9年　7月12日 曇　今朝霧　(御目付海老名弥門に一粒金丹3粒)
1759年　8月5日 宝暦9年　7月13日 曇
1759年　8月6日 宝暦9年　7月14日 陰晴　未の刻雷雨　未の刻頃止む
1759年　8月7日 宝暦9年　7月15日 陰晴　昨夜中大雨
1759年　8月8日 宝暦9年　7月16日 快晴　未の刻暫くの内大雨
1759年　8月9日 宝暦9年　7月17日 快晴
1759年　8月10日 宝暦9年　7月18日 快晴　今朝卯の刻過ぎ雷度々発す　(4月21日増館組福館村から伊勢参宮に出た高無長右衛門が(煩い路銀に困り)7月2日に(江戸)御屋敷西御門に路用願い・路用1貫文下し置かれる)
1759年　8月11日 宝暦9年　7月19日 快晴　(樋口金次郎病死)
1759年　8月12日 宝暦9年　7月20日 快晴　(工藤福次郎に一粒金丹3粒)
1759年　8月13日 宝暦9年　7月21日 快晴　(花火は火の元不用心なのでしないように申付ける)
1759年　8月14日 宝暦9年　7月22日 快晴　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初米6俵上がる・去々丑年4月10日植付け6月晦日差上げ・去寅年4月20日植付け7月10日御初米差上げ・当年5月8日植付け今日差し上げ)
1759年　8月15日 宝暦9年　7月23日 快晴　残暑強し　下から続く　一　当月17日の頃より一向雨降申さず照り続き渇水に及び候　この二三日朝夕の日至って赤く取訳け今朝日は赤く見える　尤も入日至って赤し)
1759年　8月16日 宝暦9年　7月24日 快晴　下から続く　候所も有る　所により降り様厚薄有る　一　天気の様子日は照り候え共右曇に覆ひ朧月などの様にて終日暮れる　八半時頃より南東の方至って強く曇申候　上に続く
1759年　8月17日 宝暦9年　7月25日 快晴　(川口次左衛門に一粒金丹3粒、御初米差上げの2人に100疋宛の御祝儀)　下から続く　少々の内晴候処亦々降　弘前は八時過ぎ迄少し宛降　在々所により晩まで降り　上に続く
1759年　8月18日 宝暦9年　7月26日 快晴　下から続く　1尺5寸位より五六寸位まで　色は栗毛之様成る茂有り又は白き毛有り　則日記江詰付け置く　(以下一つ書きが三つ続く)　一　右坌土之様成物今朝五時頃　上に続く
1759年　8月19日 宝暦9年　7月27日 快晴　申の刻過ぎ四方一円霧の如く曇　酉の刻より夜中灰ふる　下から続く　右降候土の色は灰之様にも見え至って細か成り　尤も夜中降り候と相見え馬之髪之如く成毛長さ　上に続く
1759年　8月20日 宝暦9年　7月28日 晴　昨晩七つ時頃より西北の方至って強く曇　大雨の様に候の所雨は一向降り申さず　七つ半頃より坌土之様成物夜中降　今朝厚さ弐三歩位降積　屋根其外草木の葉に当り有る　上に続く
1759年　8月21日 宝暦9年　7月29日 快晴　(郡奉行平沢権太夫に一粒金丹5粒、高杉・広須・金木組の各大庄屋から(火山灰の)報告:金木組新田の村々に一昨27日昼八半時よりあぐ(灰の津軽弁?)降り所々七八歩位まで降る)
1759年　8月22日 宝暦9年　7月30日 快晴　(青森在番諸手足軽頭からの報告:27日昼八時過ぎより28日終日当初西北曇霧雨之様焼砂降り申し候)　下から続く　御紋付き御帷子下し置かれる)
1759年　8月23日 宝暦9年　閏7月1日　陰晴　午の刻前小雨　村雨　朝より東風　(7月中所々御関所出人都合130人:碇関129人(御印紙出101・切手紙出28)・野内2人(御印紙出)、津軽屋三右衛門に御目見仰付け　上に続く
1759年　8月24日 宝暦9年　閏7月2日　快晴　(御用人沢與左衛門・戸田清左衛門に一粒金丹各10粒)
1759年　8月25日 宝暦9年　閏7月3日　快晴　申の刻より雲　同刻過ぎ小雨　酉の刻過ぎ少しの内大雨
1759年　8月26日 宝暦9年　閏7月4日　快晴　申の下刻頃より稲光　雷暫くの内発す　戌の刻頃より雨
1759年　8月27日 宝暦9年　閏7月5日　快晴
1759年　8月28日 宝暦9年　閏7月6日　曇　朝の内快晴　巳の中刻より曇　午の刻小雨　夜中まで時々
1759年　8月29日 宝暦9年　閏7月7日　曇　今朝卯の刻頃より大雨終日　時々雷発す　午の刻より未の刻過ぎまて大洪水　下町中町辺り残らず床上に付き大組諸手両組並びに長柄奉行まで川端へ出る・尤も土渕川も大洪水
1759年　8月30日 宝暦9年　閏7月8日　曇　昨日の大雨今日終日に及ぶ　今日大雨
1759年　8月31日 宝暦9年　閏7月9日　快晴　朝の内雨　巳の刻頃より晴れる

1759年　9月1日 宝暦9年 閏7月10日 曇　時々小雨　申の刻頃より余程雨　夜中に及び止む
1759年　9月2日 宝暦9年 閏7月11日 曇
1759年　9月3日 宝暦9年 閏7月12日 快晴
1759年　9月4日 宝暦9年 閏7月13日 陰晴
1759年　9月5日 宝暦9年 閏7月14日 快晴 （福士傳兵衛に一粒金丹3粒）
1759年　9月6日 宝暦9年 閏7月15日 快晴
1759年　9月7日 宝暦9年 閏7月16日 曇　辰の刻頃より終日小雨時々 （古切支丹類族（御馬廻今井三郎兵衛の養母）死亡）
1759年　9月8日 宝暦9年 閏7月17日 曇　辰の刻過ぎ雨　その後晴　午の刻少しの内雨
1759年　9月9日 宝暦9年 閏7月18日 曇　辰の刻過ぎ小雨　則刻止む
1759年　9月10日 宝暦9年 閏7月19日 快晴　朝夕冷気つよし
1759年　9月11日 宝暦9年 閏7月20日 快晴
1759年　9月12日 宝暦9年 閏7月21日 快晴
1759年　9月13日 宝暦9年 閏7月22日 快晴　申の刻過ぎ雨　昼夜に及ぶ
1759年　9月14日 宝暦9年 閏7月23日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻過ぎまで　その後陰晴
1759年　9月15日 宝暦9年 閏7月24日 快晴
1759年　9月16日 宝暦9年 閏7月25日 陰晴　今暁より卯の刻過ぎまで小雨　その後巳の刻頃亦々少しの内小雨　則刻止む （御目付成田茂左衛門に一粒金丹3粒）
1759年　9月17日 宝暦9年 閏7月26日 快晴 （当月7日の洪水：田高49122石余・畑高9409石余・橋718ヶ所・家122軒潰れ又は流失・溺死8人（全部男）・馬三疋）
1759年　9月18日 宝暦9年 閏7月27日 快晴
1759年　9月19日 宝暦9年 閏7月28日 曇　時々雨
1759年　9月20日 宝暦9年 閏7月29日 陰晴　彼岸に入る
1759年　9月21日 宝暦9年　8月1日 快晴 （閏7月中所々御関所出人都合208人：碇関171人（御印紙出136・切手紙出35）・野内34人（御印紙出33・切手紙出1）・大間越3人（切手紙出））
1759年　9月22日 宝暦9年　8月2日 快晴
1759年　9月23日 宝暦9年　8月3日 曇　今暁より辰の刻過ぎまで時々小雨　辰の刻過ぎ西の方に虹見ゆる
1759年　9月24日 宝暦9年　8月4日 快晴
1759年　9月25日 宝暦9年　8月5日 曇　卯の刻過ぎより雨時々
1759年　9月26日 宝暦9年　8月6日 曇　昨夜中大雨　卯の中刻少々雨
1759年　9月27日 宝暦9年　8月7日 曇　今朝辰の中刻まて小雨　その後晴れる
1759年　9月28日 宝暦9年　8月8日 陰晴
1759年　9月29日 宝暦9年　8月9日 陰晴
1759年　9月30日 宝暦9年　8月10日 快晴
1759年　10月1日 宝暦9年　8月11日 快晴
1759年　10月2日 宝暦9年　8月12日 陰晴
1759年　10月3日 宝暦9年　8月13日 快晴
1759年　10月4日 宝暦9年　8月14日 曇　終日小雨
1759年　10月5日 宝暦9年　8月15日 曇　昨夜中よりの雨今朝に及ぶ　今日小雨時々
1759年　10月6日 宝暦9年　8月16日 晴　巳の中刻まて曇 （蟹田町奉行が勤め方宜しからず御馬廻江帰番）
1759年　10月7日 宝暦9年　8月17日 快晴　当日の入り日至って赤し　　下から続く　　焼くようなる匂ひ一円有り　申の刻過ぎ雷時々発す　酉の刻過ぎより雨になる
1759年　10月8日 宝暦9年　8月18日 霞　昨夜の月殊の外赤し　今朝日至って赤し　段々霞強し　午の刻過ぎより至って赤し　日蝕なとの天気の様也　霞強くなかに従って猿毛（従って以下文字が読めない）　　上に続く
1759年　10月9日 宝暦9年　8月19日 晴　昨夜子の刻より大雷大雨稲光強く発す　同丑の刻前晴　今朝卯の刻前地震
1759年 10月10日 宝暦9年　8月20日 快晴　午の刻より曇　未の刻過ぎ小雨
1759年 10月11日 宝暦9年　8月21日 陰晴 （杉山千吉郎を馬廻組頭などの人事異動）
1759年 10月12日 宝暦9年　8月22日 曇
1759年 10月13日 宝暦9年　8月23日 陰晴　昨夜酉の刻過ぎより風吹　時々小雨　夜に入り大風　丑の刻過ぎ西の方山鳴る
1759年 10月14日 宝暦9年　8月24日 陰晴 （御留守居組頭小山内宗左衛門に一粒金丹5粒）
1759年 10月15日 宝暦9年　8月25日 陰晴　昨夜中未の刻過ぎ小雨
1759年 10月16日 宝暦9年　8月26日 曇　昨夜戌の刻より雨　今暁に及ぶ　今朝辰の刻丸雪　西の方に紅見ゆる　雷度々雨終日
1759年 10月17日 宝暦9年　8月27日 曇　昨夜中雨　今朝岩木山半伏まて雪見ゆる　今日終日雨
1759年 10月18日 宝暦9年　8月28日 快晴　今朝大霜
1759年 10月19日 宝暦9年　8月29日 快晴
1759年 10月20日 宝暦9年　8月30日 曇　昨夜中雨　今日時々　巳の刻過ぎ雷三四度発す　同刻過ぎ大雨
1759年 10月21日 宝暦9年　9月1日 快晴 （8月中所々御関所出人都合93人：碇関88人（御印紙出59・切手紙出29）・野内5人（御印紙出1・切手紙出4））
1759年 10月22日 宝暦9年　9月2日 快晴
1759年 10月23日 宝暦9年　9月3日 晴
1759年 10月24日 宝暦9年　9月4日 曇 （御馬廻組頭西館織部に一粒金丹5粒）
1759年 10月25日 宝暦9年　9月5日 陰晴　未の刻より時々雨　申の刻過ぎ雷発す　酉の刻過ぎ又々雷
1759年 10月26日 宝暦9年　9月6日 陰晴　申の刻過ぎより夜中時々雨 （岩間兵左衛門に一粒金丹3粒）
1759年 10月27日 宝暦9年　9月7日 晴　昨夜中時々雨　岩木山重々雪見る （盗み杣があった黒埼村の庄屋を追放・家財・田畑は妻子に・代官役所で大庄屋が申し渡す）
1759年 10月28日 宝暦9年　9月8日 陰晴
1759年 10月29日 宝暦9年　9月9日 霽　今朝霜
1759年 10月30日 宝暦9年　9月10日 曇　朝の内小雷　今日時々雨　昨夜中より暁まで時々雷発す
1759年 10月31日 宝暦9年　9月11日 曇　昨夜中より雨　今暁に及ぶ　今日終日雨　夜中時々雷発す

1759年　11月1日 宝暦9年　　9月12日 陰晴　今朝四方近山まで雪見る　朝の内時々小雨　風立つ
1759年　11月2日 宝暦9年　　9月13日 曇　時々雨　巳の下刻より陰晴　昨夜亥の刻雷発す
1759年　11月3日 宝暦9年　　9月14日 快晴　(御用人森岡金吾に一粒金丹10粒・熊胆も)
1759年　11月4日 宝暦9年　　9月15日 快晴　午の刻前少し雷　それより未の中刻雷　申の刻雨　則刻止む　それより戌の刻より子の刻まて小雨
1759年　11月5日 宝暦9年　　9月16日 快晴　(森岡金吾江戸江発足)
1759年　11月6日 宝暦9年　　9月17日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日終日雨
1759年　11月7日 宝暦9年　　9月18日 晴　昨夜中時々雨　未の刻過ぎより甚だしい雨　申の下刻止む
1759年　11月8日 宝暦9年　　9月19日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨降　(小笠原作兵衛に一粒金丹3粒)
1759年　11月9日 宝暦9年　　9月20日 曇　昨夜中時々雨　今日辰の刻より終日雨
1759年 11月10日 宝暦9年　　9月21日 快晴　今朝霜多し
1759年 11月11日 宝暦9年　　9月22日 曇　今朝卯の刻過ぎ雷両度発す　同刻より雨霰降る　卯の中刻又〃雷
1759年 11月12日 宝暦9年　　9月23日 快晴
1759年 11月13日 宝暦9年　　9月24日 晴
1759年 11月14日 宝暦9年　　9月25日 曇　昨夜中雨　今日に及ぶ　今日終日
1759年 11月15日 宝暦9年　　9月26日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の刻まて雨
1759年 11月16日 宝暦9年　　9月27日 曇　昨夜中時々雨　今日終日小雨
1759年 11月17日 宝暦9年　　9月28日 曇　今日終日大雨
1759年 11月18日 宝暦9年　　9月29日 曇　時々雨
1759年 11月19日 宝暦9年　　9月30日 曇　昨夜中より水雪　今日終日　巳の刻より雪になる　初雪
1759年 11月20日 宝暦9年　　10月1日 曇　昨夜中雪二寸ほど婦る　(9月中所々御関所出人都合123人:碇関118人(御印紙出100・切手紙出18)・大間越2人(切手紙出)・野内3人(切手紙出))
1759年 11月21日 宝暦9年　　10月2日 曇　卯の刻頃より時々雷発す　辰の刻頃よりの雨夜中に及ぶ　雷度々発す　申の下刻東の方に虹見ゆる
1759年 11月22日 宝暦9年　　10月3日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日も終日水雪　今朝雷　辰の刻まで雷度々発す　辰の刻過ぎ西の方虹見ゆる
1759年 11月23日 宝暦9年　　10月4日 晴　昨夜中風雨時々
1759年 11月24日 宝暦9年　　10月5日 曇　昨夜中小雨
1759年 11月25日 宝暦9年　　10月6日 快晴　今朝霜
1759年 11月26日 宝暦9年　　10月7日 陰晴　昨夜中雨
1759年 11月27日 宝暦9年　　10月8日 陰晴
1759年 11月28日 宝暦9年　　10月9日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1759年 11月29日 宝暦9年　　10月10日 曇　昨夜中の少し雪　今朝まて婦る　今日も時々雪
1759年 11月30日 宝暦9年　　10月11日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　雪五寸ほど積もり終日雪
1759年　12月1日 宝暦9年　　10月12日 曇　時々小雪
1759年　12月2日 宝暦9年　　10月13日 陰晴
1759年　12月3日 宝暦9年　　10月14日 快晴　昨夜中より今朝まて雪六七寸降る　巳の刻より快晴になる
1759年　12月4日 宝暦9年　　10月15日 曇　昨夜中少々雪婦る　今日も時々雪
1759年　12月5日 宝暦9年　　10月16日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　今日時々雪
1759年　12月6日 宝暦9年　　10月17日 曇　昨夜中雪　今日も時々雪
1759年　12月7日 宝暦9年　　10月18日 曇　昨宵の雨今日に及ぶ
1759年　12月8日 宝暦9年　　10月19日 快晴　今朝少しの内小雨　その後至極の快晴　亥の刻過ぎ地震余ほど強し
1759年　12月9日 宝暦9年　　10月20日 曇　朝の内晴　巳の刻過ぎより小雪降
1759年 12月10日 宝暦9年　　10月21日 晴
1759年 12月11日 宝暦9年　　10月22日 曇　昨夜中雪吹き　今日時々雪
1759年 12月12日 宝暦9年　　10月23日 曇　時々水雪降　午の刻より晴になる
1759年 12月13日 宝暦9年　　10月24日 快晴
1759年 12月14日 宝暦9年　　10月25日 快晴
1759年 12月15日 宝暦9年　　10月26日 曇　昨夜中雨　今朝雪
1759年 12月16日 宝暦9年　　10月27日 曇　昨夜中雪吹き　今日時々雪
1759年 12月17日 宝暦9年　　10月28日 快晴
1759年 12月18日 宝暦9年　　10月29日 晴　暮れ頃より雨時々
1759年 12月19日 宝暦9年　　11月1日 晴　(10月中碇関出人都合105人(御印紙出74・切手紙出31))
1759年 12月20日 宝暦9年　　11月2日 陰晴　昨夜少し雨
1759年 12月21日 宝暦9年　　11月3日 快晴　今朝子の刻冬至　この日まで雪なし　天気甚だよし　昨夜霜
1759年 12月22日 宝暦9年　　11月4日 晴　今朝大霜
1759年 12月23日 宝暦9年　　11月5日 曇　今卯の刻より少し雨時々　辰の刻過ぎ西の方虹みる　今日冬至には覚えなき暖気　四方の影?気九月上旬か三月上旬の気しき　火鉢不入程也
1759年 12月24日 宝暦9年　　11月6日 陰晴　昨夜中より少々寒強し　雪ふら寿(雪降らず)　草履地なり
1759年 12月25日 宝暦9年　　11月7日 快晴　昨夜中並びに朝の内寒ル(冷える)　雪ふら春(雪降らず)
1759年 12月26日 宝暦9年　　11月8日 曇　昨夜中より雨　今朝雷少々発す　終日雨　今日まで途中とも土道なり
1759年 12月27日 宝暦9年　　11月9日 曇　昨夜中の雪今日も終日　三四寸積もる　寒強し
1759年 12月28日 宝暦9年　　11月10日 陰晴　昨夜中小雪　(御家老棟方十左衛門に一粒金丹30粒)
1759年 12月29日 宝暦9年　　11月11日 快晴
1759年 12月30日 宝暦9年　　11月12日 曇　時々雨
1759年 12月31日 宝暦9年　　11月13日 快晴　昨夜中至って暖気　今日右同断(縦書きなので今日も暖気の意)　雪一切無　上々快晴　冬の景気には珍敷なり

1760年　1月1日 宝暦9年　11月14日 曇　巳の刻頃より雨時々　殊の外暖なり
1760年　1月2日 宝暦9年　11月15日 曇　今日時々小雨　至って暖気にて三月頃の景気のことし
1760年　1月3日 宝暦9年　11月16日 曇　昨夜中時々雨　今朝巳の刻頃より小雨　終日雪一切無之 （十三潟が11月9日夜より10日昼までに氷張る）
1760年　1月4日 宝暦9年　11月17日 曇　昨夜中雪　尤も一尺ほど積もる　辰の下刻より快晴　午の刻より曇雪
1760年　1月5日 宝暦9年　11月18日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　尤も一尺ほど積もる　今日も終日
1760年　1月6日 宝暦9年　11月19日 晴　昨夜寅の刻寒に入る　夜中ひへ(冷え)強し
1760年　1月7日 宝暦9年　11月20日 陰晴　午の刻より小雪　申の刻より水雪　夜中に及ぶ
1760年　1月8日 宝暦9年　11月21日 曇　昨夜中風雨水雪　今日も終日雪 （御家老堀五郎左衛門に一粒金丹30粒）
1760年　1月9日 宝暦9年　11月22日 曇　昨夜中大雪吹　今日終日
1760年　1月10日 宝暦9年　11月23日 晴　朝の内小雪
1760年　1月11日 宝暦9年　11月24日 曇　午の中刻より暫くの内雨　未の刻止む　戌の刻より終夜雨強し （御献上の鱈御用所二の間で御家老中見分）
1760年　1月12日 宝暦9年　11月25日 曇　時々小雨　未の刻過ぎ丑刁(寅)の方に虹見る （小野軍治郎を勘定奉行等の人事異動）
1760年　1月13日 宝暦9年　11月26日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨　未の刻地震
1760年　1月14日 宝暦9年　11月27日 曇　昨夜中風立つ　今日も終日雪　寒強し
1760年　1月15日 宝暦9年　11月28日 快晴　昨夜中少し雪
1760年　1月16日 宝暦9年　11月29日 快晴
1760年　1月17日 宝暦9年　11月30日 曇　朝の内快晴　午の刻過ぎより雨降る
1760年　1月18日 宝暦9年　12月1日 晴　朝の内小雨　午の刻過ぎ曇　酉の下刻より大雨 （11月中所々御関所出人都合73人:碇関65人(御印紙出40・切手紙出25)・野内8人(御印紙出2・切手紙出6)）
1760年　1月19日 宝暦9年　12月2日 曇　昨夜中雨　今暁に及ぶ　今日時々　午の刻過ぎより風立つ
1760年　1月20日 宝暦9年　12月3日 陰晴　今日時々雪　昨夜雪二寸ほど積もる
1760年　1月21日 宝暦9年　12月4日 陰晴　昨夜中雪七寸ほど　今日時々雪
1760年　1月22日 宝暦9年　12月5日 快晴　朝の内曇　巳の刻頃まで少し雨　それより快晴
1760年　1月23日 宝暦9年　12月6日 陰晴　昨夜戌の刻地震
1760年　1月24日 宝暦9年　12月7日 陰晴　巳の刻より曇　小雨　午の刻より晴
1760年　1月25日 宝暦9年　12月8日 曇　時々雪降る　夜中とも雪
1760年　1月26日 宝暦9年　12月9日 曇
1760年　1月27日 宝暦9年　12月10日 快晴
1760年　1月28日 宝暦9年　12月11日 快晴
1760年　1月29日 宝暦9年　12月12日 陰晴　　下から続く　　古懸不動尊御出汗　今暁寅の刻又〃御出汗
1760年　1月30日 宝暦9年　12月13日 曇　今日至って暖気　夜中の暖成る事三四月のごとく(「ぐ」に見える:意味不明)時々雨ふる　雪一切無之蕪の花咲く　四五日以前より雁来る　景気春のことし　昨日申の刻　　上に続く
1760年　1月31日 宝暦9年　12月14日 霽　昨夜中　今朝卯の刻過ぎまて雨
1760年　2月1日 宝暦9年　12月15日 霽　昨夜中より小雪　辰の下刻より晴
1760年　2月2日 宝暦9年　12月16日 曇　今暁より卯の刻過ぎまで小雪 （古懸不動尊御出汗につき五山に御祈祷を仰せ付ける）
1760年　2月3日 宝暦9年　12月17日 快晴　昨夜中雪五寸ほど （古懸不動尊御出汗につき神明・八幡の両社に別段の御祈祷を仰せ付ける・尤も目立ち申さぬよう申付ける）
1760年　2月4日 宝暦9年　12月18日 陰晴　昨夜中小雪 （妙心院様の50回忌に伴う大赦(出牢1人・追放者の居村徘徊御免5人)）
1760年　2月5日 宝暦9年　12月19日 曇　昨夜中雪五寸くらい　今日終日小雪　未の刻よりあめ也
1760年　2月6日 宝暦9年　12月20日 霽　午の刻より快晴　午の下刻より小雨時々
1760年　2月7日 宝暦9年　12月21日 晴　昨夜中風雨　今朝辰の刻頃まで小雨　その後快晴　未の刻過ぎ風強し　夜中に及ぶ
1760年　2月8日 宝暦9年　12月22日 曇　昨夜中風余程強し　今朝辰の刻過ぎより雨時々
1760年　2月9日 宝暦9年　12月23日 晴
1760年　2月10日 宝暦9年　12月24日 曇
1760年　2月11日 宝暦9年　12月25日 快晴　昨夜中の雪今朝七八寸に及ぶ
1760年　2月12日 宝暦9年　12月26日 陰晴　昨夜中殊の外氷強し(文字は間違いないが意味不明)
1760年　2月13日 宝暦9年　12月27日 陰晴　昨夜中より寒至って強　朝の内小雪
1760年　2月14日 宝暦9年　12月28日 曇
1760年　2月15日 宝暦9年　12月29日 快晴
1760年　2月16日 宝暦9年　12月30日 快晴
1760年　2月17日 宝暦10年正月1日　曇　辰の刻前小雨降　その後雪
1760年　2月18日 宝暦10年正月2日　晴　昨夜中より軒垂(多分「のきだれ」・意味不明)あり
1760年　2月19日 宝暦10年正月3日　曇　昨夜中小雨　辰の刻過ぎ止む
1760年　2月20日 宝暦10年正月4日　曇　時々雪
1760年　2月21日 宝暦10年正月5日　曇　終日雪降
1760年　2月22日 宝暦10年正月6日　陰晴
1760年　2月23日 宝暦10年正月7日　陰晴　昨今余寒強し
1760年　2月24日 宝暦10年正月8日　快晴　未の中刻より小雨
1760年　2月25日 宝暦10年正月9日　曇
1760年　2月26日 宝暦10年正月10日　快晴
1760年　2月27日 宝暦10年正月11日　曇　終日雪降　午の刻より雨降 （一昨26日江戸で御家老並びに拙者共が御献上の塩鱈検分）
1760年　2月28日 宝暦10年正月12日　曇　昨夜雪三四寸ほど降　今朝巳の刻過ぎまて小雪降
1760年　2月29日 宝暦10年正月13日　陰晴

1760年　3月1日 宝暦10年正月14日　晴
1760年　3月2日 宝暦10年正月15日　曇　昨夜中風雪少々　今朝一寸ほど （12月中碇関出人都合92人:他国者75人御印紙50枚・御国人17人切手紙10枚、11日昼頃より12日朝までに十三潟の氷明ける）
1760年　3月3日 宝暦10年正月16日　陰晴　昨夜小雪　未の刻過ぎ雷発す
1760年　3月4日 宝暦10年正月17日　晴　昨夜中の雪今朝に及ぶ　三四寸ほど　それより晴
1760年　3月5日 宝暦10年正月18日　曇　終日雪
1760年　3月6日 宝暦10年正月19日　晴
1760年　3月7日 宝暦10年正月20日　曇　時々雪
1760年　3月8日 宝暦10年正月21日　快晴　昨夜中雪二寸ほど降
1760年　3月9日 宝暦10年正月22日　曇　今朝霜　午の刻過ぎ雪
1760年　3月10日 宝暦10年正月23日　曇　朝の内晴　巳の刻過ぎより雪降　夜中雪
1760年　3月11日 宝暦10年正月24日　陰晴
1760年　3月12日 宝暦10年正月25日　快晴
1760年　3月13日 宝暦10年正月26日　快晴　今朝霜 （永の御暇8人）　　下から続く　　・御家中出入27・出入り合106人）
1760年　3月14日 宝暦10年正月27日　陰晴　今朝燕の声聞く （12月中碇関:出92人(御印紙50枚76人・切手紙10枚16人)・入り99人・出入り合191人、同大間越:出14・入り16・出入り人数合30人、同野内:出36・入り43　　上に続く
1760年　3月15日 宝暦10年正月28日　晴
1760年　3月16日 宝暦10年正月29日　快晴
1760年　3月17日 宝暦10年　2月1日 曇　朝の内晴　彼岸に入る （正月中出人都合299人:碇関98人(御印紙出75・切手紙出23)・大間越1人(御印紙出)）
1760年　3月18日 宝暦10年　2月2日 快晴
1760年　3月19日 宝暦10年　2月3日 曇　今日時々雪 （不届きな足軽2人に永の暇）
1760年　3月20日 宝暦10年　2月4日 曇　昨夜中雪　今朝五寸ほど　終日雪降る
1760年　3月21日 宝暦10年　2月5日 曇　昨夜中より雪　今日は終日小雪　寒強し
1760年　3月22日 宝暦10年　2月6日 陰晴　午の刻過ぎより曇　雨ふる
1760年　3月23日 宝暦10年　2月7日 快晴　子の刻過ぎより雨
1760年　3月24日 宝暦10年　2月8日 曇　時々小雨　未の刻より度々雷発す
1760年　3月25日 宝暦10年　2月9日 快晴
1760年　3月26日 宝暦10年　2月10日 曇　今朝辰の刻過ぎより風　同刻過ぎより時々小雨
1760年　3月27日 宝暦10年　2月11日 晴
1760年　3月28日 宝暦10年　2月12日 晴
1760年　3月29日 宝暦10年　2月13日 快晴 （御家中の召使の給銀が上がっている御定め(中間上80匁・中70・下60・下女40～60匁)の通り下げろとの指示、一昨晩九時半頃碇関で火災38軒焼失、親不孝の御家中に御暇）
1760年　3月30日 宝暦10年　2月14日 快晴　今朝霜
1760年　3月31日 宝暦10年　2月15日 陰晴　暑
1760年　4月1日 宝暦10年　2月16日 曇　昨夜中より暑　時々雨
1760年　4月2日 宝暦10年　2月17日 晴　少々風立つ
1760年　4月3日 宝暦10年　2月18日 快晴
1760年　4月4日 宝暦10年　2月19日 晴　未の刻過ぎ雨
1760年　4月5日 宝暦10年　2月20日 曇　昨夜中の雨今朝に及び小雨　西の方虹見る
1760年　4月6日 宝暦10年　2月21日 陰晴
1760年　4月7日 宝暦10年　2月22日 陰晴
1760年　4月8日 宝暦10年　2月23日 陰晴 （抜け馬の道案内を申し合わせた大間越町同心を大間越並びに弘前追放）
1760年　4月9日 宝暦10年　2月24日 曇　今暁丑の刻より雨　今日終日 （住吉稲荷の社司山村伊勢その子山村和泉を小野若狭並びに長利薩摩に預ける・長利唐之助には捕手を遣わす）
1760年　4月10日 宝暦10年　2月25日 快晴　今朝鶯初声聞く
1760年　4月11日 宝暦10年　2月26日 曇　巳の刻過ぎより少々雨
1760年　4月12日 宝暦10年　2月27日 陰晴　酉の刻より小雨　即夜に及ぶ　朝の内西の方虹見る
1760年　4月13日 宝暦10年　2月28日 晴　今日風立つ
1760年　4月14日 宝暦10年　2月29日 曇　今日風立つ　小雪少々見る
1760年　4月15日 宝暦10年　2月30日 快晴　今朝霜　梅花咲く見ゆる
1760年　4月16日 宝暦10年　3月1日 陰晴　巳の刻過ぎより風立つ （2月中所々御関所出人都合93人:碇関88人(御印紙出55・切手紙出36)・大間越2人(切手紙出)・野内3人(切手紙出)）
1760年　4月17日 宝暦10年　3月2日 陰晴　朝の内小雨
1760年　4月18日 宝暦10年　3月3日 曇　今朝より幕(このように読める:意味不明)雨
1760年　4月19日 宝暦10年　3月4日 陰晴　時々風立つ
1760年　4月20日 宝暦10年　3月5日 快晴　朝の内寒強し
1760年　4月21日 宝暦10年　3月6日 曇　終日雨 （昨夜中中牢を破り3人欠落）
1760年　4月22日 宝暦10年　3月7日 快晴　今朝霜 （牢破り3人の人相書あり・せい5尺4寸余・5尺3寸くらい・5尺3寸余）
1760年　4月23日 宝暦10年　3月8日 快晴　今朝霜
1760年　4月24日 宝暦10年　3月9日 快晴　今朝霜
1760年　4月25日 宝暦10年　3月10日 曇　今暁より雨終日
1760年　4月26日 宝暦10年　3月11日 快晴　時々西風立つ
1760年　4月27日 宝暦10年　3月12日 快晴　昨夜中の風今朝に及ぶ　今日時々風立つ
1760年　4月28日 宝暦10年　3月13日 快晴
1760年　4月29日 宝暦10年　3月14日 快晴　今朝霜
1760年　4月30日 宝暦10年　3月15日 快晴

1760年　5月1日 宝暦10年　3月16日 快晴
1760年　5月2日 宝暦10年　3月17日 快晴
1760年　5月3日 宝暦10年　3月18日 陰晴　今朝辰の刻小雨　則止む　その後風立つ
1760年　5月4日 宝暦10年　3月19日 快晴
1760年　5月5日 宝暦10年　3月20日 快晴　夜中風立つ（三之丸御屋敷で御家中次三男までの剣術を御家老中見分）
1760年　5月6日 宝暦10年　3月21日 曇　今朝よりの雨終日
1760年　5月7日 宝暦10年　3月22日 快晴
1760年　5月8日 宝暦10年　3月23日 晴　今朝霜　申の刻前村雨　北東の方に虹見ゆる（3人破牢の牢守2人御給分召し放ち・当番は弘前追放、牢奉行2人は給分半減長柄の者に）
1760年　5月9日 宝暦10年　3月24日 晴
1760年　5月10日 宝暦10年　3月25日 曇　今日終日雨
1760年　5月11日 宝暦10年　3月26日 曇　昨夜雨今朝に及ぶ　今日も終日雨
1760年　5月12日 宝暦10年　3月27日 晴　朝の内快晴　昨夜中の雨今朝に及ぶ（今23日古懸村で嫁入りを断った娘に切りつけ(後死亡)男逃げる・人相書きあり・せひ5尺2・3寸）
1760年　5月13日 宝暦10年　3月28日 快晴
1760年　5月14日 宝暦10年　3月29日 陰晴　　下から続く　（御印紙出2・切手紙出3））
1760年　5月15日 宝暦10年　4月1日 快晴　朝の内曇　雨少々降　雷度々発す（3月中所々御関所出人都合395人:碇関379人(御印紙出93・切手紙出286)・大間越11人(御印紙出5・切手紙出6)・野内5人　　上に続く
1760年　5月16日 宝暦10年　4月2日 曇　今暁よりの雨終日降
1760年　5月17日 宝暦10年　4月3日 曇　朝の内晴
1760年　5月18日 宝暦10年　4月4日 陰晴　今朝霜
1760年　5月19日 宝暦10年　4月5日 快晴　朝の内曇　辰の下刻少々雨　即刻止む
1760年　5月20日 宝暦10年　4月6日 晴　時々小雨降
1760年　5月21日 宝暦10年　4月7日 快晴　未の刻より曇　風立つ
1760年　5月22日 宝暦10年　4月8日 陰晴
1760年　5月23日 宝暦10年　4月9日 快晴
1760年　5月24日 宝暦10年　4月10日 陰晴　今朝四方一円霞　申の刻より雨
1760年　5月25日 宝暦10年　4月11日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ　午の刻過ぎ晴（御用人沢與左衛門今朝病死）
1760年　5月26日 宝暦10年　4月12日 快晴　少々薄曇
1760年　5月27日 宝暦10年　4月13日 陰晴　辰の下刻西の方より大風　則刻止む　それより少々吹く
1760年　5月28日 宝暦10年　4月14日 快晴
1760年　5月29日 宝暦10年　4月15日 曇　巳の刻過ぎ雨降
1760年　5月30日 宝暦10年　4月16日 快晴　今日風立つ（作事方御用車鉄物盗み取りの片割れを弘前追放）
1760年　5月31日 宝暦10年　4月17日 晴　今日終日風立つ　巳の下刻頃雨　午の下刻雷発す　未の下刻風立つ（今日三之丸矢場で御家中の射芸を御家老中見分）
1760年　6月1日 宝暦10年　4月18日 快晴　昼頃より風立つ（薬王院江五穀成就の御祈祷を・和徳稲荷江御神楽を仰せ付ける）
1760年　6月2日 宝暦10年　4月19日 快晴
1760年　6月3日 宝暦10年　4月20日 快晴
1760年　6月4日 宝暦10年　4月21日 晴　昨夜より風　小雨時々
1760年　6月5日 宝暦10年　4月22日 曇
1760年　6月6日 宝暦10年　4月23日 快晴
1760年　6月7日 宝暦10年　4月24日 快晴
1760年　6月8日 宝暦10年　4月25日 快晴　午の刻過ぎ薄曇　未の刻過ぎ小雨
1760年　6月9日 宝暦10年　4月26日 曇　今暁より雨
1760年　6月10日 宝暦10年　4月27日 曇　朝の内霧雨
1760年　6月11日 宝暦10年　4月28日 陰晴　今日入梅
1760年　6月12日 宝暦10年　4月29日 快晴　今朝四方霧　　下から続く　（御印紙出82・切手紙出38)・野内1人(御印紙出)・大間越2人(切手紙出)・小泊湊口1人(切手紙出)、御家中の妻今朝縊死）
1760年　6月13日 宝暦10年　5月1日 曇　昨夜戌の刻過ぎ稲光　今日巳の上刻雷強く発す　雨降　稲光度々　酉の四刻日帯(このように見えるが意味不明）（4月中所々御関所出人都合127人:碇関120人　　上に続く
1760年　6月14日 宝暦10年　5月2日 陰晴　昨夜中稲光度々　今朝霽　朝の内曇
1760年　6月15日 宝暦10年　5月3日 陰晴　昨夜中より今朝まで雨
1760年　6月16日 宝暦10年　5月4日 陰晴
1760年　6月17日 宝暦10年　5月5日 陰晴
1760年　6月18日 宝暦10年　5月6日 快晴
1760年　6月19日 宝暦10年　5月7日 快晴
1760年　6月20日 宝暦10年　5月8日 陰晴　未の刻より雨　夜中に及ぶ
1760年　6月21日 宝暦10年　5月9日 陰晴
1760年　6月22日 宝暦10年　5月10日 曇
1760年　6月23日 宝暦10年　5月11日 快晴　巳の下刻まで霞
1760年　6月24日 宝暦10年　5月12日 曇　午の刻前晴　同刻より雨少々降　則刻止む
1760年　6月25日 宝暦10年　5月13日 陰晴
1760年　6月26日 宝暦10年　5月14日 晴　未の刻曇　同刻大雨　雷四発発す　暫く有り晴れる　風立つ
1760年　6月27日 宝暦10年　5月15日 曇　時々風立つ
1760年　6月28日 宝暦10年　5月16日 快晴
1760年　6月29日 宝暦10年　5月17日 快晴
1760年　6月30日 宝暦10年　5月18日 快晴

1760年　7月1日 宝暦10年　5月19日 快晴
1760年　7月2日 宝暦10年　5月20日 快晴
1760年　7月3日 宝暦10年　5月21日 快晴
1760年　7月4日 宝暦10年　5月22日 快晴 （将軍宣下（十代家治に）の報あり）
1760年　7月5日 宝暦10年　5月23日 曇　今朝六時前より小雨　巳の刻より午の刻まで晴　午の刻より小雨
1760年　7月6日 宝暦10年　5月24日 曇　時々雨
1760年　7月7日 宝暦10年　5月25日 陰晴
1760年　7月8日 宝暦10年　5月26日 快晴 （晴天に付諸組渇水・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1760年　7月9日 宝暦10年　5月27日 快晴
1760年　7月10日 宝暦10年　5月28日 陰晴　申の下刻より夜中時々小雨
1760年　7月11日 宝暦10年　5月29日 陰晴　今暁まで時々雨
1760年　7月12日 宝暦10年　5月30日 陰晴　　下から続く　　切手紙出7)・青森湊口2人（御印紙出）・大間越1人（切手紙出））
1760年　7月13日 宝暦10年　6月1日 快晴　未の刻頃より雨　申の刻前雷雨度々　余程強し　稲光度々 （5月中所々御関所出人都合177人：碇関164人（御印紙出133・切手紙出31）・野内10人（御印紙出3・　上に続く
1760年　7月14日 宝暦10年　6月2日 快晴
1760年　7月15日 宝暦10年　6月3日 快晴　朝の内曇
1760年　7月16日 宝暦10年　6月4日 曇　巳の刻雨降
1760年　7月17日 宝暦10年　6月5日 快晴　朝の内霽
1760年　7月18日 宝暦10年　6月6日 快晴　今夜子の刻土用入り
1760年　7月19日 宝暦10年　6月7日 晴　昨夜亥の刻雨　今日巳の刻過ぎ少しの内雨　即刻止む
1760年　7月20日 宝暦10年　6月8日 快晴　朝の内曇
1760年　7月21日 宝暦10年　6月9日 曇　卯の上刻より雨　巳の中刻過ぎまて　その後陰晴　暮れまて小雨
1760年　7月22日 宝暦10年　6月10日 快晴
1760年　7月23日 宝暦10年　6月11日 快晴　午の刻より大雨　未の中刻より晴　雷発す
1760年　7月24日 宝暦10年　6月12日 快晴　未の刻頃雷発す　村雨即刻止む
1760年　7月25日 宝暦10年　6月13日 快晴
1760年　7月26日 宝暦10年　6月14日 陰晴　今朝より辰の中刻頃まて雨　その後止む
1760年　7月27日 宝暦10年　6月15日 快晴　今日初穂上がる （4月12日植付けの御初米今日出穂・去年5月8日植付け7月5日出穂・年に引き合い日数6日遅く節に引き合い去年と同じ）
1760年　7月28日 宝暦10年　6月16日 晴　暑気甚だ強し
1760年　7月29日 宝暦10年　6月17日 晴　申の刻過ぎ小雨　暮れに及ぶ
1760年　7月30日 宝暦10年　6月18日 快晴
1760年　7月31日 宝暦10年　6月19日 快晴　今朝露多し　暑気甚だつよし
1760年　8月1日 宝暦10年　6月20日 快晴　朝の内四方霞　暑気強し
1760年　8月2日 宝暦10年　6月21日 快晴　昨夜子の刻過ぎ東方より震動強し　又丑の刻過ぎ東の方より震動　申の刻過ぎより雨雷数度発す　稲光甚だ強し　暮れ頃より大雷　稲光即夜半まて
1760年　8月3日 宝暦10年　6月22日 曇　今朝巳の刻頃より時々小雨
1760年　8月4日 宝暦10年　6月23日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日終日雨
1760年　8月5日 宝暦10年　6月24日 曇　巳の中刻より雨
1760年　8月6日 宝暦10年　6月25日 曇　巳の中刻頃小雨　即刻止む　午の刻過ぎより度々雨　暮れ頃まて雨強し
1760年　8月7日 宝暦10年　6月26日 快晴　昨夜中の雨今朝に及ぶ　辰の上刻より晴れる （今日（15日）屋形様江戸御発駕・来月4日着城予定、昨晩類族72歳死亡）
1760年　8月8日 宝暦10年　6月27日 晴　今朝より岩木山に雪見ず　昨晩までは相見ゆる （昨晩御関札打ち下着）
1760年　8月9日 宝暦10年　6月28日 陰晴　昨夜亥の刻過ぎ雨　夜中時々
1760年　8月10日 宝暦10年　6月29日 陰晴　今朝の雨卯の刻過ぎ止む
1760年　8月11日 宝暦10年　7月1日 曇　今朝より午の刻まて陰晴　同刻頃より小雨 （碇関147人（御印紙出67・切手紙出80）・野内6人（御印紙出3・切手紙出3）・大間越1人（切手紙出））
1760年　8月12日 宝暦10年　7月2日 陰晴
1760年　8月13日 宝暦10年　7月3日 陰晴 （御家老堀五郎左衛門に一粒金丹30粒・熊胆13文目・江戸のぼりに付）
1760年　8月14日 宝暦10年　7月4日 快晴 （九半時御着城）
1760年　8月15日 宝暦10年　7月5日 快晴　戌の中刻過ぎ東の方より西の方に光物飛ぶ　月夜のことし　それより東の方より西のほうへ鳴り物有り　雷のことし
1760年　8月16日 宝暦10年　7月6日 快晴　朝より暑気強し （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米上がる・去年は7月22日・植え付け日と比較すると去年より9日遅く節に引き合い3日遅い）
1760年　8月17日 宝暦10年　7月7日 快晴　大暑　朝の内雷
1760年　8月18日 宝暦10年　7月8日 曇　辰の刻過ぎより雨終日　雷数度発す　申の刻頃東南の方に虹見る
1760年　8月19日 宝暦10年　7月9日 陰晴　昨夜中雨 （堀田相模守様より一粒金丹御所望……）
1760年　8月20日 宝暦10年　7月10日 曇　時々雨 （野呂某に一粒金丹3粒、初米差上げた大鰐村の2人に御祝儀100疋宛）
1760年　8月21日 宝暦10年　7月11日 曇　昨夜中より雨　今暁に及ぶ　今日時々　午の刻頃より大雨　同刻過ぎより雷度々発す
1760年　8月22日 宝暦10年　7月12日 晴 （御着城御祝儀の御能）
1760年　8月23日 宝暦10年　7月13日 霽
1760年　8月24日 宝暦10年　7月14日 晴 （11日の雨で高杉組南浮田村で山欠崩れ・1家5人中4人（家主の母・女房・男子・女子）潰死）
1760年　8月25日 宝暦10年　7月15日 陰晴
1760年　8月26日 宝暦10年　7月16日 曇　昨夜中より今日終日雨　夜に入り大雨
1760年　8月27日 宝暦10年　7月17日 曇　昨夜中より今日巳の刻過ぎまて雨 （日和揚げ五穀成就の御祈祷を五山に仰せ付ける・旅役者並びに相撲のうち丹後者を詮議し送り返すようにする）
1760年　8月28日 宝暦10年　7月18日 曇　辰の刻より雨　午の刻止む　それより時々小雨 （11日の大雨で赤田組田方144町余（水湛80町余・水押63町余）畑方84町余・大川土居1箇所破損・男溺死1人、増館組にも若干）
1760年　8月29日 宝暦10年　7月19日 快晴 （御手廻木村杢之助に一粒金丹3粒）
1760年　8月30日 宝暦10年　7月20日 快晴　申の中刻東の方より稲光　雷度々発す
1760年　8月31日 宝暦10年　7月21日 快晴　卯の刻雷　午の刻過ぎ雷度々発す

1760年　9月1日 宝暦10年　7月22日 晴 （11日の流水による赤石組被害：板橋流失・溜池押破・水門流失・川留切押破・水除堤破損・川崎舟破舟・柳田村の男溺死・駒溺死行方不明各1疋）
1760年　9月2日 宝暦10年　7月23日 曇 今朝辰の刻より雨
1760年　9月3日 宝暦10年　7月24日 曇 時々霧雨
1760年　9月4日 宝暦10年　7月25日 快晴
1760年　9月5日 宝暦10年　7月26日 晴 巳の刻より小雨 雷度々発す （木村杢之助病死）
1760年　9月6日 宝暦10年　7月27日 陰晴 時々小雨 今朝西の方虹見る 昨夜中時々雷 今日度々雷発す
1760年　9月7日 宝暦10年　7月28日 快晴 未の中刻より曇 雨 度々 東の方虹見る
1760年　9月8日 宝暦10年　7月29日 曇 朝の内晴 巳の下刻より雨 午の刻過ぎ霽 （御中小姓2人を暇（このうちの1人は転び切支丹類族小泉）・2人を役下げなど）
1760年　9月9日 宝暦10年　8月1日 晴 （囃子・狂言、人事異動、7月中所々御関所出人都合203人：碇関201（御印紙出151・切手紙出50）・野内1人（御印紙出）・大間越1人（切手紙出）、津軽屋三右衛門に一粒金丹20粒・熊胆）
1760年　9月10日 宝暦10年　8月2日 曇 午の刻過ぎ雨降
1760年　9月11日 宝暦10年　8月3日 快晴 （剣術高覧）
1760年　9月12日 宝暦10年　8月4日 快晴
1760年　9月13日 宝暦10年　8月5日 快晴
1760年　9月14日 宝暦10年　8月6日 快晴 （郡所小頭福眞弥兵衛の忌御免を申付ける、昨晩御家中が乱心その母を切り殺す）
1760年　9月15日 宝暦10年　8月7日 曇
1760年　9月16日 宝暦10年　8月8日 陰晴 辰の刻より時々雨 （久渡寺で時行病の御祈祷を仰せ付ける）
1760年　9月17日 宝暦10年　8月9日 陰晴
1760年　9月18日 宝暦10年　8月10日 陰晴 初雁見る 申の中刻より雨
1760年　9月19日 宝暦10年　8月11日 曇 昨夜中の雨今朝に及ぶ 今日も終日雨
1760年　9月20日 宝暦10年　8月12日 曇 昨夜中の大雨時々 昨夜子の刻頃暫くの内風立つ 辰の刻過ぎ西の方に虹見ゆる
1760年　9月21日 宝暦10年　8月13日 晴 午の刻頃少しの内小雨 酉の刻止む
1760年　9月22日 宝暦10年　8月14日 晴
1760年　9月23日 宝暦10年　8月15日 快晴 （八幡宮御祭礼、高倉五兵衛病死）
1760年　9月24日 宝暦10年　8月16日 曇 午の刻過ぎ雨たらたら降
1760年　9月25日 宝暦10年　8月17日 陰晴 今朝卯の中刻過ぎより辰の中刻まで雨降
1760年　9月26日 宝暦10年　8月18日 陰晴
1760年　9月27日 宝暦10年　8月19日 陰晴 冷気なり 風少し雨少し 岩木山雪見ゆる
1760年　9月28日 宝暦10年　8月20日 陰晴 時々小雨 暮れに及び度々雪
1760年　9月29日 宝暦10年　8月21日 快晴 （諸病時行候に付退散の御祈祷を久渡寺に仰せ付ける、19日夜四時半過ぎ頃赤石組舞戸村等に火災221軒（柾家22・萱家208）・土蔵4・庵寺1・米330俵・籾660俵・火元預け）
1760年　9月30日 宝暦10年　8月22日 快晴
1760年　10月1日 宝暦10年　8月23日 曇 巳の刻より雨終日 （18日長濱に松前船寄流・男1人行方不明）
1760年　10月2日 宝暦10年　8月24日 曇 昨夜中の雨今暁に及ぶ 今日も巳の刻前より時々雨 風立つ 今朝西の方に虹見ゆる （人事異動）
1760年　10月3日 宝暦10年　8月25日 快晴
1760年　10月4日 宝暦10年　8月26日 快晴 今朝巳の刻頃まで小雨時々 そのご晴になる （初鮭差上げる、母を殺害の堀川田小三郎を取上で御仕置（斬罪・獄門））
1760年　10月5日 宝暦10年　8月27日 陰晴
1760年　10月6日 宝暦10年　8月28日 陰晴 昨夜中の雨今朝辰の刻まて降る
1760年　10月7日 宝暦10年　8月29日 曇 昨夜中風雨 今日時々小雨
1760年　10月8日 宝暦10年　8月30日 陰晴 昨夜中より今朝まて至って冷気也 岩木山の上に雪見ゆる
1760年　10月9日 宝暦10年　9月1日 晴 岩木山雪見る （8月中所々御関所出人都合211人：碇関179（御印紙出116・切手紙出63）・大間越11人（御印紙出7・切手紙出4）・野内21人（御印紙出17・切手紙出4））
1760年 10月10日 宝暦10年　9月2日 曇 今暁より小雨
1760年 10月11日 宝暦10年　9月3日 曇 西の方虹見る 辰の刻より暫く 雨終日降る 昼頃より風雨 申の刻過ぎより大風雨 酉の刻過ぎ雷発す
1760年 10月12日 宝暦10年　9月4日 快晴
1760年 10月13日 宝暦10年　9月5日 快晴 （先月19日の舞戸村などの火災に対し御米拝借・家木杣取等の願い・御米拝借を除き仰せ付ける）
1760年 10月14日 宝暦10年　9月6日 曇 辰の刻より巳の刻までの間小雨
1760年 10月15日 宝暦10年　9月7日 陰晴 岩木山雪見る
1760年 10月16日 宝暦10年　9月8日 快晴 今朝大霜 昨今冷気強し
1760年 10月17日 宝暦10年　9月9日 曇 昨夜中より雨 今暁に及ぶ 今日時々雨 今朝辰の刻過ぎ西北の方にて音あり（か?） 鳴物一度有る
1760年 10月18日 宝暦10年　9月10日 陰晴
1760年 10月19日 宝暦10年　9月11日 陰晴 辰の刻より東風 暮れ頃より夜中大風
1760年 10月20日 宝暦10年　9月12日 曇 昨夜中の風今朝に及ぶ 今暁より小雨 辰の刻過ぎより雨強し 則刻止む 巳の刻頃より雨 午の刻過ぎまで降る （大目付笠原八郎兵衛に一粒金丹5粒、薬王院に日和揚御祈祷を仰付）
1760年 10月21日 宝暦10年　9月13日 晴 昨夜中より雨 今日巳の刻まで 同刻頃より風立つ
1760年 10月22日 宝暦10年　9月14日 曇 今朝より時々小雨 昨夜中雷両度発す
1760年 10月23日 宝暦10年　9月15日 快晴
1760年 10月24日 宝暦10年　9月16日 快晴
1760年 10月25日 宝暦10年　9月17日 快晴
1760年 10月26日 宝暦10年　9月18日 快晴 今朝霜多し
1760年 10月27日 宝暦10年　9月19日 陰晴
1760年 10月28日 宝暦10年　9月20日 快晴
1760年 10月29日 宝暦10年　9月21日 陰晴 未の刻頃より雨降 申の下刻止む
1760年 10月30日 宝暦10年　9月22日 快晴
1760年 10月31日 宝暦10年　9月23日 快晴 今朝大霜

1760年　11月1日 宝暦10年　 9月24日 曇
1760年　11月2日 宝暦10年　 9月25日 陰晴 （古懸不動尊御出汗）
1760年　11月3日 宝暦10年　 9月26日 陰晴 昨夜少しの内雨降 申の下刻より雨降
1760年　11月4日 宝暦10年　 9月27日 曇 昨夜中の雨今朝に及ぶ 辰の同刻頃イヌイノ方虹見る 巳の上刻地震 暫くの内余程つよし 午の刻頃丸雪降 （古懸不動尊御出汗）
1760年　11月5日 宝暦10年　 9月28日 晴
1760年　11月6日 宝暦10年　 9月29日 陰晴 （永の御暇3人）
1760年　11月7日 宝暦10年　 9月30日 曇 今朝卯の中刻まで雨 卯の下刻より止む 午の刻過ぎより雨
1760年　11月8日 宝暦10年　 10月1日 晴 （掃除小人召抱の際5尺4寸以上とする、9月中所々御関所出人都合100人：碇関87人（御印紙出73・切手紙出14）・大間越6人（御印紙出2・切手紙出4）・野内7人（御印紙出3・切手紙出4））
1760年　11月9日 宝暦10年　 10月2日 曇 今朝巳の刻過ぎより雨降 その前乾之方に虹見る
1760年 11月10日 宝暦10年　 10月3日 陰晴 昨夜中雨 今朝岩木山に雪見る 未の刻過ぎより申の刻まて雨強し 酉の刻頃雷二三度発す 稲光 （御風呂屋口より御鷹野に御供揃えにて御出）
1760年 11月11日 宝暦10年　 10月4日 晴
1760年 11月12日 宝暦10年　 10月5日 快晴 今朝霜多し
1760年 11月13日 宝暦10年　 10月6日 快晴
1760年 11月14日 宝暦10年　 10月7日 曇 朝より午の刻頃まて晴
1760年 11月15日 宝暦10年　 10月8日 快晴 申の刻頃北東の方に虹見る 午の刻頃より雨時々
1760年 11月16日 宝暦10年　 10月9日 霽 辰の刻前雨少々 （御能）
1760年 11月17日 宝暦10年　 10月10日 快晴 昨夜中時々雪
1760年 11月18日 宝暦10年　 10月11日 曇 （今日御献上の鮭差し立てる）
1760年 11月19日 宝暦10年　 10月12日 快晴
1760年 11月20日 宝暦10年　 10月13日 快晴 今朝辰の中刻西の方虹見る
1760年 11月21日 宝暦10年　 10月14日 曇 昨夜中より時々雨 今朝に及ぶ
1760年 11月22日 宝暦10年　 10月15日 曇 昨夜中風雨 今朝辰の中刻雷発す 午の中刻過ぎまで （人事異動）
1760年 11月23日 宝暦10年　 10月16日 曇 昨夜中風雨 今朝に及ぶ 卯の刻日蝕 今日時々小雨 （御手廻千田某を腰抜け払い・同成田某を阿呆払い、百姓江理不尽な致し方の御手廻与力に永の御暇）
1760年 11月24日 宝暦10年　 10月17日 陰晴 昨夜中丸雪交じり大風雨 近山まで雪見る（御家中の鎗術・剣術高覧）
1760年 11月25日 宝暦10年　 10月18日 快晴 近山まで一園雪見る 申の刻より小雨
1760年 11月26日 宝暦10年　 10月19日 曇 昨夜中の雨今朝まて 今日時々雨 （今日御夕飯後剣術高覧）
1760年 11月27日 宝暦10年　 10月20日 曇 昨夜中雪二寸ほど 今日終日小雪降る （初雪御機嫌伺い）
1760年 11月28日 宝暦10年　 10月21日 曇 昨夜中雨 今朝巳の刻頃より風 未の刻頃より大風になる 同刻水雪降る
1760年 11月29日 宝暦10年　 10月22日 曇 昨夜中大風雪 今朝より風立つ 小雪時々降る
1760年 11月30日 宝暦10年　 10月23日 快晴 昨夜雨 霰時々 今朝大雪
1760年　 12月1日 宝暦10年　 10月24日 曇 昨夜中の雪今朝二寸ほど 辰の刻より雪 今日も終日雪
1760年　 12月2日 宝暦10年　 10月25日 陰晴 辰の中刻より時々雪
1760年　 12月3日 宝暦10年　 10月26日 陰晴 昨夜中雪四寸ほど降
1760年　 12月4日 宝暦10年　 10月27日 快晴
1760年　 12月5日 宝暦10年　 10月28日 曇 巳の刻過ぎより雨
1760年　 12月6日 宝暦10年　 10月29日 陰晴 昨夜中雨 下から続く 掃除小人11人（5尺4寸1歩から5尺4寸7歩が10・5尺6寸8歩が1）を新規召抱え）
1760年　 12月7日 宝暦10年　 11月1日 曇 昨夜中雨 今暁まて 今日少し雨 （人事異動、10月中所々御関所出人都合103人：碇関100人（御印紙出57・切手紙出43）・大間越2人（御印紙出）・野内1人（御印紙出）、 上に続く
1760年　 12月8日 宝暦10年　 11月2日 陰晴 今朝雪少々降
1760年　 12月9日 宝暦10年　 11月3日 曇 昨夜中雪吹 今日も終日雪吹
1760年 12月10日 宝暦10年　 11月4日 曇 昨夜中雪 今日終日時々雪
1760年 12月11日 宝暦10年　 11月5日 曇 今日午の刻より雪
1760年 12月12日 宝暦10年　 11月6日 曇 今日辰の刻頃小雨
1760年 12月13日 宝暦10年　 11月7日 曇 昨夜中雪吹 今日時々雪
1760年 12月14日 宝暦10年　 11月8日 曇 終日雪降 （昨7日本堂を除く久渡寺と土蔵を焼失）
1760年 12月15日 宝暦10年　 11月9日 快晴
1760年 12月16日 宝暦10年　 11月10日 曇 昨夜中より雨 水雪降る事終日
1760年 12月17日 宝暦10年　 11月11日 曇 昨夜中雪 今朝四五寸ほど積もる 朝の内晴 巳の刻過ぎより雪降る 下から続く 御印紙出64・切手紙出15・入り82・諸家中出入合19・出入り合206人）
1760年 12月18日 宝暦10年　 11月12日 陰晴 朝の内雪少々降 （碇関：御印紙出57・往来証文出8・切手紙出56・入り129・出入り人数合250人、大間越：御印紙出78・切手紙出2・入り11・出入り合91人、野内： 上に続く
1760年 12月19日 宝暦10年　 11月13日 曇 朝より午の刻まて雪
1760年 12月20日 宝暦10年　 11月14日 快晴 （御家老堀五郎右衛門に一粒金丹30粒）
1760年 12月21日 宝暦10年　 11月15日 快晴 昨夜中霜多し 未の刻過ぎ雨水雪降 酉の刻過ぎより晴れる 今日より冬至に入る
1760年 12月22日 宝暦10年　 11月16日 快晴 今朝大霜
1760年 12月23日 宝暦10年　 11月17日 快晴 午の刻より薄曇
1760年 12月24日 宝暦10年　 11月18日 曇 昨夜中の雨今朝に及ぶ 辰の下刻稲光 雷両度強く発す
1760年 12月25日 宝暦10年　 11月19日 曇 昨夜中より雪吹 風強し 今日終日雪降
1760年 12月26日 宝暦10年　 11月20日 曇 昨夜中大雪吹 今日も雪吹 （石郷岡某に一粒金丹3粒）
1760年 12月27日 宝暦10年　 11月21日 曇 終日雪吹 （寺社方江御慰之御能見物）
1760年 12月28日 宝暦10年　 11月22日 曇 終日時々雪
1760年 12月29日 宝暦10年　 11月23日 曇
1760年 12月30日 宝暦10年　 11月24日 曇 昨夜中の雨今日終日 時々雪 風吹く 即夜に入る （御用人戸田清左衛門に一粒金丹10粒）
1760年 12月31日 宝暦10年　 11月25日 曇 今朝より時々雪

1761年　1月1日 宝暦10年　11月26日 晴　朝の内小雪 （5尺6寸4歩の足軽目付を御徒に登用、金米銭の貸借が無法の高歩・止めるように申付ける）
1761年　1月2日 宝暦10年　11月27日 曇　昼頃までの内晴　それより時々小雪
1761年　1月3日 宝暦10年　11月28日 陰晴
1761年　1月4日 宝暦10年　11月29日 快晴
1761年　1月5日 宝暦10年　11月30日 曇　巳の七刻より小寒に入る　今日時々小雪
1761年　1月6日 宝暦10年　12月1日 快晴　昨夜中の雪二寸ほど （11月中碇関口出人都合74人（御印紙出50・切手紙出24））
1761年　1月7日 宝暦10年　12月2日 快晴
1761年　1月8日 宝暦10年　12月3日 陰晴　昨夜より寒つよし （御献上雉子荷物差し立てる）
1761年　1月9日 宝暦10年　12月4日 曇　午の刻頃より雪
1761年　1月10日 宝暦10年　12月5日 曇　終日ふぶき
1761年　1月11日 宝暦10年　12月6日 曇　時々雪降
1761年　1月12日 宝暦10年　12月7日 快晴
1761年　1月13日 宝暦10年　12月8日 快晴　昨夜中亥の刻頃まて雪少々
1761年　1月14日 宝暦10年　12月9日 陰晴 （御献上の鱈高覧）
1761年　1月15日 宝暦10年　12月10日 曇　未明より雨降
1761年　1月16日 宝暦10年　12月11日 快晴　申の下刻頃雪
1761年　1月17日 宝暦10年　12月12日 快晴　朝の内小雪
1761年　1月18日 宝暦10年　12月13日 曇
1761年　1月19日 宝暦10年　12月14日 曇　終日雨
1761年　1月20日 宝暦10年　12月15日 快晴 （人事異動）
1761年　1月21日 宝暦10年　12月16日 曇　今朝より時々小雪
1761年　1月22日 宝暦10年　12月17日 陰晴　時々雪降
1761年　1月23日 宝暦10年　12月18日 曇　朝より小雪
1761年　1月24日 宝暦10年　12月19日 陰晴　今朝の暫くの内雪
1761年　1月25日 宝暦10年　12月20日 曇 （藤崎組が御収納米・三斗米・御借り米等を17日に上納皆済）
1761年　1月26日 宝暦10年　12月21日 陰晴 （御能）
1761年　1月27日 宝暦10年　12月22日 陰晴 （木村鉄五郎に一粒金丹3粒）
1761年　1月28日 宝暦10年　12月23日 快晴 （15日夜酒狂いの足軽目付に永の御暇）
1761年　1月29日 宝暦10年　12月24日 快晴　昨夜中小雪 （西館織部に一粒金丹5粒）
1761年　1月30日 宝暦10年　12月25日 曇　今暁雪吹　今日終日小雪
1761年　1月31日 宝暦10年　12月26日 晴　朝の内曇　雪吹
1761年　2月1日 宝暦10年　12月27日 快晴
1761年　2月2日 宝暦10年　12月28日 陰晴　昨夜中より今朝辰の刻過ぎまて時々雪
1761年　2月3日 宝暦10年　12月29日 快晴
1761年　2月4日 宝暦10年　12月30日 曇　朝五時より雪終日
1761年　2月5日 宝暦11年正月1日　晴　昨夜中雪吹　今朝辰の刻まて時々小雪
1761年　2月6日 宝暦11年正月2日　曇　昨夜中より小雪時々
1761年　2月7日 宝暦11年正月3日　曇　昨夜中より雪時々 （御謡初）
1761年　2月8日 宝暦11年正月4日　快晴 （大鰐村より七種差上げる）
1761年　2月9日 宝暦11年正月5日　快晴
1761年　2月10日 宝暦11年正月6日　快晴　酉の下刻より雪
1761年　2月11日 宝暦11年正月7日　曇　昨夜中雪　今暁雪一尺ほど降る　今日時々雪
1761年　2月12日 宝暦11年正月8日　晴 （御朱印四時半過ぎ御至着）
1761年　2月13日 宝暦11年正月9日　曇　卯の刻より雪降
1761年　2月14日 宝暦11年正月10日　晴　昨夜中雪　尺程降
1761年　2月15日 宝暦11年正月11日　晴 （西舘織部を手廻組頭などの人事異動）
1761年　2月16日 宝暦11年正月12日　曇　今朝終日大雪吹 （御能初）
1761年　2月17日 宝暦11年正月13日　陰晴　昨夜中雪吹　今日時々雪
1761年　2月18日 宝暦11年正月14日　快晴　朝の内曇時々雪
1761年　2月19日 宝暦11年正月15日　曇　時々雨降
1761年　2月20日 宝暦11年正月16日　曇　昨夜中小雪　終日時々小雪　昨日より暖気なり
1761年　2月21日 宝暦11年正月17日　曇　昨夜中雪吹　今日も時々雪吹 （12月中所々御関所出人都合116人：碇関110人（御印紙出88・切手紙出22）・野内6人（切手紙出））
1761年　2月22日 宝暦11年正月18日　快晴 （広須組下古川村に旅の乱心者・捕らえる）
1761年　2月23日 宝暦11年正月19日　曇　昨夜中雪五寸ほど
1761年　2月24日 宝暦11年正月20日　晴
1761年　2月25日 宝暦11年正月21日　曇　今朝の雨辰の刻より晴　午の刻過ぎより時々小雨　風立つ （阿呆払より腰抜払の方が罪が重いらしい）
1761年　2月26日 宝暦11年正月22日　曇　昨夜中より風立つ　今日も時々風　終日雪降
1761年　2月27日 宝暦11年正月23日　曇　昨夜中雪吹強し　今暁雪三寸程ふる　今日時々小雪吹
1761年　2月28日 宝暦11年正月24日　晴 （尾太銅山で21日不動沢より雪が小屋押し潰す・11人中7人死亡）

1761年　3月1日 宝暦11年正月25日　陰晴　午の刻頃より小雨　酉の刻過ぎより初雷発し
1761年　3月2日 宝暦11年正月26日　曇　今朝辰の刻過ぎ小雨　その後水雪 （御手廻組頭森岡主膳の用人兼役を解く）
1761年　3月3日 宝暦11年正月27日　陰晴　昨夜中大雪吹　今朝雪五寸ほど降る
1761年　3月4日 宝暦11年正月28日　陰晴　昨夜中雪吹　今朝六寸ほど降 （喜多村監物を御家老にその他の人事異動）
1761年　3月5日 宝暦11年正月29日　曇　朝の内時々巳の中刻頃より雪
1761年　3月6日 宝暦11年正月30日　曇　午の刻過ぎより晴　その前時々雪降
1761年　3月7日 宝暦11年　2月1日 晴　昨夜中雪 （正月中所々御関所出人都合251人：碇関246人（御印紙出233・切手紙出13）・野内5人（御印紙出2・切手紙出3））
1761年　3月8日 宝暦11年　2月2日 曇　昨夜中の雪五寸程　今日時々小雪 （御手廻組頭津軽百助御役御免）
1761年　3月9日 宝暦11年　2月3日 陰晴　今日初雁声聞へ （御供揃えで御家老十左衛門宅に御成り・御帰城は御風呂屋口より御入り）
1761年　3月10日 宝暦11年　2月4日 曇　昨夜雪尺五寸ほど　暁より辰の下刻まて大雪　その後時々雪
1761年　3月11日 宝暦11年　2月5日 快晴
1761年　3月12日 宝暦11年　2月6日 快晴
1761年　3月13日 宝暦11年　2月7日 晴
1761年　3月14日 宝暦11年　2月8日 快晴
1761年　3月15日 宝暦11年　2月9日 晴
1761年　3月16日 宝暦11年　2月10日 曇　午の刻小雨　四方一円に雪　暮まで(か?) （15日に御発駕と仰せ出だされる）
1761年　3月17日 宝暦11年　2月11日 曇　昨夜中雪少々　朝の内雪　巳の刻頃より疎(快?)なる （御家中の知行召上げ永の暇・関連の追放など）
1761年　3月18日 宝暦11年　2月12日 曇
1761年　3月19日 宝暦11年　2月13日 曇 （毛内弥藤太の強弓を高覧、去る10日御献上の塩鱈御仕立て）
1761年　3月20日 宝暦11年　2月14日 曇　昨夜中雪一寸ほど　今日も折々小雪
1761年　3月21日 宝暦11年　2月15日 快晴　昨夜中雪一寸ほど
1761年　3月22日 宝暦11年　2月16日 快晴
1761年　3月23日 宝暦11年　2月17日 陰晴
1761年　3月24日 宝暦11年　2月18日 晴　昨夕申の下刻小雨時々
1761年　3月25日 宝暦11年　2月19日 快晴
1761年　3月26日 宝暦11年　2月20日 快晴
1761年　3月27日 宝暦11年　2月21日 曇　辰の刻過ぎ小雨
1761年　3月28日 宝暦11年　2月22日 曇　昨夜中雨　今朝四方霞
1761年　3月29日 宝暦11年　2月23日 快晴　昨夜中少々雪降
1761年　3月30日 宝暦11年　2月24日 快晴　今朝雪降る
1761年　3月31日 宝暦11年　2月25日 陰晴　今朝霜
1761年　4月1日 宝暦11年　2月26日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1761年　4月2日 宝暦11年　2月27日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々　昼時より快也
1761年　4月3日 宝暦11年　2月28日 曇　昨夜中雪　今朝より雪終日
1761年　4月4日 宝暦11年　2月29日 快晴 （古切支丹類族土手町まん病死）
1761年　4月5日 宝暦11年　3月1日 快晴　昨夜中小雪 （2月中所々御関所出人都合146人：碇関130人（御印紙出49・切手紙で81）・野内9人（御印紙出3・切手紙出6）・大間越7人（切手紙出））
1761年　4月6日 宝暦11年　3月2日 快晴　昨夜中雪一寸ほど
1761年　4月7日 宝暦11年　3月3日 快晴
1761年　4月8日 宝暦11年　3月4日 快晴
1761年　4月9日 宝暦11年　3月5日 快晴
1761年　4月10日 宝暦11年　3月6日 快晴
1761年　4月11日 宝暦11年　3月7日 快晴
1761年　4月12日 宝暦11年　3月8日 晴　辰の刻過ぎ小風　巳の刻頃より雲
1761年　4月13日 宝暦11年　3月9日 雲 （御初駕の御能四時前初・六時前相済む）
1761年　4月14日 宝暦11年　3月10日 快晴
1761年　4月15日 宝暦11年　3月11日 快晴
1761年　4月16日 宝暦11年　3月12日 快晴
1761年　4月17日 宝暦11年　3月13日 曇
1761年　4月18日 宝暦11年　3月14日 晴　昨夜中戌の刻過ぎより小雨
1761年　4月19日 宝暦11年　3月15日 快晴 （今日巳の刻屋形様御発駕）
1761年　4月20日 宝暦11年　3月16日 快晴 （今朝六時過ぎ碇関御発駕）
1761年　4月21日 宝暦11年　3月17日 曇　午の刻より晴
1761年　4月22日 宝暦11年　3月18日 晴
1761年　4月23日 宝暦11年　3月19日 曇　昨夜中丑の刻過ぎよりの雨今朝に及ぶ　今日時々雨　今夜半頃風雨
1761年　4月24日 宝暦11年　3月20日 曇　今朝より小雨時々
1761年　4月25日 宝暦11年　3月21日 曇　今朝よりの雨時々
1761年　4月26日 宝暦11年　3月22日 曇　昨夜中雨少々降 （青森町同心警固と同所御印書きを永の暇）
1761年　4月27日 宝暦11年　3月23日 陰晴
1761年　4月28日 宝暦11年　3月24日 曇
1761年　4月29日 宝暦11年　3月25日 曇　今朝小雨　少しの内
1761年　4月30日 宝暦11年　3月26日 昨夜水霜　巳の刻過ぎより曇る

1761年　5月1日 宝暦11年　3月27日 曇　今朝大霜
1761年　5月2日 宝暦11年　3月28日 曇　今朝大霜　晴　午の刻より雨
1761年　5月3日 宝暦11年　3月29日 快晴　今朝霜
1761年　5月4日 宝暦11年　3月30日 陰晴　(住吉稲荷神主山村父子蟄居・子の娘に長利(熊野宮の神官)の次男を婿養子に)
1761年　5月5日 宝暦11年　4月1日 晴　(3月中所々御関所出人都合194人:碇関186人(御印紙出63・切手紙出123)・大間越3人(切手紙出)・野内5人(御国人だから多分切手紙出))
1761年　5月6日 宝暦11年　4月2日 快晴　今朝霜
1761年　5月7日 宝暦11年　4月3日 陰晴　朝の内時々小雨　(去る2月碇関で出火?・御巡検使様の御宿も仰せ付けられており柾や木舞が欲しいとのこと)
1761年　5月8日 宝暦11年　4月4日 曇　巳の刻より雨　午の刻頃止む
1761年　5月9日 宝暦11年　4月5日 晴　昨夜中風雨
1761年　5月10日 宝暦11年　4月6日 晴　昨夜中風雨　今日も終日
1761年　5月11日 宝暦11年　4月7日 曇　朝の内晴れる　(五山並びに四社で例年のとおり五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1761年　5月12日 宝暦11年　4月8日 晴　昨夜中風雨　卯の刻頃止む　昼の内風立つ
1761年　5月13日 宝暦11年　4月9日 晴　昨夜中小雨
1761年　5月14日 宝暦11年　4月10日 陰晴　(浪岡組吉内村に野火(70間×40間・150間×80間))
1761年　5月15日 宝暦11年　4月11日 快晴
1761年　5月16日 宝暦11年　4月12日 晴
1761年　5月17日 宝暦11年　4月13日 快晴　(屋形様は今朝(3日頃か)草下御発駕・直ちに御老中様にお勤め遊ばされ九時過ぎ御着府)
1761年　5月18日 宝暦11年　4月14日 曇　午の刻より小雨　雷一度発す
1761年　5月19日 宝暦11年　4月15日 曇　昨日雨　今朝に及ぶ
1761年　5月20日 宝暦11年　4月16日 晴
1761年　5月21日 宝暦11年　4月17日 快晴
1761年　5月22日 宝暦11年　4月18日 快晴　申の下刻頃より雨　夜中に及ぶ
1761年　5月23日 宝暦11年　4月19日 曇　昨夜中雨　今日に及ぶ
1761年　5月24日 宝暦11年　4月20日 曇　辰の刻より雨
1761年　5月25日 宝暦11年　4月21日 曇　昨夜中雨少々　今朝辰の刻より風雨　(先だって大坂の舟が上磯龍濱前浜で破船)
1761年　5月26日 宝暦11年　4月22日 曇　昨夜中風雨　今日時々雨　午の刻頃より快晴
1761年　5月27日 宝暦11年　4月23日 快晴
1761年　5月28日 宝暦11年　4月24日 快晴　(高杉・駒越組で打ち続く風雨にて苗が消えた・種籾を余分に持つものもなく貯え籾から47石2斗貸す・当暮れ2割の利息)
1761年　5月29日 宝暦11年　4月25日 曇　辰の中刻少しの内雨　雷二三度　稲光　それより風立つ
1761年　5月30日 宝暦11年　4月26日 快晴　　下から続く　　こと鴨太犬(カモタインか)など、和徳組に種籾16石貸す)
1761年　5月31日 宝暦11年　4月27日 快晴　今朝四方一円に雲谷(靄:もやの方言かな)　(おとな狀6人に申付ける・それまでの2人は年寄りで休める:名前は釜沢の金七こと熊か犬(クマカインか)・宇鉄の七兵衛　　上に続く
1761年　6月1日 宝暦11年　4月28日 快晴
1761年　6月2日 宝暦11年　4月29日 晴　今朝四方一円に雲谷　(浪岡組相沢村で25日野火(400間×260間)
1761年　6月3日 宝暦11年　5月1日 快晴　辰の刻頃雷発す　(4月中所々御関所出人都合230人:碇関223人(御印紙出137・切手紙出86)・大間越5人(切手紙出)・野内2人(切手紙出))
1761年　6月4日 宝暦11年　5月2日 陰晴　辰の刻小雨　則止む　午の上刻ころ一度雷発す
1761年　6月5日 宝暦11年　5月3日 曇　昨夜酉の刻頃より雨　今日に及ぶ
1761年　6月6日 宝暦11年　5月4日 曇
1761年　6月7日 宝暦11年　5月5日 曇
1761年　6月8日 宝暦11年　5月6日 晴　今朝辰の刻過ぎまて霧　其の後晴に成る
1761年　6月9日 宝暦11年　5月7日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨　今暁に及ぶ　今日巳の刻過ぎ小雨　(昨夜茂森町で出火7軒焼失3軒潰れ家・火元入寺)
1761年　6月10日 宝暦11年　5月8日 曇
1761年　6月11日 宝暦11年　5月9日 晴
1761年　6月12日 宝暦11年　5月10日 曇　巳の刻過ぎより雨
1761年　6月13日 宝暦11年　5月11日 晴　朝の内曇　辰の刻過ぎ少しの内雨
1761年　6月14日 宝暦11年　5月12日 晴　朝の内曇　終日風立つ　雨少々降
1761年　6月15日 宝暦11年　5月13日 陰晴
1761年　6月16日 宝暦11年　5月14日 快晴
1761年　6月17日 宝暦11年　5月15日 快晴
1761年　6月18日 宝暦11年　5月16日 曇
1761年　6月19日 宝暦11年　5月17日 晴　朝の内曇　午の刻過ぎ雷数度発す　昼の内雨
1761年　6月20日 宝暦11年　5月18日 晴　今朝曇
1761年　6月21日 宝暦11年　5月19日 快晴　(今日四時半青森米町で男自害)
1761年　6月22日 宝暦11年　5月20日 快晴　今朝初めて蝉の声聞く
1761年　6月23日 宝暦11年　5月21日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1761年　6月24日 宝暦11年　5月22日 曇　朝の内小雨
1761年　6月25日 宝暦11年　5月23日 曇　朝の内雨降
1761年　6月26日 宝暦11年　5月24日 曇　昨夜子の刻より雨
1761年　6月27日 宝暦11年　5月25日 陰晴　未の刻頃より雨
1761年　6月28日 宝暦11年　5月26日 晴
1761年　6月29日 宝暦11年　5月27日 快晴　午の刻過ぎ俄に曇　雷二三度発す
1761年　6月30日 宝暦11年　5月28日 快晴

1761年　7月1日 宝暦11年　5月29日 快晴
1761年　7月2日 宝暦11年　6月1日 陰晴 （御巡検使当月2日御領内入、5月中所々御関所出人都合93人：碇関78人（御印紙出59・切手紙出19）・野内15人（御印紙出4・切手紙出11））
1761年　7月3日 宝暦11年　6月2日 快晴 昨夜中丑の刻地震 （御巡検使3人今日碇関御着き）
1761年　7月4日 宝暦11年　6月3日 快晴
1761年　7月5日 宝暦11年　6月4日 今朝巳の刻過ぎまて曇 それより晴 午の刻過ぎ雷二三度発す 小雨則止む
1761年　7月6日 宝暦11年　6月5日 曇
1761年　7月7日 宝暦11年　6月6日 快晴
1761年　7月8日 宝暦11年　6月7日 陰晴 朝の内雲谷
1761年　7月9日 宝暦11年　6月8日 晴 朝の内曇 午の刻過ぎ雷度々発す
1761年　7月10日 宝暦11年　6月9日 快晴 朝の内曇 午の刻頃雷一度発す （御巡検使昨8日三馬屋御出船）
1761年　7月11日 宝暦11年　6月10日 快晴 朝の内霧
1761年　7月12日 宝暦11年　6月11日 晴 朝の内四方霞
1761年　7月13日 宝暦11年　6月12日 晴 午の刻小雨 その後申の刻頃より大雨 夜に及ぶ
1761年　7月14日 宝暦11年　6月13日 曇 昨夜中より今日まて終日雨
1761年　7月15日 宝暦11年　6月14日 曇 卯の刻過ぎ少し雨 （昨夜中青森本町で男自害・今昼死亡、昨夜御持鑓中間の親縊死）
1761年　7月16日 宝暦11年　6月15日 陰晴 卯の刻過ぎ雨 則止む 午の刻より雨 時々雷発す
1761年　7月17日 宝暦11年　6月16日 曇 卯の刻過ぎより雨 午の刻止む
1761年　7月18日 宝暦11年　6月17日 曇 卯の下刻小雨
1761年　7月19日 宝暦11年　6月18日 曇 今日より土用に入る
1761年　7月20日 宝暦11年　6月19日 陰晴 昨夜中大雨 朝の内曇
1761年　7月21日 宝暦11年　6月20日 曇 昨夜中戌の刻雷発す
1761年　7月22日 宝暦11年　6月21日 晴 今朝辰の刻頃まて一円霧 （12日に8日振りと仰せ付けた江戸からの飛脚が20日に9日振りに到着・大御所様（9代将軍徳川家重）御不例・今暁丑の刻薨去）
1761年　7月23日 宝暦11年　6月22日 曇
1761年　7月24日 宝暦11年　6月23日 陰晴 昨夜中酉の刻過ぎ小雨 則止む
1761年　7月25日 宝暦11年　6月24日 晴
1761年　7月26日 宝暦11年　6月25日 陰晴 辰の下刻まて曇 申の刻過ぎ小雨 夜中に及ぶ
1761年　7月27日 宝暦11年　6月26日 晴 朝の内霞
1761年　7月28日 宝暦11年　6月27日 快晴 朝の内霞　下から続く　摺立るようにする：不作対策だろうが意味不明、転び切支丹類族病死）
1761年　7月29日 宝暦11年　6月28日 曇 （御元方郡奉行申し立て：当年御米金過分に不足につき去る辰年（去年）公儀より仰せ付けられた御貯え籾御除き分5000俵と丑年（宝暦7年）以来御内の御貯え籾15000俵を　上に続く
1761年　7月30日 宝暦11年　6月29日 快晴 午の刻雷二三度発す （御巡検使様昨夜青森御着岸）
1761年　7月31日 宝暦11年　6月30日 曇 今朝辰の刻小雨
1761年　8月1日 宝暦11年　7月1日 陰晴 （6月中所々御関所出人都合126人：碇関121人（御印紙出78・切手紙出43）・野内3人（御印紙出1・切手紙出2）・大間越2人（切手紙出））
1761年　8月2日 宝暦11年　7月2日 陰晴 （当月朔日御巡検使様狩場沢をお通り南部領へ、五山で五穀成就の御祈祷を行うよう申付ける）
1761年　8月3日 宝暦11年　7月3日 快晴
1761年　8月4日 宝暦11年　7月4日 曇 今朝辰の刻より小雨
1761年　8月5日 宝暦11年　7月5日 陰晴 朝の内曇 辰の刻まて時々小雨 則刻止む
1761年　8月6日 宝暦11年　7月6日 快晴 （今日大鰐村より初穂差上げる）
1761年　8月7日 宝暦11年　7月7日 快晴
1761年　8月8日 宝暦11年　7月8日 快晴　下から続く　・野内642人（内入り人393））
1761年　8月9日 宝暦11年　7月9日 快晴 巳の刻くもる （当7月渡し俵子金給御切米御手繰り合い相成り候間明10日より相渡すようにする、6月中出入人数：碇関317人（内入り人194）・大間越53人（内入り人41）　上に続く
1761年　8月10日 宝暦11年　7月10日 快晴 朝の内大霧 午の刻まて曇 午の下刻過ぎ地震強し 雷三度発す
1761年　8月11日 宝暦11年　7月11日 快晴
1761年　8月12日 宝暦11年　7月12日 陰晴 午の下刻雨降
1761年　8月13日 宝暦11年　7月13日 快晴
1761年　8月14日 宝暦11年　7月14日 快晴
1761年　8月15日 宝暦11年　7月15日 快晴
1761年　8月16日 宝暦11年　7月16日 快晴
1761年　8月17日 宝暦11年　7月17日 快晴 （昨15日昼七半時飯詰山で山火事（30間×20間）・同夜八時まて火消す）
1761年　8月18日 宝暦11年　7月18日 快晴 残暑甚だつよし
1761年　8月19日 宝暦11年　7月19日 快晴
1761年　8月20日 宝暦11年　7月20日 快晴
1761年　8月21日 宝暦11年　7月21日 曇 昨夜中雨 今朝時々雨 尤も南風添う 朝の内〇（虫偏に東のような文字：虹か）見へる
1761年　8月22日 宝暦11年　7月22日 快晴
1761年　8月23日 宝暦11年　7月23日 快晴
1761年　8月24日 宝暦11年　7月24日 曇 巳の刻より雨 （大鰐村加賀之介・兵左衛門より初米6俵上がる・去年は7月6日差上げる）
1761年　8月25日 宝暦11年　7月25日 快晴
1761年　8月26日 宝暦11年　7月26日 陰晴 未の刻小雨 酉の刻止む
1761年　8月27日 宝暦11年　7月27日 曇 昨夜戌の刻風立つ 小雨 今日に及ぶ 巳の刻頃より晴
1761年　8月28日 宝暦11年　7月28日 陰晴
1761年　8月29日 宝暦11年　7月29日 曇
1761年　8月30日 宝暦11年　8月1日 陰晴 昨夜中時々雨 巳の下刻少々雷発す 今朝西の方虹見ゆる
1761年　8月31日 宝暦11年　8月2日 陰晴 （昨日岩木山の種蒔き苗代の上に土手町の50余男頓死、7月29日鯵ヶ沢で2艘破船・金井ヶ沢で2艘荷打ち・舞戸濱で2艘破船）

1761年　9月1日 宝暦11年　8月3日 快晴 （岩木山の苔の実は御婦人方には差上げないのだという。一昨28日小泊湊で破船11艘、同役の羽織を盗み取った表坊主を永の暇・弘前追放）
1761年　9月2日 宝暦11年　8月4日 陰晴 （津軽右京太夫為信の戒名は前五品天室源棟居士とあり、従四位ではなかったようだ）
1761年　9月3日 宝暦11年　8月5日 陰晴 未の刻より雨 （7月29日広戸村で破船・1人死亡、同日驫木村前浜に破船1艘）
1761年　9月4日 宝暦11年　8月6日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ （去る3日暮六時広須組下古川村出火災1軒（3間×5間・高無）・火元村預け、横内組久栗坂村で狼あれ鉄砲玉10など渡す）
1761年　9月5日 宝暦11年　8月7日 快晴
1761年　9月6日 宝暦11年　8月8日 晴
1761年　9月7日 宝暦11年　8月9日 陰晴 （隠鍛冶炭焼きだし商売をし2人居村追放・両村庄屋戸〆）
1761年　9月8日 宝暦11年　8月10日 曇 申の刻より大雨 夜に入る （碇関町の代庄屋等が小落前沢で盗み杣発見・柾4600枚・小鍋3枚・せん（鏟か）1挺入手・犯人逃亡）
1761年　9月9日 宝暦11年　8月11日 曇 昨夜中より今朝に至る 今日終日雨
1761年　9月10日 宝暦11年　8月12日 快晴
1761年　9月11日 宝暦11年　8月13日 曇 辰の刻過ぎより雨終日
1761年　9月12日 宝暦11年　8月14日 快晴 昨夜中雨
1761年　9月13日 宝暦11年　8月15日 快晴 昨夜中より時々雨
1761年　9月14日 宝暦11年　8月16日 曇 下から続く 7月中出入り：碇関334人（入り人数210）・野内549人（入り人数331）・大間越71人（入り人数36））
1761年　9月15日 宝暦11年　8月17日 晴 昨夜中雨 下から続く （切手紙出）、去月29日後潟組今別村の強風で田方12町4反余（分米89石8斗余）塩霧夥しく吹上げ全滅・残る61町2反余の3ヶ1は穂が垂れない 上に続く
1761年　9月16日 宝暦11年　8月18日 曇 昨夜中より雨 今朝に及ぶ 巳の刻より雨止む （7月中所々御関所出人都合128人：碇関121人（御印紙出85・切手紙出36）・大間越6人（御印紙出5・切手紙出1）・野内1人 上に続く
1761年　9月17日 宝暦11年　8月19日 快晴
1761年　9月18日 宝暦11年　8月20日 快晴 昨夜亥の刻頃小雨 雷発す 則刻止む
1761年　9月19日 宝暦11年　8月21日 晴
1761年　9月20日 宝暦11年　8月22日 曇 昨夜亥の刻過ぎより雨 今日に及ぶ
1761年　9月21日 宝暦11年　8月23日 快晴 昨夜中雨 （当月に入り天気荒れ続き岩木嵩湯段とも湯治停止）
1761年　9月22日 宝暦11年　8月24日 陰晴 午の刻少しの内小雨
1761年　9月23日 宝暦11年　8月25日 陰晴 （不届きな男を弘前並びに大所御構五里四方追放）
1761年　9月24日 宝暦11年　8月26日 曇 朝辰の刻小雨 午の刻過ぎ雨降 西の方虹みゆる
1761年　9月25日 宝暦11年　8月27日 快晴
1761年　9月26日 宝暦11年　8月28日 曇 （町払い申し伝えたのに立ち返り死罪にならず大所御構弘前より三里四方追放男1人・無銭飲酒で弘前並びに居村追放男1人、村払いなど8人）
1761年　9月27日 宝暦11年　8月29日 快晴 昨夜中雨
1761年　9月28日 宝暦11年　9月1日 曇 申の刻より酉の刻頃まて雨降 （多分8月中所々御関所出人：碇関109人（御印紙出105・切手紙出4）・大間越6人（御印紙出2・切手紙出4）・野内31人（御印紙出））
1761年　9月29日 宝暦11年　9月2日 快晴
1761年　9月30日 宝暦11年　9月3日 快晴 昨夜中雨
1761年　10月1日 宝暦11年　9月4日 陰晴 昨夜中雨 今朝に及び辰の刻止む （昨3日御台所より初鮭1尺差し上げる）
1761年　10月2日 宝暦11年　9月5日 快晴 申の刻過ぎ雨少々
1761年　10月3日 宝暦11年　9月6日 曇 辰の刻より雨 酉の刻止む
1761年　10月4日 宝暦11年　9月7日 陰晴
1761年　10月5日 宝暦11年　9月8日 曇
1761年　10月6日 宝暦11年　9月9日 快晴
1761年　10月7日 宝暦11年　9月10日 快晴 今朝水霜多し （博打打男町払い）
1761年　10月8日 宝暦11年　9月11日 快晴
1761年　10月9日 宝暦11年　9月12日 曇 辰の刻過ぎより雨終日降
1761年 10月10日 宝暦11年　9月13日 曇 昨夜中より雨 今日午の刻に及ぶ 未の刻過ぎより晴になる
1761年 10月11日 宝暦11年　9月14日 快晴 昨夜中少し雨
1761年 10月12日 宝暦11年　9月15日 曇 時々少し雨 暮れに及び西風強し
1761年 10月13日 宝暦11年　9月16日 陰晴 今日時々小雨 風立つ
1761年 10月14日 宝暦11年　9月17日 陰晴
1761年 10月15日 宝暦11年　9月18日 快晴 今朝岩木嵩に初雪見へ
1761年 10月16日 宝暦11年　9月19日 曇 昨夜中雨 今朝午の刻頃まて折々雨
1761年 10月17日 宝暦11年　9月20日 快晴
1761年 10月18日 宝暦11年　9月21日 曇 昨夜中時々小雨
1761年 10月19日 宝暦11年　9月22日 曇 昨夜中より小雨
1761年 10月20日 宝暦11年　9月23日 曇 巳の刻過ぎより雨
1761年 10月21日 宝暦11年　9月24日 快晴
1761年 10月22日 宝暦11年　9月25日 快晴
1761年 10月23日 宝暦11年　9月26日 快晴 昨夜中より今暁まて時々小雨
1761年 10月24日 宝暦11年　9月27日 快晴 昨夜中雨
1761年 10月25日 宝暦11年　9月28日 陰晴 昨夜中雨
1761年 10月26日 宝暦11年　9月29日 曇 時々雨 四方の山雪ゆる
1761年 10月27日 宝暦11年　9月30日 曇 昨夜中雨 霙霰降る
1761年 10月28日 宝暦11年　10月1日 曇 昨夜中雨 今朝巳の刻過ぎより陰晴 （9月中所々御関所出人都合105人：碇関81人（御印紙出56・切手紙出25）・野内23人（御印紙出7・切手紙出16）・大間越1人（切手紙出））
1761年 10月29日 宝暦11年　10月2日 快晴 今日大霜 （当月8・16・20日駒越組中畑村の猟師仁助が熊3疋（胆生目形50目・8文目・10文目）取る）
1761年 10月30日 宝暦11年　10月3日 陰晴 今暁雨則止む （広戸村前浜に破船1艘）
1761年 10月31日 宝暦11年　10月4日 曇 巳の刻過ぎより雨

1761年　11月1日 宝暦11年　　10月5日 曇　辰の刻過ぎ小雨
1761年　11月2日 宝暦11年　　10月6日 快晴
1761年　11月3日 宝暦11年　　10月7日 快晴　昨夜中霜
1761年　11月4日 宝暦11年　　10月8日 快晴　昨夜中霜　(五山に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける、昨4日の風雨で野内御関所海手柵が痛損)
1761年　11月5日 宝暦11年　　10月9日 快晴　今朝霜
1761年　11月6日 宝暦11年　10月10日 曇　今暁より雨　今日時々　夜中ともに
1761年　11月7日 宝暦11年　10月11日 晴　今朝卯の刻過ぎ雨止む　昨夜中時々雨
1761年　11月8日 宝暦11年　10月12日 曇　今日時々小雨
1761年　11月9日 宝暦11年　10月13日 陰晴
1761年 11月10日 宝暦11年　10月14日 曇　(尾太銅山出鉛の内14箇を南部の者に売払う)
1761年 11月11日 宝暦11年　10月15日 曇　昨夜中雨　辰の刻に及ぶ(辰ノ刻及)　(代官手代52人を残らず引き取り御目見え以下御留守居支配申付ける・代官に25人を仰せ付ける)
1761年 11月12日 宝暦11年　10月16日 陰晴
1761年 11月13日 宝暦11年　10月17日 曇　昨夜中より雨　今日終日婦る
1761年 11月14日 宝暦11年　10月18日 快晴
1761年 11月15日 宝暦11年　10月19日 陰晴
1761年 11月16日 宝暦11年　10月20日 曇　昨申の刻小雨　夜中に及ぶ
1761年 11月17日 宝暦11年　10月21日 曇　昨夜中初雪　今朝時々雨
1761年 11月18日 宝暦11年　10月22日 陰晴　昨夜中より雪吹　今日時々雪　(旅のものに宜しからざる手引きをした男を弘前追放)
1761年 11月19日 宝暦11年　10月23日 晴　昨夜中雪　今朝卯の刻過ぎまて
1761年 11月20日 宝暦11年　10月24日 晴
1761年 11月21日 宝暦11年　10月25日 陰晴　今朝卯の刻小雨
1761年 11月22日 宝暦11年　10月26日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1761年 11月23日 宝暦11年　10月27日 曇　昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日時々
1761年 11月24日 宝暦11年　10月28日 曇　昨夜中の雪　今日時々雪
1761年 11月25日 宝暦11年　10月29日 快晴　昨夜中丑の刻過ぎより今朝まて小雨　午の刻過ぎより雨
1761年 11月26日 宝暦11年　　11月1日 快晴　昨夜中時々雨　(10月中所々御関所出人都合123人:碇関122(御印紙出73・切手紙出49)・野内1人(御印紙出)、当月25日十三の船が出来島濱で破船)
1761年 11月27日 宝暦11年　　11月2日 曇　今日終日雨　辰の刻頃雷発し　(雨が降り続く稲等も干せない・五山に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1761年 11月28日 宝暦11年　　11月3日 快晴　昨夜中小雨
1761年 11月29日 宝暦11年　　11月4日 快晴　今朝大霜
1761年 11月30日 宝暦11年　　11月5日 曇　今朝卯の刻過ぎ雷一度発し　巳の刻過ぎより小雨
1761年　12月1日 宝暦11年　　11月6日 曇　昨夜中雪吹　今日も時々雪　(去月21日御領地御朱印御頂戴あそばされ候につき……)
1761年　12月2日 宝暦11年　　11月7日 曇　昨夜中雪二三寸　今日も時々雪
1761年　12月3日 宝暦11年　　11月8日 陰晴　時々小雪ふる　(大組足軽30俵2人扶持の新岡兼次郎を御手筒足軽(35俵2人扶持か)に)
1761年　12月4日 宝暦11年　　11月9日 曇　昨夜中時々雪ふる
1761年　12月5日 宝暦11年　11月10日 快晴　今昼午の刻雪ふる
1761年　12月6日 宝暦11年　11月11日 曇　昨夜中時々雪ふる
1761年　12月7日 宝暦11年　11月12日 曇　昨夜中雪　今日時々雪ふる　(諸組代官手代(代官の足軽級手下)に58人の郷士(3)・庄屋(24)・百姓(31庄屋の子などを含む)を召抱える)
1761年　12月8日 宝暦11年　11月13日 曇　今日時々雪ふる　(不勤の町同心に永の暇)
1761年　12月9日 宝暦11年　11月14日 陰晴
1761年 12月10日 宝暦11年　11月15日 陰晴
1761年 12月11日 宝暦11年　11月16日 曇　今日時々雪降　(当月11日暮れ六時より12日明け六時まて十三潟が氷張る)
1761年 12月12日 宝暦11年　11月17日 曇　昨夜中雨今朝に及ぶ
1761年 12月13日 宝暦11年　11月18日 曇　(昨15日夜青森で強風・破船6艘)
1761年 12月14日 宝暦11年　11月19日 曇　巳の刻小雪　(15日の大風雨で仮繕い中の柵等が破損)
1761年 12月15日 宝暦11年　11月20日 曇　(去る16日の大風雨で碇関御仮屋が破損)
1761年 12月16日 宝暦11年　11月21日 晴　昨夜中今朝巳の刻まて雪　(当月15日夜広瀬村前浜で破船1艘)
1761年 12月17日 宝暦11年　11月22日 曇
1761年 12月18日 宝暦11年　11月23日 曇
1761年 12月19日 宝暦11年　11月24日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1761年 12月20日 宝暦11年　11月25日 曇　今朝より時々雪
1761年 12月21日 宝暦11年　11月26日 陰晴　朝の内巳の下刻まて雪ふる
1761年 12月22日 宝暦11年　11月27日 晴　昨夜中雪　今日も時々雪　(御婚礼御用金3000両)
1761年 12月23日 宝暦11年　11月28日 曇　昨夜中時々雪　今日も雪　(昨25日小泊村長松(切支丹類族扱いになった男)の伯父病死)
1761年 12月24日 宝暦11年　11月29日 晴　朝の内雪時々
1761年 12月25日 宝暦11年　11月30日 快晴　(春の七草の名:ねき・青菜・蕗の頭・もやし・すす菜・芹・はこ遍、御挟箕持に5尺6寸4歩の男を仰付ける、20日尾崎組唐竹村の甚左衛門が熊(胆長3寸廻り5寸生目方35匁:3歳)取る)
1761年 12月26日 宝暦11年　　12月1日 陰晴　(人事異動、11月中所々御関所出人都合117人:碇関113人(御印紙出102・切手紙出11)・野内4人(御印紙出2・切手紙出3))
1761年 12月27日 宝暦11年　　12月2日 快晴　　下から続く　　・両替1両につき70目5分5厘、檜木舞100枚の値段は4匁2分お役5分宛・三尺柾1000枚に付13文目・二尺柾1000枚に付き8匁6分6厘)
1761年 12月28日 宝暦11年　　12月3日 陰晴　(御蔵米入札:弘前沖役入11匁1分3厘(平米9匁9分3厘)・青森12文目5分2厘(12文目2分3厘)・鰺ヶ沢12文目5分2厘(11文目3分2厘):三口平米平均11文目1分6厘　　上に続く
1761年 12月29日 宝暦11年　　12月4日 陰晴
1761年 12月30日 宝暦11年　　12月5日 曇　昨夜中雪　今日時々雪
1761年 12月31日 宝暦11年　　12月6日 陰晴　今朝時々雪　今暁寅の刻地震

1762年　1月1日 宝暦11年　12月7日 陰晴　時々雪
1762年　1月2日 宝暦11年　12月8日 晴　朝の内小雪
1762年　1月3日 宝暦11年　12月9日 曇　時々雪　申の刻雨　夜中に及ぶ
1762年　1月4日 宝暦11年　12月10日 曇　昨夜中雪　今日雪時々
1762年　1月5日 宝暦11年　12月11日 陰晴　時々雪 申の六刻に寒に入る
1762年　1月6日 宝暦11年　12月12日 陰晴
1762年　1月7日 宝暦11年　12月13日 陰晴　昨夜中雪六寸ほど　今日時々雪
1762年　1月8日 宝暦11年　12月14日 曇　(11日昼九時半時鱈漁船が破船・8人中5人死亡)
1762年　1月9日 宝暦11年　12月15日 晴　昨夜中雪二寸ほど　今日雪少々　(独鈷村で高杉組代官小使が傷害、7日夜浦町組浦町の畑脇に40位・40余男2人吹倒死)
1762年　1月10日 宝暦11年　12月16日 曇
1762年　1月11日 宝暦11年　12月17日 晴
1762年　1月12日 宝暦11年　12月18日 曇　今日時々小雪
1762年　1月13日 宝暦11年　12月19日 陰晴　昨夜中雪二寸ほど　今日雪
1762年　1月14日 宝暦11年　12月20日 晴　今日も寒強し　　22日から続く　　・出穂7月3日・稲刈り8月25日・稲村納9月25日)
1762年　1月15日 宝暦11年　12月21日 晴　今朝寒強し　(昨20日赤田組中野村で火災(3間×3間:百姓)、昨19日昼九半過ぎ浦町組浦町村で火災(3間×4間:高無)小荷駄1疋焼失・火元村預け)
1762年　1月16日 宝暦11年　12月22日 曇　今日時々雪　(当月11日の昼四時北風強く沖館て村前浜で丸木舟が破船、当年の農事初め:種浸2月14日・田打3月8日・塊掻4月2日・田植5月6日・草取5月20日　　20日に続く
1762年　1月17日 宝暦11年　12月23日 曇　今日時々雪
1762年　1月18日 宝暦11年　12月24日 曇　昨夜中雪九寸ほど
1762年　1月19日 宝暦11年　12月25日 曇　(19日の浦町村の火元の村預け免許、御家中の元中間が戻って縊死)
1762年　1月20日 宝暦11年　12月26日 曇
1762年　1月21日 宝暦11年　12月27日 曇
1762年　1月22日 宝暦11年　12月28日 曇
1762年　1月23日 宝暦11年　12月29日 曇　(当月24日東風で広瀬沖合いで船1艘水船になる、昨28日夜五時頃奉町二丁目に投げ火)
1762年　1月24日 宝暦11年　12月30日 曇　昨夜中雪少々　今日時々雪
1762年　1月25日 宝暦12年正月1日　晴　今日小雪時々
1762年　1月26日 宝暦12年正月2日　曇　昨夜中雪吹　今日時々小雪
1762年　1月27日 宝暦12年正月3日　曇
1762年　1月28日 宝暦12年正月4日　曇　雪時々
1762年　1月29日 宝暦12年正月5日　陰晴
1762年　1月30日 宝暦12年正月6日　曇
1762年　1月31日 宝暦12年正月7日　陰晴
1762年　2月1日 宝暦12年正月8日　曇　昨夜中より雪吹　今日に及ぶ
1762年　2月2日 宝暦12年正月9日　曇　雪吹　(去月23日後潟組今津村前浜で破船5艘)
1762年　2月3日 宝暦12年正月10日　曇　今日時々雪
1762年　2月4日 宝暦12年正月11日　曇　時々雪　(去る8日広須組沖蒔村出火災(2間×3間:借家)・火元五人組預け)
1762年　2月5日 宝暦12年正月12日　晴　(沖蒔村の火元の村預け御免)
1762年　2月6日 宝暦12年正月13日　曇　時々雪
1762年　2月7日 宝暦12年正月14日　曇　時々雪
1762年　2月8日 宝暦12年正月15日　陰晴
1762年　2月9日 宝暦12年正月16日　快晴
1762年　2月10日 宝暦12年正月17日　快晴　(12月中所々御関所出人都合82人:碇関79人(御印紙出50・切手紙出29)・野内3人(切手紙出)、当月7日今別村大泊前浜に破船1艘)
1762年　2月11日 宝暦12年正月18日　曇　雪吹
1762年　2月12日 宝暦12年正月19日　曇　雪吹
1762年　2月13日 宝暦12年正月20日　曇　雪吹　(12月中出入人数:碇関166人(内入り人数80)・野内158人(内入り人数63)・大間越33人(内入り人数9))
1762年　2月14日 宝暦12年正月21日　晴
1762年　2月15日 宝暦12年正月22日　陰晴
1762年　2月16日 宝暦12年正月23日　晴　昨夜中雪　(赤石組三村の庄屋が鹿と猪獅子が多くなって田畑作毛に差障りがある……、去る暮より近年覚えなき深雪食料探しに山を降りる)
1762年　2月17日 宝暦12年正月24日　曇　昨夜中雪吹　今日時々雪吹　(今朝土手町で女縊死、昨22日夜紺屋町の男と袋町の娘が自害・女は死亡男はまだ生きている)
1762年　2月18日 宝暦12年正月25日　陰晴　未の刻過ぎより申の刻過ぎまて雪降る
1762年　2月19日 宝暦12年正月26日　快晴
1762年　2月20日 宝暦12年正月27日　陰晴　(自害未遂の紺屋町の男死亡)
1762年　2月21日 宝暦12年正月28日　快晴　(当月26日油川前浜に破船1艘)
1762年　2月22日 宝暦12年正月29日　陰晴　　下から続く　　18日夜大秋村の新兵衛熊(胆長2寸5歩廻り3寸5歩生目形20目:2才)取る)
1762年　2月23日 宝暦12年正月30日　陰晴　(一昨27日夜猿賀組袋村で火災(2間×2間:高無)、17日駒越組中畑村の彦右衛門熊2疋(胆長3寸廻り4寸生目形30目:4才、胆長2寸廻り2寸5歩生目形12文目:4才)・　　上に続く
1762年　2月24日 宝暦12年　　2月1日 晴　昨夜中小雨少々　(正月中所々御関所出人都合400人:碇関397人(御印紙出378・切手紙出19)・野内3人(切手紙出))
1762年　2月25日 宝暦12年　　2月2日 陰晴
1762年　2月26日 宝暦12年　　2月3日 晴
1762年　2月27日 宝暦12年　　2月4日 晴　昨夜中雪4寸ほど　今朝小雪
1762年　2月28日 宝暦12年　　2月5日 陰晴

1762年　3月1日 宝暦12年　2月6日 曇　巳の刻より雨
1762年　3月2日 宝暦12年　2月7日 曇　今日小雪 （去秋外濱で大風塩霧当たり半作以下・対策なしに年貢を取り立てれば村潰れにもとの代官の申立、申立のとおり御試みのため御内竿（意味不明）を申付ける）
1762年　3月3日 宝暦12年　2月8日 曇
1762年　3月4日 宝暦12年　2月9日 曇
1762年　3月5日 宝暦12年　2月10日 曇
1762年　3月6日 宝暦12年　2月11日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　今日も時々風雨
1762年　3月7日 宝暦12年　2月12日 曇　今日終日雪吹
1762年　3月8日 宝暦12年　2月13日 曇　時々雪
1762年　3月9日 宝暦12年　2月14日 陰晴
1762年　3月10日 宝暦12年　2月15日 曇　昨夜中小雪
1762年　3月11日 宝暦12年　2月16日 曇
1762年　3月12日 宝暦12年　2月17日 曇　昨夜中より雪吹今日に及ぶ
1762年　3月13日 宝暦12年　2月18日 曇
1762年　3月14日 宝暦12年　2月19日 曇　昨夜中大風
1762年　3月15日 宝暦12年　2月20日 曇　時々小雪
1762年　3月16日 宝暦12年　2月21日 快晴　昨夜中雪 （赤石組で鹿・猪獅〃荒れる・去る月中より鹿480疋猪獅〃109疋取る、白毛の鹿毛と角を差上げ・他は上納に及ばない旨申し遣わす）
1762年　3月17日 宝暦12年　2月22日 曇　辰の中刻より終日小雨　未の刻過ぎより風雨
1762年　3月18日 宝暦12年　2月23日 晴
1762年　3月19日 宝暦12年　2月24日 晴　朝の内小雪
1762年　3月20日 宝暦12年　2月25日 陰晴 （人買いが入っている?）
1762年　3月21日 宝暦12年　2月26日 曇　小雪少々 （16日大東風で中師村前濱・石浜領二ッ屋米濱で破船）
1762年　3月22日 宝暦12年　2月27日 曇 （3月上旬差上げる予定の御姫様差上げ金60両の工面ができず……）
1762年　3月23日 宝暦12年　2月28日 曇
1762年　3月24日 宝暦12年　2月29日 晴
1762年　3月25日 宝暦12年　2月30日 曇　今日時々雪　　下から続く　　熊（胆長4寸7歩廻り8寸1歩生目110文目：11歳）取る）
1762年　3月26日 宝暦12年　3月1日 陰晴 （2月中所々御関所出人都合67人：碇関64人（御印紙出47・切手紙出17）・野内2人（御印紙出）・大間越1人（御印紙出）、18日横内組蓬田村の助左衛門・細越村の万十郎が　　上に続く
1762年　3月27日 宝暦12年　3月2日 陰晴
1762年　3月28日 宝暦12年　3月3日 陰晴　今朝四方一円霞
1762年　3月29日 宝暦12年　3月4日 曇　今卯の刻頃より雨降 （昨日今日と御家中が3人死亡している）
1762年　3月30日 宝暦12年　3月5日 曇　今日時々雨
1762年　3月31日 宝暦12年　3月6日 曇　昨夜酉の刻地震つよし
1762年　4月1日 宝暦12年　3月7日 晴
1762年　4月2日 宝暦12年　3月8日 陰晴
1762年　4月3日 宝暦12年　3月9日 陰晴　時々雪降
1762年　4月4日 宝暦12年　3月10日 陰晴 （蟹田町で男縊死）
1762年　4月5日 宝暦12年　3月11日 曇　昨夜中小雨　今日も時々
1762年　4月6日 宝暦12年　3月12日 曇
1762年　4月7日 宝暦12年　3月13日 陰晴
1762年　4月8日 宝暦12年　3月14日 曇　巳の刻過ぎより雨時々
1762年　4月9日 宝暦12年　3月15日 快晴
1762年　4月10日 宝暦12年　3月16日 陰晴
1762年　4月11日 宝暦12年　3月17日 陰晴 （十三潟13日夜より14日朝六時までに早川口より残らず氷明ける・去年は2月16日の晩七つ氷明け・日数で当年は28日遅く節に引合ても17日遅い）
1762年　4月12日 宝暦12年　3月18日 陰晴 （後潟組今別村領一本木より奥平部まて狼熊多く荒れ代官が鉄砲の筒薬・口薬・玉・火縄を申し立て・申付ける）
1762年　4月13日 宝暦12年　3月19日 晴　昨夜の雨今朝に及ぶ （玄圭院（津軽信寿）様17回忌法事の大赦（4人出牢））
1762年　4月14日 宝暦12年　3月20日 晴 （石川村で男がその子を打ち殺す）
1762年　4月15日 宝暦12年　3月21日 快晴 （昨19日七時出水中の板屋野木村板屋野木渡で長船が転覆15人?中5人死亡、昨晩御家中の家来縊死）
1762年　4月16日 宝暦12年　3月22日 晴 （当月8日蟹田町で男縊死）
1762年　4月17日 宝暦12年　3月23日 陰晴
1762年　4月18日 宝暦12年　3月24日 陰晴　朝の内少々霞見ゆる
1762年　4月19日 宝暦12年　3月25日 晴
1762年　4月20日 宝暦12年　3月26日 陰晴 （去る12月16日入牢の掛落林村の男牢死）
1762年　4月21日 宝暦12年　3月27日 曇 （4月16日より8月29日まて禁足で護摩を執行の国上寺に一粒金丹5粒）
1762年　4月22日 宝暦12年　3月28日 曇　　下から続く　　胆長5寸5歩廻り9寸生目32文目：7歳と8歳）・駒越組大秋村新兵衛（胆長2寸5歩廻り3寸生目12文目）・同組吉川村善五郎（胆長3寸5歩廻り4寸生目45文目）の熊取る）
1762年　4月23日 宝暦12年　3月29日 曇 （25日昼八時頃今別町庄屋居宅の屋根2坪焼失、大鰐組虹貝村長右衛門（胆長4寸7寸生目90目：8歳）・油川組津軽坂村太兵衛2疋（胆長5寸廻り5寸5歩生目43文目と　　上に続く
1762年　4月24日 宝暦12年　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合108人：碇関97人（御印紙出52・切手紙出45）・大間越1人（御印紙出）・野内10人（切手紙出）、御徒目付に男子なく養子に大組足軽の子が認められる）
1762年　4月25日 宝暦12年　4月2日 快晴
1762年　4月26日 宝暦12年　4月3日 快晴 （五山並びに四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1762年　4月27日 宝暦12年　4月4日 曇
1762年　4月28日 宝暦12年　4月5日 快晴 （出火の今別村庄屋を戸〆・差免）
1762年　4月29日 宝暦12年　4月6日 快晴　昨夜中霜 （一昨朔日浮田村の海道の沢の雪中から男の死骸・12月27日に行方不明となった鯵ヶ沢の男・吹き倒れ）
1762年　4月30日 宝暦12年　4月7日 晴

1762年　5月1日 宝暦12年　4月8日 快晴 （津軽屋三右衛門から去る夏3000両借りた・この代米として4500石で掛け合ったが5000石に?）
1762年　5月2日 宝暦12年　4月9日 快晴 （昨7日西御郭西御門泊番の御持ち筒足軽が乱心・入牢）
1762年　5月3日 宝暦12年　4月10日 快晴
1762年　5月4日 宝暦12年　4月11日 快晴
1762年　5月5日 宝暦12年　4月12日 快晴
1762年　5月6日 宝暦12年　4月13日 曇　昨夜中小雨 （御家老堀五郎右衛門に一粒金丹30粒熊胆1）
1762年　5月7日 宝暦12年　4月14日 晴 （蓬田村阿弥陀川村に再検（地）組が出ている（2月7日の内竿のことか）、和徳組湯口村で百姓の弟切腹自害）
1762年　5月8日 宝暦12年　4月15日 陰晴
1762年　5月9日 宝暦12年　4月16日 晴
1762年　5月10日 宝暦12年　4月17日 陰晴　午の中刻より雨　即夜に及ぶ　雷二度発す
1762年　5月11日 宝暦12年　4月18日 陰晴　時々小雨 （東長町で娘自害）
1762年　5月12日 宝暦12年　4月19日 晴　昨夜中雨度々雷発す
1762年　5月13日 宝暦12年　4月20日 快晴
1762年　5月14日 宝暦12年　4月21日 快晴　朝の内曇 （御家老中が三之丸御屋敷で御家中二男三男まて剣術見分）
1762年　5月15日 宝暦12年　4月22日 快晴
1762年　5月16日 宝暦12年　4月23日 快晴
1762年　5月17日 宝暦12年　4月24日 快晴　今朝四方一円霞
1762年　5月18日 宝暦12年　4月25日 曇　昨夜中小雨 （御家老棟方十左衛門に一粒金丹30粒）
1762年　5月19日 宝暦12年　4月26日 快晴
1762年　5月20日 宝暦12年　4月27日 快晴
1762年　5月21日 宝暦12年　4月28日 快晴　申の刻過ぎ小雨　南風少々吹
1762年　5月22日 宝暦12年　4月29日 曇　巳の刻過ぎより雨　又〃申の下刻雨　同刻過ぎより晴れる
1762年　5月23日 宝暦12年　4月30日 快晴
1762年　5月24日 宝暦12年閏4月1日　曇　今日終日雨 （4月中所々御関所出人都合327人：碇関321人（御印紙出61・切手紙出260）・野内3人（御印紙出2・切手紙出1）・大間越3人（切手紙出）、29日水死者発見・3月21日に記事）
1762年　5月25日 宝暦12年閏4月2日　快晴　昨夜中雨時々
1762年　5月26日 宝暦12年閏4月3日　陰晴　辰の後刻暫くの内少し雨
1762年　5月27日 宝暦12年閏4月4日　曇　辰の刻頃少し雨　則止
1762年　5月28日 宝暦12年閏4月5日　晴 （当月2日出来嶋村赤平沖で3人乗りの鯵ヶ沢船が破船・3人死亡）
1762年　5月29日 宝暦12年閏4月6日　快晴　午の中刻曇　雨降　申の中刻少し雨 （御家老中が三之御丸御屋敷で御家中並びに二三男の鎗術見分）
1762年　5月30日 宝暦12年閏4月7日　快晴 （2日朝今別村一本木前浜に小泊船破船・乗員は無事救出、百人小人という職分ができたのかな、当月4日昼九つ半時赤石組久田村で火災17軒焼失、新町で小火）
1762年　5月31日 宝暦12年閏4月8日　晴
1762年　6月1日 宝暦12年閏4月9日　曇　昨夜亥の刻より雨　今日終日雨
1762年　6月2日 宝暦12年閏4月10日 快晴
1762年　6月3日 宝暦12年閏4月11日 快晴
1762年　6月4日 宝暦12年閏4月12日 陰晴 （去る10日高杉組楢ノ木村で火災（2間×1丈）・火元村預け）
1762年　6月5日 宝暦12年閏4月13日 曇　今朝卯の刻頃より雨終日
1762年　6月6日 宝暦12年閏4月14日 快晴 （楢木村の火元の村預け差許）
1762年　6月7日 宝暦12年閏4月15日 曇　今朝雷（雨冠に田ではなく雨に見えるが）に三度発す　巳の刻過ぎより時々雨
1762年　6月8日 宝暦12年閏4月16日 陰晴　昨夜中の雨今暁に及ぶ
1762年　6月9日 宝暦12年閏4月17日 陰晴
1762年　6月10日 宝暦12年閏4月18日 晴　昨夜中雨
1762年　6月11日 宝暦12年閏4月19日 晴　昨夜中雨　今日入梅
1762年　6月12日 宝暦12年閏4月20日 陰晴　辰の下刻小雨
1762年　6月13日 宝暦12年閏4月21日 晴
1762年　6月14日 宝暦12年閏4月22日 曇　辰の中刻過ぎより巳の刻まて雷度々発し雨時々 （昨21日藤代組川村で火災（大きさ不明：高無）・火元村預け）
1762年　6月15日 宝暦12年閏4月23日 快晴 （今20日夜金木組金木村で火災（大きさ不明：高無）・火元村預け）
1762年　6月16日 宝暦12年閏4月24日 快晴
1762年　6月17日 宝暦12年閏4月25日 陰晴　午の中刻過ぎ小雨　則止む （20日鐘木村・21日川村の火元の村預け差許）
1762年　6月18日 宝暦12年閏4月26日 晴　酉の刻雷稲光　夜中数度発して　則刻より雨　子の刻頃止む （当月4日久田村の火元の他村預け差許）
1762年　6月19日 宝暦12年閏4月27日 曇　今日雨時々
1762年　6月20日 宝暦12年閏4月28日 曇　昨夜雷四五度発す　今日時々雨降る
1762年　6月21日 宝暦12年閏4月29日 陰晴
1762年　6月22日 宝暦12年　5月1日 晴 （閏4月中所々御関所出人都合117人：碇関110人（御印紙出84・切手紙出26）・大間越1人（切手紙出）・野内6人（切手紙出）、去月25日出来嶋村赤平濱で十三町船破船）
1762年　6月23日 宝暦12年　5月2日 快晴
1762年　6月24日 宝暦12年　5月3日 陰晴　今朝卯の中刻雨
1762年　6月25日 宝暦12年　5月4日 曇　午の刻過ぎ雨　今日暑気強し
1762年　6月26日 宝暦12年　5月5日 快晴　暑気強し
1762年　6月27日 宝暦12年　5月6日 陰晴　今日も暑気強し （屋形様28日御発駕・来月（今月の意）16日御着城の予定）
1762年　6月28日 宝暦12年　5月7日 晴
1762年　6月29日 宝暦12年　5月8日 陰晴
1762年　6月30日 宝暦12年　5月9日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻止　時々雨

1762年　7月1日 宝暦12年　5月10日 曇　昨夜雨降ル　今日時々雨
1762年　7月2日 宝暦12年　5月11日 晴　(天気宜しからずに付岩木嵩並びに湯段の湯治を停止、一昨日よりの大雨にて所々洪水・碇関峠まて所々橋流失・五山に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1762年　7月3日 宝暦12年　5月12日 曇　今日時々小雨　巳の刻過ぎ雷一度発す
1762年　7月4日 宝暦12年　5月13日 陰晴　午の刻過ぎより少し雨　則止む
1762年　7月5日 宝暦12年　5月14日 晴
1762年　7月6日 宝暦12年　5月15日 曇　昨夜中雨　巳の刻過ぎ少し雨
1762年　7月7日 宝暦12年　5月16日 晴　(大鰐より初茄子五つ差上げる)
1762年　7月8日 宝暦12年　5月17日 晴　朝の内晴　未の刻過ぎ少し雨　(屋形様今日午の下刻御着城・途中の洪水で1日遅れ、御朱印が丁重に迎えられている)
1762年　7月9日 宝暦12年　5月18日 曇
1762年　7月10日 宝暦12年　5月19日 陰晴　今朝四方一円霞　(赤石組村々で当月10日の洪水で田方4町5反余欠崩れ)
1762年　7月11日 宝暦12年　5月20日 晴　今朝四方一円霞
1762年　7月12日 宝暦12年　5月21日 快晴
1762年　7月13日 宝暦12年　5月22日 陰晴
1762年　7月14日 宝暦12年　5月23日 陰晴　今朝四方一円霞　(雨続きで田方に虫付く・最勝院江虫除けの御祈祷を仰せ付ける)
1762年　7月15日 宝暦12年　5月24日 曇　午の刻過ぎ雷度々発す
1762年　7月16日 宝暦12年　5月25日 陰晴　午の刻過ぎより少し雨　(日和揚げ御祈祷を仰せ付けられたが快晴なし・丹後者を詮議し送り返すようにする:丹後者が領内に入ると天候が悪くなるという信仰が有ったらしい)
1762年　7月17日 宝暦12年　5月26日 陰晴
1762年　7月18日 宝暦12年　5月27日 晴
1762年　7月19日 宝暦12年　5月28日 晴　今日午の刻より土用に入る　申の刻頃雷度々発す　申の刻少し雨　則止
1762年　7月20日 宝暦12年　5月29日 陰晴　未の刻より雷度々発す　雨今朝にいたり止　(俵元新田八ヶ村の田方に葉虫過分に見える)
1762年　7月21日 宝暦12年　6月1日 曇　(5月中所々御関所出人都合256人:碇関253人(御印紙出205・切手紙出48)・野内3人(御印紙出)、一昨28日夜九時過ぎ青森安方町で火災8軒、最勝院より稲虫退散の御札2900枚差上)
1762年　7月22日 宝暦12年　6月2日 晴　(天気が悪く五山・神明・稲荷に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、青森の火災の焼失本家8軒借家3軒潰れ家2軒・火元名主入寺)
1762年　7月23日 宝暦12年　6月3日 陰晴
1762年　7月24日 宝暦12年　6月4日 晴
1762年　7月25日 宝暦12年　6月5日 晴　今晩小雨　卯の刻過ぎより晴　(田舎館・浪岡・増館組の田方476町余に胴虫並びに葉虫付く)
1762年　7月26日 宝暦12年　6月6日 快晴
1762年　7月27日 宝暦12年　6月7日 快晴　(初穂大鰐村加賀助等から上がる・閏4月5日植付け、昨年は5月6日植付け7月6日出穂)
1762年　7月28日 宝暦12年　6月8日 快晴　今朝四方一円霞　(広須・木作新田の田方55町余に虫付く)
1762年　7月29日 宝暦12年　6月9日 快晴　今朝四方一円霞　未の下刻雷　暮に及ぶ　雷二三度発す
1762年　7月30日 宝暦12年　6月10日 晴　朝の内霞　未の刻過ぎ少し雨
1762年　7月31日 宝暦12年　6月11日 晴　朝の内四方一円霞　申の刻雨　雷度々発す　(大目付田村源太兵衛御奉公遠慮、5月中碇関出入り人数都合502人内244人が入り人数・同月野内出入51人内33人が入り人数)
1762年　8月1日 宝暦12年　6月12日 快晴　朝の内四方一円霞　巳の刻過ぎより晴　申の刻過ぎ村雨　則止　(先月中野内御関所出入り合259人:昨日の情報との関係不明)
1762年　8月2日 宝暦12年　6月13日 陰晴　朝の内晴　(藤代組村々の虫付き田方280町(高2678石余)、長利唐之助牢死)
1762年　8月3日 宝暦12年　6月14日 快晴
1762年　8月4日 宝暦12年　6月15日 快晴
1762年　8月5日 宝暦12年　6月16日 快晴　(御能見物)
1762年　8月6日 宝暦12年　6月17日 快晴　未の刻より小雨　雷度々発す
1762年　8月7日 宝暦12年　6月18日 快晴　未の刻過ぎより大雨　申の刻過ぎ止む　雷度々発　虹ミゆる
1762年　8月8日 宝暦12年　6月19日 快晴　未の刻過ぎ村雨　雷夜中まて度々発す　丑の刻過ぎ雨
1762年　8月9日 宝暦12年　6月20日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　雷度々発す　今日時々雨
1762年　8月10日 宝暦12年　6月21日 晴　今朝処方一円霞
1762年　8月11日 宝暦12年　6月22日 快晴　(今昼九時過ぎ二之御丸で若子様御誕生(若子の前に欠字で屋形様の子・屋形様は3月に着城したばかり・連れて来たのかな?)、去月28日青森安方町の火元の寺落免許)
1762年　8月12日 宝暦12年　6月23日 快晴
1762年　8月13日 宝暦12年　6月24日 陰晴　巳の刻過ぎより薄くもる　残暑強　午の刻過ぎより大雨　大雷発す
1762年　8月14日 宝暦12年　6月25日 陰晴　巳の刻過ぎ暫くの内雨　則止む
1762年　8月15日 宝暦12年　6月26日 陰晴　残暑夜中まて大いに強し　(西館織部病死)
1762年　8月16日 宝暦12年　6月27日 陰晴　午の中刻頃少しの内雨　則止む
1762年　8月17日 宝暦12年　6月28日 陰晴
1762年　8月18日 宝暦12年　6月29日 快晴　(このたび御誕生様を昨日熊五郎様と名づける)
1762年　8月19日 宝暦12年　6月30日 快晴　　下から続く　　差上げる・去年は7月24日・植付日と比較すると昨年より7日遅く節と引き合い4日早い)
1762年　8月20日 宝暦12年　7月1日 快晴　(6月中所々御関所出人都合262人:碇関254人(御印紙出164・切手紙出90)・野内7人(御印紙出3・切手紙出4)・大間越1人(切手紙出)、大鰐村加賀介・兵左衛門初米6俵　　上に続く
1762年　8月21日 宝暦12年　7月2日 快晴
1762年　8月22日 宝暦12年　7月3日 晴
1762年　8月23日 宝暦12年　7月4日 快晴　(久渡寺より熟瓜差上げる、当月27日昼四時過ぎ今別町の昆布狩漁船が南風に吹き流され男1人行方不明)
1762年　8月24日 宝暦12年　7月5日 快晴　酉の中刻より雨　則夜に及ぶ
1762年　8月25日 宝暦12年　7月6日 曇　昨夜中雨　今朝雷発す　午の中刻頃まて雨
1762年　8月26日 宝暦12年　7月7日 快晴
1762年　8月27日 宝暦12年　7月8日 快晴
1762年　8月28日 宝暦12年　7月9日 快晴　(御囃子)
1762年　8月29日 宝暦12年　7月10日 陰晴　午の刻過ぎより曇　未の刻頃小雨　則止む　残暑甚強
1762年　8月30日 宝暦12年　7月11日 晴　残暑至って強　午の中刻より曇　雨ふる　(人事異動)
1762年　8月31日 宝暦12年　7月12日 晴　朝の内曇

1762年　9月1日 宝暦12年　7月13日 晴　未の刻過ぎ曇
1762年　9月2日 宝暦12年　7月14日 快晴
1762年　9月3日 宝暦12年　7月15日 曇　辰の刻より雨　雷両度発し同刻過ぎ西方に虹見ゆる
1762年　9月4日 宝暦12年　7月16日 曇　終日風雨
1762年　9月5日 宝暦12年　7月17日 曇　時々雨
1762年　9月6日 宝暦12年　7月18日 曇　昼の内小雨
1762年　9月7日 宝暦12年　7月19日 晴
1762年　9月8日 宝暦12年　7月20日 快晴
1762年　9月9日 宝暦12年　7月21日 陰晴　(人事異動)
1762年　9月10日 宝暦12年　7月22日 曇　辰の刻過ぎより小雨
1762年　9月11日 宝暦12年　7月23日 晴　昨夜風雨余程強し　辰の刻西の方に虹見ゆる
1762年　9月12日 宝暦12年　7月24日 晴
1762年　9月13日 宝暦12年　7月25日 曇　時々雨
1762年　9月14日 宝暦12年　7月26日 曇　時々雨
1762年　9月15日 宝暦12年　7月27日 晴
1762年　9月16日 宝暦12年　7月28日 晴
1762年　9月17日 宝暦12年　7月29日 快晴　申の下刻より阿免(あめ)　即夜中に及ぶ　(碇関町で女縊死)
1762年　9月18日 宝暦12年　8月1日 曇　今朝より時々雨　巳の中刻頃より大雨大雷　風吹く　稲光度々　(7月中所々御関所出人都合158人:碇関156人(御印紙出121・切手紙出35)・野内1人(御印紙出)・大間越1人(御印紙出))
1762年　9月19日 宝暦12年　8月2日 快晴
1762年　9月20日 宝暦12年　8月3日 快晴
1762年　9月21日 宝暦12年　8月4日 曇　辰の刻過ぎより小雨　(当月23日5人乗りの南部船が松神村領平沢濱で破船・3人死亡)
1762年　9月22日 宝暦12年　8月5日 曇　時々少し雨
1762年　9月23日 宝暦12年　8月6日 曇　(初鮭御台所より差上げる)
1762年　9月24日 宝暦12年　8月7日 晴
1762年　9月25日 宝暦12年　8月8日 晴
1762年　9月26日 宝暦12年　8月9日 曇　今朝卯の中刻より雨降　終日降　申の中刻過ぎ雷一度発　((平出)公方様増上寺江(欠字)御参詣……、21日(欠字)主上(欠字)崩御……、御能・御家中ほか御用達町人共数十人も見物)
1762年　9月27日 宝暦12年　8月10日 晴　朝の内小雨　(去月21日(欠字)主上(欠字)崩御……、去月21日(平出)主上(欠字)崩御に付き……:現代の常識では、天皇については最上級の(擡頭)のはずだが……)
1762年　9月28日 宝暦12年　8月11日 陰晴　(大目付田村源太兵衛御役御免)
1762年　9月29日 宝暦12年　8月12日 曇
1762年　9月30日 宝暦12年　8月13日 晴
1762年　10月1日 宝暦12年　8月14日 晴
1762年　10月2日 宝暦12年　8月15日 快晴　(八幡宮御祭礼)
1762年　10月3日 宝暦12年　8月16日 陰晴　戌の刻過ぎより雨　今暁に及ぶ
1762年　10月4日 宝暦12年　8月17日 陰晴　戌の刻過ぎ少し雷少し雨
1762年　10月5日 宝暦12年　8月18日 晴
1762年　10月6日 宝暦12年　8月19日 晴　(昨18日夜八つ半青森で出火(本家17軒借家14軒土蔵1つか))
1762年　10月7日 宝暦12年　8月20日 陰晴　今朝辰の刻過ぎより時々雨
1762年　10月8日 宝暦12年　8月21日 快晴
1762年　10月9日 宝暦12年　8月22日 快晴
1762年 10月10日 宝暦12年　8月23日 陰晴
1762年 10月11日 宝暦12年　8月24日 曇　昨夜酉の刻頃より雨　今日も終日雨降
1762年 10月12日 宝暦12年　8月25日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ　(当月20日赤石組田野沢村前浜に杉帆柱(長13尋元廻り8尺3寸)流れ寄せる)
1762年 10月13日 宝暦12年　8月26日 陰晴　今朝辰の中刻より雨　岩木山初雪見ゆる　巳の刻頃まで小雨の後晴れる
1762年 10月14日 宝暦12年　8月27日 陰晴
1762年 10月15日 宝暦12年　8月28日 陰晴
1762年 10月16日 宝暦12年　8月29日 陰晴　午の刻より風立つ　夜に入り少し雨　　下から続く　　大曲村で火災(高無)・火元村預け)
1762年 10月17日 宝暦12年　9月1日 晴　(8月中所々御関所出人都合208人:碇関194人(御印紙出157・切手紙出37)・野内11人(御印紙出3・切手紙出8)・大間越3人(御印紙出1・切手紙出2)、昨29日田舎館組　　上に続く
1762年 10月18日 宝暦12年　9月2日 快晴
1762年 10月19日 宝暦12年　9月3日 快晴
1762年 10月20日 宝暦12年　9月4日 快晴
1762年 10月21日 宝暦12年　9月5日 快晴　夜中より雨　翌朝に及ぶ
1762年 10月22日 宝暦12年　9月6日 曇　終日時々小雪　(御手廻組頭森岡主膳に一粒金丹5粒)
1762年 10月23日 宝暦12年　9月7日 晴　今朝四方高山に雪見ゆる
1762年 10月24日 宝暦12年　9月8日 晴　昨夜寅の刻小雨　今朝辰の刻少し雨　則止む
1762年 10月25日 宝暦12年　9月9日 快晴
1762年 10月26日 宝暦12年　9月10日 曇
1762年 10月27日 宝暦12年　9月11日 快晴　午の刻過ぎより曇　(大坂御蔵元の勘定奉行より一粒金丹・熊胆の要望有り)
1762年 10月28日 宝暦12年　9月12日 快晴
1762年 10月29日 宝暦12年　9月13日 快晴
1762年 10月30日 宝暦12年　9月14日 快晴　今朝大霜
1762年 10月31日 宝暦12年　9月15日 快晴　午の中刻申の上刻地震両度

1762年　11月1日 宝暦12年　 9月16日 曇　昨夜寅の刻前より雨　今日終日
1762年　11月2日 宝暦12年　 9月17日 曇　昨日の雨今暁に及ぶ
1762年　11月3日 宝暦12年　 9月18日 曇　朝の内陰晴
1762年　11月4日 宝暦12年　 9月19日 曇　昨夜中雨　今日風立つ
1762年　11月5日 宝暦12年　 9月20日 陰晴　未の刻より少し雨　夜中に及び大雨 （今日野稽古高覧）
1762年　11月6日 宝暦12年　 9月21日 曇
1762年　11月7日 宝暦12年　 9月22日 晴　昨夜中大雨
1762年　11月8日 宝暦12年　 9月23日 陰晴　昨夜戌の刻雨　則止む
1762年　11月9日 宝暦12年　 9月24日 晴　今夜戌の刻雨　終夜
1762年 11月10日 宝暦12年　 9月25日 晴　昨夜中の雨今晩まで
1762年 11月11日 宝暦12年　 9月26日 晴　申の刻頃少し雨 （去る23日髪の毛が入った粕ていらを差上げた・それに気づかなかった者共を戸〆・御奉公遠慮）
1762年 11月12日 宝暦12年　 9月27日 晴　今晩寅の刻頃より小雨　それより晴　今朝岩木山半分まで雪
1762年 11月13日 宝暦12年　 9月28日 晴
1762年 11月14日 宝暦12年　 9月29日 快晴 （御囃子）
1762年 11月15日 宝暦12年　 9月30日 曇　時々雨
1762年 11月16日 宝暦12年　 10月1日 快晴 （9月中所々御関所出人都合113人：碇関105人（御印紙出56・切手紙出49）・野内7人（御印紙出）・大間越1人（御印紙出）、人事異動）
1762年 11月17日 宝暦12年　 10月2日 曇　近山雪見ゆる　昨夜卯の刻過ぎより雨今日に及ぶ　終日雨
1762年 11月18日 宝暦12年　 10月3日 曇　昨夜中よりの雨今日も時々
1762年 11月19日 宝暦12年　 10月4日 曇　朝の内晴　それより雨 （……（欠字）御先帝（欠字）崩御に付き……）
1762年 11月20日 宝暦12年　 10月5日 曇 （1両70匁5分5厘）
1762年 11月21日 宝暦12年　 10月6日 曇　昨夜中雨　今朝辰の中刻霙霰？降る　辰の中刻過ぎ雷二三度発す
1762年 11月22日 宝暦12年　 10月7日 晴　夜に入り時々雨
1762年 11月23日 宝暦12年　 10月8日 曇　昨夜中より今日時々雨 （宇和野で大筒撃ち方高覧の予定が雨天で延期）
1762年 11月24日 宝暦12年　 10月9日 晴 （大筒高覧：10匁玉丁数（飛距離のことか）10丁・30匁玉16丁・100目玉16丁・200目玉16丁・300目玉16丁）
1762年 11月25日 宝暦12年　 10月10日 陰晴　時々雪降る
1762年 11月26日 宝暦12年　 10月11日 快晴
1762年 11月27日 宝暦12年　 10月12日 曇　昨夜中より雨　今日度々雨降
1762年 11月28日 宝暦12年　 10月13日 晴 （一昨11日古懸村の高無の子が碇関町鍛冶の娘を切り殺し自害）
1762年 11月29日 宝暦12年　 10月14日 曇　午の刻頃より小雨
1762年 11月30日 宝暦12年　 10月15日 快晴　今朝大霜
1762年　12月1日 宝暦12年　 10月16日 曇 （御台所より初鱈差上げる）
1762年　12月2日 宝暦12年　 10月17日 晴　朝の内薄曇る
1762年　12月3日 宝暦12年　 10月18日 曇
1762年　12月4日 宝暦12年　 10月19日 曇　昨夜中初雪六寸ほど降る　今日も時々小雪
1762年　12月5日 宝暦12年　 10月20日 曇　今日雪
1762年　12月6日 宝暦12年　 10月21日 陰晴　今朝時々小雪 （今晩内々にて御囃子）
1762年　12月7日 宝暦12年　 10月22日 晴　昼過ぎ曇
1762年　12月8日 宝暦12年　 10月23日 陰晴
1762年　12月9日 宝暦12年　 10月24日 晴
1762年 12月10日 宝暦12年　 10月25日 快晴
1762年 12月11日 宝暦12年　 10月26日 快晴
1762年 12月12日 宝暦12年　 10月27日 晴　時々小雨
1762年 12月13日 宝暦12年　 10月28日 快晴 （御菓子屋菊屋の戸〆免許（9月26日の記事関連））
1762年 12月14日 宝暦12年　 10月29日 快晴　昨夜酉の中刻頃より雨　今暁に及ぶ　今朝より晴れる （先だって金木村で火災（高無）・5日経ち村預け免許）
1762年 12月15日 宝暦12年　 11月1日 快晴　今朝大霜
1762年 12月16日 宝暦12年　 11月2日 快晴　今朝も大霜
1762年 12月17日 宝暦12年　 11月3日 曇　昨夜中雨　今朝に及びて雪（今朝及て雪）
1762年 12月18日 宝暦12年　 11月4日 陰晴　昨夜中小雪
1762年 12月19日 宝暦12年　 11月5日 陰晴　午の刻頃より曇　未の刻頃より小雨 （諸流剣術高覧）
1762年 12月20日 宝暦12年　 11月6日 曇 （人事異動）
1762年 12月21日 宝暦12年　 11月7日 快晴　酉の初刻冬至に入る
1762年 12月22日 宝暦12年　 11月8日 曇　昨夜中雨　今日も雨時々終日降る
1762年 12月23日 宝暦12年　 11月9日 曇 （御慰御能）
1762年 12月24日 宝暦12年　 11月10日 晴
1762年 12月25日 宝暦12年　 11月11日 晴　未の刻過ぎより雨　酉の刻前より雨水雪 （御用人進藤太郎左衛門に一粒金丹?粒）
1762年 12月26日 宝暦12年　 11月12日 曇
1762年 12月27日 宝暦12年　 11月13日 曇　今日時々小雪 （去る24日江戸で（平出）若君様（欠字）御誕生：天皇より上に見えるが……）
1762年 12月28日 宝暦12年　 11月14日 晴
1762年 12月29日 宝暦12年　 11月15日 曇　昨夜中風雨　暮に及び雪時々
1762年 12月30日 宝暦12年　 11月16日 曇　昨夜中より雪時々　終日降る
1762年 12月31日 宝暦12年　 11月17日 曇　雪降る

1763年　1月1日 宝暦12年　11月18日 曇　時々雪
1763年　1月2日 宝暦12年　11月19日 曇　終日時々雪　(……(欠字)若君様御名(平出)竹千代様と進められ……)
1763年　1月3日 宝暦12年　11月20日 曇　昨夜中雪二三寸降
1763年　1月4日 宝暦12年　11月21日 陰晴　昨夜中雪二三寸降
1763年　1月5日 宝暦12年　11月22日 曇　午の上刻雷二度発す　酉の五刻寒に入る　(当月19日暮六時より同20日朝六時まて早川口より残らず氷張る・去年は11月11日より氷張る・当年は9日遅く節に引合も20日遅い)
1763年　1月6日 宝暦12年　11月23日 曇　昨夜戌の中刻過ぎより今暁まて大風雪　今日終日雪
1763年　1月7日 宝暦12年　11月24日 陰晴　巳の刻過ぎより雪時々
1763年　1月8日 宝暦12年　11月25日 曇　今朝より雪降
1763年　1月9日 宝暦12年　11月26日 曇　昨夜中より雪　今日も時々雪　(藤崎村に者吹き倒死)
1763年　1月10日 宝暦12年　11月27日 陰晴
1763年　1月11日 宝暦12年　11月28日 曇　(米値段1俵:弘前11文目5分5厘(沖役引いて10文目3分5厘)・青森12文目5分4厘(沖役引いて11文目5分4厘)・鰺ヶ沢12匁2分3厘(沖役引いて11文目3厘)・両替64匁5分)
1763年　1月12日 宝暦12年　11月29日 曇　終日雪降る　(御内〃にて御囃子)
1763年　1月13日 宝暦12年　11月30日 曇　昨夜中雪　今日終日雪時々　(竹鼻村・和徳組悪戸村の猟師がそれぞれ熊取る)　下から続く　藤崎村の林崎海道に30位男吹き倒れ死、親方町で男が隣家の瀬戸井に入り死亡)
1763年　1月14日 宝暦12年　12月1日 晴　昨夜中雪二三寸　今朝見の刻頃まて雪ふる　(11月中所々御関所出人都合72人:碇関70人(御印紙出54・切手紙出16)・野内1人(御印紙出)・大間越1人(御印紙出)、柏木組　上に続く
1763年　1月15日 宝暦12年　12月2日 曇　昨夜中雪　今日終日雪ふる　(今朝五時頃田舎館組松枝村庄屋の外馬屋(3間×6間)焼失・火元他村預け)
1763年　1月16日 宝暦12年　12月3日 曇　終日雪ふる
1763年　1月17日 宝暦12年　12月4日 晴　申の刻過ぎ雪少々ふる　(昨晩東長町に小火?・火元の御用達商人遠慮、松枝村庄屋の他村預け免許)
1763年　1月18日 宝暦12年　12月5日 晴　昨夜雪少々降
1763年　1月19日 宝暦12年　12月6日 快晴　今日未の刻より雪　(小火の火元の御用達商人の遠慮御免)
1763年　1月20日 宝暦12年　12月7日 陰晴　昨夜中の雪今日午の刻より雪時々ふる
1763年　1月21日 宝暦12年　12月8日 曇　昨夜中より今日終日雪降る　今朝寅の刻より大寒に入る
1763年　1月22日 宝暦12年　12月9日 陰晴
1763年　1月23日 宝暦12年　12月10日 曇
1763年　1月24日 宝暦12年　12月11日 陰晴　時々雪吹
1763年　1月25日 宝暦12年　12月12日 陰晴　昨夜中雪
1763年　1月26日 宝暦12年　12月13日 陰晴　申の刻過ぎより小雪　少しの内
1763年　1月27日 宝暦12年　12月14日 晴
1763年　1月28日 宝暦12年　12月15日 陰晴　今日終日雪吹
1763年　1月29日 宝暦12年　12月16日 曇　今晩酉の刻大地震　戌の刻頃又〃地震　(今夜六時過ぎ地震余程強く御機嫌伺いに御家老御用人残らず登城)
1763年　1月30日 宝暦12年　12月17日 陰晴　終日雪　寒強し　(和徳町の男縊死)
1763年　1月31日 宝暦12年　12月18日 曇　今日も時々雪　寒強し
1763年　2月1日 宝暦12年　12月19日 快晴　(詰座敷で御家中諸士の鎗術高覧)
1763年　2月2日 宝暦12年　12月20日 晴　巳の刻地震　未の刻又〃地震　(当御収納米諸組残らず皆済)
1763年　2月3日 宝暦12年　12月21日 晴　(御年忘れ並びに御茶口切御祝儀御能)
1763年　2月4日 宝暦12年　12月22日 晴　昨夜中より雨　今暁に及ぶ
1763年　2月5日 宝暦12年　12月23日 陰晴　(当月22日青森松森町北側から出火(焼失2軒潰れ家3軒)・火元寺落)
1763年　2月6日 宝暦12年　12月24日 晴　昨夜中雪少々
1763年　2月7日 宝暦12年　12月25日 曇
1763年　2月8日 宝暦12年　12月26日 曇　今日雪吹　(去る21日油川組孫内村一ノ渡で火災1軒(高無)・米4俵・籾5斗・種籾2斗・粟5斗・蕎麦弐石・雑駄1疋・家財残らず焼失・火元他村預け)
1763年　2月9日 宝暦12年　12月27日 陰晴　昨夜中雪三寸ほど　未の下刻小地震　(21日出火の油川組の村預け免許)
1763年　2月10日 宝暦12年　12月28日 晴　(福眞弥兵衛に俵子10俵勤料下し置かれる)　下から続く　瑞厳院様(津軽信興:現屋形様信著の父で藩主にならずに死亡)33回忌の大赦で9人出牢・14人徘徊御免)
1763年　2月11日 宝暦12年　12月29日 なし(日記が残っているが天気の記述なし)　午の刻過ぎ地震　(青森松森町の火元の入寺免許、杉沢村の久左衛門・大秋村の新兵衛・唐竹村の甚左衛門がそれぞれ熊取る、　上に続く
1763年　2月12日 宝暦12年　12月30日 晴
1763年　2月13日 宝暦13年正月1日　陰晴　今日時々雪降
1763年　2月14日 宝暦13年正月2日　陰晴　昨夜中雪　今日時々雪
1763年　2月15日 宝暦13年正月3日　陰晴　今日雪三寸ほど　(御謡初)
1763年　2月16日 宝暦13年正月4日　陰晴　(大鰐村より七種差上げる)
1763年　2月17日 宝暦13年正月5日　晴　今朝余寒強
1763年　2月18日 宝暦13年正月6日　晴　申の刻小雨　夜に入り風立つ　(3日晩尾崎組柏木町村で誓願寺末の庵寺(2間×4間)焼失)
1763年　2月19日 宝暦13年正月7日　曇　(七種の御祝儀)
1763年　2月20日 宝暦13年正月8日　曇　昨夜中雪少々
1763年　2月21日 宝暦13年正月9日　曇
1763年　2月22日 宝暦13年正月10日　曇
1763年　2月23日 宝暦13年正月11日　曇　(人事異動)
1763年　2月24日 宝暦13年正月12日　陰晴
1763年　2月25日 宝暦13年正月13日　陰晴　(御能初)
1763年　2月26日 宝暦13年正月14日　陰晴
1763年　2月27日 宝暦13年正月15日　曇　(人事異動)
1763年　2月28日 宝暦13年正月16日　晴

1763年　3月1日 宝暦13年正月17日　快晴
1763年　3月2日 宝暦13年正月18日　快晴　巳の刻地震余程強
1763年　3月3日 宝暦13年正月19日　快晴　昨夜亥の刻頃より雨降
1763年　3月4日 宝暦13年正月20日　晴　昨夜丑の刻地震余程強
1763年　3月5日 宝暦13年正月21日　晴　(12月中所々御関所出人都合73人:碇関71人(御印紙出51・切手紙出20)・野内2人(切手紙出))
1763年　3月6日 宝暦13年正月22日　晴
1763年　3月7日 宝暦13年正月23日　晴　今日初雁渡ル
1763年　3月8日 宝暦13年正月24日　曇　終日雪婦る　(今22日金木組磯松村で火災13軒)
1763年　3月9日 宝暦13年正月25日　陰晴
1763年　3月10日 宝暦13年正月26日　晴
1763年　3月11日 宝暦13年正月27日　曇　(今日九半頃地震強、一昨26日夜大鰐組八幡館村火災7軒・火元御蔵百姓を他村預け)
1763年　3月12日 宝暦13年正月28日　曇
1763年　3月13日 宝暦13年正月29日　陰晴
1763年　3月14日 宝暦13年正月30日　曇
1763年　3月15日 宝暦13年　2月1日 快晴　申の刻過ぎ地震　(御厄年御祝儀の御能、正月中所々御関所出人都合400人:碇ヶ関(ヶが入った例は少ない)397人(御印紙出362・切手紙出35)・野内3人(切手紙出))
1763年　3月16日 宝暦13年　2月2日 陰晴
1763年　3月17日 宝暦13年　2月3日 陰晴　昨夜中雪六寸ほど降　今日巳の刻頃まで小雪時々
1763年　3月18日 宝暦13年　2月4日 陰晴　昨夜中雪一寸ほど　今朝辰の刻過ぎまで雪　巳の刻地震
1763年　3月19日 宝暦13年　2月5日 陰晴
1763年　3月20日 宝暦13年　2月6日 陰晴
1763年　3月21日 宝暦13年　2月7日 晴
1763年　3月22日 宝暦13年　2月8日 曇　辰の刻より雪少々ふる　(今7日赤石組赤石村前浜に傷だらけの鯨1本(長7尋)流れ寄せる・村中の者に下し置かれる)
1763年　3月23日 宝暦13年　2月9日 陰晴　(不行跡の御目見え以下御留守居支配の給分召上げ永の御暇)
1763年　3月24日 宝暦13年　2月10日 陰晴
1763年　3月25日 宝暦13年　2月11日 曇　終日雨降　未の刻より晴れる　(独鈷村の寺の境内に34・5男縊死)
1763年　3月26日 宝暦13年　2月12日 快晴　(作事方で勤め方宜しからずに付き給分召上げ永の御暇1人)
1763年　3月27日 宝暦13年　2月13日 曇
1763年　3月28日 宝暦13年　2月14日 曇　辰の刻過ぎより小雨　今日終日雨　　下から続く　　去年は3月14日明け六時まて氷明ける・当年は32日早く節に引き合いても13日早い)
1763年　3月29日 宝暦13年　2月15日 曇　昨夜中より風雨　今朝に及ぶ　今日時々風雨　(当御発駕は来月9日と仰せ出だされる、碇ヶ関が沢山出てくる、十三潟が当月11日朝六時より同五時まて残らず氷明ける・　　上に続く
1763年　3月30日 宝暦13年　2月16日 晴
1763年　3月31日 宝暦13年　2月17日 晴　未の刻頃小雨
1763年　4月1日 宝暦13年　2月18日 晴
1763年　4月2日 宝暦13年　2月19日 快晴
1763年　4月3日 宝暦13年　2月20日 曇　昨夜子の刻より雨　今日終日に及ぶ
1763年　4月4日 宝暦13年　2月21日 曇　夜中風立つ
1763年　4月5日 宝暦13年　2月22日 陰晴
1763年　4月6日 宝暦13年　2月23日 快晴
1763年　4月7日 宝暦13年　2月24日 曇　昨夜中丑の刻頃より雨　今日に及び時々風雨
1763年　4月8日 宝暦13年　2月25日 曇　午の刻より少々雪ふり　今日終日に及ぶ
1763年　4月9日 宝暦13年　2月26日 曇　昨夜中風雨　雪ふる
1763年　4月10日 宝暦13年　2月27日 曇　午の刻より雨　未の刻より雪ふる　(御発駕御祝儀の御能)
1763年　4月11日 宝暦13年　2月28日 曇　巳の刻より雪降　(昨夜九時青森前浜の沖の南部船焼失、御米61400石余がお金23400両ほどなのかな)
1763年　4月12日 宝暦13年　2月29日 陰晴
1763年　4月13日 宝暦13年　3月1日 陰晴　(2月中所々御関所出人都合88人:碇関87人(御印紙出46・切手紙出41)・野内1人(切手紙出))
1763年　4月14日 宝暦13年　3月2日 陰晴　(富田町の男が見嶽堂境で死亡(6日に記述で変死))
1763年　4月15日 宝暦13年　3月3日 陰晴
1763年　4月16日 宝暦13年　3月4日 快晴　咲く夜中の大風　(御囃子、今3日横内組大矢沢村で火災1軒・火元村預け)
1763年　4月17日 宝暦13年　3月5日 快晴
1763年　4月18日 宝暦13年　3月6日 快晴
1763年　4月19日 宝暦13年　3月7日 快晴　(大矢沢村の)火元の村預け免許
1763年　4月20日 宝暦13年　3月8日 晴　昼の内風立つ　(山田彦兵衛に一粒金丹?粒)
1763年　4月21日 宝暦13年　3月9日 快晴　(四時屋形様御発駕)
1763年　4月22日 宝暦13年　3月10日 陰晴　未の刻過ぎより夜中まて時々雨　(昨晩七時頃碇関江御着座・今朝六時過ぎ御発駕)
1763年　4月23日 宝暦13年　3月11日 快晴
1763年　4月24日 宝暦13年　3月12日 陰晴
1763年　4月25日 宝暦13年　3月13日 陰晴
1763年　4月26日 宝暦13年　3月14日 曇　今朝卯の刻より小雨
1763年　4月27日 宝暦13年　3月15日 曇　今日時々風雨
1763年　4月28日 宝暦13年　3月16日 晴
1763年　4月29日 宝暦13年　3月17日 晴　(今朝六つ時半高崎村で火災1軒(2間半×2間))
1763年　4月30日 宝暦13年　3月18日 陰晴　午の刻過ぎ雨　申の下刻まて　(一昨夜四時頃下古川村で火災(4間×7間)・火元五人組預け)

1763年　5月1日 宝暦13年　3月19日 曇　巳の刻過ぎより少し雨
1763年　5月2日 宝暦13年　3月20日 晴　(16日出火の和徳組高崎村・広田組下古川村の火元の村預け免許、碇関町同心が鉄砲で熊を打取る)
1763年　5月3日 宝暦13年　3月21日 晴　(五山並びに四社に例年の通り五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1763年　5月4日 宝暦13年　3月22日 晴　(去る21日後潟組瀬戸子村で火災・火元高無村預け)
1763年　5月5日 宝暦13年　3月23日 曇　申の刻より小雨　夜中に及ぶ　(御家中が不行跡に付き永の御暇)
1763年　5月6日 宝暦13年　3月24日 晴　昨日の雨今朝に及ぶ　朝の内曇　巳の刻頃より晴
1763年　5月7日 宝暦13年　3月25日 快晴　朝の内一円霞　巳の刻別して晴れる　(瀬戸子村の火元の村預け免許)
1763年　5月8日 宝暦13年　3月26日 快晴　(今朝六時駒越組独鈷村で火災(2間に3間)・火元村預け)
1763年　5月9日 宝暦13年　3月27日 晴　午の刻より小雨時々　夜中に及ぶ
1763年　5月10日 宝暦13年　3月28日 曇　時々小雨
1763年　5月11日 宝暦13年　3月29日 曇　今日余程風立　(当月25日出火の高杉組独鈷村の火元御蔵百姓の村預け免許)
1763年　5月12日 宝暦13年　3月30日 晴
1763年　5月13日 宝暦13年　4月1日 曇　昨夜亥の刻より曇　今日雨
1763年　5月14日 宝暦13年　4月2日 曇　昨夜中雨　今日巳の刻頃まて降ル
1763年　5月15日 宝暦13年　4月3日 晴　(去る巳の年(一昨年)6月に藤崎村で捕らえた男が今朝牢死)
1763年　5月16日 宝暦13年　4月4日 晴　未の刻小雨　夜中風立つ
1763年　5月17日 宝暦13年　4月5日 快晴
1763年　5月18日 宝暦13年　4月6日 快晴　(南溜池に28歳女入水)
1763年　5月19日 宝暦13年　4月7日 快晴
1763年　5月20日 宝暦13年　4月8日 快晴
1763年　5月21日 宝暦13年　4月9日 快晴
1763年　5月22日 宝暦13年　4月10日 快晴
1763年　5月23日 宝暦13年　4月11日 曇
1763年　5月24日 宝暦13年　4月12日 快晴
1763年　5月25日 宝暦13年　4月13日 快晴
1763年　5月26日 宝暦13年　4月14日 快晴
1763年　5月27日 宝暦13年　4月15日 快晴　(当月12日の暮れ頃浪岡組吉内村の松御山の内杉ノ沢に野火(70間ほど×42間ほど)
1763年　5月28日 宝暦13年　4月16日 晴　未の刻過ぎ雷二度発す
1763年　5月29日 宝暦13年　4月17日 曇
1763年　5月30日 宝暦13年　4月18日 快晴
1763年　5月31日 宝暦13年　4月19日 曇　終日雨降ル
1763年　6月1日 宝暦13年　4月20日 晴　今暁辰の刻過ぎまで大風
1763年　6月2日 宝暦13年　4月21日 快晴
1763年　6月3日 宝暦13年　4月22日 曇　辰の刻頃より雨降ル
1763年　6月4日 宝暦13年　4月23日 快晴　(去る19日の大風で大鰐組唐牛・長嶺村で4軒(3間×7間:御百姓・2間×5間:高無・2間×4間:高無・3間×7間:御百姓)潰れる)
1763年　6月5日 宝暦13年　4月24日 陰晴　今朝四方一円霞
1763年　6月6日 宝暦13年　4月25日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨　今日終日雨降
1763年　6月7日 宝暦13年　4月26日 快晴
1763年　6月8日 宝暦13年　4月27日 快晴
1763年　6月9日 宝暦13年　4月28日 曇　未の刻より雨降
1763年　6月10日 宝暦13年　4月29日 曇　辰の刻より午の刻過ぎまて雨　午の刻過ぎ地震
1763年　6月11日 宝暦13年　5月1日 快晴
1763年　6月12日 宝暦13年　5月2日 晴
1763年　6月13日 宝暦13年　5月3日 晴
1763年　6月14日 宝暦13年　5月4日 快晴　(昨3日明け方大光寺組松館村で火災(4間×2間:高無)・火元他村預け、去る2日浦町組大野村で火災(4間×9間:給地百姓)・白米16俵・米14俵・籾28俵・外馬屋(2間×5間)焼失)
1763年　6月15日 宝暦13年　5月5日 陰晴
1763年　6月16日 宝暦13年　5月6日 曇　卯の刻より夜中に及び雨ふる
1763年　6月17日 宝暦13年　5月7日 曇　終日雨　(大光寺組松館村の火元の村預け免許)
1763年　6月18日 宝暦13年　5月8日 曇　昨夜中より雨　(昨7日柏木組常海橋村で火災(2間×3間:高無)・火元村預け)
1763年　6月19日 宝暦13年　5月9日 陰晴　朝の内雲谷　(浦町組大野村の2日の火元の預けを免許)
1763年　6月20日 宝暦13年　5月10日 快晴　朝の内霞
1763年　6月21日 宝暦13年　5月11日 陰晴　(7日出火の常海橋村の火元の村預け免許、4月27日に江戸で永の暇2人・喧嘩の後始末)
1763年　6月22日 宝暦13年　5月12日 快晴　朝の内霞
1763年　6月23日 宝暦13年　5月13日 陰晴　午の刻より雨
1763年　6月24日 宝暦13年　5月14日 陰晴
1763年　6月25日 宝暦13年　5月15日 晴　今朝四方一円霞
1763年　6月26日 宝暦13年　5月16日 快晴
1763年　6月27日 宝暦13年　5月17日 快晴
1763年　6月28日 宝暦13年　5月18日 晴
1763年　6月29日 宝暦13年　5月19日 晴
1763年　6月30日 宝暦13年　5月20日 陰晴　(当年の田方植付け4月22日より:去年4月10日よりで当年は12日遅く節に引合い8日早い)

1763年　7月1日 宝暦13年　5月21日 陰晴 （大鰐村喜左衛門より初小角豆差上げる）
1763年　7月2日 宝暦13年　5月22日 陰晴 終日東風吹 （和徳組富田村の土淵川沿いに男女2人変死(死んでいなかったのか男は後日死亡女は入牢となる)）
1763年　7月3日 宝暦13年　5月23日 陰晴 終日東風吹
1763年　7月4日 宝暦13年　5月24日 快晴 東風吹
1763年　7月5日 宝暦13年　5月25日 快晴 東風吹
1763年　7月6日 宝暦13年　5月26日 快晴 東風吹 （去る24日七時過ぎ藤代組妙堂崎村で火災(2間×3間半:高無)・火元村預け）
1763年　7月7日 宝暦13年　5月27日 曇 卯の刻より雨終日
1763年　7月8日 宝暦13年　5月28日 晴 戌の刻過ぎ地震
1763年　7月9日 宝暦13年　5月29日 曇 卯の刻過ぎより少し雨
1763年　7月10日 宝暦13年　5月30日 陰晴 （24日妙堂崎村の火元の村預け免許）
1763年　7月11日 宝暦13年　6月1日 陰晴 （5月中所々御関所出人都合98人:碇関84人(御印紙出56・切手紙出28)・野内11人(御印紙出3・切手紙出8)・大間越3人(御印紙出2・切手紙出1)）
1763年　7月12日 宝暦13年　6月2日 陰晴
1763年　7月13日 宝暦13年　6月3日 晴
1763年　7月14日 宝暦13年　6月4日 陰晴 昨夜午の中刻小雨 巳の中刻小雨 雷度々発す 申の中刻過ぎ少し雨 則止む
1763年　7月15日 宝暦13年　6月5日 陰晴 卯の中刻過ぎ少し雨 則止む
1763年　7月16日 宝暦13年　6月6日 晴 午の刻過ぎより小雨時々 （昨4日昼九時半頃雷夥しく鳴り浦町組濱松村で落雷・焼失(4間×7間:高無)・籾3俵・米2俵・蕎麦4俵・麦2俵・稗10俵焼失）
1763年　7月17日 宝暦13年　6月7日 陰晴 今日終日少し雨時々
1763年　7月18日 宝暦13年　6月8日 曇 昨夜中より雨 今朝辰の上刻より雨終日 巳の下刻雷二度発す
1763年　7月19日 宝暦13年　6月9日 曇 昨夜中雷雨強し 酉の弐刻より土用に入る
1763年　7月20日 宝暦13年　6月10日 曇 昨夜中より雨 今日終日雨降 （石渡川が七歩余の出水）
1763年　7月21日 宝暦13年　6月11日 曇 昨夜中より雨 今日終日雨降
1763年　7月22日 宝暦13年　6月12日 晴 暑気強し （御手廻川本佐内不届きに付き知行召上げ御目見え以下御留守居支配に）
1763年　7月23日 宝暦13年　6月13日 曇 巳の刻より小雨終日
1763年　7月24日 宝暦13年　6月14日 曇 昨夜中大雨 今日時々小雨
1763年　7月25日 宝暦13年　6月15日 曇
1763年　7月26日 宝暦13年　6月16日 晴 戌の刻地震
1763年　7月27日 宝暦13年　6月17日 曇 卯の刻より雨降る
1763年　7月28日 宝暦13年　6月18日 陰晴 （昨朝五時過ぎ平川洪水・石川橋15間ほど押し流す）
1763年　7月29日 宝暦13年　6月19日 快晴 （当月16日十三町磯松濱に破船1艘）
1763年　7月30日 宝暦13年　6月20日 曇 昨夜中より小雨 今日終日
1763年　7月31日 宝暦13年　6月21日 晴
1763年　8月1日 宝暦13年　6月22日 曇 昨夜中より雨 今朝辰の刻まて小雨
1763年　8月2日 宝暦13年　6月23日 晴 （對馬甚助に一粒金丹3粒）
1763年　8月3日 宝暦13年　6月24日 晴 （御初米の出穂を大鰐村加賀助兵左衛門が差上げる、当月8日より雨続き・駒越・藤代・金木・常盤・柏木・堀越の六組に水湛等の被害あり）
1763年　8月4日 宝暦13年　6月25日 晴
1763年　8月5日 宝暦13年　6月26日 曇 午の刻より雨降る
1763年　8月6日 宝暦13年　6月27日 曇 昨夜中より雨 今朝に及ぶ
1763年　8月7日 宝暦13年　6月28日 快晴
1763年　8月8日 宝暦13年　6月29日 曇 今晩より時々小雨 巳の中刻過ぎ少し地震
1763年　8月9日 宝暦13年　7月1日 陰晴 昨夜中雨 今朝に及ぶ 辰の刻より止む （最勝院・薬王院江五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1763年　8月10日 宝暦13年　7月2日 快晴
1763年　8月11日 宝暦13年　7月3日 快晴 巳の刻地震余程強し
1763年　8月12日 宝暦13年　7月4日 陰晴
1763年　8月13日 宝暦13年　7月5日 晴 昼の内未の刻過ぎより少々の内雨
1763年　8月14日 宝暦13年　7月6日 曇 午の刻過ぎより雷雨発
1763年　8月15日 宝暦13年　7月7日 曇 昨日雨 今日に及ぶ 巳の刻頃より少し晴
1763年　8月16日 宝暦13年　7月8日 晴 朝の内曇 未の刻より申の刻まて少し雷度々発す
1763年　8月17日 宝暦13年　7月9日 陰晴 朝の内四方一円霞 未の刻過ぎ少し雨 （当月5日大光寺組本町村で男変死・その女房が怪しいが……）
1763年　8月18日 宝暦13年　7月10日 陰晴
1763年　8月19日 宝暦13年　7月11日 快晴
1763年　8月20日 宝暦13年　7月12日 快晴
1763年　8月21日 宝暦13年　7月13日 快晴 午の刻頃より一円曇 未の刻過ぎ小雨 （本町村の死亡男の女房入牢、青森で隠し津出米48俵が見つかっている）
1763年　8月22日 宝暦13年　7月14日 晴 午の刻過ぎより曇 雷少し発す それより大雨
1763年　8月23日 宝暦13年　7月15日 曇 昨日の雨今日に及ぶ 時々雨 少々つ〃
1763年　8月24日 宝暦13年　7月16日 曇 申の刻過ぎより小雨
1763年　8月25日 宝暦13年　7月17日 快晴
1763年　8月26日 宝暦13年　7月18日 快晴
1763年　8月27日 宝暦13年　7月19日 曇 今暁卯の刻過ぎより小雨
1763年　8月28日 宝暦13年　7月20日 晴 （初米6俵大鰐村より差上げる・昨年より植付け日数との比較で7日節との比較で8日遅い）
1763年　8月29日 宝暦13年　7月21日 曇 昨夜中小雨 今朝辰の刻まて （昨夜中和徳町に男縊死）
1763年　8月30日 宝暦13年　7月22日 曇 昨夜中雨 今日に及び終日雨降
1763年　8月31日 宝暦13年　7月23日 快晴

1763年　9月1日 宝暦13年　7月24日 曇　辰の刻頃より雨降事ふ少 （去る14日の大雨で埋御門前の土居が欠崩れる）
1763年　9月2日 宝暦13年　7月25日 曇
1763年　9月3日 宝暦13年　7月26日 曇　時々小雨
1763年　9月4日 宝暦13年　7月27日 陰晴
1763年　9月5日 宝暦13年　7月28日 陰晴 （打ち続く天気不宣に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治停止）
1763年　9月6日 宝暦13年　7月29日 晴　残暑強　昨夜中雷電　大雨　風強し （紙漉沢村の宝龍権現に63・4男縊死）
1763年　9月7日 宝暦13年　7月30日 快晴　今朝四方大霞　巳の刻過ぎより曇　残暑強
1763年　9月8日 宝暦13年　8月1日 曇　昨夜より雨　今日及ぶ午の刻　残暑大いに強し （7月中所々御関所出人都合217人:碇関207人(御印紙出157・切手紙出49)・野内7人(御印紙出6・切手紙出1)・大間越3人(御印紙出))
1763年　9月9日 宝暦13年　8月2日 曇　昨夜中より雨　今日終日に及ぶ
1763年　9月10日 宝暦13年　8月3日 曇　昨日雨　今日終日に及ぶ
1763年　9月11日 宝暦13年　8月4日 晴
1763年　9月12日 宝暦13年　8月5日 晴 （昨夜七つ和徳組大久保村で馬屋火災・駒2疋焼失・火元村預け）
1763年　9月13日 宝暦13年　8月6日 快晴
1763年　9月14日 宝暦13年　8月7日 晴　今朝雁始めて渡る　丑の刻過ぎ地震　寅の刻より雨 （藤崎村の庄屋を藤崎組の手代(足軽相当)に新規召抱え）
1763年　9月15日 宝暦13年　8月8日 曇 （当月3日板屋野木村の男縊死、円受院？様23回忌に伴い大赦:1人出牢・1人弘前徘徊御免）
1763年　9月16日 宝暦13年　8月9日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　終日に及ぶ （大久保村の火元の村預け免許）
1763年　9月17日 宝暦13年　8月10日 晴　昨夜より南風出
1763年　9月18日 宝暦13年　8月11日 曇　昨夜より雨　今日午の刻まで
1763年　9月19日 宝暦13年　8月12日 曇　昨夜より雨　今日終日に及ぶ （隠津出男を三里四方追放）
1763年　9月20日 宝暦13年　8月13日 曇　今朝卯の刻過ぎより巳の刻過ぎまて雨　それより陰晴
1763年　9月21日 宝暦13年　8月14日 快晴
1763年　9月22日 宝暦13年　8月15日 曇
1763年　9月23日 宝暦13年　8月16日 曇　昨夜より雨　今日小止なし
1763年　9月24日 宝暦13年　8月17日 曇　昨夜の雨今日に及ぶ　寅の刻より風終日 （今もって雨降続く・神明八幡両社に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1763年　9月25日 宝暦13年　8月18日 曇　巳の刻過ぎ雷数度　雨度々降
1763年　9月26日 宝暦13年　8月19日 晴　夜に入り雷発す
1763年　9月27日 宝暦13年　8月20日 曇　辰の刻より巳の刻過ぎまで雨 （去月29日唐笠柳村の男が喧嘩・傷害・村預け）
1763年　9月28日 宝暦13年　8月21日 曇　辰の刻過ぎ西の方に虹見る　昨夜より小雨　今日時々雨 （田村源太兵衛が高屋冨太郎に預け）
1763年　9月29日 宝暦13年　8月22日 晴　昨夜小雨 （お預けの様子:風呂等無用・行水は1ヶ月に一両度など）
1763年　9月30日 宝暦13年　8月23日 晴 （初菱喰差上げる、お預けの田村に親類からの綿入れ羽織などの差し入れも断っている）
1763年　10月1日 宝暦13年　8月24日 晴　午の刻より少々雨
1763年　10月2日 宝暦13年　8月25日 陰晴　昨夜より雨　寅の刻過ぎ止む　今日辰の刻過ぎ小雨　八つ時雷発す
1763年　10月3日 宝暦13年　8月26日 曇　昨夜中小雨　今日時々雨 （抜米の男2人を五里四方追放等）
1763年　10月4日 宝暦13年　8月27日 陰晴
1763年　10月5日 宝暦13年　8月28日 曇　夜中雨
1763年　10月6日 宝暦13年　8月29日 曇　今日小雨
1763年　10月7日 宝暦13年　9月1日 晴　今朝少し雨 （油川組油川村々に60斗道心者縊死）
1763年　10月8日 宝暦13年　9月2日 快晴 （去月29日五時頃大鰐組大沢村で火災(3間×5間:高無)・火元村預け）
1763年　10月9日 宝暦13年　9月3日 陰晴　未の刻過ぎより小雨 （大沢村の火元の村預け免許）
1763年 10月10日 宝暦13年　9月4日 曇　昨夜より大風雨
1763年 10月11日 宝暦13年　9月5日 陰晴　昨夜中小雨
1763年 10月12日 宝暦13年　9月6日 曇　今日少し雨
1763年 10月13日 宝暦13年　9月7日 曇　今日終日小雨 （初雁1羽差上げる）
1763年 10月14日 宝暦13年　9月8日 曇　昨夜中より雨　今暁に及ぶ　今朝岩木山初雪　今日時々雪
1763年 10月15日 宝暦13年　9月9日 快晴
1763年 10月16日 宝暦13年　9月10日 快晴　卯の刻少し地震
1763年 10月17日 宝暦13年　9月11日 陰晴 （御相撲の者5人に永の暇）
1763年 10月18日 宝暦13年　9月12日 晴　昨夜中雨
1763年 10月19日 宝暦13年　9月13日 陰晴 （初鮭2本例年の通り高岡へ）
1763年 10月20日 宝暦13年　9月14日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　辰の刻虹ミゆる
1763年 10月21日 宝暦13年　9月15日 曇　昨夜中霙雨　今日終日降　四方山雪見ェる
1763年 10月22日 宝暦13年　9月16日 晴
1763年 10月23日 宝暦13年　9月17日 曇　辰の刻より小雨 （昨12日に大間越に南部川内村の船が破船）
1763年 10月24日 宝暦13年　9月18日 快晴
1763年 10月25日 宝暦13年　9月19日 曇　午の刻過ぎ小雨　則刻止む
1763年 10月26日 宝暦13年　9月20日 快晴　今朝大霜
1763年 10月27日 宝暦13年　9月21日 快晴
1763年 10月28日 宝暦13年　9月22日 晴
1763年 10月29日 宝暦13年　9月23日 快晴
1763年 10月30日 宝暦13年　9月24日 快晴
1763年 10月31日 宝暦13年　9月25日 快晴

1763年　11月1日 宝暦13年　 9月26日 曇　今朝辰の刻より雨終日　雷二三度発す　時々風立つ　申の刻より則止む　　下から続く　　甚左衛門(27匁)・同組尾崎村の十兵衛(7文目)それぞれ熊取る)
1763年　11月2日 宝暦13年　 9月27日 快晴　　下から続く　　彦次郎(28匁)・同組同村の小次右衛門(85匁)・和徳組悪戸村の藤七(22匁)・大鰐組居土村の弥左衛門3疋(40目・25文目・60目)・尾崎組唐竹村の　　上に続く
1763年　11月3日 宝暦13年　 9月28日 快晴　(今25日堀越組小栗山天野澤山で山火事(20間×15間ほど))　　下から続く　　・飯詰組若山村の半助(41匁)・浪岡組徳才子村の定右衛門(45匁)・堀越組一野渡村の　　上に続く
1763年　11月4日 宝暦13年　 9月29日 晴　(駒越組杉ヶ沢村の惣左衛門3疋(胆に傷・生目形(以下同様)29匁・11匁)・同組桜庭村の茂助(38匁)・同組同村の喜右衛門(25匁・胆に傷)・同組中畑村の彦左衛門(6匁)　　上に続く
1763年　11月5日 宝暦13年　 10月1日 陰晴
1763年　11月6日 宝暦13年　 10月2日 曇　昨夜丑の刻より雨　今日終日時々雨
1763年　11月7日 宝暦13年　 10月3日 快晴　昨夜酉の刻より亥の刻頃まて大風雨　今暁まて雨時々　今朝岩木山ニ雪見る
1763年　11月8日 宝暦13年　 10月4日 陰晴　今朝辰の刻過ぎ霰少々降　(青森より初鱈差上げる、昨2日夜五時頃の大風で常盤組西野?村の御蔵百姓家(3間×8間)吹き潰れる・男女4人死亡?)
1763年　11月9日 宝暦13年　 10月5日 昨夜中初雪1寸程降
1763年 11月10日 宝暦13年　 10月6日 晴　今朝大雪
1763年 11月11日 宝暦13年　 10月7日 快晴
1763年 11月12日 宝暦13年　 10月8日 曇　辰の刻小雨
1763年 11月13日 宝暦13年　 10月9日 曇　終日雨降
1763年 11月14日 宝暦13年　10月10日 曇　昨夜中より今日迄雨降
1763年 11月15日 宝暦13年　10月11日 陰晴
1763年 11月16日 宝暦13年　10月12日 陰晴
1763年 11月17日 宝暦13年　10月13日 晴　今朝霜強し
1763年 11月18日 宝暦13年　10月14日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今日終日降
1763年 11月19日 宝暦13年　10月15日 快晴
1763年 11月20日 宝暦13年　10月16日 曇　今朝虹見る　時々小雨
1763年 11月21日 宝暦13年　10月17日 曇　入夜小雨
1763年 11月22日 宝暦13年　10月18日 曇　今暁より時々雪
1763年 11月23日 宝暦13年　10月19日 曇　昨夜時々雪　巳の刻過ぎ止む
1763年 11月24日 宝暦13年　10月20日 曇　昨夜中より雨
1763年 11月25日 宝暦13年　10月21日 快晴　(大坂表で活躍の勘定奉行釜萢八左衛門が任務を終え御国下がり道中和田の宿(長野県か)で家来1人を手打ち・2人が逃げ行方不明)
1763年 11月26日 宝暦13年　10月22日 曇　昨夜中より雨　今日終日に及ぶ
1763年 11月27日 宝暦13年　10月23日 曇　昨夜酉の刻過ぎより亥の刻過ぎまで風強く雨降
1763年 11月28日 宝暦13年　10月24日 陰晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1763年 11月29日 宝暦13年　10月25日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1763年 11月30日 宝暦13年　10月26日 快晴　昨夜雪吹　(米留を追加任命している、5月22日記述の新鍛冶町の相対死生き残り娘を取上御仕置場で斬罪、不行跡増長で御家中(28日の記述で御手廻組)永の暇)
1763年　12月1日 宝暦13年　10月27日 曇　今朝辰の刻より雨
1763年　12月2日 宝暦13年　10月28日 陰晴
1763年　12月3日 宝暦13年　10月29日 曇　終日時々小雪
1763年　12月4日 宝暦13年　10月30日 陰晴　時々小雪　(釜萢八左衛門を隠居・半知召上げ家督を御目見え以上御留守居支配とする)
1763年　12月5日 宝暦13年　 11月1日 曇
1763年　12月6日 宝暦13年　 11月2日 快晴
1763年　12月7日 宝暦13年　 11月3日 晴
1763年　12月8日 宝暦13年　 11月4日 晴　午の刻より小雨
1763年　12月9日 宝暦13年　 11月5日 陰晴　(昨夜六つ半時過ぎ下鍛治町で小火)
1763年 12月10日 宝暦13年　 11月6日 快晴
1763年 12月11日 宝暦13年　 11月7日 快晴
1763年 12月12日 宝暦13年　 11月8日 曇　辰の刻頃より小雨
1763年 12月13日 宝暦13年　 11月9日 曇　昨夜中より時々雨
1763年 12月14日 宝暦13年　11月10日 曇　今朝辰の刻少々雪
1763年 12月15日 宝暦13年　11月11日 曇　時々雪　(今四時平館湊野田村前浜に鯨(長5尋)1尺流れ寄せる)
1763年 12月16日 宝暦13年　11月12日 晴
1763年 12月17日 宝暦13年　11月13日 陰晴　昨夜中雪　(黒石領の損毛高2086石余)
1763年 12月18日 宝暦13年　11月14日 晴　昨夜中雪
1763年 12月19日 宝暦13年　11月15日 曇　昨夜中雪三寸ほど　今日も時々
1763年 12月20日 宝暦13年　11月16日 曇　時々雪
1763年 12月21日 宝暦13年　11月17日 陰晴　亥ノ刻冬至入ル
1763年 12月22日 宝暦13年　11月18日 陰晴
1763年 12月23日 宝暦13年　11月19日 晴　午の下刻小雨　(昨17日夜後潟組田沢村で火災(3間×5間:高無)・当歳駒1疋母駄1疋・現米3俵・籾2石・稲250束・蕎麦5斗・大豆3斗・稗8斗焼失・残り稲30束・火元村預け)
1763年 12月24日 宝暦13年　11月20日 曇　昨夜中雨　今日雪　(御発駕金2000両の御定め・年々不足し御国許より500両追加している)
1763年 12月25日 宝暦13年　11月21日 陰晴　時々雪
1763年 12月26日 宝暦13年　11月22日 曇
1763年 12月27日 宝暦13年　11月23日 曇　今朝辰の刻ころより雨　雷三度発す
1763年 12月28日 宝暦13年　11月24日 曇　時々雪
1763年 12月29日 宝暦13年　11月25日 陰晴　昨夜雪
1763年 12月30日 宝暦13年　11月26日 曇　昨夜より雪　今日に及び時々雪
1763年 12月31日 宝暦13年　11月27日 曇　昨夜中より今日終日雪

1764年　1月1日 宝暦13年　11月28日 陰晴
1764年　1月2日 宝暦13年　11月29日 曇　昨夜中より今日終日雪 （27日夜九つ時藤代組尾原村で火災(2間半×4間:高無)・米5俵・大豆2俵・籾5俵・籾粟6斗・馬1疋焼失・火元村預け）
1764年　1月3日 宝暦13年　12月1日 曇　昨夜中夜雪吹五六寸 （11月中所々御関所出人都合99人:碇関90人(御印紙出74・切手紙出16)・野内8人(御印紙出2・切手紙出6)・大間越1人(切手紙出)）
1764年　1月4日 宝暦13年　12月2日 晴
1764年　1月5日 宝暦13年　12月3日 快晴　今暁寅の刻より小寒に入る
1764年　1月6日 宝暦13年　12月4日 陰晴 （去月27日の尾原村の火元の村預け免許）
1764年　1月7日 宝暦13年　12月5日 陰晴
1764年　1月8日 宝暦13年　12月6日 晴　今朝卯の刻より時々雪
1764年　1月9日 宝暦13年　12月7日 曇　昨夜中五時の雪終日降る
1764年　1月10日 宝暦13年　12月8日 陰晴
1764年　1月11日 宝暦13年　12月9日 曇
1764年　1月12日 宝暦13年　12月10日 曇
1764年　1月13日 宝暦13年　12月11日 曇　昨夜中より雪吹　巳の上刻地震少し （11月中碇関出入り人数合184人・大間越出入り人数合88人・野内出入人数合139人）
1764年　1月14日 宝暦13年　12月12日 曇　巳の刻地震　申の刻一度　下刻一度　三度
1764年　1月15日 宝暦13年　12月13日 曇　時々雪
1764年　1月16日 宝暦13年　12月14日 晴　朝の内小雪 （尾太銅山の出高が減り上方の値段も下値、広須組代官が下冨蒔村14軒71人に食べ物なく御救い米を申し立てる）
1764年　1月17日 宝暦13年　12月15日 晴
1764年　1月18日 宝暦13年　12月16日 陰晴　時々雪 （当夏京都江訴えた元大目付田村源太兵衛の知行召上げ・御家中預け）
1764年　1月19日 宝暦13年　12月17日 快晴
1764年　1月20日 宝暦13年　12月18日 陰晴 （木作新田5村の448人に食べ物(給物と記述)なく渇命拝借米願い・百姓家内1人に3斗・高無家内1人に2斗宛の拝借米を申付ける:この違いはなんだろう:福真）
1764年　1月21日 宝暦13年　12月19日 快晴　大寒巳の一刻に入る
1764年　1月22日 宝暦13年　12月20日 曇 （去る17日夜九時半時青森柳町東側で火災(8軒)・火元寺落）
1764年　1月23日 宝暦13年　12月21日 曇
1764年　1月24日 宝暦13年　12月22日 曇
1764年　1月25日 宝暦13年　12月23日 曇　昨夜中より雪降　今日雪吹 （尾太鉛出高:宝暦8年2046箇・同9年1579箇・同10年1090箇・同11年750箇・同12年950箇・同13年689箇）
1764年　1月26日 宝暦13年　12月24日 曇　昨夜より今日時々雪
1764年　1月27日 宝暦13年　12月25日 陰晴
1764年　1月28日 宝暦13年　12月26日 陰晴
1764年　1月29日 宝暦13年　12月27日 陰晴
1764年　1月30日 宝暦13年　12月28日 晴
1764年　1月31日 宝暦13年　12月29日 快晴
1764年　2月1日 宝暦13年　12月30日 曇　昨夜雪三寸位　今日時々雪
1764年　2月2日 宝暦14年正月1日　快晴
1764年　2月3日 宝暦14年正月2日　晴
1764年　2月4日 宝暦14年正月3日　曇　今日雪時々
1764年　2月5日 宝暦14年正月4日　晴　昨夜雪八寸程降ル
1764年　2月6日 宝暦14年正月5日　曇　時々雪降　夜中吹雪強
1764年　2月7日 宝暦14年正月6日　曇　時々雪　寒強
1764年　2月8日 宝暦14年正月7日　陰晴　時々雪
1764年　2月9日 宝暦14年正月8日　晴　夜中雪少し降
1764年　2月10日 宝暦14年正月9日　陰晴
1764年　2月11日 宝暦14年正月10日　晴　夜中雪少し降
1764年　2月12日 宝暦14年正月11日　陰晴　雪時々降
1764年　2月13日 宝暦14年正月12日　曇
1764年　2月14日 宝暦14年正月13日　曇　終日雪吹
1764年　2月15日 宝暦14年正月14日　快晴 （上方表に一粒金丹50粒）
1764年　2月16日 宝暦14年正月15日　陰晴
1764年　2月17日 宝暦14年正月16日　曇
1764年　2月18日 宝暦14年正月17日　晴
1764年　2月19日 宝暦14年正月18日　曇　時々雪吹
1764年　2月20日 宝暦14年正月19日　曇
1764年　2月21日 宝暦14年正月20日　陰晴　時々小雪
1764年　2月22日 宝暦14年正月21日　曇
1764年　2月23日 宝暦14年正月22日　快晴 （日の干支:甲戌）
1764年　2月24日 宝暦14年正月23日　　（日記が存在しない）
1764年　2月25日 宝暦14年正月24日　晴　昨夜中雪六寸程降 （日の干支:丙子）
1764年　2月26日 宝暦14年正月25日　晴
1764年　2月27日 宝暦14年正月26日　曇　今日時々雪
1764年　2月28日 宝暦14年正月27日　曇　昨夜より雪七寸程　戌の刻過ぎ地震 （所払いから立ち返った徒者を入牢:昔は死罪だったな:福真）
1764年　2月29日 宝暦14年正月28日　曇　昨夜中雪二三寸 （人事異動、小泊領の海岸に松前船破船）

1764年　3月1日 宝暦14年正月29日　曇　雪時々
1764年　3月2日 宝暦14年正月30日　快晴
1764年　3月3日 宝暦14年　2月1日 曇　昨夜中少し雨　今日時々少し雨
1764年　3月4日 宝暦14年　2月2日 晴
1764年　3月5日 宝暦14年　2月3日 陰晴　(昨朔日よりの雨で藤崎川の仮橋流失・馬船長船とも通れない・回復)
1764年　3月6日 宝暦14年　2月4日 陰晴　(金木新田豊岡村で28日火災・家財と籾38俵焼失)
1764年　3月7日 宝暦14年　2月5日 快晴　昨夜戌の刻頃より少々雨　酉の刻電度々雷一度
1764年　3月8日 宝暦14年　2月6日 曇　昨夜中雪二寸程
1764年　3月9日 宝暦14年　2月7日 陰晴
1764年　3月10日 宝暦14年　2月8日 快晴
1764年　3月11日 宝暦14年　2月9日 快晴
1764年　3月12日 宝暦14年　2月10日 快晴　(青森町で男(27歳)女(18歳)変死)
1764年　3月13日 宝暦14年　2月11日 陰晴
1764年　3月14日 宝暦14年　2月12日 陰晴　時々雨
1764年　3月15日 宝暦14年　2月13日 晴　(初菱食持参)
1764年　3月16日 宝暦14年　2月14日 曇　卯の刻より辰の刻まで雪ふる　(鶴屋市郎兵衛など3人が五所川原村など6村の544軒の高無借家の者共に籾1俵宛程度の手当て)
1764年　3月17日 宝暦14年　2月15日 快晴　卯の刻地震余程強
1764年　3月18日 宝暦14年　2月16日 快晴　(去月20日夜藤代組出来嶋村下濱に舟から・帆柱・天間船流寄せる、高杉組8村・広須組4村藤代組1村の高無に各代官が御救い米願い・足軽目付見分の上10日分宛渡すよう申付ける)
1764年　3月19日 宝暦14年　2月17日 快晴
1764年　3月20日 宝暦14年　2月18日 曇　今暁より雨　今日終日に及ぶ
1764年　3月21日 宝暦14年　2月19日 陰晴　(12日夜明け七つ時頃追良瀬浜濱に破船)
1764年　3月22日 宝暦14年　2月20日 晴　昨夜時々少し雨
1764年　3月23日 宝暦14年　2月21日 快晴
1764年　3月24日 宝暦14年　2月22日 快晴　(去る8月に拾い上げた丸木舟(3尋3尺・口1尺8寸)が半年経ったので今別領釜野沢の狄に下し置かれる)
1764年　3月25日 宝暦14年　2月23日 晴　(十三潟が21日に明ける、12日の夜赤石支配に松前船破船)
1764年　3月26日 宝暦14年　2月24日 曇　昨夜中雨時々　下から続く　・今年は日数に引き合い11日遅く節に引き合い2日早い)
1764年　3月27日 宝暦14年　2月25日 陰晴　昨夜より雨　今朝に及ぶ　則晴ル　申の下刻より風立つ　(十三潟が当月21日朝四つ半頃より昼九時まて氷明ける・去年は2月11日の朝六時より同五つ時までに明けた　上に続く
1764年　3月28日 宝暦14年　2月26日 陰晴
1764年　3月29日 宝暦14年　2月27日 晴　申の下刻より少し雨　夜中に及び時々雨　未の刻より申の下刻まて風吹
1764年　3月30日 宝暦14年　2月28日 陰晴　(一昨25日夜五つ時過ぎ浦町組大野村で火災(3間×8間、外馬屋2間×3間:高無)雑駄2疋焼失・火元村預け、昨夜浪岡組上十川村で外馬屋(2間×2間半)焼失)
1764年　3月31日 宝暦14年　2月29日 陰晴
1764年　4月1日 宝暦14年　3月1日 曇　今朝より雨　終日に及ぶ　(この度一統御倹約仰せ付けられる)
1764年　4月2日 宝暦14年　3月2日 晴
1764年　4月3日 宝暦14年　3月3日 曇
1764年　4月4日 宝暦14年　3月4日 曇　小雨丸雪時々少々降
1764年　4月5日 宝暦14年　3月5日 曇　(当月3日朝深浦濱町から出火・9軒焼失・火元入寺)
1764年　4月6日 宝暦14年　3月6日 曇　昨夜小雨　今日終日雨
1764年　4月7日 宝暦14年　3月7日 曇　時々終日風雨　(3日の深浦火災の被害:12歳男子・小荷駄1疋焼死、黒石領からの津出し4500石を去年不熟に付き750石減らすよう指示?している)
1764年　4月8日 宝暦14年　3月8日 快晴
1764年　4月9日 宝暦14年　3月9日 快晴　昨夜雨少しの内　(五山四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、十三潟の水戸が変って難渋している)
1764年　4月10日 宝暦14年　3月10日 曇
1764年　4月11日 宝暦14年　3月11日 陰晴
1764年　4月12日 宝暦14年　3月12日 陰晴　申の頃より小雨　(鶴屋市郎兵衛など2人が広田組361軒の高無借家の者共に籾7升宛などの手当て米を差し出す)
1764年　4月13日 宝暦14年　3月13日 快晴
1764年　4月14日 宝暦14年　3月14日 晴
1764年　4月15日 宝暦14年　3月15日 陰晴　今朝霜強
1764年　4月16日 宝暦14年　3月16日 快晴　今朝霜強　(去年7月5日(記事は9日)夫を切り殺した本町村の女房を取上御仕置場で磔・投げ火犯斬罪)
1764年　4月17日 宝暦14年　3月17日 快晴　今朝も霜強
1764年　4月18日 宝暦14年　3月18日 快晴　今朝霜強　(柏木組高増村の百姓共8人が極難の者共に手当て(米10俵・籾3俵3斗・銭8匁8分))
1764年　4月19日 宝暦14年　3月19日 快晴　今朝霜
1764年　4月20日 宝暦14年　3月20日 快晴
1764年　4月21日 宝暦14年　3月21日 晴
1764年　4月22日 宝暦14年　3月22日 晴　昨夜中小雨　今朝丸雪　(当月4日木作新田長濱村領に越後船破船)
1764年　4月23日 宝暦14年　3月23日 晴　昨夜子の刻頃より風強　終日に及ぶ
1764年　4月24日 宝暦14年　3月24日 快晴　未の刻より風立つ　申の下刻に止む
1764年　4月25日 宝暦14年　3月25日 晴
1764年　4月26日 宝暦14年　3月26日 快晴
1764年　4月27日 宝暦14年　3月27日 快晴
1764年　4月28日 宝暦14年　3月28日 快晴　午の刻過ぎ少々曇　風余程強
1764年　4月29日 宝暦14年　3月29日 快晴　風時々
1764年　4月30日 宝暦14年　3月30日 陰晴　朝より折々風立つ　酉の中刻より止む　(昨昼頃より碇関で山火事・昼八時頃鎮める、青森町の者共144軒591人(10歳以上400・4歳以上174)に御救い米を申し立てる)

1764年　5月1日 宝暦14年　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合163人：碇関155人（御印紙出62・切手紙出93）・野内8人（切手紙出）・大間越3人（切手紙出）、油川組新城村の高無出火・村預け免許、　下の欄外(*)に続く
1764年　5月2日 宝暦14年　4月2日 晴
1764年　5月3日 宝暦14年　4月3日 曇 昨夜より雨　卯の刻まで　下から続く　3間半×7間・外馬屋2間×3間・白米2俵・籾1石2斗・稗1石2斗・味噌7斗程：高無、3間×6間：高無）・火元他村預け）
1764年　5月4日 宝暦14年　4月4日 晴 （3月28日鯵ヶ沢の船が蟹田湊沖で破船、昨朔日の夜浦町組荒川村で火災（9間×4間・外馬屋4間×2間・白米30俵・粟6斗・稗2石・蕎麦5斗・大豆4斗・味噌1石程：高無、　上に続く
1764年　5月5日 宝暦14年　4月5日 晴
1764年　5月6日 宝暦14年　4月6日 晴 （赤石組舞戸村で少々出火（3間×4間：借家））
1764年　5月7日 宝暦14年　4月7日 晴 昨夜子の刻より風立つ （5日昼七時過ぎ横内組滝沢村で火災（4間×2間半：高無）・火元村預け）
1764年　5月8日 宝暦14年　4月8日 晴 （晦日堀越村の火元の親類引き取り慎みを免許、4日赤石組舞戸村の火元の村預け差許）
1764年　5月9日 宝暦14年　4月9日 快晴 （朔日出火の浦町組荒川村・5日出火の横内組滝沢村の火元の他村預け・村預け免許）
1764年　5月10日 宝暦14年　4月10日 晴 （今日評定所で御家中二男三男の剣術見分）
1764年　5月11日 宝暦14年　4月11日 晴 （十三新湊口で破船・2人行方不明1人半死半生で上がる）
1764年　5月12日 宝暦14年　4月12日 晴
1764年　5月13日 宝暦14年　4月13日 快晴
1764年　5月14日 宝暦14年　4月14日 曇
1764年　5月15日 宝暦14年　4月15日 曇
1764年　5月16日 宝暦14年　4月16日 陰晴
1764年　5月17日 宝暦14年　4月17日 曇 （外馬場で御家中二男三男の馬術を見分）
1764年　5月18日 宝暦14年　4月18日 陰晴
1764年　5月19日 宝暦14年　4月19日 晴
1764年　5月20日 宝暦14年　4月20日 曇
1764年　5月21日 宝暦14年　4月21日 快晴 （昨19日よりの大東風で内真部湊沖で破船2艘）
1764年　5月22日 宝暦14年　4月22日 快晴
1764年　5月23日 宝暦14年　4月23日 快晴 （19日内真部湊前浜に破船3艘・3人死亡、21日昼頃和徳組和徳村で火災（御蔵百姓）・火元村預け）
1764年　5月24日 宝暦14年　4月24日 晴
1764年　5月25日 宝暦14年　4月25日 晴 （昨夜四つ半頃茂森町で出火3軒・火元寿昌院江入寺、20日畏月湊に南部船破船）
1764年　5月26日 宝暦14年　4月26日 陰晴
1764年　5月27日 宝暦14年　4月27日 快晴 （三之丸御屋敷で御家中二男三男の鎗術見分）
1764年　5月28日 宝暦14年　4月28日 快晴（27日の次に29日・その後に28日が綴じられている・日の干支もその順である）
1764年　5月29日 宝暦14年　4月29日 晴 朝の内曇 （24日出火の茂森町の火元の入寺免許、正月に浪岡・中野・目鹿沢3村の数百人が弘前に非道の願いを申出た節に先導の代官手代・目鹿沢村庄屋・五人組等を追放等の処分）
1764年　5月30日 宝暦14年　4月30日 快晴
1764年　5月31日 宝暦14年　5月1日 快晴 申の下刻より雨 夜中に及ぶ （屋形様来月4日御発駕と仰せ出される）
1764年　6月1日 宝暦14年　5月2日 曇 昨夜雨時々 今朝に及ぶ （喜良市村で4月25日出火の火元の他村預け免許）
1764年　6月2日 宝暦14年　5月3日 曇 時々小雨
1764年　6月3日 宝暦14年　5月4日 快晴
1764年　6月4日 宝暦14年　5月5日 陰晴 午の下刻雨 今朝に及ぶ
1764年　6月5日 宝暦14年　5月6日 曇
1764年　6月6日 宝暦14年　5月7日 曇 申の中刻地震 （4日横内組横内村で外馬屋3間×5間出火・火元村預け、去月28日夜尾崎組柏木町村で火災（17軒）・火元他村預け・免許）
1764年　6月7日 宝暦14年　5月8日 晴 朝の内霞 （4日出火の横内村の火元の村預け免許）
1764年　6月8日 宝暦14年　5月9日 快晴 （御旗奉行今十内に一粒金丹5粒）
1764年　6月9日 宝暦14年　5月10日 曇 巳の下刻より雨 （御家老堀五郎左衛門に一粒金丹30粒）
1764年　6月10日 宝暦14年　5月11日 曇 巳の刻過ぎより晴 入梅
1764年　6月11日 宝暦14年　5月12日 曇
1764年　6月12日 宝暦14年　5月13日 晴 申の刻地震 （先月中碇関入り人数167人出入合472人・同大間越入り人数36人出入合57人・同野内出入合148人）
1764年　6月13日 宝暦14年　5月14日 快晴 朝の内霞 （広須組桑野木田村の男が姥嶋・桑野木田村の高無・借家の者江米4石5斗余、粉米6石余の手当て米を仕る・御褒美金200疋下し置かれる）
1764年　6月14日 宝暦14年　5月15日 曇 巳の刻過ぎより雨 （11日夜五時後潟組小国南沢村で火災（3間×5間：高無）・稗9斗・麦3斗焼失・火元村預け）
1764年　6月15日 宝暦14年　5月16日 快晴
1764年　6月16日 宝暦14年　5月17日 晴 （11日出火の後潟組御組南沢村の火元の村預け差免）
1764年　6月17日 宝暦14年　5月18日 快晴 朝の内曇
1764年　6月18日 宝暦14年　5月19日 晴 朝の内霞
1764年　6月19日 宝暦14年　5月20日 快晴 申の刻過ぎ小雨 （大鰐村嘉次兵衛が初小角豆差上げる）
1764年　6月20日 宝暦14年　5月21日 快晴 （屋形様御機嫌良く九つ時過ぎ御着城）
1764年　6月21日 宝暦14年　5月22日 快晴 暑気強し
1764年　6月22日 宝暦14年　5月23日 快晴 申の上刻より小雨 風立つ
1764年　6月23日 宝暦14年　5月24日 晴 朝の内曇
1764年　6月24日 宝暦14年　5月25日 曇 昨夜酉の下刻より雨 今日未の中刻まで それより晴
1764年　6月25日 宝暦14年　5月26日 陰晴
1764年　6月26日 宝暦14年　5月27日 晴
1764年　6月27日 宝暦14年　5月28日 晴 朝の内霞 未の刻より曇 未の中刻より雷 風強し 夜中小雨 （今日御着城御祝儀御料理並びに御能）
1764年　6月28日 宝暦14年　5月29日 曇 今朝の雷雨強し （大鰐村より初真瓜差上げる、寺町の男の妻が脇差で咽を突き通し変死）
1764年　6月29日 宝暦14年　6月1日 陰晴 巳の刻過ぎ小雨 申の刻過ぎ少し雷三四度発す
1764年　6月30日 宝暦14年　6月2日 晴

(*) 昨晦日堀越組堀越村で火災(3間×6間・外馬屋2間×3間：給地百姓）・火元は親類共え引取り慎みを申付ける）

1764年　7月1日 宝暦14年　6月3日 晴 （大鰐村より初茄子差上げる）
1764年　7月2日 宝暦14年　6月4日 快晴 朝の内霞
1764年　7月3日 宝暦14年　6月5日 曇 昨夜より雨 今日時々 巳の中刻に及ぶ
1764年　7月4日 宝暦14年　6月6日 陰晴 辰の刻前小雨
1764年　7月5日 宝暦14年　6月7日 快晴 子の刻過ぎ少し地震
1764年　7月6日 宝暦14年　6月8日 快晴 申の刻少し雷二三度発す （一粒金丹5剤分の入用品（阿芙蓉12匁5分・膃肭臍（オットセイ）40本・金箔125枚・原蚕蛾5升・梅花龍脳1匁2分5厘・等々）あり）
1764年　7月7日 宝暦14年　6月9日 快晴
1764年　7月8日 宝暦14年　6月10日 快晴
1764年　7月9日 宝暦14年　6月11日 快晴
1764年　7月10日 宝暦14年　6月12日 陰晴 辰の刻より時々雨
1764年　7月11日 宝暦14年　6月13日 曇 昨夜中時々雨 今日午の刻過ぎより小雨
1764年　7月12日 宝暦14年　6月14日 陰晴
1764年　7月13日 宝暦14年　6月15日 晴 （人事異動）
1764年　7月14日 宝暦14年　6月16日 陰晴 （御囃子）
1764年　7月15日 宝暦14年　6月17日 陰晴 未の刻過ぎ少し時雨 （二ツ屋前浜に大泊村の船が破船）
1764年　7月16日 宝暦14年　6月18日 快晴 未の刻過ぎ少し時雨
1764年　7月17日 宝暦14年　6月19日 晴 未の刻中刻雨 雷数度発す 申の刻止む （今朝南溜池に出家入水・生きて居り・天徳寺に渡す）
1764年　7月18日 宝暦14年　6月20日 快晴 今晩子の刻より土用
1764年　7月19日 宝暦14年　6月21日 快晴 （人事異動：斉藤彦左衛門を大目付に）
1764年　7月20日 宝暦14年　6月22日 快晴 朝の内曇
1764年　7月21日 宝暦14年　6月23日 快晴
1764年　7月22日 宝暦14年　6月24日 快晴
1764年　7月23日 宝暦14年　6月25日 陰晴
1764年　7月24日 宝暦14年　6月26日 曇 巳の刻過ぎより雨 雷度々発す
1764年　7月25日 宝暦14年　6月27日 陰晴 午の刻頃小雨 夜中雨
1764年　7月26日 宝暦14年　6月28日 晴 夜中雨ふる （大鰐村嘉賀助・兵左衛門より初米穂差上・4月26日植付・去年は4月21日植付で6月24日・去年より日数で1日節に引合7日早い、当月13日江戸で「明和」と改元仰出される）
1764年　7月27日 宝暦14年　6月29日 曇 巳の刻過ぎより雨 午の刻過ぎ止む 雷度々発す
1764年　7月28日 宝暦14年　6月30日 晴 卯の刻雨 雷度々発す 辰の刻過ぎより晴 午の刻度々小雷発す
1764年　7月29日 明和元年　7月1日 快晴 暑気至って強し 夜に入るまで難凌（凌ぎがたい）程也 （大坂御廻船41艘が6月28日までに鰺ヶ沢湊口を出た・8月18日に記事によると米135000俵か）
1764年　7月30日 明和元年　7月2日 快晴 朝より至って暑気強シ
1764年　7月31日 明和元年　7月3日 陰晴
1764年　8月1日 明和元年　7月4日 晴 未の下刻小雨 則止む
1764年　8月2日 明和元年　7月5日 晴 夜中小雨 則止む
1764年　8月3日 明和元年　7月6日 晴 （先頃他領より似せ銭入り……）
1764年　8月4日 明和元年　7月7日 晴 午の刻過ぎ小雨
1764年　8月5日 明和元年　7月8日 曇 巳の刻過ぎ小雨 （去る23日江戸勘定奉行久慈定次郎変死（切腹））
1764年　8月6日 明和元年　7月9日 曇 朝より雨 雷度々 雨終日 風添 （今日雷雨強く候に付御機嫌伺いの為御次江御家老御用人罷り出でる）
1764年　8月7日 明和元年　7月10日 陰晴
1764年　8月8日 明和元年　7月11日 曇 今朝戌の刻より雨終日　下から続く　で熊荒れ鉄砲で打ち払わせる・玉20（目形3匁5分）・筒薬32匁（紙玉とも40放分）・口薬2匁（紙玉とも40放分）・火縄1曲を猟師に持たせる）
1764年　8月9日 明和元年　7月12日 曇 昨夜中小雨 今朝卯の刻より辰の后刻まで小雨 （頃日雨天続きに付天気快晴並びに五穀成就御祈祷を最勝院・薬王院江別段の御祈祷を仰せ付ける、後潟組大川平村　上に続く
1764年　8月10日 明和元年　7月13日 晴 昼の内少し雨 （盆中に付登城なし）
1764年　8月11日 明和元年　7月14日 晴
1764年　8月12日 明和元年　7月15日 晴 （昨14日駒越組土堂村庄屋家（4間×7間・馬屋2間半×3間）出火・火元村預け）
1764年　8月13日 明和元年　7月16日 晴 残暑強し
1764年　8月14日 明和元年　7月17日 快晴 残暑強 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる）
1764年　8月15日 明和元年　7月18日 陰晴 時々雨 残暑強 （顕休院（津軽信著）様21回忌の大赦により4人出牢・9人弘前並びに居村徘徊御免）
1764年　8月16日 明和元年　7月19日 快晴 残暑強
1764年　8月17日 明和元年　7月20日 晴 残暑強
1764年　8月18日 明和元年　7月21日 快晴 残暑強 （御家中（御手廻りかな?）の倅が藤代組中崎村の川原で溺れ死、富田町に当年生まれの女子捨て子・町内の乳持江預け置く）
1764年　8月19日 明和元年　7月22日 快晴 残暑強
1764年　8月20日 明和元年　7月23日 曇 辰の刻過ぎより雨 午の刻過ぎより晴 （今20日後潟組大川平村で火災2軒（5間×8間半：百姓・5間×6間：高無）・火元百姓他村預け）
1764年　8月21日 明和元年　7月24日 晴 残暑強
1764年　8月22日 明和元年　7月25日 曇 寅の刻より雨 午の刻止む
1764年　8月23日 明和元年　7月26日 陰晴 午の刻より雨
1764年　8月24日 明和元年　7月27日 陰晴 巳の刻頃より午の上刻頃まで雨強
1764年　8月25日 明和元年　7月28日 快晴
1764年　8月26日 明和元年　7月29日 快晴 （新町に当年生まれの男子捨て子・町内に預け置く）
1764年　8月27日 明和元年　8月1日 快晴 亥の刻地震 寅の刻過ぎ少し雨
1764年　8月28日 明和元年　8月2日 陰晴 巳の刻過ぎ曇 雨余程強 その後度々
1764年　8月29日 明和元年　8月3日 晴 午の中刻より風立つ 強 （長勝寺江行き夜九時過ぎ（4日になっている：お寺で何の夜遊び?福眞）に御風呂屋口より御帰り遊ばされる）
1764年　8月30日 明和元年　8月4日 晴
1764年　8月31日 明和元年　8月5日 快晴

1764年　9月1日 明和元年　8月6日 晴
1764年　9月2日 明和元年　8月7日 晴　午の刻少し雨 （報恩寺に参詣・御帰り今晩七時前（日の出の2時間余り前:これも夜遊び？））
1764年　9月3日 明和元年　8月8日 曇　昨夜中より辰の下刻まで雨
1764年　9月4日 明和元年　8月9日 快晴
1764年　9月5日 明和元年　8月10日 快晴
1764年　9月6日 明和元年　8月11日 快晴　申の下刻より小雨 （大間越町同心警固が鹿並びに猪獅子を鉄砲で防ぎたいと申し立て・鉄砲玉3匁玉100・筒薬160目・口薬10目・火縄2曲下し置かれる、各組代官の組替え）
1764年　9月7日 明和元年　8月12日 曇
1764年　9月8日 明和元年　8月13日 晴
1764年　9月9日 明和元年　8月14日 晴　申の刻頃雨　則刻止む （切明村に熊多く参り荒れる・同村右衛門作所持の鉄砲で打ち払いたい・玉3匁3分を30・筒薬24文目・口薬1匁5分を遣わす）
1764年　9月10日 明和元年　8月15日 曇　巳の上刻より雨　巳の中刻雷発す （八幡宮御祭礼）
1764年　9月11日 明和元年　8月16日 晴
1764年　9月12日 明和元年　8月17日 快晴 （13日小泊村に破船1艘・1人死亡）
1764年　9月13日 明和元年　8月18日 快晴
1764年　9月14日 明和元年　8月19日 曇　昨夜中丑の刻過ぎより明まで雨
1764年　9月15日 明和元年　8月20日 陰晴
1764年　9月16日 明和元年　8月21日 快晴
1764年　9月17日 明和元年　8月22日 陰晴
1764年　9月18日 明和元年　8月23日 陰晴 （昨暮六時過ぎ円明寺（弘前市新寺町）焼失・禁足慎み）
1764年　9月19日 明和元年　8月24日 晴
1764年　9月20日 明和元年　8月25日 快晴　今暁卯の刻過ぎ小雨
1764年　9月21日 明和元年　8月26日 快晴
1764年　9月22日 明和元年　8月27日 快晴
1764年　9月23日 明和元年　8月28日 陰晴　昨夜中小雨
1764年　9月24日 明和元年　8月29日 曇　昨夜中より小雨　今朝辰の下刻頃まで降
1764年　9月25日 明和元年　8月30日 快晴 （貞昌寺今朝自害未遂）
1764年　9月26日 明和元年　9月1日 曇　今暁寅の刻少し地震　午の刻過ぎより小雨 （8月中所々御関所出人都合99人:碇関94人（御印紙出69・切手紙出25）・野内5人（御印紙出4・切手紙出1））
1764年　9月27日 明和元年　9月2日 陰晴
1764年　9月28日 明和元年　9月3日 曇　辰の中刻過ぎ地震 （初菱喰差上げる、晦日自害の貞昌寺今暁七時死亡）
1764年　9月29日 明和元年　9月4日 曇　時々小雨
1764年　9月30日 明和元年　9月5日 曇
1764年　10月1日 明和元年　9月6日 晴
1764年　10月2日 明和元年　9月7日 陰晴　巳の刻過ぎ少し雨時々
1764年　10月3日 明和元年　9月8日 陰晴
1764年　10月4日 明和元年　9月9日 快晴
1764年　10月5日 明和元年　9月10日 曇 （22日出火の円明寺の慎み御免）
1764年　10月6日 明和元年　9月11日 快晴 （初雁・初鮭差上げる、御慰の御囃子）
1764年　10月7日 明和元年　9月12日 快晴
1764年　10月8日 明和元年　9月13日 曇　申の中刻より風立つ　戌の刻過ぎより雨　終日ふる （当月7日?上磯に間懸かり中の船から水主が落下・死亡）
1764年　10月9日 明和元年　9月14日 陰晴　今朝曇　辰の下刻より少し雨時々
1764年 10月10日 明和元年　9月15日 晴　今朝岩木山雪少々見る （青森蓮花寺境内の井戸に男変死）
1764年 10月11日 明和元年　9月16日 快晴 （今朝長濱に沖懸かり中の船が破船・3人死亡）
1764年 10月12日 明和元年　9月17日 快晴　今朝霜
1764年 10月13日 明和元年　9月18日 陰晴　今朝霜
1764年 10月14日 明和元年　9月19日 晴
1764年 10月15日 明和元年　9月20日 陰晴
1764年 10月16日 明和元年　9月21日 快晴
1764年 10月17日 明和元年　9月22日 曇　昨夜酉の刻雨　今朝辰の后刻頃止む
1764年 10月18日 明和元年　9月23日 快晴　今朝大霜
1764年 10月19日 明和元年　9月24日 曇　昨夜中小雨 （昨夜四時真教寺出火・台所廻り少々焼失・火元禁足慎み）
1764年 10月20日 明和元年　9月25日 晴
1764年 10月21日 明和元年　9月26日 陰晴　朝より一円に薄曇
1764年 10月22日 明和元年　9月27日 快晴
1764年 10月23日 明和元年　9月28日 曇　午の刻頃より少しの内雨　即刻止む
1764年 10月24日 明和元年　9月29日 晴
1764年 10月25日 明和元年　10月1日 陰晴　昨夜中雨　雷時々発す　今朝岩木山中頃まで雪見る （今日も御風呂屋口より御鷹野に御出で）
1764年 10月26日 明和元年　10月2日 曇　昨夜中雨　今日雷二三度発す
1764年 10月27日 明和元年　10月3日 曇　昨夜雨　雷度々発す （御慰の御囃子）
1764年 10月28日 明和元年　10月4日 曇　四方山一円雪降
1764年 10月29日 明和元年　10月5日 晴　今朝卯の刻雷発す
1764年 10月30日 明和元年　10月6日 晴　昨夜中戌の刻より雷度々 （4日夜駒越組田代村で出火（高無）・火元村預け）
1764年 10月31日 明和元年　10月7日 陰晴　巳の刻少しの内小雨

1764年　11月1日 明和元年　　10月8日 曇　昨夜時々小雨 （4日焼失の田代村の火元の村預け免許）
1764年　11月2日 明和元年　　10月9日 曇　昨夜雪 （佐々木某の大筒高覧）
1764年　11月3日 明和元年　10月10日 晴
1764年　11月4日 明和元年　10月11日 快晴 （大筒高覧）
1764年　11月5日 明和元年　10月12日 快晴
1764年　11月6日 明和元年　10月13日 曇　昨夜時々雨
1764年　11月7日 明和元年　10月14日 陰晴　今朝辰の刻頃まて小雨　その後止む （?日後潟組中沢村で火災2軒(4間×7間:火元高無・1軒:高無・外馬屋1軒)・火元他村預け）
1764年　11月8日 明和元年　10月15日 陰晴　時々少し雨
1764年　11月9日 明和元年　10月16日 晴　卯の刻西の方より光物東江飛 （今日御自身之御慰御能遊ばされ候に付御家老御城代拙者共拝見仰せ付けられ……、15日藤代組青女子村で火災1軒その他・火元村預け）
1764年 11月10日 明和元年　10月17日 陰晴
1764年 11月11日 明和元年　10月18日 曇　昨夜中雨
1764年 11月12日 明和元年　10月19日 曇　昨夜雪 （昨夜中より初雪……、当月11日夜出火の中沢村の・15日出火の青女子村の火元の村預け御免）
1764年 11月13日 明和元年　10月20日 曇
1764年 11月14日 明和元年　10月21日 晴
1764年 11月15日 明和元年　10月22日 曇
1764年 11月16日 明和元年　10月23日 曇　今暁より雨婦る
1764年 11月17日 明和元年　10月24日 曇　今暁より雪婦る
1764年 11月18日 明和元年　10月25日 曇　夜中大風雨　雷度々　稲光
1764年 11月19日 明和元年　10月26日 快晴　昼過ぎより曇
1764年 11月20日 明和元年　10月27日 曇　少し雪
1764年 11月21日 明和元年　10月28日 曇　終日雪
1764年 11月22日 明和元年　10月29日 陰晴　昨日の雪夜中に及ぶ　1寸ほど雪
1764年 11月23日 明和元年　　11月1日 曇　昨夜中より雪　今日も時々小雪 （頃日疱瘡時行候につき……）
1764年 11月24日 明和元年　　11月2日 陰晴 （昨28日金木組宮野沢村の庵(3間×4間)焼失）
1764年 11月25日 明和元年　　11月3日 曇　時々雪降ル （10月28日後潟組石崎村で火災(外馬屋1軒:火元百姓・類火柾家(5間半×4間半)・粟12俵・大豆5俵・稗13俵・麦4俵・小豆1俵)・火元他村預け）
1764年 11月26日 明和元年　　11月4日 曇　昨夜より雪少々　今日午の刻晴
1764年 11月27日 明和元年　　11月5日 曇　昨夜中小雪　今日も時々小雪
1764年 11月28日 明和元年　　11月6日 陰晴　昨夜中雪四寸ほど婦る
1764年 11月29日 明和元年　　11月7日 快晴
1764年 11月30日 明和元年　　11月8日 快晴
1764年　12月1日 明和元年　　11月9日 快晴
1764年　12月2日 明和元年　11月10日 晴　昨夜中小雨　今朝に及ぶ
1764年　12月3日 明和元年　11月11日 曇　昨夜中雨　今暁より辰の刻まで雷発す　それより雪降る
1764年　12月4日 明和元年　11月12日 晴 （初鱈御台所頭より差し出す）
1764年　12月5日 明和元年　11月13日 曇　今暁少し雨
1764年　12月6日 明和元年　11月14日 曇　昨夜寅の刻雨　今朝に及び雷発す
1764年　12月7日 明和元年　11月15日 曇
1764年　12月8日 明和元年　11月16日 曇
1764年　12月9日 明和元年　11月17日 陰晴　昨夜中雨　今暁より水雪　今日時々小雪ふる
1764年 12月10日 明和元年　11月18日 曇
1764年 12月11日 明和元年　11月19日 晴
1764年 12月12日 明和元年　11月20日 陰晴
1764年 12月13日 明和元年　11月21日 曇　昨夜雷発す　雨降　稲光
1764年 12月14日 明和元年　11月22日 曇　昨夜中より雪　今朝卯の刻より時々雪吹
1764年 12月15日 明和元年　11月23日 晴
1764年 12月16日 明和元年　11月24日 快晴　昨夜中雨
1764年 12月17日 明和元年　11月25日 曇　今暁より小雪　風添う　今日も時々終日雪降る
1764年 12月18日 明和元年　11月26日 曇　今日終日雪降　風吹　氷強シ
1764年 12月19日 明和元年　11月27日 晴
1764年 12月20日 明和元年　11月28日 曇　時々雪降　未の刻頃より大雪吹　戌の刻頃まで
1764年 12月21日 明和元年　11月29日 晴　朝の内雪婦る （十三潟当月24日夜九時より同25日朝六時まで早川口より氷張る・去年は11月14日夜九時より氷張る・当年は10日遅く節に引き合い1日早い）
1764年 12月22日 明和元年　11月30日 晴
1764年 12月23日 明和元年　　12月1日 快晴 （人事異動、11月中所々御関所出人都合79人:碇関72人(御印紙出58・切手紙出14)・大間越3人(御印紙出2・切手紙出1)・野内4人(切手紙出)）
1764年 12月24日 明和元年　　12月2日 快晴　酉の刻過ぎ雷稲光 （去月25日昼七時大風大波で襲月で南部船破船）
1764年 12月25日 明和元年　　12月3日 陰晴 （去月28日朝長濱村領中ノ森に小船が破損し流れ寄せる）
1764年 12月26日 明和元年　　12月4日 陰晴
1764年 12月27日 明和元年　　12月5日 曇　終日時々雪
1764年 12月28日 明和元年　　12月6日 曇　昨夜中より時々雪 （去る3日野内町の鱈取丸木舟が遭難・2人行方不明）
1764年 12月29日 明和元年　　12月7日 晴 （昨26日十三町名主の家来が砂山の下でなて(雪崩のこと)に会い2人死亡）
1764年 12月30日 明和元年　　12月8日 晴　昨夜戌の中刻より今朝まで雪一尺程降 （11月24日三馬屋村の狄2人が龍濱(たっぴ)前浜で行方不明）
1764年 12月31日 明和元年　　12月9日 陰晴 （去る4・5日鯵ヶ沢町で大荒れ・4軒流失、昨7日夜四時頃広須組兼館村で火災(4間×3間半:高無)・火元村預け）

1765年　1月1日 明和元年　12月10日 陰晴
1765年　1月2日 明和元年　12月11日 曇　昨夜中より雪終日
1765年　1月3日 明和元年　12月12日 曇　時々雪 （兼館村の火元の村預け免許、昨朝油川組沖館村に40歳くらいの男倒死）
1765年　1月4日 明和元年　12月13日 陰晴　昨夜中より時々雪　今日時々雪
1765年　1月5日 明和元年　12月14日 陰晴　今日巳の四刻寒に入る　今朝雪少々降
1765年　1月6日 明和元年　12月15日 陰晴
1765年　1月7日 明和元年　12月16日 晴 （御慰の御能）
1765年　1月8日 明和元年　12月17日 陰晴 （昼四時過ぎ和徳組門外村で火災（2間×6間：高無）・火元村預け）
1765年　1月9日 明和元年　12月18日 陰晴 （油川村の漁師の網に蝶鮫（長さ3尺5・6寸）・差上げる）
1765年　1月10日 明和元年　12月19日 陰晴　昨夜雪七・八寸降　所々により一尺程も降 （芙蓉の間で剣術高覧）
1765年　1月11日 明和元年　12月20日 快晴 （門外村の火元の村預け差免、山田彦兵衛に一粒金丹?粒、大目付笠原八郎兵衛に一粒金丹5粒）
1765年　1月12日 明和元年　12月21日 快晴
1765年　1月13日 明和元年　12月22日 快晴　今朝卯の刻より雪三・四寸降 （酒1升値段を9分にしたいとの申し出に1升8分に申付ける）
1765年　1月14日 明和元年　12月23日 快晴 （植田村（高杉組?）百姓の小作人の家焼失・火元百姓預け）
1765年　1月15日 明和元年　12月24日 曇　昨夜雪八寸程降 （昨22日夜飯詰組金山村で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1765年　1月16日 明和元年　12月25日 快晴　午の刻過ぎ少し雨
1765年　1月17日 明和元年　12月26日 快晴 （22日出火の金山村の火元の村預け免許）
1765年　1月18日 明和元年　12月27日 曇　終日時々雪降
1765年　1月19日 明和元年　12月28日 陰晴　時々雪
1765年　1月20日 明和元年　12月29日 晴　昨夜中雪三・四寸降　今晩申の刻過ぎ大寒趣 （射術高覧）
1765年　1月21日 明和元年閏12月1日 曇　時々雪吹
1765年　1月22日 明和元年閏12月2日 快晴
1765年　1月23日 明和元年閏12月3日 快晴 （御慰の御囃子、多くの盗人を追放）
1765年　1月24日 明和元年閏12月4日 晴　戌の刻過ぎ地震　夜中雪一尺程
1765年　1月25日 明和元年閏12月5日 曇
1765年　1月26日 明和元年閏12月6日 晴
1765年　1月27日 明和元年閏12月7日 快晴
1765年　1月28日 明和元年閏12月8日 晴
1765年　1月29日 明和元年閏12月9日 晴
1765年　1月30日 明和元年閏12月10日陰晴 （御用人進藤太郎左衛門?に一粒金丹?粒）
1765年　1月31日 明和元年閏12月11日陰晴　昨夜小雨　今朝卯の刻より辰の刻まで雪　巳の刻より小雨　午の刻より霽 （津軽外記・小山内宗左衛門（5粒）・桜庭平助に一粒金丹）
1765年　2月1日 明和元年閏12月12日曇
1765年　2月2日 明和元年閏12月13日快晴　昨夜中雨
1765年　2月3日 明和元年閏12月14日曇　雪降
1765年　2月4日 明和元年閏12月15日陰晴
1765年　2月5日 明和元年閏12月16日曇 （今日御慰の御能）
1765年　2月6日 明和元年閏12月17日晴
1765年　2月7日 明和元年閏12月18日曇
1765年　2月8日 明和元年閏12月19日陰晴　昨夜中より小雪　今朝巳の刻まで　午の刻より晴 （御家中御目見え以上二男・三男まで鎗術高覧）
1765年　2月9日 明和元年閏12月20日曇
1765年　2月10日 明和元年閏12月21日晴 （当耕作初（よりは省略）：種浸2月15日・田打ち3月4日・種蒔き3月22日・代かき4月6日・田植え4月29日・草取り5月26日・稲刈り8月17日・稲村納9月10日）
1765年　2月11日 明和元年閏12月22日曇　今日時々雪
1765年　2月12日 明和元年閏12月23日陰晴
1765年　2月13日 明和元年閏12月24日晴
1765年　2月14日 明和元年閏12月25日晴
1765年　2月15日 明和元年閏12月26日曇　今朝巳の刻より雨　昨夜中雪
1765年　2月16日 明和元年閏12月27日快晴 （御年忘れ並びに御茶口切御祝儀御能）
1765年　2月17日 明和元年閏12月28日曇　今日時々雪
1765年　2月18日 明和元年閏12月29日晴
1765年　2月19日 明和元年閏12月30日晴　巳の刻過ぎまで小雪時々
1765年　2月20日 明和2年　正月1日　晴　時々小雪
1765年　2月21日 明和2年　正月2日　快晴
1765年　2月22日 明和2年　正月3日　曇　今暁卯の刻前より小雨　終日に至る （御囃子）
1765年　2月23日 明和2年　正月4日　曇　昨夜中雨　今朝より雪時々　午の刻より晴 （大鰐村より七種差上げる）
1765年　2月24日 明和2年　正月5日　快晴
1765年　2月25日 明和2年　正月6日　快晴　未の刻より曇　雨夜中まで
1765年　2月26日 明和2年　正月7日　陰晴　昨夜風雨時々　今暁雪少々
1765年　2月27日 明和2年　正月8日　陰晴
1765年　2月28日 明和2年　正月9日　快晴

1765年　3月1日 明和2年 正月10日　快晴
1765年　3月2日 明和2年 正月11日　曇 （今日具足餅お祝い、人事異動）
1765年　3月3日 明和2年 正月12日　曇 昨夜中雪　今日時々小雪
1765年　3月4日 明和2年 正月13日　快晴 （御能初）
1765年　3月5日 明和2年 正月14日　快晴 （昨11日夜八時過ぎ浦町組荒川村で火災（5間×3間：高無）・雑駄2疋焼失・火元村預け）
1765年　3月6日 明和2年 正月15日　曇 巳の上刻より雨　終日降
1765年　3月7日 明和2年 正月16日　快晴 月そく（月食）亥の刻初　丑の刻西江入 （今13日昼赤石組驫木村で火災8軒・火元高無他村預け）
1765年　3月8日 明和2年 正月17日　陰晴 申の刻より雨　戌の刻までに止む （当月9日金木組薄市村で出火の火元高無村預け・当月11日浦町組荒川村で出火村預け・ともに免許、御関札60枚出来）
1765年　3月9日 明和2年 正月18日　曇 今朝霞少し　雨時々
1765年　3月10日 明和2年 正月19日　曇
1765年　3月11日 明和2年 正月20日　曇
1765年　3月12日 明和2年 正月21日　陰晴 （去る12日袰月支配不網知前浜に破船）
1765年　3月13日 明和2年 正月22日　晴 昨夜中雪三寸ほど積 （御囃子、一昨18日夜平岡町前通りの土居45・6間欠崩）
1765年　3月14日 明和2年 正月23日　陰晴
1765年　3月15日 明和2年 正月24日　陰晴
1765年　3月16日 明和2年 正月25日　陰晴 昨夜中雪四寸ほど
1765年　3月17日 明和2年 正月26日　快晴
1765年　3月18日 明和2年 正月27日　陰晴
1765年　3月19日 明和2年 正月28日　曇 昨夜中より小雨
1765年　3月20日 明和2年 正月29日　晴 （十三潟当月26日昼九時より翌日明け六時まで早川口より残らず氷明ける・去年は2月21日朝四時半頃より氷明け当年は26日早く節に引き合い7日早い）
1765年　3月21日 明和2年　2月1日 晴 昨夜子の刻より大風　今暁まで　それより小風 （正月中所々御関所出人都合278人：碇関273人（御印紙出230・切手紙出43）・野内5人（御印紙出2・切手紙出3））
1765年　3月22日 明和2年　2月2日 快晴
1765年　3月23日 明和2年　2月3日 曇 身の刻頃少々のうち小雨　その後止む （御慰之御能）
1765年　3月24日 明和2年　2月4日 曇 辰の刻雨少し　巳の刻止む
1765年　3月25日 明和2年　2月5日 晴
1765年　3月26日 明和2年　2月6日 晴 今晩雪少しふり
1765年　3月27日 明和2年　2月7日 晴 今晩雪少し婦る
1765年　3月28日 明和2年　2月8日 晴 今日午の刻より大風吹　小雨大風申の刻頃まで　その後止む
1765年　3月29日 明和2年　2月9日 快晴
1765年　3月30日 明和2年　2月10日 陰晴　　下から続く　　4月21日と仰せ出される）
1765年　3月31日 明和2年　2月11日 曇 巳の刻過ぎより雨 （去る8日横内組?金濱村で火災2軒と外馬屋・火元他村預け、藤崎組藤崎村の高無の女房縊死、森町風呂屋の女房・南横町の借家の男変死、当御発駕　　上に続く
1765年　4月1日 明和2年　2月12日 陰晴 昨夜中大風 （御家中の親変死）
1765年　4月2日 明和2年　2月13日 快晴
1765年　4月3日 明和2年　2月14日 曇 昨夜中雪一寸くらい　今日終日風吹く　寒し （当月8日出火の横内組金沢村?の火元の他村預け免許）
1765年　4月4日 明和2年　2月15日 曇 昨夜中より雪一寸ほどふり　今朝より今日時々終日雪ふり （今日暮頃より油川村で出火・今最中）
1765年　4月5日 明和2年　2月16日 陰晴
1765年　4月6日 明和2年　2月17日 曇 昨夜雪少々ふり （去る14日暮六時より油川村で出火86軒（御本陣1・焼失78・潰れ家7・土蔵6）・人馬怪我なし・火元高無他村預け）
1765年　4月7日 明和2年　2月18日 陰晴
1765年　4月8日 明和2年　2月19日 陰晴
1765年　4月9日 明和2年　2月20日 快晴 昨夜中風雨　今暁晴れる
1765年　4月10日 明和2年　2月21日 快晴 （当月11日野内町から漁に出た船（4人乗り）が大風で行方不明、油川の類焼者にお手当て：米68俵（544人に1日5合宛10日分）・銭816文目（1日1人に1分5厘）その他丸太・縄など）
1765年　4月11日 明和2年　2月22日 陰晴 （驫木村の類焼者にお手当てとして金5両下し置かれる）
1765年　4月12日 明和2年　2月23日 曇
1765年　4月13日 明和2年　2月24日 曇 （21日広須組玉川村で火災（3間×5間：高無）・火元庄屋預け）
1765年　4月14日 明和2年　2月25日 曇 辰の刻過ぎより時々少々
1765年　4月15日 明和2年　2月26日 晴 （当月14日出火の油川村の火元・21日出火の玉川村の火元の村預け差免）
1765年　4月16日 明和2年　2月27日 陰晴 今朝少しの内小雪　則刻止む
1765年　4月17日 明和2年　2月28日 晴
1765年　4月18日 明和2年　2月29日 快晴
1765年　4月19日 明和2年　2月30日 晴 （昨29日飯詰組神山村で高無家火災・火元村預け）
1765年　4月20日 明和2年　3月1日 晴 （御家中の妻が家来と不儀・両人を打ち捨てる・検死派遣）
1765年　4月21日 明和2年　3月2日 快晴
1765年　4月22日 明和2年　3月3日 陰晴 昨宵より今朝辰の刻まで雨　その後至極快晴に成
1765年　4月23日 明和2年　3月4日 快晴 （今日御稽古の御能）
1765年　4月24日 明和2年　3月5日 晴
1765年　4月25日 明和2年　3月6日 晴 朝の内少々霞　昼頃より少し風
1765年　4月26日 明和2年　3月7日 快晴 昼頃より少し風
1765年　4月27日 明和2年　3月8日 快晴
1765年　4月28日 明和2年　3月9日 曇 今朝卯の刻より雨 （一昨7日夜油川村で五半頃出火（4間×3間・7間×5間・仮小屋3軒）・火元他村預け、7日の昼大鰐組居土村等に野火（600間×400間・40間×100間・100間×130間））
1765年　4月29日 明和2年　3月10日 曇 昨夜中風雨　今日時々雨あられふる
1765年　4月30日 明和2年　3月11日 曇 昨夜中より今暁まで雨　今朝明け方より雪　辰の刻頃まで降 （御囃子）

1765年　5月1日 明和2年　3月12日 曇　時々風少し雨　巳の下刻頃小雪 （当月2日の夜四時岩崎村前浜に破船）
1765年　5月2日 明和2年　3月13日 快晴
1765年　5月3日 明和2年　3月14日 晴
1765年　5月4日 明和2年　3月15日 晴
1765年　5月5日 明和2年　3月16日 曇
1765年　5月6日 明和2年　3月17日 曇　昨夜中小雨
1765年　5月7日 明和2年　3月18日 晴
1765年　5月8日 明和2年　3月19日 晴 （当月7日出火の油川村の火元の他村預け差免）
1765年　5月9日 明和2年　3月20日 快晴
1765年　5月10日 明和2年　3月21日 陰晴　朝の内曇　酉の刻小雨
1765年　5月11日 明和2年　3月22日 曇　昨夜中の雨今日終日
1765年　5月12日 明和2年　3月23日 快晴
1765年　5月13日 明和2年　3月24日 快晴
1765年　5月14日 明和2年　3月25日 快晴
1765年　5月15日 明和2年　3月26日 晴 （24日後潟組長科村で火災（百姓家2・高無家1・米6斗・籾3俵・稗3俵・種大豆6斗・蕎麦5斗・その他焼失）・火元百姓他村預け、貞昌寺変死（縊死））
1765年　5月16日 明和2年　3月27日 陰晴
1765年　5月17日 明和2年　3月28日 曇　時々小雨
1765年　5月18日 明和2年　3月29日 快晴　朝の内四方一円霞　　下から続く　　廻り2寸9歩生目8文目：31歳）・徳才子村の定右衛門（長1寸7歩廻り1寸5歩生目3文目3分：2歳）それぞれ熊取る）
1765年　5月19日 明和2年　3月30日 快晴 （当月24日出火の長科村の火元の他村預け免許、津軽坂村の太兵衛（胆長3寸5歩廻り4寸5歩生目20目：6歳）・長森村助右衛門と浅虫村の万十郎（長2寸5歩　　上に続く
1765年　5月20日 明和2年　4月1日 快晴 （御慰之御能、3月中所々御関所出人都合118人：碇関105人（御印紙出39・切手紙出66）・大間越8人（御印紙出3・切手紙出5）・青森湊口3人（御印紙出）・野内2人（切手紙出））
1765年　5月21日 明和2年　4月2日 晴
1765年　5月22日 明和2年　4月3日 晴　今朝卯の刻より辰の刻まで小雨
1765年　5月23日 明和2年　4月4日 曇
1765年　5月24日 明和2年　4月5日 曇　昨夜戌の刻頃より雨　今日終日
1765年　5月25日 明和2年　4月6日 曇 （先月中出入り人数：碇関口229人・大間越口73人・野内口184人）
1765年　5月26日 明和2年　4月7日 曇　今朝卯の下刻より時々小雨 （富田町で男変死）
1765年　5月27日 明和2年　4月8日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1765年　5月28日 明和2年　4月9日 陰晴 （油川・後潟組の夫喰米として赤米40石をお貸米、五山・四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1765年　5月29日 明和2年　4月10日 快晴 （今日御慰の御能）
1765年　5月30日 明和2年　4月11日 快晴 （御関札御用大納戸出立、当月5日赤石組増山領?に沖懸かりの鯵ヶ沢の船が破船）
1765年　5月31日 明和2年　4月12日 快晴 （今晩外馬場で馬術高覧）
1765年　6月1日 明和2年　4月13日 快晴 （御発駕御祝儀の御能、松前出羽の守の香典として白銀30両：銀1両とは何だ）
1765年　6月2日 明和2年　4月14日 陰晴　今朝四方一円霞　辰の刻過ぎ小雨
1765年　6月3日 明和2年　4月15日 曇　昨夜中少し雨
1765年　6月4日 明和2年　4月16日 曇　昨夜中より少し雨時々
1765年　6月5日 明和2年　4月17日 快晴
1765年　6月6日 明和2年　4月18日 快晴 （御用人戸田清左衛門に一粒金丹?粒）
1765年　6月7日 明和2年　4月19日 快晴 （昨夜土手町に投げ火?）
1765年　6月8日 明和2年　4月20日 快晴 （昨19日後潟組奥内村で高無が女房を切り殺す・早速入牢）
1765年　6月9日 明和2年　4月21日 陰晴　申の中刻頃少し雨　雷二三度発す （今暁八時前新町で火災1軒・早速相慎・天徳寺に入寺、五時お供揃え・御発駕）
1765年　6月10日 明和2年　4月22日 快晴 （御家老堀五郎左衛門に一粒金丹30粒・熊胆一つ）
1765年　6月11日 明和2年　4月23日 快晴 （御牧野で狼荒れ鉄砲で打ち払うよう火縄・玉など渡す、17日浦町組上野村で火災・火元村預け・免許）
1765年　6月12日 明和2年　4月24日 快晴
1765年　6月13日 明和2年　4月25日 快晴
1765年　6月14日 明和2年　4月26日 快晴 （昨25日上田町の御手筒足軽居宅焼失・火元押込、20日新町の火元の入寺免許）
1765年　6月15日 明和2年　4月27日 快晴 （御家老棟方作兵衛に一粒金丹30粒）
1765年　6月16日 明和2年　4月28日 曇　午の刻少し雨
1765年　6月17日 明和2年　4月29日 曇　昨夜中雨
1765年　6月18日 明和2年　5月1日 曇
1765年　6月19日 明和2年　5月2日 陰晴
1765年　6月20日 明和2年　5月3日 晴　未の刻過ぎ小雨　則刻止む
1765年　6月21日 明和2年　5月4日 晴
1765年　6月22日 明和2年　5月5日 快晴　昨夜寅の中刻より雨　今朝辰の下刻まで　それより止む （去月25日出火の御手筒足軽の押込免許）
1765年　6月23日 明和2年　5月6日 快晴 （楮町の月行事からこの度の御法会に乞食男女324人に配当を下し置かれるかの質問あり・1人に鳥目10文宛下し置かれる旨申し遣わす）
1765年　6月24日 明和2年　5月7日 晴
1765年　6月25日 明和2年　5月8日 晴曇　昨夜半頃より雨　今朝辰の刻頃まで
1765年　6月26日 明和2年　5月9日 陰晴 （男牢死）
1765年　6月27日 明和2年　5月10日 陰晴
1765年　6月28日 明和2年　5月11日 陰晴 （昨10日大鰐村より初大角豆差上げる）
1765年　6月29日 明和2年　5月12日 陰晴 （昨日大鰐村より青瓜初て差し上げる）
1765年　6月30日 明和2年　5月13日 陰晴

1765年　7月1日 明和2年　5月14日 快晴
1765年　7月2日 明和2年　5月15日 陰晴　午の下刻より雨　即夜に及ぶ （浪岡組竹鼻村に男首懸かり）
1765年　7月3日 明和2年　5月16日 曇　昨夜中の雨今日終日時々
1765年　7月4日 明和2年　5月17日 陰晴 （碇関町奉行が切腹・九死一生の体・検死などを遣わす）
1765年　7月5日 明和2年　5月18日 陰晴
1765年　7月6日 明和2年　5月19日 陰晴 （切腹の碇関町奉行が死亡している）
1765年　7月7日 明和2年　5月20日 曇　巳の刻過ぎより未の刻まで時々雨
1765年　7月8日 明和2年　5月21日 陰晴
1765年　7月9日 明和2年　5月22日 陰晴　時々小雨　夜に入り雨
1765年　7月10日 明和2年　5月23日 晴　朝の内薄曇　少しの内雨ふる
1765年　7月11日 明和2年　5月24日 快晴　朝より暑強
1765年　7月12日 明和2年　5月25日 快晴
1765年　7月13日 明和2年　5月26日 快晴　暑気強 （一昨24日青森安方町から出火・全焼8軒半焼4軒取壊し3軒・火元寺落(番人付け置く)）
1765年　7月14日 明和2年　5月27日 快晴
1765年　7月15日 明和2年　5月28日 曇
1765年　7月16日 明和2年　5月29日 曇　昨夜中丑の刻過ぎ小雨　その後止む
1765年　7月17日 明和2年　5月30日 陰晴
1765年　7月18日 明和2年　6月1日 快晴
1765年　7月19日 明和2年　6月2日 快晴　今暁寅の八刻土用に入る （勘定奉行工藤三之助に一粒金丹3粒）
1765年　7月20日 明和2年　6月3日 快晴　午の刻過ぎより曇
1765年　7月21日 明和2年　6月4日 陰晴　昨夜戌の刻より少しの内雨　亥の刻過ぎ止む
1765年　7月22日 明和2年　6月5日 陰晴　昨夜戌の刻より少しの内雨　亥の刻止む
1765年　7月23日 明和2年　6月6日 快晴　午の刻前少々雨
1765年　7月24日 明和2年　6月7日 快晴 （大鰐村より初穂差上げる）
1765年　7月25日 明和2年　6月8日 快晴　今未の刻地震
1765年　7月26日 明和2年　6月9日 快晴 （青森安方町(5月24日)の火元の寺落差免）
1765年　7月27日 明和2年　6月10日 曇 （亀甲町で男縊死）
1765年　7月28日 明和2年　6月11日 晴
1765年　7月29日 明和2年　6月12日 快晴 （昨11日常盤組徳下村で火災・火元村預け）
1765年　7月30日 明和2年　6月13日 快晴
1765年　7月31日 明和2年　6月14日 快晴　今朝霞 （当月12日後潟組細越村で借家火災・火元村預け）
1765年　8月1日 明和2年　6月15日 快晴　今朝霞 （徳下村・細越村の火元の村預け免許）
1765年　8月2日 明和2年　6月16日 快晴　朝の内四方一円霞
1765年　8月3日 明和2年　6月17日 快晴　朝の内霞 （田舎館村の稲に虫付く）
1765年　8月4日 明和2年　6月18日 快晴　朝の内一円霞　暑気強シ
1765年　8月5日 明和2年　6月19日 快晴 （旱魃渇水の傾向有り・対策の緒太?）
1765年　8月6日 明和2年　6月20日 快晴
1765年　8月7日 明和2年　6月21日 快晴
1765年　8月8日 明和2年　6月22日 曇　今朝卯の刻より雨 （田舎館組の稲に付いた虫の状況:1株に1・2本及子(ないしの意味かな:及至ではないしと読むが)6・7本位も筒に虫入る・虫は水際より入る）
1765年　8月9日 明和2年　6月23日 快晴 （五山に降雨・悪虫退散・五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、諸手足軽の親が縊死）
1765年　8月10日 明和2年　6月24日 快晴　午の刻小雨 （長勝寺に一粒金丹5粒）
1765年　8月11日 明和2年　6月25日 快晴 （両社並びに大円寺に五穀成就・降雨の御祈祷を仰せ付ける）
1765年　8月12日 明和2年　6月26日 快晴　昨夜申の刻雷三・四度発す
1765年　8月13日 明和2年　6月27日 快晴
1765年　8月14日 明和2年　6月28日 晴　巳の中刻小雨　則刻やむ （3日暮れ頃水論で男が負傷・その治療と回復までの負傷者の家内5人の養育を犯人(2人)が命じられる）
1765年　8月15日 明和2年　6月29日 快晴　時々雷　昼より曇 （昨晩下御台所前の堀に掃除小人水死）
1765年　8月16日 明和2年　6月30日 曇　卯の中刻雨ふる　　下から続く　　野内4人(御印紙出1・切手紙出3)、昨夜暮れすぎ新寺町で小火）
1765年　8月17日 明和2年　7月1日 快晴　辰の上刻より巳の刻まで雨　それより晴　未の下刻より雨降る （6月中所々御関所出人都合133人:碇関146人(御印紙出120・切手紙出26)・大間越1人(御印紙出)・　　上に続く
1765年　8月18日 明和2年　7月2日 陰晴　昨夜中雨　今暁晴れる （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米上がる）
1765年　8月19日 明和2年　7月3日 晴　昨夜子の刻頃少し雨
1765年　8月20日 明和2年　7月4日 曇　今暁寅の刻過ぎより終日雨降る （赤石組追良瀬川で新寺町の男溺死・三十三札打ちらしい）
1765年　8月21日 明和2年　7月5日 晴　午の中刻雨　二三度雷発す
1765年　8月22日 明和2年　7月6日 晴　暮れ頃より雨
1765年　8月23日 明和2年　7月7日 曇　昨夜中雨　今日終日時々降る
1765年　8月24日 明和2年　7月8日 曇　昨夜中雨　今日終日小雨
1765年　8月25日 明和2年　7月9日 快晴 （何かの御祝いに盲人達に銭20文宛渡す・座当209・盲女162・都合371人、先月中御関所出入り人数:碇関入り257出入り合397人・大間越入り42出入合65人・野内入り21出入合205人）
1765年　8月26日 明和2年　7月10日 快晴
1765年　8月27日 明和2年　7月11日 快晴
1765年　8月28日 明和2年　7月12日 曇　巳の下刻より少々雨降る （乞食男女326人に銭20文宛:9日と同じで御前様御袖留祝い）
1765年　8月29日 明和2年　7月13日 晴　未の刻少し雨
1765年　8月30日 明和2年　7月14日 晴　申の刻小雨　則刻止む　今暁月蝕　子の二刻に懸初丑の二刻に終る
1765年　8月31日 明和2年　7月15日 快晴

1765年　9月1日 明和2年　7月16日 快晴
1765年　9月2日 明和2年　7月17日 快晴
1765年　9月3日 明和2年　7月18日 曇　辰の刻より雷数度発す　同刻より大雨
1765年　9月4日 明和2年　7月19日 曇　昨夜中雨　今暁より大雨　卯の刻より小雨　巳の刻より雨止む
1765年　9月5日 明和2年　7月20日 晴　(御用人笠原八郎兵衛に一粒金丹10粒、去る17日に火事を出した新寺町の火元の慎み免許)
1765年　9月6日 明和2年　7月21日 晴
1765年　9月7日 明和2年　7月22日 曇　未の下刻より雨
1765年　9月8日 明和2年　7月23日 曇　昨夜より雨　今日終日
1765年　9月9日 明和2年　7月24日 快晴
1765年　9月10日 明和2年　7月25日 陰晴　(和徳・堀越組に先ごろより吸白虫という虫がつき……)
1765年　9月11日 明和2年　7月26日 晴
1765年　9月12日 明和2年　7月27日 晴　朝の内曇
1765年　9月13日 明和2年　7月28日 快晴
1765年　9月14日 明和2年　7月29日 快晴　(御手廻組頭森岡主膳に一粒金丹5粒、報恩寺に一粒金丹3粒)
1765年　9月15日 明和2年　8月1日 晴
1765年　9月16日 明和2年　8月2日 曇　辰の下刻雨　(百沢寺より苔之実上がる)
1765年　9月17日 明和2年　8月3日 曇　昨夜中の雨　今日終日降
1765年　9月18日 明和2年　8月4日 晴　朝の内曇　辰の下刻より晴　終日風　(古懸　不動尊御出汗:不動尊の前に欠字、御神楽仰せ付けられる)
1765年　9月19日 明和2年　8月5日 晴　昨屋根の刻より雨　今暁に及ぶ
1765年　9月20日 明和2年　8月6日 陰晴　(立て置いた石が倒れて子供を殺した石切を戸〆)
1765年　9月21日 明和2年　8月7日 陰晴　(御手廻組頭大道寺隼人に一粒金丹5粒・御用人山田彦兵衛に10粒)
1765年　9月22日 明和2年　8月8日 陰晴　酉の刻より雨降
1765年　9月23日 明和2年　8月9日 曇　昨夜よりの雨今日終日　(打ち続き天気宜しからずに付き岩木嵩・湯段ともに湯治並びに岩木登山停止)
1765年　9月24日 明和2年　8月10日 陰晴　昨夜中の雨今朝辰の下刻に及ぶ
1765年　9月25日 明和2年　8月11日 快晴
1765年　9月26日 明和2年　8月12日 陰晴　昨夜中雨　今朝より止む
1765年　9月27日 明和2年　8月13日 陰晴　今暁卯の刻過ぎより少し雨
1765年　9月28日 明和2年　8月14日 快晴　昨夜少し雨　(去る4日畏月支配砂ヶ森前浜に破船、6日の石切の戸〆差免)
1765年　9月29日 明和2年　8月15日 快晴
1765年　9月30日 明和2年　8月16日 快晴
1765年　10月1日 明和2年　8月17日 晴　辰の下刻小雨　則刻止む　(去る15日夜油川組新城村で禅庵焼失)
1765年　10月2日 明和2年　8月18日 晴
1765年　10月3日 明和2年　8月19日 晴　昨夜明け方少しの内雨　則刻止む　午の刻過ぎ少しの内雨
1765年　10月4日 明和2年　8月20日 快晴　(昨夜七つ時親方町で小火)
1765年　10月5日 明和2年　8月21日 快晴
1765年　10月6日 明和2年　8月22日 陰晴
1765年　10月7日 明和2年　8月23日 晴　申の下刻より雨　今日辰の刻止む　(十三より初鮭1尾納まる)
1765年　10月8日 明和2年　8月24日 曇　今日卯の刻より辰の刻まで雨　それより時々小雨
1765年　10月9日 明和2年　8月25日 陰晴
1765年 10月10日 明和2年　8月26日 晴　(初雁・菱食い納まる)
1765年 10月11日 明和2年　8月27日 曇　昨夜中子の刻より雨　今日終日
1765年 10月12日 明和2年　8月28日 晴　朝の内曇
1765年 10月13日 明和2年　8月29日 曇　巳の后刻より雨　昨夜亥の刻より雨　今暁まて折々降　夜中まて
1765年 10月14日 明和2年　8月30日 陰晴　(6月25日駒越組桜庭村の喜右衛門が熊(胆長3寸廻り4寸生目形46文目:4歳)取る、東照宮150回御神忌御法会に伴う大赦:4人出牢・33人弘前並びに居村徘徊御免)
1765年 10月15日 明和2年　9月1日 曇　昨夜中雨ふる
1765年 10月16日 明和2年　9月2日 曇　辰の刻より雨ふり　終日時々ふる
1765年 10月17日 明和2年　9月3日 曇　昨夜中より雪ふり　今朝より時々雨
1765年 10月18日 明和2年　9月4日 陰晴　昨夜中時々少し雨　今朝に及ぶ　卯の刻過ぎ止む
1765年 10月19日 明和2年　9月5日 曇　巳の刻より雨
1765年 10月20日 明和2年　9月6日 曇　昨日の雨昨夜中までふり今日時々雨　(当2月に拾った丸木舟を拾った男に下し置かれる)
1765年 10月21日 明和2年　9月7日 快晴　昨夜時々雨　今朝霜
1765年 10月22日 明和2年　9月8日 快晴　今夜戌の下刻より雨終夜　(去る2日五つ頃青森浜町磯際に南部田名部の男病死、御家老棟方作兵衛の倅自殺)
1765年 10月23日 明和2年　9月9日 曇　昨夜の雨　今日終日雨
1765年 10月24日 明和2年　9月10日 曇　今暁より時々小雨
1765年 10月25日 明和2年　9月11日 陰晴　申の下刻頃より雨　夜に入る　(神明宮で日和揚げ御祈祷を仰せ付ける)
1765年 10月26日 明和2年　9月12日 曇　昨夜半より雨　今日終日時々雨
1765年 10月27日 明和2年　9月13日 陰晴　昨夜中より雨時々　小雪丸交より
1765年 10月28日 明和2年　9月14日 陰晴
1765年 10月29日 明和2年　9月15日 曇
1765年 10月30日 明和2年　9月16日 陰晴　今朝辰の下刻頃より少し雨　則刻止む　尤巳の下刻頃より又々少し雨　則刻止む
1765年 10月31日 明和2年　9月17日 曇

1765年　11月1日 明和2年　　9月18日 曇　昨夜雨終夜　戌の刻より （今11日昼頃赤石組広戸村前浜にほとんど骨ばかりの鯨流れ寄せる）
1765年　11月2日 明和2年　　9月19日 曇
1765年　11月3日 明和2年　　9月20日 快晴　今朝霜
1765年　11月4日 明和2年　　9月21日 曇　今朝辰の上刻雨ふる （五山に日和揚げの御祈祷仰せ付ける）
1765年　11月5日 明和2年　　9月22日 快晴
1765年　11月6日 明和2年　　9月23日 陰晴 （昨日七時過ぎ新寺町に小火）
1765年　11月7日 明和2年　　9月24日 快晴
1765年　11月8日 明和2年　　9月25日 曇　昨夜時々雨
1765年　11月9日 明和2年　　9月26日 快晴
1765年 11月10日 明和2年　　9月27日 曇　今朝辰の上刻より小雨　その後風添う　終日雨
1765年 11月11日 明和2年　　9月28日 曇　昨夜中より雨　風余程強　今日終日時々雨
1765年 11月12日 明和2年　　9月29日 曇 （去る26日夜油川組鹿渡沼村で火災百姓家1軒（米3俵・稗3俵・大豆1俵・小豆1俵・粟5俵・蕎麦3俵・稲480束・残稲995束）
1765年 11月13日 明和2年　　10月1日 快晴
1765年 11月14日 明和2年　　10月2日 曇　昨夜中雪少し　今日時々雪ふる
1765年 11月15日 明和2年　　10月3日 陰晴
1765年 11月16日 明和2年　　10月4日 曇　辰の下刻より雨　酉の下刻より相止む （先月27日小泊湊で破船3艘）
1765年 11月17日 明和2年　　10月5日 晴　時々小雪ふる （27日の大風で平館御番所江浪砂打ち込む、平館・根岸・上宇田村で小船2艘・丸木漁船2艘流失）
1765年 11月18日 明和2年　　10月6日 快晴 （初鱈1本外浜より差上げる）
1765年 11月19日 明和2年　　10月7日 陰晴 （先月27日夜鯵ヶ沢の大風波で家屋敷5軒欠崩れる、広須組三新田45か村に減石（税の減免か）372石余、御家中昨夜切腹）
1765年 11月20日 明和2年　　10月8日 晴 （9月27日畏月の間で破船2艘）
1765年 11月21日 明和2年　　10月9日 快晴 （大組足軽頭桜庭平助に一粒金丹5粒、9月27日畏月・綱不知で破船2艘）
1765年 11月22日 明和2年　10月10日 陰晴　今日未の刻より雨　雷発す
1765年 11月23日 明和2年　10月11日 快晴 （上方登りの御用人山田彦兵衛に一粒金丹10粒・熊胆二つ）
1765年 11月24日 明和2年　10月12日 曇　昨夜雨　今暁晴　未の刻より雨
1765年 11月25日 明和2年　10月13日 曇　昨夜少し雨　今日時々雨
1765年 11月26日 明和2年　10月14日 曇　時々雪
1765年 11月27日 明和2年　10月15日 曇　昨夜より雪一寸ほど　今日終日 （去月27日の後潟組の大荒れで丸木舟5艘・合船1艘が破船）
1765年 11月28日 明和2年　10月16日 曇　昨夜中より時々雪
1765年 11月29日 明和2年　10月17日 陰晴　昨夜中雪　今朝辰の刻まで降　それに付時々雪ふる　終日　夜に入りふる也　甚だ寒し
1765年 11月30日 明和2年　10月18日 曇　昨夜中より雪　今日より時々終日ふる
1765年　12月1日 明和2年　10月19日 陰晴
1765年　12月2日 明和2年　10月20日 陰晴
1765年　12月3日 明和2年　10月21日 晴
1765年　12月4日 明和2年　10月22日 曇　昨夜中雨
1765年　12月5日 明和2年　10月23日 曇　昨夜中雨　今朝巳の刻頃雨
1765年　12月6日 明和2年　10月24日 曇　時々少し雪
1765年　12月7日 明和2年　10月25日 曇　昨夜中より雨　それより雪ふる少々
1765年　12月8日 明和2年　10月26日 曇　今日午の刻頃より雪　夜中少し雨
1765年　12月9日 明和2年　10月27日 快晴
1765年 12月10日 明和2年　10月28日 曇　今日少々雪
1765年 12月11日 明和2年　10月29日 曇　昨夜中雪ふる　今日時々雪
1765年 12月12日 明和2年　10月30日 陰晴
1765年 12月13日 明和2年　　11月1日 曇　夜中風雨
1765年 12月14日 明和2年　　11月2日 曇　今朝巳の刻まで風吹　それより時々丸雪降る
1765年 12月15日 明和2年　　11月3日 陰晴　昨夜中之雪二寸ほど
1765年 12月16日 明和2年　　11月4日 曇　巳の刻より雪　夜に入り雨
1765年 12月17日 明和2年　　11月5日 曇　昨夜中より雨　今日も終日雨降　午の刻過ぎより風吹
1765年 12月18日 明和2年　　11月6日 曇　昨夜時々小雪　今日も終日雪降る
1765年 12月19日 明和2年　　11月7日 曇　時々小雪
1765年 12月20日 明和2年　　11月8日 陰晴
1765年 12月21日 明和2年　　11月9日 快晴 （当酉10月より来戌の9月まで御仕送金1万8千両……）
1765年 12月22日 明和2年　11月10日 曇　時々雪降終日 （時鐘撞き1両2歩2人扶持が病気・倅に）
1765年 12月23日 明和2年　11月11日 曇　昨夜より雪　今日も終日 （18日より玄圭院（津軽信寿）様21回忌法要、6日夜鯵ヶ沢町で大風・大荒れ・三ツ屋町の屋敷3軒半が欠崩れ）
1765年 12月24日 明和2年　11月12日 曇　今朝より午の刻まで晴　同刻より雪降
1765年 12月25日 明和2年　11月13日 晴 （当月9日夜九つ時頃より同10日の朝六時頃までに十三潟早川口より残らず氷張る・去申年11月24日より氷張る・日数に引合い当年は早いが節に引合い4日遅い）
1765年 12月26日 明和2年　11月14日 晴　昨夜時々小雪
1765年 12月27日 明和2年　11月15日 晴
1765年 12月28日 明和2年　11月16日 晴
1765年 12月29日 明和2年　11月17日 曇
1765年 12月30日 明和2年　11月18日 快晴 （報恩寺で玄圭院様二十一回御忌法事）
1765年 12月31日 明和2年　11月19日 晴　昨夜中雪三寸ほど

1766年　1月1日 明和2年　11月20日 曇　昨夜中より雪　今日終日　三尺ほど降る
1766年　1月2日 明和2年　11月21日 陰晴
1766年　1月3日 明和2年　11月22日 曇　昨夜中雪 （今昼品川町で小屋焼失）
1766年　1月4日 明和2年　11月23日 陰晴　未の刻過ぎより水雪降る　夜に入り止む （品川町の火元を入寺・慎み）
1766年　1月5日 明和2年　11月24日 陰晴　申の三刻寒に入る
1766年　1月6日 明和2年　11月25日 陰晴　午の刻過ぎより雨降
1766年　1月7日 明和2年　11月26日 曇　時々雪
1766年　1月8日 明和2年　11月27日 陰晴　時々小雪 （当月20・21日の大雪で赤石組大然村で雪なて4人死亡1人行方不明）
1766年　1月9日 明和2年　11月28日 陰晴　小雨時々
1766年　1月10日 明和2年　11月29日 陰晴　時々小雪
1766年　1月11日 明和2年　12月1日 曇　時々小雪
1766年　1月12日 明和2年　12月2日 陰晴 （御家老棟方作兵衛に一粒金丹30粒、?日三新田小中野村で火災（4間×13間：御蔵百姓）・火元村預け・慎み、先月22日品川町の火元の入寺差許）
1766年　1月13日 明和2年　12月3日 陰晴　昨夜少々雪
1766年　1月14日 明和2年　12月4日 陰晴
1766年　1月15日 明和2年　12月5日 陰晴 （酒1升を9分に仰せ付け?）
1766年　1月16日 明和2年　12月6日 陰晴
1766年　1月17日 明和2年　12月7日 陰晴　時々小雪
1766年　1月18日 明和2年　12月8日 曇　卯の中刻より雪終日時々
1766年　1月19日 明和2年　12月9日 曇　昨夜小雪　今日時々雪
1766年　1月20日 明和2年　12月10日 快晴　今夜戌の八刻大寒に入る
1766年　1月21日 明和2年　12月11日 曇　辰の中刻頃より雪　夜に入り三尺ほどふる　酉の下刻地震ゆる
1766年　1月22日 明和2年　12月12日 晴　昨夜雪
1766年　1月23日 明和2年　12月13日 晴
1766年　1月24日 明和2年　12月14日 晴
1766年　1月25日 明和2年　12月15日 曇　時々雪
1766年　1月26日 明和2年　12月16日 陰晴　昨夜より今朝まで雪四寸ほど　今日時々小雪
1766年　1月27日 明和2年　12月17日 曇　時々雪
1766年　1月28日 明和2年　12月18日 陰晴　昨夜雪少々 （当月13日石神村で火災（高無）・火元村預け・差許）
1766年　1月29日 明和2年　12月19日 晴　昨夜少し雪
1766年　1月30日 明和2年　12月20日 快晴　夜に入り小雨 （当耕作初：種浸正月25日・田打初2月8日・種蒔初3月5日・塊掻3月14日・田植初4月18日・草取初5月23日・出穂7月6日・稲刈初8月13日・稲村納9月10日より）
1766年　1月31日 明和2年　12月21日 陰晴
1766年　2月1日 明和2年　12月22日 快晴 （当御収納米諸組残らず皆済）
1766年　2月2日 明和2年　12月23日 陰晴
1766年　2月3日 明和2年　12月24日 快晴　昨宵の内水雪時々
1766年　2月4日 明和2年　12月25日 曇　今暁より午の刻過ぎまで雪時々
1766年　2月5日 明和2年　12月26日 陰晴　昨夜小雪
1766年　2月6日 明和2年　12月27日 陰晴
1766年　2月7日 明和2年　12月28日 曇　時々雪
1766年　2月8日 明和2年　12月29日 曇　今日時々雪　昼未の刻頃地震
1766年　2月9日 明和3年　正月1日　曇　昨夜中より雪　今日大吹雪
1766年　2月10日 明和3年　正月2日　曇　昨夜雪三寸ほど　今日時々吹雪
1766年　2月11日 明和3年　正月3日　曇
1766年　2月12日 明和3年　正月4日　曇　時々雪
1766年　2月13日 明和3年　正月5日　陰晴
1766年　2月14日 明和3年　正月6日　快晴
1766年　2月15日 明和3年　正月7日　快晴 （昨5日夜九時頃赤田組板屋野木村で男女（23歳男と18歳女）自害・男は存命まもなく死亡）
1766年　2月16日 明和3年　正月8日　快晴　未の刻過ぎより雪
1766年　2月17日 明和3年　正月9日　曇　昨夜中よりの雪今日に及ぶ　七寸程ふる
1766年　2月18日 明和3年　正月10日　晴
1766年　2月19日 明和3年　正月11日　曇　時々雪
1766年　2月20日 明和3年　正月12日　晴　昨夜雪少々　今日時々雪
1766年　2月21日 明和3年　正月13日　陰晴
1766年　2月22日 明和3年　正月14日　快晴
1766年　2月23日 明和3年　正月15日　陰晴
1766年　2月24日 明和3年　正月16日　曇　卯の下刻より雨少々　昼の内止む　未の刻過ぎより雨　夜に入り風雨　亥の刻過ぎより雪降風立　今暁寅の刻月蝕
1766年　2月25日 明和3年　正月17日　曇　昨夜より雪　今朝まで二寸ほど　今暁より風止む　雪今日終日に及ぶ
1766年　2月26日 明和3年　正月18日　曇　昨夜雪　今日時々吹雪
1766年　2月27日 明和3年　正月19日　曇　今日終日吹雪 （元大目付田村源田兵衛が預け中の（兄）菊地宅で病死）
1766年　2月28日 明和3年　正月20日　曇　昨夜雪七寸程積　今朝まて吹雪 （昨19日高杉組賀田村で火災2軒（ともに高無）・火元他村預け）

1766年　3月1日 明和3年 正月21日　晴　時々小雪 （19日夜堀越組小栗山村で火災(2間半×4間:高無)・火元村預け）
1766年　3月2日 明和3年 正月22日　陰晴
1766年　3月3日 明和3年 正月23日　晴
1766年　3月4日 明和3年 正月24日　曇　昨夜中雪　今日終日に及ぶ （去る19日小栗山村の火元の村預け差許）
1766年　3月5日 明和3年 正月25日　曇　昨夜中雪三寸ほど積もる
1766年　3月6日 明和3年 正月26日　陰晴
1766年　3月7日 明和3年 正月27日　晴 （19日賀田村の火元の他村預け免許）　下から続く　委細日記記之　御郡内所々地烈
1766年　3月8日 明和3年 正月28日　快晴　酉の刻過ぎ大地震　幾度ともかそへかたし　初甚強く震その後小震数度　弘前並町在浦方共に数軒家潰れ人々共怪我有り　御城中の儀は御門並塀その外共大破に成る　上に続く
1766年　3月9日 明和3年 正月29日　曇　今朝辰の刻頃より雨　昨夜中より今日巳の刻過ぎ度々地震　その後風余程強く吹雪　夜に入り度々震動 （大道寺隼人宅で家焼失2人・増館村男2人・北横町で男女2人　欄外(*)に続く
1766年　3月10日 明和3年 正月30日　曇　昨夜強風　震動度々　今日も終日震動なり　雪終日降 （神宮寺で6人死亡、尾太銅山別状なし）
1766年　3月11日 明和3年　2月1日 曇　昨夜中四五度地震　今日昼の内三四度地震 （黒石保福寺が潰れ焼失死亡男1人・貞昌寺門前で潰れ家男女?2人・油川村で1人以上）　下から続く　死亡御家中の娘怪我死亡1人）
1766年　3月12日 明和3年　2月2日 曇　昨夜中五度地震　今日も時々　未の下刻余程地震　間もなく二三度少々地震 （この度の地震で北御櫓曲る・太鼓櫓大破・御家中の居宅2軒潰・浪岡三組小使2人家潰れ　上に続く
1766年　3月13日 明和3年　2月3日 曇　昨夜中地震弐三度　今朝辰の刻過ぎ地震一度 （この度の地震で油川湊方番所潰れ足軽死亡）
1766年　3月14日 明和3年　2月4日 曇　昨夜中地震三四度　今日巳の中刻地震　小雪時々降る （この度の地震で油川で与力の親・青森町同心警固死亡）　下から続く　進藤太郎左衛門に一粒金丹10粒）
1766年　3月15日 明和3年　2月5日 陰晴　昨夜中より今朝まで地震一度　巳の刻余程強い地震　小雪時々　未の上刻地震　暮前まで四度　下から続く　馬7疋・焼失潰屋借屋145軒、渇命の村々にお手当て、　上に続く
1766年　3月16日 明和3年　2月6日 晴　酉の刻過ぎ地震　子の上刻同一度　丑の刻過ぎ弐度　寅の刻過ぎ一度 （地震青森被害:焼失家127軒・潰家143軒・半潰家99・小見せ潰れ63・潰死147人・旅人潰れ死5人・　上に続く
1766年　3月17日 明和3年　2月7日 快晴　彼岸入り　昨夜中少々地震四五度
1766年　3月18日 明和3年　2月8日 快晴　昨夜度々地震　午の刻地震強し　未の刻地震同強し　その外小地震度々 （御代銭14文目5分値段にて御払い米、今別村領畏月七面坂がこの度の地震で海中に崩れる）
1766年　3月19日 明和3年　2月9日 晴　昨夜地震度々　今日も時々地震　申の下刻雪 （この度の地震で鉄砲町で借宅が潰れ掃除小人の母と兄が潰れ死・板屋野木村で1家8人潰れ死）
1766年　3月20日 明和3年　2月10日 曇　昨夜中酉の刻より地震五六度亥の刻に及ぶ　その後丑の刻より今朝まで弐三度地震　今朝雪一寸ほど積もる　時々小雪　今日未の刻過ぎ小地震
1766年　3月21日 明和3年　2月11日 曇　昨夜時々小地震　雪一寸ほど積もる　巳の上刻小地震　同刻風立つ　酉の刻過ぎ地震
1766年　3月22日 明和3年　2月12日 快晴　昨夜時々小地震　酉の中刻より雨降　戌の刻晴　巳の中刻地震　酉の刻過ぎ同弐度　下から続く　申の刻より雨少し　暮ごろ止む　酉の刻過ぎ地震発す （赤田組代官手代潰れ死）
1766年　3月23日 明和3年　2月13日 曇　昨夜丑の刻地震一度　同中刻一度　寅の上刻一度　同中刻一度　今暁寅の下刻雨降　卯の中刻地震一度　午の刻過ぎ一度　今暁の雨今日午の刻止む　未の刻過ぎ地震　上に続く
1766年　3月24日 明和3年　2月14日 曇　昨夜中戌の刻過ぎ地震一度　丑の刻過ぎ同一度　卯の刻より雪降　辰の刻地震一度　今日雪終日に及ぶ　午の刻過ぎ地震余程強し
1766年　3月25日 明和3年　2月15日 快晴　昨夜酉の刻過ぎより宵の内三度地震　今朝卯の中刻過ぎ弐度地震　巳の刻過ぎ壱度地震 （この度の地震で蟹田町で町年寄り焼死）
1766年　3月26日 明和3年　2月16日 曇　昨夜酉の中刻地震余程強し　夜中度々発す　下から続く　石浜前浜に漁船漂着・3人中2人死亡）
1766年　3月27日 明和3年　2月17日 陰晴　昨夜より今朝辰の刻まで三度余程強い地震発す　小雪時々　巳の刻より晴になる　午の刻頃少し地震　未の中刻一度　申の中刻一度　酉の刻過ぎ両度 （13日蟹田町　上に続く
1766年　3月28日 明和3年　2月18日 快晴　今朝地震卯の刻に壱度　同中刻壱度　辰の中刻壱度　午の刻過ぎ壱度地震
1766年　3月29日 明和3年　2月19日 快晴　昨夜丑の刻過ぎ少し地震　今朝卯の中刻少し地震　午の刻頃一度同刻過ぎ壱度地震
1766年　3月30日 明和3年　2月20日 曇　昨夜両度地震少し
1766年　3月31日 明和3年　2月21日 晴　昨夜両三度鳴　尤もその度毎に響　午の刻地震　未の刻過ぎ地震
1766年　4月1日 明和3年　2月22日 晴　昨夜中両三度鳴少し地震　今卯の中刻より後刻に至り三度少し地震　未の中刻地震
1766年　4月2日 明和3年　2月23日 曇　昨夜中雪三寸ほど　今日終日雪　巳の刻頃より風立つ
1766年　4月3日 明和3年　2月24日 曇　昨夜丑の刻過ぎ地震　夜に入り地震両三度　今日時々雪
1766年　4月4日 明和3年　2月25日 快晴　昨夜寅の刻過ぎ地震　今日辰の刻頃鳴動
1766年　4月5日 明和3年　2月26日 快晴　昨夜酉の刻少し地震　今日午の刻一度未の中刻地震
1766年　4月6日 明和3年　2月27日 陰晴　昨夜戌の刻過ぎ少し地震　子の中刻地震　今日巳の刻過ぎ余程地震　午の上刻地震余程強し　小雨則刻止む　その後風　未の刻頃地震 （初雁1羽差上げる）
1766年　4月7日 明和3年　2月28日 曇　昨夜酉の刻過ぎより風立つ　則刻雪　戌の刻過ぎ大風　夜中両三度鳴物　昨昼申の刻過ぎ地震少し （25日横内組原別村で火災2軒・雑駄1疋焼死・火元他村預け）
1766年　4月8日 明和3年　2月29日 晴　昨夜酉の刻少し地震　夜に入り両三度鳴動　雪時々　今日辰の下刻鳴動　未の刻過ぎ両度地震 （当月27日に十三潟船通路明ける）
1766年　4月9日 明和3年　3月1日 陰晴　昨夜子の刻地震　今日巳の刻過ぎ少し地震　下から続く　・去酉の年は正月26日の昼九時頃より氷明け・当年は日数に引き合い30日遅く節に引き合い19日遅い）
1766年　4月10日 明和3年　3月2日 陰晴　昨夜中少し宛鳴動三四度　今日寅の刻過ぎより少し雨　朝の内曇　巳の刻過ぎより陰晴 （十三潟が去月26日夜九時頃より27日明け六時頃まて早川口より残らず氷明ける　上に続く
1766年　4月11日 明和3年　3月3日 陰晴　昨夜鳴物三度余程強し　尤も酉の刻壱度亥の刻壱度丑の刻壱度発す　今朝巳の刻より陰晴に成る　朝の内薄曇　巳の刻より晴成
1766年　4月12日 明和3年　3月4日 晴　昨夜亥の刻過ぎ雨終夜　昨夜戌の中刻地震成る （喰川村など6か村の高無389軒に奇特な住民が砕け米5升宛手当て、去月25日出火の原別村の火元の他村預け差許）
1766年　4月13日 明和3年　3月5日 快晴　昨夜丑の上刻地震　今朝辰の刻頃鳴 （玄桂院様(津軽信寿)21回忌大赦で7人が徘徊御免）
1766年　4月14日 明和3年　3月6日 陰晴　昨夜亥の刻頃鳴　今暁壱度鳴　巳の上刻地震　九ツ時よりこさ免(九つ時より小雨) （御家老津軽主水に一粒金丹30粒、地震に伴う住居不能御家中家21軒）
1766年　4月15日 明和3年　3月7日 曇　昨夜八時過ぎ鳴動壱度　申の中刻より雨　申の刻地震壱度　酉の下刻地震壱度
1766年　4月16日 明和3年　3月8日 曇　昨夜中雪　今日終日に及ぶ　昨夜丑の中刻鳴動一度下刻壱度　今朝卯の下刻鳴動壱度　未の中刻鳴動壱度
1766年　4月17日 明和3年　3月9日 曇　昨夜中雪壱寸程降　昨夜半鳴動余程　今朝卯の刻過ぎ壱度鳴動　則刻雷発す　終日雪ふる
1766年　4月18日 明和3年　3月10日 快晴　昨夜丑の刻過ぎ鳴動　今朝卯の中刻鳴動
1766年　4月19日 明和3年　3月11日 晴　昨夜雨　八時頃余程鳴動
1766年　4月20日 明和3年　3月12日 快晴　今朝卯の中刻壱度鳴動　申の刻過ぎ両度鳴
1766年　4月21日 明和3年　3月13日 晴　昨夜丑の刻過ぎ壱度鳴動　今申の刻過ぎより小雨
1766年　4月22日 明和3年　3月14日 晴　昨夜子の中刻地震余程　寅の刻過ぎより大風　今晩まで （御家中(多分)の借屋の掃除小人縊死）
1766年　4月23日 明和3年　3月15日 晴　今朝二度鳴　昨夜時々風
1766年　4月24日 明和3年　3月16日 晴
1766年　4月25日 明和3年　3月17日 陰晴　昨夜酉の下刻両度地震初余程強　戌の刻地震壱度　今巳の刻過ぎ鳴動　午の中刻少し地震　申の上刻より時々小雨　夜入ル雨
1766年　4月26日 明和3年　3月18日 陰晴　辰の下刻少し地震　午の刻頃雪少々
1766年　4月27日 明和3年　3月19日 快晴　今卯の上刻少し地震
1766年　4月28日 明和3年　3月20日 快晴　今辰の中刻少し地震 （14日晩碇関村で火災(高無)・火元村預け・差許）　下から続く　地震一度　未の中刻より雨 （昨夜浪岡組浪岡村で火災(高無)・火元村預け）
1766年　4月29日 明和3年　3月21日 晴　朝の内曇　巳の刻過ぎより晴に　昨夜酉の刻前地震壱度　亥の下刻地震壱度　子の刻過ぎ地震壱度　丑の刻過ぎ壱度　今朝卯の刻地震一度　辰の下刻一度　午の下刻　上に続く
1766年　4月30日 明和3年　3月22日 曇　昨夜中雨
(*) ・亀甲町で男4女2人・和徳組富田村で女死亡）

1766年　5月1日 明和3年　3月23日 晴　昨夜中地震三度　今朝も三度地震　今日も一度未の刻過ぎ地震一度
1766年　5月2日 明和3年　3月24日 曇　今卯の刻一度地震　辰の下刻小雨　辰の下刻過ぎ壱度地震　午の刻より雨終日　(和徳稲荷宮で五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1766年　5月3日 明和3年　3月25日 曇　昨夜中雨　終夜に及ぶ　今朝曇小雨　巳の刻より晴　未の刻過ぎ地震　今日未の刻鳴
1766年　5月4日 明和3年　3月26日 快晴　昨夜中亥の刻壱度　子の刻壱度地震鳴　今朝辰の上刻壱度　(20日出火の浪岡村の火元の村預け差許)
1766年　5月5日 明和3年　3月27日 快晴　昨夜酉の下刻鳴動　亥の中刻少し地震　今日午の上刻地震
1766年　5月6日 明和3年　3月28日 快晴　今朝辰の刻地震
1766年　5月7日 明和3年　3月29日 曇　昨戌の刻過ぎ地震　今卯の刻一度
1766年　5月8日 明和3年　3月30日 曇　(松代村で火災・火元の百沢寺高無慎)
1766年　5月9日 明和3年　4月1日 晴　(3月中所々御関所出人都合320人:碇関317人(御印紙出99・切手紙出218)・野内2人(切手紙)・大間越1人(切手紙))
1766年　5月10日 明和3年　4月2日 晴　昨晩戌の刻少し地震一度　子の上刻鳴動　今朝卯の刻鳴動　(先月14日出火の碇関の火元を耕作の時分なので差許(20日に許していたのが届かなかったのかな))
1766年　5月11日 明和3年　4月3日 快晴　(二月に江戸立ちの3組の早飛脚が遅滞(9日振り→15日振り・9日→14日・7日→12日)する・(多分30俵2人扶持を)15俵2人扶持の長柄の者に)
1766年　5月12日 明和3年　4月4日 陰晴　昨戌の刻過ぎ一度地震　今日午の刻過ぎ壱度地震
1766年　5月13日 明和3年　4月5日 晴　小風　昨夜中大風　今日終日時々風　(去月29日松代村の火災5軒(3間×5間・5間×11間・5間×10間・4間×8間・同・種籾3石)・火元慎み・田畑手入れ最中の節で免許)
1766年　5月14日 明和3年　4月6日 快晴　昨夜中丑の下刻地震余程強　巳の刻より風
1766年　5月15日 明和3年　4月7日 陰晴　今巳の刻地震壱度　午の下刻少々地震　(木作新田長濱村に去る4日の大風で破船)
1766年　5月16日 明和3年　4月8日 快晴　昨夜亥の下刻地震壱度　丑の刻少し雨　(一昨6日夜増館組水木村で火災仮小屋と家・火元他村預け)
1766年　5月17日 明和3年　4月9日 快晴　今日申の刻過ぎ少し雨
1766年　5月18日 明和3年　4月10日 快晴　今日未の刻鳴動　(水木村の火元の呵置差許)
1766年　5月19日 明和3年　4月11日 快晴　昨日酉の刻鳴　昨夜丑の刻鳴　今朝午の中刻地震(酉の刻を昨日・午の刻を今朝というか疑問もあるが文字は左の通り)
1766年　5月20日 明和3年　4月12日 曇　昨夜丑の刻過ぎ地震　今日午の刻少し雨　則止む　(一昨7日鯵ヶ沢入津中の水主自害)
1766年　5月21日 明和3年　4月13日 快晴　巳の中刻過ぎ地震一度
1766年　5月22日 明和3年　4月14日 陰晴　巳の中刻頃鳴動強し　薄曇　未の刻より少し雨　終夜に及ぶ
1766年　5月23日 明和3年　4月15日 曇　昨夜子の刻過ぎ鳴動壱度　昨日の雨今日終日に及ぶ　申の上刻壱度鳴動
1766年　5月24日 明和3年　4月16日 曇　昨夜丑の刻壱度地震
1766年　5月25日 明和3年　4月17日 快晴　(3月26日種蒔き初・4月14日仕舞)
1766年　5月26日 明和3年　4月18日 陰晴　昨夜亥の刻地震壱度　同中刻地震壱度　今未の刻の頃地震壱度　(当月14日浪岡組中の村田圃の野合いに52・3男倒・17日朝死亡)
1766年　5月27日 明和3年　4月19日 曇　辰の刻より少々小雨　(当月17日横内組横内村で火災(家と外馬屋農具等))
1766年　5月28日 明和3年　4月20日 晴　今朝辰の下刻より風立強　昨夜子の刻壱度鳴動
1766年　5月29日 明和3年　4月21日 曇　昨夜酉の刻鳴動二度　今朝辰の下刻雨　則止む　(横内村の火元の村預け差許)
1766年　5月30日 明和3年　4月22日 快晴
1766年　5月31日 明和3年　4月23日 晴　昨夜中両度鳴動ス
1766年　6月1日 明和3年　4月24日 曇　今日巳の下刻過ぎより快晴となる　未の刻過ぎ地震二度
1766年　6月2日 明和3年　4月25日 快晴　昨夜丑の下刻地震壱度　今日風少々　終日に及ぶ
1766年　6月3日 明和3年　4月26日 快晴　朝の内薄曇　辰の上刻より晴　巳の中刻鳴動一度　午の刻過ぎ地震一度　未の刻過ぎ地震壱度
1766年　6月4日 明和3年　4月27日 陰晴　昨夜亥の下刻地震一度　今日未の下刻鳴動壱度　(今19日の晩より21日まで油川・後潟組17村の田方に塩水押し込む(地震の影響かな:福眞)、屋形様23日に江戸発駕)
1766年　6月5日 明和3年　4月28日 陰晴　昨夜子の下刻地震一度　今日午の刻過ぎより晴
1766年　6月6日 明和3年　4月29日 快晴　昨夜戌の下刻地震壱度　(四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1766年　6月7日 明和3年　5月1日 曇　今朝卯の中刻より雨　夜中に及ぶ　昨夜子の刻地震　その後丑の刻頃地震発す
1766年　6月8日 明和3年　5月2日 曇　昨夜中より乃雨今暁止む　(去月27日中匠村?浜に死骸寄せる・2月17日記述のものか:福眞)
1766年　6月9日 明和3年　5月3日 快晴　昨夜子の下刻少し地震
1766年　6月10日 明和3年　5月4日 入梅　快晴　昨夜戌の刻地震三度　今朝霞
1766年　6月11日 明和3年　5月5日 快晴　今朝辰の上刻一度地震　未の刻頃鳴　(御家老棟方作兵衛に一粒金丹30粒、屋形様去月27日江戸発駕15日着城予定と変更)
1766年　6月12日 明和3年　5月6日 快晴　昨夜丑の刻過ぎ一度地震　今朝卯の中刻地震
1766年　6月13日 明和3年　5月7日 快晴　昨夜寅の刻頃地震両度
1766年　6月14日 明和3年　5月8日 快晴　昨日未の刻地震壱度　昨夜戌の刻過ぎ地震壱度
1766年　6月15日 明和3年　5月9日 快晴　昨夜酉の下刻鳴動　今朝卯の中刻鳴動　(五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1766年　6月16日 明和3年　5月10日 晴　昨夜酉の刻過ぎ鳴動　少し宛三四度　亥の上刻より雷遠く数度発す　同中刻より雨　今朝に及ぶ　尤も今朝まで雷幾度ともかそへかたし　今朝卯の刻過ぎ地震少し　(昨夜土手町に投げ火)
1766年　6月17日 明和3年　5月11日 曇　今朝卯の下刻より雨　巳の刻より少々晴　その後又〃小雨
1766年　6月18日 明和3年　5月12日 陰晴　申の下刻より雨　夜中に及ぶ
1766年　6月19日 明和3年　5月13日 晴　(今5日に昼頃金木組太田村領の山で山火事(100間×50間))
1766年　6月20日 明和3年　5月14日 快晴　今朝申の刻鳴動　未の刻地震(今朝と申の刻は矛盾するが記述どおり)
1766年　6月21日 明和3年　5月15日 快晴　昨夜亥の刻少し地震　今日申の刻過ぎ地震　酉の刻前壱度地震　少々風立ち申し候　(午の刻屋形様御着城、五山四社に効果なく大円寺・薬王院に降雨五穀成就の御祈祷を仰付ける)
1766年　6月22日 明和3年　5月16日 快晴　(誓願寺境内の木小屋(1間四方)焼失)
1766年　6月23日 明和3年　5月17日 快晴　(誓願寺が禁足の伺い・そのように申付ける)
1766年　6月24日 明和3年　5月18日 曇　昨夜酉の下刻小雨時々　巳の上刻雷発す　同刻雨時々
1766年　6月25日 明和3年　5月19日 曇　昨夜雨　今卯の下刻鳴動
1766年　6月26日 明和3年　5月20日 晴
1766年　6月27日 明和3年　5月21日 晴　昨酉の刻壱度地震　今卯の刻過ぎ鳴動　(誓願寺に禁足御免)
1766年　6月28日 明和3年　5月22日 晴　今宵酉の下刻頃地震　(当春大変の死亡者の追善法要を長勝寺・報恩寺で行う・銀20枚宛)
1766年　6月29日 明和3年　5月23日 晴　今晩地震　今朝四方霞　夜に入り雨
1766年　6月30日 明和3年　5月24日 曇　昨夜中より雨　今朝辰の刻過ぎ鳴動　終日小雨

1766年　7月1日 明和3年　5月25日 晴　今申の下刻鳴動一度
1766年　7月2日 明和3年　5月26日 曇　昨夜中より今朝まで雨　今朝卯の下刻二度鳴動
1766年　7月3日 明和3年　5月27日 曇　昨夜丑の刻雨　尤も朝の内曇　巳の刻より晴　今日未の上刻地震　(大鰐村より初小角豆差上げる)
1766年　7月4日 明和3年　5月28日 陰晴　昨日申の刻過ぎ一度鳴　酉の刻過ぎ一度鳴　朝の内霧霞　(人事異動)
1766年　7月5日 明和3年　5月29日 陰晴　朝の内霧
1766年　7月6日 明和3年　5月30日 雲　朝の内霞　昼頃より快晴　(大鰐村より初真瓜差上げる)　下から続く　給地百姓火災(7間×4間)、24日夜柏木組牡丹森村の高無が仮小屋焼失・火元村預け・差許)
1766年　7月7日 明和3年　6月1日 晴　朝の内霞　(5月中所々御関所出人都合138人:碇関133人(御印紙出100・切手紙出33)・大間越4人(御印紙出2・切手紙出2)・野内1人(切手紙)、昨夜八時過ぎ広須組で　上に続く
1766年　7月8日 明和3年　6月2日 陰晴　朝の内小雨　曇　(広須組下古川村の火元慎み)
1766年　7月9日 明和3年　6月3日 快晴　朝の内霞　昼の内両三度鳴動
1766年　7月10日 明和3年　6月4日 快晴　昨夜亥の刻地震　今朝卯の刻過ぎ壱度鳴動　朝の内曇　辰の刻より快晴
1766年　7月11日 明和3年　6月5日 快晴　申の刻過ぎ雷発す
1766年　7月12日 明和3年　6月6日 快晴　朝の内霧　未の刻頃より薄曇夜に及ぶ　暖かなり
1766年　7月13日 明和3年　6月7日 陰晴　(諸手足軽頭八木橋作左衛門に一粒金丹5粒)
1766年　7月14日 明和3年　6月8日 晴　朝の内霧霞　(大鰐村より初茄子差上げる、飯詰組(6町9反歩ほど)金木組(2町1反歩ほど)に水が届かず植付けが出来ていない)
1766年　7月15日 明和3年　6月9日 快晴
1766年　7月16日 明和3年　6月10日 晴　朝の内曇
1766年　7月17日 明和3年　6月11日 晴　朝の内霧強し　申の刻より雨少々　夜に及ぶ
1766年　7月18日 明和3年　6月12日 晴　朝の内曇　巳の刻より晴　下から続く　添田主斗に一粒金丹3粒)
1766年　7月19日 明和3年　6月13日 晴　巳の七刻より土用に入る　巳の刻過ぎまで曇　申の刻過ぎ雨少々　戌の刻頃止む　(去月中旬より雨降らず・両社・四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、御馬廻組頭　上に続く
1766年　7月20日 明和3年　6月14日 晴　朝の内曇　巳の刻より晴　(一粒金丹の調合内容有り、?日赤田組板屋野木村の外馬屋火災・火元村預け)
1766年　7月21日 明和3年　6月15日 快晴　朝の内霧　冷々敷く　未の刻過ぎ両度鳴動
1766年　7月22日 明和3年　6月16日 快晴　朝の内曇　暑気甚だ強し　亥の刻地震　雷数度発す
1766年　7月23日 明和3年　6月17日 陰晴　暑気甚だ強し　巳の下刻より雷発す　午の中刻雨
1766年　7月24日 明和3年　6月18日 曇　辰の刻過ぎ小雨
1766年　7月25日 明和3年　6月19日 陰晴　辰のした刻少し雨　未の刻過ぎより雷発す　大雨酉の刻に及ぶ
1766年　7月26日 明和3年　6月20日 曇　昨夜寅の刻少し地震発す　今日巳の刻過ぎより雨時々
1766年　7月27日 明和3年　6月21日 曇　昨夜中より今日まで雨時々
1766年　7月28日 明和3年　6月22日 晴　昨夜時々小雨
1766年　7月29日 明和3年　6月23日 晴　今朝巳の刻まで薄曇
1766年　7月30日 明和3年　6月24日 曇　午の刻過ぎ小雨　則刻やむ
1766年　7月31日 明和3年　6月25日 曇　今朝辰の刻過ぎより雨
1766年　8月1日 明和3年　6月26日 晴　朝の内曇　申の刻過ぎ地震余程強し　則刻壱度強し
1766年　8月2日 明和3年　6月27日 晴　昨夜寅の刻過ぎ地震壱度　未の刻過ぎ地震壱度
1766年　8月3日 明和3年　6月28日 陰晴
1766年　8月4日 明和3年　6月29日 快晴　昨夜申の下刻より酉の下刻まで雨
1766年　8月5日 明和3年　6月30日 快晴　未の刻頃鳴動壱度　今夜中壱度鳴動
1766年　8月6日 明和3年　7月1日 快晴　今暁寅の下刻過ぎ少し地震　(6月中所々御関所出人都合107人:碇関105人(御印紙出65・切手紙出40)・野内2人(切手紙出))
1766年　8月7日 明和3年　7月2日 快晴
1766年　8月8日 明和3年　7月3日 快晴　今暁雨少々　(大鰐村加賀助・儀兵衛より例年の通り初穂差上げる、今晩暮前近頃にない強震・御家老等御機嫌伺いに罷り出でる)
1766年　8月9日 明和3年　7月4日 陰晴　昨夜申の下刻地震余程強し　今朝卯の刻鳴動　卯の中刻頃雨　則刻止む
1766年　8月10日 明和3年　7月5日 晴
1766年　8月11日 明和3年　7月6日 晴
1766年　8月12日 明和3年　7月7日 快晴　昨夜亥の下刻少し鳴動　申の下刻余程鳴動す
1766年　8月13日 明和3年　7月8日 快晴
1766年　8月14日 明和3年　7月9日 快晴　朝の内曇
1766年　8月15日 明和3年　7月10日 陰晴　朝の内曇
1766年　8月16日 明和3年　7月11日 陰晴　昨夜酉の上刻より雨　亥の刻頃止む　丑の刻過ぎ鳴動　今朝卯の下刻より雨時々
1766年　8月17日 明和3年　7月12日 快晴　(地震による焼失潰れ家が多く山の木を伐り尽くしそう・萱葺を推奨している)
1766年　8月18日 明和3年　7月13日 陰晴
1766年　8月19日 明和3年　7月14日 快晴　午の刻壱度鳴動　申の刻壱度地震
1766年　8月20日 明和3年　7月15日 快晴　午の刻過ぎ雨　則刻止む　酉の刻過ぎ壱度地震
1766年　8月21日 明和3年　7月16日 晴　今朝辰の刻雨　則刻止む
1766年　8月22日 明和3年　7月17日 快晴　朝の内霞　申の刻過ぎ雨　同中刻止む
1766年　8月23日 明和3年　7月18日 曇　今暁寅の刻より雨　終日に及ぶ
1766年　8月24日 明和3年　7月19日 曇　昨夜中雨　今日巳の中刻に及び雷度々発す　昨夜酉の刻地震壱度　戌の中刻壱度地震
1766年　8月25日 明和3年　7月20日 晴
1766年　8月26日 明和3年　7月21日 快晴　昨夜中より余程冷敷方　昼に成残暑強し　今日朝六時過ぎ少し地震
1766年　8月27日 明和3年　7月22日 快晴　今日残暑強し
1766年　8月28日 明和3年　7月23日 快晴　昨夜酉の上刻度々雷発す　午の下刻より雨　今朝六時過ぎ地震壱度　未の刻過ぎ少し地震　(大鰐村加賀助・儀兵衛より初米上がる)
1766年　8月29日 明和3年　7月24日 曇　昨夜より雨　雷度々発す　今朝辰の刻前鳴動余程強し
1766年　8月30日 明和3年　7月25日 快晴
1766年　8月31日 明和3年　7月26日 快晴　(久渡寺より熟瓜差上げる)

1766年　9月1日 明和3年　7月27日 快晴
1766年　9月2日 明和3年　7月28日 快晴　未の刻地震 （両替59文目3分）
1766年　9月3日 明和3年　7月29日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨時々　今日も少々雨　午の刻より雨強し
1766年　9月4日 明和3年　8月1日 快晴　昨夜酉の上刻地震一度　申の下刻同一度 （7月中所々御関所出人都合180人：碇関172人（御印紙出121・切手紙出51）・野内3人（御印紙出）・大間越5人（切手紙出））
1766年　9月5日 明和3年　8月2日 快晴　朝より残暑甚強
1766年　9月6日 明和3年　8月3日 快晴
1766年　9月7日 明和3年　8月4日 曇　今朝寅の下刻より雨　卯の下刻晴　雷強し　午の刻より雨　未の刻大雨雷強し　申の刻まで　それより小雨
1766年　9月8日 明和3年　8月5日 快晴　朝の内曇 （昨3日夜八時頃赤石組驫木村に落雷・家2軒（4間×10間：百姓・3間×5間：百姓）焼失）
1766年　9月9日 明和3年　8月6日 陰晴
1766年　9月10日 明和3年　8月7日 晴　今暁雨余程強し
1766年　9月11日 明和3年　8月8日 快晴
1766年　9月12日 明和3年　8月9日 曇　辰の刻過ぎより雨降時々　申の刻少し鳴動
1766年　9月13日 明和3年　8月10日 曇　昨夜丑の刻頃地震　寅の刻　同則刻より雨終日時々
1766年　9月14日 明和3年　8月11日 晴　昨晩申の下刻地震
1766年　9月15日 明和3年　8月12日 晴　今日巳の刻地震一度　同中刻一度　夜中時々雨
1766年　9月16日 明和3年　8月13日 晴　午の刻過ぎ地震一度 （去年足軽代目付を仰せ付けられた諸手足軽山上傳八を足軽目付（40俵2人扶持・内10俵が勤料）に）
1766年　9月17日 明和3年　8月14日 曇　未の刻過ぎより雨　終日に及ぶ
1766年　9月18日 明和3年　8月15日 快晴　昨夜中雨　則夜丑の刻過ぎ地震 （今日八幡宮祭礼）
1766年　9月19日 明和3年　8月16日 陰晴　昨夜酉の刻より雨雷　今日巳の刻より雨時々
1766年　9月20日 明和3年　8月17日 快晴　彼岸に入る
1766年　9月21日 明和3年　8月18日 晴
1766年　9月22日 明和3年　8月19日 陰晴　今夜中少々雨
1766年　9月23日 明和3年　8月20日 曇　今辰の刻より雨降　則刻少々地震 （初鮭1尺差上げる）
1766年　9月24日 明和3年　8月21日 晴　朝の内少々雨 （御立駒高覧）
1766年　9月25日 明和3年　8月22日 快晴
1766年　9月26日 明和3年　8月23日 曇　辰の刻雨少々雷
1766年　9月27日 明和3年　8月24日 快晴 （初雁お台所より差上げる）
1766年　9月28日 明和3年　8月25日 晴 （ころび切支丹類族小泉長兵衛の曾孫春智?病死69歳・死骸見分・禅宗泉光院）
1766年　9月29日 明和3年　8月26日 快晴　申の刻少々鳴動
1766年　9月30日 明和3年　8月27日 曇　昨夜より雷度々　今朝少し雨 （今晩小沢野で佐々木所左衛門並びに門弟たちの大筒乱火棒火矢打ち方高覧）
1766年　10月1日 明和3年　8月28日 曇　今朝卯の上刻地震
1766年　10月2日 明和3年　8月29日 曇　昨夜戌の中刻頃より雨　今暁より風雨強し （昨夜暮れ六つ時木作新田館岡村で火災（3間×5間：御蔵百姓）・火元五人組預け、油川組で去月22日より23日まで大雨）
1766年　10月3日 明和3年　8月30日 晴　昨夜風雨強し
1766年　10月4日 明和3年　9月1日 快晴 （27日館岡村の火元の村預かり差許、今日御慰の御能）
1766年　10月5日 明和3年　9月2日 快晴
1766年　10月6日 明和3年　9月3日 快晴　巳の下刻地震
1766年　10月7日 明和3年　9月4日 快晴　卯の中刻頃地震
1766年　10月8日 明和3年　9月5日 快晴　未の刻少々地震
1766年　10月9日 明和3年　9月6日 曇
1766年 10月10日 明和3年　9月7日 晴　昨夜酉の中刻前地震　今朝卯の中刻頃地震少し （4日青森の磯に死骸上がる）
1766年 10月11日 明和3年　9月8日 晴
1766年 10月12日 明和3年　9月9日 快晴　　下から続く　　油川後潟組：塩水押上げ181軒・潰れ家7軒・塩水押上げ田100町余・橋2ヵ所流失・その他）
1766年 10月13日 明和3年　9月10日 快晴 （去月28日29日大風雨で被害・青森：船6艘破船・水主1人水死・橋1箇所流失・家1軒流失・15軒半壊・湊御番所等2ヵ所大破・平館湊：船2艘破船・浦町横内組：水船1艘・　　上に続く
1766年 10月14日 明和3年　9月11日 曇　昨夜子の上刻雨　雷至って強し　則刻止む　今日時々風雨　未の刻より止む （石渡川四歩半の出水・馬船・小船とも往来できない）
1766年 10月15日 明和3年　9月12日 快晴　今朝岩木山に初雪見ゆる
1766年 10月16日 明和3年　9月13日 曇
1766年 10月17日 明和3年　9月14日 晴
1766年 10月18日 明和3年　9月15日 快晴
1766年 10月19日 明和3年　9月16日 快晴 （今暁七半頃大鰐組宿河原村で火災6軒・火元他村預け）
1766年 10月20日 明和3年　9月17日 晴　今朝卯の中刻過ぎより少し雨　その後申の上刻より雨　暮ころ止む　亥の刻雨　雷発す
1766年 10月21日 明和3年　9月18日 晴　昨夜の雨丑の刻止む　今朝のうち曇　辰の刻より晴
1766年 10月22日 明和3年　9月19日 快晴
1766年 10月23日 明和3年　9月20日 快晴
1766年 10月24日 明和3年　9月21日 快晴 （19日昼七時頃油川組岡町村庄屋家火災（3間半×11間）・火元村預け、宿河原村の火元の他村預け免許）
1766年 10月25日 明和3年　9月22日 曇　昨夜半頃より雨　朝の内曇　巳の刻より小雨時々　酉の下刻地震
1766年 10月26日 明和3年　9月23日 陰晴 （今日拝借金（4000両）至着、両替64文目5分5厘）
1766年 10月27日 明和3年　9月24日 晴
1766年 10月28日 明和3年　9月25日 快晴　昨日申の刻鳴動 （19日岡町村の火元の村預け免許）
1766年 10月29日 明和3年　9月26日 晴 （去月29日大風・百沢寺で板塀など吹き倒れる）
1766年 10月30日 明和3年　9月27日 晴
1766年 10月31日 明和3年　9月28日 曇　昨夜中雨　雷発す　降雨今朝に及ぶ

1766年　11月1日 明和3年　　9月29日 晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ （高岡江の献上鮭2尾）　　下から続く　　・駒越組桜庭村の茂助（胆目形20目）・同村喜右衛門（胆目形70目）それぞれ熊取る
1766年　11月2日 明和3年　　9月30日 陰晴　今朝辰の刻前震鳴　午の刻頃より晴ル （堀越組一ノ渡村の彦次郎4疋（胆目形70目・?・70目・35文目）・同村小次郎（胆17文目）・同村小次右衛門2疋（胆40目・25文目）　　上に続く
1766年　11月3日 明和3年　　10月1日 曇　昨夜中申の中刻頃より少し雨　今朝まで時々 （9月中所々御関所出人都合171人：碇関166人（御印紙出128・切手紙出38）・野内5人（切手紙出））
1766年　11月4日 明和3年　　10月2日 陰晴　昨夜時々小雨
1766年　11月5日 明和3年　　10月3日 曇　昨夜中雨風時々　夜に入り鳴動一度　今朝晴
1766年　11月6日 明和3年　　10月4日 曇
1766年　11月7日 明和3年　　10月5日 晴 （当月22日夜五時過ぎ土手町で38歳の母から男子の三つ子生まれる・内1人昨夜病死）
1766年　11月8日 明和3年　　10月6日 晴
1766年　11月9日 明和3年　　10月7日 曇　昨夜丑の中刻壱度鳴動　今朝巳の上刻少々雨
1766年 11月10日 明和3年　　10月8日 晴 （三つ子の内中の子が病死）
1766年 11月11日 明和3年　　10月9日 晴
1766年 11月12日 明和3年　　10月10日 曇　昨夜中よりの雨今日終日
1766年 11月13日 明和3年　　10月11日 快晴　今朝辰の中刻地震
1766年 11月14日 明和3年　　10月12日 快晴
1766年 11月15日 明和3年　　10月13日 快晴　今朝大霜
1766年 11月16日 明和3年　　10月14日 快晴　昨夜戌の刻過ぎ地震　今朝霜強
1766年 11月17日 明和3年　　10月15日 曇　今朝辰の上刻壱度鳴動　午の刻過ぎより時々雨　入夜雨 （人事異動）
1766年 11月18日 明和3年　　10月16日 曇　昨夜中雨　今朝より終日陰晴に成る
1766年 11月19日 明和3年　　10月17日 曇　昨夜中少し雨　則刻止む
1766年 11月20日 明和3年　　10月18日 快晴　今朝大霜強シ　夜に入り雨　度々雷発す
1766年 11月21日 明和3年　　10月19日 曇　雨時々風強シ
1766年 11月22日 明和3年　　10月20日 快晴
1766年 11月23日 明和3年　　10月21日 陰晴　今暁寅の刻鳴動一度
1766年 11月24日 明和3年　　10月22日 陰晴　昨夜時々少し （人事異動）
1766年 11月25日 明和3年　　10月23日 曇　昨夜より今朝まで雨　雷度々
1766年 11月26日 明和3年　　10月24日 曇
1766年 11月27日 明和3年　　10月25日 曇　辰の刻過ぎより小雨 （22日夜木作新田中野林村で火災（稲乳4つ（9300束ほど中8000束焼失）・外馬屋（2間半×2間半））・火元村預け）
1766年 11月28日 明和3年　　10月26日 曇　時々小雪　終日水雪降る
1766年 11月29日 明和3年　　10月27日 曇　昨夜中より風立つ　雪今朝まで　今日終日時々降る　壱寸ほど （御家老・御用人が初雪の御機嫌伺い）
1766年 11月30日 明和3年　　10月28日 陰晴　昨夜子の刻過ぎ地震　今朝少し雨　昼頃止む
1766年　12月1日 明和3年　　10月29日 快晴　酉の刻より雨　同中刻過ぎより止む
1766年　12月2日 明和3年　　11月1日 晴
1766年　12月3日 明和3年　　11月2日 陰晴
1766年　12月4日 明和3年　　11月3日 曇　今朝辰の上刻より小雨　午の刻前止む　それより晴
1766年　12月5日 明和3年　　11月4日 曇　昨晩酉の刻頃より雨　夜に入り風雨強し　戌の刻頃雷二三度発す　今日雪雨終日
1766年　12月6日 明和3年　　11月5日 曇　昨夜雪　今日も時々
1766年　12月7日 明和3年　　11月6日 曇　昨夜暮れ頃より雪吹く　夜に入り余程雪ふる　今朝も雪　巳の刻過ぎより雪吹く　五六寸ふる
1766年　12月8日 明和3年　　11月7日 晴
1766年　12月9日 明和3年　　11月8日 曇　昨夜中風　今日少し雪
1766年 12月10日 明和3年　　11月9日 快晴 （去る6日油川の大荒れで南部船破船）
1766年 12月11日 明和3年　　11月10日 曇　今朝寅の刻少し地震　昨夜より今日まで時々雨
1766年 12月12日 明和3年　　11月11日 曇　昨夜中より雪降　巳の刻頃より大雪吹
1766年 12月13日 明和3年　　11月12日 晴　昨夜時々小雪　申の下刻より時々雨
1766年 12月14日 明和3年　　11月13日 晴
1766年 12月15日 明和3年　　11月14日 曇　昨夜中より小雨　昨夜丑の刻過ぎ少し鳴　今日時々小雨
1766年 12月16日 明和3年　　11月15日 快晴
1766年 12月17日 明和3年　　11月16日 曇　今朝雪壱寸ほど積もる　今日時々小雪
1766年 12月18日 明和3年　　11月17日 曇　今日時々雪終日　夜に入る
1766年 12月19日 明和3年　　11月18日 快晴
1766年 12月20日 明和3年　　11月19日 曇　今朝卯の刻雨時々　終夜に及ぶ
1766年 12月21日 明和3年　　11月20日 晴　昨夜酉の刻前より雪雨少々降 （金井ヶ沢より発鱈上がる・披露）
1766年 12月22日 明和3年　　11月21日 陰晴
1766年 12月23日 明和3年　　11月22日 曇　時々雨　風立つ （報恩寺に一粒金丹3粒）
1766年 12月24日 明和3年　　11月23日 陰晴　卯の刻過ぎ余程地震　今朝より雪時々
1766年 12月25日 明和3年　　11月24日 曇
1766年 12月26日 明和3年　　11月25日 陰晴
1766年 12月27日 明和3年　　11月26日 晴　暮れ頃より曇　雪ふる
1766年 12月28日 明和3年　　11月27日 陰晴　時々雪
1766年 12月29日 明和3年　　11月28日 陰晴　時々雪
1766年 12月30日 明和3年　　11月29日 曇　雪ふる
1766年 12月31日 明和3年　　11月30日 曇　今日時々雪　風立つ

1767年　1月1日 明和3年　12月1日 曇　時々雨降
1767年　1月2日 明和3年　12月2日 曇　終日雪　戌の刻過ぎ鳴　地震余程強　夜に入り大風　雪婦る （大目付土岐渡人に一粒金丹5粒、諸手足軽頭斎藤小左衛門に一粒金丹5粒）
1767年　1月3日 明和3年　12月3日 曇　今日時々雪無怠間ふる(今日時々雪絶え間なく降る) （年始七種として:祢き・毛やし・青菜・せり・蕗之頭・鈴菜・はこ遍）
1767年　1月4日 明和3年　12月4日 曇　昨夜戌の刻頃鳴候　雪昨夜中無怠間降 （去月29日夜九時頃より晦日朝六時頃までに十三潟が早川口より残らず氷張る・今年は日数に引合い20日遅く節に引合い10日　欄外(*)に続く
1767年　1月5日 明和3年　12月5日 曇　昨夜中雪三四寸ほどふり　今日亥の二刻小寒に入る
1767年　1月6日 明和3年　12月6日 晴 （2日の梅田村の火元の村預け免許）
1767年　1月7日 明和3年　12月7日 曇　昨夜中雪　今朝巳の上刻地震　昨夜丑の刻地震　時々雪
1767年　1月8日 明和3年　12月8日 晴　時々曇　雪降
1767年　1月9日 明和3年　12月9日 快晴　昨夜の雪今朝に及ぶ
1767年　1月10日 明和3年　12月10日 曇　今日時々雨雪　午の刻より風吹　時々雪
1767年　1月11日 明和3年　12月11日 曇　昨夜中雪降　巳の刻頃より大吹ニ成る
1767年　1月12日 明和3年　12月12日 晴　昨夜中時々小雪　申の下刻より雨時々 （屋形様の御先祖様に年始に差上げる香典等に差が有る:瑞祥院様太刀1腰御馬代銀1枚・高源院様香典銀1枚・瑞厳院様金200疋など）
1767年　1月13日 明和3年　12月13日 曇　時々雪降
1767年　1月14日 明和3年　12月14日 曇　時々雪婦る （昨夜四時高杉組高杉村で火災(1間半×3間:高無)・火元村預け）
1767年　1月15日 明和3年　12月15日 曇　昨夜丑の刻過ぎ地震　午の下刻より雪降
1767年　1月16日 明和3年　12月16日 曇　昨夜中風　今朝まで　今日も風終日に及ぶ(今日茂風終日に及) （12日出火の高杉村の火元の村預け免許）
1767年　1月17日 明和3年　12月17日 晴　昨暁夜に入り少々宛二度鳴動　今朝巳の下刻より曇
1767年　1月18日 明和3年　12月18日 晴 （去る16日夜藤代組?大光寺村で高無家焼失・火元村預け）
1767年　1月19日 明和3年　12月19日 曇　昨夜中雪　今朝六寸ほど積もる　今日終日雪
1767年　1月20日 明和3年　12月20日 陰晴　昨夜中雪少々降 （16日出火の土堂村(18日には大光寺村とあるが)の火元の村預け免許）
1767年　1月21日 明和3年　12月21日 曇　時々晴　昨夜中雪　今朝も時々降 （当耕作初:種浸2月10日・田打3月11日・種蒔3月27日・塊掻4月8日・田植5月朔日・草取5月22日・出穂7月14日・稲刈9月朔日・稲村納9月15日）
1767年　1月22日 明和3年　12月22日 晴　今日時々雪降
1767年　1月23日 明和3年　12月23日 曇　今朝余程の地震
1767年　1月24日 明和3年　12月24日 陰晴　時々雪終日　夜に及ぶ
1767年　1月25日 明和3年　12月25日 陰晴
1767年　1月26日 明和3年　12月26日 陰晴
1767年　1月27日 明和3年　12月27日 陰晴　昨夜中少々雪 （御年忘御囃子、赤田・広田組庄屋が大変(正月の大地震)後荒地ができて渇命者にお救い願い・11歳以上に1日3合10歳以下に2合とし見分するように申し渡す）
1767年　1月28日 明和3年　12月28日 晴
1767年　1月29日 明和3年　12月29日 曇　終日雪
1767年　1月30日 明和4年　正月1日　晴　昨夜中雪　今朝2寸ほど積もる　今朝巳の刻過ぎより晴　又時々雪　今未の刻過ぎ日蝕(蝕の字は虫と食が左右逆に書かれている)
1767年　1月31日 明和4年　正月2日　曇　昨夜中雪時々　今暁も時々
1767年　2月1日 明和4年　正月3日　快晴　昨夜戌の刻地震　今朝辰の上刻地震 （謡初）
1767年　2月2日 明和4年　正月4日　曇　昨夜中雪2寸ほど　今日時々降
1767年　2月3日 明和4年　正月5日　快晴　昨夜雪少々降
1767年　2月4日 明和4年　正月6日　快晴
1767年　2月5日 明和4年　正月7日　陰晴 （七種の御祝儀）
1767年　2月6日 明和4年　正月8日　曇　昨夜雪　今日も時々　下から続く　1309人)に20日分169俵1斗8升・了解、一昨7日駒越組築館村で火災(高無)・火元村預け）
1767年　2月7日 明和4年　正月9日　晴　今日巳の上刻頃地震 （浪岡・増館組代官が種籾拝借願い・149石余を申付ける、赤田・広田組代官から御救米願い:1566人(11歳以上(3合/日)257人・10歳以下(2合/日)　上に続く
1767年　2月8日 明和4年　正月10日　快晴
1767年　2月9日 明和4年　正月11日　晴　余寒強 （人事異動）
1767年　2月10日 明和4年　正月12日　曇　昨夜中雪　朝の内時々雪 （7日出火の築館村の火元の村預け免許）
1767年　2月11日 明和4年　正月13日　快晴
1767年　2月12日 明和4年　正月14日　曇　巳の刻より小雪 （8日朝油川組瀬戸子村前浜に松前船が破船）
1767年　2月13日 明和4年　正月15日　快晴
1767年　2月14日 明和4年　正月16日　晴
1767年　2月15日 明和4年　正月17日　快晴　申の下刻地震
1767年　2月16日 明和4年　正月18日　陰晴
1767年　2月17日 明和4年　正月19日　晴
1767年　2月18日 明和4年　正月20日　快晴
1767年　2月19日 明和4年　正月21日　陰晴
1767年　2月20日 明和4年　正月22日　曇　昨夜戌の下刻より雨　今日終日時々小雨
1767年　2月21日 明和4年　正月23日　曇　昨夜中時々雪　今日時々雪　少し風立つ
1767年　2月22日 明和4年　正月24日　曇　昨夜中雪二・三寸　今日も終日降 （御用分がないので御小納戸役に一粒金丹200粒渡す）
1767年　2月23日 明和4年　正月25日　曇　昨夜中雪二・三寸ほど　今日時々小雪
1767年　2月24日 明和4年　正月26日　曇　昨夜中雪　今朝三寸ほど　今日時々
1767年　2月25日 明和4年　正月27日　陰晴
1767年　2月26日 明和4年　正月28日　晴
1767年　2月27日 明和4年　正月29日　晴　午の刻より小雨
1767年　2月28日 明和4年　2月1日 晴 （正月中所々御関所出人都合275人:碇関264人(御印紙出252・切手紙出12)野内11人(切手紙出)）
(*) 遅い、一昨2日夜金木組梅田村で火災高無1軒・火元村預け、諸手者頭八木橋作左衛門に一粒金丹5粒）

1767年　3月1日 明和4年　　2月2日 曇　今朝辰の刻より雨降
1767年　3月2日 明和4年　　2月3日 曇
1767年　3月3日 明和4年　　2月4日 快晴　昨夜雪1寸ほとふる　風寒　今暁より快晴となる （御囃子）
1767年　3月4日 明和4年　　2月5日 快晴
1767年　3月5日 明和4年　　2月6日 快晴
1767年　3月6日 明和4年　　2月7日 曇　巳の刻の頃雪時々
1767年　3月7日 明和4年　　2月8日 曇　時々雪ふる
1767年　3月8日 明和4年　　2月9日 陰晴　時々雪婦る
1767年　3月9日 明和4年　　2月10日 快晴　未の刻鳴動　亥の刻地震
1767年　3月10日 明和4年　　2月11日 曇　今日巳の刻頃より雪終日
1767年　3月11日 明和4年　　2月12日 曇　昨夜中より今朝まで雪尺五・六寸余りふる　今朝より今日も終日雪降　夜に又少し風立ち雪ふる
1767年　3月12日 明和4年　　2月13日 快晴
1767年　3月13日 明和4年　　2月14日 晴　昨夜雪二寸ほどふる　風少々立つ　今朝巳の刻より少しの内雪ふる
1767年　3月14日 明和4年　　2月15日 曇　午の刻の頃より雪降
1767年　3月15日 明和4年　　2月16日 曇　今日終日雪ふる
1767年　3月16日 明和4年　　2月17日 晴　昨夜中雪ふる
1767年　3月17日 明和4年　　2月18日 曇　昨今雪　今日も時々雪ふる （昨夜九つ時過ぎ大鰐組蔵館村で火災2軒(2間×3間:高無・9間×5間:御蔵百姓・馬1疋)・火元他村預け、12日夜赤石組大然村山中で雪なて・4人中2人死亡）
1767年　3月18日 明和4年　　2月19日 曇　昨夜中雪　今朝も雪辰の刻過ぎまで　その後雪時々 （御家中の剣術高覧）
1767年　3月19日 明和4年　　2月20日 快晴　昨夜中雪少々　今朝辰の下刻も雪少々
1767年　3月20日 明和4年　　2月21日 曇　今日時々雪
1767年　3月21日 明和4年　　2月22日 晴 （初雁差上げる）
1767年　3月22日 明和4年　　2月23日 快晴
1767年　3月23日 明和4年　　2月24日 曇　昨夜中より雨　今朝より雨終日無怠間降る
1767年　3月24日 明和4年　　2月25日 快晴　昨夜中雪交じりの雨時々　朝の内曇 （御家中の親昨日変死）
1767年　3月25日 明和4年　　2月26日 快晴
1767年　3月26日 明和4年　　2月27日 快晴
1767年　3月27日 明和4年　　2月28日 快晴
1767年　3月28日 明和4年　　2月29日 陰晴 （御慰の御能）
1767年　3月29日 明和4年　　2月30日 快晴
1767年　3月30日 明和4年　　3月1日 快晴 （2月中所々御関所出人都合72人:碇関70人(御印紙出45・切手紙出25)・大間越1人(切手紙出)・野内1人(切手紙出)）
1767年　3月31日 明和4年　　3月2日 快晴 （去月28日赤田組強巻村で火災・村預け・差許）
1767年　4月1日 明和4年　　3月3日 快晴
1767年　4月2日 明和4年　　3月4日 曇　今卯の刻過ぎ地震
1767年　4月3日 明和4年　　3月5日 快晴 （当月朔日十三潟明ける、去る春大変死亡の者追善の大赦:出牢5人・弘前徘徊御免6人・居村徘徊御免19人・青森徘徊御免3人・蟹田町徘徊御免5人）
1767年　4月4日 明和4年　　3月6日 陰晴
1767年　4月5日 明和4年　　3月7日 陰晴　昨夜子の刻雪　少々風立つ （今日剣術高覧、藤崎・柏木・常盤・三新田代官から当年上納米の内2150俵を来春に取り述べるよう申し出で・大変後であり今年だけは認める）
1767年　4月6日 明和4年　　3月8日 快晴
1767年　4月7日 明和4年　　3月9日 陰晴 （御慰の御囃子）　　下から続く　　・12月20日より正月16日まで）
1767年　4月8日 明和4年　　3月10日 曇　昨夜中雨　今日に至る （作事方休日:春彼岸中日・2月朔日・3月3日・4月8日・5月5日・6月15日・7月13日より16日まで・8月朔日・8月15日・秋彼岸中日・9月9日　　上に続く
1767年　4月9日 明和4年　　3月11日 快晴 （外馬場で御献上馬高覧）
1767年　4月10日 明和4年　　3月12日 陰晴 （福眞弥兵衛の勤料を御加増・御馬廻七番組に）
1767年　4月11日 明和4年　　3月13日 快晴　昨夜戌の上刻地震壱度余程強し
1767年　4月12日 明和4年　　3月14日 曇　昨夜寅の刻地震少々
1767年　4月13日 明和4年　　3月15日 快晴　昨夜雨少々
1767年　4月14日 明和4年　　3月16日 快晴 （四つ時過ぎ天気良く御馬で御発駕）
1767年　4月15日 明和4年　　3月17日 曇　巳の中刻前より雨時々
1767年　4月16日 明和4年　　3月18日 快晴
1767年　4月17日 明和4年　　3月19日 曇　今日卯の下刻より小雨
1767年　4月18日 明和4年　　3月20日 快晴　今暁寅の刻過ぎより地震度々　未の刻頃より雨時々　申の刻頃雷一度発す　風雨夜中に及ぶ （昨18日赤石組森山村で火災13軒(百姓11・高無2)）
1767年　4月19日 明和4年　　3月21日 快晴　朝の内曇　雨時々
1767年　4月20日 明和4年　　3月22日 曇　昨夜丑の中刻雨 （一昨20日夜木作新田片田岡村で火災3軒(御蔵百姓火元・高無2)・火元他村預け）
1767年　4月21日 明和4年　　3月23日 快晴
1767年　4月22日 明和4年　　3月24日 曇　卯の刻過ぎより雨時々
1767年　4月23日 明和4年　　3月25日 曇　昨夜中より今朝に至り雨時々
1767年　4月24日 明和4年　　3月26日 快晴 （18日出火の森山村・20日出火の片田岡村の火元のそれぞれ他村預け差許）
1767年　4月25日 明和4年　　3月27日 陰晴　昨申の刻過ぎ地震一度
1767年　4月26日 明和4年　　3月28日 晴
1767年　4月27日 明和4年　　3月29日 曇 （枯木平村の弥左衛門(胆損)・徳才子村の定右衛門(胆目形35文目・80目)・津軽坂村太兵衛(36文目)・滝沢村佐渡四郎と孫兵衛(70目と50目)・長峰村清兵衛(50目)それぞれ熊取る）
1767年　4月28日 明和4年　　4月1日 曇　昨晩未の刻より雨風余程立つ　則刻止む　今日終日時々雨　少し風時々立つ(原文に近づけると:曇昨晩未ノ刻より雨風余程立則刻止今日終日時々雨少風時々立　　下の欄外(*)に続く
1767年　4月29日 明和4年　　4月2日 曇　昨日より雨今日終日　時々風立つ
1767年　4月30日 明和4年　　4月3日 晴　朝の内曇　四時前より晴
(*) 晩と未ノ刻の矛盾・切れ目のない文章に悩む） （3月中所々御関所出人都合146人:碇関144人(御印紙出55・切手紙出89)・大間越1人(切手紙出)・野内2人(切手紙出)）

1767年　5月1日 明和4年　　4月4日 快晴
1767年　5月2日 明和4年　　4月5日 快晴
1767年　5月3日 明和4年　　4月6日 陰晴
1767年　5月4日 明和4年　　4月7日 曇　昨夜申の刻より大風　今日に及ぶ　今日辰の下刻余程地震強
1767年　5月5日 明和4年　　4月8日 快晴　昨日時々小雨
1767年　5月6日 明和4年　　4月9日 快晴　(種蒔きが天気で遅れ有り・天気揚げの御祈祷を四社に申付ける)
1767年　5月7日 明和4年　　4月10日 晴　(昨夜八時過ぎ和徳組原ヶ平村で火災(2間半×4間:御蔵百姓)・火元他村預け)
1767年　5月8日 明和4年　　4月11日 曇　昨夜中より今朝まで雨ふる　　下から続く　　を永の御暇・その倅28歳を後に)
1767年　5月9日 明和4年　　4月12日 曇　昨夜中より今朝まで雨ふる　(昨10日夜油川組浪館村で火災(4間(文字は軒)×7間:百性)・雑駄1疋・種籾19俵(2斗5升入り)その他焼失、70歳の時鐘撞(1両2歩2人扶持)　　上に続く
1767年　5月10日 明和4年　　4月13日 快晴
1767年　5月11日 明和4年　　4月14日 快晴
1767年　5月12日 明和4年　　4月15日 快晴
1767年　5月13日 明和4年　　4月16日 曇　朝の内曇　四時頃より快晴
1767年　5月14日 明和4年　　4月17日 陰晴　今暁寅の下刻余程地震
1767年　5月15日 明和4年　　4月18日 陰晴　今朝より雨時々ふる　申の中刻より風立つ
1767年　5月16日 明和4年　　4月19日 晴　昨夜中風　今日余程強　(松五郎様(後の八代?信明)御発駕を来る23日と仰せ出だされ候)
1767年　5月17日 明和4年　　4月20日 快晴　風少々立つ　(今15日油川組夏井田村で六十六部が病死)
1767年　5月18日 明和4年　　4月21日 曇　未ノ中刻より雨　終夜に及ぶ　(14日小泊領横泊に破船1人死亡)
1767年　5月19日 明和4年　　4月22日 曇　今朝辰の下刻より雨少々
1767年　5月20日 明和4年　　4月23日 曇　今朝辰の下刻より雨ふる　(松五郎様ご機嫌良く四半時頃御発駕)
1767年　5月21日 明和4年　　4月24日 快晴
1767年　5月22日 明和4年　　4月25日 快晴
1767年　5月23日 明和4年　　4月26日 快晴
1767年　5月24日 明和4年　　4月27日 快晴
1767年　5月25日 明和4年　　4月28日 晴　昨晩酉の刻頃より雨　子の刻頃晴　雷壱度
1767年　5月26日 明和4年　　4月29日 陰晴
1767年　5月27日 明和4年　　4月30日 快晴　(御家中の妻咽喉を突き変死)
1767年　5月28日 明和4年　　5月1日 快晴　朝の内曇　(4月中所々御関所出人都合201人馬12疋:碇関197人(御印紙出92女1馬12・切手紙出104)・野内3人(御印紙出2・切手紙出1)・大間越1人(切手紙出))
1767年　5月29日 明和4年　　5月2日 陰晴　朝の内曇　(昨昼九時半頃和徳組湯口村で火災・火元高無類焼4軒・火元他村預け、御家中の妻変死、深浦町で浪人の手習いの師匠が深酒で川に落ち死亡・死骸見えず)
1767年　5月30日 明和4年　　5月3日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1767年　5月31日 明和4年　　5月4日 曇　昨夜子の刻より大風　今朝まで　亥の刻地震一度　昨夜より雨　終日に及ぶ
1767年　6月1日 明和4年　　5月5日 陰晴　辰の刻過ぎ少し雨　則刻止ム
1767年　6月2日 明和4年　　5月6日 快晴　(一昨4日上磯松神村で破船1、4日長濱前浜で破船2艘)
1767年　6月3日 明和4年　　5月7日 曇　辰の刻より雨
1767年　6月4日 明和4年　　5月8日 快晴
1767年　6月5日 明和4年　　5月9日 快晴　辰の刻頃少し雨　則刻止ム
1767年　6月6日 明和4年　　5月10日 陰晴　巳の刻まで曇　(昨夜大鰐組長嶺村に火災・火元高無類焼6軒・火元他村預け、代官9人のみの人事異動)
1767年　6月7日 明和4年　　5月11日 陰晴　朝の内曇
1767年　6月8日 明和4年　　5月12日 曇　辰の刻より雨　巳の上刻に及ぶ
1767年　6月9日 明和4年　　5月13日 曇　朝の内少し雨　巳の下刻雷度々発す
1767年　6月10日 明和4年　　5月14日 快晴　午の刻雷発す
1767年　6月11日 明和4年　　5月15日 曇　昼刻より快晴に成る　未の刻雷度々発す　(切支丹類族伊崎三隆病死)
1767年　6月12日 明和4年　　5月16日 曇　昼頃より快晴に成る
1767年　6月13日 明和4年　　5月17日 曇　卯の刻より雨時々
1767年　6月14日 明和4年　　5月18日 曇　時々雨
1767年　6月15日 明和4年　　5月19日 陰晴　入梅ニ入
1767年　6月16日 明和4年　　5月20日 快晴　朝の内曇
1767年　6月17日 明和4年　　5月21日 快晴　朝之内霞　午之刻地震余程強　間もなく又少シ地震　両度共鳴
1767年　6月18日 明和4年　　5月22日 快晴　朝の内曇　巳の中刻より快晴になる
1767年　6月19日 明和4年　　5月23日 晴　朝の内霞
1767年　6月20日 明和4年　　5月24日 陰晴
1767年　6月21日 明和4年　　5月25日 快晴　巳の刻まで陰晴
1767年　6月22日 明和4年　　5月26日 快晴　朝の内霞　(一粒金丹300粒を江戸に、去月末から御家中・その倅など6人が出奔)
1767年　6月23日 明和4年　　5月27日 快晴　(昨26日浪岡組浪岡村で火災・火元御蔵百姓類焼6軒外馬屋2軒・火元他村預け)
1767年　6月24日 明和4年　　5月28日 晴　朝の内曇　小風立つ　(昨夜御家中が変死(自殺))
1767年　6月25日 明和4年　　5月29日 快晴　(御馬廻福眞弥兵衛倅伴左衛門儀月並み出仕仰せ付けられる)
1767年　6月26日 明和4年　　6月1日 快晴　(5月中所々御関所出人都合92人:碇関87人(御印紙出69・切手紙出18)・大間越2人(切手紙出)・野内3人(切手紙出))
1767年　6月27日 明和4年　　6月2日 曇
1767年　6月28日 明和4年　　6月3日 曇　昨夜酉の下刻過ぎ雨少々　今日未の刻雨少々　(去月26日浪岡村の火元の他村預け免許)
1767年　6月29日 明和4年　　6月4日 陰晴　(先月29日飯詰組若山村の半助(胆長5寸3歩廻り6寸4歩生目形55文目:5才)・当月8日大鰐組広船村の弥三郎(4寸5寸20目:4歳)それぞれ熊取る)
1767年　6月30日 明和4年　　6月5日 曇　辰の下刻より小雨時々

1767年　7月1日 明和4年　6月6日 晴
1767年　7月2日 明和4年　6月7日 晴 （浦町御蔵百姓が出火・呵置く）
1767年　7月3日 明和4年　6月8日 晴 朝の内霞
1767年　7月4日 明和4年　6月9日 曇 辰の中刻より雨 終日に及ぶ （一昨7日横内組幸畑村で火災・火元村預け）
1767年　7月5日 明和4年　6月10日 陰晴 （赤石組中村・深浦村の庄屋が住民に訴えられる・訴えた住民は戸〆・庄屋達は無罪）
1767年　7月6日 明和4年　6月11日 快晴 朝の内一円霞 （当月7日幸畑村の火元の村預け免許）
1767年　7月7日 明和4年　6月12日 快晴 朝より暑気甚だしく 今朝卯の上刻地震壱度 同下刻壱度
1767年　7月8日 明和4年　6月13日 快晴 朝の内霧強 辰の下刻より暑気甚
1767年　7月9日 明和4年　6月14日 快晴 朝の内霞 暑気強
1767年　7月10日 明和4年　6月15日 快晴 朝の内霞 暑気強 （去る13日晩浦町組百姓出火・外馬屋1軒焼失・火元村預け）
1767年　7月11日 明和4年　6月16日 快晴 暑気強 下から続く 置き・村預け、13日晩の火元の浦町村御蔵百姓の村預け免許）
1767年　7月12日 明和4年　6月17日 快晴 暑気甚だしく （当年用水不足で五山に五穀成就の御祈祷を仰付ける、去る14日夜横内組宮崎村（外馬屋2間×3間：百姓）・浦町村（2間半×3間半：高無）で火災・火元呵 上に続く
1767年　7月13日 明和4年　6月18日 快晴 暑気強 （一昨16日より大沢村の宮地に火が入る・鎮める、14日宮崎村の火元の村預け差許）
1767年　7月14日 明和4年　6月19日 快晴 暑気強
1767年　7月15日 明和4年　6月20日 快晴 暑気甚だしく強 （今日大鰐村より初真瓜・初大角豆差上げる）
1767年　7月16日 明和4年　6月21日 快晴 （大鰐村より初茄子差上げる）
1767年　7月17日 明和4年　6月22日 晴 朝の内曇 午の下刻雨 則刻止む 雷壱度発す （（大目付土岐渡人に一粒金丹5粒、大円寺で雨乞いの御祈祷を仰せ付ける、一粒金丹の原料あり）
1767年　7月18日 明和4年　6月23日 快晴 暑気強
1767年　7月19日 明和4年　6月24日 快晴 申の二刻より土用入り 暑気甚だしく強 未ノ中刻雷少し発す （深浦等の住民の戸〆（10日記述）免許）
1767年　7月20日 明和4年　6月25日 快晴 大暑
1767年　7月21日 明和4年　6月26日 快晴 朝の内曇 辰のした刻暑気甚だしく （旱魃の対策を考え始めている）
1767年　7月22日 明和4年　6月27日 快晴 朝の内曇 巳の刻より快晴 大暑甚だ強し
1767年　7月23日 明和4年　6月28日 陰晴 昨夜寅の下刻雨少々 今朝霧強 午の刻より晴
1767年　7月24日 明和4年　6月29日 晴 朝の内霞 巳の刻より晴
1767年　7月25日 明和4年　6月30日 快晴 暑気強 （増館村等で水争い・福館村等の庄屋・五人組を戸〆） 下から続く 鯵ヶ沢湊口1人（切手紙）、百沢寺に岩木登山の上雨乞い御祈祷を仰せ付ける）
1767年　7月26日 明和4年　7月1日 快晴 暑甚強 未の刻より小雨 申の刻甚シ （6月中所々御関所出人都合114人：碇関102人（御印紙出69・切手紙出33）・大間越3人（御印紙）・野内8人（御印紙5・切手紙3）・ 上に続く
1767年　7月27日 明和4年　7月2日 晴 今朝より東風吹く
1767年　7月28日 明和4年　7月3日 快晴 朝の内涼しく（朝之内冷敷）
1767年　7月29日 明和4年　7月4日 快晴 今朝いたって冷 夜に入り少し雨
1767年　7月30日 明和4年　7月5日 陰晴 （当月渡し御切米の米・金都合なった、円受院様（藩主信寧の生母）の27回忌法事に伴い男1人の町内払い御免）
1767年　7月31日 明和4年　7月6日 快晴 （水争いの庄屋などの内増館村を除き戸〆御免）
1767年　8月1日 明和4年　7月7日 陰晴
1767年　8月2日 明和4年　7月8日 曇 昨夜中より今朝辰の刻過ぎまで雨 則刻より止む
1767年　8月3日 明和4年　7月9日 曇 昨夜中より今朝まで時々雨ふる
1767年　8月4日 明和4年　7月10日 陰晴 時々小雨
1767年　8月5日 明和4年　7月11日 晴 巳の刻過ぎまで曇
1767年　8月6日 明和4年　7月12日 快晴 朝の内曇 （大鰐村より初穂差上げる・去年は5月朔日植付け7月3日出穂今年は5月14日植付け、旱魃田方：油川組940町余・広田組990町余・赤田組1284町余）
1767年　8月7日 明和4年　7月13日 今晩寅の下刻少し雨
1767年　8月8日 明和4年　7月14日 快晴
1767年　8月9日 明和4年　7月15日 快晴
1767年　8月10日 明和4年　7月16日 曇 雨時々
1767年　8月11日 明和4年　7月17日 曇 酉の刻過ぎ小雨
1767年　8月12日 明和4年　7月18日 曇 寅の刻頃より雨
1767年　8月13日 明和4年　7月19日 曇 今朝雨 （当年おつとせ（海獣オットセイ）不足・多希里（多分「たけり」で一粒金丹の原料の一つ）至って払底）
1767年　8月14日 明和4年　7月20日 曇 昨夜酉の刻過ぎ少々風立つ
1767年　8月15日 明和4年　7月21日 陰晴
1767年　8月16日 明和4年　7月22日 快晴
1767年　8月17日 明和4年　7月23日 曇
1767年　8月18日 明和4年　7月24日 晴 今日未の刻過ぎ地震鳴 又間もなく少し鳴る
1767年　8月19日 明和4年　7月25日 曇 今日巳の下刻小雨
1767年　8月20日 明和4年　7月26日 快晴 （大鰐組の村々の田方に虫付く・虫除けお札を欲しいとの要望・最勝院に御祈祷を申付け御札3400枚を差し出すよう申し遣わす）
1767年　8月21日 明和4年　7月27日 快晴
1767年　8月22日 明和4年　7月28日 快晴 昨夜中寅の中刻頃小雨 則刻止む
1767年　8月23日 明和4年　7月29日 曇 今朝辰の下刻より雨雪時々 巳の上刻より晴れる （鯡取に松前に行っていた松ヶ崎夷が4月に難風で行方不明）
1767年　8月24日 明和4年　8月1日 快晴 （7月中所々御関所出人都合139人：碇関128人（御印紙出70・切手紙出58）・野内10人（御印紙出）・鯵ヶ沢湊口1人（切手紙出））
1767年　8月25日 明和4年　8月2日 快晴 （百沢寺より苔の実二包差上げる）
1767年　8月26日 明和4年　8月3日 快晴
1767年　8月27日 明和4年　8月4日 陰晴
1767年　8月28日 明和4年　8月5日 曇 巳の刻過ぎ小雨
1767年　8月29日 明和4年　8月6日 曇 終日雨 夜中共
1767年　8月30日 明和4年　8月7日 曇 辰の刻より雨 午の刻まで
1767年　8月31日 明和4年　8月8日 晴

1767年　9月1日 明和4年　8月9日 快晴 （領内の盲人381人（座当212・盲女169）、柏木村の男村払い）
1767年　9月2日 明和4年　8月10日 陰晴 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米6俵上がる、昨5日三馬屋湊風雨強く洪水・御番所大破・同所大橋流失）　下から続く　遅い、御祝儀乞食共318人（男175・女143）に銭15文宛）
1767年　9月3日 明和4年　8月11日 曇 昨夜酉の刻雨 今暁まで （先頃より雨降り続き・岩木山登山岩木嵩湯段とも湯治停止、去年の御初米は7月23日当年8月10日・植付日よりの日数で去年と同じ節に引合い5日　上に続く
1767年　9月4日 明和4年　8月12日 陰晴 （桑野木田村庄屋が姥嶋村の高無借家に米3俵手当している）
1767年　9月5日 明和4年　8月13日 晴
1767年　9月6日 明和4年　8月14日 陰晴
1767年　9月7日 明和4年　8月15日 快晴
1767年　9月8日 明和4年　8月16日 晴 朝の内霞 （昨15日広田組喰川村で火災6軒）
1767年　9月9日 明和4年　8月17日 快晴
1767年　9月10日 明和4年　8月18日 曇 時々雨
1767年　9月11日 明和4年　8月19日 快晴 （広須組桑野木田村の高無借家の難儀の者共に同村庄屋より米4俵手当て）
1767年　9月12日 明和4年　8月20日 晴
1767年　9月13日 明和4年　8月21日 快晴
1767年　9月14日 明和4年　8月22日 曇 昨夜より今日まで風余程強し 今日雨時々 （先日小泊村に六十六部が倒・今朝病死）
1767年　9月15日 明和4年　8月23日 曇 昨夜中より時々雨
1767年　9月16日 明和4年　8月24日 快晴 申の刻過ぎ地震壱度発す
1767年　9月17日 明和4年　8月25日 快晴
1767年　9月18日 明和4年　8月26日 陰晴
1767年　9月19日 明和4年　8月27日 快晴
1767年　9月20日 明和4年　8月28日 曇 昨夜酉の刻より雨 今日まで時々雨
1767年　9月21日 明和4年　8月29日 快晴
1767年　9月22日 明和4年　8月30日 快晴 （御用人大道寺隼人に一粒金丹10粒）
1767年　9月23日 明和4年　9月1日 曇 申の下刻より雷度々発す 暮れ頃より雨 （8月中所々御関所出人都合131人：碇関127人（御印紙出106・切手紙出21）・大間越3人（御印紙出）・小泊湊口1人（御印紙出））
1767年　9月24日 明和4年　9月2日 曇 昨夜中雨 雷三四度 今日時々雨 丑の刻地震
1767年　9月25日 明和4年　9月3日 陰晴 今朝卯の下刻地震弐度鳴る （去月28日の夜尾太銅山厚良沢の炭役所の火が漏れ役所・中間小屋・炭蔵焼失）
1767年　9月26日 明和4年　9月4日 快晴
1767年　9月27日 明和4年　9月5日 快晴
1767年　9月28日 明和4年　9月6日 陰晴
1767年　9月29日 明和4年　9月7日 曇
1767年　9月30日 明和4年　9月8日 晴 巳の刻地震少し鳴る
1767年　10月1日 明和4年　9月9日 陰晴 酉の刻前より雨 夜に入り風少々吹 （十三より初鮭1尺差し出す）
1767年　10月2日 明和4年　9月10日 曇 昨夜中の雨今朝まで 今日時々小雨
1767年　10月3日 明和4年　9月11日 快晴 申の刻雨 雷発す （検見人として代官29人が指名されている）
1767年　10月4日 明和4年　9月12日 曇 昨酉の刻頃風雨余程つよし
1767年　10月5日 明和4年　9月13日 快晴 （菱喰並びに雁を差上げる）
1767年　10月6日 明和4年　9月14日 快晴
1767年　10月7日 明和4年　9月15日 快晴 昨夜中雨 今暁まで降
1767年　10月8日 明和4年　9月16日 快晴
1767年　10月9日 明和4年　9月17日 曇 辰の刻過ぎより小雨時々
1767年 10月10日 明和4年　9月18日 曇 昨夜中雨 今日終日時々雨
1767年 10月11日 明和4年　9月19日 曇 昨日より今日まで雷雨
1767年 10月12日 明和4年　9月20日 陰晴 今朝岩木山江雪見
1767年 10月13日 明和4年　9月21日 曇 昨夜中より雨 今日終日に及ぶ
1767年 10月14日 明和4年　9月22日 晴 昨日未の刻より大風雨 夜中まで雨 今日強風吹
1767年 10月15日 明和4年　9月23日 陰晴 巳の刻過ぎ少々雨 同下刻止む 未の下刻地震
1767年 10月16日 明和4年　9月24日 晴
1767年 10月17日 明和4年　9月25日 陰晴
1767年 10月18日 明和4年　9月26日 晴 朝の内曇 昨夜戌の下刻より寅の刻過ぎまで雨 雷度々発す
1767年 10月19日 明和4年　9月27日 晴 時々曇
1767年 10月20日 明和4年　9月28日 快晴 昨夜雨時々 雷二三度発す
1767年 10月21日 明和4年　9月29日 曇 今日雷二三度発す 時々雨 未の下刻頃丸雪ふる
1767年 10月22日 明和4年　9月30日 曇 昨夜中風雨強し 雷数度 今朝まで雨ふる 辰の刻過ぎより雨止む 巳の刻過ぎ地震余程強し　下から続く　の杉（（廻り4尺）倒れる、21日より22日の大浪・　下の欄外(*)に続く
1767年 10月23日 明和4年 閏9月1日 晴 昨夜丑の刻地震壱度鳴動 昨夜より今日まで時々雨 （9月中所々御関所出人都合105人：碇関103人（御印紙出90・切手紙出13）・野内2人（切手紙出）、昨日の大風で八幡宮　上に続く
1767年 10月24日 明和4年 閏9月2日 陰晴 昨夜時々小雨 （米相場1俵に付き23～25文目・日々高値）
1767年 10月25日 明和4年 閏9月3日 晴 （当月（この場合先月のこと）20日より21日までの大風雨で南浮田・北浮田村の稲11330束流失）
1767年 10月26日 明和4年 閏9月4日 曇 昨夜より今朝まで時々終夜とも雨 申の下刻より少し雨 雷発す
1767年 10月27日 明和4年 閏9月5日 曇 昨夜中より時々少し雨 少し風吹
1767年 10月28日 明和4年 閏9月6日 曇 時々雨
1767年 10月29日 明和4年 閏9月7日 曇 今日時々小雨 （足軽の親変死（縊死））
1767年 10月30日 明和4年 閏9月8日 快晴 今朝卯の下刻地震二度鳴
1767年 10月31日 明和4年 閏9月9日 晴 昨夜時々雨 今朝辰の刻過ぎ地震 （増館組銀村に佐渡の男倒・送り返す、古懸不動尊御出汗・御神楽）
(*) 鯵ヶ沢に被害・田沢村に塩水押上げ深さ一尺五六寸より二尺五六寸・家財も濡れる）

1767年　11月1日 明和4年　閏9月10日　曇　今朝巳の刻頃より雨風終日　(昨8日油川組新城村で火災(4間×9間:高無)・火元村預け)
1767年　11月2日 明和4年　閏9月11日　曇　昨夜中雨　今暁より終日小雨
1767年　11月3日 明和4年　閏9月12日　晴　昨日の雨今暁まて　卯の刻より霽(せいとでも読むか:晴の意)
1767年　11月4日 明和4年　閏9月13日　快晴
1767年　11月5日 明和4年　閏9月14日　快晴　今日昼頃よりくもる　(当月10日の風雨で40町歩ほどの稲が流失、8日出火の新城村の火元の村預け免許)
1767年　11月6日 明和4年　閏9月15日　陰晴　今朝小雨
1767年　11月7日 明和4年　閏9月16日　快晴　今朝霜つよし　(御用人吉村場左衛門に一粒金丹10粒)
1767年　11月8日 明和4年　閏9月17日　快晴　今朝霜つよし
1767年　11月9日 明和4年　閏9月18日　陰晴　今朝大霜
1767年 11月10日 明和4年　閏9月19日　曇　未の刻過ぎより雨
1767年 11月11日 明和4年　閏9月20日　曇　昨夜中雨　今暁より辰の刻過ぎまで風強　今日時々雨　(昨18日田舎館組諏訪堂村で火災(2間×4間:高無)・火元村預け)
1767年 11月12日 明和4年　閏9月21日　晴　昨夜時々小雨風　(10日11日の大雨で増館組6か村の田方151町歩この稲束24万3900束ほど水湛、古懸　不動尊御出汗・御神楽仰せ付ける(不動尊にも欠字なのだ:福眞))
1767年 11月13日 明和4年　閏9月22日　曇　昨夜時々小雨　今日終日降　(18日夜諏訪堂村の火元の村預け差免、当作不熟・造酒半減)
1767年 11月14日 明和4年　閏9月23日　曇　昨夜中より小雪時々
1767年 11月15日 明和4年　閏9月24日　曇　昨夜中より雪少々　今日まて時々風吹
1767年 11月16日 明和4年　閏9月25日　曇　昨夜中今日まで時々雪ふる　(去る16日松前を出た船が大風で破船し出来嶋領に流れ寄せる・破船見舞い中に喧嘩・男死亡)
1767年 11月17日 明和4年　閏9月26日　陰晴　(昨夜の大風で舞戸前浜に破船)
1767年 11月18日 明和4年　閏9月27日　陰晴　申の刻より少々雨　夜に入り止む
1767年 11月19日 明和4年　閏9月28日　快晴
1767年 11月20日 明和4年　閏9月29日　曇　昨夜中風雨雪　今日時々雪
1767年 11月21日 明和4年　　10月1日　曇　昨夜風　今日時々雪降　(閏9月中所々御関所出人都合127人:碇関125人(御印紙出88・切手紙出37)・野内2人(切手紙出)、御家老棟方作兵衛に一粒金丹30粒)
1767年 11月22日 明和4年　　10月2日　晴　昨夜中時々丸雪
1767年 11月23日 明和4年　　10月3日　晴　巳の刻過ぎ地震
1767年 11月24日 明和4年　　10月4日　曇　巳の刻頃より雪降
1767年 11月25日 明和4年　　10月5日　曇　今日時々雪降
1767年 11月26日 明和4年　　10月6日　曇　今日時々雪降
1767年 11月27日 明和4年　　10月7日　陰晴
1767年 11月28日 明和4年　　10月8日　曇　昨晩より今日まで雨
1767年 11月29日 明和4年　　10月9日　曇
1767年 11月30日 明和4年　　10月10日　快晴　(初鱈1尾差し出す)
1767年　12月1日 明和4年　　10月11日　陰晴
1767年　12月2日 明和4年　　10月12日　陰晴
1767年　12月3日 明和4年　　10月13日　曇　昨夜中より雨　今日時々降
1767年　12月4日 明和4年　　10月14日　曇　昨夜中風立つ　今日時々雪降
1767年　12月5日 明和4年　　10月15日　陰晴　今日時々雪降
1767年　12月6日 明和4年　　10月16日　陰晴
1767年　12月7日 明和4年　　10月17日　陰晴　昨夜中より時々雪降　今朝卯の刻過ぎ雷度々発す
1767年　12月8日 明和4年　　10月18日　曇　今朝より時々雪
1767年　12月9日 明和4年　　10月19日　曇　昨夜子の刻頃地震一度　同丑の刻一度　今日未の刻同申の刻雨少々
1767年 12月10日 明和4年　　10月20日　曇　昨日の雨今日時々
1767年 12月11日 明和4年　　10月21日　曇　今日終日雪降　午の下刻止む
1767年 12月12日 明和4年　　10月22日　陰晴　昨夜中雪
1767年 12月13日 明和4年　　10月23日　陰晴　昨夜中雪　今朝三寸ほど積もる　今日時々雪
1767年 12月14日 明和4年　　10月24日　曇　昨夜風　今日時々雪降
1767年 12月15日 明和4年　　10月25日　快晴　昨夜中小雨時々　(近衛様御用金のうち……御預かり金として3000両(貸しているのか借りているのか不明:福眞))
1767年 12月16日 明和4年　　10月26日　曇　昨夜中雨　今日時々　(仰せ付けがないうちに内々に子供を結婚させた御家中どもが遠慮を仰せ付けられる)
1767年 12月17日 明和4年　　10月27日　晴
1767年 12月18日 明和4年　　10月28日　曇　昨夜子の刻過ぎ地震一度　巳の刻過ぎより雨
1767年 12月19日 明和4年　　10月29日　晴
1767年 12月20日 明和4年　　10月30日　晴　　下から続く　　弥三郎(59匁)・同組尾崎村の十兵衛(12文目)・浪岡組徳才子村の定右衛門(計量不能)・猿賀組袋村の助左衛門(12文目)がそれぞれ熊取る)
1767年 12月21日 明和4年　　11月1日　曇　(10月中所々御関所出人都合86人:碇関84人(御印紙出67・切手紙出17)・野内2人(御印紙出1・切手紙出1)、大鰐組虹貝村の長右衛門(胆生目形55匁)・尾崎組広船村の　　上に続く
1767年 12月22日 明和4年　　11月2日　曇　昨夜中雪　今日時々雪降る
1767年 12月23日 明和4年　　11月3日　曇　昨夜中より雪　今朝辰の刻まで　その後晴　(一昨晦日後潟組野田村で火災3軒・火元他村預け、柏木組柏木村に70歳位の男坊主倒死、大目付釜萢兵左衛門に一粒金丹5粒)
1767年 12月24日 明和4年　　11月4日　曇
1767年 12月25日 明和4年　　11月5日　陰晴　未ノ刻頃地震少し
1767年 12月26日 明和4年　　11月6日　曇　(晦日出火の野田村の火元の他村預け差免)
1767年 12月27日 明和4年　　11月7日　曇　時々小雨
1767年 12月28日 明和4年　　11月8日　曇　昨夜中雪　今日時々雪
1767年 12月29日 明和4年　　11月9日　曇
1767年 12月30日 明和4年　　11月10日　曇　今朝雷発す
1767年 12月31日 明和4年　　11月11日　曇　今朝雪　終日時々

1768年　1月1日 明和4年　11月12日 快晴
1768年　1月2日 明和4年　11月13日 晴
1768年　1月3日 明和4年　11月14日 曇　昨夜中より雨　今暁に及ぶ　今暁より雪　今日終日時々降　（御用人吉村場左衛門に一粒金丹10粒、（半独立の）黒石から松前に米の沖だし760石の御免願い・附紙の通り申し遣わす）
1768年　1月4日 明和4年　11月15日 曇　時々雪　（昨14日和徳組小沢村前沢に37・8男縊死）
1768年　1月5日 明和4年　11月16日 晴
1768年　1月6日 明和4年　11月17日 陰晴　今暁寅の初刻より小寒入り　昨夜中よりの雪三寸ほど　今日時々雪
1768年　1月7日 明和4年　11月18日 陰晴　昨夜中雪時々　（昨夜土手町の小路に2歳ばかりの男子捨て子・品川町の家に預け置く）
1768年　1月8日 明和4年　11月19日 晴　朝の内時々雪
1768年　1月9日 明和4年　11月20日 陰晴　（三新田木作村の庄屋等から米（籾）18俵の合力の申出・承け届ける旨申し使わす）
1768年　1月10日 明和4年　11月21日 晴
1768年　1月11日 明和4年　11月22日 快晴
1768年　1月12日 明和4年　11月23日 曇　昨夜中より雪　今日終日時々降
1768年　1月13日 明和4年　11月24日 陰晴
1768年　1月14日 明和4年　11月25日 陰晴　（当御収納諸上納皆済の庄屋3人等に青銅一貫文宛などの御褒美）
1768年　1月15日 明和4年　11月26日 快晴
1768年　1月16日 明和4年　11月27日 晴
1768年　1月17日 明和4年　11月28日 陰晴
1768年　1月18日 明和4年　11月29日 陰晴　（当夏今別町より今泉村までの新道工事を勝手にして庄屋などが罰を受けている）
1768年　1月19日 明和4年　11月30日 曇　昨夜子の刻過ぎより雪少々　今日時々　　下から続く　　2間半と3間×2間：共に高無）・火元他村預、青森町で抜米3俵押える、赤田組板屋野木村で火災（3間×2間：高無）：火元村預）
1768年　1月20日 明和4年　12月1日 なし（日記はあるが天気の記述なし）（11月中所々御関所出人都合84人：碇関81人（御印紙出63・切手紙出18）・野内3人（切手紙出）、昨29日堀越組一ノ渡村で火災2軒（4間×　　上に続く
1768年　1月21日 明和4年　12月2日 なし（同上）　（28日夜の板屋野木村の火元の村預け差免、大鰐組大鰐村の長左衛門（胆生目18文目）・同村の永右衛門（70目）・尾崎組尾崎村の十兵衛（20目）がそれぞれ熊取る）
1768年　1月22日 明和4年　12月3日 なし（同上）
1768年　1月23日 明和4年　12月4日 なし（同上）
1768年　1月24日 明和4年　12月5日 なし（同上）
1768年　1月25日 明和4年　12月6日 なし（同上）
1768年　1月26日 明和4年　12月7日 なし（同上）
1768年　1月27日 明和4年　12月8日 なし（同上）
1768年　1月28日 明和4年　12月9日 なし（同上）
1768年　1月29日 明和4年　12月10日 なし（同上）
1768年　1月30日 明和4年　12月11日 なし（同上）
1768年　1月31日 明和4年　12月12日 なし（同上）
1768年　2月1日 明和4年　12月13日 なし（同上）
1768年　2月2日 明和4年　12月14日 なし（同上）
1768年　2月3日 明和4年　12月15日 なし（同上）
1768年　2月4日 明和4年　12月16日 なし（同上）　下から続く　御目見え以下40俵以上壱ツ八歩引・30俵以上壱ツ五歩引・20俵以上壱つ弐歩引・右以下拾ヶ一、同様に江戸上方勝手が続く）
1768年　2月5日 明和4年　12月17日 なし（同上）　下から続く　・10両以上弐ツ七歩引・7両二歩以上弐ツ弐歩引・5両以上壱ツ八歩引・3両2歩以上壱ツ五歩引・2両2歩以上壱ツ三歩引・右以下十ヶ一、　上に続く
1768年　2月6日 明和4年　12月18日 なし（同上）　下から続く　・50俵以上弐ツ弐歩引・30俵以上壱ツ八歩引・20俵以上壱五歩引・10俵以上壱ツ三歩引・右以下拾ヶ一、金給20両以上半減・15両以上四ツ弐歩引　上に続く
1768年　2月7日 明和4年　12月19日 なし（同上）　下から続く　壱歩引・25石以上壱ツ八歩引・20石以上壱ツ五歩引・10石以上壱ツ三歩引、俵子150俵以上半減・100俵以上三つ五歩引・70俵以上弐ツ八歩引　上に続く
1768年　2月8日 明和4年　12月20日 なし（同上）（此の度御家中より御借米仰付けられ候に付き割合・段取：知行100石以上半知・70石以上四ツ壱歩引・50石以上弐ツ八歩引・35石以上弐ツ弐歩引・30石以上弐ツ　上に続く
1768年　2月9日 明和4年　12月21日 なし（同上）
1768年　2月10日 明和4年　12月22日 なし（同上）
1768年　2月11日 明和4年　12月23日 なし（同上）
1768年　2月12日 明和4年　12月24日 なし（同上）
1768年　2月13日 明和4年　12月25日 なし（同上）
1768年　2月14日 明和4年　12月26日 なし（同上）
1768年　2月15日 明和4年　12月27日 なし（同上）（今日北横町で男縊死）
1768年　2月16日 明和4年　12月28日 なし（同上）
1768年　2月17日 明和4年　12月29日 なし（同上）
1768年　2月18日 明和5年　正月1日　陰晴　今暁寅の下刻少々地震　今日未の刻より雪三寸ほどふる　（古懸　不動尊御出汗）
1768年　2月19日 明和5年　正月2日　曇
1768年　2月20日 明和5年　正月3日　曇
1768年　2月21日 明和5年　正月4日　曇　辰の下刻より雨　未ノ中刻より止む
1768年　2月22日 明和5年　正月5日　曇　時々葉雪（葉雪とは聞いたことないが、そのように見える：福眞）
1768年　2月23日 明和5年　正月6日　曇
1768年　2月24日 明和5年　正月7日　曇
1768年　2月25日 明和5年　正月8日　曇　昨未の中刻雪　酉の刻まで積もる　子の中刻過ぎ雷二度発す
1768年　2月26日 明和5年　正月9日　曇　時々雪　風立
1768年　2月27日 明和5年　正月10日 曇　時々雪
1768年　2月28日 明和5年　正月11日 曇　時々雪
1768年　2月29日 明和5年　正月12日 曇

1768年　3月1日 明和5年　正月13日 曇
1768年　3月2日 明和5年　正月14日 曇　今朝辰の刻過ぎ地震少々
1768年　3月3日 明和5年　正月15日 曇　今日時々雪
1768年　3月4日 明和5年　正月16日 曇　巳の下刻過ぎより晴
1768年　3月5日 明和5年　正月17日 曇　(12月中碇関緒関所出人67人(御印紙出53・切手紙出14))
1768年　3月6日 明和5年　正月18日 陰晴　(昨晩御蔵町で不審火)
1768年　3月7日 明和5年　正月19日 陰晴
1768年　3月8日 明和5年　正月20日 陰晴　(三馬屋湊目付に福眞弥兵衛、一昨18日夜浪岡組徳才子村で火災(4間×7間:百姓・小荷駄4疋・米10俵程・雑穀2石ほど・種籾1石2斗焼失)・火元村預け)
1768年　3月9日 明和5年　正月21日 晴
1768年　3月10日 明和5年　正月22日 晴
1768年　3月11日 明和5年　正月23日 陰晴
1768年　3月12日 明和5年　正月24日 曇
1768年　3月13日 明和5年　正月25日 陰晴
1768年　3月14日 明和5年　正月26日 曇　(初菱喰差上げる)
1768年　3月15日 明和5年　正月27日 曇　昨夜雨　今日終日雨降
1768年　3月16日 明和5年　正月28日 陰晴　昨夜雨
1768年　3月17日 明和5年　正月29日 曇　昨夜中より今朝まで風雨
1768年　3月18日 明和5年　正月30日 曇　昨夜中の雨　今日終日に及ぶ
1768年　3月19日 明和5年　2月1日 晴
1768年　3月20日 明和5年　2月2日 陰晴　(去る晦日夜堀越組小栗山村で馬屋火災(1間×2間半:高無)・火元村預け)
1768年　3月21日 明和5年　2月3日 曇　今日時々雪ふる
1768年　3月22日 明和5年　2月4日 晴　(去作不熟に付き御家中一統之御借米増仰せ付けられ候に付き左に申し上げ候:高100石に付き米75俵御借り米等々延々と続く)
1768年　3月23日 明和5年　2月5日 陰晴　(朔日の夜九時より2日明け六時頃までに早川口より残らず十三潟の氷明ける・去年3月2日昼九時頃より明けた・日数で30日早く節に引き合い12日早い)
1768年　3月24日 明和5年　2月6日 曇　昨夜中少し雨　子の刻過ぎ少々地震
1768年　3月25日 明和5年　2月7日 曇　(黒石役人から米3200石の江戸廻米津出願い・付紙(2000石か)の通り申し遣わす)
1768年　3月26日 明和5年　2月8日 快晴　(2月2日大風で砂ヶ森前浜に破船)
1768年　3月27日 明和5年　2月9日 曇　昨夜中より雨　今日終日降る
1768年　3月28日 明和5年　2月10日 曇　昨夜中雨　今日時々降
1768年　3月29日 明和5年　2月11日 曇　(初雁一羽差し出す、不動尊御出汗、江戸で大借(おおがり:多額の借金)の御家中多数に隠居等の処分)
1768年　3月30日 明和5年　2月12日 曇　辰の上刻より雨
1768年　3月31日 明和5年　2月13日 晴　下から続く　・蕎麦2俵・その他焼失・火元百姓慎み)
1768年　4月1日 明和5年　2月14日 曇　今日辰の中刻より巳の刻頃まて雨少々　(昨13日夜五時熊島村で火災・(4間×7間半:給地百姓・馬屋2間半×3間・種籾20俵(2斗入り)・白米50俵(以下4斗入り)・精粟5叺　上に続く
1768年　4月2日 明和5年　2月15日 曇　今日少々雨降
1768年　4月3日 明和5年　2月16日 曇　寅の下刻地震　卯の上刻地震　辰の上刻地震
1768年　4月4日 明和5年　2月17日 陰晴
1768年　4月5日 明和5年　2月18日 快晴　今朝四方一円小霞
1768年　4月6日 明和5年　2月19日 曇　申の下刻より雨　酉の上刻晴れる
1768年　4月7日 明和5年　2月20日 曇　昨夜度々雨降　卯の刻頃雷強し　三四度発す
1768年　4月8日 明和5年　2月21日 曇
1768年　4月9日 明和5年　2月22日 曇　昨夜風雨　今日終日時々雪降
1768年　4月10日 明和5年　2月23日 曇　今日午の上刻地震発す
1768年　4月11日 明和5年　2月24日 曇
1768年　4月12日 明和5年　2月25日 晴　昨夜戌の刻少々地震
1768年　4月13日 明和5年　2月26日 快晴　昨夜丑の刻少々地震　今朝卯の刻頃少し地震
1768年　4月14日 明和5年　2月27日 陰晴　(今朝猿賀組猿賀村で火災(2間半×3間:借地高無)・火元村預け)
1768年　4月15日 明和5年　2月28日 曇　(去月11日碇関町同心乳井多七が鉄砲で熊(胆目形36匁)取る)
1768年　4月16日 明和5年　2月29日 曇　昨夜風雨強し　今日辰の下刻より雪少々降　(25日出火の猿賀村の火元の村預け差許)
1768年　4月17日 明和5年　3月1日 曇　昨夜雪少々　今日終日　(2月中所々御関所出人都合61人:碇関59人(御印紙出38・切手紙出21)・野内2人(切手紙出))
1768年　4月18日 明和5年　3月2日 曇　昨夜雪　今日時々雨降
1768年　4月19日 明和5年　3月3日 曇　昨夜中より雪　今日時々雪
1768年　4月20日 明和5年　3月4日 曇
1768年　4月21日 明和5年　3月5日 晴
1768年　4月22日 明和5年　3月6日 曇　今暁少々雨
1768年　4月23日 明和5年　3月7日 曇
1768年　4月24日 明和5年　3月8日 陰晴　昨夜寅の刻過ぎ地震
1768年　4月25日 明和5年　3月9日 曇　(大工町の借家に住む男の女房が南溜池に入水・死亡、御倹約に付……が並ぶ:御家中召仕之男女下着帯たりとも絹類相用い候儀無用たるべき事など)
1768年　4月26日 明和5年　3月10日 晴
1768年　4月27日 明和5年　3月11日 快晴
1768年　4月28日 明和5年　3月12日 陰晴
1768年　4月29日 明和5年　3月13日 曇　昨夜戌の刻より時々雨
1768年　4月30日 明和5年　3月14日 晴　(昨夜の洪水で大鰐組石川大橋残らず押し流す、岩木川六歩余の洪水だったが今朝水落ち往来可能となる)

1768年　5月1日 明和5年　3月15日 晴 （一昨13日後潟組川崎村で火災3軒・雑駄3疋種籾等焼失・火元高無他村預け）
1768年　5月2日 明和5年　3月16日 晴
1768年　5月3日 明和5年　3月17日 曇 今朝辰の下刻より雨終日
1768年　5月4日 明和5年　3月18日 曇 昨夜中雨 今日終日
1768年　5月5日 明和5年　3月19日 曇 （13日後方組川崎村の火元の村預け免許）
1768年　5月6日 明和5年　3月20日 曇 今朝辰の刻頃より雨
1768年　5月7日 明和5年　3月21日 曇 昨夜酉の刻より雨 戌の上刻地震一度発す 雨今朝まで
1768年　5月8日 明和5年　3月22日 陰晴 午の刻より晴れる 昨夜雨少々
1768年　5月9日 明和5年　3月23日 陰晴 下から続く ・諸組代官を通じて家別に詮議したが相当する者は見付からなかった）
1768年　5月10日 明和5年　3月24日 曇 昨夜雨少々 （去月14日相野村清兵衛と申す者が脇差を差し御城中の口へ参り書付持参御用所へ差し出し候様相願い候・取次ぎの者が宛所がないので返した 上に続く
1768年　5月11日 明和5年　3月25日 曇 今日午の刻過ぎ少々雨 （当月初め頃より北の御丸御普請小屋に狐が入り毎夜九時過ぎより朝まで鳴く・（対策として）御祈祷を仰せ付ける）
1768年　5月12日 明和5年　3月26日 快晴 朝の内曇 （今17日昼頃より十三町で東風烈しく往来不能・馬船など流失）
1768年　5月13日 明和5年　3月27日 曇
1768年　5月14日 明和5年　3月28日 曇 昨日未の刻少々地震一度 同暮前に地震一度 （御家老堀傳左衛門に一粒金丹30粒）
1768年　5月15日 明和5年　3月29日 曇 昨夜時々雨 今朝丹至（今朝虹） 下から続く ・浪岡組徳才子村の定右衛門2疋（胆長4寸廻り5寸目形65文目：8才と胆長2寸廻り3寸生目10文目：3才）それぞれ熊取る）
1768年　5月16日 明和5年　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合330人：碇関329人（御印紙出111・切手紙出218）・野内1人（御印紙出）、駒越組杉ヶ沢村の惣左衛門（胆長4寸5歩廻り6寸生目45文目：3才） 上に続く
1768年　5月17日 明和5年　4月2日 快晴 （五穀成就の御祈祷を四社に仰せ付ける）
1768年　5月18日 明和5年　4月3日 快晴 （米留役が大活躍（5石8斗押える）している）
1768年　5月19日 明和5年　4月4日 曇 今暁寅の刻より雨 今日終日に及ぶ
1768年　5月20日 明和5年　4月5日 快晴
1768年　5月21日 明和5年　4月6日 快晴 （御家老中が評定所で御家中二男三男の剣術御内覧）
1768年　5月22日 明和5年　4月7日 快晴
1768年　5月23日 明和5年　4月8日 曇
1768年　5月24日 明和5年　4月9日 曇 子の刻より雨 今日辰の中刻地震一度雷発す （一昨6日より大光寺組平田森村の庄屋家火災・火元村預け） 下から続く 盗杣の多数の者共に襲われ1人死亡1人重症）
1768年　5月25日 明和5年　4月10日 曇 今朝辰の上刻より風立つ 申の下刻止む （6日平田森村の火元の村預け免許、8日夜浦町組堤村で火災・火元村預け、当月7日山役人など3人が大鰐組早瀬野沢で 上に続く
1768年　5月26日 明和5年　4月11日 曇
1768年　5月27日 明和5年　4月12日 晴 （当月8日堤村の火元の村預け免許、一昨10日夜堀越組境関村で火災3軒（3間×5間：御蔵百姓（高無とも）・同断・外馬屋2間×2間）・火元他村預け）
1768年　5月28日 明和5年　4月13日 晴
1768年　5月29日 明和5年　4月14日 晴 今日未の中刻頃より雨少々 酉の刻過ぎまて時々 （今別町の米穀払底に付き御蔵米御払い願い・1俵26文目2分で50俵を御払い、大鰐組早瀬野村から7人出奔・数日前の殺人盗杣者か）
1768年　5月30日 明和5年　4月15日 晴 朝の内曇 （盗杣の7人中2人搦捕る）
1768年　5月31日 明和5年　4月16日 曇 午の刻頃より雨少々 酉の刻より止む （10日夜出火の境関村の火元の他村預け免許）
1768年　6月1日 明和5年　4月17日 なし（日記はあるが天気の記述なし） （大鰐尾崎組代官2人に御奉公遠慮：多分殺人盗杣関連）
1768年　6月2日 明和5年　4月18日 曇 今朝卯の刻地震一度鳴る 今朝酉の上刻より雨 （去る亥の（去年）10月赤石組に流れ寄せ拾い上げてあった丸木舟を六ヶ月持ち主が出なかったので拾った者に下し置かれる）
1768年　6月3日 明和5年　4月19日 曇 昨夜中より雨 今日辰の下刻まて
1768年　6月4日 明和5年　4月20日 曇 今暁寅の中刻地震 辰の中刻雨
1768年　6月5日 明和5年　4月21日 快晴
1768年　6月6日 明和5年　4月22日 快晴 （此の度御郡内人数改め誌方よりの書き出し：惣人数合225404人（宝暦12年（1763年）の調方より51369人（内1261人黒石分）増加））
1768年　6月7日 明和5年　4月23日 快晴
1768年　6月8日 明和5年　4月24日 快晴
1768年　6月9日 明和5年　4月25日 快晴
1768年　6月10日 明和5年　4月26日 快晴 （去る21日江戸御発駕か）
1768年　6月11日 明和5年　4月27日 快晴 （昨22日鯵ヶ沢の船が長濱で破船、勘定人加勢諸手足軽油布某が妻子に不似合いな衣類を着せたとして勘定人加勢引取申付ける）
1768年　6月12日 明和5年　4月28日 曇 （関札打ち到着）
1768年　6月13日 明和5年　4月29日 陰晴 （笠原八郎兵衛が下に痛ありとして足袋の使用願い・了）
1768年　6月14日 明和5年　4月30日 曇 昨晩未ノ下刻余程強い地震三度 今日時々鳴る （盗杣取り逃がしの長峰村庄屋・同村5人組の計6人を入牢・番人・預かり宿の10人を戸〆）
1768年　6月15日 明和5年　5月1日 曇 今朝卯の下刻地震少々 未の下刻小雨 （4月中所々御関所出人都合102人：碇関95人（御印紙出63・切手紙出32）・野内7人（御印紙出5・切手紙出2））
1768年　6月16日 明和5年　5月2日 曇 午の上刻頃雷二・三度発す （去月28日七時過ぎ茂森町に五つ計の女子迷子）
1768年　6月17日 明和5年　5月3日 曇 昨午の刻過ぎより雨 今暁まで雷時々発す
1768年　6月18日 明和5年　5月4日 快晴
1768年　6月19日 明和5年　5月5日 曇
1768年　6月20日 明和5年　5月6日 曇 今朝寅の刻より雨 今日終日時々
1768年　6月21日 明和5年　5月7日 晴
1768年　6月22日 明和5年　5月8日 晴 （屋形様九時過ぎ御着城）
1768年　6月23日 明和5年　5月9日 陰晴
1768年　6月24日 明和5年　5月10日 晴
1768年　6月25日 明和5年　5月11日 快晴
1768年　6月26日 明和5年　5月12日 陰晴 （御留守居支配葛西某が一粒金丹を求め・断られる）
1768年　6月27日 明和5年　5月13日 陰晴 昨酉の刻過ぎ雨少々降る
1768年　6月28日 明和5年　5月14日 陰晴 （御馬廻工藤某出奔・御給分召上げ家屋敷明け渡し）
1768年　6月29日 明和5年　5月15日 晴
1768年　6月30日 明和5年　5月16日 曇 （御能初）

1768年　7月1日 明和5年　5月17日 陰晴　朝の内霧　午の刻より晴 （大鰐村より初小角豆(ささぎ)差上げる:大角豆はささげと読むが……福眞、12日油川組油川村で火災22軒焼失）
1768年　7月2日 明和5年　5月18日 晴　朝の内霞　午の刻より晴
1768年　7月3日 明和5年　5月19日 陰晴　朝の内霞　巳の中刻頃より陰晴
1768年　7月4日 明和5年　5月20日 快晴　朝の内四方一円に霞　今日初めて蝉の声聞ゆる
1768年　7月5日 明和5年　5月21日 快晴 （大鰐村より初真瓜差上げる、昨夜九つ時横内組荒川村で火災一軒と外馬屋1軒その他焼失・火元村預け、今朝亀甲町で出火・軒端少々焼く・借家で戸〆も出来ないので他出差し止め）
1768年　7月6日 明和5年　5月22日 晴 （百沢寺江五穀成就降雨の御祈祷を仰せ付ける）
1768年　7月7日 明和5年　5月23日 快晴 （南溜池で男水死）
1768年　7月8日 明和5年　5月24日 晴　朝の内霧　辰の中刻より晴
1768年　7月9日 明和5年　5月25日 陰晴 （油川村の火災の類焼者に御蔵赤米20俵下しおかれる）
1768年　7月10日 明和5年　5月26日 曇　朝の内霧　未の刻地震少々　申の刻まで地震
1768年　7月11日 明和5年　5月27日 曇　午の刻より晴
1768年　7月12日 明和5年　5月28日 曇　寅の上刻より雨　卯の刻晴
1768年　7月13日 明和5年　5月29日 曇　昨日より雨終日降
1768年　7月14日 明和5年　6月1日 曇 （5月中所々御関所出人都合133人:碇関78人(御印紙出)・野内4人(御印紙出3・切手紙出1)・大間越50人(切手紙出)、人事異動、大鰐村より初茄子差上げる）
1768年　7月15日 明和5年　6月2日 曇
1768年　7月16日 明和5年　6月3日 晴
1768年　7月17日 明和5年　6月4日 曇　午の刻過ぎより雨降
1768年　7月18日 明和5年　6月5日 曇　時々雨　晴共成る　今晩亥の六刻土用に入
1768年　7月19日 明和5年　6月6日 曇
1768年　7月20日 明和5年　6月7日 晴　今晩寅の刻より雨　卯の中刻より止む
1768年　7月21日 明和5年　6月8日 晴　朝の内少々小雨　則刻止む
1768年　7月22日 明和5年　6月9日 快晴
1768年　7月23日 明和5年　6月10日 快晴　午の刻頃少々雨降
1768年　7月24日 明和5年　6月11日 晴　時々曇　朝の内霧雨少々降 （当月4日夜岩崎村の前浜に越前の船乗り上げ破船）
1768年　7月25日 明和5年　6月12日 快晴
1768年　7月26日 明和5年　6月13日 快晴　暑気強
1768年　7月27日 明和5年　6月14日 快晴　暑気強 （顕休院様(六代?信著)二十五回御忌御法事大赦(6人出牢(足羽長十郎は弘前御構い)・9人居村徘徊御免・その他寺院からの願いでない出牢10人、乳井貢蟄居御免）
1768年　7月28日 明和5年　6月15日 晴　暑気甚シ
1768年　7月29日 明和5年　6月16日 曇
1768年　7月30日 明和5年　6月17日 晴　朝の内曇　巳の中刻頃より晴
1768年　7月31日 明和5年　6月18日 快晴
1768年　8月1日 明和5年　6月19日 快晴　朝の内曇
1768年　8月2日 明和5年　6月20日 曇　卯の刻過ぎより雨時々降
1768年　8月3日 明和5年　6月21日 曇
1768年　8月4日 明和5年　6月22日 快晴
1768年　8月5日 明和5年　6月23日 晴　朝の内少し曇　巳の刻より晴
1768年　8月6日 明和5年　6月24日 晴　朝の内曇　巳の刻より晴　昨夜戌の刻過ぎより雨少し　亥の刻過ぎより終夜降 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる）
1768年　8月7日 明和5年　6月25日 陰晴
1768年　8月8日 明和5年　6月26日 曇　時々快晴と成る
1768年　8月9日 明和5年　6月27日 快晴　昨夜中暑気余程強　今日暑気強
1768年　8月10日 明和5年　6月28日 快晴　朝の内曇　昨夜寅の刻過ぎ少し雨
1768年　8月11日 明和5年　6月29日 晴　朝の内曇
1768年　8月12日 明和5年　7月1日 陰晴 （6月中所々御関所出人都合87人:碇関85人(御印紙出57・切手紙出28)・野内2人(切手紙出)、昨夜春日町出火・8日の記述で火元慎、、三目内赤根沢で馬盗人が馬11疋を捨て逃亡）
1768年　8月13日 明和5年　7月2日 晴　朝の内曇　昨夜戌の上刻地震尤鳴動
1768年　8月14日 明和5年　7月3日 快晴
1768年　8月15日 明和5年　7月4日 快晴
1768年　8月16日 明和5年　7月5日 快晴 （一昨夜十三町で物置小屋出火・火元戸〆）
1768年　8月17日 明和5年　7月6日 快晴　未ノ下刻雨　則刻止む　雷発す （飯詰組・金木組・広須組みなどで苗不足・稗を植えつけるようにする）
1768年　8月18日 明和5年　7月7日 快晴　朝の内霧　未ノ刻過ぎより雨　申の刻過ぎ止む　未ノ下刻雷度々発す
1768年　8月19日 明和5年　7月8日 快晴　昨夜子の刻過ぎより雨終夜
1768年　8月20日 明和5年　7月9日 快晴　朝の内曇ル
1768年　8月21日 明和5年　7月10日 快晴
1768年　8月22日 明和5年　7月11日 曇　昨夜より大雨　今日時々雨 （3日夜十三町の火元の戸〆免許）
1768年　8月23日 明和5年　7月12日 晴
1768年　8月24日 明和5年　7月13日 晴
1768年　8月25日 明和5年　7月14日 陰晴　戌の刻雨時々 （今朝明方御徒の妻が井の内に落ち死亡）
1768年　8月26日 明和5年　7月15日 晴
1768年　8月27日 明和5年　7月16日 曇　雨時々
1768年　8月28日 明和5年　7月17日 晴　今暁丑の刻より雨時々
1768年　8月29日 明和5年　7月18日 快晴
1768年　8月30日 明和5年　7月19日 快晴
1768年　8月31日 明和5年　7月20日 快晴　残暑甚強 （大鰐村兵左衛門・加賀助より初米6俵差上げる）

1768年　9月1日 明和5年　7月21日 曇
1768年　9月2日 明和5年　7月22日 曇　昨晩申の刻より今日まで雨終日
1768年　9月3日 明和5年　7月23日 晴
1768年　9月4日 明和5年　7月24日 曇
1768年　9月5日 明和5年　7月25日 曇　昨夜時々雨 （11日の大雨で浪岡川・十川湛水・目鹿沢村などで田方等欠崩）
1768年　9月6日 明和5年　7月26日 曇
1768年　9月7日 明和5年　7月27日 曇　今朝卯の下刻より雨降 （頃日天気相宜しからず候に付き岩木嵩並びに湯段とも入湯停止）
1768年　9月8日 明和5年　7月28日 曇　今日申の刻過ぎ地震余程強
1768年　9月9日 明和5年　7月29日 晴　昨夜雨　子の刻頃地震　今暁寅の下刻頃地震
1768年　9月10日 明和5年　7月30日 晴 （赤田・広田組代官の勤め方宜しからずとして御目見以下とする）
1768年　9月11日 明和5年　8月1日 快晴 （7月中所々御関所出人都合134人：碇関132人（御印紙出83・切手紙出49）・野内2人（切手紙出））
1768年　9月12日 明和5年　8月2日 快晴　昨申の刻より小雨
1768年　9月13日 明和5年　8月3日 晴 （どこかのお寺（普光寺か）の境内に者倒死）
1768年　9月14日 明和5年　8月4日 曇　昨酉の刻過ぎより雨 （昨夜中の雨天で岩木川六歩余の出水）
1768年　9月15日 明和5年　8月5日 曇
1768年　9月16日 明和5年　8月6日 曇　昨夜雨　今朝に至る
1768年　9月17日 明和5年　8月7日 快晴　今朝辰の刻まて曇　巳の刻より晴
1768年　9月18日 明和5年　8月8日 陰晴
1768年　9月19日 明和5年　8月9日 陰晴
1768年　9月20日 明和5年　8月10日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　終日　未之刻過ぎ止む
1768年　9月21日 明和5年　8月11日 快晴 （今日御囃子）
1768年　9月22日 明和5年　8月12日 快晴 （去る10月入牢の徒者が5月より煩い今朝牢死）　下から続く　塩6俵3斗・米10俵、岩木嵩・湯段の湯治（7月27日に停止）勝手次第とする、盗杣を厳しくする制札を58箇所に立てる）
1768年　9月23日 明和5年　8月13日 晴 （三新田村々少しも有餘等有之者共より補助差し出させ申し候：五合摺籾18俵・六合摺籾3俵2斗・銭2貫310文目・蕎麦2俵・蕷5俵・麦6俵・粕36貫目・味噌69貫目・　上に続く
1768年　9月24日 明和5年　8月14日 快晴
1768年　9月25日 明和5年　8月15日 快晴　巳の中刻より曇　昨日より残暑強
1768年　9月26日 明和5年　8月16日 曇　昨日より残暑甚強　巳の上刻より時々雨
1768年　9月27日 明和5年　8月17日 曇　昨日より雨時々　今日午の刻より止む
1768年　9月28日 明和5年　8月18日 陰晴
1768年　9月29日 明和5年　8月19日 曇
1768年　9月30日 明和5年　8月20日 曇
1768年　10月1日 明和5年　8月21日 曇　申の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1768年　10月2日 明和5年　8月22日 曇　昨夜雨　今日終日降
1768年　10月3日 明和5年　8月23日 晴 （昨22日金木組中柏木村で羽州最上村の回国修行僧が病死）
1768年　10月4日 明和5年　8月24日 晴　朝の内曇
1768年　10月5日 明和5年　8月25日 曇　昨酉の刻より雨　今日終日
1768年　10月6日 明和5年　8月26日 曇　終日之雨　昨夜地震余程強 （初鮭一尺御魚屋より差上げる）
1768年　10月7日 明和5年　8月27日 晴
1768年　10月8日 明和5年　8月28日 曇　昨夜戌の刻過ぎ雷発す　終日雨　今朝辰の刻過ぎ雷壱度発す
1768年　10月9日 明和5年　8月29日 曇
1768年 10月10日 明和5年　8月30日 曇　下から続く　（御印紙出13・切手紙出1）、広須組の当仕付荒面積・御検見願面積・検見不入面積を郡奉行が報告している）
1768年 10月11日 明和5年　9月1日 曇　昨夜より雨　今日巳の下刻まて　午の刻より晴 （8月中所々御関所出人都合101人：碇関83人（御印紙出60・切手紙出23）・野内4人（御印紙出）・大間越14人　上に続く
1768年 10月12日 明和5年　9月2日 快晴　昨夜中地震余程強　今日未の刻過ぎ地震余程強
1768年 10月13日 明和5年　9月3日 曇
1768年 10月14日 明和5年　9月4日 快晴 （去月下旬頃より増館組富柳村など6村の蕎麦畑に虫付く・蕎麦畑皆無になる）
1768年 10月15日 明和5年　9月5日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　今日時々 （五山に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1768年 10月16日 明和5年　9月6日 曇　今朝辰の刻頃虹見え候　今朝も時々雨　午の刻過ぎより晴
1768年 10月17日 明和5年　9月7日 陰晴　朝の内曇 （成田某に一粒金丹3粒）
1768年 10月18日 明和5年　9月8日 曇　時々小雨 （昨7日堀越組新里村で火災（3間×5間：不明）・火元村預け）
1768年 10月19日 明和5年　9月9日 晴　辰の刻過ぎ少し雨 （御手筒足軽新岡兼次郎を御鷹匠に）
1768年 10月20日 明和5年　9月10日 曇　昨夜雷時々鳴
1768年 10月21日 明和5年　9月11日 曇　時々雨降 （唐牛新左衛門に一粒金丹3粒）
1768年 10月22日 明和5年　9月12日 晴
1768年 10月23日 明和5年　9月13日 快晴
1768年 10月24日 明和5年　9月14日 晴
1768年 10月25日 明和5年　9月15日 曇　卯の下刻小雨　則刻止む　未の刻より雨　暮に及び時々雨　夜中より晴
1768年 10月26日 明和5年　9月16日 快晴
1768年 10月27日 明和5年　9月17日 快晴
1768年 10月28日 明和5年　9月18日 曇　今申の刻過ぎ東の方虹見ゆる
1768年 10月29日 明和5年　9月19日 曇　昨夜より時々雨　今巳の刻過ぎ初めて霰降る　寒し　岩木山下まて一円に雪降敷
1768年 10月30日 明和5年　9月20日 曇　昨夜より今朝まで時々霰　今日終日風雨
1768年 10月31日 明和5年　9月21日 曇

1768年　11月1日 明和5年　　9月22日 曇　昨夜より雨　今朝に至る
1768年　11月2日 明和5年　　9月23日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降
1768年　11月3日 明和5年　　9月24日 曇
1768年　11月4日 明和5年　　9月25日 曇　昨酉の刻より雨　亥の刻雷発す　今卯の刻過ぎより雨 （上方登りを仰せ付けられた郡奉行?鳴海此右衛門に一粒金丹10粒）
1768年　11月5日 明和5年　　9月26日 曇　昨夜中より今朝まで雨降　今日雷発し時々雨
1768年　11月6日 明和5年　　9月27日 快晴　　下から続く　　生目形75文目:3才）・浪岡組徳才子村の定右衛門2疋（胆長4寸8歩廻り7寸8歩生目形75文目:8才・胆長4寸廻り6寸9歩生目形60目:10才）それぞれ熊取る）
1768年　11月7日 明和5年　　9月28日 晴　申の刻雷度々発す　同下刻より雨　同刻風　則刻止む　　10月1日から続く　　（胆長4寸3歩廻り4寸8歩生目形18文目:8才）・駒越組田代村の藤右衛門等（胆長5寸廻り7寸　　上に続く
1768年　11月8日 明和5年　　9月29日 曇　昨夜雨時々 （住吉通橋詰に12・3男子袖乞倒死、昨27日昼七時頃大鰐組吹上村で火災2軒（3間×4間・2間×3間:共に高無）・火元他村預け）
1768年　11月9日 明和5年　　10月1日 晴 （9月中所々御関所出人都合100人:碇関97人（御印紙出57・切手紙出40）・大間越2人（御印紙出）・野内1人（切手紙出）、屋形様御不快、浪岡組一野渡村の彦次郎　　9月28日に続く
1768年 11月10日 明和5年　　10月2日 曇　今朝より雨終日時々　夜中に及ぶ
1768年 11月11日 明和5年　　10月3日 晴　昨夜中雨　今暁より晴と成ル
1768年 11月12日 明和5年　　10月4日 曇
1768年 11月13日 明和5年　　10月5日 晴　昨夜度々雨降　今朝小雨
1768年 11月14日 明和5年　　10月6日 曇　昨夜より雨雪　今日時々　昨夜丑の刻過ぎ大風　則刻止む （初雪御機嫌伺いの為御次江御家老中拙者共罷り出で候）
1768年 11月15日 明和5年　　10月7日 晴　申の刻過ぎより雨
1768年 11月16日 明和5年　　10月8日 曇　昨夜中雨　終夜に及ぶ （昨朝五つ時過ぎ和徳組向外瀬村で火災・火元村預け）
1768年 11月17日 明和5年　　10月9日 晴　昨夜中雨時々　所々水溜氷張ル
1768年 11月18日 明和5年　　10月10日 晴　昨夜中時々雨 （御借米で御家中が苦しいことを解決するため御手当て:千石以上100俵・百石以上二百石未満25俵・二十石以上三十石未満3俵・町同心の類1俵等々）
1768年 11月19日 明和5年　　10月11日 曇　昨夜戌の下刻より雨　終夜時々
1768年 11月20日 明和5年　　10月12日 曇　昨夜風雨雪降 （三馬屋梨子の歴史（享保14年から見て）:37・8年以前唐牛三左衛門様が今別江御出での際親勘兵衛が差上げたら江戸に届いた）
1768年 11月21日 明和5年　　10月13日 曇　巳の下刻より雨　朝の内晴
1768年 11月22日 明和5年　　10月14日 曇 （御肴屋半次郎が初鱈差上げる）
1768年 11月23日 明和5年　　10月15日 曇
1768年 11月24日 明和5年　　10月16日 陰晴　時々小雪降
1768年 11月25日 明和5年　　10月17日 晴
1768年 11月26日 明和5年　　10月18日 曇　時々雨
1768年 11月27日 明和5年　　10月19日 曇　今日終日雨
1768年 11月28日 明和5年　　10月20日 曇　今日時々霰降 （頃日投げ火所々に有る、去る17日藤代組川村で火災（長さ9間×横4間:不明）・火元村預け）
1768年 11月29日 明和5年　　10月21日 陰晴
1768年 11月30日 明和5年　　10月22日 陰晴　夜に入り雨 （今日舞台で御囃子）
1768年　12月1日 明和5年　　10月23日 曇　昨夜雨
1768年　12月2日 明和5年　　10月24日 曇　昨夜中時々雨
1768年　12月3日 明和5年　　10月25日 曇　昨夜雪　今朝に至る （22日金木組で外馬屋（3間×4間）・稲乳三つ（壱つに千束ほど）焼失・火元村預け）
1768年　12月4日 明和5年　　10月26日 曇　昨夜雪今朝まで　　下から続く　　・小豆1斗・稗1石5斗・稲2563束）・火元村預け、23日四時頃横内組濱館村で火災（家2軒（4間×15間・不明:共に御蔵百姓）ほか）・火元他村預け）
1768年　12月5日 明和5年　　10月27日 曇　昨夜雪五寸ほど降　今日時々雪　午の刻雷一度 （23日油川組細越村で火災（家4間×9間・外馬屋3間×4間・農具不残・米13俵（4斗入）・籾6石・稲800束・蕎麦2石・大豆4斗　　上に続く
1768年　12月6日 明和5年　　10月28日 陰晴　午の刻より雪積　午の中刻過ぎ大霰降　大風終夜に及ぶ
1768年　12月7日 明和5年　　10月29日 曇　辰の刻過ぎより雨時々
1768年　12月8日 明和5年　　10月30日 曇　　下から続く　　長右衛門と森山村の弥左衛門（生目形18文目）・駒越組桜庭村の茂助（生目18文目）それぞれ熊取る）
1768年　12月9日 明和5年　　11月1日 曇 （10月中所々御関所出人都合151人:碇関147人（御印紙出127・切手紙出20）・野内4人（御印紙出）、浪岡組徳才子村の定右衛門（胆生目形8文目）・大鰐組虹貝村の　　上に続く
1768年 12月10日 明和5年　　11月2日 曇　昨夜雪時々
1768年 12月11日 明和5年　　11月3日 曇　時々小雪
1768年 12月12日 明和5年　　11月4日 曇
1768年 12月13日 明和5年　　11月5日 曇　甚さむし （本町三丁目に当年生まれの男子捨て子）
1768年 12月14日 明和5年　　11月6日 曇　巳の刻より時々雪
1768年 12月15日 明和5年　　11月7日 曇　時々雪 （4日夜の本町三丁目の捨て子が病死）
1768年 12月16日 明和5年　　11月8日 曇
1768年 12月17日 明和5年　　11月9日 曇　昨夜中より雨　今日終日に及ぶ
1768年 12月18日 明和5年　　11月10日 曇 （今日御慰の御能）　　下から続く　　氷張り申し候・日数に引き合い当年は21日節に引き合い手も9日遅い）
1768年 12月19日 明和5年　　11月11日 曇　昨夜中より雨　今日時々 （当月7日の夜九時頃より同8日六つ半時頃まで十三潟の早川口より残らず氷張る・亥の年（去年）10月17日夜九つ頃より18日の朝六つ時頃まで　　上に続く
1768年 12月20日 明和5年　　11月12日 快晴
1768年 12月21日 明和5年　　11月13日 快晴
1768年 12月22日 明和5年　　11月14日 陰晴　昨夜中雨　今暁より〇（日冠に齋のように見える）ル
1768年 12月23日 明和5年　　11月15日 陰晴
1768年 12月24日 明和5年　　11月16日 陰晴　昨夜月食　子の初刻東の方よりかけ初り子の八刻甚敷午の七刻西の方に終わる
1768年 12月25日 明和5年　　11月17日 曇　昨夜中より雨風　今日初雨ふる （10日三馬屋湊領龍濱（たっぴ:竜飛）で宇鉄の狄どもが9尺ほどの鯨の子を取る、15日浦町組合子沢村で火災2軒・火元他村預け）
1768年 12月26日 明和5年　　11月18日 陰晴　昨夜中小雪　今日辰の刻まてふる
1768年 12月27日 明和5年　　11月19日 陰晴 （今日諸氏剣術高覧）
1768年 12月28日 明和5年　　11月20日 晴
1768年 12月29日 明和5年　　11月21日 曇　昨屋根の刻より雨　今日終日に及ぶ　午の刻過ぎより霞 （15日合子沢村の火元の他村預け差免）
1768年 12月30日 明和5年　　11月22日 晴 （黒石領から米700石松前に廻す）
1768年 12月31日 明和5年　　11月23日 曇　昨夜中雪4寸ほど積る　今日雪時々

1769年　1月1日 明和5年　11月24日 曇　昨夜中雪　今日も雪ふる
1769年　1月2日 明和5年　11月25日 快晴
1769年　1月3日 明和5年　11月26日 曇　時々雪降
1769年　1月4日 明和5年　11月27日 曇　時々雪
1769年　1月5日 明和5年　11月28日 快晴　今日巳の刻初より小寒に入
1769年　1月6日 明和5年　11月29日 晴　今朝辰の刻過ぎ風吹　則刻止
1769年　1月7日 明和5年　11月30日 曇　(大目付土岐渡人に一粒金丹5粒・御用人吉村場左衛門に10粒、駒越組大沢村の新兵衛(胆生目12文目)・猿賀組袋村の助右衛門(生目形12文目5分)それぞれ熊取る)
1769年　1月8日 明和5年　12月1日 陰晴　今日巳の八刻日蝕二歩半かける　(11月中所々御関所出人都合92人:碇関87人(御印紙出65・切手紙出22)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4))
1769年　1月9日 明和5年　12月2日 曇　昨夜風吹
1769年　1月10日 明和5年　12月3日 晴
1769年　1月11日 明和5年　12月4日 晴
1769年　1月12日 明和5年　12月5日 晴　(昨晩大鰐組境関村で火災家と外馬屋焼失・火元他村預け)
1769年　1月13日 明和5年　12月6日 曇
1769年　1月14日 明和5年　12月7日 晴　昨夜雪二寸程積る
1769年　1月15日 明和5年　12月8日 陰晴　(小泊村長松(外国に流されて帰ってこなかった男:切支丹と認定)の類族の結婚・死亡の記事が最近ある)
1769年　1月16日 明和5年　12月9日 曇　今日時々雪降　(東長町の御蔵で不埒のことがあったとして御手廻・御馬廻・同番頭の9人と米屋5人が罰せられている)
1769年　1月17日 明和5年　12月10日 曇　昨夜より今日まて時々雪降
1769年　1月18日 明和5年　12月11日 晴　(御慰めの御囃子)
1769年　1月19日 明和5年　12月12日 曇
1769年　1月20日 明和5年　12月13日 曇　昨夜大雪　今日終日雪吹
1769年　1月21日 明和5年　12月14日 晴　昨夜中雪少々降
1769年　1月22日 明和5年　12月15日 晴
1769年　1月23日 明和5年　12月16日 晴　(諸手足軽の親が昨晩頼母子で大酒・女房子供に切りつけ・隣家に行きここでもけが人を出す・負傷者5人)
1769年　1月24日 明和5年　12月17日 曇　昨夜雪降
1769年　1月25日 明和5年　12月18日 晴　(今日剣術高覧)
1769年　1月26日 明和5年　12月19日 晴
1769年　1月27日 明和5年　12月20日 晴
1769年　1月28日 明和5年　12月21日 曇　昨夜雪少々　(山役人警固・山役人の4人が御給分召し放ち永の暇、新城村庄屋が盗杣で居村追放・その他戸〆)
1769年　1月29日 明和5年　12月22日 曇　昨夜雪少々
1769年　1月30日 明和5年　12月23日 陰晴
1769年　1月31日 明和5年　12月24日 曇　今朝五時より雪降　終日に及ぶ　三・四寸積ル
1769年　2月1日 明和5年　12月25日 曇　昨夜雪五・六寸積ル
1769年　2月2日 明和5年　12月26日 曇　昨夜雪一寸程降　(今日年忘れの御祝儀並びに御茶口切の御祝に付き御能)
1769年　2月3日 明和5年　12月27日 晴　(親が酒狂いに居合わせて適切に動かなかった諸手足軽の擬作の内15俵を召上げ長柄の者に)
1769年　2月4日 明和5年　12月28日 晴　(12月中所々御関所出人都合87人:碇関86人(御印紙出67・切手紙出19)・野内1人(切手紙出))
1769年　2月5日 明和5年　12月29日 晴　(去る23日後潟組蓬田村で出火の火元(庄屋)の他村預け免許)
1769年　2月6日 明和5年　12月30日 晴
1769年　2月7日 明和6年　正月1日　晴　今朝辰の刻過ぎ雪少々降　則刻止ム　同刻灰のことく成物少々降　則刻止ム
1769年　2月8日 明和6年　正月2日　晴　昨夜小雪降
1769年　2月9日 明和6年　正月3日　陰晴　今日巳の刻より晴と成　(今晩御謡初)
1769年　2月10日 明和6年　正月4日　陰晴　(例年の通り七種を大鰐村より差上げる)
1769年　2月11日 明和6年　正月5日　晴　午の刻雷少し発す　昨夜雪少々降　(柏木組村々の422人に18石6斗5升3合の御救い米(12月晦日より当月16日までの17日分・1日1人に付き黒米3合))
1769年　2月12日 明和6年　正月6日　陰晴
1769年　2月13日 明和6年　正月7日　曇　巳の刻より雨終日降　(七種の御祝儀、広須組三新田村々の百姓高無共去作不熟にて渇命に及ぶ・当月18日までの21日分の御救い米を下し置かれる旨申し使わす)
1769年　2月14日 明和6年　正月8日　曇　昨日より雨　今朝に至り風時々吹　(広須組三新田の御救い米願いの惣人数1191人此の米2石2斗6升8合)
1769年　2月15日 明和6年　正月9日　快晴　昨夜酉の下刻雷少し発す
1769年　2月16日 明和6年　正月10日　快晴　(三新田木作新田の床舞・大館・山田・森田・舟岡の五か村の者共渇命・220人に見分の7日から21日まで15日分の御救い米)
1769年　2月17日 明和6年　正月11日　曇　昨夜中雪　今朝卯の刻過ぎより雪3・4寸積る　巳の刻過ぎより晴る　(人事異動、藤代組村々に御救い米)
1769年　2月18日 明和6年　正月12日　曇　今朝卯の刻過ぎより雪吹
1769年　2月19日 明和6年　正月13日　晴　朝の内曇ル　(今日御年始)御祝儀の御能
1769年　2月20日 明和6年　正月14日　陰晴　朝の内曇　(広田組1764人に69石9斗9升4合の御救い米)
1769年　2月21日 明和6年　正月15日　陰晴
1769年　2月22日 明和6年　正月16日　快晴
1769年　2月23日 明和6年　正月17日　曇　時々雪降
1769年　2月24日 明和6年　正月18日　快晴　　下から続く　　御救い米(80人米4石2斗2升))
1769年　2月25日 明和6年　正月19日　曇　昨夜雪一寸程　今日時々小雪少々　(17日浪岡組杉沢村で火災(大きさ不明:高無)・火元村預け、柏木組村々に2度目の御救い米(422人22石6斗2升)、和徳組百田村に　　上に続く
1769年　2月26日 明和6年　正月20日　曇　今朝雪少々
1769年　2月27日 明和6年　正月21日　晴　朝の内曇ル　(17日杉沢村の火元の村預け免許、藤崎組林崎村の95人に5石2斗8升(20日分)・広須組三新田の223人に12石2斗4升(20日分)の御救い米)
1769年　2月28日 明和6年　正月22日　快晴　(和徳組清野袋村の者共に御救い米)

1769年　3月1日 明和6年 正月23日　晴　風立　申の下刻止む （柏木組村々の1691人に御救い米91石3斗1升）
1769年　3月2日 明和6年 正月24日　晴　朝の内曇ル （藤崎組林崎村に60歳位男倒死、三新田1811人に96石8斗3升5合の2度目3度目の御救い米）
1769年　3月3日 明和6年 正月25日　晴 （赤田組3203人に御救い米170石9斗2升4合・広須組三新田の532人に御救い米28石3斗6升2合）
1769年　3月4日 明和6年 正月26日　曇　昨夜雪少々降 （今日御慰之御囃子）
1769年　3月5日 明和6年 正月27日　曇
1769年　3月6日 明和6年 正月28日　曇　今朝巳の刻より雪降　終夜に及ぶ　壱尺程積ル （常盤・浪岡・増館組から種籾（141石余）拝借願い・了、藤代組村々・藤崎柏木組村々・柏木組常海橋村・藤代組三世寺村に御救い米）
1769年　3月7日 明和6年 正月29日　曇　終日雪　　下から続く　　×4間）、小荷駄1疋・白米6表（5斗入）・現米3表（4斗入）・種籾18表（2斗入）・大豆2表（4斗入）・籾粟3叺（4斗入）・蕎麦2表（8斗入）等焼失）　　欄外(*)に続く
1769年　3月8日 明和6年　　2月1日 曇　昨夜雪五寸程降 （正月中所々御関所出人都合201人：碇関196人（御印紙出183・切手紙出13）・野内5人（御印紙出）、浪岡組吉内村で火災(3間×7間：御蔵百姓・外馬屋2間　　上に続く
1769年　3月9日 明和6年　　2月2日 曇　昨夜雪一尺程ふる （去月27日吉内村の火元の村預け差許、広田組川山村種井村の74人に4石2斗の御救い米）
1769年 3月10日 明和6年　　2月3日 快晴 （常盤組村々の701人に37石9斗6合の・広須組三新田村々の502人に28石5斗9升の御救い米）
1769年 3月11日 明和6年　　2月4日 快晴 （藤代組村々高無共277人に16日までの御救い米14石6斗9升4合、三新田村々の3714人に10日までの2度目3度目の御救い米212石1斗9升9合）
1769年 3月12日 明和6年　　2月5日 快晴
1769年 3月13日 明和6年　　2月6日 曇　昨夜子の刻頃より今暁まで雨　今日時々雨 （長勝寺に一粒金丹5粒）
1769年 3月14日 明和6年　　2月7日 曇　昨夜の雨今朝に至る （和徳組80人に11日までの御救い米3石1斗8升、藤代組小友村高無共312人に20日までの御救い米16石2斗5升5合、日記本役5人に加勢4人を加える）
1769年 3月15日 明和6年　　2月8日 曇　未ノ刻過ぎより雪少々　申に至るまて　夜に入り雪
1769年 3月16日 明和6年　　2月9日 曇　昨夜雪2寸程ふる
1769年 3月17日 明和6年　　2月10日 晴 （小泊村の類族の従弟の結婚の届けが6通（寺社奉行・郡奉行・代官・庄屋など）届く、今日御稽古の御能、柏木組2ヶ村に種籾17石7斗5升9合拝借仰せ付け・当秋に2割の利息で返す）
1769年 3月18日 明和6年　　2月11日 陰晴 （庄屋の申立により百田村の御伝馬宿21軒に21俵拝借申付け、広須組木作新田村々の547町1反5畝歩に種籾942石4斗3升5合の拝借を申付ける・利息2割、　　欄外(**)に続く
1769年 3月19日 明和6年　　2月12日 曇　昨夜風　今日巳の刻より晴 （藤代組村々の175人に御救米11石2斗7升2合、藤崎・柏木組の117人に御救米6石3升5合、当時油値段1升3文目・菜種等払底・3文目5分とする）
1769年 3月20日 明和6年　　2月13日 曇　昨夜大風にて少々宛所々破損　子の刻より雨雪丸(雪丸は霰の意か)交降　今日も風余程吹 （御発駕3月11日と仰せ付けられる）
1769年 3月21日 明和6年　　2月14日 晴 （藤代組石渡村高無共53人に2石7斗6升・藤崎組藤崎村百姓高無共511人に27石5斗8升・赤石組3ヶ村の83人に4石6斗2升の御救い米、十三町に御蔵米100俵御払い・値段19匁3分9厘）
1769年 3月22日 明和6年　　2月15日 陰晴　申の刻より雨 （昨14日夜九時過ぎ藤代組町田村で火災（4間×8間附馬屋2間に3間：百姓）・種籾・飯米・雑穀とも焼失・火元村預け、13日夜浪岡組上十川村で外馬屋焼失）
1769年 3月23日 明和6年　　2月16日 曇　寅の上刻風雨　今日申の刻過ぎより雨 （和徳組清野袋村高無共32人に2度目の1石6斗4升・柏木組2ヶ村の百姓高無211人に11石4斗2升の御救米、昨夜の大風で　　欄外(***)に続く
1769年 3月24日 明和6年　　2月17日 曇　昨夜中雨　今暁に及ぶ　今日時々小雨 （14日松前に鯡取りに出た金井ヶ沢村の漁師が船よりはつれ落ち海死、去々年出来嶋村で男を打ち殺した男4人出牢）
1769年 3月25日 明和6年　　2月18日 曇　昨夜雪少々　今日時々雪 （昨夜四時猿賀組追子野木村で火災（3間半×6間と外馬屋2間×3間：御蔵百姓）・火元村預け）
1769年 3月26日 明和6年　　2月19日 晴　昨夜雪少々降 （和徳組大円寺下に年齢等不詳の女の死骸、広須組村々渇者共104人に4石2斗9升・柏木組村々602人に32石8斗1升6合・増館組1193人に59石9斗6合の御救い米）
1769年 3月27日 明和6年　　2月20日 曇 （17日夜九時赤石組赤石村で出火（3間×5間と4間×5間：共に高無）・火元他村預け、18日昼四時頃尾崎組切明村で火災（2間半×5間：高無）・火元村預け）
1769年 3月28日 明和6年　　2月21日 晴　今日申の刻より小雨降 （16日出火の追子野木村の火元の村預け免許、三新田村々に2度目の御救い米、和徳組百田村の渇者共に2度目の御救い米2石9斗5升5合）
1769年 3月29日 明和6年　　2月22日 晴 （13日の上十川村・8日切明村の火元の村預け免許、飯詰・金木組代官から御救米以外の御手当て米150俵申し込み・120俵下し置かれる、蟹田町米払底・1俵18匁3分3厘で50俵御払い）
1769年 3月30日 明和6年　　2月23日 晴 （柏木組3か村の176人に6石2斗7升9合・同組2398人に2度目3度目の144石1斗9升4合の御救い米、17日赤石村の火元の他村預け差免）
1769年 3月31日 明和6年　　2月24日 曇　昨夜丑の下刻より小雨　今朝辰の下刻まてふる　時々小雨
1769年　4月1日 明和6年　　2月25日 陰晴
1769年　4月2日 明和6年　　2月26日 晴 （今日御慰之御能、俵元新田村々の502人に2度目の御救い米）
1769年　4月3日 明和6年　　2月27日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨　今日時々降 （一昨25日浦町組金濱村で火災2軒・火元村預け）
1769年　4月4日 明和6年　　2月28日 曇 （今日外馬場で御献上の御馬高覧）
1769年　4月5日 明和6年　　2月29日 陰晴　今朝巳の刻頃灰少々降 （和徳組百田村の80人に3度目の1石9斗8合・三新田の755人に3度目の12石2斗4合・和徳組清野袋村の33人に1石8斗4升の御救い米）
1769年　4月6日 明和6年　　2月30日 快晴
1769年　4月7日 明和6年　　3月1日 晴 （2月中所々御関所出人都合74人：碇関70人（御印紙出33・切手紙出37）・大間越3人（御印紙出）・野内1人（切手紙出）、関札打ち出発、7月25日出火の金濱村の火元の他村預け差免）
1769年　4月8日 明和6年　　3月2日 晴
1769年　4月9日 明和6年　　3月3日 曇 （去月27日出火の深浦村の火元の村預かり免許）
1769年 4月10日 明和6年　　3月4日 曇　昨夜丑の刻頃大風雨　今日巳の刻頃より雨　午の刻過ぎ止む
1769年 4月11日 明和6年　　3月5日 晴 （去る晦日夜四時頃出火の水木村の火元の村預かり免許）
1769年 4月12日 明和6年　　3月6日 晴 （今日御発駕御祝儀の御能）
1769年 4月13日 明和6年　　3月7日 曇 （本行寺が檀家で弘前御構いの足羽長十郎の弘前での付き添いを求める・老母大病の内ばかり認める）
1769年 4月14日 明和6年　　3月8日 曇
1769年 4月15日 明和6年　　3月9日 快晴 （江戸に一粒金丹300粒登）
1769年 4月16日 明和6年　　3月10日 陰晴
1769年 4月17日 明和6年　　3月11日 晴 （今日御発駕）
1769年 4月18日 明和6年　　3月12日 晴　昨夜丑の下刻地震少々
1769年 4月19日 明和6年　　3月13日 晴
1769年 4月20日 明和6年　　3月14日 晴
1769年 4月21日 明和6年　　3月15日 晴　今暁午の刻余程強地震
1769年 4月22日 明和6年　　3月16日 曇　今日時々雨
1769年 4月23日 明和6年　　3月17日 晴
1769年 4月24日 明和6年　　3月18日 晴
1769年 4月25日 明和6年　　3月19日 曇　卯の中刻より雨
1769年 4月26日 明和6年　　3月20日 曇
1769年 4月27日 明和6年　　3月21日 快晴
1769年 4月28日 明和6年　　3月22日 陰晴　昨夜中時々雨
1769年 4月29日 明和6年　　3月23日 快晴
1769年 4月30日 明和6年　　3月24日 快晴

(*) ・火元村預け、和徳組百田村・広田組村々に御救米）　　(**) 三新田の1811人に3・4度目の99石9斗2升・三新田の755人に2度目の32石1斗6升6合・赤田組187人に10石4斗の御救米、昨晩五半時頃駒越町の屋根に投げ火）　　(***)長勝寺・薬王院に倒木、当月10日十三潟通路相成り候様明ける）

1769年　5月1日 明和6年　3月25日 晴　朝の内曇　未の下刻より雨少々降ル
1769年　5月2日 明和6年　3月26日 曇
1769年　5月3日 明和6年　3月27日 陰晴
1769年　5月4日 明和6年　3月28日 快晴
1769年　5月5日 明和6年　3月29日 快晴
1769年　5月6日 明和6年　4月1日 晴　(3月中所々御関所出人都合195人:碇関177人(御印紙出72・切手紙出105)・野内10人(御印紙出)・大間越8人(御印紙出6・切手紙出2))
1769年　5月7日 明和6年　4月2日 晴　(四ノ御郭御堀添並びに南溜池で御家中の召使並びに町の者共が鮒釣、昨夜紺屋町に投火)
1769年　5月8日 明和6年　4月3日 曇　(2日油川組油川村で捕らえられた男盗人が縊死)
1769年　5月9日 明和6年　4月4日 晴　(昨夜駒越町に投火、昨夜東長町で男縊死)
1769年　5月10日 明和6年　4月5日 曇
1769年　5月11日 明和6年　4月6日 晴　(昨6日明け六つ過ぎ和徳組原ヶ平村に60くらいの男死骸、鰺ヶ沢湊で昨5日の昼頃より俄に難風・破船3艘行方不明1人)
1769年　5月12日 明和6年　4月7日 快晴　(当月朔日浪岡組上十川村2ヵ所に野火入る)
1769年　5月13日 明和6年　4月8日 曇　(5日の大荒れについて鰺ヶ沢町奉行・御蔵奉行報告:破船9艘・水死18人)
1769年　5月14日 明和6年　4月9日 曇
1769年　5月15日 明和6年　4月10日 曇　(5日の大荒れについて鰺ヶ沢湊目付よりの報告(8日の報告より多そうなのだが重複もある)、5日の大風で浦町・横内・猿賀組の山で薪取り11人がすくみ死)
1769年　5月16日 明和6年　4月11日 快晴　(5日内真部磯辺に死骸2人の丸木舟が流寄せる、5日蓬田村前浜で漁船の5人が行方不明、嵩山で男25人馬4疋・浪岡山などで5人馬1疋死亡、北浮田領冷水前浜に破船1艘3人水死)
1769年　5月17日 明和6年　4月12日 晴　(蓬田村前浜で行方不明になった船と5人中4人の死骸が今津村磯辺に上がる)
1769年　5月18日 明和6年　4月13日 曇　(屋形様去月28日御着府、5日の大風で飯詰組男6人・広田組男3人馬1疋・赤田組男9人馬3疋・嵩山で男2人・藤崎組男10人馬1疋死亡:11日の記述と同じであるかどうかは不明:福眞)
1769年　5月19日 明和6年　4月14日 曇　(5日の大風で山で死亡の記事有り)
1769年　5月20日 明和6年　4月15日 快晴　(上と同様)
1769年　5月21日 明和6年　4月16日 曇　(5日の大風で横内組久栗坂の丸木舟が流され2人が死んだ:11日の最初のものと同じ、馬盗人の男牢死、一昨14日後潟組前田村で火災2軒・火元他村預け)
1769年　5月22日 明和6年　4月17日 曇　(赤石組代官から報告:5日の大風で風合瀬村沖合い・桜庭村前浜で3艘破船、一粒金丹10剤分の原料あり)
1769年　5月23日 明和6年　4月18日 曇　(油川・小橋村の計2人が5日の大風で死亡か)
1769年　5月24日 明和6年　4月19日 晴
1769年　5月25日 明和6年　4月20日 晴　(14日の前田村の火元の他村預け差免)
1769年　5月26日 明和6年　4月21日 快晴　(5日の大風で三新田の男6人馬1疋死亡:多分既報・同じ報告が他方から届くと……)
1769年　5月27日 明和6年　4月22日 晴　(8日に江戸下がり中の矢吹の駅で御徒目付が切腹自害)
1769年　5月28日 明和6年　4月23日 快晴　(5日の大風被害まとめ:破船23艘(御国7・他国16)・水死31人(御国15・他国16)、山中にて雪吹き強く寒死男89人・馬13疋、倒木37本)
1769年　5月29日 明和6年　4月24日 曇
1769年　5月30日 明和6年　4月25日 晴　(当年の御登せ米6万石・この内5日の大風で9500石余が海に入る)
1769年　5月31日 明和6年　4月26日 曇
1769年　6月1日 明和6年　4月27日 晴　((日付不明)赤石組江沢村で火災4軒・3才の子焼死・火元他村預け)
1769年　6月2日 明和6年　4月28日 晴　(22日の赤石組柳田村領江沢)の火元の他村預け差免
1769年　6月3日 明和6年　4月29日 晴
1769年　6月4日 明和6年　5月1日 曇　(4月中所々御関所出人都合203人:碇ヶ関197人馬14疋(御印紙出124・切手紙出73)・野内3人(御印紙出2・切手紙出1)・大間越3人(切手紙出))
1769年　6月5日 明和6年　5月2日 晴　(去る10月牢舎の男牢死、赤石組村々に狼数十疋荒れる・玉60と紙玉65放分の筒薬玉を代官に渡す、尾崎組尾崎村で火災2軒・火元他村預け)
1769年　6月6日 明和6年　5月3日 快晴　(昨2日鶴田村で39歳女房縊死、一昨3日?昼七半時頃石川村で(給地)百姓の外馬屋焼失・相慎むよう申し付ける、土渕堰東西の水争いあり)
1769年　6月7日 明和6年　5月4日 晴
1769年　6月8日 明和6年　5月5日 快晴
1769年　6月9日 明和6年　5月6日 曇　朝の内曇　巳の刻より晴るなり
1769年　6月10日 明和6年　5月7日 晴　朝の内曇　巳の刻過ぎより晴　(当月朔日の尾崎村の火元の他村預け差許、当月4日浦町組高田村で火災2軒・火元他村預け)
1769年　6月11日 明和6年　5月8日 曇　昨夜雨折々　巳の下刻より晴
1769年　6月12日 明和6年　5月9日 曇　(赤田組代官の1人が給分召し上げ永の暇・代官手代居村より3里四方追放など)
1769年　6月13日 明和6年　5月10日 快晴　朝の内曇　巳の刻より晴ると那る　(先だって出火の石川村に火元の慎み差免)
1769年　6月14日 明和6年　5月11日 曇　巳の中刻より雨少々
1769年　6月15日 明和6年　5月12日 陰晴　朝の内曇
1769年　6月16日 明和6年　5月13日 曇　朝の内曇　巳の刻過ぎ雨少々　即刻晴ると成る
1769年　6月17日 明和6年　5月14日 晴
1769年　6月18日 明和6年　5月15日 陰晴　朝の内曇
1769年　6月19日 明和6年　5月16日 陰晴
1769年　6月20日 明和6年　5月17日 晴　朝の内曇
1769年　6月21日 明和6年　5月18日 晴　朝の内曇
1769年　6月22日 明和6年　5月19日 晴　朝の内曇　(今別町年寄りから飯米に御蔵米50俵願い・30俵を1俵21文目7分6厘宛で申付ける、岩木嵩煙立つ・親知らすというところで年々春に煙が出るらしい)
1769年　6月23日 明和6年　5月20日 曇
1769年　6月24日 明和6年　5月21日 陰晴　朝の内曇　(五山に降雨の御祈祷を仰せ付ける)
1769年　6月25日 明和6年　5月22日 曇　四時より陰晴と成
1769年　6月26日 明和6年　5月23日 晴　朝の内曇
1769年　6月27日 明和6年　5月24日 曇　巳ノ中刻過まて雷度々発ス　未ノ中刻少雨
1769年　6月28日 明和6年　5月25日 曇　午之刻より雨　(22日広須組三新田土滝村で火災1軒・火元高無村預け、23日駒越組枯れ木平村で火災1軒・蕎麦種1斗焼失・火元高無村預け、昨晩土手町に3歳位の女子捨て子)
1769年　6月29日 明和6年　5月26日 曇　(大鰐村嘉次兵衛・小兵衛より初真瓜・初小角豆差上げる、23日広須組牛潟村で火災2軒・火元百姓他村預け)
1769年　6月30日 明和6年　5月27日 晴　(外瀬村の掃除小人の妻自害、22日土滝村・23日枯木平村の火元の他村預け差許)

1769年　7月1日 明和6年　5月28日 快晴　朝の内曇
1769年　7月2日 明和6年　5月29日 曇　申の刻小雨　則刻止る （23日牛潟村の火元の他村預け差許）
1769年　7月3日 明和6年　5月30日 曇　昨夜中雨　今暁まて　巳の中刻より雨降
1769年　7月4日 明和6年　6月1日 曇　朝の内霧強 （5月中所々御関所出人都合80人：碇関76人（御印紙出54・切手紙出22）・野内4人（御印紙出1・切手紙出3））
1769年　7月5日 明和6年　6月2日 曇
1769年　7月6日 明和6年　6月3日 快晴
1769年　7月7日 明和6年　6月4日 曇　今朝巳の下刻より晴
1769年　7月8日 明和6年　6月5日 快晴　朝の内曇 （川口次左衛門に一粒金丹3粒）
1769年　7月9日 明和6年　6月6日 晴　朝の内曇　　下から続く　　・米14185俵・山働きの男雪吹き死亡89人・馬13疋、昨夜新寺町の屋敷裏で高無の子が腹切・生きている）
1769年　7月10日 明和6年　6月7日 晴 （郡奉行申し立て：在々にて去月より時疫・最勝院へ御祈祷の上御守札を差上げるよう仰せ付ける、当年4月5日の大風・雪吹き被害の公儀への届け：破船23艘・水死男31人　　上に続く
1769年　7月11日 明和6年　6月8日 快晴　朝の内曇 （大円寺に降雨の御祈祷を仰せ付ける）　　下から続く　　で瀬戸物を穿出し売買している）
1769年　7月12日 明和6年　6月9日 陰晴　朝の内霞　辰の刻より陰晴　則刻地震余程強　同刻過ぎ少々宛二度地震 （大鰐組村々で狼荒れ牛馬野放し成兼ねる・代官に鉄砲等を貸す、館岡村（亀ヶ岡式土器で著名）　　上に続く
1769年　7月13日 明和6年　6月10日 快晴　朝の内曇 （長勝寺で降雨の御祈祷を仰せ付ける、39貫843文目差上げた東長町の商家?が勝手が続かなくなり御救い米を願う・御救い御手当てとして御米2俵を下し置かれる：冷たいね）
1769年　7月14日 明和6年　6月11日 陰晴 （9日の地震で浦町・横内組村々に地割れ・水噴き上げの所あり・田方水不足に）
1769年　7月15日 明和6年　6月12日 曇 （江戸登りの老人宮崎喜兵衛に一粒金丹並びに熊胆・量不明、石渡川4歩出水馬船往来成兼、諸組代官の組合せ変更）
1769年　7月16日 明和6年　6月13日 曇　昨夜より今朝卯の刻に至る雨（自昨夜到今朝卯刻雨） （4月8日道中矢吹で切腹した御徒目付の子の慎み御免・御給分半減御目見え以下御留守居支配に）
1769年　7月17日 明和6年　6月14日 晴
1769年　7月18日 明和6年　6月15日 快晴　昨夜戌の上刻地震少
1769年　7月19日 明和6年　6月16日 晴　今暁寅の刻土用　卯の刻過ぎ雷　申の刻雨少し則止む　夜に入り又少し雨 （大組足軽頭桜庭に一粒金丹5粒・表医者井上に3粒）
1769年　7月20日 明和6年　6月17日 曇 （在々時疫時行に付き最勝院で御祈祷を仰せ付けられる）
1769年　7月21日 明和6年　6月18日 快晴 （一昨16日青森下米町で出火、藤代組三世寺村で病気の男が姪を打殺す、飯詰組高野村で40歳位男縊死）
1769年　7月22日 明和6年　6月19日 晴 （青森火災は家数本家83軒・潰れ3軒・借家67軒・潰れ8軒・都合161軒人馬怪我なし・火元慎み）
1769年　7月23日 明和6年　6月20日 晴
1769年　7月24日 明和6年　6月21日 快晴　昨夜酉の中刻雨 （去る19日藤崎組藤崎村で出火・火元他村預け）
1769年　7月25日 明和6年　6月22日 曇
1769年　7月26日 明和6年　6月23日 晴　今暁卯の中刻雨降　則刻止む　雷弐度発す
1769年　7月27日 明和6年　6月24日 快晴　今朝霧
1769年　7月28日 明和6年　6月25日 曇　昨夜雨少 （大目付土岐渡人に一粒金丹5粒、19日藤崎村の火元の他村預け免許）
1769年　7月29日 明和6年　6月26日 晴　卯の中刻虹出
1769年　7月30日 明和6年　6月27日 曇　巳の刻過ぎ晴
1769年　7月31日 明和6年　6月28日 曇
1769年　8月1日 明和6年　6月29日 晴　朝の内曇 （粒油高値に付き水油1升3文目5分を5文目5分にと惣油屋が申し立てる・5分増の1升4文目とする）　　下から続く　　21日植付今日出穂・去年4月19日植付6月24日出穂）
1769年　8月2日 明和6年　7月1日 曇　今卯の下刻より雨 （6月中所々御関所出人都合100人：碇ヶ関95人（御印紙出63・切手紙出32）・野内5人（御印紙出1・切手紙出4）、大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂・4月　　上に続く
1769年　8月3日 明和6年　7月2日 曇　暑甚強し
1769年　8月4日 明和6年　7月3日 曇　午の上刻より雨 （深浦湊入前崎で秋田八森の船が破船、御用人吉村場左衛門に一粒金丹10粒）
1769年　8月5日 明和6年　7月4日 晴　暑甚強し
1769年　8月6日 明和6年　7月5日 晴　暑甚強し
1769年　8月7日 明和6年　7月6日 晴　暑甚強し
1769年　8月8日 明和6年　7月7日 快晴　今朝辰の刻過ぎ地震少々　暑甚強し
1769年　8月9日 明和6年　7月8日 快晴　暑甚強し
1769年　8月10日 明和6年　7月9日 快晴　午の刻より雷度々発ス　但雨降らず南の方くもる （袋宮寺に一粒金丹3粒）
1769年　8月11日 明和6年　7月10日 快晴　午の刻より雷度々発す　雨降らず　南の方曇
1769年　8月12日 明和6年　7月11日 快晴　残暑甚し （去月16日夜の青森米町の火元の寺落・相慎免許）
1769年　8月13日 明和6年　7月12日 快晴　残暑甚強し　昨晩未の刻雨少々 （当年水不足で大鰐組長峰・八幡館・乳井の3村で水不足・田に蕎麦・稗・大豆蒔き付ける・検地の節の検分を申し出る、類似例他にもある）
1769年　8月14日 明和6年　7月13日 陰晴　申の上刻大雨　同下刻はれる（者連留）
1769年　8月15日 明和6年　7月14日 快晴
1769年　8月16日 明和6年　7月15日 快晴　申の刻雨　雷発す　同下刻より雨止む
1769年　8月17日 明和6年　7月16日 曇　今朝卯の中刻雷発す　巳の刻まで発す
1769年　8月18日 明和6年　7月17日 快晴
1769年　8月19日 明和6年　7月18日 快晴
1769年　8月20日 明和6年　7月19日 快晴
1769年　8月21日 明和6年　7月20日 晴 （御初米出来・去年は7月20日、植付日より当年は1日早く節に引き合い10日早い、堀弥三郎（前家老傳左衛門の子）に一粒金丹5粒）
1769年　8月22日 明和6年　7月21日 （日付は20日とあるが干支から見ても21日の誤り）曇 （昨20日大鰐村加賀助・兵左衛門より御初米差上げる、新城村で檜の皮剥の40男を捕らえる・入牢）
1769年　8月23日 明和6年　7月22日 曇　今日未の刻過ぎより雨時々
1769年　8月24日 明和6年　7月23日 曇　昨夜戌の刻より大雨　今朝に至る
1769年　8月25日 明和6年　7月24日 快晴
1769年　8月26日 明和6年　7月25日 晴 （去る23日晩碇関御仮屋の塀16間が倒れる）
1769年　8月27日 明和6年　7月26日 晴 （秋元金九郎に一粒金丹3粒）
1769年　8月28日 明和6年　7月27日 晴　巳の刻過ぎより雨少々 （大鰐組村々の田方に虫付く・虫除けのお札を求める、堀越組一ノ渡・大和沢村の田方に去月中旬刻よりすいはく虫が付き今もって出穂なし）
1769年　8月29日 明和6年　7月28日 快晴 （小林忠之丞に一粒金丹3粒）
1769年　8月30日 明和6年　7月29日 快晴 （当月23日深浦で破船1艘）
1769年　8月31日 明和6年　8月1日 曇　今暁卯の上刻より大雨　今日時々降 （7月中所々御関所出人都合104人：碇関97人（御印紙出66・切手紙出31）・野内4人（御印紙出）・大間越3人（御印紙出））

1769年　9月1日 明和6年　8月2日 曇　未の刻より雨　夜中に及ぶ （百沢寺より例の通り苔の実差上げる、佐々木善之丞に一粒金丹3粒）
1769年　9月2日 明和6年　8月3日 曇　終日風 （去る巳の年（一昨年）の地震で油川・後潟組の村々の田が痛む・この秋の検地で永荒れに仰せ付けられるよう申し出る）
1769年　9月3日 明和6年　8月4日 曇　今朝辰の刻小雨 （虫除け御守札薬王院で出来）
1769年　9月4日 明和6年　8月5日 晴 （竹森江右衛門に一粒金丹3粒）
1769年　9月5日 明和6年　8月6日 快晴
1769年　9月6日 明和6年　8月7日 快晴 （朔日深浦港に入船中の羽州加茂浦の船員が病死・荘厳寺に土葬）
1769年　9月7日 明和6年　8月8日 曇　下から続く　公儀報告：家数165軒・土蔵4・人馬怪我なし）
1769年　9月8日 明和6年　8月9日 曇　昨夜子の刻雷　寅の刻より雨　則刻止む　卯の刻より大雨　卯の下刻止む （6月16日に兄の娘を打殺した乱心男を兄の助命願いにより解死人としない、同日青森大火の　上に続く
1769年　9月9日 明和6年　8月10日 曇　昨夜雨時々
1769年　9月10日 明和6年　8月11日 曇　朝の内曇
1769年　9月11日 明和6年　8月12日 晴　朝の内曇 （去月18日後方組濱名村の男が古い丸木舟を拾う・半年囲いおき主がなければ申し出るよう申付ける）
1769年　9月12日 明和6年　8月13日 快晴
1769年　9月13日 明和6年　8月14日 曇　申の刻より雨
1769年　9月14日 明和6年　8月15日 快晴
1769年　9月15日 明和6年　8月16日 曇　申の刻より雨
1769年　9月16日 明和6年　8月17日 曇　昨日の雨今日に及ぶ
1769年　9月17日 明和6年　8月18日 曇　未の刻より雨少降 （青森御蔵奉行に福眞弥兵衛）
1769年　9月18日 明和6年　8月19日 曇 （御用人吉村場左衛門病死）
1769年　9月19日 明和6年　8月20日 晴
1769年　9月20日 明和6年　8月21日 曇　今朝卯の刻より雨少降
1769年　9月21日 明和6年　8月22日 曇 （駒越組村々で90町歩の田に虫付く）
1769年　9月22日 明和6年　8月23日 曇
1769年　9月23日 明和6年　8月24日 快晴 （乳井村の高無に詮議の上御手当て米2俵下し置かれる）
1769年　9月24日 明和6年　8月25日 晴 （江戸の掃除小人腹切事件）
1769年　9月25日 明和6年　8月26日 曇
1769年　9月26日 明和6年　8月27日 曇
1769年　9月27日 明和6年　8月28日 晴 （駒越組村々の田方118町歩余に虫付く）
1769年　9月28日 明和6年　8月29日 曇　昨夜中雨 （長勝寺に一粒金丹5粒）　下から続く　（1寸5歩5寸10文目：6歳）それぞれ熊取る）
1769年　9月29日 明和6年　8月30日 晴　朝の内曇 （去る26日夜安方前浜に破船1艘）　下から続く　駒越組相馬村の三九郎（胆長3寸廻り3寸5歩生目形35文目：4歳）・後潟組大川平村の九郎兵衛　上に続く
1769年　9月30日 明和6年　9月1日 曇　巳の下刻より雷発す　則刻より雨 （8月中所々御関所出人都合92人：碇ヶ関86人（御印紙出56・切手紙出30）・野内5人（御印紙出2・切手紙出3）・大間越1人（切手紙出）、　上に続く
1769年　10月1日 明和6年　9月2日 晴
1769年　10月2日 明和6年　9月3日 曇
1769年　10月3日 明和6年　9月4日 快晴
1769年　10月4日 明和6年　9月5日 快晴
1769年　10月5日 明和6年　9月6日 曇　今朝卯の下刻より小雨ふる
1769年　10月6日 明和6年　9月7日 快晴
1769年　10月7日 明和6年　9月8日 晴 （長勝寺に一粒金丹3粒、四ヶ所の御牧に狼荒れ打ち払いに鉄砲の玉など渡す）
1769年　10月8日 明和6年　9月9日 曇　今朝寅の刻雨　卯の刻止む　雷発す
1769年　10月9日 明和6年　9月10日 曇　昨夜酉の刻雷雨
1769年 10月10日 明和6年　9月11日 晴　昨夜中少し雨
1769年 10月11日 明和6年　9月12日 晴　昨夜少し雨 （一昨10日夜駒越組鳥居野村で火災（4間×7間と2間×2間の小屋：（給地）百姓）・なぜか村預け等の罰則なし：給地百姓の場合は地頭が罰するのかな）
1769年 10月12日 明和6年　9月13日 曇　今暁寅の刻より雷時々　終日に及ぶ　雨巳の刻より降る　夜中に及ぶ （11日昼頃大光寺組中佐渡村で火災（2間×4間：高無）・火元村預け）
1769年 10月13日 明和6年　9月14日 曇　昨夜中より時々雨　午の下刻よりハ連る（晴れる）　岩木山江雪見ゆる
1769年 10月14日 明和6年　9月15日 晴 （11日出火の中佐渡村の火元の村預け免許）
1769年 10月15日 明和6年　9月16日 曇
1769年 10月16日 明和6年　9月17日 晴 （10日出火の鳥居野村の火元の地頭から慎みを申付けたとの申し出・了）
1769年 10月17日 明和6年　9月18日 曇　辰の刻より時々雨　終日に及ぶ　午の中刻より風少々　雨大に降
1769年 10月18日 明和6年　9月19日 曇　昨夜酉の上刻より雨大降
1769年 10月19日 明和6年　9月20日 曇　昨夜より雨　今日も時々雨　今朝辰の上刻虹見ゆる
1769年 10月20日 明和6年　9月21日 曇 （8月23日浜名村宇鉄の狄が古丸木舟（長3尋4尺口2尺2寸）を拾う）
1769年 10月21日 明和6年　9月22日 曇　昨夜中雨
1769年 10月22日 明和6年　9月23日 快晴 （10日出火の鳥居野村の火元の慎み差許）
1769年 10月23日 明和6年　9月24日 快晴
1769年 10月24日 明和6年　9月25日 曇
1769年 10月25日 明和6年　9月26日 快晴　午の刻より曇　申の下刻雷発す　則刻より小雨降 （当年三馬屋村庄屋方に三馬屋梨子少々実成り御座候・10斗（ばかり）貯え置いたので差し上げたいとの申し出で）
1769年 10月26日 明和6年　9月27日 曇　昨夜中風立つ
1769年 10月27日 明和6年　9月28日 曇　今朝寅の下刻より小雨　卯の上刻より段々強く終日ふる
1769年 10月28日 明和6年　9月29日 快晴
1769年 10月29日 明和6年　10月1日 快晴 （9月中所々御関所出人都合129人：碇関76人（御印紙出）・大間越3人（御印紙出）・野内48人（切手紙出））
1769年 10月30日 明和6年　10月2日 快晴
1769年 10月31日 明和6年　10月3日 陰晴

1769年　11月1日 明和6年　　10月4日 陰晴　昨夜中雨少々降　今朝辰の下刻マテ曇
1769年　11月2日 明和6年　　10月5日 曇　午の下刻より雨降
1769年　11月3日 明和6年　　10月6日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　今日雪折々降　(大谷津七郎を御用人に)
1769年　11月4日 明和6年　　10月7日 曇　昨夜中風雨強し
1769年　11月5日 明和6年　　10月8日 陰晴　朝の内曇　巳の刻過ぎより晴
1769年　11月6日 明和6年　　10月9日 曇　今辰の刻より雨降
1769年　11月7日 明和6年　　10月10日 晴　(去る2日広須組上古川村で火災(百姓)・村預け・免許)
1769年　11月8日 明和6年　　10月11日 快晴
1769年　11月9日 明和6年　　10月12日 快晴　(昨10日碇関高無女房縊死)
1769年 11月10日 明和6年　　10月13日 陰晴　今日申の下刻より雨　夜に及ぶ　強し
1769年 11月11日 明和6年　　10月14日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　辰の下刻虹見ゆる　亥の刻過ぎ地震
1769年 11月12日 明和6年　　10月15日 快晴　昼頃より風立つ　曇
1769年 11月13日 明和6年　　10月16日 曇　昨未の刻より雷雨　今日午の刻晴　(三浦佐七(26日の記述で御近習小姓)に一粒金丹3粒)
1769年 11月14日 明和6年　　10月17日 曇　昨夜中雪1寸程降　今朝時々雪降
1769年 11月15日 明和6年　　10月18日 曇　(此の度御家中に仰せ付けられた御手当て米渡し方:20俵以上は2度渡しで当月26日よりと11月10日・15俵以下は皆渡し(御目見以上は当月26日より御目見以下は当月23日渡し))
1769年 11月16日 明和6年　　10月19日 晴　昼頃より曇
1769年 11月17日 明和6年　　10月20日 快晴　(2月(おそらく当月の誤り)2日に焼失の広須組上古川村の焼失稲4980束の納税を免除する)
1769年 11月18日 明和6年　　10月21日 曇
1769年 11月19日 明和6年　　10月22日 曇　昨夜亥の刻より雨　今朝辰の刻より雪降
1769年 11月20日 明和6年　　10月23日 快晴　(21日晩六つ半時頃碇関で秋田の男病死)
1769年 11月21日 明和6年　　10月24日 快晴
1769年 11月22日 明和6年　　10月25日 曇　昨夜より時々雪降
1769年 11月23日 明和6年　　10月26日 曇　昨夜より今日時々雨降　(山方吟味役唐牛某に一粒金丹3粒、古懸不動尊今朝辰の刻御出汗)
1769年 11月24日 明和6年　　10月27日 曇　昨日より今日まで時々雨降　今朝辰之刻雨止む　西ノ方虹見ル
1769年 11月25日 明和6年　　10月28日 曇　昨夜中雨時々降　今朝辰ノ刻虹見ル　(古懸不動尊御出汗に付前々の通り五山に御祈祷を仰せ付ける)
1769年 11月26日 明和6年　　10月29日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　今午の刻より晴ル　(年々補助米を差し出している広田組食川村の3人に300疋宛御褒美)
1769年 11月27日 明和6年　　10月30日 陰晴　(今朝男牢死)
1769年 11月28日 明和6年　　11月1日 曇　午の上刻少し雨　(10月中所々御関所出人都合73人:碇関70人(御印紙出56・切手紙出14)・野内3人(切手紙出)、福眞伴左衛門御中小姓に)
1769年 11月29日 明和6年　　11月2日 曇　昨夜中風雨　今朝に至る　巳の刻過ぎより風立つ　(御献上の鮭を御家老・御用人・大目付見分)　　下から続く　　・17匁)・駒越組大秋村の新兵衛が(生目15匁)それぞれ熊取る)
1769年 11月30日 明和6年　　11月3日 曇　朝の内時々小雨　(別段の御沙汰を以って大鰐・尾崎組代官に一粒金丹3粒、前田某に3粒、浪岡組徳才子村の定右衛門・弥七郎が5疋(胆生目25文目・130目・17文目・11匁　　上に続く
1769年　12月1日 明和6年　　11月4日 曇　昨夜中雨時々　今暁雪5歩位積ル　今日時々雪ふる　(去る朔日夜広須組永田村で火災2軒・火元他村預け)
1769年　12月2日 明和6年　　11月5日 曇　昨夜亥の刻より寅の刻まで風雨時々　今日雪時々
1769年　12月3日 明和6年　　11月6日 曇　昨夜よほど風吹く　雪時々
1769年　12月4日 明和6年　　11月7日 晴　朝のうち少々雨　(去る2日大風雨で夜明け前浅虫村裸島前に2人乗りの舟が流れ寄せる・1人溺死、朔日出火の永田村の火元の他村預け免許)
1769年　12月5日 明和6年　　11月8日 曇　昨宵酉の刻より風立つ　戌の刻過ぎ雷発す　夜に入り雪二寸ほど降る　今日時々風雪
1769年　12月6日 明和6年　　11月9日 快晴　昨夜中風時々　(一昨7日夜藤崎組妙堂崎村に火災2軒駒1疋・火元他村預け)
1769年　12月7日 明和6年　　11月10日 曇　昨夜中雨
1769年　12月8日 明和6年　　11月11日 曇　巳の中刻より雨　終日に及ぶ　(昨10日増館組郷山前村で火災2軒(2間×3間:高無・2間×3間半:高無)・火元他村預け)
1769年　12月9日 明和6年　　11月12日 曇　今朝辰の刻小雪
1769年 12月10日 明和6年　　11月13日 曇　昨夜中雪余程　今朝ニ至　(7日夜妙堂崎村の火元の他村預け免許)
1769年 12月11日 明和6年　　11月14日 曇
1769年 12月12日 明和6年　　11月15日 曇
1769年 12月13日 明和6年　　11月16日 陰晴
1769年 12月14日 明和6年　　11月17日 曇　昨夜より今日まで時々雪
1769年 12月15日 明和6年　　11月18日 曇
1769年 12月16日 明和6年　　11月19日 晴　(10日出火の郷山前村に火元の村預け免許)
1769年 12月17日 明和6年　　11月20日 曇
1769年 12月18日 明和6年　　11月21日 曇
1769年 12月19日 明和6年　　11月22日 曇
1769年 12月20日 明和6年　　11月23日 曇
1769年 12月21日 明和6年　　11月24日 曇　時々雪　今日巳の刻より冬至
1769年 12月22日 明和6年　　11月25日 曇　昨夜申の刻雨雪　今日巳の刻より大雪風
1769年 12月23日 明和6年　　11月26日 曇　昨夜雪七寸程降る　(15日出火の灰沼村の百姓の慎み差免)
1769年 12月24日 明和6年　　11月27日 曇　昨夜中雪四寸程
1769年 12月25日 明和6年　　11月28日 曇
1769年 12月26日 明和6年　　11月29日 曇　昨夜雨　今朝に至　(27日朝木作新田片岡村で火災・火元村預け)
1769年 12月27日 明和6年　　11月30日 快晴
1769年 12月28日 明和6年　　12月1日 曇　(11月中所々御関所出人都合74人:碇関69人(御印紙出53・切手紙出16)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4))
1769年 12月29日 明和6年　　12月2日 曇　昨夜中雪弐三寸程降
1769年 12月30日 明和6年　　12月3日 曇
1769年 12月31日 明和6年　　12月4日 曇　昨夜雪少々

1770年　1月1日 明和6年　12月5日 晴
1770年　1月2日 明和6年　12月6日 快晴　昨夜中より小雨　今日巳の刻より晴 （昨夜五時前茂森派に出火）
1770年　1月3日 明和6年　12月7日 曇
1770年　1月4日 明和6年　12月8日 曇 （御献上の雉子を御家老・御用人が見分）
1770年　1月5日 明和6年　12月9日 曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　小寒未の八刻に入る （鰺ヶ沢の男の母が7日三ツ屋浜に水死で流れ寄せる）
1770年　1月6日 明和6年　12月10日 曇　昨夜雪三寸程　今日時々風雪
1770年　1月7日 明和6年　12月11日 曇　昨夜中雪降 （去る5日出火の茂森町の火元の戸〆免許）
1770年　1月8日 明和6年　12月12日 曇　昨夜中雪四五寸程降
1770年　1月9日 明和6年　12月13日 快晴
1770年　1月10日 明和6年　12月14日 曇　今日終日雪 （12日夜八幡御蔵立会い土門某自害、9日青森町で松前箱館の男病死）
1770年　1月11日 明和6年　12月15日 快晴　昨夜雪六七寸降 （御献上の鱈を御家老が見分）
1770年　1月12日 明和6年　12月16日 晴
1770年　1月13日 明和6年　12月17日 曇　昨夜より今日まで雪少々
1770年　1月14日 明和6年　12月18日 曇　昨夜より今日雪降　一尺程積
1770年　1月15日 明和6年　12月19日 曇　昨夜より今朝まで雪時々降
1770年　1月16日 明和6年　12月20日 曇　昨夜中雪降 （田舎館組の浪岡街道に鱈1本等を持つ吹倒死男、15日横内組小館村で火災（40間×4間：百姓）・赤米5俵・種籾3石・飯米10石・大豆2石・粟2石焼失・火元他村預け・免許）
1770年　1月17日 明和6年　12月21日 曇　今日時々雪
1770年　1月18日 明和6年　12月22日 曇　昨夜中雪　今日辰の刻より止む
1770年　1月19日 明和6年　12月23日 晦　昨夜より今日終日雪
1770年　1月20日 明和6年　12月24日 曇　昨夜時々雪
1770年　1月21日 明和6年　12月25日 曇　昨夜時々雪
1770年　1月22日 明和6年　12月26日 晦
1770年　1月23日 明和6年　12月27日 晦　昨夜より雪今日に及ぶ
1770年　1月24日 明和6年　12月28日 晦
1770年　1月25日 明和6年　12月29日 陰晴
1770年　1月26日 明和6年　12月30日 陰晴
1770年　1月27日 明和7年　正月1日　晴
1770年　1月28日 明和7年　正月2日　曇
1770年　1月29日 明和7年　正月3日　曇
1770年　1月30日 明和7年　正月4日　曇
1770年　1月31日 明和7年　正月5日　曇
1770年　2月1日 明和7年　正月6日　晴
1770年　2月2日 明和7年　正月7日　曇
1770年　2月3日 明和7年　正月8日　曇
1770年　2月4日 明和7年　正月9日　曇
1770年　2月5日 明和7年　正月10日　曇
1770年　2月6日 明和7年　正月11日　曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　三寸ほど降 （4日碇関の同心が鉄砲で熊1疋取る）
1770年　2月7日 明和7年　正月12日　曇　昨夜の雪今朝に到る　昨夜丑の刻過ぎ雷弐度発ス　今朝卯の中刻一度発ス　雪晩まで1尺四五寸降
1770年　2月8日 明和7年　正月13日　曇
1770年　2月9日 明和7年　正月14日　晴
1770年　2月10日 明和7年　正月15日　快晴
1770年　2月11日 明和7年　正月16日　晴
1770年　2月12日 明和7年　正月17日　曇 （風でも流行っているのかな・御家中の病死者が多い）
1770年　2月13日 明和7年　正月18日　晴　昨夜の雪今朝に及ぶ　二寸ほど
1770年　2月14日 明和7年　正月19日　曇
1770年　2月15日 明和7年　正月20日　快晴　昨夜の雪二寸ほど積
1770年　2月16日 明和7年　正月21日　陰晴
1770年　2月17日 明和7年　正月22日　曇　昨夜酉の中下雨　戌の下刻やム
1770年　2月18日 明和7年　正月23日　曇　今朝雪少々
1770年　2月19日 明和7年　正月24日　曇　昨夜の雪七寸程積　今朝に及ぶ
1770年　2月20日 明和7年　正月25日　快晴
1770年　2月21日 明和7年　正月26日　なし（日記が保存されているが天気の記述がない）
1770年　2月22日 明和7年　正月27日　快晴
1770年　2月23日 明和7年　正月28日　曇　昨夜中雪二寸ほど　今朝雨時々
1770年　2月24日 明和7年　正月29日　曇　昨夜雪少々
1770年　2月25日 明和7年　正月30日　曇　晴
1770年　2月26日 明和7年　2月1日 なし（日記が保存されているが天気の記述がない） （正月中所々御関所出人都合170人：碇関170人（御印紙出158・切手紙出12）、小泊村の類族長松の叔母病死）
1770年　2月27日 明和7年　2月2日 なし （後潟組代官が平館・根岸・石崎山村の者共が渇命の体・拝借米を願う、蟹田御蔵米から御貸渡し、冬より鱈漁なしとして蟹田町名主が51軒に御手当て米願い・60俵下し置かれる）
1770年　2月28日 明和7年　2月3日 なし

1770年　3月1日 明和7年　2月4日 昨宵酉の刻雨少々　朝の内霞
1770年　3月2日 明和7年　2月5日 晴
1770年　3月3日 明和7年　2月6日 快晴　(3日金木組金木村で外馬屋焼失(2間×2間)・火元村預け)
1770年　3月4日 明和7年　2月7日 曇
1770年　3月5日 明和7年　2月8日 晴
1770年　3月6日 明和7年　2月9日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　今日雪降
1770年　3月7日 明和7年　2月10日 快晴　(広須組三新田代官が御救い拝借米を願う・当年米不足に付き……郡奉行才覚米を以って……)
1770年　3月8日 明和7年　2月11日 曇　(浪岡村の男が黒石町で喧嘩・死亡、大円寺境内に25・6男倒死、堀越組門外村より袖乞いの者現れる(勤労意欲がなくなったことかな))
1770年　3月9日 明和7年　2月12日　(日記が保存されていない)
1770年　3月10日 明和7年　2月13日 曇　昨夜雪四寸ほど降
1770年　3月11日 明和7年　2月14日 快晴
1770年　3月12日 明和7年　2月15日 快晴
1770年　3月13日 明和7年　2月16日 陰晴　(去る12日の大風で野内御関所の扉・金具破損、去年の青森御蔵立会が勤め中不締りとし給分半減御手廻組から御目見以下に・同御蔵奉行が御馬廻から御目見以下と永のお暇)
1770年　3月14日 明和7年　2月17日 曇　昨夜中申の刻過ぎ雨　今日小雨時々　(酒1升値段8分から9分に上げる、粒油1升値段4文目5分から6文目に上げる、内真部湊から1人乗った船が行方不明)
1770年　3月15日 明和7年　2月18日 陰晴　(先祖が御用立金を差上げた新町の油屋某が渇命・相応のお手当を願う・御銭100目下し置かれる、玄圭院様25回御忌大赦:出牢9人・足羽長十郎の弘前通用御免・居村徘徊御免10人)
1770年　3月16日 明和7年　2月19日 曇　今日辰ノ上刻ヨリ時々雨
1770年　3月17日 明和7年　2月20日 曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　(今18日出水に付き駒越渡仮橋を引き取る)
1770年　3月18日 明和7年　2月21日 晴
1770年　3月19日 明和7年　2月22日 曇　昨夜寅の刻過ぎ地震
1770年　3月20日 明和7年　2月23日 曇　昨夜中雨時々降　(昨余九つ半頃土手町で出火)
1770年　3月21日 明和7年　2月24日 曇　(22日出火の土手町火災は15坪の馬屋・火元戸〆)
1770年　3月22日 明和7年　2月25日 曇　(当月20日夜九つ時頃より翌7日朝明六つ時頃までに十三潟が残らず氷明ける・昨年は2月9日暮れ六時に明ける・節に引き合っても1日遅い)
1770年　3月23日 明和7年　2月26日 曇　申の中刻より小雨降ル
1770年　3月24日 明和7年　2月27日 昨夜寅の中刻地震
1770年　3月25日 明和7年　2月28日 晴
1770年　3月26日 明和7年　2月29日 晴　(昨晩五つ時最勝院門前の小屋焼ける・火元戸〆)
1770年　3月27日 明和7年　3月1日 晴　昨酉の下刻地震　(2月中所々御関所出人都合59人:碇関47人(御印紙出30・切手紙出17)・野内12人(御印紙出5・切手紙出7))
1770年　3月28日 明和7年　3月2日 晴
1770年　3月29日 明和7年　3月3日 晴　(去月29日横内組駒籠村で火災・火元村預け)
1770年　3月30日 明和7年　3月4日 陰晴　昨夜中雨　今暁まで　(飯詰組若山村の猟師半助2疋(胆生目41匁・78匁)・横内組瀧沢村孫兵衛(110匁)それぞれ熊取る)
1770年　3月31日 明和7年　3月5日 曇　昨巳の刻小雨　今朝辰の下刻より雨終日
1770年　4月1日 明和7年　3月6日 曇
1770年　4月2日 明和7年　3月7日 曇　今朝卯の上刻より雪七八寸降　昨夜中余程積
1770年　4月3日 明和7年　3月8日 晴　昨夜の雪今朝に至　三寸ほど降
1770年　4月4日 明和7年　3月9日 快晴　(公儀の御尋者に紛らわしき出家を赤石組風合瀬村で搦捕る・弘前で詮議)
1770年　4月5日 明和7年　3月10日 曇　昨夜子の下刻より雨　今日時々終日風吹く
1770年　4月6日 明和7年　3月11日 晴
1770年　4月7日 明和7年　3月12日 曇　今朝辰の刻より小雪終日
1770年　4月8日 明和7年　3月13日 晴
1770年　4月9日 明和7年　3月14日 快晴
1770年　4月10日 明和7年　3月15日 晴　朝の内曇
1770年　4月11日 明和7年　3月16日 曇　辰の刻より小雨
1770年　4月12日 明和7年　3月17日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ
1770年　4月13日 明和7年　3月18日 快晴
1770年　4月14日 明和7年　3月19日 快晴
1770年　4月15日 明和7年　3月20日 快晴
1770年　4月16日 明和7年　3月21日 快晴　(去る18日夜七時赤石組種里村で火災・類焼あり・　火元百姓他村預け)
1770年　4月17日 明和7年　3月22日 曇　今暁より雨　今日終日降　(20日昼九時浪岡組中野村で火災(2間×3間:高無)・火元村預け)
1770年　4月18日 明和7年　3月23日 曇
1770年　4月19日 明和7年　3月24日 快晴
1770年　4月20日 明和7年　3月25日 快晴
1770年　4月21日 明和7年　3月26日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今日まて時々降
1770年　4月22日 明和7年　3月27日 曇　午の下刻より風強
1770年　4月23日 明和7年　3月28日 晴
1770年　4月24日 明和7年　3月29日 曇
1770年　4月25日 明和7年　3月30日 快晴
1770年　4月26日 明和7年　4月1日 快晴　(御家老津軽主水に一粒金丹30粒)
1770年　4月27日 明和7年　4月2日 晴　(?日藤代組種市村で火災・(3間×8間:高無)・火元村預け、昨暁七時過ぎ碇関大石沢に山火事・鎮める)
1770年　4月28日 明和7年　4月3日 快晴
1770年　4月29日 明和7年　4月4日 曇
1770年　4月30日 明和7年　4月5日 晴　(火元の種市村の高無の村預け免許、3月27日夜松前の2人乗りの船が龍濱(竜飛)前浜で破船)

1770年　5月1日 明和7年　4月6日 晴
1770年　5月2日 明和7年　4月7日 晴
1770年　5月3日 明和7年　4月8日 快晴 （今6日夜八時過ぎ油川組油川に火災・類焼3軒・火元村預け、今6日の夜九時木作新田下相内?村で火災1軒・火元村預け）
1770年　5月4日 明和7年　4月9日 曇 （?日大鰐組早瀬野村で山火事（35間×25間））
1770年　5月5日 明和7年　4月10日 曇 昨夜小雨 （今6日出火の木作新田下相野村の高無の村預け免許）
1770年　5月6日 明和7年　4月11日 曇 今日少々阿ら連（霰）ふる （8日夜九時過ぎ広須組福原村で百姓家火災、奈良某に一粒金丹3粒）
1770年　5月7日 明和7年　4月12日 曇 （8日夜土淵普請小屋出火・明表（俵：古文書らしい誤字でそれほど珍しくない）3500俵縄20000尋焼失、6日油川村の火元の他村預け免許）
1770年　5月8日 明和7年　4月13日 晴 申の刻より風少々 （9日夜出火の福原村の火元の村預け免許）
1770年　5月9日 明和7年　4月14日 曇
1770年　5月10日 明和7年　4月15日 快晴 （当月10日浪岡組高館村館山に野火（200間×200間））
1770年　5月11日 明和7年　4月16日 晴
1770年　5月12日 明和7年　4月17日 快晴 （木作新田車力村で火災2軒・火元他村預け）
1770年　5月13日 明和7年　4月18日 陰晴 （最勝院申し立てる：来る朔日甚蝕に付き当月24日より〇〇秘法執行する）
1770年　5月14日 明和7年　4月19日 曇 昨未之刻過ぎより小雨 申の刻晴 酉の刻過ぎより雨 今日も時々雨 （昨17日夜四時頃駒越組で火災（3間半×7間・外馬屋3間×4間：御蔵百姓）・火元村預け、馬場某に一粒金丹?粒）
1770年　5月15日 明和7年　4月20日 曇 今日時々雨
1770年　5月16日 明和7年　4月21日 曇 昨夜酉の刻過ぎ小雨 （（多分17日）奈良野木村の火元の村預け・（多分17日に記述の）車力村の火元の他村預け免許、16日金山村の松仕立山に野火（120間ほど））
1770年　5月17日 明和7年　4月22日 晴 昨夜酉の下刻雷 今日時々雨
1770年　5月18日 明和7年　4月23日 曇 昨夜の雨今朝に及び時々
1770年　5月19日 明和7年　4月24日 曇 昨夜より今日終日小雨
1770年　5月20日 明和7年　4月25日 曇
1770年　5月21日 明和7年　4月26日 快晴
1770年　5月22日 明和7年　4月27日 快晴 午の刻より風立つ （寄合に病人が多く……・そういえば御家老2人とも最近出勤なし、来月朔日日蝕皆既に付き月並出仕（御中小姓以上の月初めの挨拶）御用捨（御容赦））
1770年　5月23日 明和7年　4月28日 快晴
1770年　5月24日 明和7年　4月29日 快晴
1770年　5月25日 明和7年　5月1日 曇 昨夜酉の刻より雨 今朝におよぶ（この濁点は書いてあるのだ） （今日日蝕皆既に付月並御礼御用捨）
1770年　5月26日 明和7年　5月2日 曇 （横内組村々の狼荒れるに付き野内町同心に鉄砲玉などを渡す、去月29日横内組大矢沢村で火災2軒外馬屋1軒焼失・子供男女2人焼死、屋形様御発駕を来月11日と仰せ出される）
1770年　5月27日 明和7年　5月3日 快晴
1770年　5月28日 明和7年　5月4日 晴
1770年　5月29日 明和7年　5月5日 快晴 （4月中所々御関所出人都合170人：碇関166人（御印紙出81・切手紙出85）・野内4人（切手紙出））
1770年　5月30日 明和7年　5月6日 快晴
1770年　5月31日 明和7年　5月7日 曇 昨申の刻より雨 丑の刻まて降 今日巳の下刻より雨ふる 雷度々発ス
1770年　6月1日 明和7年　5月8日 曇 今日辰の刻より雨降 （来る28日御着城予定）
1770年　6月2日 明和7年　5月9日 快晴 （去る6日鰺ヶ沢で大荒れ・船つなぎ作業中水主死亡、……人皇十代崇神天皇六十五年……の崇神天皇でも平出：台頭とすべきもので弘前の文化が遅れていたか）
1770年　6月3日 明和7年　5月10日 快晴
1770年　6月4日 明和7年　5月11日 快晴
1770年　6月5日 明和7年　5月12日 快晴
1770年　6月6日 明和7年　5月13日 曇
1770年　6月7日 明和7年　5月14日 曇 （江戸よりお尋ねの殺人者は秋田領で捕まったとのこと・3月9日に鰺ヶ沢で捕まえたのは別人と判る）
1770年　6月8日 明和7年　5月15日 快晴 （ほとんどがかな書きの公儀の御書付あり、当月8日小泊村下前濱に杉の帆柱が流れ寄せる・半年囲い置いて持ち主がなければ申し出るように）
1770年　6月9日 明和7年　5月16日 快晴 （昨夜田舎館組田舎館村で火災1軒及び外馬屋・火元村預け）
1770年　6月10日 明和7年　5月17日 快晴
1770年　6月11日 明和7年　5月18日 晴 （御関札打ち今晩至着）
1770年　6月12日 明和7年　5月19日 曇 （15日田舎館村の火元の村預け免許）
1770年　6月13日 明和7年　5月20日 晴 朝の内曇
1770年　6月14日 明和7年　5月21日 快晴 （広田組で二本柳村の男と七つ館村の男が水論・一方が怪我）
1770年　6月15日 明和7年　5月22日 快晴
1770年　6月16日 明和7年　5月23日 曇 今日未の刻より雨 酉の下刻晴る
1770年　6月17日 明和7年　5月24日 曇 昨夜中雨降 （去る21日大光寺組杉館村で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1770年　6月18日 明和7年　5月25日 晴
1770年　6月19日 明和7年　5月26日 快晴
1770年　6月20日 明和7年　5月27日 快晴 （屋形様今日八時過ぎ碇関に御着座）
1770年　6月21日 明和7年　5月28日 快晴 （今日九半時御着城）　下から続く　（2間半×4間・2間×3間・3間半×6間・2間半×4間・2間×4間：全部高無）・火元他村預け本家（家主か）戸〆）
1770年　6月22日 明和7年　5月29日 なし（日記が保存されているが天気の記述がない）　下から続く　33・切手紙出1）、一間所内の成田某が逃亡家来に怪我させる、昨27日赤田組板屋野木村で火災5軒　上に続く
1770年　6月23日 明和7年　6月1日 曇 巳の下刻より雨 戌の刻過ぎより止む （5月中所々御関所出人都合106人：碇関99人（御印紙出66・切手紙出33）・野内4人（御印紙出2・切手紙出2）・大間越34人（御印紙出　上に続く
1770年　6月24日 明和7年　6月2日 曇 巳の下刻頃より雨 申の下刻止む
1770年　6月25日 明和7年　6月3日 快晴 （御馬廻某の父自害）
1770年　6月26日 明和7年　6月4日 快晴 （津軽外記を御家老になどの人事異動、去月27日板屋野木村の火元の他村預け・本家戸〆共に免許）
1770年　6月27日 明和7年　6月5日 快晴 （五月朔日の日蝕の御祈祷をした最勝院江銀1枚・寺庵3人江金百疋宛・小僧4人江銀1両宛・小野筑前江金百疋）
1770年　6月28日 明和7年　6月6日 陰晴 巳の刻頃雨少々 （御家老津軽主水昨夜病死）
1770年　6月29日 明和7年　6月7日 快晴 朝の内霞 未之上刻雨少し
1770年　6月30日 明和7年　6月8日 曇 昨夜より今朝に至る雨辰の上刻止む （主水への屋形様からの香典：白銀30両）

1770年　7月1日 明和7年　　6月9日 快晴　今寅の下刻より卯の刻頃まで雨降
1770年　7月2日 明和7年　　6月10日 陰晴　申の刻虹見ゆ流(る)（大鰐村嘉次兵衛より初大角豆差上げる、流行病ありり・国上寺で御祈祷仰せ付ける）
1770年　7月3日 明和7年　　6月11日 曇
1770年　7月4日 明和7年　　6月12日 快晴　午の上刻より曇
1770年　7月5日 明和7年　　6月13日 曇　昨夜戌の下刻より雨　今日終日降
1770年　7月6日 明和7年　　6月14日 快晴
1770年　7月7日 明和7年　　6月15日 陰晴　未ノ上刻小雨（五半時前御能初る）
1770年　7月8日 明和7年　　6月16日 快晴
1770年　7月9日 明和7年　　6月17日 晴　朝の内霞
1770年　7月10日 明和7年　　6月18日 陰晴　申の刻頃雨少々　夜中少々雨
1770年　7月11日 明和7年　　6月19日 快晴　今朝卯の刻過ぎ雨少し　風少々（今日御家中剣術高覧）
1770年　7月12日 明和7年　　6月20日 快晴
1770年　7月13日 明和7年　　6月21日 晴　今朝卯の中刻地震
1770年　7月14日 明和7年　　6月22日 曇　今朝辰の刻過ぎ虹見ゆる　今日雨時々降　午の下刻少々鳴動
1770年　7月15日 明和7年　　6月23日 晴
1770年　7月16日 明和7年　　6月24日 快晴
1770年　7月17日 明和7年　　6月25日 陰晴
1770年　7月18日 明和7年　　6月26日 快晴（当月19日深浦湊入津中の水主が病死）　　下から続く　　生存の足軽2人大工等2人死亡、顕休院様27回御忌に伴い1人出牢・7人に弘前並びに居村徘徊御免）
1770年　7月19日 明和7年　　6月27日 快晴　今日巳の四刻土用に入る　　下から続く　　焼失等、東御蔵焼失・西御蔵大破、足軽警護共11人中6人生存・2人死亡・3人死骸見えず、御蔵守死亡・大工等4人生存、　　上に続く
1770年　7月20日 明和7年　　6月28日 曇　昨夜中霧雨　今朝曇　午の中刻賀田塩消御蔵焼失に付き鳴動強し　焼失数人有之（賀田で諸手足軽頭斎藤小左衛門・傍嶋九郎左衛門・蒔苗市兵衛・御目付竹中忠左衛門　　上に続く
1770年　7月21日 明和7年　　6月29日 晴
1770年　7月22日 明和7年　　6月30日 快晴　朝の内曇　昼頃より快晴と成る（賀田で怪我をした蔦の者今朝死亡）
1770年　7月23日 明和7年　閏6月1日　快晴（人事異動、6月中所々御関所出人都合125人：碇関123人（御印紙出92・切手紙出31）・大間越2人（御印紙出））
1770年　7月24日 明和7年　閏6月2日　陰晴（油屋共が油値段を5文目にと申し出でる・当秋粒油出盛りまで4匁5分に申付ける、今29日広須組出野里村で火災（4間×8間：百姓）・火元村預け）
1770年　7月25日 明和7年　閏6月3日　曇　昨夜丑の刻より雨　卯の下刻止む
1770年　7月26日 明和7年　閏6月4日　快晴　昨晩未の下刻鳴動（去月28日賀田で怪我をした掃除小人死亡（28日の名簿にないな）、29日出野里村の火元の村預け免許）
1770年　7月27日 明和7年　閏6月5日　快晴
1770年　7月28日 明和7年　閏6月6日　快晴
1770年　7月29日 明和7年　閏6月7日　快晴（池田源之蒸に一粒金丹?粒）
1770年　7月30日 明和7年　閏6月8日　快晴
1770年　7月31日 明和7年　閏6月9日　陰晴（御中小姓の福眞伴左衛門を御供見習いから本役に）
1770年　8月1日 明和7年　閏6月10日　快晴（大鰐村加賀助・兵左衛門より5月10日植付の初穂差上げる・去年は4月22日植付7月朔日出穂・日数で当年が8日早く節に引き合い3日早い、去月20日添田傳九郎出奔）
1770年　8月2日 明和7年　閏6月11日　快晴
1770年　8月3日 明和7年　閏6月12日　快晴　暑気強（四社で雨乞いの御祈祷を仰せ付ける）
1770年　8月4日 明和7年　閏6月13日　快晴（諸組村々田方虫付く・薬王院で御祈祷）
1770年　8月5日 明和7年　閏6月14日　快晴
1770年　8月6日 明和7年　閏6月15日　快晴（今13日昼頃金木組高根村で火災（4間×5間：高無）・火元村預け）
1770年　8月7日 明和7年　閏6月16日　快晴（去る13日の夜後潟組六枚橋村で火災（高無）・火元村預け）
1770年　8月8日 明和7年　閏6月17日　晴
1770年　8月9日 明和7年　閏6月18日　陰晴
1770年　8月10日 明和7年　閏6月19日　陰晴
1770年　8月11日 明和7年　閏6月20日　曇
1770年　8月12日 明和7年　閏6月21日　晴
1770年　8月13日 明和7年　閏6月22日　快晴
1770年　8月14日 明和7年　閏6月23日　快晴
1770年　8月15日 明和7年　閏6月24日　陰晴　夜に入り大雨（久渡寺より熟瓜差上げる）
1770年　8月16日 明和7年　閏6月25日　曇　終日雨　夜に入り晴れる
1770年　8月17日 明和7年　閏6月26日　晴
1770年　8月18日 明和7年　閏6月27日　快晴　大暑（御用人笠原八郎兵衛に一粒金丹10粒）
1770年　8月19日 明和7年　閏6月28日　快晴　大暑（御家老津軽外記700から800石）
1770年　8月20日 明和7年　閏6月29日　快晴（24日晩より25日まで後潟組で大雨・洪水・橋の流失等）
1770年　8月21日 明和7年　　7月1日 曇　昨夜風　辰の刻より雨時々（閏6月中所々御関所出人都合134人：碇関131人（御印紙出86・切手紙出45）・野内3人（御印紙出）、大鰐加賀助・兵左衛門より初米3箱3俵差上げる）
1770年　8月22日 明和7年　　7月2日 曇　午の刻雨少し降（当御下向御道中金の内御入用差し引き残金（77両3歩と銭1貫97文）を去年の通り御小納戸に上納させる、上納：俵子150俵以上に1季に6斗宛・　　欄外(*)に続く
1770年　8月23日 明和7年　　7月3日 曇　未の刻大雨　雷鳴
1770年　8月24日 明和7年　　7月4日 曇　時々雨（去月25日の雨で増館組水木・下十川村の田方40町歩が水湛）
1770年　8月25日 明和7年　　7月5日 曇　朝時々小雨　午の刻より晴（長勝寺に一粒金丹5粒）
1770年　8月26日 明和7年　　7月6日 快晴（当月朔日小泊領長崎に3人乗りの船破船、先だって戸〆の萱町の男の戸〆御免、7月渡り俵子金給御切米を9日より相渡す・渡し方の内3が2は日々の相場でお買い上げ）
1770年　8月27日 明和7年　　7月7日 快晴
1770年　8月28日 明和7年　　7月8日 快晴（当月3日油川沖合いで破船1艘）
1770年　8月29日 明和7年　　7月9日 晴
1770年　8月30日 明和7年　　7月10日 晴
1770年　8月31日 明和7年　　7月11日 晴　午の刻より雨（駒越村で大光寺村の女が病気・9日に大光寺に送り返したが村の者ではないとのことで駒越村に送り返す・途中で10日昼頃死亡）
(*)　30俵以下1季に1斗宛・100石以上100石に付き1ヵ年に5俵宛・30石以下1ヵ年に1俵宛・金給15両以上に1季に15文目宛・5両以下1季に3文目宛）

1770年　9月1日 明和7年　7月12日 晴　今暁雨降
1770年　9月2日 明和7年　7月13日 晴
1770年　9月3日 明和7年　7月14日 曇　今朝辰の刻より雨
1770年　9月4日 明和7年　7月15日 曇　昨夜中雨　今日辰の刻より晴
1770年　9月5日 明和7年　7月16日 晴
1770年　9月6日 明和7年　7月17日 晴　午の刻より雨降
1770年　9月7日 明和7年　7月18日 曇　昨夜中の雨今朝に至る
1770年　9月8日 明和7年　7月19日 快晴　昨申の刻より雨　夜中時々
1770年　9月9日 明和7年　7月20日 曇　午の刻より雨
1770年　9月10日 明和7年　7月21日 曇　卯の刻より雨
1770年　9月11日 明和7年　7月22日 曇　昨夜中雨　今暁寅の刻より雷　辰の刻止む
1770年　9月12日 明和7年　7月23日 晴　昨夜雨時々 （近年熊胆納まり方不足……、尾太銅山休山?）
1770年　9月13日 明和7年　7月24日 曇　時々小雨
1770年　9月14日 明和7年　7月25日 曇
1770年　9月15日 明和7年　7月26日 晴
1770年　9月16日 明和7年　7月27日 曇 （当月12日夜赤石組黒崎村で雷火（3間×4間半：高無）10歳女子頓死）
1770年　9月17日 明和7年　7月28日 快晴　下から続く　数十筋布を引くことく立つ　丑の刻過ぎ右赤気東西に散失す（1770年に北海道に噴火なし（理科年表）・オーロラか：福眞）
1770年　9月18日 明和7年　7月29日 曇 （虫：今?）日巳の刻小雨　昨夜戌の（虫：上か下?）刻より乾之方に赤気立つ （虫：戌・亥又は子）の刻頃甚だしく　子丑の方まて一円に赤く　子の刻過ぎ右赤気の中白気　上に続く
1770年　9月19日 明和7年　8月1日 曇　午の刻過ぎより大雨　終日降 （人事異動）
1770年　9月20日 明和7年　8月2日 曇 （7月中所々御関所出人都合135人：碇関131人（御印紙出57・切手紙出74）・大間越1人（御印紙出）・野内3人（御印紙出1・切手紙出2））
1770年　9月21日 明和7年　8月3日 快晴
1770年　9月22日 明和7年　8月4日 曇　朝の内快 （ミニ人事異動）
1770年　9月23日 明和7年　8月5日 曇
1770年　9月24日 明和7年　8月6日 晴　朝の内少し雨 （今3日夜三新田近野村で火災（大きさ不明：百姓）・火元村預け）
1770年　9月25日 明和7年　8月7日 晴　今朝岩木山雪みへる （3日近野村の火元の村預け免許）
1770年　9月26日 明和7年　8月8日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1770年　9月27日 明和7年　8月9日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ
1770年　9月28日 明和7年　8月10日 晴　風少々立つ （藤代組石渡村の川原の内に男倒死、米切手売買の2人を弘前より5里四方追放）
1770年　9月29日 明和7年　8月11日 晴　午の刻より曇 （不埒・不届きがあり御給分召し放ち5人・御目見以上から御目見以下に8人・押込2人・弘前追放9人）
1770年　9月30日 明和7年　8月12日 曇　昨晩申の下刻雨　夜中より今朝辰の刻まて雨時々
1770年　10月1日 明和7年　8月13日 晴
1770年　10月2日 明和7年　8月14日 曇　今朝より雨　今日巳の刻より雷度々
1770年　10月3日 明和7年　8月15日 曇　昨夜中雨　今朝まて　今日時々雨　未の刻より晴 （肴屋より初鮭1尺差し出す）
1770年　10月4日 明和7年　8月16日 晴 （8月11日記述の件に関し遠慮伺いで遠慮した御家中26人・遠慮に及ばないとされたもの22人）
1770年　10月5日 明和7年　8月17日 快晴
1770年　10月6日 明和7年　8月18日 曇
1770年　10月7日 明和7年　8月19日 曇　昨夜申の下刻より雨　今日辰の刻過ぎ止む　酉の下刻より雨　夜に及ぶ （高岡御大祭の御祝儀として座当218人・盲女168人に15文宛下しおかれる）
1770年　10月8日 明和7年　8月20日 曇　昨夜戌の上刻より雨　今朝に至時々雨 （江戸で昨11日夜九時過ぎ深川から出火・南風強く大火・藩の御上屋鋪は土蔵11を残し焼失・那須様の屋鋪も）
1770年　10月9日 明和7年　8月21日 曇　今日巳の刻過ぎより雨　午の刻頃より雷強発　雨時々 （人事異動）
1770年 10月10日 明和7年　8月22日 晴
1770年 10月11日 明和7年　8月23日 快晴
1770年 10月12日 明和7年　8月24日 快晴　未の下刻より曇　申の上刻より雨　雷度々強　同下刻止む
1770年 10月13日 明和7年　8月25日 曇　昨夜戌ノ上刻より雨強　尤も雷数度発　強　今朝に及　巳の上刻雷発
1770年 10月14日 明和7年　8月26日 曇　午の刻過ぎより晴
1770年 10月15日 明和7年　8月27日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ
1770年 10月16日 明和7年　8月28日 晴　朝の内曇　巳の刻より晴　未ノ刻過ぎより曇 （昨26日赤昼四時頃田組亀田村で火災（2間半×4間：高無）・火元村預け）
1770年 10月17日 明和7年　8月29日 曇　今朝卯の下刻より雨　今日終日ふる
1770年 10月18日 明和7年　8月30日 曇　未之刻過ぎ雨少々
1770年 10月19日 明和7年　9月1日 晴　昨夜中雨 （8月中所々御関所出人都合116人：碇ヶ関108人（御印紙出87・切手紙出21）・野内6人（御印紙出1・切手紙出5）・大間越2人（切手紙出）、26日亀田村の火元の村預け免許）
1770年 10月20日 明和7年　9月2日 曇　朔夜中雨　今日に至　時々降　岩木山に雪見ゆる
1770年 10月21日 明和7年　9月3日 曇　昨夜中雨時々　今日に至る　岩木山麓まで雪見ゆる　今朝辰の上刻霰降ル
1770年 10月22日 明和7年　9月4日 曇　昨夜風立つ　雨時々
1770年 10月23日 明和7年　9月5日 晴
1770年 10月24日 明和7年　9月6日 曇 （去月24日広須新田稲森村に落雷・男即死）
1770年 10月25日 明和7年　9月7日 曇
1770年 10月26日 明和7年　9月8日 曇　昨夜中雨今日まて
1770年 10月27日 明和7年　9月9日 曇　昨夜中雨　今日終日降
1770年 10月28日 明和7年　9月10日 曇　今朝辰の刻過ぎ雨少々　午の刻より陰晴
1770年 10月29日 明和7年　9月11日 曇　今朝辰の刻雨　則刻止む
1770年 10月30日 明和7年　9月12日 快晴　昨夜大霜
1770年 10月31日 明和7年　9月13日 快晴　今日申の上刻雨　酉の刻止む

1770年　11月1日 明和7年　　9月14日 曇　今日巳の上刻雨少々
1770年　11月2日 明和7年　　9月15日 曇　昨晩酉の刻過ぎ地震　風雨時々
1770年　11月3日 明和7年　　9月16日 快晴　(2日今別村沖で阿弥陀川村の船破船)
1770年　11月4日 明和7年　　9月17日 快晴　今日午の上刻より曇　雨少々　同中刻雷度々発す
1770年　11月5日 明和7年　　9月18日 曇　昨夜中時々雨
1770年　11月6日 明和7年　　9月19日 快晴　昨夜中時々雨
1770年　11月7日 明和7年　　9月20日 曇　昨夜中雨　雷発す
1770年　11月8日 明和7年　　9月21日 快晴
1770年　11月9日 明和7年　　9月22日 快晴
1770年 11月10日 明和7年　　9月23日 曇
1770年 11月11日 明和7年　　9月24日 陰晴
1770年 11月12日 明和7年　　9月25日 陰晴
1770年 11月13日 明和7年　　9月26日 曇　昨夜雨少々　今日午の刻少し雨
1770年 11月14日 明和7年　　9月27日 曇　昨夜雨時々　今日巳の中刻より雨
1770年 11月15日 明和7年　　9月28日 晴　昨夜中風雨時々　　下から続く　　・4寸5寸5歩35文目)それぞれ熊取る)
1770年 11月16日 明和7年　　9月29日 曇　昨申の刻過ぎより雨　夜中時々降　(油川組津軽坂村の太兵衛(胆長6寸丸5寸49文目)・浪岡組徳才子村の定右衛門等3疋(長5寸廻り7寸5歩75文目・3寸5歩4寸8文目　　上に続く
1770年 11月17日 明和7年　　10月1日 曇　昨夜中雨少々　今日午の下刻雨少々　(9月中所々御関所出人都合118人:碇関109人(御印紙出73・切手紙出36)・野内9人(御印紙出5・切手紙出4))
1770年 11月18日 明和7年　　10月2日 曇　昨夜中子の刻過ぎより雨　今朝に到る
1770年 11月19日 明和7年　　10月3日 曇　昨晩申の下刻東方に虹見ゆる
1770年 11月20日 明和7年　　10月4日 曇　昨夜中雨降　今暁に及ぶ　今朝卯の刻過ぎより晴ト成　巳の中刻より雨　今日時々雨　午の刻虹ミゆる
1770年 11月21日 明和7年　　10月5日 曇　昨夜中時々雨　今日巳の刻過ぎ小雪降
1770年 11月22日 明和7年　　10月6日 曇　昨夜中雪四寸ほど降　風強　巳の中刻過ぎより晴ル　(初雪の御機嫌伺いに御家老等が出る、昨日賀田塩消御蔵出来・乾いていない)
1770年 11月23日 明和7年　　10月7日 晴　今日辰の中刻頃雨少々
1770年 11月24日 明和7年　　10月8日 曇　昨晩申の下刻より雨　夜中時々　今朝に及ぶ　今日時々雨
1770年 11月25日 明和7年　　10月9日 快晴　昨夜時々雨　(昨5日金井ヶ澤懸り船のうち4艘が破船)
1770年 11月26日 明和7年　　10月10日 曇　卯の刻より雨
1770年 11月27日 明和7年　　10月11日 曇　昨夜中時々雨　今日午の刻過ぎより時々雨　(御献上の鮭高覧、此の度江戸御上屋敷御類焼に付きお手伝い:米1481俵・銭10貫目・金55両)
1770年 11月28日 明和7年　　10月12日 曇
1770年 11月29日 明和7年　　10月13日 曇　昨夜雨時々　今朝に至り時々
1770年 11月30日 明和7年　　10月14日 快晴
1770年　12月1日 明和7年　　10月15日 晴
1770年　12月2日 明和7年　　10月16日 晴　昨夜時々雨　雷発す　　下から続く　　鰺ヶ沢19匁2分8厘5毛(平米18文目8厘5毛)・3ヵ所平均1俵に付き19文目2分6厘4毛(平米18文目6厘4毛)・金80目2分)
1770年　12月3日 明和7年　　10月17日 曇　昨夜中雨時々　今朝辰の刻より雪少々　(米入札:弘前沖役入れて1俵に付き18文目1分3厘2毛(平米19匁9分3厘2毛)・青森20目3分7厘5毛(平米19文目1分7厘5毛)・　　上に続く
1770年　12月4日 明和7年　　10月18日 曇　昨夜風強し　雪少々　今日時々
1770年　12月5日 明和7年　　10月19日 曇　時々雪
1770年　12月6日 明和7年　　10月20日 曇　巳の刻頃より小雨
1770年　12月7日 明和7年　　10月21日 曇
1770年　12月8日 明和7年　　10月22日 曇　昨夜中雨　今日時々
1770年　12月9日 明和7年　　10月23日 曇　昨夜中雪降時々　風今朝に及ぶ　終日雪少々　寒気甚シ
1770年 12月10日 明和7年　　10月24日 曇　昨夜中雪少々　今朝に及ぶ　(21日飯詰組高野村溜池の普請所で2人(高無)が怪我・死亡、20日夜大鰐組石川村の宿で36・7男縊死)
1770年 12月11日 明和7年　　10月25日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪
1770年 12月12日 明和7年　　10月26日 快晴　昨夜中雪ふる　今朝に及ぶ　(御肴屋が初鱈差上げる、一昨24日夜和徳組大久保村に火災(高無)子供3人焼失)
1770年 12月13日 明和7年　　10月27日 晴　(永の御暇2人、25日駒越組国吉村で火災(高無)・火元村預け)
1770年 12月14日 明和7年　　10月28日 曇　昨夜中より今日まて時々雪ふる
1770年 12月15日 明和7年　　10月29日 陰晴
1770年 12月16日 明和7年　　10月30日 曇　巳の刻過ぎより小雨
1770年 12月17日 明和7年　　11月1日 曇　今日午の刻より雨時々　(10月中所々御関所出人都合70人:碇関65人(御印紙出41・切手紙出24)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4))
1770年 12月18日 明和7年　　11月2日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　今日辰の刻より雪時々
1770年 12月19日 明和7年　　11月3日 曇　昨夜雪時々
1770年 12月20日 明和7年　　11月4日 曇　昨夜中雪
1770年 12月21日 明和7年　　11月5日 晴　冬至申の二刻より入る
1770年 12月22日 明和7年　　11月6日 曇
1770年 12月23日 明和7年　　11月7日 曇
1770年 12月24日 明和7年　　11月8日 曇
1770年 12月25日 明和7年　　11月9日 晴
1770年 12月26日 明和7年　　11月10日 晴　今朝霜強　(江戸御上屋敷御類焼の御手伝い:28ページに渡り250人くらいの奉加帳?あり)
1770年 12月27日 明和7年　　11月11日 晴　昨夜雨雪時々降　(不届きの鳶の者4人に永の暇、不届きの町奉行物書きの御給分召し放ち放つ、青森湊方勤番中不届きの御徒目付3人の給分召し放ち弘前追放)
1770年 12月28日 明和7年　　11月12日 曇　昨夜より今朝まて時々雪
1770年 12月29日 明和7年　　11月13日 快晴
1770年 12月30日 明和7年　　11月14日 曇　酉の中刻より小雨　丑の刻地震　今朝辰の刻より雨強し
1770年 12月31日 明和7年　　11月15日 晴　(今日御囃子)

1771年　1月1日 明和7年　11月16日 曇　今朝辰の中刻より雪
1771年　1月2日 明和7年　11月17日 曇　今日午の刻より陰晴
1771年　1月3日 明和7年　11月18日 曇　昨夜雪　今日巳の刻より雪終日
1771年　1月4日 明和7年　11月19日 曇
1771年　1月5日 明和7年　11月20日 晴　今日戌の七刻小寒に入る　申の刻より雨
1771年　1月6日 明和7年　11月21日 曇　昨夜より今暁まて雨　今日卯の刻より雪時々
1771年　1月7日 明和7年　11月22日 曇　今日時々雪　（堀越組堀越村で火災（2間×2間半：百姓の借地）当春出生の男子1人焼死・火元村預け）
1771年　1月8日 明和7年　11月23日 曇　今日巳の刻過ぎより雨終日　（一刀流剣術高覧）
1771年　1月9日 明和7年　11月24日 晴　（在方時疫時行候に付き橋雲寺で御祈祷）
1771年　1月10日 明和7年　11月25日 曇　今日午の上刻より雨　未の上刻雷発す　雨夜に入り晴
1771年　1月11日 明和7年　11月26日 曇
1771年　1月12日 明和7年　11月27日 晴　今日申の刻雪　暮に及ぶ　（21日出火の堀越村の火元の村預け差許）
1771年　1月13日 明和7年　11月28日 晴
1771年　1月14日 明和7年　11月29日 曇　昨夜中風　今暁に至り止む　それより今日時々雪
1771年　1月15日 明和7年　11月30日 陰晴
1771年　1月16日 明和7年　12月1日 曇　今朝雪　終日降　（11月中所々御関所出人都合103人：碇関100人（御印紙出83・切手紙出17）・野内3人（切手紙出））
1771年　1月17日 明和7年　12月2日 曇　朝の内曇　（去月晦日三新田芦沼村で火災（3間×5間：百姓）・火元村預け）
1771年　1月18日 明和7年　12月3日 曇　昨夜より雪時々
1771年　1月19日 明和7年　12月4日 快晴　昨夜雪時々　（芦沼村の火元の村預け免許）
1771年　1月20日 明和7年　12月5日 晴　昨夜戌の刻過ぎより雨　今朝に到る　今暁寅の刻雷発す
1771年　1月21日 明和7年　12月6日 曇
1771年　1月22日 明和7年　12月7日 曇
1771年　1月23日 明和7年　12月8日 曇　昨夜雪少々　今朝辰の刻より雪終日
1771年　1月24日 明和7年　12月9日 快晴
1771年　1月25日 明和7年　12月10日 晴　今朝卯の下刻鳴動　申の刻より雪少々　（貝沢村の百姓家に盗人が入り召使に打殺される）
1771年　1月26日 明和7年　12月11日 晴　昨夜中雨　今暁に及ぶ
1771年　1月27日 明和7年　12月12日 曇　今朝辰の上刻より雨　雷度々発す　巳の中刻より快晴　（江戸御上屋敷御類焼に付き普請御手伝い：米8094俵・銭153貫836文目金に〆1920両余）
1771年　1月28日 明和7年　12月13日 晴
1771年　1月29日 明和7年　12月14日 曇　辰の刻より雨
1771年　1月30日 明和7年　12月15日 晴
1771年　1月31日 明和7年　12月16日 曇　今朝卯の下刻より雪時々
1771年　2月1日 明和7年　12月17日 晴
1771年　2月2日 明和7年　12月18日 曇　昨夜中雪時々
1771年　2月3日 明和7年　12月19日 曇　昨夜中雪　今暁寅の刻過ぎ地震　同下刻一度　今日時々雪
1771年　2月4日 明和7年　12月20日 晴　昨夜中雪時々
1771年　2月5日 明和7年　12月21日 曇　昨夜中雪
1771年　2月6日 明和7年　12月22日 晴　（御能）
1771年　2月7日 明和8年　12月23日 陰晴
1771年　2月8日 明和8年　12月24日 陰晴
1771年　2月9日 明和8年　12月25日 快晴　（横内組瀧ノ沢村の左藤四郎など3人（胆長4寸廻り5寸生目45文目）・駒越組相馬村の三九郎（5寸・5寸3歩・50目）・金木組板割坂村の市右衛門（5寸・6寸・45文目）それぞれ熊取る）
1771年　2月10日 明和8年　12月26日 曇　辰の中刻より雪
1771年　2月11日 明和8年　12月27日 曇　昨日申の下刻より雨　今朝に及ぶ　今日時々雨
1771年　2月12日 明和8年　12月28日 曇　今日時々雪
1771年　2月13日 明和8年　12月29日 曇　昨夜中雪　（駒越組田代村の藤右衛門等2人（胆突き破りなし）熊取る）
1771年　2月14日 明和8年　12月30日 曇
1771年　2月15日 明和8年　正月1日　曇　今朝卯の刻より少々雪
1771年　2月16日 明和8年　正月2日　晴
1771年　2月17日 明和8年　正月3日　陰晴　（御謡初）
1771年　2月18日 明和8年　正月4日　晴　（七種大鰐村より差上げる）
1771年　2月19日 明和8年　正月5日　曇　朝の内晴　巳の刻より雪　（横内組平新田村で3日外馬屋火災・火元村預け）
1771年　2月20日 明和8年　正月6日　曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　七・八寸程ふる　今日時々雪
1771年　2月21日 明和8年　正月7日　曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　六寸程ふる　今日時々雪　（七種の御祝儀、3日赤田組狐森村の百姓の弟が同村庄屋の家来の弟を犬の喰合い（喧嘩かな）で口論の上打殺す）
1771年　2月22日 明和8年　正月8日　曇
1771年　2月23日 明和8年　正月9日　曇
1771年　2月24日 明和8年　正月10日　曇　昨夜より今朝まで雪降
1771年　2月25日 明和8年　正月11日　陰晴　（森岡主膳を御家老に）
1771年　2月26日 明和8年　正月12日　曇　昨夜中雨　今日雪
1771年　2月27日 明和8年　正月13日　曇　昨夜中風立つ　雪今朝まで　（御能）
1771年　2月28日 明和8年　正月14日　晴

1771年　3月1日 明和8年 正月15日　晴
1771年　3月2日 明和8年 正月16日　陰晴
1771年　3月3日 明和8年 正月17日　曇　昼頃より陰晴
1771年　3月4日 明和8年 正月18日　曇　昨夜戌の下刻より雨　余程強　今朝に及ぶ　卯の中刻より雪降
1771年　3月5日 明和8年 正月19日　曇　(去12月中御関所出人都合94人:碇関94人(御印紙出73・切手紙出21人)、先月20日三馬屋鐇泊に鯨が流れ寄せる)
1771年　3月6日 明和8年 正月20日　快晴
1771年　3月7日 明和8年 正月21日　晴
1771年　3月8日 明和8年 正月22日　曇　時々雪　(17日夜六枚橋村前沖に2人乗りの南部船が破船・3人水死)
1771年　3月9日 明和8年 正月23日　曇
1771年　3月10日 明和8年 正月24日　曇　今午の刻より雨
1771年　3月11日 明和8年 正月25日　快晴　昨夜中雨　今朝まで　今日辰の刻小雨　則刻止む　(御姫様の御縁組に付き座当頭から座当218・盲女168人に15文宛の配当?の申し出で)
1771年　3月12日 明和8年 正月26日　陰晴
1771年　3月13日 明和8年 正月27日　曇
1771年　3月14日 明和8年 正月28日　曇　昨夜中雨　今日終日　午の刻過ぎ少し地震　(岩木川洪水九歩・間もなく落水)
1771年　3月15日 明和8年 正月29日　曇　昨夜雨　亥の刻迄降
1771年　3月16日 明和8年　2月1日 晴　昨夜中雲少々(「雲」にしか見えない:福眞)　(正月中御関所出人都合183人:碇関183人(御印紙出174・切手紙出9)、去月28日古懸不動尊御出汗・洪水で連絡遅れ・五山で御祈祷を)
1771年　3月17日 明和8年　2月2日 曇　昨夜中寅の刻より雪　今日時々
1771年　3月18日 明和8年　2月3日 曇　今日彼岸に入る　昨夜中雪　今日時々
1771年　3月19日 明和8年　2月4日 晴　(去る27・8日の洪水で広須組三新田穂積村などの7人(男2女5)流死)
1771年　3月20日 明和8年　2月5日 曇　今日辰の刻より雨　(今日鎗術高覧)
1771年　3月21日 明和8年　2月6日 曇
1771年　3月22日 明和8年　2月7日 晴
1771年　3月23日 明和8年　2月8日 曇　(長勝寺に一粒金丹5粒)
1771年　3月24日 明和8年　2月9日 晴　昨夜中少々雪降
1771年　3月25日 明和8年　2月10日 晴　風少々立つ
1771年　3月26日 明和8年　2月11日 晴　昨夜中風雨少々　酉の刻頃雷一度発す　　下から続く　　付き当年は日数で14日早く節に引き合い4日遅い)
1771年　3月27日 明和8年　2月12日 晴　(昨11日夜八時頃堀越組外崎村高無家が火災、当月6日夜九時頃より翌7日朝まで早川口より残らず氷明ける・去寅年は2月20日の夜九時頃より翌21日の朝六時頃までに　　上に続く
1771年　3月28日 明和8年　2月13日 曇
1771年　3月29日 明和8年　2月14日 曇　昨夜より今朝まで風余程強　巳の刻過ぎより晴
1771年　3月30日 明和8年　2月15日 晴　(横内組宮崎村・堀越組外崎村の火元の村預け免許)
1771年　3月31日 明和8年　2月16日 陰晴　(浦町組浦町村で火災2軒・娘焼死、一昨14日田舎館組田舎館村で火災(2間×3間と2間×2間の馬屋:御蔵百姓))
1771年　4月1日 明和8年　2月17日 曇　卯の刻過ぎ雨少々降
1771年　4月2日 明和8年　2月18日 曇　昨夜中雪少々降　今朝も少し　(長勝寺に一粒金丹3粒)
1771年　4月3日 明和8年　2月19日 曇　昨夜中雪　今朝まで積
1771年　4月4日 明和8年　2月20日 曇　今日未之上刻雨少し降　(昨19日昼柏木組常海橋村で火災2軒・火元他村預け)
1771年　4月5日 明和8年　2月21日 晴
1771年　4月6日 明和8年　2月22日 曇　昨夜中雨　今暁卯の刻過ぎ止む　同刻雷度々発す
1771年　4月7日 明和8年　2月23日 晴
1771年　4月8日 明和8年　2月24日 晴
1771年　4月9日 明和8年　2月25日 晴　昨夜中より今日終日少し風立つ　(19日常海橋村の火元の他村預け免許)
1771年　4月10日 明和8年　2月26日 晴　昨夜中雨　大風　雷度々発す　今日風立つ　(身上召上げ永の暇5人・弘前追放1人・隠居1人・御留守居組に格下げ3人・半知召上げ1人)
1771年　4月11日 明和8年　2月27日 快晴
1771年　4月12日 明和8年　2月28日 曇　辰の上刻雨　(御発駕御祝儀の御能)
1771年　4月13日 明和8年　2月29日 曇　昨宵(雨冠に月に見える)より雨　今日終日風雨雷　　下から続く　　大川平村の九郎兵衛(3寸6歩5寸8歩17匁:8才)・駒越組大秋村の新兵衛(5寸6寸65匁:3才)　　欄外(*)に続く
1771年　4月14日 明和8年　2月30日 晴　昨夜中風　今日時々風　(一昨28日暮六時藤崎組廻り関村で火災(2間半×3間:高無)・火元村預け、横内組長森村の助左衛門(胆長2寸8歩廻り5寸8歩生目35匁:4才)・　　上に続く
1771年　4月15日 明和8年　3月1日 晴　(2月中碇関口御関所出人都合99人(御印紙出64・切手紙出35)、人事異動、去月29日暮六時後潟組野田村で火災25軒と郷蔵焼失、晦日浦町組堤村で借家火災・男1人小荷駄1疋焼死)
1771年　4月16日 明和8年　3月2日 快晴　(去月29日出火の廻り関村の火元の村預け免許)
1771年　4月17日 明和8年　3月3日 曇　辰の刻雨雪　巳の刻より雨
1771年　4月18日 明和8年　3月4日 快晴
1771年　4月19日 明和8年　3月5日 曇　午の中刻過ぎより小雨時々　(去月29日出火の野田村の火元を村預け)
1771年　4月20日 明和8年　3月6日 曇　巳の刻頃より晴　(御発駕四時過ぎ)
1771年　4月21日 明和8年　3月7日 晴
1771年　4月22日 明和8年　3月8日 曇　昨夜中雨少々
1771年　4月23日 明和8年　3月9日 曇　昨夜中雨少々　(去月29日江戸で御上屋敷御長屋残らず類焼の旨申し来る・29日暁寅の刻過ぎ両国村松町出火・浅草御蔵前まで焼失)
1771年　4月24日 明和8年　3月10日 陰晴
1771年　4月25日 明和8年　3月11日 快晴
1771年　4月26日 明和8年　3月12日 曇　昨夜中雨　今日終日　(御手廻りに永の暇・足軽目付に弘前追放)
1771年　4月27日 明和8年　3月13日 曇　(去月29日出火の焼失26軒(194人)に御手当て:御米30俵と御銭250目)
1771年　4月28日 明和8年　3月14日 晴　申の下刻小雨　酉の刻過ぎ雷発す
1771年　4月29日 明和8年　3月15日 曇　(人事異動、昨晩土手町で薦僧と伊勢参りの者が酒の上で暴れる・縄下にして碇関口と野内口から送り返す)
1771年　4月30日 明和8年　3月16日 快晴
(*)・袋村の十兵衛等3人(4寸3歩4寸2歩21匁:4才)・駒越組相馬村の三九郎(5寸5寸2歩86匁:13歳)それぞれ熊取る)

1771年　5月1日 明和8年　3月17日 陰晴
1771年　5月2日 明和8年　3月18日 快晴
1771年　5月3日 明和8年　3月19日 快晴
1771年　5月4日 明和8年　3月20日 快晴
1771年　5月5日 明和8年　3月21日 曇　午の上刻より雨
1771年　5月6日 明和8年　3月22日 曇　今暁卯の刻より雨時々 （此の度江戸の御上屋敷御長屋類焼に付き今年の参勤(3月5日御発駕・旅行中)は6月中に御参府しろとの上意）
1771年　5月7日 明和8年　3月23日 曇　昨夜中雨
1771年　5月8日 明和8年　3月24日 曇　昨夜中風雨強シ
1771年　5月9日 明和8年　3月25日 快晴
1771年　5月10日 明和8年　3月26日 快晴　辰の刻地震　鳴物余程強シ
1771年　5月11日 明和8年　3月27日 曇　昨申の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1771年　5月12日 明和8年　3月28日 曇
1771年　5月13日 明和8年　3月29日 曇 （25日晩十三領磯松村前浜に破船）
1771年　5月14日 明和8年　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合195人:碇ヶ関189人(御印紙出75・切手紙出114)・野内2人(御印紙出)・大間越4人(切手紙出)）
1771年　5月15日 明和8年　4月2日 曇　昨夜雨　今日時々雨
1771年　5月16日 明和8年　4月3日 晴　昨夜中雨
1771年　5月17日 明和8年　4月4日 晴　昨夜雨
1771年　5月18日 明和8年　4月5日 晴　今日未ノ下刻地震発
1771年　5月19日 明和8年　4月6日 快晴
1771年　5月20日 明和8年　4月7日 曇　今日風立つ
1771年　5月21日 明和8年　4月8日 曇　昨夜中雨　今暁まで
1771年　5月22日 明和8年　4月9日 曇　昨夜中よりの雨今日終日
1771年　5月23日 明和8年　4月10日 曇　昨夜中時々雨少々降
1771年　5月24日 明和8年　4月11日 曇　今日辰の刻雨　その後時々雨
1771年　5月25日 明和8年　4月12日 晴
1771年　5月26日 明和8年　4月13日 晴
1771年　5月27日 明和8年　4月14日 快晴　昨晩酉の下刻地震
1771年　5月28日 明和8年　4月15日 曇
1771年　5月29日 明和8年　4月16日 晴　風少々立つ
1771年　5月30日 明和8年　4月17日 晴
1771年　5月31日 明和8年　4月18日 晴
1771年　6月1日 明和8年　4月19日 曇　今日巳の下刻より雨降
1771年　6月2日 明和8年　4月20日 晴　昨夜中雷発す （江戸の屋形様が7日より軽度の疱瘡にかかる・五山に御祈祷並びに神明と八幡にお神楽を仰せ付ける、青森安方町に出火）
1771年　6月3日 明和8年　4月21日 快晴
1771年　6月4日 明和8年　4月22日 晴　今朝卯の下刻より風立つ
1771年　6月5日 明和8年　4月23日 晴
1771年　6月6日 明和8年　4月24日 晴
1771年　6月7日 明和8年　4月25日 晴 （18日青森安方町の火元を戸〆・渇命に及ぶ者で22日に戸〆免許）
1771年　6月8日 明和8年　4月26日 快晴
1771年　6月9日 明和8年　4月27日 快晴
1771年　6月10日 明和8年　4月28日 快晴
1771年　6月11日 明和8年　4月29日 快晴 （江戸詰めの御家中44人に両度の類焼に付きお手当:金4両と11匁3分3厘～銭25匁4分8厘）
1771年　6月12日 明和8年　4月30日 晴
1771年　6月13日 明和8年　5月1日 曇　今日午の刻過ぎ少々降(何が降ったか:福眞) （4月中所々御関所出人都合127人:碇関103人(御印紙出56・切手紙出47)・野内19人(御印紙出16・切手紙出3)・大間越5人(切手紙出)）
1771年　6月14日 明和8年　5月2日 曇　巳の中刻より晴
1771年　6月15日 明和8年　5月3日 曇 （金銭で関係がないものを弟と申し立てたとして白戸某(6日の記述で御留守居二番組支配)を永の暇）
1771年　6月16日 明和8年　5月4日 快晴 （藤代組に狼多く鉄砲打ちを仰せ付ける）
1771年　6月17日 明和8年　5月5日 晴
1771年　6月18日 明和8年　5月6日 快晴
1771年　6月19日 明和8年　5月7日 曇　昨申の刻より雨　夜中時々今日まで （去る6日常盤組榊村で火災(1間×1間半:高無)）
1771年　6月20日 明和8年　5月8日 曇　昨日より今朝まで時々雨降
1771年　6月21日 明和8年　5月9日 曇 （馬喰町の男が亀甲町?で水死）
1771年　6月22日 明和8年　5月10日 曇　昨夜中より雨　今日終日時々雨
1771年　6月23日 明和8年　5月11日 曇　昨夜中時々風雨　今朝雨　巳の刻過ぎより晴
1771年　6月24日 明和8年　5月12日 曇　今朝卯の中刻地震
1771年　6月25日 明和8年　5月13日 曇　昨夜中雨降 （飛脚が贋印・去々年から当年までの足軽7人を弘前より三里四方追放2人を10俵召上げ長柄の者に降格）
1771年　6月26日 明和8年　5月14日 曇
1771年　6月27日 明和8年　5月15日 曇
1771年　6月28日 明和8年　5月16日 曇 （初小角豆大鰐より差上げる）
1771年　6月29日 明和8年　5月17日 曇　昨夜戌の刻より雨
1771年　6月30日 明和8年　5月18日 曇

1771年　7月1日 明和8年　5月19日 快晴
1771年　7月2日 明和8年　5月20日 快晴
1771年　7月3日 明和8年　5月21日 晴　朝の内曇
1771年　7月4日 明和8年　5月22日 曇　巳の刻過ぎより雨少々
1771年　7月5日 明和8年　5月23日 快晴 （大鰐村より初真瓜差し出す）
1771年　7月6日 明和8年　5月24日 晴　昨晩未の刻雨少し （最近天気が悪く岩木嵩湯段の入湯停止）
1771年　7月7日 明和8年　5月25日 曇
1771年　7月8日 明和8年　5月26日 快晴
1771年　7月9日 明和8年　5月27日 快晴　朝の内霧
1771年　7月10日 明和8年　5月28日 晴
1771年　7月11日 明和8年　5月29日 快晴　朝の内少々霧 （昨夜浅瀬石村庄屋の木小屋焼失（1間半×2間）・火元村預け）
1771年　7月12日 明和8年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合174人：碇関166人（御印紙出123・切手紙出43）・野内4人（御印紙出）・大間越4人（切手紙出））
1771年　7月13日 明和8年　6月2日 快晴 （去月27日出火の浅瀬石村の庄屋の村預け免許、今日御家中居宅焼失・御奉公遠慮）
1771年　7月14日 明和8年　6月3日 曇　辰の中刻頃より雨
1771年　7月15日 明和8年　6月4日 陰晴
1771年　7月16日 明和8年　6月5日 曇　今朝卯の中刻頃雨少々　今日終日時々雨降る
1771年　7月17日 明和8年　6月6日 晴
1771年　7月18日 明和8年　6月7日 陰晴
1771年　7月19日 明和8年　6月8日 陰晴　今日戌の一刻土用に入る
1771年　7月20日 明和8年　6月9日 曇　昨夜中雨　今日少々
1771年　7月21日 明和8年　6月10日 曇
1771年　7月22日 明和8年　6月11日 晴
1771年　7月23日 明和8年　6月12日 曇　今朝辰の上刻より雨　今日終日降
1771年　7月24日 明和8年　6月13日 曇　午の中刻より雨強
1771年　7月25日 明和8年　6月14日 曇　昨夜中雨　今朝も少し雨降る
1771年　7月26日 明和8年　6月15日 曇
1771年　7月27日 明和8年　6月16日 晴　朝の内曇
1771年　7月28日 明和8年　6月17日 快晴　早朝より大暑
1771年　7月29日 明和8年　6月18日 快晴　早朝より暑気甚シ （大鰐村加賀助・兵左衛門から4月21日に植えつけたものを差し出す・去年は5月10植付閏6月10日出穂・当年は植付日より日数で7日遅く節に引き合い4日早い）
1771年　7月30日 明和8年　6月19日 快晴　早朝より暑気甚シ
1771年　7月31日 明和8年　6月20日 曇
1771年　8月1日 明和8年　6月21日 曇
1771年　8月2日 明和8年　6月22日 晴　暑気甚シ
1771年　8月3日 明和8年　6月23日 快晴
1771年　8月4日 明和8年　6月24日 快晴
1771年　8月5日 明和8年　6月25日 快晴
1771年　8月6日 明和8年　6月26日 快晴　残暑甚シ （御馬廻50俵3人扶持福眞弥兵衛を代官加役に）
1771年　8月7日 明和8年　6月27日 晴
1771年　8月8日 明和8年　6月28日 晴　残暑甚強し　今日午の刻雨少々
1771年　8月9日 明和8年　6月29日 快晴　残暑甚強し
1771年　8月10日 明和8年　6月30日 晴　今日辰の上刻頃雨 （2日記述の火元の御家中の遠慮御免）
1771年　8月11日 明和8年　7月1日 快晴 （6月中所々御関所出人都合158人：碇関152人（御印紙出119・切手紙出33）・野内6人（御印紙出5・切手紙出1））
1771年　8月12日 明和8年　7月2日 快晴
1771年　8月13日 明和8年　7月3日 快晴
1771年　8月14日 明和8年　7月4日 快晴
1771年　8月15日 明和8年　7月5日 快晴
1771年　8月16日 明和8年　7月6日 快晴 （去る2日夜後潟組川崎村で夫婦喧嘩あり夫則死・女房入牢）
1771年　8月17日 明和8年　7月7日 晴　今暁寅の刻過ぎ辰の刻頃まで雨少々　申の下刻より酉の下刻頃まで雨　雷発す
1771年　8月18日 明和8年　7月8日 快晴　午の刻より曇　　下から続く　　江戸御屋敷御普請料金高7000両で先だって6500両送った・今回500両贈る）
1771年　8月19日 明和8年　7月9日 曇　丑の刻過ぎより雨　雷発す　寅の刻雨止む （大鰐村の加賀助・兵左衛門より初米6俵差上げる・去年は7月朔日・植付の日と引き合いで当年は1日早く節に引き合い3日早い、　　上に続く
1771年　8月20日 明和8年　7月10日 曇　昨日より雨　今日時々降
1771年　8月21日 明和8年　7月11日 陰晴
1771年　8月22日 明和8年　7月12日 晴 （去年11月の領内の駒と駄36839疋（駒16282・駄20557））
1771年　8月23日 明和8年　7月13日 晴　昨夜中雨少々
1771年　8月24日 明和8年　7月14日 曇　午の上刻より雨少々
1771年　8月25日 明和8年　7月15日 曇　昨夜中雨少々　今日巳の刻過ぎ雨少々
1771年　8月26日 明和8年　7月16日 晴
1771年　8月27日 明和8年　7月17日 晴　今朝卯の中刻地震壱度　同辰の上刻地震壱度
1771年　8月28日 明和8年　7月18日 陰晴　今朝霜相見得ル （蘭庭院境内墓所に男女の情死未遂・共に入牢）
1771年　8月29日 明和8年　7月19日 曇　昨夜中より雨　今日終日
1771年　8月30日 明和8年　7月20日 陰晴
1771年　8月31日 明和8年　7月21日 快晴　残暑強

1771年　9月1日 明和8年　7月22日 陰晴　今朝辰の下刻より少々風立つ
1771年　9月2日 明和8年　7月23日 曇　今朝少々雨　巳の中刻より風雨強　午の刻過ぎ止む　申の下刻雨　雷発す
1771年　9月3日 明和8年　7月24日 曇　昨夜雨少々　今朝卯の下刻より雨
1771年　9月4日 明和8年　7月25日 曇
1771年　9月5日 明和8年　7月26日 快晴
1771年　9月6日 明和8年　7月27日 陰晴　申の刻頃より雨
1771年　9月7日 明和8年　7月28日 晴
1771年　9月8日 明和8年　7月29日 曇　卯の刻過ぎ少し雨
1771年　9月9日 明和8年　8月1日 陰晴　(7月中所々御関所出人都合109人:碇関108人(御印紙出67・切手紙出41)・野内1人(御印紙出))
1771年　9月10日 明和8年　8月2日 陰晴
1771年　9月11日 明和8年　8月3日 曇　昨夜中雨時々
1771年　9月12日 明和8年　8月4日 曇　昨夜中雨時々　今日も終日降
1771年　9月13日 明和8年　8月5日 曇
1771年　9月14日 明和8年　8月6日 陰晴　(昨晩八時半頃駒越土場近所に出火・早速火鎮まる・誤報だった、福眞弥兵衛を木作新田代官に)
1771年　9月15日 明和8年　8月7日 曇　昨夜中より雨　今朝に到る
1771年　9月16日 明和8年　8月8日 陰晴　(9月23日は東泉院様(多分信牧の妹)の150回御忌(1622年に無くなったということ)であるがご法事を仰せ付けるかどうかを貞昌寺が聞いている)
1771年　9月17日 明和8年　8月9日 陰晴　今朝卯の下刻より霞ム
1771年　9月18日 明和8年　8月10日 晴
1771年　9月19日 明和8年　8月11日 陰晴
1771年　9月20日 明和8年　8月12日 晴　今日彼岸に入る
1771年　9月21日 明和8年　8月13日 晴　昨夜中雨少々
1771年　9月22日 明和8年　8月14日 曇　午の上刻より雨少々
1771年　9月23日 明和8年　8月15日 曇　昨夜中雨少々　今日巳の刻過ぎ雨少々
1771年　9月24日 明和8年　8月16日 晴
1771年　9月25日 明和8年　8月17日 晴　今朝卯の中刻地震一度　同辰の上刻地震一度発す
1771年　9月26日 明和8年　8月18日 陰晴　今朝霜相見得
1771年　9月27日 明和8年　8月19日 曇　昨夜中より雨　今日終日
1771年　9月28日 明和8年　8月20日 陰晴
1771年　9月29日 明和8年　8月21日 陰晴　昨晩酉の上刻より雨　亥の刻より強
1771年　9月30日 明和8年　8月22日 曇　今朝巳の下刻より雨降
1771年　10月1日 明和8年　8月23日 快晴
1771年　10月2日 明和8年　8月24日 曇
1771年　10月3日 明和8年　8月25日 快晴
1771年　10月4日 明和8年　8月26日 曇　昨夜中より雨　今日時々
1771年　10月5日 明和8年　8月27日 曇
1771年　10月6日 明和8年　8月28日 快晴
1771年　10月7日 明和8年　8月29日 快晴　申之刻雨少シ　虹西ニ見ユル
1771年　10月8日 明和8年　9月1日 晴　(8月中所々御関所出人都合164人:碇関156人(御印紙出113・切手紙出43)・野内8人(切手紙出)、御徒目付の跡式が相違なく倅に下置かれ御目見以下御留守居支配と仰付けられる)
1771年　10月9日 明和8年　9月2日 晴　(7月17日に蘭庭院境内で相対死を申し合わせて傷ついた男女2人を出牢・町中引廻し乞食手江相渡す:申渡は御徒目付)
1771年 10月10日 明和8年　9月3日 晴　(御家中の病死者が毎日のように出ている)
1771年 10月11日 明和8年　9月4日 快晴
1771年 10月12日 明和8年　9月5日 曇　今朝卯の刻過ぎより雨　辰の中刻頃より止む
1771年 10月13日 明和8年　9月6日 陰晴　申の刻過ぎ雷一度発す
1771年 10月14日 明和8年　9月7日 陰晴　今朝卯の刻過ぎ雷度々発す　稲光有　(去る20日御台様薨去)
1771年 10月15日 明和8年　9月8日 曇
1771年 10月16日 明和8年　9月9日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　亥の刻頃鳴動す　今日終日雨降
1771年 10月17日 明和8年　9月10日 陰晴　昨夜中雨時々降
1771年 10月18日 明和8年　9月11日 陰晴
1771年 10月19日 明和8年　9月12日 陰晴
1771年 10月20日 明和8年　9月13日 快晴
1771年 10月21日 明和8年　9月14日 快晴
1771年 10月22日 明和8年　9月15日 曇　朝の内曇　巳の下刻より雨降
1771年 10月23日 明和8年　9月16日 曇　昨夜戌の下刻少々雨時々　今朝に及ぶ
1771年 10月24日 明和8年　9月17日 快晴
1771年 10月25日 明和8年　9月18日 快晴
1771年 10月26日 明和8年　9月19日 曇　今日未之刻頃より雨
1771年 10月27日 明和8年　9月20日 曇　昨夜中雨　時々雷発す
1771年 10月28日 明和8年　9月21日 曇　昨夜中風雨　雷時々　今暁至り雪雨時々降　岩木山ニ雪見へる
1771年 10月29日 明和8年　9月22日 曇　昨夜時々雨　今朝に及ぶ　今朝卯の中刻雷発す　(御献上御鷹付添登りとして御鷹匠の新岡兼次郎あり)
1771年 10月30日 明和8年　9月23日 曇
1771年 10月31日 明和8年　9月24日 曇　昨夜中風雨時々　雷度々発す　今日終日時々雨降

1771年　11月1日 明和8年　　9月25日 曇　昨夜中雨時々　今日終日降
1771年　11月2日 明和8年　　9月26日 曇
1771年　11月3日 明和8年　　9月27日 快晴　(五所川原村で高無と大工が喧嘩の結果高無親子に戸〆30日・大工に10日とする)
1771年　11月4日 明和8年　　9月28日 快晴　昨夜中雨降
1771年　11月5日 明和8年　　9月29日 晴　(初鮭2尺御台所頭差し出す)
1771年　11月6日 明和8年　　9月30日 快晴
1771年　11月7日 明和8年　　10月1日 曇　今日申ノ上刻虹東ニ見ユル　(人事異動、9月中所々御関所出人都合73人:碇関70(御印紙出54・切手紙出16)・野内3人(御印紙出2・切手紙出1))
1771年　11月8日 明和8年　　10月2日 快晴
1771年　11月9日 明和8年　　10月3日 晴　昨夜中雨降　今朝に至り雨降(「晴　昨夜中雨降至今朝雨降」という表記である)
1771年 11月10日 明和8年　　10月4日 快晴
1771年 11月11日 明和8年　　10月5日 晴　今日巳の刻過ぎ余程地震強　(御家老森岡主膳不快・御用人笠原八郎兵衛風気でそれぞれ出仕なし)
1771年 11月12日 明和8年　　10月6日 曇　昨夜雨度々風強　今日終日雨降　(去月27日に申付けた五所川原村の戸〆免許)
1771年 11月13日 明和8年　　10月7日 曇　今日時々雨
1771年 11月14日 明和8年　　10月8日 曇　昨夜風時々吹
1771年 11月15日 明和8年　　10月9日 曇　昨夜時々雨降
1771年 11月16日 明和8年　　10月10日 晴　昨夜戌の刻より雨　今朝に及ぶ
1771年 11月17日 明和8年　　10月11日 曇　昨夜中時々雨　今日も時々雨
1771年 11月18日 明和8年　　10月12日 曇　昨夜雨降
1771年 11月19日 明和8年　　10月13日 晴
1771年 11月20日 明和8年　　10月14日 曇　昨夜風雨　今日終日雨降
1771年 11月21日 明和8年　　10月15日 曇　昨夜中より今朝まで雪五寸程降
1771年 11月22日 明和8年　　10月16日 晴　昨夜時々雪降
1771年 11月23日 明和8年　　10月17日 曇　昨夜より今朝まで少々雨降
1771年 11月24日 明和8年　　10月18日 曇　昨夜中風強　雨度々降
1771年 11月25日 明和8年　　10月19日 曇　昨夜雪少々降
1771年 11月26日 明和8年　　10月20日 曇　昨夜中雨降り　今日終日に及ぶ　(米入札:弘前沖役入れて1俵が18匁7分2厘(平米17匁5分2厘)・青森20匁9分1厘(19匁7分1厘)・鰺ヶ沢19匁7分8厘3毛(18匁5分8厘3毛))
1771年 11月27日 明和8年　　10月21日 曇　昨夜中風余程強　雪一寸ほど降る
1771年 11月28日 明和8年　　10月22日 曇　昨夜雪少々降　今日終日降
1771年 11月29日 明和8年　　10月23日 曇　昨夜中雪降
1771年 11月30日 明和8年　　10月24日 晴
1771年　12月1日 明和8年　　10月25日 快晴
1771年　12月2日 明和8年　　10月26日 快晴
1771年　12月3日 明和8年　　10月27日 快晴
1771年　12月4日 明和8年　　10月28日 快晴　昨夜中雨少々
1771年　12月5日 明和8年　　10月29日 晴
1771年　12月6日 明和8年　　11月1日 曇　昨夜中雨　今日到り終日降　(10月中所々御関所出人都合76人:碇関74(御印紙出39・切手紙出35)・野内2人(御印紙出)、去月25日夜赤石組黒埼村の道心庵焼失・火元は道心で禁足)
1771年　12月7日 明和8年　　11月2日 曇　今朝に到り終日雪降
1771年　12月8日 明和8年　　11月3日 曇　今朝巳ノ刻過迄雪降　(雪中急登りを仰せ付けられた阿部六三郎に一粒金丹3粒)
1771年　12月9日 明和8年　　11月4日 曇　今朝巳の刻まで少々宛雪降
1771年 12月10日 明和8年　　11月5日 曇　昨夜雪少々降
1771年 12月11日 明和8年　　11月6日 曇
1771年 12月12日 明和8年　　11月7日 晴
1771年 12月13日 明和8年　　11月8日 曇　昨夜七八寸雪降
1771年 12月14日 明和8年　　11月9日 曇　昨夜雪五寸ほど降
1771年 12月15日 明和8年　　11月10日 晴　昨夜中雪五寸ほど降
1771年 12月16日 明和8年　　11月11日 曇　巳の下刻頃より小雨
1771年 12月17日 明和8年　　11月12日 曇
1771年 12月18日 明和8年　　11月13日 曇　昨夜中雨降　今朝に到り雪降
1771年 12月19日 明和8年　　11月14日 晴
1771年 12月20日 明和8年　　11月15日 晴
1771年 12月21日 明和8年　　11月16日 曇　今朝辰の上刻雨　同中刻止む　雨時々
1771年 12月22日 明和8年　　11月17日 曇　今日午の刻より雨
1771年 12月23日 明和8年　　11月18日 曇　昨夜中より大風雪吹く　今日も時々雪
1771年 12月24日 明和8年　　11月19日 曇　昨夜雪少々降　寒強
1771年 12月25日 明和8年　　11月20日 晴　(当月13日より17日の晩駒越組如来瀬村の高無の家に昼夜の別なく米(1升7・8合)・銭(1文目8分)・赤大豆(7・8夕)・黒小豆(6・7夕斗)が少々宛家の屋根西南の間より降る・見物人多し)
1771年 12月26日 明和8年　　11月21日 曇
1771年 12月27日 明和8年　　11月22日 晴　昨夜より今朝五時過ぎまで雪五寸ほど降
1771年 12月28日 明和8年　　11月23日 曇　昨夜中雪少々降　今朝辰の中刻雪降
1771年 12月29日 明和8年　　11月24日 曇　　下から続く　　銀子2両と鰯1折2連宛:銀子に両という単位がある・銀子2両は金100疋より少ない:福眞)
1771年 12月30日 明和8年　　11月25日 曇　　下から続く　　物の覚え:御家老・御城代:御樽代金100疋と鰯1折3連宛、御手廻・御馬廻組頭:御樽代銀子2両鰯1折3連宛、御留守居組頭・御用人・大寄合:御樽代　　上に続く
1771年 12月31日 明和8年　　11月26日 曇　昨夜中雪四五寸ほど降　(当正月犬の噛合せの節牡丹森村半三郎を打殺した(正月7日に記述)狐森村の男を取上御仕置場で斬罪、屋形様の御疱瘡全快御祝儀の差上　　上に続く

1772年　1月1日 明和8年　11月27日 曇 (11月20日記述の如来瀬村の話を聞き取った報告がある)
1772年　1月2日 明和8年　11月28日 曇 昨夜風　雪少々降(風と雪はいつもそうだが連続:「風雪」かも知れない)
1772年　1月3日 明和8年　11月29日 曇
1772年　1月4日 明和8年　11月30日 曇 昨夜の雪五寸ほど降 (25・26日如来瀬村の関係者(高無の娘)を預け置いたらその家に銭が5文目8分・8文目その他が降ったとのこと)
1772年　1月5日 明和8年　12月1日 曇 (11月中所々御関所出人都合105人:碇関98人(御印紙出69・切手紙出29)・野内7人(御印紙出4・切手紙出3))
1772年　1月6日 明和8年　12月2日 晴 昨夜中雨降　小寒卯の四刻に入る
1772年　1月7日 明和8年　12月3日 曇 昨夜風少々　雪三寸ほど降る (昨夜七時頃茂森町で内室焼失、如来瀬村の不思議相止まず)
1772年　1月8日 明和8年　12月4日 晴 昨夜雪壱尺ほど降
1772年　1月9日 明和8年　12月5日 曇 (増館組郷山前村の男が田舎館組堂野前村で縊死)
1772年　1月10日 明和8年　12月6日 曇 (昨夜土手町の住人縊死)
1772年　1月11日 明和8年　12月7日 曇 午の中刻頃雨
1772年　1月12日 明和8年　12月8日 曇 昨夜中風立つ　今朝辰の刻過ぎ頃より雪降 (酒1升値段:7分7厘から2分3厘増に)
1772年　1月13日 明和8年　12月9日 曇 昨夜雪少々 (当月朔日六枚橋村で間懸中の船が東風で破船、如来瀬村の不思議が決着か)
1772年　1月14日 明和8年　12月10日 晴
1772年　1月15日 明和8年　12月11日 晴 昨夜中雪少々　今朝に及ぶ (金木新田今岡村で火災(4間×9間:百姓)・籾5俵・稲1500束・穂粟19俵・蕎麦8俵・稗7俵焼失)
1772年　1月16日 明和8年　12月12日 晴 (金木新田今岡村の火元の村預け免許、隠田(耕作しながら長荒れといった)百姓どもを御慈悲で出牢・郡奉行4人もお叱り)
1772年　1月17日 明和8年　12月13日 晴
1772年　1月18日 明和8年　12月14日 曇 午の刻より晴レ
1772年　1月19日 明和8年　12月15日 曇
1772年　1月20日 明和8年　12月16日 曇 昨夜より時々雪
1772年　1月21日 明和8年　12月17日 曇 昨夜中雪少々降ル (御姫様御婚礼に関し座当218人・盲女168人に15文宛の御配当)
1772年　1月22日 明和8年　12月18日 曇
1772年　1月23日 明和8年　12月19日 曇 昨夜雪五寸ほど降 (青森湊で破船1艘)
1772年　1月24日 明和8年　12月20日 曇 昨夜中雪五寸ほど降　今朝茂雪
1772年　1月25日 明和8年　12月21日 曇
1772年　1月26日 明和8年　12月22日 曇 (東泉院様150回御忌御法事に付大赦:20人に弘前並びに居村徘徊御免・重科の男を出牢十里四方追放)
1772年　1月27日 明和8年　12月23日 曇 今朝四時まで雪七寸程降ル (10月24日盗杣中の枝を当て松葉拾の他人の子供を殺した男がある・これをを匿った小栗山村庄屋・五人組を村払い)
1772年　1月28日 明和8年　12月24日 曇 昨夜雪少々 (22日和徳組組大久保村の病気の御蔵百姓切腹・自害、平館村で去月9日火災4軒・類焼の3人に米1俵ツツ御手当て下し置かれる)
1772年　1月29日 明和8年　12月25日 晴 昨夜少々雪
1772年　1月30日 明和8年　12月26日 曇 昨夜雪六・七寸降ル　風度々吹
1772年　1月31日 明和8年　12月27日 曇 昨夜雪二寸程降ル　風度々吹 (当月21日大風で根岸村下濱前で破船1艘・野田村前濱で破船1艘)
1772年　2月1日 明和8年　12月28日 晴
1772年　2月2日 明和8年　12月29日 晴 今日巳の刻まで雨　それより晴
1772年　2月3日 明和8年　12月30日 曇 今朝卯の中刻より雪降 (昨晩油河で江戸浪人2人が草履銭無心・六・七十文渡すと狼藉・搦捕り村預け……)
1772年　2月4日 明和9年　正月1日　曇 昨夜中雪五寸程降
1772年　2月5日 明和9年　正月2日　晴
1772年　2月6日 明和9年　正月3日　晴 昨夜中雪少々降
1772年　2月7日 明和9年　正月4日　曇 昨夜中雪　今日終日雪時々降
1772年　2月8日 明和9年　正月5日　晴
1772年　2月9日 明和9年　正月6日　曇 今日雪時々
1772年　2月10日 明和9年　正月7日　曇 昨四赤雪七寸程　風強吹
1772年　2月11日 明和9年　正月8日　晴 昨夜中雪少々降
1772年　2月12日 明和9年　正月9日　曇 昨夜中雪少々降
1772年　2月13日 明和9年　正月10日　晴 未の刻より時々雪
1772年　2月14日 明和9年　正月11日　晴 午の刻より雪時々
1772年　2月15日 明和9年　正月12日　晴 昨夜少々雪
1772年　2月16日 明和9年　正月13日　晴
1772年　2月17日 明和9年　正月14日　晴
1772年　2月18日 明和9年　正月15日　晴 午の刻より雪降
1772年　2月19日 明和9年　正月16日　晴
1772年　2月20日 明和9年　正月17日　曇 (人事異動)
1772年　2月21日 明和9年　正月18日　曇 昨夜中より終日雨
1772年　2月22日 明和9年　正月19日　晴
1772年　2月23日 明和9年　正月20日　曇 昨夜中より雨　今朝辰の刻頃雷発ス
1772年　2月24日 明和9年　正月21日　曇 昨夜中より雪　今日終日降
1772年　2月25日 明和9年　正月22日　晴
1772年　2月26日 明和9年　正月23日　晴 昨夜中雪三寸程降
1772年　2月27日 明和9年　正月24日　曇 今日終日雨
1772年　2月28日 明和9年　正月25日　晴
1772年　2月29日 明和9年　正月26日　晴 昨夜中時々雪降

1772年　3月1日 明和9年 正月27日　晴　昨夜少々雪降
1772年　3月2日 明和9年 正月28日　曇　昨夜雨降 （12月中碇関御関所出人都合73人（御印紙出54・切手紙出19））
1772年　3月3日 明和9年 正月29日　曇　今朝雪少々降る
1772年　3月4日 明和9年　2月1日 晴　昨夜少々雪降る
1772年　3月5日 明和9年　2月2日 晴
1772年　3月6日 明和9年　2月3日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ （昨2日晩鯵ヶ沢町の男が江戸浅草の男と口論の上殺される）
1772年　3月7日 明和9年　2月4日 晴　昨夜雪少々降
1772年　3月8日 明和9年　2月5日 快晴 （両替90目か）
1772年　3月9日 明和9年　2月6日 快晴 （去年7月6日に記述の川崎村の高無の女房を取上村で獄門）
1772年　3月10日 明和9年　2月7日 曇 （夫婦喧嘩で父を母に殺され母は獄門になった子供に父の田畑・馬・家屋敷を下し置かれる）
1772年　3月11日 明和9年　2月8日 曇
1772年　3月12日 明和9年　2月9日 快晴
1772年　3月13日 明和9年　2月10日 曇　午の刻より晴
1772年　3月14日 明和9年　2月11日 晴
1772年　3月15日 明和9年　2月12日 曇　今日終日雨降
1772年　3月16日 明和9年　2月13日 曇　巳の刻小雨
1772年　3月17日 明和9年　2月14日 曇　昨夜少々雪降　今日も時々雪ふる　　下から続く　　新兵衛がこの間（昨年かな）お定めの2疋を3疋狩取ったので御褒美1貫文（新兵衛は金200疋と銭1貫文の両方もらったことになる））
1772年　3月18日 明和9年　2月15日 曇 （在々猟師共45人中17人で熊22疋（匹）狩取る・下され金200疋（金2分に相当するか）宛・残る28人は熊を1疋も狩らなかったので下され金差し止め、駒越組大秋村の　　上に続く
1772年　3月19日 明和9年　2月16日 快晴
1772年　3月20日 明和9年　2月17日 曇
1772年　3月21日 明和9年　2月18日 曇 （御用人北原武左衛門に熊胆10文目を代銭上納の上お払いを申し立てる）
1772年　3月22日 明和9年　2月19日 曇 （御家中召使の定め：男（上80目・中70目・下は60目）・女（40～60目））
1772年　3月23日 明和9年　2月20日 曇
1772年　3月24日 明和9年　2月21日 快晴 （頃日疱瘡流行）
1772年　3月25日 明和9年　2月22日 快晴
1772年　3月26日 明和9年　2月23日 曇　今朝辰の下刻より小雨　巳の刻止む　　下から続く　　引き合い16日遅く節に引き合い4日遅い）
1772年　3月27日 明和9年　2月24日 曇　未ノ中刻より雨 （十三潟が当月21日夜九時頃より翌22日明け六時頃まで早川口より残らず氷明ける・去年は2月6日の夜中より翌7日朝までに氷明ける・当年は日数に　　上に続く
1772年　3月28日 明和9年　2月25日 曇　昨夜雨少々　今日巳の刻より雪少々　終日寒強　風立つ （古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷仰せ付ける）
1772年　3月29日 明和9年　2月26日 曇　昨夜雪降　風烈吹 （「其の方儀人情不宣者に付き御給分召し放たれ永の御暇下し置かれる」との申し渡し等処罰あり）
1772年　3月30日 明和9年　2月27日 晴
1772年　3月31日 明和9年　2月28日 晴
1772年　4月1日 明和9年　2月29日 曇　昨夜寅の刻より雨降　今日終日ふる （岩木川五歩ほど・石渡川四歩半の出水で渡し船往来なり兼ねる）
1772年　4月2日 明和9年　2月30日 晴 （2月中碇関出人都合67人（御印紙出45・切手紙出22））
1772年　4月3日 明和9年　3月1日 快晴
1772年　4月4日 明和9年　3月2日 曇　今朝卯の中刻頃より雨降　終日に及ぶ （当月25日深浦で破船2艘、去る秋麦蒔付候畑：去々寅年1014町8反余・去卯年830町3反余）
1772年　4月5日 明和9年　3月3日 快晴 （昨日碇関町同心2人が鉄砲で熊二つ打ち取る）
1772年　4月6日 明和9年　3月4日 曇　巳の下刻頃雨少々降 （一昨2日の夜九半時頃青森大町から少々出火・早速鎮まる）
1772年　4月7日 明和9年　3月5日 曇　昨夜中より雨　今日終日
1772年　4月8日 明和9年　3月6日 曇　昨夜中雨今日時々降
1772年　4月9日 明和9年　3月7日 曇　今暁寅ノ刻過雪三寸程降
1772年　4月10日 明和9年　3月8日 快晴
1772年　4月11日 明和9年　3月9日 快晴
1772年　4月12日 明和9年　3月10日 快晴
1772年　4月13日 明和9年　3月11日 晴
1772年　4月14日 明和9年　3月12日 快晴 （去月29日江戸の柳原中屋敷類焼）
1772年　4月15日 明和9年　3月13日 曇
1772年　4月16日 明和9年　3月14日 曇　子の刻過ぎより雨　今朝に及ぶ　今日終日小雨 （今暁七時半過ぎ白狐寺門前に出火・小屋1軒焼失・火元慎み）
1772年　4月17日 明和9年　3月15日 曇　昨夜中小雨　今日時々小雨　申の下刻雷発す　今夜亥の刻月蝕（「虫偏に食」の誤字）皆既 （仙台から紅花の種2石8斗を買い調え蒔き付けを進めている・殖産興業?）
1772年　4月18日 明和9年　3月16日 曇　昨夜雨少々 （2日青森大町出火の火元の戸〆免許）
1772年　4月19日 明和9年　3月17日 曇　今朝より終日雨降 （当月11日出火の長峰村の高無の他村預け免許）
1772年　4月20日 明和9年　3月18日 曇　昨夜中雪五寸ほど降
1772年　4月21日 明和9年　3月19日 陰晴 （3月14日夜出来島領で岩崎村の船が破船）
1772年　4月22日 明和9年　3月20日 晴 （五山に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1772年　4月23日 明和9年　3月21日 快晴
1772年　4月24日 明和9年　3月22日 晴
1772年　4月25日 明和9年　3月23日 晴
1772年　4月26日 明和9年　3月24日 曇　昨夜中より雨　今日卯の中刻まて降
1772年　4月27日 明和9年　3月25日 曇　今朝辰の刻より雨少々
1772年　4月28日 明和9年　3月26日 快晴　昨夜丑の刻過ぎ地震　明けまての内三度 （今暁八時過ぎ地震、昨夜の地震にて二之丸御宝蔵腰瓦所々痛損：「今暁」と「昨夜」が同じことを示しているのか：福眞）
1772年　4月29日 明和9年　3月27日 晴　今日巳の刻頃地震　同下刻より曇
1772年　4月30日 明和9年　3月28日 陰晴

1772年　5月1日 明和9年　3月29日 快晴　今朝辰の中刻地震
1772年　5月2日 明和9年　3月30日 快晴
1772年　5月3日 明和9年　4月1日 晴　(3月中所々御関所出人都合281人:碇関267人(御印紙出104・切手紙出163)・大間越5人(切手紙出)・野内9人(切手紙出))
1772年　5月4日 明和9年　4月2日 晴　昨夜中時々雨風　今日辰の刻過ぎに到り少々風雨　終日吹く(晴　昨夜中時々雨風到今日辰之刻過少々風雨終日吹ク)
1772年　5月5日 明和9年　4月3日 快晴　午の中刻地震少々　未の刻右同(ここまで1行に書いてある・未の刻にも地震があったのであれば地震は右ではなく上に書いてある・右同という言葉があったのか:福眞)
1772年　5月6日 明和9年　4月4日 快晴
1772年　5月7日 明和9年　4月5日 曇　辰の刻少し雨　今朝虹見る　(当月朔日田代村から帰る川原平村の男が湯之沢川で流死)
1772年　5月8日 明和9年　4月6日 曇
1772年　5月9日 明和9年　4月7日 曇
1772年　5月10日 明和9年　4月8日 晴
1772年　5月11日 明和9年　4月9日 曇　(弘前一般疱瘡時行、去年10月24日盗杣中の枝を当て松葉拾の他人の子供を殺した男(12月23日記述あり)を居村より十里四方追放)
1772年　5月12日 明和9年　4月10日 曇
1772年　5月13日 明和9年　4月11日 曇　午の刻過ぎより雨少々
1772年　5月14日 明和9年　4月12日 快晴　(去る11日朝五時横内組横内村で火災15軒(2間×3間～4間×9間:全部高無)・雑駄1疋当歳駒1疋焼斃・火元他村預け)
1772年　5月15日 明和9年　4月13日 快晴　(去る9日亀田村の火元の村預け免許)
1772年　5月16日 明和9年　4月14日 快晴
1772年　5月17日 明和9年　4月15日 曇
1772年　5月18日 明和9年　4月16日 晴　昨夜中雨少々降
1772年　5月19日 明和9年　4月17日 曇　昨日よりの雨今日終日降　(11日出火の横内村の火元の他村預け免許)
1772年　5月20日 明和9年　4月18日 晴　昨夜より少々雨降　(16日御手廻りの妻切腹・死亡)
1772年　5月21日 明和9年　4月19日 晴　(去る朔日大風で長濱に破船がありその船頭が言うには:私共が着く前に近郷の者が集まり切り殺すような躰で諸道具・衣類・金銭を集めている)
1772年　5月22日 明和9年　4月20日 陰晴　辰の刻過ぎ小雨降
1772年　5月23日 明和9年　4月21日 快晴
1772年　5月24日 明和9年　4月22日 快晴
1772年　5月25日 明和9年　4月23日 曇
1772年　5月26日 明和9年　4月24日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨
1772年　5月27日 明和9年　4月25日 晴　昨夜中雨　今朝に及び時々雨
1772年　5月28日 明和9年　4月26日 晴　朝の内曇ル
1772年　5月29日 明和9年　4月27日 晴
1772年　5月30日 明和9年　4月28日 なし(日記はあるが天気の記載がない)
1772年　5月31日 明和9年　4月29日 快晴
1772年　6月1日 明和9年　5月1日 快晴　昨夜酉の刻過ぎ少々雨降　(4月中所々御関所出人都合225人:碇関201人(御印紙出57・切手紙出144)・野内16人(御印紙出14・切手紙出2)・大間越8人(切手紙出))
1772年　6月2日 明和9年　5月2日 快晴
1772年　6月3日 明和9年　5月3日 快晴　昨夜丑の刻頃地震一度　今日巳の中刻頃地震強　(四時過ぎ地震強く二之丸江御家老・御用人が御機嫌伺い)
1772年　6月4日 明和9年　5月4日 曇　辰の刻過ぎより小雨　巳の刻過ぎより雨強
1772年　6月5日 明和9年　5月5日 曇
1772年　6月6日 明和9年　5月6日 晴　昨夜中風雨強し　朝の内曇
1772年　6月7日 明和9年　5月7日 晴　昼頃より風吹　(今5日長濱にて能代の船が破船)
1772年　6月8日 明和9年　5月8日 曇　昨夜中小雨　今朝霧雨　(四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1772年　6月9日 明和9年　5月9日 陰晴　昨夜小雨時々降
1772年　6月10日 明和9年　5月10日 晴　酉の初尅少々地震
1772年　6月11日 明和9年　5月11日 晴
1772年　6月12日 明和9年　5月12日 晴
1772年　6月13日 明和9年　5月13日 快晴　辰の刻過ぎ地震　(昨夜九時過ぎ土手町で出火)
1772年　6月14日 明和9年　5月14日 快晴
1772年　6月15日 明和9年　5月15日 快晴
1772年　6月16日 明和9年　5月16日 曇　昨夜中雨降　(先日(18日の記述で11日)赤石組舞戸村で火災34軒・火元他村預け)
1772年　6月17日 明和9年　5月17日 曇
1772年　6月18日 明和9年　5月18日 曇　(11日出火の舞戸村の火元の他村預け免許)
1772年　6月19日 明和9年　5月19日 曇　(昨18日十三町で大火・郡奉行勘定奉行を派遣する・雨天に付大方火も鎮まる、御徒目付に山上七郎左衛門)
1772年　6月20日 明和9年　5月20日 曇　昨夜雨　今日も終日降　(土手町の火元の戸〆御免、大円寺の仁王尊が御出汗・先例がなくあたふた、十三町に火災・3軒焼失左右4軒取り潰し・火元寺落)
1772年　6月21日 明和9年　5月21日 快晴　昨夜中雨少々降
1772年　6月22日 明和9年　5月22日 曇　昨夜中雨少々
1772年　6月23日 明和9年　5月23日 陰晴　下から続く　3人扶持のほうが多いのかな:福眞)
1772年　6月24日 明和9年　5月24日 曇　昨夜申の刻よりの雨今日終日降　(来月11日御着城予定、神明宮に五穀成就の御祈祷を仰付ける、御鷹匠45俵無扶持を30俵3人扶持にと願う・蹴られる:15俵と3人扶持では　上に続く
1772年　6月25日 明和9年　5月25日 曇　昨宵酉の刻より雨　夜中時々降　(天気不止に付き嵩並びに湯段の湯治停止)
1772年　6月26日 明和9年　5月26日 快晴　今朝小雨降
1772年　6月27日 明和9年　5月27日 快晴
1772年　6月28日 明和9年　5月28日 快晴　(大坂町人共江一粒金丹30粒)
1772年　6月29日 明和9年　5月29日 快晴　(当月12日内真部で破船1艘)
1772年　6月30日 明和9年　5月30日 快晴

1772年　7月1日 明和9年　6月1日 曇　午の中刻頃より雨降　未の刻止む （5月中所々御関所出人都合90人：碇関79人（御印紙出54・切手紙出25）・野内6人（御印紙出1・切手紙出5）・大間越5人（切手紙出）、　下に続く
1772年　7月2日 明和9年　6月2日 曇　辰の刻過ぎより小雨　上から続く　大鰐村より初真瓜・初茄子献上、（御鷹匠）新岡兼次郎願いの通り隠居・倅左太郎?を御目見以下御留守居支配に）
1772年　7月3日 明和9年　6月3日 快晴
1772年　7月4日 明和9年　6月4日 快晴
1772年　7月5日 明和9年　6月5日 曇　昨夜雨降　今朝に至　巳の中刻雷発す
1772年　7月6日 明和9年　6月6日 快晴　昨夜中雨　今日巳の刻前雨少々　則刻晴 （赤石組代官が舞戸村の出火に伴う難儀について藩にお手当てを願った・出来ないとのことで近在の補助を募った・15人から差し出された）
1772年　7月7日 明和9年　6月7日 陰晴　申ノ刻過ぎより小雨　亥の上刻より雨強シ
1772年　7月8日 明和9年　6月8日 曇　昨夜の雨今日に至る　巳の中刻より止む （大鰐村より初茄子差上げる、18日出火の十三町の火元の寺落免許）
1772年　7月9日 明和9年　6月9日 晴
1772年　7月10日 明和9年　6月10日 晴　午の上刻より曇
1772年　7月11日 明和9年　6月11日 曇 （土手町の壱里塚削りなおし出来?、屋形様が去月晦日江戸御発駕）
1772年　7月12日 明和9年　6月12日 快晴 （去月27日下濱で隠し津出米75俵押える・犯人逃げ去る）
1772年　7月13日 明和9年　6月13日 曇
1772年　7月14日 明和9年　6月14日 快晴　午の刻過ぎ風立つ （藤崎組藤崎村に六十六部が8人居る・碇関口より送り返す）
1772年　7月15日 明和9年　6月15日 快晴　昨夜酉の刻雷発す　戌の刻止む （戌の年（明和3年）地震・亥の年（明和4年）凶作・一昨年（明和7年）江戸御上屋敷御類焼……）
1772年　7月16日 明和9年　6月16日 快晴
1772年　7月17日 明和9年　6月17日 晴 （屋形様今日午の刻過ぎ御着城）
1772年　7月18日 明和9年　6月18日 快晴
1772年　7月19日 明和9年　6月19日 曇　今暁丑の初刻土用に入る　今朝辰の刻過ぎ小雨降
1772年　7月20日 明和9年　6月20日 快晴
1772年　7月21日 明和9年　6月21日 快晴
1772年　7月22日 明和9年　6月22日 曇　朝の内曇　巳の刻過ぎより少々雨 （7月25日は荘厳院様（土佐守信義公様の御母君：大館御前）の150回御忌）
1772年　7月23日 明和9年　6月23日 曇　昨夜中雨降
1772年　7月24日 明和9年　6月24日 快晴
1772年　7月25日 明和9年　6月25日 曇　今日巳の下刻より雨降 （和徳稲荷並びに五穀神に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1772年　7月26日 明和9年　6月26日 曇 （御料理名あり）
1772年　7月27日 明和9年　6月27日 曇　今日見の下刻地震少し　昨夜中より雨今日に至る
1772年　7月28日 明和9年　6月28日 陰晴 （御能）
1772年　7月29日 明和9年　6月29日 曇 （神明・八幡両社に日和揚げ五穀成就の御神楽仰せ付ける、去る25日上野村で出火・火元村預け免許、当月19日深浦前浜で破船）
1772年　7月30日 明和9年　7月1日 曇　昨夜中より雨少々　今日時々 （6月中所々御関所出人都合146人：碇関142人（御印紙出96・切手紙出46）・野内4人（御印紙出2・切手紙出2）、山野角次郎を御用人に）
1772年　7月31日 明和9年　7月2日 曇　昨夜中時々雨　今日午の下刻雨少々 （昨日昼頃新鍛冶町で出火）
1772年　8月1日 明和9年　7月3日 曇
1772年　8月2日 明和9年　7月4日 曇　午の刻より晴
1772年　8月3日 明和9年　7月5日 晴
1772年　8月4日 明和9年　7月6日 快晴　昨夜中より今朝まて甚冷し （大鰐村より出穂上がる・4月25日植付・当年は去年に比べ植付日よりの日数が13日遅く節に引合ても7日遅い）
1772年　8月5日 明和9年　7月7日 快晴　昨夜中少々雨降
1772年　8月6日 明和9年　7月8日 曇　今朝辰の刻より小雨　尤も朝の内西方虹見る
1772年　8月7日 明和9年　7月9日 曇　今日午の中刻雨降
1772年　8月8日 明和9年　7月10日 曇　昨夜酉の中刻雷少々　稲光二・三度　夜中雨今朝に到る
1772年　8月9日 明和9年　7月11日 晴
1772年　8月10日 明和9年　7月12日 晴　今朝辰の刻雨少々 （去る8日後潟組山下村で火災・火元他村預け免許、当年有駒：16953疋、当年米穀日増しに高値）
1772年　8月11日 明和9年　7月13日 快晴
1772年　8月12日 明和9年　7月14日 快晴 （13日の晩鯵ヶ沢七ツ石町で兄の女房と密通した男がその女房と自害騒動）
1772年　8月13日 明和9年　7月15日 曇　今朝辰の刻前雨少々　巳の上刻頃甚だしく午の刻過ぎ少し晴る
1772年　8月14日 明和9年　7月16日 曇　申の刻より雨　夜に入る
1772年　8月15日 明和9年　7月17日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の中刻より晴る
1772年　8月16日 明和9年　7月18日 晴
1772年　8月17日 明和9年　7月19日 快晴
1772年　8月18日 明和9年　7月20日 陰晴　午の刻より雨　申の刻頃より風立つ
1772年　8月19日 明和9年　7月21日 曇　午の刻過ぎより晴 （13日晩自害騒動の鯵ヶ沢の女房死亡・男は入牢中、昨夜暮六時過ぎ御家中（御手廻）が乱心妻を手打ちにし切腹・隣家の御中小姓も負傷）
1772年　8月20日 明和9年　7月22日 快晴
1772年　8月21日 明和9年　7月23日 晴
1772年　8月22日 明和9年　7月24日 晴
1772年　8月23日 明和9年　7月25日 晴　辰の中刻雨少々 （久渡寺より真桑瓜差上げる、粒油が高いので水油1升を4文目5分にとの申し出でに・秋の粒油が出盛りまで4文目に申付ける）
1772年　8月24日 明和9年　7月26日 陰晴　今日時々雨 （取上御仕置場で2月2日鯵ヶ沢の殺人者斬罪）
1772年　8月25日 明和9年　7月27日 曇 （打続天気不宜に付き嵩・湯段への湯治並びに岩木山参詣停止）
1772年　8月26日 明和9年　7月28日 晴
1772年　8月27日 明和9年　7月29日 曇　今日時々雨降
1772年　8月28日 明和9年　7月30日 快晴
1772年　8月29日 明和9年　8月1日 快晴 （7月中所々御関所出人都合136人：碇関133人（御印紙出81・切手紙出52）・野内3人（御印紙出）、大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる）
1772年　8月30日 明和9年　8月2日 陰晴　申の刻より少々雨 （百澤寺より苔の実差上げる）
1772年　8月31日 明和9年　8月3日 快晴　昨夜始終大雨

1772年　9月1日 明和9年　8月4日 快晴
1772年　9月2日 明和9年　8月5日 快晴　昨夜子の刻雷発す　雨少々降
1772年　9月3日 明和9年　8月6日 曇　辰の刻過ぎ少々雨
1772年　9月4日 明和9年　8月7日 晴
1772年　9月5日 明和9年　8月8日 快晴　(初鮭1尺後潟組大川平村より上がる)
1772年　9月6日 明和9年　8月9日 曇　午の刻過ぎ小雨　風少々立つ
1772年　9月7日 明和9年　8月10日 陰晴
1772年　9月8日 明和9年　8月11日 なし(日記はあるが天候の記述なし)
1772年　9月9日 明和9年　8月12日 晴
1772年　9月10日 明和9年　8月13日 曇　(江戸で一昨朔日大雨・昨2日大風雨四つ目通り御屋敷焼失)
1772年　9月11日 明和9年　8月14日 曇
1772年　9月12日 明和9年　8月15日 陰晴　(今日　八幡　神輿　通御……)
1772年　9月13日 明和9年　8月16日 快晴
1772年　9月14日 明和9年　8月17日 快晴　巳の刻より曇ル　(御家中の馬術高覧)
1772年　9月15日 明和9年　8月18日 曇　巳の中刻雨降
1772年　9月16日 明和9年　8月19日 曇
1772年　9月17日 明和9年　8月20日 晴　朝の内曇　(御家中馬術高覧)
1772年　9月18日 明和9年　8月21日 曇　今朝辰の下刻より雨終日降　未之下刻より風強し　申の刻過ぎ風止む
1772年　9月19日 明和9年　8月22日 曇　昨夜中時々雨　今日も時々雨　(今日宇和野で大組・御持筒の野稽古高覧)
1772年　9月20日 明和9年　8月23日 曇　昨夜中風少々　(舞囃子、昨夜四時過ぎ駒越川渡し守居小屋出火)
1772年　9月21日 明和9年　8月24日 快晴　(船小屋焼失の駒越川渡し守共3人を村預け)
1772年　9月22日 明和9年　8月25日 快晴
1772年　9月23日 明和9年　8月26日 陰晴
1772年　9月24日 明和9年　8月27日 快晴　(大組・御持足軽の野稽古高覧、去る22日出火の駒越川渡し守3人の村預け免許)
1772年　9月25日 明和9年　8月28日 快晴
1772年　9月26日 明和9年　8月29日 曇
1772年　9月27日 明和9年　9月1日 快晴　(8月中所々御関所出人都合90人:碇関88人(御印紙出71・切手紙出17)・野内2人(御印紙出))
1772年　9月28日 明和9年　9月2日 陰晴　(今日馬術高覧)
1772年　9月29日 明和9年　9月3日 曇　昨夜中大風　寅の下刻止む　(国上寺門前の19日前の火元の戸〆免許)
1772年　9月30日 明和9年　9月4日 曇　昨夜酉の刻過ぎ雨少々
1772年　10月1日 明和9年　9月5日 晴
1772年　10月2日 明和9年　9月6日 晴　(今朝五時の御供揃えにて諸手足軽の野稽古高覧)
1772年　10月3日 明和9年　9月7日 快晴　(荘厳院様150回御忌に伴い大赦:居村徘徊御免5人)
1772年　10月4日 明和9年　9月8日 快晴
1772年　10月5日 明和9年　9月9日 晴　巳の中刻小雨　風少々　度々曇　(人事異動)
1772年　10月6日 明和9年　9月10日 曇　午の刻より雨
1772年　10月7日 明和9年　9月11日 曇　今日時々雨降　(去る7日夜浅瀬石村で火災・火元高無村預け・免許)
1772年　10月8日 明和9年　9月12日 曇　今日時々雨　卯の刻頃より風立つ　(天気不勝に付き大円寺で日和揚げの御祈祷を仰せ付ける)
1772年　10月9日 明和9年　9月13日 快晴
1772年 10月10日 明和9年　9月14日 快晴　下から続く　丑の六刻甚し　寅の六刻西ノ方ニ終わる
1772年 10月11日 明和9年　9月15日 快晴　日の色少々赤し　中央青雲　四方灰の色の雲立つ　四方山々相見えず　申の刻過ぎより岩木山少々見える　終日に及ぶ　今夜月蝕皆既　子の五刻東の方より欠初め　上に続く
1772年 10月12日 明和9年　9月16日 快晴　(近衛様に御入内の御祝儀として金200両を送っている)
1772年 10月13日 明和9年　9月17日 曇　申の下刻より雨少々
1772年 10月14日 明和9年　9月18日 晴
1772年 10月15日 明和9年　9月19日 陰晴
1772年 10月16日 明和9年　9月20日 曇
1772年 10月17日 明和9年　9月21日 晴
1772年 10月18日 明和9年　9月22日 曇　昨夜中雨少々降
1772年 10月19日 明和9年　9月23日 曇　昨夜中雨少々
1772年 10月20日 明和9年　9月24日 曇　午の刻頃より晴
1772年 10月21日 明和9年　9月25日 曇　昨夜中より雨　今日に至る　申の下刻より晴ル
1772年 10月22日 明和9年　9月26日 快晴
1772年 10月23日 明和9年　9月27日 晴　昨夜より今朝七時頃まで雨少々　雷発ス
1772年 10月24日 明和9年　9月28日 曇　今朝岩木山江雪見ゆる
1772年 10月25日 明和9年　9月29日 快晴
1772年 10月26日 明和9年　10月1日 快晴　(9月中所々御関所出人都合120人:碇関113人(御印紙出75・切手紙出38)・野内4人(御印紙出3・切手紙出1)・大間越3人(御印紙出)、「宣下」に平出・欠字の例あり)
1772年 10月27日 明和9年　10月2日 快晴　(暦は江戸天文方で作り京都の陰陽博士が日取りの吉凶を入れるといった暦の作り方あり)
1772年 10月28日 明和9年　10月3日 曇　昨夜中より雨　今日終日降　西の方に虹見得ル(西の方に虹見える)
1772年 10月29日 明和9年　10月4日 晴　昨夜中申の刻過ぎ雪少々降　夜中時々雨降
1772年 10月30日 明和9年　10月5日 曇
1772年 10月31日 明和9年　10月6日 曇　昨夜中雨降

1772年　11月1日 明和9年　　10月7日 曇　今朝卯の刻より雨降　終日
1772年　11月2日 明和9年　　10月8日 快晴　(御家中の半知御借米が数年(明和5年から3年・一昨年江戸御上屋敷類焼でさらに3年)に及ぶので当年と来年は御借米の内百石に50俵をお手当てとして下し置かれる)
1772年　11月3日 明和9年　　10月9日 快晴
1772年　11月4日 明和9年　10月10日 快晴　(勘定人が自害死亡)
1772年　11月5日 明和9年　10月11日 快晴
1772年　11月6日 明和9年　10月12日 曇　今日卯の刻より小雨
1772年　11月7日 明和9年　10月13日 曇　昨夜中雨降　今朝に及ぶ
1772年　11月8日 明和9年　10月14日 なし(日記はあるが天候の記述なし)　(粒油払底に付き1升4文目値段(7月25日)を6文目に申し出・1升5文目値段に申付ける)
1772年　11月9日 明和9年　10月15日 晴　(日記物書き・同加勢見習い等人数を増やしている)
1772年 11月10日 明和9年　10月16日 曇　昨夜中雨降　今朝に至り終日降　(例年御貯米五千俵宛御蔵納仰付られ候得共当作不熟に付き当年の御蔵納は止める)
1772年 11月11日 明和9年　10月17日 曇　昨夜中雨風終夜　今朝に及び晴
1772年 11月12日 明和9年　10月18日 曇　昨夜中風雨強　今朝初雪降　雷少々発す
1772年 11月13日 明和9年　10月19日 陰晴　(寒造りまでの内酒1升1文目2分値段に仰せ付ける)
1772年 11月14日 明和9年　10月20日 曇　昨夜中雨少々　卯の下刻虹見ゆる　午の刻過ぎより小雨　未の刻虹見ゆる
1772年 11月15日 明和9年　10月21日 曇　今朝雪少々
1772年 11月16日 明和9年　10月22日 曇　昨夜中雪少々降
1772年 11月17日 明和9年　10月23日 曇　昨夜中よりの雨今日終日　(米の密売が多数摘発されている、御附人数御役料をほぼ半減(御家老衆90両40人扶持→金40両20人扶持・四奉行高50俵→30俵など))
1772年 11月18日 明和9年　10月24日 曇　昨夜少々雨降　今朝に至り雪
1772年 11月19日 明和9年　10月25日 曇　昨夜中雨降
1772年 11月20日 明和9年　10月26日 曇　朔夜中少々小雨降　(兄嫁と密通・相対死させた(7月13日かな)鯵ヶ沢七つ石町の男が取上御仕置場で斬罪)
1772年 11月21日 明和9年　10月27日 晴　未の刻雷発す　申の刻雨降
1772年 11月22日 明和9年　10月28日 曇　昨夜中時々雨降　(御慰の御囃子)
1772年 11月23日 明和9年　10月29日 曇　昨夜中風立つ
1772年 11月24日 明和9年　10月30日 晴
1772年 11月25日 明和9年　　11月1日 曇　今朝辰の上刻より雨終日　(10月中所々御関所出人都合105人:碇関99人(御印紙出51・切手紙出48)・大間越3人(御印紙出2・切手紙出1)・野内3人(御印紙出)、人事異動)
1772年 11月26日 明和9年　　11月2日 快晴
1772年 11月27日 明和9年　　11月3日 曇
1772年 11月28日 明和9年　　11月4日 曇　昨夜中雨少々　(去月27日金井沢沖で能代船が乗り捨てられ破船)
1772年 11月29日 明和9年　　11月5日 曇　昨夜中より風立つ　今朝雪降　申の刻より雨　酉の下刻より晴
1772年 11月30日 明和9年　　11月6日 陰晴　今朝終日雪　(去る2日平館前浜に今別の丸木舟が破船)
1772年　12月1日 明和9年　　11月7日 曇　昨夜中雪　今朝四寸程降　今日終日に及ぶ(昨夜中雪今朝四寸程降今日終日及)
1772年　12月2日 明和9年　　11月8日 曇
1772年　12月3日 明和9年　　11月9日 曇　今四時迄小雨降　(初鱈御肴屋より差上げる)
1772年　12月4日 明和9年　10月10日 陰晴
1772年　12月5日 明和9年　11月11日 曇　(在々で時疫・大円寺で御祈祷の上御守札を渡す)
1772年　12月6日 明和9年　11月12日 晴
1772年　12月7日 明和9年　11月13日 曇　昨夜中時々雨　今日午の刻過ぎ雨降
1772年　12月8日 明和9年　11月14日 曇　昨夜中より今暁まて雨時々
1772年　12月9日 明和9年　11月15日 曇　昨夜より雪　今日終日寒強
1772年 12月10日 明和9年　11月16日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1772年 12月11日 明和9年　11月17日 曇晴
1772年 12月12日 明和9年　11月18日 快晴
1772年 12月13日 明和9年　11月19日 快晴　　下から続く　　当年は日数に引き合い8日遅く節に引き合い3日早い)
1772年 12月14日 明和9年　11月20日 曇　昨夜戌の刻過ぎより雨　今朝卯の刻晴る　(当月16日の九つ時頃より17日朝までに十三潟が早川口より残らず氷張る・去年は9日夜九つ時頃より10日の朝までに氷張る・　　上に続く
1772年 12月15日 明和9年　11月21日 曇　今日時々雪降　　下から続く　　高24960石余(検見引10746石余)・中通飯詰・金木組の高17817石余(11476石余)・浦町・油川・後潟組の高20501石余(9609石余)　　欄外(*)に続く
1772年 12月16日 明和9年　11月22日 晴　朝之内曇ル　(当大廻御検見場所見分の表:東根通大鰐・尾崎・大光寺・猿賀・堀越組の高27175石5斗6升4合(内田畑検見引き2907石4斗4升2合)・赤田・広田・広須組の　　上に続く
1772年 12月17日 明和9年　11月23日 晴
1772年 12月18日 明和9年　11月24日 晴　今朝辰の上刻少々雪降
1772年 12月19日 明和9年　11月25日 曇　昨夜中より雪今朝に及ぶ
1772年 12月20日 明和9年　11月26日 晴　昨夜中雪少々
1772年 12月21日 明和9年　11月27日 晴
1772年 12月22日 明和9年　11月28日 曇　昨夜中より雨　今朝に至る　(古懸不動尊御出汗)
1772年 12月23日 明和9年　11月29日 曇　昨夜中風余程強ク　今日時々雪
1772年 12月24日 明和9年　　12月1日 曇　昨夜中時々雪　(11月中所々御関所出人都合207人:碇関206人(御印紙出182・切手紙出24)・野内1人(切手紙))
1772年 12月25日 明和9年　　12月2日 曇　昨夜より今日終日時々雪　(去月24日金木組松野木村で一宿の伊勢参宮男病死)
1772年 12月26日 明和9年　　12月3日 晴　今朝少々雪降
1772年 12月27日 明和9年　　12月4日 晴　朝の内曇ル
1772年 12月28日 明和9年　　12月5日 晴
1772年 12月29日 明和9年　　12月6日 晴　午の中刻より曇
1772年 12月30日 明和9年　　12月7日 曇　昨夜小雨少々
1772年 12月31日 明和9年　　12月8日 陰晴　朝の内曇　少々雪降　(御年始差上げ方の中に平三郎様から(御太刀一腰・御馬代銀2両)あり)
(*)　・西根通り駒越・高杉組の高23063石余(9257石余)・東通和徳・藤崎組の高28633石余(8801石余)・西根通り藤代・赤石組の高13610石余(3447石余)・田舎館・浪岡・横内組の高19133石余(7790石余))

1773年　1月1日 明和9年　12月9日 曇　時々雪降
1773年　1月2日 明和9年　12月10日 曇　昨夜中時々雪降 （今日御家中二男三男まで(の)剣術高覧、黒ひげの稲種を去々年植えたら成績良し・黒ひげの出穂は白稲より三・四日後れるがかかみ(屈み)早い）
1773年　1月3日 明和9年　12月11日 曇
1773年　1月4日 明和9年　12月12日 晴 （今日御家中二男三男まで剣術仕方高覧、改元:年号安永）
1773年　1月5日 明和9年　12月13日 曇　午の三刻小寒に入る
1773年　1月6日 明和9年　12月14日 晴 （当耕作初:種浸2月14日より・田打3月11日・種蒔付3月19日・塊掻4月朔日・田植5月朔日・草切6月朔日・出穂7月6日・稲刈9月10日・稲村納9月25日）
1773年　1月7日 明和9年　12月15日 晴 （去月25日に安永と改元）
1773年　1月8日 明和9年　12月16日 曇　昨夜中風吹　時々雨降　今朝に至り終日(曇　昨夜中風吹時々雨降今朝至り終日）
1773年　1月9日 明和9年　12月17日 曇　昨夜中風吹
1773年　1月10日 明和9年　12月18日 晴
1773年　1月11日 明和9年　12月19日 晴
1773年　1月12日 明和9年　12月20日 晴
1773年　1月13日 明和9年　12月21日 曇　昨夜中より今日終日雪降 （7日油川組山内村で火災・村預けの記述なく・御収納米の上納御免とす、博打の6人居村より三里四方追放・家財は妻子に下される・領外の2人は送り返す）
1773年　1月14日 明和9年　12月22日 陰晴
1773年　1月15日 明和9年　12月23日 快晴
1773年　1月16日 明和9年　12月24日 曇　今日時々丸雪降ル
1773年　1月17日 明和9年　12月25日 晴　今暁より巳の刻まで雪降　巳の中刻より晴ル
1773年　1月18日 明和9年　12月26日 晴 （御能）
1773年　1月19日 明和9年　12月27日 晴
1773年　1月20日 明和9年　12月28日 晴 （御茶口切御祝儀御能、高50石の御家中の諸上納差し引きがある、御中小姓見習い福眞伴左衛門が無足なので御手当て銀2枚）
1773年　1月21日 明和9年　12月29日 なし(日記はあるが天候の記述なし）（人事異動）
1773年　1月22日 明和9年　12月30日 曇　時々雪吹
1773年　1月23日 安永2年　正月1日　曇　昨夜中よりの雪今朝に及ぶ
1773年　1月24日 安永2年　正月2日　晴
1773年　1月25日 安永2年　正月3日　曇　今日時々雪 （吉礼金差上げる、今晩御謡初）
1773年　1月26日 安永2年　正月4日　曇　昨夜雪少々　今暁風強　今日時々風立つ
1773年　1月27日 安永2年　正月5日　陰晴　昨夜中雪七八寸積ル　今日時々雪
1773年　1月28日 安永2年　正月6日　晴　昨夜中雪壱尺余積ル　四方山々之岸曇　岩木山快晴にて見ゆる
1773年　1月29日 安永2年　正月7日　曇　昨夜中雪　今日午の刻より晴 （七種の御祝儀）
1773年　1月30日 安永2年　正月8日　晴　辰の刻過ぎ小雨
1773年　1月31日 安永2年　正月9日　陰晴
1773年　2月1日 安永2年　正月10日　曇　時々雪 （去月20日夜三馬屋で水主が海中に落ち死亡）
1773年　2月2日 安永2年　正月11日　快晴 （人事異動）
1773年　2月3日 安永2年　正月12日　快晴　昨夜中雪　今朝より晴ル
1773年　2月4日 安永2年　正月13日　曇　昨夜より今日時々雪 （御能）
1773年　2月5日 安永2年　正月14日　快晴　昨夜中小雪　今暁より晴 （銀子2両・銀1枚との用語あり）
1773年　2月6日 安永2年　正月15日　曇　今日時々雨
1773年　2月7日 安永2年　正月16日　晴
1773年　2月8日 安永2年　正月17日　曇　昨夜より今暁まで雪降 （12月中所々御関所出人都合174人:碇関164人(御印紙出128・切手紙出36)・野内10人(御印紙出3・切手紙出7)）
1773年　2月9日 安永2年　正月18日　曇　昨夜中時々雪降
1773年　2月10日 安永2年　正月19日　陰晴
1773年　2月11日 安永2年　正月20日　陰晴
1773年　2月12日 安永2年　正月21日　快晴
1773年　2月13日 安永2年　正月22日　快晴 （当月17日夜今別村領奥平部前浜に長さ5尋ほどの鯨が流れ寄せる）
1773年　2月14日 安永2年　正月23日　陰晴
1773年　2月15日 安永2年　正月24日　晴
1773年　2月16日 安永2年　正月25日　晴
1773年　2月17日 安永2年　正月26日　曇　今朝辰の刻より雨時々
1773年　2月18日 安永2年　正月27日　晴
1773年　2月19日 安永2年　正月28日　曇　昨夜雪時々　今朝に及ぶ
1773年　2月20日 安永2年　正月29日　曇　昨夜より雪　今朝に及ぶ
1773年　2月21日 安永2年　2月1日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ （6月中所々御関所出人都合146人:碇関145人(御印紙出135・切手紙出10)・野内1人(切手紙出)）
1773年　2月22日 安永2年　2月2日 陰晴 （津軽坂村などで無手形米の輸送を摘発・米は取り押さえた者に下し置かれ馬は入札払い(藩の収入かな:福眞)とする、寅の年(安永2年は巳年)より去る極月　欄外(*)に続く
1773年　2月23日 安永2年　2月3日 陰晴
1773年　2月24日 安永2年　2月4日 快晴 （木作新田の難儀の者共に重立ちの百姓より補助:米30俵2斗・籾101俵・味噌9貫500目）
1773年　2月25日 安永2年　2月5日 曇　午の刻より小雪
1773年　2月26日 安永2年　2月6日 曇 （金1両が101文目?）
1773年　2月27日 安永2年　2月7日 晴　未の刻地震
1773年　2月28日 安永2年　2月8日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
(*) までの尾太銅山の出鉛高2270箇・現在の大坂では鉛1箇が正銀165文目・同所の両替68文目・鉛1箇を金に直すと2両1分と銀20文目）

1773年　3月1日 安永2年　　2月9日 曇　今朝雨
1773年　3月2日 安永2年　　2月10日 曇
1773年　3月3日 安永2年　　2月11日 曇
1773年　3月4日 安永2年　　2月12日 曇
1773年　3月5日 安永2年　　2月13日 曇　辰の中刻地震
1773年　3月6日 安永2年　　2月14日 曇　昨夜中より雪　今日時々雨
1773年　3月7日 安永2年　　2月15日 曇
1773年　3月8日 安永2年　　2月16日 晴
1773年　3月9日 安永2年　　2月17日 陰晴
1773年　3月10日 安永2年　　2月18日 曇
1773年　3月11日 安永2年　　2月19日 陰晴
1773年　3月12日 安永2年　　2月20日 曇
1773年　3月13日 安永2年　　2月21日 曇　朝の内雨 （御家中の鎗術高覧）
1773年　3月14日 安永2年　　2月22日 快晴
1773年　3月15日 安永2年　　2月23日 曇　昨夜中雪
1773年　3月16日 安永2年　　2月24日 陰晴
1773年　3月17日 安永2年　　2月25日 晴 （去る22日金木新田福浦村で火災・火元村預け）
1773年　3月18日 安永2年　　2月26日 曇　昨夜中雨 （22日出火の福浦村の火元の村預け差許）
1773年　3月19日 安永2年　　2月27日 晴 （「禁裏」でも台頭ではなく平出だな:福眞、去る24日夜後潟組六枚橋村で火災6軒（全部百姓で5人）・種籾63俵・馬12疋・牛1疋外馬屋1軒等焼失・火元他村預け）
1773年　3月20日 安永2年　　2月28日 曇　昨夜中雪　今日終日雪
1773年　3月21日 安永2年　　2月29日 曇
1773年　3月22日 安永2年　　2月30日 快晴
1773年　3月23日 安永2年　　3月1日 曇　今日未の刻日蝕の処曇に付き見えず （2月中所々御関所出人都合67人:碇関65人（御印紙出43・切手紙出22）・野内2人（御印紙出）、2月27日より十三潟明ける）
1773年　3月24日 安永2年　　3月2日 曇　時々雪 （当月27日の暮六時頃より翌28日朝六時頃まで早川口より残らず氷明ける・去年は2月21日夜九時頃より22日朝六時頃まで氷明ける・当年は6日遅く節に引き合い5日早い）
1773年　3月25日 安永2年　　3月3日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ （御用達町人が蟹田御蔵より米100俵を借りて山仕事をする蟹田町の者共に渡す・その代わりの米を弘前御蔵に駄賃を添えて届ける）
1773年　3月26日 安永2年　　3月4日 曇　昨夜中雨　今日時々雪
1773年　3月27日 安永2年　　3月5日 曇　朔夜中風雨　今日丸雪ふる
1773年　3月28日 安永2年　　3月6日 曇　午の刻より晴
1773年　3月29日 安永2年　　3月7日 晴　午の刻過ぎ小雨
1773年　3月30日 安永2年　　3月8日 晴　昨夜中雪
1773年　3月31日 安永2年　　3月9日 快晴　酉の刻より曇雨
1773年　4月1日 安永2年　　3月10日 曇　昨夜中雪　今朝ニ至り六寸程積ル （今日御慰めの御能:全部ではないがお寺が呼ばれている）
1773年　4月2日 安永2年　　3月11日 曇　昨夜中雨 （最勝院に五穀成就の御祈祷を申渡す・祈祷料銀十枚、亥の年（今年は巳年）に御家中半知を仰付られ・寅の秋に戻すはずが江戸御上屋敷の類焼で又3年半知・若干の手当）
1773年　4月3日 安永2年　　3月12日 快晴 （昨11日和徳町の女房自害）
1773年　4月4日 安永2年　　3月13日 快晴　今朝霜
1773年　4月5日 安永2年　　3月14日 快晴　昨夜丑の刻地震
1773年　4月6日 安永2年　　3月15日 曇 （来月6日に御発駕と仰せ出される、御中小姓福眞弥兵衛が隠居・倅伴左衛門に、此の度御守札通御（4日かけて街中をめぐる:何をしているのかな:福眞））
1773年　4月7日 安永2年　　3月16日 曇
1773年　4月8日 安永2年　　3月17日 晴　昨夜小雨　今夜戌の刻月蝕（蝕の字は虫偏に食と書いてある）
1773年　4月9日 安永2年　　3月18日 快晴
1773年　4月10日 安永2年　　3月19日 快晴
1773年　4月11日 安永2年　　3月20日 陰晴　午の刻より雨 （御守札は90日ほどかけて在々にも廻るらしい）
1773年　4月12日 安永2年　　3月21日 快晴
1773年　4月13日 安永2年　　3月22日 曇
1773年　4月14日 安永2年　　3月23日 曇　午の刻より晴
1773年　4月15日 安永2年　　3月24日 曇　午の刻より晴 （御守札とは関白様からのもの？）
1773年　4月16日 安永2年　　3月25日 快晴
1773年　4月17日 安永2年　　3月26日 曇　今暁寅の刻より雨 （今日関札打ちの面々出立、11日の暮れ頃から行方不明の土手町の借家女房が今日外御堀で水死で発見される）
1773年　4月18日 安永2年　　3月27日 曇　今日時々雨　未の刻より晴
1773年　4月19日 安永2年　　3月28日 快晴 （御発駕御祝儀の御能）
1773年　4月20日 安永2年　　3月29日 快晴　午の刻より曇　小雨 （青森町に折節投げ火などあり物騒）
1773年　4月21日 安永2年　　3月30日 快晴　今朝霜
1773年　4月22日 安永2年　閏3月1日　快晴 （人事異動、3月中所々御関所出人都合85人:碇関82人（御印紙出41・切手紙出41）・野内3人（御印紙出2・切手紙出1）、御守札は今日まで弘前通御・明日から在方）
1773年　4月23日 安永2年　閏3月2日　快晴
1773年　4月24日 安永2年　閏3月3日　曇　今日終日雨
1773年　4月25日 安永2年　閏3月4日　曇　昨夜中雨
1773年　4月26日 安永2年　閏3月5日　晴
1773年　4月27日 安永2年　閏3月6日　曇　今日時々雨 （四つ時過ぎ御発駕）
1773年　4月28日 安永2年　閏3月7日　快晴
1773年　4月29日 安永2年　閏3月8日　晴
1773年　4月30日 安永2年　閏3月9日　快晴 （当月4日赤石組月屋村前浜に尾頭がないかみ切鯨流れ寄せる）

1773年　5月1日 安永2年 閏3月10日 快晴
1773年　5月2日 安永2年 閏3月11日 陰晴
1773年　5月3日 安永2年 閏3月12日 晴
1773年　5月4日 安永2年 閏3月13日 曇　今日終日雨 （近年本町の商人共が衰微・白木綿と綿を本町の専売にしてもらいたいとの願いあり・そのようにしたらしい：福眞）
1773年　5月5日 安永2年 閏3月14日 晴
1773年　5月6日 安永2年 閏3月15日 快晴
1773年　5月7日 安永2年 閏3月16日 晴
1773年　5月8日 安永2年 閏3月17日 快晴
1773年　5月9日 安永2年 閏3月18日 曇　巳の下刻雷発す　雨ふる
1773年　5月10日 安永2年 閏3月19日 曇　今暁寅の刻雷発す　今日時々雨
1773年　5月11日 安永2年 閏3月20日 晴　辰ノ刻小雨　夫より晴る〃
1773年　5月12日 安永2年 閏3月21日 快晴 （去る17日六枚橋村で火災・百姓村預け・免許）
1773年　5月13日 安永2年 閏3月22日 曇　今日終日雨降
1773年　5月14日 安永2年 閏3月23日 晴
1773年　5月15日 安永2年 閏3月24日 晴　今日少々風立つ
1773年　5月16日 安永2年 閏3月25日 快晴
1773年　5月17日 安永2年 閏3月26日 快晴 （盗杣の男に引き回しの上鞭刑・五里四方追放・田畑は母に下し置かれる、去る12月6日夜作事方土蔵を切破り御用銭盗み取った男を取上村御仕置場で獄門）
1773年　5月18日 安永2年 閏3月27日 曇　未の刻より晴 （11日飛鳥村で火災・類焼もあり他村預け・七日たったので免許）
1773年　5月19日 安永2年 閏3月28日 晴　今日風立つ
1773年　5月20日 安永2年 閏3月29日 晴 （23日土手町で室の内より火が漏れて戸〆・戸〆免許）
1773年　5月21日 安永2年　4月1日 晴 （閏3月中所々御関所出人都合182人：碇関180人（御印紙出101・切手紙出79）・野内2人（切手紙出））
1773年　5月22日 安永2年　4月2日 快晴
1773年　5月23日 安永2年　4月3日 快晴
1773年　5月24日 安永2年　4月4日 陰晴
1773年　5月25日 安永2年　4月5日 晴 （去月18日金木新田田茂木村で雷を伴う風雨の節田圃で働く男女が吹き飛ばされる・女は3・4日後に病死）
1773年　5月26日 安永2年　4月6日 晴
1773年　5月27日 安永2年　4月7日 晴　昨夜中雨
1773年　5月28日 安永2年　4月8日 曇　時々雨
1773年　5月29日 安永2年　4月9日 快晴
1773年　5月30日 安永2年　4月10日 曇　時々雨
1773年　5月31日 安永2年　4月11日 晴 （頃日時疫時行……報恩寺に御祈祷仰せ付ける）
1773年　6月1日 安永2年　4月12日 陰晴　申の刻雨
1773年　6月2日 安永2年　4月13日 快晴
1773年　6月3日 安永2年　4月14日 快晴 （新町の専太郎という男が博打打ちの仲間を訴人したので同類だが免許・褒美として鳥目18貫文を下し置かれる）
1773年　6月4日 安永2年　4月15日 曇　時々雨
1773年　6月5日 安永2年　4月16日 曇
1773年　6月6日 安永2年　4月17日 快晴　朝の内曇 （13日銀村で出火・村預け・免許）
1773年　6月7日 安永2年　4月18日 快晴
1773年　6月8日 安永2年　4月19日 快晴
1773年　6月9日 安永2年　4月20日 陰晴
1773年　6月10日 安永2年　4月21日 快晴 （報恩寺から時疫除けの祈祷が済んだお札を差上げる）
1773年　6月11日 安永2年　4月22日 晴
1773年　6月12日 安永2年　4月23日 曇　今日時々小雨
1773年　6月13日 安永2年　4月24日 晴　朝の内霧 （去る20日竹鼻村で郷士の家と金木組相内村で出火・慎みと村預けを申付日数5日に相成り申し候・共に免許、昨23日昼九時駒越組中畑村で火災（2間×2間半：高無））
1773年　6月14日 安永2年　4月25日 快晴
1773年　6月15日 安永2年　4月26日 陰晴　朝の内霧
1773年　6月16日 安永2年　4月27日 陰晴　朝の内霧
1773年　6月17日 安永2年　4月28日 陰晴
1773年　6月18日 安永2年　4月29日 陰晴
1773年　6月19日 安永2年　4月30日 快晴
1773年　6月20日 安永2年　5月1日 快晴 （4月中所々御関所出人都合139人：碇関126人（御印紙出83・切手紙出42）・野内10人（御印紙出）・大間越3人（切手紙出））
1773年　6月21日 安永2年　5月2日 快晴
1773年　6月22日 安永2年　5月3日 曇　時々雨
1773年　6月23日 安永2年　5月4日 曇　時々雨
1773年　6月24日 安永2年　5月5日 快晴
1773年　6月25日 安永2年　5月6日 曇　時々小雨 （今朝六時過ぎ茂森町の女房が井の内に入り死亡）
1773年　6月26日 安永2年　5月7日 曇　今日時々雨
1773年　6月27日 安永2年　5月8日 快晴
1773年　6月28日 安永2年　5月9日 快晴
1773年　6月29日 安永2年　5月10日 快晴
1773年　6月30日 安永2年　5月11日 快晴 （今9日御守札蟹田町通御）

1773年　7月1日 安永2年　5月12日 快晴 （大鰐村嘉兵衛より初真瓜差上げる、油川・後潟・浦町・横内組で当春より時疫・代官より御薬願い、時疫関連で国上寺に御祈祷を仰せ付ける）
1773年　7月2日 安永2年　5月13日 曇 昨夜中雨 雷発す 今日終日雨 （大鰐村の太次兵衛より初大角豆差上げる）
1773年　7月3日 安永2年　5月14日 快晴 （昨夜九つ半頃木作村で出火、10日金木組深郷村で出火・火元村預け・免許）
1773年　7月4日 安永2年　5月15日 曇 昨夜中雨 今日午の刻より晴ル
1773年　7月5日 安永2年　5月16日 快晴
1773年　7月6日 安永2年　5月17日 曇 （13日夜夜九つ半頃木作村で火災（17軒と潰れ屋2軒）・東風強く大火・火元他村預け）
1773年　7月7日 安永2年　5月18日 曇 （御守札15日に青森通御、盲人388人（座当218・盲女170）に屋形様御名改め（最近越中守になった）のご祝儀に鳥目20文宛遣わす）
1773年　7月8日 安永2年　5月19日 快晴 （大鰐村より初茄子差上げる）
1773年　7月9日 安永2年　5月20日 快晴 （木作村に出火にあった者共に補助の申し出（米30俵味噌30貫）5人あり）
1773年　7月10日 安永2年　5月21日 快晴 巳の中刻地震
1773年　7月11日 安永2年　5月22日 快晴 （木作村の火元の他村預け免許）
1773年　7月12日 安永2年　5月23日 快晴 （木作村に新たに補助の申し出（米28俵銭110文目味噌20貫目）19人あり）
1773年　7月13日 安永2年　5月24日 快晴 （時疫時行にて死亡の者も多く御座候由・薬の調合を3人にさせる）
1773年　7月14日 安永2年　5月25日 快晴
1773年　7月15日 安永2年　5月26日 快晴 （町医者から薬を調合して差上げたいとの申し出・そのように申付ける）
1773年　7月16日 安永2年　5月27日 快晴 午の刻より雷度々発す （評定所で29日から御家中に御札を下される・御家中在町浦々江も下される・員数都合6250枚余）
1773年　7月17日 安永2年　5月28日 快晴
1773年　7月18日 安永2年　5月29日 快晴
1773年　7月19日 安永2年　5月30日 快晴 今日卯の刻土用に入る
1773年　7月20日 安永2年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合163人：碇関159人（御印紙出109・切手紙出50）・野内2人（切手紙出）・大間越2人（切手紙出））
1773年　7月21日 安永2年　6月2日 快晴
1773年　7月22日 安永2年　6月3日 快晴
1773年　7月23日 安永2年　6月4日 k
1773年　7月24日 安永2年　6月5日 陰晴 （去る15日から21日までに掃除小人など15人病死：時疫か：福眞）
1773年　7月25日 安永2年　6月6日 快晴 （長勝寺で降雨の御祈祷）
1773年　7月26日 安永2年　6月7日 快晴
1773年　7月27日 安永2年　6月8日 快晴 （今朝五つ時新町の男縊死）
1773年　7月28日 安永2年　6月9日 快晴
1773年　7月29日 安永2年　6月10日 晴 （大円寺に降雨の御祈祷を仰せ付ける） 下から続く ・藤崎組581町余・金木組851町余・飯詰組852町余、10日に赤石組で同道者に傷を追わせた同道者を田野沢村で搦捕る）
1773年　7月30日 安永2年　6月11日 晴 （今朝明け六つ時赤石組田浦村に手負いの者・同道者にやられた?） 下から続く 猿賀組525町余・藤代組790町余・高杉組37町余・和徳組69町歩余・柏木組558町余 上に続く
1773年　7月31日 安永2年　6月12日 快晴 （五山に降雨御祈祷仰せ付ける、干天による水干田方：浪岡増館組977町余・広須組木作新田1458町余・油川後潟組751町余・大光寺組528町余・駒越組200町歩余・ 上に続く
1773年　8月1日 安永2年　6月13日 快晴 （駒越組より初穂差上げる・大鰐村よりまだ差上げず、小泊村の長助の従弟（切支丹類族）が死亡）
1773年　8月2日 安永2年　6月14日 快晴 （新城領滝野沢・碇関大落前沢・小国村領小山薄市小股沢に山火事・それぞれ鎮まる、園受院様の33回御忌に付き大赦：居村並びに弘前徘徊御免40人（中に足羽長十郎あり））
1773年　8月3日 安永2年　6月15日 曇 昨夜雷発す 雨降 今日時々雨 巳の刻雷甚強し （大鰐村加賀助兵左衛門より初穂差上（4月14日植付）・去年は4月25日植付7月6日差上・本年は日数で10日早く節に引合い2日早い）
1773年　8月4日 安永2年　6月16日 曇 昨夜中稲光強し 大雨雷発す 今日申の刻過ぎ東の方虹見ゆる （青森町で時疫時行・死亡の者300人余病人1001人・病家に米味噌下し置かれる）
1773年　8月5日 安永2年　6月17日 曇 今日時々風雨 申の刻過ぎ東の方に虹見ゆる （13日夜油川組新城村の山に山火事）
1773年　8月6日 安永2年　6月18日 曇 申の刻より雨
1773年　8月7日 安永2年　6月19日 曇 時々雨
1773年　8月8日 安永2年　6月20日 曇 今日巳の刻頃より雨降
1773年　8月9日 安永2年　6月21日 陰晴 （御発駕御用金2042両余）
1773年　8月10日 安永2年　6月22日 陰晴 昨夜中雨 今暁晴ル
1773年　8月11日 安永2年　6月23日 陰晴
1773年　8月12日 安永2年　6月24日 陰晴
1773年　8月13日 安永2年　6月25日 晴
1773年　8月14日 安永2年　6月26日 快晴
1773年　8月15日 安永2年　6月27日 快晴 午の刻過ぎ雷発す
1773年　8月16日 安永2年　6月28日 陰晴
1773年　8月17日 安永2年　6月29日 快晴 （碇関・大間越両町奉行4人とも病気）
1773年　8月18日 安永2年　7月1日 快晴 （6月中所々御関所出人都合135人：碇関129人（御印紙出81・切手紙出48）・野内5人（御印紙出）・大間越1人（切手紙出）、高杉組村々田方夥しく虫付く・3ヶ1程皆損）
1773年　8月19日 安永2年　7月2日 快晴
1773年　8月20日 安永2年　7月3日 陰晴 申の刻過ぎ雷発す （江戸表もで去月6人の掃除小人が病死し後を補充している） 下から続く 五穀神に虫除けの御祈祷を仰せ付ける）
1773年　8月21日 安永2年　7月4日 曇 昨夜中雷発す 風雨今朝に及ぶ （来る8日御守札還御、十三町奉行2人も病気で代理を申付ける、大鰐・尾崎・高杉・駒腰・赤石・和徳組の村々に虫・住吉宮の境内の 上に続く
1773年　8月22日 安永2年　7月5日 陰晴
1773年　8月23日 安永2年　7月6日 曇 昨夜中より時々雨 （十三町奉行の代理がもめている・代理に指名されても遠地勤務であったり病人であったり）
1773年　8月24日 安永2年　7月7日 曇 昨夜中より雨 今日時々雨
1773年　8月25日 安永2年　7月8日 曇 （去る18日尾張中納言様御逝去・普請は1日鳴物は5日のうち停止、近衛様進められ候御守札が今日還御）
1773年　8月26日 安永2年　7月9日 曇 昨夜中雨 （大鰐村より御初米6俵差上げる、去月18日尾張中将様御逝去）
1773年　8月27日 安永2年　7月10日 陰晴 昨夜中雨 （当稲作至って虫付き候）
1773年　8月28日 安永2年　7月11日 快晴
1773年　8月29日 安永2年　7月12日 曇 今日時々風雨
1773年　8月30日 安永2年　7月13日 快晴
1773年　8月31日 安永2年　7月14日 快晴

1773年　9月1日 安永2年　7月15日 快晴　今日二百十日 （6月10日に同道者に傷を負わされた秋田沼田村の左之助が11日に帰国）
1773年　9月2日 安永2年　7月16日 快晴　朝の内曇
1773年　9月3日 安永2年　7月17日 曇　時々小雨
1773年　9月4日 安永2年　7月18日 快晴
1773年　9月5日 安永2年　7月19日 晴　午の刻より快晴 （当月12日明け頃敦賀の船が深浦沖で破船・9人中6人死亡）
1773年　9月6日 安永2年　7月20日 晴
1773年　9月7日 安永2年　7月21日 快晴 （当月11日夜中より赤石組九ヶ村の田方に大風で塩霧上がる・稲干枯）
1773年　9月8日 安永2年　7月22日 晴　巳の刻過ぎより曇　午の刻小雨
1773年　9月9日 安永2年　7月23日 曇
1773年　9月10日 安永2年　7月24日 快晴
1773年　9月11日 安永2年　7月25日 快晴
1773年　9月12日 安永2年　7月26日 快晴
1773年　9月13日 安永2年　7月27日 快晴　今暁小雨　辰の刻西の方虹見ゆる
1773年　9月14日 安永2年　7月28日 曇　辰の刻より雨
1773年　9月15日 安永2年　7月29日 曇　時々小雨 （19日記述の死亡者6人中1人は助かったのかな）
1773年　9月16日 安永2年　7月30日 曇
1773年　9月17日 安永2年　8月1日 快晴 （7月中所々御関所出人都合132人：碇関130人（御印紙出61・切手紙出69）・野内1人（御印紙出）・大間越1人（御印紙出）、去月13日新城山で出火・その表彰あり）
1773年　9月18日 安永2年　8月2日 曇　昨夜中雨　今日時々雨 （百沢寺が岩木山の苔の実3包み差上げる）
1773年　9月19日 安永2年　8月3日 曇　申の刻より雨
1773年　9月20日 安永2年　8月4日 曇　昨夜中雨　今日時々雨 （（預けられるはずの?）堀口安兵衛が去月29日出奔）
1773年　9月21日 安永2年　8月5日 曇　時々雨
1773年　9月22日 安永2年　8月6日 晴 （去年出生の駒1639疋・雑駄1597疋・計3236疋、堀口安兵衛の人相書きでお尋ね・母妻子弟妹は（多分）親類引取り）
1773年　9月23日 安永2年　8月7日 快晴 （堀口安兵衛の家財闕所（けっしょ：財産の没収））
1773年　9月24日 安永2年　8月8日 曇　今日時々雨
1773年　9月25日 安永2年　8月9日 陰晴　申の刻過ぎ雨　早速止む （堀口安兵衛を外浜宇鉄で搦捕る）
1773年　9月26日 安永2年　8月10日 曇
1773年　9月27日 安永2年　8月11日 陰晴
1773年　9月28日 安永2年　8月12日 陰晴
1773年　9月29日 安永2年　8月13日 曇　申の刻過ぎ東の方に虹見ゆる
1773年　9月30日 安永2年　8月14日 快晴
1773年　10月1日 安永2年　8月15日 快晴
1773年　10月2日 安永2年　8月16日 陰晴
1773年　10月3日 安永2年　8月17日 陰晴 （預けられていた堀口安兵衛の妻が男子出産）
1773年　10月4日 安永2年　8月18日 曇　昨夜中雨
1773年　10月5日 安永2年　8月19日 曇　昨夜中雨
1773年　10月6日 安永2年　8月20日 曇　昨夜雨　今暁寅の刻雷発す
1773年　10月7日 安永2年　8月21日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1773年　10月8日 安永2年　8月22日 晴
1773年　10月9日 安永2年　8月23日 陰晴　今暁寅の刻小雨　申の刻過ぎ東の方に虹見ル
1773年 10月10日 安永2年　8月24日 陰晴
1773年 10月11日 安永2年　8月25日 陰晴 （昨24日大行院支配水木村大保院が切腹・死亡、御姫様御縁組御祝儀御配当願：座当218盲女170都合388人に20文宛）
1773年 10月12日 安永2年　8月26日 陰晴　昨夜中雨
1773年 10月13日 安永2年　8月27日 快晴　今朝岩木山に雪見ゆる （広須組吉岡村の庵主が25日夜変死）
1773年 10月14日 安永2年　8月28日 陰晴 （御台所頭より初鮭2本差し出す）
1773年 10月15日 安永2年　8月29日 陰晴　昨夜中雨
1773年 10月16日 安永2年　9月1日 曇　昨夜中雨　今日終日風 （8月中所々御関所出人都合111人：碇関104人（御印紙出62・切手紙出42）・野内6人（御印紙出）・大間越1人（切手紙出）、類族の妻病死）
1773年 10月17日 安永2年　9月2日 陰晴
1773年 10月18日 安永2年　9月3日 曇　昨夜中雨　今日終日風
1773年 10月19日 安永2年　9月4日 曇　昨夜亥の刻雷発す　それより風雨　今朝岩木山に雪見ゆる
1773年 10月20日 安永2年　9月5日 曇　昨夜中雨　今日終日雨
1773年 10月21日 安永2年　9月6日 曇　昨夜中雨 （天気悪く嵩湯段共に湯治停止）
1773年 10月22日 安永2年　9月7日 曇　昨夜中雨　今日雨
1773年 10月23日 安永2年　9月8日 晴　午の刻より曇
1773年 10月24日 安永2年　9月9日 曇　今日終日雨
1773年 10月25日 安永2年　9月10日 曇　昨夜中風雨　雷発す　今日時々雷発す　終日雨
1773年 10月26日 安永2年　9月11日 曇　朝の内雨 （去る3日夜東風強く青森領で2艘鰺ヶ沢領で1艘が破船）
1773年 10月27日 安永2年　9月12日 曇　朝の内小雨
1773年 10月28日 安永2年　9月13日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　辰の刻西の方虹見ゆる
1773年 10月29日 安永2年　9月14日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻に及ぶ　西の方ニ虹見ゆる　今日雨 （四社に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1773年 10月30日 安永2年　9月15日 陰晴　昨夜時々雨
1773年 10月31日 安永2年　9月16日 晴　昨夜中雨

1773年　11月1日 安永2年　　9月17日 晴
1773年　11月2日 安永2年　　9月18日 曇 （去る13日袋井村（田舎館組）で高無出火・村預け・免許）
1773年　11月3日 安永2年　　9月19日 快晴
1773年　11月4日 安永2年　　9月20日 快晴
1773年　11月5日 安永2年　　9月21日 曇
1773年　11月6日 安永2年　　9月22日 快晴
1773年　11月7日 安永2年　　9月23日 快晴
1773年　11月8日 安永2年　　9月24日 快晴
1773年　11月9日 安永2年　　9月25日 曇　昨夜戌の刻地震
1773年 11月10日 安永2年　　9月26日 快晴
1773年 11月11日 安永2年　　9月27日 曇　終日雨 （袋宮寺に一粒金丹5粒、神明宮で時疫除け御祈祷を行い御守札を下し置かれるようにする）
1773年 11月12日 安永2年　　9月28日 曇　昨夜雪降
1773年 11月13日 安永2年　　9月29日 曇　昨夜雨降 （「勅使」が平出・「女御・入内」等も平出・「屋形様」と同じ、こんなところに田舎者を感じる：福眞）
1773年 11月14日 安永2年　　10月1日 陰晴　昨夜中雨 （9月中所々御関所出人都合178人：碇関175人（御印紙出138・切手紙出37）・野内3人（御印紙出2・切手紙出1））
1773年 11月15日 安永2年　　10月2日 快晴 （去月24日赤石組濱横沢村の鮎築跡が火災・村の男子4人焼死、去月27日藤嶋越（小泊村と三馬屋村間の峠）60歳余の六十六部倒死）
1773年 11月16日 安永2年　　10月3日 曇　時々雨　風立つ
1773年 11月17日 安永2年　　10月4日 曇　昨夜中風雨　今日時々雪
1773年 11月18日 安永2年　　10月5日 陰晴　昨夜中雪一寸余積ル （去月27日赤石組岩崎村濱中で火災家31軒稲4700束焼失・火元他村預け）
1773年 11月19日 安永2年　　10月6日 快晴　昨夜酉の刻地震
1773年 11月20日 安永2年　　10月7日 陰晴　昨夜中雨
1773年 11月21日 安永2年　　10月8日 曇　昨夜雪三寸ほど積 （岩崎村濱中の火災に岩崎村等の9人から米19俵塩1俵の補助を差し出す）
1773年 11月22日 安永2年　　10月9日 晴
1773年 11月23日 安永2年　　10月10日 曇　今朝時々雪降
1773年 11月24日 安永2年　　10月11日 曇　時々雪
1773年 11月25日 安永2年　　10月12日 快晴
1773年 11月26日 安永2年　　10月13日 陰晴
1773年 11月27日 安永2年　　10月14日 曇　巳の刻より雪降
1773年 11月28日 安永2年　　10月15日 陰晴　昨夜中雪五寸程積ル
1773年 11月29日 安永2年　　10月16日 晴　昨夜雪降
1773年 11月30日 安永2年　　10月17日 曇　昨夜中より雪　午の刻より晴
1773年　12月1日 安永2年　　10月18日 陰晴 （昨晩本町出火・暮六つ時から夜九つ前・類焼10軒土蔵焼失痛家3軒・火元入寺）
1773年　12月2日 安永2年　　10月19日 曇　今日終日雨降 （飯詰金木組の代官が検見（当年の作を見極める作業）中に雪が厚く積もり刈り取れない・後で見分の上……）
1773年　12月3日 安永2年　　10月20日 曇　終日雪
1773年　12月4日 安永2年　　10月21日 曇　終日雪吹
1773年　12月5日 安永2年　　10月22日 陰晴　昨夜雪
1773年　12月6日 安永2年　　10月23日 晴
1773年　12月7日 安永2年　　10月24日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1773年　12月8日 安永2年　　10月25日 曇　昨夜中雪六寸余積ル （20日夜から翌朝青森濱町の前浜に間懸かり中の船で1人溺死）
1773年　12月9日 安永2年　　10月26日 陰晴　昨夜中より雪　今日も時々雪
1773年 12月10日 安永2年　　10月27日 曇　今日時々雪 （17日夜の本町の火元の入寺免許）
1773年 12月11日 安永2年　　10月28日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　辰の刻より晴ル
1773年 12月12日 安永2年　　10月29日 曇　今日小雨 （十三潟が24日夜九時より明け六時まで早川口より氷張る・去年は11月16日夜九時頃より六時頃まで残らず氷張る・今年は日数に引き合い22日早く節に引き合い4日早い）
1773年 12月13日 安永2年　　10月30日 曇　今日時々雪
1773年 12月14日 安永2年　　11月1日 陰晴 （（10月中）所々御関所出人都合97人：碇関94人（御印紙出65・切手紙出29）・野内3人（御印紙出1・切手紙出2））
1773年 12月15日 安永2年　　11月2日 曇
1773年 12月16日 安永2年　　11月3日 曇　朝の内雪吹
1773年 12月17日 安永2年　　11月4日 晴　昨夜中雪
1773年 12月18日 安永2年　　11月5日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1773年 12月19日 安永2年　　11月6日 晴　昨夜中雪　今日終日雪
1773年 12月20日 安永2年　　11月7日 晴　昨夜中雪二尺余積ル （先年地震の節公儀から4000両御拝借・この御上納金400両を送っている）
1773年 12月21日 安永2年　　11月8日 晴 （御城中廻り御屋禰に雪厚く雪下げ作業を行う）
1773年 12月22日 安永2年　　11月9日 曇　辰の刻まで雨　午の刻過ぎより陰晴
1773年 12月23日 安永2年　　11月10日 曇
1773年 12月24日 安永2年　　11月11日 快晴 （去月17日の本町の火災の際鐘が遅かった足軽が百人小人に格下げ、渇命に及んだ座当に御手当て（御米1俵と銭2貫文））
1773年 12月25日 安永2年　　11月12日 晴
1773年 12月26日 安永2年　　11月13日 曇
1773年 12月27日 安永2年　　11月14日 曇
1773年 12月28日 安永2年　　11月15日 晴
1773年 12月29日 安永2年　　11月16日 晴
1773年 12月30日 安永2年　　11月17日 晴
1773年 12月31日 安永2年　　11月18日 曇 （当月9日八幡村で火災・火元他村預け・村預け免許、青森安方町の名主から御手当て依頼・町内に御米20俵下し置かれる）

1774年　1月1日 安永2年　11月19日 快晴
1774年　1月2日 安永2年　11月20日 曇　昨夜より雨　今日時々雨 （赤石組舞戸田浦両村で当春より時疫・渇命に及ぶ・最早救い合いも及びかねる・御手当て20俵を下し置かれる）
1774年　1月3日 安永2年　11月21日 曇
1774年　1月4日 安永2年　11月22日 晴
1774年　1月5日 安永2年　11月23日 曇　昨夜中雪　今暁酉の刻より寒入
1774年　1月6日 安永2年　11月24日 快晴
1774年　1月7日 安永2年　11月25日 曇　今日終日雨 （堀口安兵衛儀売貸流木謀判之儀に付き御詮議・白状）
1774年　1月8日 安永2年　11月26日 曇　昨夜中雪 （堀口安兵衛牢前で斬罪、検見の邪魔をした男に鞭刑・町追放・家財は妻子に下し置かれる）
1774年　1月9日 安永2年　11月27日 曇　朝の内雪吹　今日寒気甚だし
1774年　1月10日 安永2年　11月28日 曇　昨夜中より雪　今日時々雪 （金井が沢で高無が小屋焼失・呵置く・免許）
1774年　1月11日 安永2年　11月29日 晴 （昨夜五つ半時頃干物焼く・火元屹度呵置く）
1774年　1月12日 安永2年　12月1日 快晴 （11月中所々御関所出人都合223人：碇関220人（御印紙出202・切手紙出18）・野内3人（切手紙出））
1774年　1月13日 安永2年　12月2日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1774年　1月14日 安永2年　12月3日 曇　昨夜中より水雪　午の刻より晴ル
1774年　1月15日 安永2年　12月4日 快晴
1774年　1月16日 安永2年　12月5日 快晴　昨夜中雪
1774年　1月17日 安永2年　12月6日 曇　昨夜中雪三寸余積ル
1774年　1月18日 安永2年　12月7日 曇　昨夜中雪六寸ほど積ル
1774年　1月19日 安永2年　12月8日 晴
1774年　1月20日 安永2年　12月9日 晴　今日より大寒に入る
1774年　1月21日 安永2年　12月10日 曇　今日終日雪
1774年　1月22日 安永2年　12月11日 晴　昨夜中雪 （村々耕作初：種浸3月28日より・田打3月26日・種蒔3月28日・塊掻閏3月9日・田植4月10日・草切5月3日・出穂6月14日・稲刈8月17日・村納9月11日）
1774年　1月23日 安永2年　12月12日 曇
1774年　1月24日 安永2年　12月13日 晴
1774年　1月25日 安永2年　12月14日 晴　昨夜酉の刻鳴動　その後地震 （高杉組熊島村の高無共13人に村中より補助も出せなくなったので御手当て・1人に御米1俵宛）
1774年　1月26日 安永2年　12月15日 晴
1774年　1月27日 安永2年　12月16日 晴 （去る11日夜青森湊で松前船焼失）
1774年　1月28日 安永2年　12月17日 晴　昨夜中より雪　今朝に及ぶ
1774年　1月29日 安永2年　12月18日 晴　昨夜中より雪　今朝に及ぶ （白絞3升入り1樽に付き1文目3分5厘）
1774年　1月30日 安永2年　12月19日 曇　昨夜子の刻地震　時々雪　今朝に及ぶ
1774年　1月31日 安永2年　12月20日 晴　朝の内曇
1774年　2月1日 安永2年　12月21日 快晴　今日申の刻地震 （馬持ちの者共が御手当てを申し出る：事情不明：福眞）
1774年　2月2日 安永2年　12月22日 曇　今日時々雪
1774年　2月3日 安永2年　12月23日 曇　今朝雪ふる
1774年　2月4日 安永2年　12月24日 曇　今日時々雪
1774年　2月5日 安永2年　12月25日 快晴　昨夜中雪二尺程積ル （日付不明出木嶋領で難船1艘・乗り合い4人中1人流死）
1774年　2月6日 安永2年　12月26日 曇　昨夜中雪
1774年　2月7日 安永2年　12月27日 曇
1774年　2月8日 安永2年　12月28日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ （各組で虫付き・籾納・時疫・鱈漁不足・抜け米・御救い山願などごたごたしている）
1774年　2月9日 安永2年　12月29日 曇　昨夜風雨　今朝に及ぶ （一昨日大円寺門前に出火・火元堅く慎ませ置く・至極難儀仕り候に付き免許）
1774年　2月10日 安永2年　12月30日 曇　昨夜中雪時々
1774年　2月11日 安永3年　正月1日　曇　昨夜雪二寸程降
1774年　2月12日 安永3年　正月2日　晴
1774年　2月13日 安永3年　正月3日　晴 （今暁前々の通り御吉例金200両差登）
1774年　2月14日 安永3年　正月4日　快晴
1774年　2月15日 安永3年　正月5日　曇　昨夜中より雪　今日終日　但し壱尺程降
1774年　2月16日 安永3年　正月6日　曇　今日雪少々降
1774年　2月17日 安永3年　正月7日　曇 （七種の御祝儀）
1774年　2月18日 安永3年　正月8日　曇
1774年　2月19日 安永3年　正月9日　陰晴　昨夜中雪少々降
1774年　2月20日 安永3年　正月10日　晴
1774年　2月21日 安永3年　正月11日　陰晴　今日辰の刻過ぎより雪　巳の中刻晴
1774年　2月22日 安永3年　正月12日　陰晴
1774年　2月23日 安永3年　正月13日　曇
1774年　2月24日 安永3年　正月14日　晴
1774年　2月25日 安永3年　正月15日　晴　昨夜申の刻過ぎより少々雨
1774年　2月26日 安永3年　正月16日　晴
1774年　2月27日 安永3年　正月17日　晴　昨夜中雪少々　今日終日降 （当年厚雪にて御屋根雪下げで所々破損）
1774年　2月28日 安永3年　正月18日　快晴

1774年　3月1日 安永3年 正月19日　快晴
1774年　3月2日 安永3年 正月20日　快晴 （当月7日頃御家中宅門前に12・3女子と8・9歳男子が徘徊している・町預けの上詮議させる、黒石役人から米5000石の津出御免依頼・去作不熟に付き申し立ての内3000石申付ける）
1774年　3月3日 安永3年 正月21日　快晴 昨夜中雨降
1774年　3月4日 安永3年 正月22日　曇 今日申ノ刻過ぎより雪降 （御家中門前の女子と男子は座当町の病死した夫婦の子供と判明）
1774年　3月5日 安永3年 正月23日　晴
1774年　3月6日 安永3年 正月24日　曇
1774年　3月7日 安永3年 正月25日　曇
1774年　3月8日 安永3年 正月26日　晴
1774年　3月9日 安永3年 正月27日　曇 今日四時過ぎより雪二寸程降 （耕春院と黒石の保福寺が罰せられている・小説のテーマのようなことなのかな）
1774年　3月10日 安永3年 正月28日　曇 昨夜中雪 （弐朱判は南鐐銀を持って吹き方仰せ付けられる・南鐐（銀）はこれまで10文目に付き通用銀25文目替え・弐朱判八つにて金一両）
1774年　3月11日 安永3年 正月29日　晴
1774年　3月12日 安永3年　2月1日 曇 昨夜中より雪降 午の上刻頃より晴 （正月中所々御関所出人都合228人：碇関228人（御印紙出215・切手紙出13））
1774年　3月13日 安永3年　2月2日 晴
1774年　3月14日 安永3年　2月3日 曇 今暁寅の刻頃より雨降 申の下刻風立つ （去年6月に同道者に傷を負わせて追剥ぎの赤石村の男を石渡口より赤石村まで引き回しの上獄門（執行は6日））
1774年　3月15日 安永3年　2月4日 晴 （2日暮六時頃横内組横内村で番小屋焼失・7歳男子焼死・火元（管理者2人?）村預け）　下から続く　申し立てあり、高杉組鬼沢村領に帯刀者流死）
1774年　3月16日 安永3年　2月5日 晴 （藤代組の代官が去作皆無（虫付）なので種籾を1反歩に付き1斗3升5合の拝借を申立てる・1反歩に7升5合の拝借を申付ける、大鰐・常盤・堀越組代官からも御手当て　上に続く
1774年　3月17日 安永3年　2月6日 曇 午の刻より雨少々降 彼岸に入 （去る2日出火の横内村の2人の村預け免許）
1774年　3月18日 安永3年　2月7日 晴 昨夜中少々雪降 風立つ （鬼沢村の帯刀氷死の者が去る12月行方不明となった高杉御蔵升取と判明）
1774年　3月19日 安永3年　2月8日 陰晴 昨夜中雪 今朝に至ル（今朝至ル）
1774年　3月20日 安永3年　2月9日 曇 朔夜中少々雨雪降 （先年公義より仰せ出され候諸国人数改めの儀今年七ヶ年目に付き御領分中人別改め仰付けられ候間先格の通り各にて書出し候様夫々仰付けられ候：国勢調査?）
1774年　3月21日 安永3年　2月10日 曇 昨夜中雪 今朝に至 辰の下刻より雨 （当月3日青森前浜沖で水主水死去る6日死骸上がる）
1774年　3月22日 安永3年　2月11日 曇
1774年　3月23日 安永3年　2月12日 晴
1774年　3月24日 安永3年　2月13日 陰晴
1774年　3月25日 安永3年　2月14日 曇 昨夜中雪少々降 午の刻より晴
1774年　3月26日 安永3年　2月15日 陰晴 昨夜少々雨降 今日昼小雨
1774年　3月27日 安永3年　2月16日 曇
1774年　3月28日 安永3年　2月17日 陰晴
1774年　3月29日 安永3年　2月18日 快晴
1774年　3月30日 安永3年　2月19日 陰晴 昼の内雨降 未ノ刻過ぎ地震
1774年　3月31日 安永3年　2月20日 陰晴
1774年　4月1日 安永3年　2月21日 晴 昨夜雪降 終夜に及ぶ （去る16日細越村で出火・火元百姓を村預け・免許）
1774年　4月2日 安永3年　2月22日 陰晴 昨夜中少々雪降 今日午の下刻より曇 （和徳組百田村高無共にお救い米20俵）
1774年　4月3日 安永3年　2月23日 陰晴 昨夜中雪降 今日茂時々雪降
1774年　4月4日 安永3年　2月24日 快晴　下から続く　5日早く節に引合い14日遅い）
1774年　4月5日 安永3年　2月25日 陰晴 （十三潟が当月22日夜九時頃より翌23日明け六時頃まて早川口より残らず氷明ける・去年は2月27日夜六時頃より翌28日明け六時頃迄氷明け候・当年は日数引合い　上に続く
1774年　4月6日 安永3年　2月26日 曇 昨夜中雨 今日茂雨時々
1774年　4月7日 安永3年　2月27日 曇 今日午の刻より雨 同下刻晴
1774年　4月8日 安永3年　2月28日 晴 未の刻虹見ゆる
1774年　4月9日 安永3年　2月29日 晴 （時疫について郡奉行の申し出で：去る巳（昨年）正月より11月までの御薬で快気した者12502人・病死の者3128人今以て時疫を患うものも有る）
1774年　4月10日 安永3年　2月30日 晴
1774年　4月11日 安永3年　3月1日 曇 昨夜中少々雨 （2月中所々御関所出人都合：碇ヶ関247人（御印紙出203・切手紙出44）・野内8人（切手紙出））
1774年　4月12日 安永3年　3月2日 陰晴 昨夜中より今朝まで雨時々 巳の刻過ぎ晴ル
1774年　4月13日 安永3年　3月3日 快晴
1774年　4月14日 安永3年　3月4日 曇 昨夜中雨 今朝に及ぶ 終日 （岩木川六歩余の洪水）
1774年　4月15日 安永3年　3月5日 曇 昨夜中雨 終夜に及ぶ
1774年　4月16日 安永3年　3月6日 晴 （去々年・去年と打ち続き悪作にて……代官6人に御褒美）
1774年　4月17日 安永3年　3月7日 晴
1774年　4月18日 安永3年　3月8日 晴 昨夜雪少々降 （病気の座当に御手当て：御米1俵銭1貫文）
1774年　4月19日 安永3年　3月9日 曇 今朝朝の内曇 午の刻より晴
1774年　4月20日 安永3年　3月10日 晴 （不調法があり足軽目付から長柄の者に御役下げになった者に返り誓詞を申付ける）
1774年　4月21日 安永3年　3月11日 曇 昨夜中より雨降 今朝も少々雨
1774年　4月22日 安永3年　3月12日 曇
1774年　4月23日 安永3年　3月13日 晴
1774年　4月24日 安永3年　3月14日 晴 昨夜亥の刻少々雨 今朝の内曇 昼より晴
1774年　4月25日 安永3年　3月15日 曇 午の中刻より晴 申の刻頃地震少々
1774年　4月26日 安永3年　3月16日 晴 （青森に入っている船の水主が14日に病死）
1774年　4月27日 安永3年　3月17日 曇 昨夜中雨少々 今日時々降
1774年　4月28日 安永3年　3月18日 快晴
1774年　4月29日 安永3年　3月19日 快晴 今朝霜
1774年　4月30日 安永3年　3月20日 快晴

1774年　5月1日 安永3年　3月21日 快晴
1774年　5月2日 安永3年　3月22日 快晴
1774年　5月3日 安永3年　3月23日 快晴 （20日高杉組高屋村の神社に六十六部を見出す・病気で歩行できなくなっていたとのこと・高屋村庵寺に引き取り介抱したが翌21日病死）
1774年　5月4日 安永3年　3月24日 曇 （久栗坂村・原別村に小鰯多く上がる）
1774年　5月5日 安永3年　3月25日 快晴
1774年　5月6日 安永3年　3月26日 快晴
1774年　5月7日 安永3年　3月27日 快晴
1774年　5月8日 安永3年　3月28日 快晴 （去る25日青森浜町で男旅人が病死）
1774年　5月9日 安永3年　3月29日 快晴
1774年　5月10日 安永3年　3月30日 曇　今暁小雨　今日終日降
1774年　5月11日 安永3年　4月1日 快晴 （3月中所々御関所出人都合131人：碇関116人（御印紙出66・切手紙出50）・野内10人（御印紙出1・切手紙出9）・大間越5人（切手紙出））
1774年　5月12日 安永3年　4月2日 快晴
1774年　5月13日 安永3年　4月3日 陰晴　今日未ノ刻過ぎより風立つ　少々　雷発す　東の方虹見ゆる
1774年　5月14日 安永3年　4月4日 晴　昨夜亥の刻雨降
1774年　5月15日 安永3年　4月5日 曇　昨日少々雨　申の刻降　今朝晴 （山方吟味役と猟師3人が御用中に熊6疋取る・御褒美1人に鳥目500文）
1774年　5月16日 安永3年　4月6日 晴
1774年　5月17日 安永3年　4月7日 曇　今朝辰の下刻より雨降
1774年　5月18日 安永3年　4月8日 曇 （これまでの御関札を大きくする（2尺7寸×7寸厚さ5歩半→2尺9寸×8寸厚さ6分くらい）・厚さの単位に歩と分が書かれている）
1774年　5月19日 安永3年　4月9日 曇　昨夜より雨
1774年　5月20日 安永3年　4月10日 曇
1774年　5月21日 安永3年　4月11日 曇　午の刻過ぎ小雨 （転び切支丹類族矢野某今朝病死）
1774年　5月22日 安永3年　4月12日 曇　巳の下刻晴
1774年　5月23日 安永3年　4月13日 快晴 （青森濱町に入っている大阪船の水主が12日に病死）
1774年　5月24日 安永3年　4月14日 快晴
1774年　5月25日 安永3年　4月15日 快晴
1774年　5月26日 安永3年　4月16日 曇　辰の下刻より小雨 （野内町中時疫で難儀・重立ちの者より救合もあったが限界・押米126俵の中から米20俵御手当て願・了解する、時疫の石川村の山伏に御手当て押米2俵）
1774年　5月27日 安永3年　4月17日 曇　巳の中刻少し雷発す
1774年　5月28日 安永3年　4月18日 曇　昨夜申の刻より雨　今日午の刻前より晴
1774年　5月29日 安永3年　4月19日 曇 （去る13日油川組飛鳥村で出火・類焼あり他村預け・免許）
1774年　5月30日 安永3年　4月20日 曇
1774年　5月31日 安永3年　4月21日 快晴
1774年　6月1日 安永3年　4月22日 快晴
1774年　6月2日 安永3年　4月23日 快晴
1774年　6月3日 安永3年　4月24日 陰晴
1774年　6月4日 安永3年　4月25日 曇
1774年　6月5日 安永3年　4月26日 晴
1774年　6月6日 安永3年　4月27日 快晴
1774年　6月7日 安永3年　4月28日 晴　今日四時頃少々曇
1774年　6月8日 安永3年　4月29日 快晴
1774年　6月9日 安永3年　5月1日 快晴 （4月中所々御関所出人都合339人：碇関337人（御印紙出124・切手紙出213）・野内2人（切手紙出））
1774年　6月10日 安永3年　5月2日 快晴
1774年　6月11日 安永3年　5月3日 晴
1774年　6月12日 安永3年　5月4日 晴
1774年　6月13日 安永3年　5月5日 快晴
1774年　6月14日 安永3年　5月6日 快晴 （鰺ヶ沢の火廻り御用の御家中自害?）
1774年　6月15日 安永3年　5月7日 快晴
1774年　6月16日 安永3年　5月8日 快晴 （今日八時過ぎ江戸詰め足軽の妻縊死）
1774年　6月17日 安永3年　5月9日 曇
1774年　6月18日 安永3年　5月10日 曇 （去る7日夜今別町で火災16軒馬2疋）
1774年　6月19日 安永3年　5月11日 快晴　昨夜小雨少々
1774年　6月20日 安永3年　5月12日 快晴
1774年　6月21日 安永3年　5月13日 快晴　昨夜少々雨降　今日未の刻雨降　雷度々発す （当月7日今別町の火元は寺落とする・借宅を加え17軒に町年寄りより1俵宛補助米を差し出す）
1774年　6月22日 安永3年　5月14日 曇　昨夜雨強し　度々発す
1774年　6月23日 安永3年　5月15日 曇 （当月28日屋形様江戸御発駕来月15日御着城のはず）
1774年　6月24日 安永3年　5月16日 快晴 （隠し津出を行った後潟村の男を村端で鞭刑（15鞭）並びに5里四方追放・闕所（けっしょ：財産没収））
1774年　6月25日 安永3年　5月17日 晴
1774年　6月26日 安永3年　5月18日 晴
1774年　6月27日 安永3年　5月19日 曇　終日雨降
1774年　6月28日 安永3年　5月20日 快晴 （御家中並びに在町又々時疫流行に付き久渡寺に御祈祷を仰せ付ける）
1774年　6月29日 安永3年　5月21日 快晴 （大鰐村より大角豆差し出す）
1774年　6月30日 安永3年　5月22日 快晴

1774年　7月1日 安永3年　5月23日 曇　今暁丑の刻頃より雨降　今日時々雨降 （郡奉行等が在廻りの賄い方：粟飯麦飯有合せ次第・軽き1汁2菜但し漬物とも）
1774年　7月2日 安永3年　5月24日 晴 （今朝本町の内海某（苗字あり）の母が自害）
1774年　7月3日 安永3年　5月25日 晴 （去る21日大鰐組森山村で出火・岩館村の男より1人に米1俵宛手伝い・その他も）
1774年　7月4日 安永3年　5月26日 曇　巳の刻過ぎ雨少々　未の刻より雨降 （大鰐村十兵衛より真瓜5差上げる）
1774年　7月5日 安永3年　5月27日 陰晴　昨夜雨降　今朝辰の刻過ぎ晴　同刻地震少々
1774年　7月6日 安永3年　5月28日 曇 （久渡寺から時疫除け御祈祷の御守札6450枚届く）
1774年　7月7日 安永3年　5月29日 快晴 （大鰐村十兵衛より初茄子差上げる）
1774年　7月8日 安永3年　5月30日 陰晴 （御守札の配分が示されている）
1774年　7月9日 安永3年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合90人：碇関82人（御印紙出57・切手紙出25）・野内3人（御印紙出）・大間越5人（切手紙出））
1774年　7月10日 安永3年　6月2日 晴　朝の内曇 （本行寺で五穀成就の御祈祷）
1774年　7月11日 安永3年　6月3日 曇 （太田村（藤崎組）の山伏の家内9人中8人が時疫で御手当て米願・御米払底の砌に付き御手当て銭20目下し置かれる）
1774年　7月12日 安永3年　6月4日 曇　終日雨降
1774年　7月13日 安永3年　6月5日 曇 （蟹田川で同心警固の妻が水死）
1774年　7月14日 安永3年　6月6日 快晴
1774年　7月15日 安永3年　6月7日 快晴　午の刻過ぎより雲　未ノ上刻雨　甚　雷数度発す
1774年　7月16日 安永3年　6月8日 曇
1774年　7月17日 安永3年　6月9日 晴　朝の内曇
1774年　7月18日 安永3年　6月10日 快晴
1774年　7月19日 安永3年　6月11日 曇　今日午の七刻より土用に入る
1774年　7月20日 安永3年　6月12日 曇 （神明宮下社家家内残らず相煩い御手当て願・御手当て銭20目を下し置かれる、碇関町から時疫24軒の内4軒に御薬16軒に御救い米願・屋形様の下向直前であり御米5俵等を手配する）
1774年　7月21日 安永3年　6月13日 曇　昨夜子の刻過ぎより雨　今朝まて時々降 （先月より煩っていた類族すて只今病死）
1774年　7月22日 安永3年　6月14日 曇　昨夜雨　終夜降　今朝卯の刻過ぎ雷少々発　虹見ゆる　巳の刻過ぎより風雨雷
1774年　7月23日 安永3年　6月15日 曇 （屋形様今日午の中刻御着城）
1774年　7月24日 安永3年　6月16日 晴　今暁丑の下刻雨少々ふる
1774年　7月25日 安永3年　6月17日 陰晴
1774年　7月26日 安永3年　6月18日 陰晴　今朝丑の刻頃まで雨強し
1774年　7月27日 安永3年　6月19日 陰晴 （深浦町の19軒に時疫で難儀の者共江救合のため米42俵合力させる）
1774年　7月28日 安永3年　6月20日 陰晴 （四社に日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1774年　7月29日 安永3年　6月21日 晴
1774年　7月30日 安永3年　6月22日 曇　今日巳の刻過ぎより小雨降
1774年　7月31日 安永3年　6月23日 曇 （御着城御祝儀の御能）
1774年　8月1日 安永3年　6月24日 晴　辰の刻頃西の方虹見ゆる （岩木川が今朝六時頃より出水・六歩の洪水、古懸不動尊御出汗・神楽仰せ付けられる）
1774年　8月2日 安永3年　6月25日 陰晴
1774年　8月3日 安永3年　6月26日 快晴
1774年　8月4日 安永3年　6月27日 陰晴
1774年　8月5日 安永3年　6月28日 曇　昨夜戌の刻より雨　終夜に及ぶ　今暁晴　今日巳の刻より小雨　午の刻霽
1774年　8月6日 安永3年　6月29日 曇
1774年　8月7日 安永3年　7月1日 快晴 （人事異動、6月中所々御関所出人都合129人：碇関121人（御印紙出73・切手紙出48）・大間越8人（御印紙出））
1774年　8月8日 安永3年　7月2日 快晴 （神明・八幡両社で五穀成就の御神楽仰せ付けられる）
1774年　8月9日 安永3年　7月3日 快晴
1774年　8月10日 安永3年　7月4日 快晴
1774年　8月11日 安永3年　7月5日 快晴
1774年　8月12日 安永3年　7月6日 曇 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる・4月25日植付）
1774年　8月13日 安永3年　7月7日 快晴
1774年　8月14日 安永3年　7月8日 快晴
1774年　8月15日 安永3年　7月9日 晴 （当御廻船の内4艘が去る21日銚子口で破船）
1774年　8月16日 安永3年　7月10日 曇　時々雨降
1774年　8月17日 安永3年　7月11日 晴 （去月24日（赤石組）正道尻村前浜に破船1艘、御道中残金銭：金257両で銭143文）
1774年　8月18日 安永3年　7月12日 快晴
1774年　8月19日 安永3年　7月13日 快晴
1774年　8月20日 安永3年　7月14日 快晴
1774年　8月21日 安永3年　7月15日 快晴
1774年　8月22日 安永3年　7月16日 快晴
1774年　8月23日 安永3年　7月17日 快晴
1774年　8月24日 安永3年　7月18日 快晴
1774年　8月25日 安永3年　7月19日 曇　未の下刻より申の刻頃まで大雨　丑寅の方に虹見ゆる
1774年　8月26日 安永3年　7月20日 曇　午の上刻より雨降 （人事異動）
1774年　8月27日 安永3年　7月21日 快晴　昨夜子の刻前雨少々降
1774年　8月28日 安永3年　7月22日 快晴 （久渡寺より真桑瓜差上げる）
1774年　8月29日 安永3年　7月23日 快晴 （一戸源次郎の身上召上げ・阿呆払い、永の御暇など処罰多数）
1774年　8月30日 安永3年　7月24日 快晴
1774年　8月31日 安永3年　7月25日 陰晴　今日巳の刻過ぎより雨少々 （去る巳（去年）十二月より当5月晦日まで時疫にで病死の者4773人・御薬を下し置かれ快気のもの20981人）

1774年　9月1日 安永3年　7月26日 快晴
1774年　9月2日 安永3年　7月27日 曇　午の刻より雨降　申の刻過ぎ東の方虹見ゆる （大鰐村加賀助・兵左衛門が御初米差上げる・去年7月8日で当年は植え付け日との日数で7日遅く節に引き合い8日遅い）
1774年　9月3日 安永3年　7月28日 快晴　未の刻より雨ふる （今日相渡され候御書付の趣:御国勝手の面々知行御蔵渡し四物成・江戸勝手の面々三つ五歩成。運賃差し引き俵物渡し仰せ付けられる……）
1774年　9月4日 安永3年　7月29日 曇　昨夜より雨　今日午の中刻霽
1774年　9月5日 安永3年　7月30日 曇　　下から続く　　（御印紙出5・切手紙出1)・野内13人(御印紙出))
1774年　9月6日 安永3年　8月1日 晴　日蝕五分ニて巳の初刻西南之方より懸始　南之方ニ甚しく　午之一刻東南之方ニ終ル （所々御関所出人数都合135人:碇関116人(御印紙出69・切手紙出47)・大間越6人　　上に続く
1774年　9月7日 安永3年　8月2日 晴
1774年　9月8日 安永3年　8月3日 晴
1774年　9月9日 安永3年　8月4日 快晴 （赤石組関・金井ヶ沢両村の田方に当年も虫付く）
1774年　9月10日 安永3年　8月5日 晴
1774年　9月11日 安永3年　8月6日 陰晴 （鰺ヶ沢町の難儀者に御米20俵下しおかれる）
1774年　9月12日 安永3年　8月7日 快晴　昨夜申の刻雨少々降
1774年　9月13日 安永3年　8月8日 晴
1774年　9月14日 安永3年　8月9日 快晴 （7月26・7日深浦町の男子が道脇の古井の水溜りに落ち死亡）
1774年　9月15日 安永3年　8月10日 曇　卯の下刻より雨　午の上刻晴
1774年　9月16日 安永3年　8月11日 快晴
1774年　9月17日 安永3年　8月12日 快晴
1774年　9月18日 安永3年　8月13日 曇 （浄心院様21回御忌の大赦:16人に弘前並びに居村徘徊御免）
1774年　9月19日 安永3年　8月14日 晴 （三馬屋湊で大坂船の水主病死）
1774年　9月20日 安永3年　8月15日 快晴 （八幡宮祭礼・御家老中並びに拙者共大目付着服麻上下着用六時過ぎより段々罷り出候）
1774年　9月21日 安永3年　8月16日 快晴
1774年　9月22日 安永3年　8月17日 快晴
1774年　9月23日 安永3年　8月18日 陰晴
1774年　9月24日 安永3年　8月19日 曇　昨夜五時より雨降 （小沢野で野稽古高覧）
1774年　9月25日 安永3年　8月20日 晴
1774年　9月26日 安永3年　8月21日 曇　昨夜より雨　今日終日　申の刻過ぎ丑寅の方虹見ゆる
1774年　9月27日 安永3年　8月22日 曇　昨夜風雨　今朝辰の刻頃西の方ニ虹見ゆる
1774年　9月28日 安永3年　8月23日 晴
1774年　9月29日 安永3年　8月24日　(24日の日記がない、但し23日の記載事項に24日と明記されているので23日の日記の末尾と24日の当初が欠落しているのかもしれない)
1774年　9月30日 安永3年　8月25日 曇　午の刻過ぎより雨降
1774年　10月1日 安永3年　8月26日 曇　今朝より終日小雨降
1774年　10月2日 安永3年　8月27日 晴
1774年　10月3日 安永3年　8月28日 陰晴
1774年　10月4日 安永3年　8月29日 晴
1774年　10月5日 安永3年　9月1日 曇　巳の下刻より雨少々降 （8月中所々御関所出人都合378人:碇関367(御印紙出342・切手紙出25)・野内9人(御印紙出4・切手紙出5)・大間越5人(御印紙出))
1774年　10月6日 安永3年　9月2日 曇　昨夜より雨　今日も少々ツツ降　未ノ上刻より晴
1774年　10月7日 安永3年　9月3日 曇　昨夜中風雨　今日辰の刻前虹見ゆる
1774年　10月8日 安永3年　9月4日 晴 （昨夜御家中が召使女の養父を手打ちにする）
1774年　10月9日 安永3年　9月5日 快晴
1774年 10月10日 安永3年　9月6日 快晴
1774年 10月11日 安永3年　9月7日 曇　午の刻より雨少々
1774年 10月12日 安永3年　9月8日 曇　昨夜時々雨　今朝に及ぶ　辰の刻過ぎ晴
1774年 10月13日 安永3年　9月9日 快晴
1774年 10月14日 安永3年　9月10日 晴
1774年 10月15日 安永3年　9月11日 曇　今朝より小雨時々降
1774年 10月16日 安永3年　9月12日 陰晴
1774年 10月17日 安永3年　9月13日 快晴 （昨12日東長町の御蔵に米19俵が初御収納）
1774年 10月18日 安永3年　9月14日 曇　巳の中刻より風雨　未の下刻東北の方虹見ゆる （打続天気不勝に付岩木嵩並びに湯段共湯治人停止仰付られ候）
1774年 10月19日 安永3年　9月15日 曇　今朝より時々小雨
1774年 10月20日 安永3年　9月16日 晴　午の刻過ぎ小雨 （座当209人盲女71人に20文宛の御祝儀）
1774年 10月21日 安永3年　9月17日 曇　未の刻小雨　午の刻より晴
1774年 10月22日 安永3年　9月18日 晴　朝の内曇　小雨少々降
1774年 10月23日 安永3年　9月19日 晴
1774年 10月24日 安永3年　9月20日 晴
1774年 10月25日 安永3年　9月21日 曇　今日終日雨降
1774年 10月26日 安永3年　9月22日 曇　昨夜中風雨　今朝まで時々雨降
1774年 10月27日 安永3年　9月23日 曇　今日終日雨降
1774年 10月28日 安永3年　9月24日 曇　昨夜中まで雨　今日申の刻少々小雨降
1774年 10月29日 安永3年　9月25日 晴　午の下刻より曇　雨少々降
1774年 10月30日 安永3年　9月26日 快晴
1774年 10月31日 安永3年　9月27日 快晴

1774年　11月1日 安永3年　　9月28日 快晴　午の刻少々雨降
1774年　11月2日 安永3年　　9月29日 快晴
1774年　11月3日 安永3年　　9月30日 快晴　(高岡江初鮭2尺)
1774年　11月4日 安永3年　　10月1日 快晴　(9月中所々御関所出人都合134人:碇関126人(御印紙出67・切手紙出59)・野内8人(切手紙出))
1774年　11月5日 安永3年　　10月2日 快晴
1774年　11月6日 安永3年　　10月3日 晴
1774年　11月7日 安永3年　　10月4日 快晴　朝の内曇
1774年　11月8日 安永3年　　10月5日 快晴
1774年　11月9日 安永3年　　10月6日 曇　未の刻雨少々降
1774年 11月10日 安永3年　　10月7日 晴　巳の下刻より曇　午の上刻雨降
1774年 11月11日 安永3年　　10月8日 晴　申の下刻より雨少々降
1774年 11月12日 安永3年　　10月9日 晴　昨夜中風雨　朝の内曇
1774年 11月13日 安永3年　10月10日 晴　(長勝寺境内に60余道心倒死)
1774年 11月14日 安永3年　10月11日 快晴
1774年 11月15日 安永3年　10月12日 曇　今朝西の方虹見ゆる　辰の上刻より風雨　(御陸尺4人(5尺5寸6歩～5尺7寸)新規召抱え)
1774年 11月16日 安永3年　10月13日 曇　昨夜酉の刻雷雨降　今日終日雨降
1774年 11月17日 安永3年　10月14日 晴
1774年 11月18日 安永3年　10月15日 晴　(当月8日油川組細越村で火災10軒・子供2人焼死・稲3208束焼失)
1774年 11月19日 安永3年　10月16日 晴　昨夜戌の下刻雷発す　雨降　子の刻過ぎ地震　(一夜二夜泊まりの外出は五軒(人)組に届け・三宿以上は月行事に届けなければならない)
1774年 11月20日 安永3年　10月17日 晴　午の刻過ぎより曇
1774年 11月21日 安永3年　10月18日 曇　昨夜雪少々降
1774年 11月22日 安永3年　10月19日 曇　巳の刻過ぎより雨少々
1774年 11月23日 安永3年　10月20日 快晴　昨夜中雨降
1774年 11月24日 安永3年　10月21日 曇　今日辰の下刻より雨降
1774年 11月25日 安永3年　10月22日 曇
1774年 11月26日 安永3年　10月23日 曇　昨夜中雪五寸ほど降
1774年 11月27日 安永3年　10月24日 曇　今朝雪降
1774年 11月28日 安永3年　10月25日 快晴
1774年 11月29日 安永3年　10月26日 曇　今暁より雨　今朝雷少々　今日終日雨降　(百沢寺・国上寺江時疫追放の御祈祷を仰せ付ける)
1774年 11月30日 安永3年　10月27日 曇　(今日御慰之御囃子)
1774年　12月1日 安永3年　10月28日 曇
1774年　12月2日 安永3年　10月29日 快晴　昨日暮頃より雨　終夜に及ぶ　(昨夜中岩木山南の方に野火(100間×100間))
1774年　12月3日 安永3年　　11月1日 曇　(10月中所々御関所出人都合57人:54人(御印紙出33・切手紙出21)・野内3人(御印紙出))
1774年　12月4日 安永3年　　11月2日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雪少々　終夜に及ぶ
1774年　12月5日 安永3年　　11月3日 曇　昨夜丑の刻過ぎ地震
1774年　12月6日 安永3年　　11月4日 曇　昨夜より雪時々　今日も時々雪降
1774年　12月7日 安永3年　　11月5日 晴　昨夜の雪今朝に及ぶ　七寸程降
1774年　12月8日 安永3年　　11月6日 晴
1774年　12月9日 安永3年　　11月7日 晴
1774年 12月10日 安永3年　　11月8日 陰晴　昨夜子の刻より雨少降　(去月8日出火の細越村に火元の慎み免許)
1774年 12月11日 安永3年　　11月9日 曇　午の刻過ぎより晴
1774年 12月12日 安永3年　11月10日 曇
1774年 12月13日 安永3年　11月11日 快晴
1774年 12月14日 安永3年　11月12日 曇　昨夜時々雪　今日も少雪降
1774年 12月15日 安永3年　11月13日 晴　(代官の人事異動22人)
1774年 12月16日 安永3年　11月14日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日午の中刻雪降
1774年 12月17日 安永3年　11月15日 曇　昨夜中より今朝まで雪三寸程　今日も時々降　(今日吹雪に付き御鷹野御延引仰せ出される)
1774年 12月18日 安永3年　11月16日 曇　(今日四時(御家老森岡)主膳宅に御成り・御帰城夜八時過ぎ)
1774年 12月19日 安永3年　11月17日 快晴
1774年 12月20日 安永3年　11月18日 曇　(多分この後に19日の最後の部分が付いている)
1774年 12月21日 安永3年　11月19日 快晴
1774年 12月22日 安永3年　11月20日 晴
1774年 12月23日 安永3年　11月21日 曇　(当月17日夜九時より18日朝六時まで十三潟早川口より残らず氷張る)
1774年 12月24日 安永3年　11月22日 曇　昨夜中大雪吹　今日終日雪降
1774年 12月25日 安永3年　11月23日 曇　巳の刻過ぎより晴　昨夜雪今朝迄
1774年 12月26日 安永3年　11月24日 晴
1774年 12月27日 安永3年　11月25日 晴　今日雪降
1774年 12月28日 安永3年　11月26日 晴　昨夜雪少々
1774年 12月29日 安永3年　11月27日 陰晴　今日午の刻より雨降
1774年 12月30日 安永3年　11月28日 晴　(薬王院がもめているみたい・50ページくらいにわたり記事)
1774年 12月31日 安永3年　11月29日 晴　(今日誓願寺前の女房縊死)

1775年　1月1日 安永3年　11月30日 曇 （明朔日高岡に上げる初鱈弐本御家老中江差し出す）
1775年　1月2日 安永3年　12月1日 曇 昨夜雪　今朝まて五寸程降 （11月中所々御関所出人都合92人：碇関90人（御印紙出55・切手紙出35）・大間越1人（御印紙出）・野内1人（切手紙出））
1775年　1月3日 安永3年　12月2日 晴
1775年　1月4日 安永3年　12月3日 曇 昨夜雪五寸位降　今朝午の上刻まで雪　則刻より晴ル
1775年　1月5日 安永3年　12月4日 曇 今夜子ノ一刻寒二入
1775年　1月6日 安永3年　12月5日 曇 今日時々雨
1775年　1月7日 安永3年　12月6日 曇 時々雪
1775年　1月8日 安永3年　12月7日 曇 昨夜雨雪時々
1775年　1月9日 安永3年　12月8日 晴 昨夜雪一尺程降
1775年　1月10日 安永3年　12月9日 晴 昨夜雪二寸程降
1775年　1月11日 安永3年　12月10日 晴 昨夜中雪少々降
1775年　1月12日 安永3年　12月11日 曇
1775年　1月13日 安永3年　12月12日 晴
1775年　1月14日 安永3年　12月13日 曇
1775年　1月15日 安永3年　12月14日 曇 今日午の刻頃まで雪風　寒〇強し（〇はカタカナの「ヱ」のような書き方で判らない：福眞）
1775年　1月16日 安永3年　12月15日 曇 昨夜中雪降　今日時々雪
1775年　1月17日 安永3年　12月16日 曇 昨夜中雪三寸程積　今日終日風吹
1775年　1月18日 安永3年　12月17日 晴 昨夜中雪三寸程降
1775年　1月19日 安永3年　12月18日 晴
1775年　1月20日 安永3年　12月19日 晴 冬至に入る
1775年　1月21日 安永3年　12月20日 快晴 （相馬某に一粒金丹3粒）
1775年　1月22日 安永3年　12月21日 曇 昨夜中時々雨　今朝二至る
1775年　1月23日 安永3年　12月22日 曇 昨夜中雪　今朝まで三寸程降
1775年　1月24日 安永3年　12月23日 晴 （御年忘御祝儀御能）
1775年　1月25日 安永3年　12月24日 曇
1775年　1月26日 安永3年　12月25日 曇
1775年　1月27日 安永3年　12月26日 晴 （酒狂い傷害の御城付き足軽に永の暇）
1775年　1月28日 安永3年　12月27日 晴 昨夜中雪少々
1775年　1月29日 安永3年　12月28日 晴 朝の内少々曇
1775年　1月30日 安永3年　12月29日 快晴
1775年　1月31日 安永4年 正月1日　晴
1775年　2月1日 安永4年 正月2日　曇
1775年　2月2日 安永4年 正月3日　晴 昨夜雪一寸位降 （今晩御謡初）
1775年　2月3日 安永4年 正月4日　曇 （例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる）
1775年　2月4日 安永4年 正月5日　陰晴 昨夜中より雪降
1775年　2月5日 安永4年 正月6日　晴 朝の内雪少々降
1775年　2月6日 安永4年 正月7日　晴 昨夜中雪少々降
1775年　2月7日 安永4年 正月8日　晴 （12月中所々御関所出人都合134人：碇関130人（御印紙出109・切手紙出21）・野内4人（切手紙出））
1775年　2月8日 安永4年 正月9日　晴
1775年　2月9日 安永4年 正月10日　陰晴 今暁より雪　辰の中刻に至る
1775年　2月10日 安永4年 正月11日　晴 （人事異動：竹内衛士を御用人になど）
1775年　2月11日 安永4年 正月12日　晴
1775年　2月12日 安永4年 正月13日　曇 昨夜中雪時々　今日巳の刻より雪 （御年始御祝儀の御能）
1775年　2月13日 安永4年 正月14日　曇 昨夜より雪　今朝まで一尺一寸位降　今日時々雪
1775年　2月14日 安永4年 正月15日　曇 今日巳の下刻より雪少々
1775年　2月15日 安永4年 正月16日　晴 未の刻より雪少々降　月食亥の刻七歩
1775年　2月16日 安永4年 正月17日　曇
1775年　2月17日 安永4年 正月18日　曇 今暁より雪時々降
1775年　2月18日 安永4年 正月19日　陰晴
1775年　2月19日 安永4年 正月20日　晴 昨夜雪少々
1775年　2月20日 安永4年 正月21日　陰晴 昨夜より雪時々　今午の中刻より雪 （尾崎組小国村の勘兵衛三つ・大鰐組居土村の弥左衛門五つ・大鰐組虹貝村の長右衛門三つ熊取る・それぞれ御褒美）
1775年　2月21日 安永4年 正月22日　晴
1775年　2月22日 安永4年 正月23日　晴
1775年　2月23日 安永4年 正月24日　晴 （御家中の射術高覧）
1775年　2月24日 安永4年 正月25日　快晴 今午の刻より雨少々
1775年　2月25日 安永4年 正月26日　曇
1775年　2月26日 安永4年 正月27日　晴 昨夜雪五寸位降 （安産の御祝儀として座当209人・盲女171人に15文宛配当）
1775年　2月27日 安永4年 正月28日　晴
1775年　2月28日 安永4年 正月29日　陰晴

1775年　3月1日 安永4年 正月30日　晴
1775年　3月2日 安永4年　　2月1日 曇　今日午の刻過ぎ雨降 （正月中所々御関所出人都合170人：碇関168人（御印紙出150・切手紙出18）・野内2人（切手紙出））
1775年　3月3日 安永4年　　2月2日 曇　昨夜亥の刻より雪少々　今朝に及ぶ
1775年　3月4日 安永4年　　2月3日 晴　昨夜雪少々降 （酒屋で酒狂いの御家中御給分召し放ち弘前追放）
1775年　3月5日 安永4年　　2月4日 晴
1775年　3月6日 安永4年　　2月5日 曇 （御家中の剣術高覧）
1775年　3月7日 安永4年　　2月6日 晴
1775年　3月8日 安永4年　　2月7日 曇　今辰の刻より雪　灰交降　雪の色黄に見ゆる
1775年　3月9日 安永4年　　2月8日 曇
1775年　3月10日 安永4年　　2月9日 曇　卯の中刻より雪
1775年　3月11日 安永4年　　2月10日 晴　昨夜雪少々降
1775年　3月12日 安永4年　　2月11日 晴 （御発駕は来月六日と仰せ出される）
1775年　3月13日 安永4年　　2月12日 陰晴
1775年　3月14日 安永4年　　2月13日 曇　今朝より雪降 （病気中の御徒が脇差で自害）
1775年　3月15日 安永4年　　2月14日 晴　昨夜雪少々
1775年　3月16日 安永4年　　2月15日 陰晴　昨夜雪少々降　今日も降
1775年　3月17日 安永4年　　2月16日 曇　昨夜中雪折々　今日風烈雪降
1775年　3月18日 安永4年　　2月17日 晴 （今日御家中鎗術高覧）
1775年　3月19日 安永4年　　2月18日 晴
1775年　3月20日 安永4年　　2月19日 陰晴
1775年　3月21日 安永4年　　2月20日 陰晴　今日申之刻より雪降
1775年　3月22日 安永4年　　2月21日 晴　今日未の刻より小雨降
1775年　3月23日 安永4年　　2月22日 曇　今日巳の刻過ぎより雪吹　終日に及ぶ
1775年　3月24日 安永4年　　2月23日 晴　昨夜中雪時々降
1775年　3月25日 安永4年　　2月24日 晴
1775年　3月26日 安永4年　　2月25日 陰晴　今朝より小雪降 （御関札打ち出立）
1775年　3月27日 安永4年　　2月26日 曇
1775年　3月28日 安永4年　　2月27日 晴
1775年　3月29日 安永4年　　2月28日 晴 （御発駕御祝儀の御能・狂言）
1775年　3月30日 安永4年　　2月29日 快晴
1775年　3月31日 安永4年　　3月1日 晴 （2月中所々御関所出人都合179人：碇関177人（御印紙出142・切手紙出35）・野内2人（切手紙出）、人事異動）
1775年　4月1日 安永4年　　3月2日 快晴
1775年　4月2日 安永4年　　3月3日 曇　昨夜戌の下刻より雨降
1775年　4月3日 安永4年　　3月4日 曇　昨夜中雪少々降
1775年　4月4日 安永4年　　3月5日 曇　今日時々小雨
1775年　4月5日 安永4年　　3月6日 晴　昨夜亥の刻過ぎより雨　今日午の刻過ぎより風烈　申の下刻止む （四時過ぎ御発駕）
1775年　4月6日 安永4年　　3月7日 曇
1775年　4月7日 安永4年　　3月8日 曇　昨夜中雨　今朝巳の刻頃まで降
1775年　4月8日 安永4年　　3月9日 陰晴
1775年　4月9日 安永4年　　3月10日 晴
1775年　4月10日 安永4年　　3月11日 晴 （十三潟が7日の夜九頃より翌8日朝明け六時頃まで早川口より残らず氷明ける）
1775年　4月11日 安永4年　　3月12日 曇　今午の下刻より雨　戌の刻頃より晴
1775年　4月12日 安永4年　　3月13日 快晴
1775年　4月13日 安永4年　　3月14日 快晴
1775年　4月14日 安永4年　　3月15日 曇　昨夜中より雨　今日終日降
1775年　4月15日 安永4年　　3月16日 晴
1775年　4月16日 安永4年　　3月17日 晴
1775年　4月17日 安永4年　　3月18日 快晴
1775年　4月18日 安永4年　　3月19日 曇　今日未の下刻より小雨　亥の刻頃まで降
1775年　4月19日 安永4年　　3月20日 晴　土用に入
1775年　4月20日 安永4年　　3月21日 曇
1775年　4月21日 安永4年　　3月22日 曇
1775年　4月22日 安永4年　　3月23日 曇　今辰の刻より小雨
1775年　4月23日 安永4年　　3月24日 陰晴
1775年　4月24日 安永4年　　3月25日 晴
1775年　4月25日 安永4年　　3月26日 晴
1775年　4月26日 安永4年　　3月27日 曇　昨夜戌の下刻より雨　今朝辰の刻頃まで降
1775年　4月27日 安永4年　　3月28日 陰晴　昨夜丑の刻より寅の中刻まて雨少々
1775年　4月28日 安永4年　　3月29日 快晴　今暁霜降
1775年　4月29日 安永4年　　3月30日 快晴　今暁霜降
1775年　4月30日 安永4年　　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合157人：碇関148人（御印紙出66・切手紙出82）・野内9人（御印紙出3・切手紙出6）、去月5日深浦領驫木村前浜に破船1艘）

1775年　5月1日 安永4年　4月2日 快晴　今朝霜降
1775年　5月2日 安永4年　4月3日 快晴
1775年　5月3日 安永4年　4月4日 晴
1775年　5月4日 安永4年　4月5日 快晴　今巳の刻地震少々 （上方登りの勘定奉行に一粒金丹20粒）
1775年　5月5日 安永4年　4月6日 快晴　巳の中刻より風吹　午の刻過ぎ曇 （朔日五時より十腰内村岩鬼山本地仏が御出汗・五山でご祈祷など古懸と同様にしている）
1775年　5月6日 安永4年　4月7日 快晴 （夜の土渕川に明かりを持った八目取りが現れている、屋形様は新庄の舟形川の洪水で1日逗留・公儀への届けの有無を確認・1日2日は不要との回答）
1775年　5月7日 安永4年　4月8日 陰晴 （昨7日昼四時頃金木新田宮川村で火災（家11軒（6間4尺×14間など百姓が多い）外馬屋8軒（3間×6間など大きめ）・防火作業中井戸に落ち男1人死亡）、　欄外(*)に続く
1775年　5月8日 安永4年　4月9日 陰晴　今暁雨　卯の中刻晴
1775年　5月9日 安永4年　4月10日 晴
1775年　5月10日 安永4年　4月11日 晴　午の上刻より曇　中刻雨降
1775年　5月11日 安永4年　4月12日 曇　今暁より今日終日雨降
1775年　5月12日 安永4年　4月13日 快晴
1775年　5月13日 安永4年　4月14日 晴　未の中刻より雨降
1775年　5月14日 安永4年　4月15日 曇
1775年　5月15日 安永4年　4月16日 晴
1775年　5月16日 安永4年　4月17日 快晴
1775年　5月17日 安永4年　4月18日 陰晴　今暁雨少々
1775年　5月18日 安永4年　4月19日 陰晴
1775年　5月19日 安永4年　4月20日 晴　申の刻頃より小雨　同下刻晴
1775年　5月20日 安永4年　4月21日 曇
1775年　5月21日 安永4年　4月22日 曇　午の上刻より晴
1775年　5月22日 安永4年　4月23日 曇　午の下刻より雨降
1775年　5月23日 安永4年　4月24日 曇
1775年　5月24日 安永4年　4月25日 曇　辰の上刻より小雨少々
1775年　5月25日 安永4年　4月26日 快晴　申の下刻より雨少々 （詳細は不明だが多くの庄屋が鞭刑・所払いになっている）
1775年　5月26日 安永4年　4月27日 晴
1775年　5月27日 安永4年　4月28日 曇　卯の中刻より小雨降
1775年　5月28日 安永4年　4月29日 曇　昨卯の中刻より雨昨夜中　今日終日降
1775年　5月29日 安永4年　5月1日 曇　昨夜中雨　今朝まで降　昼雨時々 （4月中所々御関所出人都合182人：碇関179人（御印紙出95・切手紙出84）・野内3人（切手紙出））
1775年　5月30日 安永4年　5月2日 曇　昨夜雨時々　今朝に及ぶ
1775年　5月31日 安永4年　5月3日 曇　午の上刻より雨　中刻に至り晴 （今朝巳の刻橋雲寺の本尊御出汗・古懸不動尊と同様にする）
1775年　6月1日 安永4年　5月4日 曇
1775年　6月2日 安永4年　5月5日 曇　申の下刻雷雨少々
1775年　6月3日 安永4年　5月6日 曇　辰の中刻より雨時々降 （去年7月に町払いの立ち返り者に鞭刑と三里四方追放）
1775年　6月4日 安永4年　5月7日 陰晴 （四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1775年　6月5日 安永4年　5月8日 曇
1775年　6月6日 安永4年　5月9日 陰晴
1775年　6月7日 安永4年　5月10日 陰晴　今朝卯の下刻小雨少々
1775年　6月8日 安永4年　5月11日 快晴　朝の内曇
1775年　6月9日 安永4年　5月12日 快晴
1775年　6月10日 安永4年　5月13日 快晴
1775年　6月11日 安永4年　5月14日 快晴
1775年　6月12日 安永4年　5月15日 快晴　申の中刻雷発す
1775年　6月13日 安永4年　5月16日 陰晴　朝の内曇
1775年　6月14日 安永4年　5月17日 曇　昨夜丑の刻より雨　今日終日降
1775年　6月15日 安永4年　5月18日 晴 （座当200・盲女168人に15文宛御配当を下し置かれる）
1775年　6月16日 安永4年　5月19日 曇
1775年　6月17日 安永4年　5月20日 曇　卯の中刻雷少々発す
1775年　6月18日 安永4年　5月21日 晴
1775年　6月19日 安永4年　5月22日 曇　今日辰の中刻より雨　午の下刻より晴
1775年　6月20日 安永4年　5月23日 曇　今朝卯の刻過ぎより巳の刻まで小雨
1775年　6月21日 安永4年　5月24日 曇　午の刻より雨
1775年　6月22日 安永4年　5月25日 曇　昨夜中雨　今朝に至る　午の上刻より晴
1775年　6月23日 安永4年　5月26日 晴 （当御発駕御用金：2206両1歩7文目6分4毛・去年は2043両2歩18文目8分8厘・差引163両2歩と12文目1分……判らん：福眞）
1775年　6月24日 安永4年　5月27日 晴
1775年　6月25日 安永4年　5月28日 晴
1775年　6月26日 安永4年　5月29日 晴 （大鰐村より初大角豆差上げる）
1775年　6月27日 安永4年　5月30日 陰晴
1775年　6月28日 安永4年　6月1日 快晴 （5月中所々御関所出人都合88人：碇関86人（御印紙出59・切手紙出27）・野内2人（切手紙出））
1775年　6月29日 安永4年　6月2日 晴
1775年　6月30日 安永4年　6月3日 陰晴　今巳の中刻雨少々　申の刻地震
(*) 火元は時疫で病死しておりその妻子は田打ちに出て不在・他村預け）

1775年　7月1日 安永4年　　6月4日 曇　今日巳の刻より雨　終日降　(大鰐村利右衛門が初真瓜差上げる)
1775年　7月2日 安永4年　　6月5日 晴
1775年　7月3日 安永4年　　6月6日 陰晴
1775年　7月4日 安永4年　　6月7日 陰晴　朝の内霧　未の刻過ぎ雷鳴　雨少し降　東の方に虹見ゆる　風少々立　申の下刻より稲光強く雷発す　酉の刻過ぎより雨降　夜中雷発す　時々雨
1775年　7月5日 安永4年　　6月8日 曇　昨夜中雨　雷発す　今朝より晴
1775年　7月6日 安永4年　　6月9日 快晴　(大鰐村理左衛門より初茄子差上げる、6月に徳才子村から馬2疋盗み取り碇関門外で捕まった男を取上の御仕置場で斬罪)
1775年　7月7日 安永4年　　6月10日 晴　朝の内曇
1775年　7月8日 安永4年　　6月11日 曇　昨夜中より雨　巳の中刻雷発す
1775年　7月9日 安永4年　　6月12日 曇　巳の中刻雨少々　(内南御門下馬腰掛の壁に落書)
1775年　7月10日 安永4年　　6月13日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　(頃日天気不勝に付き神明宮に五穀成就の御祈祷を仰付ける、安永四乙未年御群中生死人別調帳:人数247837人(男130902・女116955):と書いてある:福眞)
1775年　7月11日 安永4年　　6月14日 曇　今日辰の下刻雨少々降
1775年　7月12日 安永4年　　6月15日 快晴　今日暑気甚だし　(今夜九時過ぎ長勝寺山中の恵林寺焼失)
1775年　7月13日 安永4年　　6月16日 快晴　昨夜より雨　今朝に及ぶ　卯の下刻虹見ゆる　暑強　　下から続く　　弘前中1300両・惣在々1500両・青森800両・鰺ヶ沢300両・深浦150両・碇関50両の御用立てを仰せ付ける)
1775年　7月14日 安永4年　　6月17日 曇　巳の下刻雨　暑強　(出火の恵林寺を禁足、嵩・湯段に湯治男女35人あり・特に宿が罰せられる、鴻池又右衛門などから10500両借りており利息一歩・代米10000石充て3ヶ年、　　上に続く
1775年　7月15日 安永4年　　6月18日 快晴　今日暑甚だし
1775年　7月16日 安永4年　　6月19日 曇　今暁寅の刻雨少々　今日暑甚だし　申の刻頃東の方に虹見ゆる
1775年　7月17日 安永4年　　6月20日 陰晴　今午の上刻大雨　艮の刻晴
1775年　7月18日 安永4年　　6月21日 曇　今辰の刻頃小雨
1775年　7月19日 安永4年　　6月22日 曇　今辰の刻小雨　巳の上刻より晴ル　酉の六刻土用に入る
1775年　7月20日 安永4年　　6月23日 快晴　(21日夜革秀寺前川原で兄弟が追いはぎに会う)
1775年　7月21日 安永4年　　6月24日 快晴
1775年　7月22日 安永4年　　6月25日 快晴
1775年　7月23日 安永4年　　6月26日 快晴
1775年　7月24日 安永4年　　6月27日 陰曇
1775年　7月25日 安永4年　　6月28日 快晴　(当月10日より雨ふり広須組村々洪水・16町歩9反9畝歩水湛)
1775年　7月26日 安永4年　　6月29日 快晴　今日暑強し
1775年　7月27日 安永4年　　7月1日 快晴　朝の内霧多　暑強　(6月中所々御関所出人都合120人:碇関112人(御印紙出82・切手紙出30)・野内5人(御印紙出1・切手紙出4)・大間越3人(御印紙出1・切手紙出2))
1775年　7月28日 安永4年　　7月2日 晴　昨夜亥の刻過ぎ地震少々　今朝卯の刻過ぎ雨少々　今日風烈し　(去月15日出火の恵林寺の禁足免許)
1775年　7月29日 安永4年　　7月3日 晴　昨夜より今朝まで折々風烈し　(21日に追いはぎに会い剥ぎ取られた衣類を示している:当時の衣類が具体的に示されている)
1775年　7月30日 安永4年　　7月4日 快晴　今日暑気甚
1775年　7月31日 安永4年　　7月5日 快晴　今日暑気強　(去月28日木作新田三原村で兄の子を切殺した男の人相書き、昨4日夜本町三丁目でねふた喧嘩、平館村から71歳病人を箱館に送り返す前に病死・持参品を明示している)
1775年　8月1日 安永4年　　7月6日 快晴　暑　昨日の通り強　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる)
1775年　8月2日 安永4年　　7月7日 快晴　暑　昨日の通り強　(昨日の初穂は4月27日植え付け・昨年は4月25日植え付け7月6日差上げ・日数に引き合い当年は2日早い)
1775年　8月3日 安永4年　　7月8日 快晴　暑気昨日の通り強
1775年　8月4日 安永4年　　7月9日 快晴　暑　昨日の通り強
1775年　8月5日 安永4年　　7月10日 快晴　暑　昨日の通
1775年　8月6日 安永4年　　7月11日 快晴　暑　昨日の通
1775年　8月7日 安永4年　　7月12日 快晴　暑　昨日の通
1775年　8月8日 安永4年　　7月13日 快晴　暑　昨日の通　今晩酉の刻より曇
1775年　8月9日 安永4年　　7月14日 曇
1775年　8月10日 安永4年　　7月15日 快晴　(「神功皇后」に平出または欠字を用いており「台頭」はない)
1775年　8月11日 安永4年　　7月16日 快晴
1775年　8月12日 安永4年　　7月17日 快晴
1775年　8月13日 安永4年　　7月18日 快晴　(16日蒲原村で水浴び(公用か)中の足軽が水死、当月12日尾崎組柏木町村で男が追いはぎに会い衣類剥ぎ取られる)
1775年　8月14日 安永4年　　7月19日 快晴
1775年　8月15日 安永4年　　7月20日 快晴
1775年　8月16日 安永4年　　7月21日 快晴
1775年　8月17日 安永4年　　7月22日 曇　昨夜中より雨　今朝より晴ル　未の下刻雷発す
1775年　8月18日 安永4年　　7月23日 曇　残暑強
1775年　8月19日 安永4年　　7月24日 快晴　未の下刻より雨降
1775年　8月20日 安永4年　　7月25日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　巳の下刻晴
1775年　8月21日 安永4年　　7月26日 快晴
1775年　8月22日 安永4年　　7月27日 快晴　(大鰐村加賀助・兵左衛門より初米3俵宛差上げる・去年も当月27日差上げ・植付日より日数引き合い当年は3日早く節に引き合い10日早い)
1775年　8月23日 安永4年　　7月28日 快晴
1775年　8月24日 安永4年　　7月29日 快晴
1775年　8月25日 安永4年　　7月30日 快晴
1775年　8月26日 安永4年　　8月1日 快晴　(7月中所々御関所出人都合115人:碇関106人(御印紙出67・切手紙出39)・大間越1人(御印紙出)・野内8人(切手紙出)、熊野宮下社家に御手当て米2俵下し置かれる)
1775年　8月27日 安永4年　　8月2日 快晴　今日未の刻より雨　申の中刻まで
1775年　8月28日 安永4年　　8月3日 曇　申之刻雷度々発す
1775年　8月29日 安永4年　　8月4日 快晴　今日未の中刻過ぎ雷度々発す
1775年　8月30日 安永4年　　8月5日 曇　今暁寅の刻過ぎより雷度々　申ノ刻雨降　東方虹見ゆる
1775年　8月31日 安永4年　　8月6日 晴

1775年　9月1日 安永4年　8月7日 晴　昨夜亥の刻雨　雷度々発す　今日巳の下刻より雨少々　午の刻より晴　雷発す
1775年　9月2日 安永4年　8月8日 快晴
1775年　9月3日 安永4年　8月9日 快晴
1775年　9月4日 安永4年　8月10日 陰晴　今午の刻雨
1775年　9月5日 安永4年　8月11日 晴　昨夜時々雨　今日小雨少々降
1775年　9月6日 安永4年　8月12日 快晴
1775年　9月7日 安永4年　8月13日 晴　昨夜子の刻雷雨強く今朝より晴
1775年　9月8日 安永4年　8月14日 晴
1775年　9月9日 安永4年　8月15日 曇　昨夜亥の刻より雨　今朝に及ぶ　今日未の刻大風終夜　戌の刻西北の方虹見ゆる(月に伴う虹でしょうな:福眞)
1775年　9月10日 安永4年　8月16日 曇　今日未の刻雨降　(昨晩の大風で城中所々破損)
1775年　9月11日 安永4年　8月17日 晴　今日酉の刻雨
1775年　9月12日 安永4年　8月18日 快晴
1775年　9月13日 安永4年　8月19日 陰晴
1775年　9月14日 安永4年　8月20日 晴　(去る15日より16日までの大風で鰺ヶ沢前浜で破船7艘・十三町で破船1艘船頭水主死亡)
1775年　9月15日 安永4年　8月21日 陰晴　(14日夜中より15日夜中までの大風で金木組に吹きこほれ被害)
1775年　9月16日 安永4年　8月22日 曇　今日終日雨降
1775年　9月17日 安永4年　8月23日 陰晴　昨夜中雨　今朝雨少し降
1775年　9月18日 安永4年　8月24日 晴
1775年　9月19日 安永4年　8月25日 快晴　(16日大間越前浜に橋舟で15人上がる・船は流失)
1775年　9月20日 安永4年　8月26日 曇　今巳の刻雨少々降　(居村払い男が立ち帰り鞭刑と五里四方追放)
1775年　9月21日 安永4年　8月27日 快晴
1775年　9月22日 安永4年　8月28日 快晴
1775年　9月23日 安永4年　8月29日 曇　昨夜酉の刻より雨降　子の刻より晴と成る
1775年　9月24日 安永4年　8月30日 曇　今暁より雨降　(当月15日大風被害:潰れ家57軒・外馬屋5軒・塩釜1枚・御制札1ヶ所・橋1ヶ所等々)
1775年　9月25日 安永4年　9月1日 曇　(8月中所々御関所出人都合146人:碇関144人(御印紙出106・切手紙出38)・大間越1人(切手紙出)・野内1人(切手紙出)、碇関町の奇特の者3人が補助米25俵雑穀20俵味噌75貫献上)
1775年　9月26日 安永4年　9月2日 曇
1775年　9月27日 安永4年　9月3日 曇
1775年　9月28日 安永4年　9月4日 曇
1775年　9月29日 安永4年　9月5日 曇
1775年　9月30日 安永4年　9月6日 快晴　申ノ刻過ぎより雨降
1775年　10月1日 安永4年　9月7日 快晴　巳の刻小雨少々降
1775年　10月2日 安永4年　9月8日 快晴
1775年　10月3日 安永4年　9月9日 快晴　今午の下刻雨並びに氷降
1775年　10月4日 安永4年　9月10日 快晴　(明和9年に親兼次郎跡式の御目見以下御留守居三番組支配新岡与三郎(35俵2人扶持)を病身で御暇・その弟17歳の佐七を新規御召抱え(30俵2人扶持))
1775年　10月5日 安永4年　9月11日 快晴
1775年　10月6日 安永4年　9月12日 快晴
1775年　10月7日 安永4年　9月13日 快晴
1775年　10月8日 安永4年　9月14日 曇　昨夜中より雨　巳の刻まで降　同刻より晴
1775年　10月9日 安永4年　9月15日 快晴
1775年 10月10日 安永4年　9月16日 陰晴　昨夜中雨折々降　今辰の刻晴　(長勝寺に盗人あり・御門の金具など盗まれる)
1775年 10月11日 安永4年　9月17日 曇　今辰の下刻小雨少々降
1775年 10月12日 安永4年　9月18日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ
1775年 10月13日 安永4年　9月19日 晴
1775年 10月14日 安永4年　9月20日 快晴
1775年 10月15日 安永4年　9月21日 晴
1775年 10月16日 安永4年　9月22日 曇
1775年 10月17日 安永4年　9月23日 晴
1775年 10月18日 安永4年　9月24日 晴
1775年 10月19日 安永4年　9月25日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(来月8日長勝寺で功樹院様(大浦光信)の250回御忌)
1775年 10月20日 安永4年　9月26日 曇
1775年 10月21日 安永4年　9月27日 陰晴　申之刻より雨降　(御扶持方御倉に米6俵を初めて御収納)
1775年 10月22日 安永4年　9月28日 曇　今日終日雨降
1775年 10月23日 安永4年　9月29日 曇　今酉の刻より雨降
1775年 10月24日 安永4年　10月1日 曇　昨夜中より雨　今日に及ぶ　岩木山雪見ゆる　(9月中所々御関所出人都合156人:碇関148人(御印紙出89・切手紙出59)・大間越4人(御印紙出)・野内4人(御印紙出2・切手紙出2))
1775年 10月25日 安永4年　10月2日 晴　昨夜中雨降
1775年 10月26日 安永4年　10月3日 陰晴
1775年 10月27日 安永4年　10月4日 陰晴　昨申の下刻より雨降
1775年 10月28日 安永4年　10月5日 晴
1775年 10月29日 安永4年　10月6日 晴
1775年 10月30日 安永4年　10月7日 快晴
1775年 10月31日 安永4年　10月8日 快晴

1775年　11月1日 安永4年　　10月9日 快晴
1775年　11月2日 安永4年　　10月10日 曇　今暁より風雨よほど強し
1775年　11月3日 安永4年　　10月11日 曇　昨夜雨時々　今朝ニおよふ　今朝辰の下刻地震
1775年　11月4日 安永4年　　10月12日 陰晴　昨夜雨時々　今朝岩木山雪見ゆる
1775年　11月5日 安永4年　　10月13日 曇　(16日立ち御飛脚で公儀御上納金(先年地震の節拝借)400両を送る)
1775年　11月6日 安永4年　　10月14日 曇
1775年　11月7日 安永4年　　10月15日 曇　昨夜雨度々降　(当月5日木作村で出火(記述なし)・火元他村預け・免許、長勝寺の金物盗み取った男捕まる・乞食手に渡す)
1775年　11月8日 安永4年　　10月16日 陰晴　昨夜雨時々　今巳の中刻阿ら連(あられ)降　(御家中知行米渡は来る19日より高百石につき25俵宛の予定:その他は福眞にはわからない)
1775年　11月9日 安永4年　　10月17日 曇
1775年 11月10日 安永4年　　10月18日 快晴
1775年 11月11日 安永4年　　10月19日 快晴
1775年 11月12日 安永4年　　10月20日 快晴
1775年 11月13日 安永4年　　10月21日 晴
1775年 11月14日 安永4年　　10月22日 晴
1775年 11月15日 安永4年　　10月23日 曇
1775年 11月16日 安永4年　　10月24日 曇　今亥の刻少々鳴震
1775年 11月17日 安永4年　　10月25日 曇　今申の下刻より雨降
1775年 11月18日 安永4年　　10月26日 曇　昨夜雨時々　今朝卯の中刻雪降
1775年 11月19日 安永4年　　10月27日 陰晴　夜に入り霜
1775年 11月20日 安永4年　　10月28日 曇
1775年 11月21日 安永4年　　10月29日 曇　昨夜中より雨　今暁に及ぶ
1775年 11月22日 安永4年　　10月30日 曇　今日雪降
1775年 11月23日 安永4年　　11月1日 曇　昨夜より今朝まで雪少々降　(10月中所々御関所出人都合87人:碇関85人(御印紙出66・切手紙出19)・野内2人(切手紙出)、御寺等への届け・隠居料等を削減している)
1775年 11月24日 安永4年　　11月2日 晴　昨夜中雨降
1775年 11月25日 安永4年　　11月3日 曇　今暁雨少々降　(御献上の鮭を御家老等見分)
1775年 11月26日 安永4年　　11月4日 快晴　今暁寅の刻過ぎ雨降
1775年 11月27日 安永4年　　11月5日 曇
1775年 11月28日 安永4年　　11月6日 晴
1775年 11月29日 安永4年　　11月7日 快晴
1775年 11月30日 安永4年　　11月8日 晴
1775年　12月1日 安永4年　　11月9日 曇
1775年　12月2日 安永4年　　11月10日 快晴
1775年　12月3日 安永4年　　11月11日 曇　昨夜中雨　今夕未の刻過ぎより雨　夜中に及ぶ
1775年　12月4日 安永4年　　11月12日 曇　昨夜戌の三刻より風吹　子の四刻に至る
1775年　12月5日 安永4年　　11月13日 曇　昨夜の雪今朝に及ぶ　一寸ほど降
1775年　12月6日 安永4年　　11月14日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　雪一寸ほど降る(昨夜雨及今朝雪一寸程降)　(去る11日本町の質屋近江屋に盗人・銭2貫目並びに質物盗まれる)
1775年　12月7日 安永4年　　11月15日 曇　昨夜雨度々降　雪少々　今朝に及ぶ(昨夜雨度々降雪少々及今朝)
1775年　12月8日 安永4年　　11月16日 陰晴
1775年　12月9日 安永4年　　11月17日 曇　今申ノ刻小雨降　(浪岡の御蔵の勘定が去る秋より滞っていた・駄賃付けどもが御米を盗み取り出奔したもの・人相書等で手配する・犯人を見出すまでその子を入牢させる)
1775年 12月10日 安永4年　　11月18日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降
1775年 12月11日 安永4年　　11月19日 快晴
1775年 12月12日 安永4年　　11月20日 晴
1775年 12月13日 安永4年　　11月21日 陰晴
1775年 12月14日 安永4年　　11月22日 曇
1775年 12月15日 安永4年　　11月23日 曇　今日雨降　(17日記述の浪岡御蔵立会い手塚・同御蔵奉行沼田が御奉公遠慮伺い・伺いの通り仰せ付ける)
1775年 12月16日 安永4年　　11月24日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　午の刻より又々雪降　(17日記述の人相書き:当年35歳・せい4尺9寸位・面体丸ク色黒キ方但……・他にせい5尺位と5尺4・5寸位の三人)
1775年 12月17日 安永4年　　11月25日 晴　昨夜中雪　今朝に及ぶ　二寸くらい降　辰ノ下刻より晴と成ル
1775年 12月18日 安永4年　　11月26日 曇　昨夜雨時々　今朝卯の中刻より雨降
1775年 12月19日 安永4年　　11月27日 晴
1775年 12月20日 安永4年　　11月28日 快晴　(当月23日内真部湊に入津中の水主が水死)
1775年 12月21日 安永4年　　11月29日 曇
1775年 12月22日 安永4年　　11月30日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1775年 12月23日 安永4年　　12月1日 曇　(11月中所々御関所出人都合71人:碇関68人(御印紙出49・切手紙出19)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2))
1775年 12月24日 安永4年　　12月2日 曇　(堀内匠(御馬廻組頭)に一粒金丹10粒)
1775年 12月25日 安永4年　　12月3日 快晴
1775年 12月26日 安永4年　　12月4日 曇
1775年 12月27日 安永4年　　12月5日 曇
1775年 12月28日 安永4年　　12月6日 晴
1775年 12月29日 安永4年　　12月7日 晴
1775年 12月30日 安永4年　　12月8日 曇
1775年 12月31日 安永4年　　12月9日 晴　(野呂某を阿呆払い)

1776年　1月1日 安永4年　12月10日 晴　昨夜雨少々降
1776年　1月2日 安永4年　12月11日 曇　昨夜中雪弐寸程降
1776年　1月3日 安永4年　12月12日 曇　昨夜雪少々降
1776年　1月4日 安永4年　12月13日 曇　今朝少々雪降
1776年　1月5日 安永4年　12月14日 快晴
1776年　1月6日 安永4年　12月15日 快晴　小寒卯の一刻に入る （11日夜中野村で稲乳壱(1400束)焼失・火元村預け、去る8日今別湊で本庄塩越の船頭水死）
1776年　1月7日 安永4年　12月16日 曇　昨夜中より雪降
1776年　1月8日 安永4年　12月17日 快晴
1776年　1月9日 安永4年　12月18日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ
1776年　1月10日 安永4年　12月19日 曇
1776年　1月11日 安永4年　12月20日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ （11日家焼失の浪岡組中野村の火元の戸〆免許）
1776年　1月12日 安永4年　12月21日 曇
1776年　1月13日 安永4年　12月22日 曇　昨夜中より雨　今巳ノ刻至
1776年　1月14日 安永4年　12月23日 曇 （昨夜八時頃下鍛冶町で出火）
1776年　1月15日 安永4年　12月24日 陰晴
1776年　1月16日 安永4年　12月25日 快晴
1776年　1月17日 安永4年　12月26日 曇　今朝卯の刻過ぎより雪降
1776年　1月18日 安永4年　12月27日 曇
1776年　1月19日 安永4年　12月28日 曇　今朝より雪少々降
1776年　1月20日 安永4年　12月29日 曇　昨夜雪少々降 （山崎常助が明朔日日蝕に付き測量・登城御容赦願・了）　下から続く　（切手紙出）、先月21日三馬屋村松ヶ崎で破船1艘）
1776年　1月21日 安永4年　閏12月1日 曇　今日日蝕壱歩か、流(かかる) 昨夜より今朝まで雪三寸程降　今日時々雪降　巳ノ六刻寒ニ入 （12月中所々御関所出人:碇関85人(御印紙出62・切手紙出23)・野内3人　上に続く
1776年　1月22日 安永4年　閏12月2日 陰晴 （大鰐組唐牛村から娘を盗み出した男共を鞭刑並びに追放）
1776年　1月23日 安永4年　閏12月3日 晴
1776年　1月24日 安永4年　閏12月4日 晴 （当年日月蝕四度あり・最勝院が御領内安全の御祈祷を行う）
1776年　1月25日 安永4年　閏12月5日 曇　昨夜雪三寸位降　今日時々雪降
1776年　1月26日 安永4年　閏12月6日 晴
1776年　1月27日 安永4年　閏12月7日 快晴
1776年　1月28日 安永4年　閏12月8日 曇　昨夜雨少々　卯の刻より雪降
1776年　1月29日 安永4年　閏12月9日 曇
1776年　1月30日 安永4年　閏12月10日晴
1776年　1月31日 安永4年　閏12月11日曇
1776年　2月1日 安永4年　閏12月12日晴　今暁少々雪 （当秋作風損等にて少なからざる検見引きに付き御家中知行米……:判らん:福眞）
1776年　2月2日 安永4年　閏12月13日晴　未の下刻より雪夜に入る　今朝に及ぶ
1776年　2月3日 安永4年　閏12月14日快晴
1776年　2月4日 安永4年　閏12月15日快晴
1776年　2月5日 安永4年　閏12月16日快晴
1776年　2月6日 安永4年　閏12月17日曇 （藤代組代官から去る巳年(一昨年)の大虫付きと申年(11年前か)種籾拝借の両年の返済分の皆捨の申し立てあり・例にしないとの条件で了承）
1776年　2月7日 安永4年　閏12月18日曇 （当10月8日功樹院様の250回御忌に伴う大赦:18人に弘前並びに居村徘徊御免）
1776年　2月8日 安永4年　閏12月19日晴　昨夜中雪壱尺位降
1776年　2月9日 安永4年　閏12月20日晴　今朝雪少々降 （御家中知行米平均検見御差引半分通り御容赦仰せ付けられ候御礼麻上下着用一統上之間に罷出御礼申し達す:このように読めるのだが意味は分からないな:福眞）
1776年　2月10日 安永4年　閏12月21日晴
1776年　2月11日 安永4年　閏12月22日晴
1776年　2月12日 安永4年　閏12月23日曇　今朝より雪少々降
1776年　2月13日 安永4年　閏12月24日曇　今朝より雪降
1776年　2月14日 安永4年　閏12月25日曇　昨夜中雪二寸位降　今日も雪終日三寸程降 （去る23日金木組尾別村で火災:火元高無村預け）
1776年　2月15日 安永4年　閏12月26日曇 （小泊村長助(ルソンに漂着し再帰国しなかったため切支丹類族扱い)の従弟24日病死、取上村御仕置き場で盗人(団)2人斬罪・馬盗み抜馬の2人斬罪）
1776年　2月16日 安永4年　閏12月27日曇 （当月21日出火の尾別村の火元の村預け免許、鍬師伊兵衛申し立て候宝暦五年二月十日迄出来鍬高:鋤鍬合2900丁(それまで南部から入れていたが入れずに良くなったのかな:福眞)）
1776年　2月17日 安永4年　閏12月28日曇　昨夜中より雪　今朝に及ぶ
1776年　2月18日 安永4年　閏12月29日晴
1776年　2月19日 安永5年　正月1日　曇
1776年　2月20日 安永5年　正月2日　曇　昨夕より雪　今暁に及び大雪
1776年　2月21日 安永5年　正月3日　曇　今日雪降 （御吉例金200両を差登）
1776年　2月22日 安永5年　正月4日　晴
1776年　2月23日 安永5年　正月5日　曇　昨夜雨降　今日卯の刻より雪終日降
1776年　2月24日 安永5年　正月6日　晴
1776年　2月25日 安永5年　正月7日　快晴 （七種の御祝儀）
1776年　2月26日 安永5年　正月8日　曇　辰の刻過ぎより雨降
1776年　2月27日 安永5年　正月9日　曇　今朝雪少々降
1776年　2月28日 安永5年　正月10日　曇　今日時々雪降
1776年　2月29日 安永5年　正月11日　曇　昨夜より雪降

1776年　3月1日 安永5年 正月12日　晴
1776年　3月2日 安永5年 正月13日　曇　今夜より雪　終夜に及ぶ
1776年　3月3日 安永5年 正月14日　晴
1776年　3月4日 安永5年 正月15日　快晴　(旧臘(きゅうろう:去年12月)25日袰月海岸に松前狄の丸木舟破船)
1776年　3月5日 安永5年 正月16日　晴
1776年　3月6日 安永5年 正月17日　曇　今午の刻より晴
1776年　3月7日 安永5年 正月18日　晴
1776年　3月8日 安永5年 正月19日　曇　今日雪降
1776年　3月9日 安永5年 正月20日　曇　(日付不明で掃除小人の母が井に落ち死亡)
1776年　3月10日 安永5年 正月21日　曇
1776年　3月11日 安永5年 正月22日　晴　(去る午(一昨年)六月入牢の下十川村の男が今朝牢死、昨22日和徳組津軽野村で火災・火元高無村預け)
1776年　3月12日 安永5年 正月23日　快晴
1776年　3月13日 安永5年 正月24日　快晴　(黒石米4500石の津出を認める)
1776年　3月14日 安永5年 正月25日　曇　今朝より雨　午の刻過ぎより晴
1776年　3月15日 安永5年 正月26日　曇　(津軽野村の火元の村預け免許)
1776年　3月16日 安永5年 正月27日　曇　昨夜中より雪終日降　(閏12月中所々御関所出人都合75人:碇関71人(御印紙出53・切手紙出18)・大間越2人(御印紙出)・野内2人(切手紙出))
1776年　3月17日 安永5年 正月28日　晴　今未の中刻より雨少々降
1776年　3月18日 安永5年 正月29日　晴
1776年　3月19日 安永5年 正月30日　晴
1776年　3月20日 安永5年　2月1日 曇　今日巳の刻より雨　終日降　(正月中所々御関所出人都合249人:碇関246人(御印紙出231・切手紙出15)・野内3人(切手紙出))
1776年　3月21日 安永5年　2月2日 曇　今日時々雨降
1776年　3月22日 安永5年　2月3日 曇　昨夜中雨　今日終日降　(銅屋町の桶屋の母縊死、今朔日の夜五つ時頃油川組新城村で火災4軒・火元百姓他村預け)
1776年　3月23日 安永5年　2月4日 快晴
1776年　3月24日 安永5年　2月5日 快晴
1776年　3月25日 安永5年　2月6日 曇　昨夜より雨　今日終日降
1776年　3月26日 安永5年　2月7日 晴
1776年　3月27日 安永5年　2月8日 曇
1776年　3月28日 安永5年　2月9日 快晴
1776年　3月29日 安永5年　2月10日 快晴　(当月7日十三潟が明ける、当月6日金木村の火元の村預け免許、一昨8日柏木組五林平村で火災1軒(3間半×9間)・火元村預け)
1776年　3月30日 安永5年　2月11日 快晴
1776年　3月31日 安永5年　2月12日 快晴
1776年　4月1日 安永5年　2月13日 快晴
1776年　4月2日 安永5年　2月14日 快晴　(座当201人・盲女168人に松五郎様御嫡子御届け御祝儀として20文充て下し置かれる、五林平村の火元百姓の村預け差許)
1776年　4月3日 安永5年　2月15日 快晴　今日辰の中刻過ぎ地震少々　(12日夜赤石組深谷村で火災1軒馬1疋焼失)
1776年　4月4日 安永5年　2月16日 快晴
1776年　4月5日 安永5年　2月17日 快晴　(御郡内有米不足に付き先頃津留仰せ付けられ候ところ……)
1776年　4月6日 安永5年　2月18日 快晴
1776年　4月7日 安永5年　2月19日 曇　昨夜子の下刻雨少々降
1776年　4月8日 安永5年　2月20日 快晴　(12日出火の深谷村の火元の村預け赦免)
1776年　4月9日 安永5年　2月21日 快晴
1776年　4月10日 安永5年　2月22日 曇　昨夜亥ノ刻より風烈シ　雨降　今日終日風烈　(石渡川洪水七歩余、喜良市山火事段々相鎮まる、一昨20日高杉組大森村で出火・火元高無村預け)
1776年　4月11日 安永5年　2月23日 快晴
1776年　4月12日 安永5年　2月24日 曇　昨夜九つ頃地震少々
1776年　4月13日 安永5年　2月25日 曇　昨暮より雨　今日時々降　(大森村の火元高無の村預け免許)
1776年　4月14日 安永5年　2月26日 曇　今朝時々雪少々降
1776年　4月15日 安永5年　2月27日 快晴
1776年　4月16日 安永5年　2月28日 陰晴　午の刻より快晴
1776年　4月17日 安永5年　2月29日 曇　今日時々小雨
1776年　4月18日 安永5年　3月1日 快晴　(2月中所々御関所出人都合71人:碇関56人(御印紙出28・切手紙出28)・野内12人(御印紙出10・切手紙出2)・大間越3人(切手紙出))
1776年　4月19日 安永5年　3月2日 晴　(去月29日夜増館組下十川村で出火・火元大工村預け)
1776年　4月20日 安永5年　3月3日 曇　昨夜中雨時々降　(去月29日浦町組金浜村で火災3軒外馬屋1軒焼失・火元百姓他村預け)
1776年　4月21日 安永5年　3月4日 曇　今朝より雨折々　午の刻霰ふる
1776年　4月22日 安永5年　3月5日 曇　今朝より雨折々降
1776年　4月23日 安永5年　3月6日 晴　(29日出火の下十川村の火元の村預け免許、2月29日金井沢田野沢前浜に破船1艘)
1776年　4月24日 安永5年　3月7日 快晴　午の刻より曇　(去月29日出火の浦町組金濱村庄屋の他村預け免許)
1776年　4月25日 安永5年　3月8日 快晴
1776年　4月26日 安永5年　3月9日 快晴　(去る7日夜増館村銀村で火災(2間×3間:高無)・火元村預け)
1776年　4月27日 安永5年　3月10日 晴
1776年　4月28日 安永5年　3月11日 晦　(当月15日が長勝寺開山和尚の250回忌に当たる)
1776年　4月29日 安永5年　3月12日 陰晴　(大円寺下より薬王院下までの土渕川に明松で照らして八つ目を取る者多い)
1776年　4月30日 安永5年　3月13日 晴　(昨12日四時過ぎ堀越組福村代庄屋出火(4間×9間と外厩)・火元村預け、当月10日深浦入船中の水主病死・浄土宗荘厳寺に取り置く、7日出火の銀村の火元の村預け免許)

1776年　5月1日 安永5年　3月14日 快晴 （昨夜茂森町に投げ火・早速取り消す、12日夜北横町の塵芥より出火・取り消す・間もなく少し離れて又燃え上がる・夜番で警戒）
1776年　5月2日 安永5年　3月15日 曇　今日時々小雨 （人事異動）
1776年　5月3日 安永5年　3月16日 晴 （出火に付き村預けの堀越組福村代庄屋の村預け免許）
1776年　5月4日 安永5年　3月17日 曇 （去る10日碇関山火事）
1776年　5月5日 安永5年　3月18日 快晴 （若殿様の御目見に付き座当盲女369人に20文ツツ下し置かれる）
1776年　5月6日 安永5年　3月19日 快晴 （十三町の者が前浜で天間船を拾い上げる・半年囲い置き主が出なければ申し出るよう申付ける）
1776年　5月7日 安永5年　3月20日 曇　昨夜雨少し降　今朝に及ぶ
1776年　5月8日 安永5年　3月21日 陰晴　昨申の刻過ぎ小雨　今日巳の刻雨降
1776年　5月9日 安永5年　3月22日 晴　朝の内曇
1776年　5月10日 安永5年　3月23日 曇　今暁霜降　朝の内曇 （当月20日金木新田大沢内村で火災1軒・火元村預け）
1776年　5月11日 安永5年　3月24日 晴 （大沢内村の火元の村預け免許）
1776年　5月12日 安永5年　3月25日 快晴 （後潟組広瀬村の巳之助が行方不明・殺されたのかもしれない・4人を入牢詮議）
1776年　5月13日 安永5年　3月26日 曇
1776年　5月14日 安永5年　3月27日 晴
1776年　5月15日 安永5年　3月28日 曇 （去る26日藤代組廻り関村で火災・火元高無村預け）
1776年　5月16日 安永5年　3月29日 曇　昨夜中より雨　今朝に至る
1776年　5月17日 安永5年　3月30日 晴　昨夜中時々雨降 （町同心を永の暇になった男の人相書：当年52歳・せい5尺5寸位……、藤代組廻り関村の火元の村預け免許、当月8日平館村宇田前沖に長さ4尋余の流船・19日と同じ）
1776年　5月18日 安永5年　4月1日 晴 （3月中所々御関所出人都合111人：碇関112人（御印紙出54・切手紙出58））
1776年　5月19日 安永5年　4月2日 晴　酉の刻過ぎ雨少々降
1776年　5月20日 安永5年　4月3日 晴 （報恩寺に町在の者共が見物に入る・みだりに入らないよう申付ける）
1776年　5月21日 安永5年　4月4日 快晴
1776年　5月22日 安永5年　4月5日 快晴
1776年　5月23日 安永5年　4月6日 曇　辰の中刻より小雨
1776年　5月24日 安永5年　4月7日 晴
1776年　5月25日 安永5年　4月8日 晴　午の初刻より曇　同刻過ぎ雷壱度発す　午の中刻より雨降　夜中に及ぶ
1776年　5月26日 安永5年　4月9日 曇
1776年　5月27日 安永5年　4月10日 快晴
1776年　5月28日 安永5年　4月11日 晴
1776年　5月29日 安永5年　4月12日 曇　今暁寅の刻より雨　今日終日降
1776年　5月30日 安永5年　4月13日 快晴
1776年　5月31日 安永5年　4月14日 快晴 （一昨12日岩木川洪水・出流木過分に流失）
1776年　6月1日 安永5年　4月15日 快晴 （当月3日後潟組大川平村で火災・家31軒・土蔵1・物置8・外馬屋18軒・室1・馬2疋焼失・火元高無他村預け）
1776年　6月2日 安永5年　4月16日 曇　今辰の上刻より雨　終日降
1776年　6月3日 安永5年　4月17日 陰晴
1776年　6月4日 安永5年　4月18日 快晴
1776年　6月5日 安永5年　4月19日 曇　午の中刻より雨　酉の上刻晴ル
1776年　6月6日 安永5年　4月20日 晴
1776年　6月7日 安永5年　4月21日 晴
1776年　6月8日 安永5年　4月22日 晴
1776年　6月9日 安永5年　4月23日 陰晴
1776年　6月10日 安永5年　4月24日 晴
1776年　6月11日 安永5年　4月25日 曇
1776年　6月12日 安永5年　4月26日 曇
1776年　6月13日 安永5年　4月27日 曇　辰の刻より雨　終日降
1776年　6月14日 安永5年　4月28日 陰晴　今暁より辰の中刻まで小雨降　　下から続く　　往来之妨ニ茂相成候間以来左之通相心得べく候」以下左の内容として十万石以上先供駕籠脇共20人限りなどが続く・欄外(*)参照）
1776年　6月15日 安永5年　4月29日 晴　今日午の下刻より雨時々　　下から続く　　公儀御書付：大名等の御供周りを少なくしろとのこと・その理由が気に入ったので記す「諸大名往還之節徒侍多召連候面々有之　　上に続く
1776年　6月16日 安永5年　5月1日 曇　昨夜中より雨降 （4月中所々御関所出人都合88人：碇関73人（御印紙出40・切手紙出33）・野内11人（御印紙出9・切手紙出2）・大間越4人（御印紙出1・切手紙出3）、　　上に続く
1776年　6月17日 安永5年　5月2日 曇　昨夜中より雨降
1776年　6月18日 安永5年　5月3日 曇
1776年　6月19日 安永5年　5月4日 曇
1776年　6月20日 安永5年　5月5日 曇　昨夜子の刻より小雨　子の刻過ぎ霽　今朝卯の刻より雨降 （若殿様御麻疹に御座なされ候）
1776年　6月21日 安永5年　5月6日 曇　今朝卯の刻より雨　辰の刻より霽 （神明宮で日和揚げのご祈祷を仰せ付ける、岩木嵩・湯段の湯治停止）
1776年　6月22日 安永5年　5月7日 曇 （一昨5日明け六つ時金木組嘉瀬村で火災・火元高無村預け、去々年6月入牢の喧嘩殺人男牢死、一昨5日大鰐組長峰村の半十郎夫婦と子が変死・夫婦は刃物傷・子は縊死）
1776年　6月23日 安永5年　5月8日 晴　今日辰の中刻より曇 （長峰村の変死夫婦の殺人者はその子の仕業と相聞こえ・子の死骸を塩漬けにして入牢させる・その女房を人相書きで手配）
1776年　6月24日 安永5年　5月9日 晴 （当月5日出火の嘉瀬村の火元の村預け免許）
1776年　6月25日 安永5年　5月10日 快晴 （大鰐村より初大角豆差上げる）
1776年　6月26日 安永5年　5月11日 晴
1776年　6月27日 安永5年　5月12日 快晴　未の中刻雨　同下刻雷発す
1776年　6月28日 安永5年　5月13日 曇　昨夜中雨時々　今朝辰の上刻より雨降
1776年　6月29日 安永5年　5月14日 曇　巳ノ刻過ぎより晴ル
1776年　6月30日 安永5年　5月15日 晴 （13日夜広須組上木作村で〇乳（〇を乾燥させる円錐状のもの・乳はこの円錐状の者を意味するが標準語ではにお（堆）と言う・津軽弁かもしれない：福眞）焼失・火元村預け）
(*) 「」内を現代語にすると、「大名たちが道を通る際、徒歩の侍を多数連れている例がある。（庶民の）通行の邪魔のもなるので、左の人数に留めよ。」といった具合である。

1776年　7月1日 安永5年　5月16日 快晴 （大鰐村小兵衛より初真瓜差上げる）
1776年　7月2日 安永5年　5月17日 曇　今巳の刻より小雨降 （広須組上木作村の火元の村預け免許）
1776年　7月3日 安永5年　5月18日 晴
1776年　7月4日 安永5年　5月19日 晴
1776年　7月5日 安永5年　5月20日 晴
1776年　7月6日 安永5年　5月21日 快晴
1776年　7月7日 安永5年　5月22日 晴
1776年　7月8日 安永5年　5月23日 曇
1776年　7月9日 安永5年　5月24日 曇　今午の刻より雨降　終夜に及ぶ
1776年　7月10日 安永5年　5月25日 曇　今日申の下刻より小雨降
1776年　7月11日 安永5年　5月26日 晴
1776年　7月12日 安永5年　5月27日 曇
1776年　7月13日 安永5年　5月28日 なし(この日の日記の前半がないらしい:福眞)
1776年　7月14日 安永5年　5月29日 曇　今朝雨降
1776年　7月15日 安永5年　5月30日 曇　今日雨時々降 （若殿様御麻疹御全快）
1776年　7月16日 安永5年　6月1日 曇　巳ノ下刻より晴ト成ル　未ノ刻過より雨 （5月中所々御関所出人都合73人:碇関66人(御印紙出40・切手紙出26)・野内6人(御印紙出3・切手紙出3)・大間越1人(切手紙出)）
1776年　7月17日 安永5年　6月2日 陰晴　昨晩申の下刻雨少々降
1776年　7月18日 安永5年　6月3日 曇　卯の下刻より雨　辰の中刻霧　未の中刻より雨降
1776年　7月19日 安永5年　6月4日 曇　今暁子の下刻より土用に入る　午の中刻より雨降 （町年寄り申し立て候:乞食人数354人(男182・女172)にご法事の御配当願・1人10文宛鳥目下し置かれる）
1776年　7月20日 安永5年　6月5日 曇　今卯ノ中刻より雨　巳ノ刻より晴と成ル
1776年　7月21日 安永5年　6月6日 快晴
1776年　7月22日 安永5年　6月7日 快晴
1776年　7月23日 安永5年　6月8日 快晴　今日東風終日吹
1776年　7月24日 安永5年　6月9日 快晴　今巳の上刻より雨降
1776年　7月25日 安永5年　6月10日 曇 （四社に天気上げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1776年　7月26日 安永5年　6月11日 曇　今未の下刻雷発す　終日東風立　時々雨降
1776年　7月27日 安永5年　6月12日 曇　昨夜中雨時々降
1776年　7月28日 安永5年　6月13日 陰晴　今暁雨少々降
1776年　7月29日 安永5年　6月14日 曇　辰の上刻より大雨 （五山に日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1776年　7月30日 安永5年　6月15日 快晴
1776年　7月31日 安永5年　6月16日 快晴 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる）
1776年　8月1日 安永5年　6月17日 曇　今辰の中刻雨少々降
1776年　8月2日 安永5年　6月18日 快晴 （大鰐村からの初穂は4月10日植え付け・去年は4月27日植え付け7月6日に差し上げ・今年は日数に引き合い2日早く節に引き合い去年同様）
1776年　8月3日 安永5年　6月19日 晴
1776年　8月4日 安永5年　6月20日 晴　今未の中刻より雨時々降
1776年　8月5日 安永5年　6月21日 晴 （19日飯詰組神山村で火災1軒・火元借地村預け）
1776年　8月6日 安永5年　6月22日 快晴　申ノ后刻雷発ス　酉ノ中刻止　東風立
1776年　8月7日 安永5年　6月23日 晴 （米1俵代15匁以上の高値）
1776年　8月8日 安永5年　6月24日 曇　昨夜雨少々　今日卯の下刻より雨降　東風立 （神山村の火元の村預け免許）
1776年　8月9日 安永5年　6月25日 曇　朝より時々雨　東風立 （大行院に五穀成就日和揚御祈祷仰せ付ける、21日後方組中小国村で火災1軒・火元高無村預け）
1776年　8月10日 安永5年　6月26日 晦　午の初刻より雨ふる　東風立
1776年　8月11日 安永5年　6月27日 曇　昨夜中雨降　今巳の下刻より晴ト成ル　東風立
1776年　8月12日 安永5年　6月28日 快晴　今日東風吹 （去月24日今別村奥平部・砂ヶ森で漁師共が拾い上げた材木を南部の男に返す、水油1升に付き4匁を4匁3分に申付ける）
1776年　8月13日 安永5年　6月29日 快晴　今日も東風吹 （木作新田に盗人の我が子を絞め殺した百姓がいる・犯罪人扱いをしていない感じ:福眞）
1776年　8月14日 安永5年　7月1日 晴 （6月中所々御関所出人都合91人:碇関86人(御印紙出51・切手紙出35)・野内3人(御印紙出)・大間越2人(御印紙出)、屋形様・御前様・豊姫様が御麻疹）
1776年　8月15日 安永5年　7月2日 曇　今日時々雨　東風吹 （神明・八幡で御麻疹御祈祷・御神楽、小国村の火元の村預け赦免）
1776年　8月16日 安永5年　7月3日 曇　昨夜中より時々雨　東風吹
1776年　8月17日 安永5年　7月4日 曇　今日時々雨降 （不届きの子供を絞殺した木作新田床舞村の男に関する庄屋等の口書5通取る・皆子供が不届きと言う）
1776年　8月18日 安永5年　7月5日 快晴
1776年　8月19日 安永5年　7月6日 晴
1776年　8月20日 安永5年　7月7日 晴
1776年　8月21日 安永5年　7月8日 曇　時々小雨　酉の初刻雷発す
1776年　8月22日 安永5年　7月9日 曇　酉中刻より大雨 （頃日町々にて米値段日々附相場よりは過分引上1俵に附き23文目位に茂……）
1776年　8月23日 安永5年　7月10日 曇 （頃日町々米値段日々過分引上げ端々の者共難儀の旨相聞こえ候間此の節より1俵に付き22匁より引上げ商売いたさぬようとの指示を出す）
1776年　8月24日 安永5年　7月11日 曇 （5月5日養夫婦を殺し自害した塩漬けの男を長峰村の野原で斬罪）
1776年　8月25日 安永5年　7月12日 晴
1776年　8月26日 安永5年　7月13日 曇　今暁大雨降　今日午の初刻より雨晴　その後小雨時々降 （日和揚げの御祈祷を所々に仰せ付けられたが験なし・大円寺隠居に止風雨並びに五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1776年　8月27日 安永5年　7月14日 曇　辰の中刻より雨時々降
1776年　8月28日 安永5年　7月15日 晴
1776年　8月29日 安永5年　7月16日 快晴　午の中刻より曇
1776年　8月30日 安永5年　7月17日 曇　今日時々小雨 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米差上げる）
1776年　8月31日 安永5年　7月18日 曇　今暁より雨風立 （丑寅の御櫓大土居先日の大雨で欠崩れ）

1776年　9月1日 安永5年　7月19日 曇
1776年　9月2日 安永5年　7月20日 晴
1776年　9月3日 安永5年　7月21日 晴
1776年　9月4日 安永5年　7月22日 晴
1776年　9月5日 安永5年　7月23日 快晴　今日残暑強
1776年　9月6日 安永5年　7月24日 晴　(場所・男女不明:福眞)誰かが縊死)
1776年　9月7日 安永5年　7月25日 曇　昨夜中大雨　今朝に及ぶ　巳の初刻晴
1776年　9月8日 安永5年　7月26日 曇　昨夜中雨降　(当月20日小館村で出火・火元百姓村預け・免許)
1776年　9月9日 安永5年　7月27日 曇　今日残暑強
1776年　9月10日 安永5年　7月28日 快晴
1776年　9月11日 安永5年　7月29日 快晴
1776年　9月12日 安永5年　7月30日 快晴
1776年　9月13日 安永5年　8月1日 晴　昨夜子の刻より雨　今暁に及ぶ　(7月中所々御関所出人都合101人:碇関98人(御印紙出50・切手紙出48)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2))
1776年　9月14日 安永5年　8月2日 晴
1776年　9月15日 安永5年　8月3日 曇　今辰の中刻より雨降
1776年　9月16日 安永5年　8月4日 曇
1776年　9月17日 安永5年　8月5日 晴　朝の内曇
1776年　9月18日 安永5年　8月6日 快晴　(青森で南部の曲馬乗り興行をしたいとの申し入れ・太夫藤八に聞く・家業(多分芝居:福眞)の差障りになるとのことで断る、広須組三新田で先達ての雨で水湛枯稲多い)
1776年　9月19日 安永5年　8月7日 晦
1776年　9月20日 安永5年　8月8日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　(南溜池大橋の上に40位尼相果てる)
1776年　9月21日 安永5年　8月9日 曇
1776年　9月22日 安永5年　8月10日 晴　(天気不正に付き岩木嵩・湯段とも湯治停止)
1776年　9月23日 安永5年　8月11日 晴
1776年　9月24日 安永5年　8月12日 晴　(藤代組蒲中村岩木川土手下に50位男倒死)
1776年　9月25日 安永5年　8月13日 晴　(赤田・広田組の稲は青立ち稲多い、堀越組は虫付き多い、青森の男牢死)
1776年　9月26日 安永5年　8月14日 曇　今日時々小雨　午の上刻地震余程強
1776年　9月27日 安永5年　8月15日 晴　昨夜中酉の上刻より大雨　雷少々
1776年　9月28日 安永5年　8月16日 晴
1776年　9月29日 安永5年　8月17日 快晴　(東長町御蔵前に袖乞の13・4男子相果)
1776年　9月30日 安永5年　8月18日 晴　(一昨17日昼嵩湯守出火則刻取鎮・同人戸〆、7月3日(蝦夷地)大島付近で破船した越前船が12日に(畏月)大泊沖で見付かる・8人中1人助かる)
1776年　10月1日 安永5年　8月19日 晴
1776年　10月2日 安永5年　8月20日 快晴
1776年　10月3日 安永5年　8月21日 曇　今午の上刻小雨降
1776年　10月4日 安永5年　8月22日 曇　今朝卯の刻より雨時々降　(猿賀神社の御堂の錠前を焼取り内に入って賽銭を盗み取った者がある)
1776年　10月5日 安永5年　8月23日 晴　昨夜中雨時々　今朝雨少し降　(田方当作虫付)
1776年　10月6日 安永5年　8月24日 晴　時々小雨
1776年　10月7日 安永5年　8月25日 曇　今暁より時々小雨　卯の中刻雷発す
1776年　10月8日 安永5年　8月26日 晴
1776年　10月9日 安永5年　8月27日 曇　今辰の中刻霰降
1776年 10月10日 安永5年　8月28日 晴　昨申之刻少々地震
1776年 10月11日 安永5年　8月29日 陰晴
1776年 10月12日 安永5年　9月1日 曇　今暁丑の下刻より雨降　(8月中所々御関所出人都合99人:碇関94人(御印紙出65・切手紙出29)・大間越1人(御印紙出)・野内1人(切手紙出))
1776年 10月13日 安永5年　9月2日 快晴　(六十六部2人を野内から送り返す)
1776年 10月14日 安永5年　9月3日 晴
1776年 10月15日 安永5年　9月4日 曇　今朝卯の上刻より雨　今日終日時々降　冷気強し　今日岩木山に雪見得る
1776年 10月16日 安永5年　9月5日 曇
1776年 10月17日 安永5年　9月6日 曇　昨夜中風立　雨時々降
1776年 10月18日 安永5年　9月7日 曇
1776年 10月19日 安永5年　9月8日 曇　今朝卯の上刻小雨　午の刻より雨降　(初鮭2尾御台所頭より差し出す)
1776年 10月20日 安永5年　9月9日 晴　(金木組今泉村より小泊村まで青立ち多い・代官が見分差引の上検見とする)
1776年 10月21日 安永5年　9月10日 曇
1776年 10月22日 安永5年　9月11日 曇　昨夜丑の刻過ぎより雨少々　今朝に及ぶ
1776年 10月23日 安永5年　9月12日 曇
1776年 10月24日 安永5年　9月13日 快晴
1776年 10月25日 安永5年　9月14日 快晴　(今11日後潟組中沢村沖合いで破船1艘水死1人、当作見分仕り候ところ大凶作同様とのこと)
1776年 10月26日 安永5年　9月15日 曇　今辰の刻雷強し　雨　巳の中刻晴　午の刻より雨　未の刻より晴　(今日八幡宮御祭礼)
1776年 10月27日 安永5年　9月16日 快晴　(13日高岡に盗人・錠ねじきり水風呂・鉄砲を盗み取られる)
1776年 10月28日 安永5年　9月17日 快晴
1776年 10月29日 安永5年　9月18日 陰晴　昨夜子の刻過ぎより雨降　丑の刻より雨強　今暁寅の刻より風烈し　今日終日風立
1776年 10月30日 安永5年　9月19日 晴
1776年 10月31日 安永5年　9月20日 晴

1776年　11月1日 安永5年　　9月21日 晴　昨日午の刻頃東方虹見ゆる　戌の刻過ぎ雨少々降
1776年　11月2日 安永5年　　9月22日 陰晴　(去る18日夜野内町で風雨・関所海手の方の柵破損)
1776年　11月3日 安永5年　　9月23日 晴　(当御下向御発駕を来月9日と仰せ出される)
1776年　11月4日 安永5年　　9月24日 快晴
1776年　11月5日 安永5年　　9月25日 曇　今日辰の刻より雨降
1776年　11月6日 安永5年　　9月26日 晴　昨夜中雨　今朝卯の刻より晴ル　(去年10月14日と11月11日に土蔵を破り盗み出した大工2人を取上御仕置場で斬罪)
1776年　11月7日 安永5年　　9月27日 晴
1776年　11月8日 安永5年　　9月28日 曇　(先頃より黒石に曲馬乗りが来て興行・諸人群集・曲馬の者共を早速送り返す)
1776年　11月9日 安永5年　　9月29日 快晴　(狂気の男が牢死(牢を特別養護老人ホームのように使う例もあったのかな:福眞))
1776年 11月10日 安永5年　　9月30日 陰晴　午の上刻雨降　(抜米が多いらしい)
1776年 11月11日 安永5年　　10月1日 陰晴　(9月中所々御関所出人都合320人:碇関317人(御印紙出92・切手紙出225)・野内1人(御印紙出)・大間越2人(御印紙出))
1776年 11月12日 安永5年　　10月2日 晴
1776年 11月13日 安永5年　　10月3日 曇　今巳の中刻より雨時々降
1776年 11月14日 安永5年　　10月4日 快晴　(土手町の男の妹が御堀の内で水死)
1776年 11月15日 安永5年　　10月5日 晦　昨夜中より雨降　今日午の刻より雪風吹
1776年 11月16日 安永5年　　10月6日 晴
1776年 11月17日 安永5年　　10月7日 曇　昨夜中雨降
1776年 11月18日 安永5年　　10月8日 曇　(乳井大福院が居宅焼失)
1776年 11月19日 安永5年　　10月9日 曇
1776年 11月20日 安永5年　　10月10日 曇
1776年 11月21日 安永5年　　10月11日 曇　今日終日雨降　(安永4年に兄与三郎の跡式を相違なく下し置かれた新岡左七(御目見え以下御留守居支配30俵2人扶持)が隠居・弟新岡専八に)
1776年 11月22日 安永5年　　10月12日 曇　昨夜中雨降　今日午の下刻より雪降
1776年 11月23日 安永5年　　10月13日 快晴　午の刻より雪降
1776年 11月24日 安永5年　　10月14日 曇　昨夜より雪　今朝に及ぶ　五寸位降　(乳井村毘沙門別当大福院が当月7日に出火で禁足・これを免許)
1776年 11月25日 安永5年　　10月15日 曇　昨夜より雪　今朝まて降
1776年 11月26日 安永5年　　10月16日 陰晴
1776年 11月27日 安永5年　　10月17日 晦　今朝より雨降　(黒石の当作損耗2223石余(そもそも4000石のはず:福眞)・特に平内分が9歩2厘の損耗)
1776年 11月28日 安永5年　　10月18日 晴　午の上刻より曇　雨降
1776年 11月29日 安永5年　　10月19日 曇　時々雪降
1776年 11月30日 安永5年　　10月20日 晴
1776年　12月1日 安永5年　　10月21日 快晴　(関札打ち到着・去月29日発)
1776年　12月2日 安永5年　　10月22日 曇　(これまで7文目以上の熊胆を御用所に納めることにしていたが近年熊胆不足になり5文目以上とする)
1776年　12月3日 安永5年　　10月23日 快晴
1776年　12月4日 安永5年　　10月24日 曇　今暁丑の中刻より雨降　(去る22日夜猿賀組浅瀬石村で出火・火元百姓居村預け、去る22日浦町組高田村で出火・火元高無居村預け、大円寺仁王尊御出汗・御祈祷)
1776年　12月5日 安永5年　　10月25日 晴　昨夜中雨降
1776年　12月6日 安永5年　　10月26日 晦　昨夜中雪降
1776年　12月7日 安永5年　　10月27日 曇　昨夜中より今日時々雪降　(乳井村毘沙門堂が当月6日から鳴動・同所に御神楽を仰せ付けると共に神明・和徳稲荷に御祈祷の上御神楽を仰せ付ける)
1776年　12月8日 安永5年　　10月28日 曇　昨夜中雪少々降　今日時々雪降　(22日出火の高田村・浅瀬石村の火元の村預けを免許)
1776年　12月9日 安永5年　　10月29日 晴　昨夜中雪少々降　(当年は平内並びに南部表不熟・下磯通り抜米多い・米留を増員)
1776年 12月10日 安永5年　　10月30日 曇　辰の下刻より雨降
1776年 12月11日 安永5年　　11月1日 曇　昨夜中雪少々降　今日終日雪降　(八時前御着城、10月中所々御関所出人都合91人:碇ヶ関99人(御印紙出68・切手紙出31)・野内2人(御印紙出))
1776年 12月12日 安永5年　　11月2日 晴　昨夜より雪　今朝まで時々降　(明後四日より知行米を中渡し、一昨晦日木作新田芝田村で火災・稲1800束ほど米2俵2斗蕎麦4斗味噌桶1本馬2疋焼失・火元百姓村預け)
1776年 12月13日 安永5年　　11月3日 晴　(御用達どもの買受銭の都合がなり兼ね知行米渡しを4・5日延引)
1776年 12月14日 安永5年　　11月4日 曇　昨夜戌の上刻より雨　今朝に及ぶ
1776年 12月15日 安永5年　　11月5日 曇　未の下刻より雨降
1776年 12月16日 安永5年　　11月6日 陰晴　昨夜酉の刻より雨　戌の刻まて降　(去月晦日の柴田村の火元の村預け差許)
1776年 12月17日 安永5年　　11月7日 曇
1776年 12月18日 安永5年　　11月8日 晴　午の刻過ぎより曇　(酒値段は寒造りまで1升が1文目3分5厘と申付ける)
1776年 12月19日 安永5年　　11月9日 快晴　(深浦町年寄りから飯米並びに小売米をこれまでどおり1か月200俵宛買い下げ願・了)
1776年 12月20日 安永5年　　11月10日 快晴　今夜月暈有　(藤代組菊地中村の用水堰に乞食体の40位の男の死骸が流れ寄せる)
1776年 12月21日 安永5年　　11月11日 晦　昨夜寅の中刻より雨降　午の中刻より晴　(一昨9日藤代組尾別村で出火・火元百姓村預け、広田組喰川村の原庄兵衛が手当て米・時疫の薬用人参・施薬等を行う・年始に御目見とする)
1776年 12月22日 安永5年　　11月12日 曇
1776年 12月23日 安永5年　　11月13日 晦　昨夜中雨降　風烈敷雷発す　今日終日雪降
1776年 12月24日 安永5年　　11月14日 曇　昨夜中より勘甚だしく吹雪
1776年 12月25日 安永5年　　11月15日 曇　(今日着城御祝儀の御料理御能)
1776年 12月26日 安永5年　　11月16日 曇　昨夜中寒甚し　(初鱈2尾御台所受払い役から)
1776年 12月27日 安永5年　　11月17日 曇　昨夜中より今日雪時々降
1776年 12月28日 安永5年　　11月18日 曇
1776年 12月29日 安永5年　　11月19日 晴
1776年 12月30日 安永5年　　11月20日 晦　今朝より雪少々降　(昨19日昼九時頃広須組上古川原?村で出火(2間×3間:高無)・火元村預け)
1776年 12月31日 安永5年　　11月21日 晦　(人事異動)

1777年　1月1日 安永5年　11月22日 晴　申の下刻より雪少々夜に入り降 （昨夜五時過ぎ高杉組小嶋村で出火・火元高無村預け）
1777年　1月2日 安永5年　11月23日 晴　昨夜の雪今朝に及ぶ少々　午の刻より雪降（晴　昨夜之雪及今朝少々午之刻より雪降）
1777年　1月3日 安永5年　11月24日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ（曇　昨夜之雨今朝およふ）（19日上古川村の火元の村預け免許）
1777年　1月4日 安永5年　11月25日 曇　昨夜中より雪　今日終日降
1777年　1月5日 安永5年　11月26日 晴　昨夜雪少々今朝寒巳の八刻ニ入
1777年　1月6日 安永5年　11月27日 晴　昨夜雪五寸程降　今朝雪二寸程降　辰の下刻晴　未の上刻より雪時々
1777年　1月7日 安永5年　11月28日 晴　昨夜中雪二寸程降 （高杉組小嶋村の火元の村預け免許）
1777年　1月8日 安永5年　11月29日 曇　昨夜半より今朝まで雪六寸程降 （年頭若殿様江差上物：高千石以上御太刀一腰と馬代金百疋・500石以上一腰と銀3両・300石以上扇子代銀5文目・100石以上扇子代銀など）
1777年　1月9日 安永5年　11月30日 晴　昨夜雪二寸程降　今日時々降
1777年　1月10日 安永5年　12月1日 晦　今朝より雪降 （11月中碇ヶ関出人都合153人（御印紙出103・切手紙出50））
1777年　1月11日 安永5年　12月2日 晴　昨夜中雪少々　今日巳の中刻雪　同下刻晴
1777年　1月12日 安永5年　12月3日 晴　今日時々雪降 （御能）
1777年　1月13日 安永5年　12月4日 晦　今卯の刻より辰の下刻まで雪降
1777年　1月14日 安永5年　12月5日 曇　昨夜中雪三寸程　今朝に到
1777年　1月15日 安永5年　12月6日 曇　昨夜雪六寸ほど　今朝に及ぶ
1777年　1月16日 安永5年　12月7日 曇　昨夜雪三寸程 （去月29日夜赤石組赤石村の庄屋出火・庄屋焼死）
1777年　1月17日 安永5年　12月8日 曇　昨夜雪三寸程　今日終日雪
1777年　1月18日 安永5年　12月9日 晴　（御役録不相応・町屋の者からの借用が非分として2人が御奉公遠慮）
1777年　1月19日 安永5年　12月10日 曇　（浦町組浦町村の道路に袖乞い体の60歳位の男雪吹倒死）
1777年　1月20日 安永5年　12月11日 曇　（去る8日碇ヶ関町同心2人が熊三つ（胆目形41文目・11文目・11文目）鉄砲で取る、添田儀左衛門を御城代格御家老職手伝い・御馬廻組頭津軽多膳を御用人兼役に）
1777年　1月21日 安永5年　12月12日 曇　（焼死した赤石村庄屋に替りその倅を（火元として）村預けにしていたが差許、9日の御奉公遠慮の2人の遠慮御免）
1777年　1月22日 安永5年　12月13日 曇　今日時々雪
1777年　1月23日 安永5年　12月14日 曇　今朝より雪降 （去る12日広須組繁田村庄屋が出火・村預け）
1777年　1月24日 安永5年　12月15日 曇　昨夜中雪降　今朝まで五寸程積る　今日時々雪 （当暮渡しの知行米を明後17日より渡す予定・100石に付き15俵宛?判らん：福眞）
1777年　1月25日 安永5年　12月16日 曇
1777年　1月26日 安永5年　12月17日 今朝雪時々 （12日出火の茂原村の火元の庄屋の村預け差許）
1777年　1月27日 安永5年　12月18日 晴　今朝雪少々 （当月朔日水死の3人が油川前浜などに流れ寄せる）
1777年　1月28日 安永5年　12月19日 晴　昨夜雪時々
1777年　1月29日 安永5年　12月20日 陰晴　昨夜雪少々降　今日時々降 （当期渡し御役料並びに御切米（俵子金給とも）は23日より渡す・渡し高の内半分宛日々の相場でお買い上げ・判らん：福眞）
1777年　1月30日 安永5年　12月21日 晦　昨夜中より雪　今朝におよふ
1777年　1月31日 安永5年　12月22日 晴　（大鰐組吹上村の火元高無の他村預けが9日になり免許）
1777年　2月1日 安永5年　12月23日 晴　（御茶口切御年忘れの御能）
1777年　2月2日 安永5年　12月24日 曇
1777年　2月3日 安永5年　12月25日 曇　昨夜中雪九寸程降
1777年　2月4日 安永5年　12月26日 晴　昨夜中雪六寸程降
1777年　2月5日 安永5年　12月27日 陰晴　昨夜時々雪 （去る24日赤石組平井村で火災・火元御蔵百姓村預け）
1777年　2月6日 安永5年　12月28日 曇　今日時々雪 （赤田組五幾形村で郷蔵の廊下等焼失）
1777年　2月7日 安永5年　12月29日 曇　時々雪
1777年　2月8日 安永6年　正月1日　曇　昨夜中より雪　今日時々降
1777年　2月9日 安永6年　正月2日　晦
1777年　2月10日 安永6年　正月3日　晴　昨夜中雪少々降 （今晩御謡初）
1777年　2月11日 安永6年　正月4日　晴　（例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる、相馬作左衛門申し立て：広須組木作新田村々当作不熟に付き給物（食べ物）これ無き者共これまで庄屋方で補助していたが最早渇命……）
1777年　2月12日 安永6年　正月5日　曇　巳の中刻より雨ふる
1777年　2月13日 安永6年　正月6日　晴
1777年　2月14日 安永6年　正月7日　晴 （七種の御祝儀）
1777年　2月15日 安永6年　正月8日　曇　辰の中刻より雨　巳の下刻より晴
1777年　2月16日 安永6年　正月9日　曇　昨夜中風強　今日辰の刻過ぎ止む　則刻より雪大ニふる
1777年　2月17日 安永6年　正月10日　晴　昨夜雪二寸程ふる　今朝雪少々 （高杉組立石村の野合に鰺ヶ沢の男が吹倒死）
1777年　2月18日 安永6年　正月11日　晴 （人事異動、去る7日夜赤石組追良瀬村で火災2軒（共に高無）・火元他村預け）
1777年　2月19日 安永6年　正月12日　晴
1777年　2月20日 安永6年　正月13日　晴
1777年　2月21日 安永6年　正月14日　曇　午の刻より雪降る
1777年　2月22日 安永6年　正月15日　曇　昨夜中より雪　今日午の上刻より晴る
1777年　2月23日 安永6年　正月16日　陰晴　巳の刻より曇　雪降
1777年　2月24日 安永6年　正月17日　快晴 （12月中所々御関所出人都合138人：碇関133人（御印紙出104・切手紙出29）・野内5人（切手紙出）、当月7日追良瀬村の火元の他村預け免許）
1777年　2月25日 安永6年　正月18日　晴 （在村々未だ時疫御座候由……）
1777年　2月26日 安永6年　正月19日　晴　今日巳の刻過ぎより雨　未の上刻より雪降 （黒石からの米の津出3600石を認めている）
1777年　2月27日 安永6年　正月20日　曇　午の刻より雪ふる
1777年　2月28日 安永6年　正月21日　曇　昨夜中雪四寸程ふる　朝の内晴　午の刻より雪

1777年　3月1日 安永6年 正月22日　曇　昨夜中雪三寸程ふる　今暁晴る
1777年　3月2日 安永6年 正月23日　曇　昨夜中より雪　今日時々雪降
1777年　3月3日 安永6年 正月24日　曇
1777年　3月4日 安永6年 正月25日　曇　昨夜雪ふる
1777年　3月5日 安永6年 正月26日　晴　昨夜雪少々降　(木作新田筒木坂村に袖乞体の者倒死、去る22日広須組吉出村で百姓が小屋焼失・火元戸〆)
1777年　3月6日 安永6年 正月27日　曇　今日朝より雨
1777年　3月7日 安永6年 正月28日　曇　今日時々雪　(22日吉出村の火元の戸〆免許)
1777年　3月8日 安永6年 正月29日　曇
1777年　3月9日 安永6年 正月30日　曇
1777年　3月10日 安永6年　2月1日 曇　昨夜より今日まて時々雪　(正月中所々御関所出人都合138人:碇関135人(御印紙出119・切手紙出16)・大間越2人(御印紙出)・野内1人(切手紙出))
1777年　3月11日 安永6年　2月2日 曇　昨夜中の雪　今朝に及ぶ　五寸程ふる
1777年　3月12日 安永6年　2月3日 曇　申の中刻より雨　戌の刻に及ぶ
1777年　3月13日 安永6年　2月4日 晴　(今別町名主等から小売米願:当月より7月まで日々15俵宛・旧冬一番値段へ御定め駄賃入加(1俵)29匁5分)
1777年　3月14日 安永6年　2月5日 晴　(今日御家中剣術高覧)
1777年　3月15日 安永6年　2月6日 晴　昨夜中戌の下刻小雨降る
1777年　3月16日 安永6年　2月7日 晴
1777年　3月17日 安永6年　2月8日 曇　今暁寅の刻過ぎより雨ふる　今日時々水雪降
1777年　3月18日 安永6年　2月9日 晴
1777年　3月19日 安永6年　2月10日 曇　午の中刻より雪ふる　暮に及ぶ　(7月に拾い上げた天間船の主が現れないので拾った者に下し置かれる)
1777年　3月20日 安永6年　2月11日 晴　昨夜中より雪　今朝に及ぶ　辰の中刻より晴
1777年　3月21日 安永6年　2月12日 曇　今日辰の中刻雨ふる
1777年　3月22日 安永6年　2月13日 曇　昨夜中戌の下刻より風烈しく今日終日吹く　(当御発駕3月11日と仰せ出だされる)
1777年　3月23日 安永6年　2月14日 曇　昨夜小雪ふる　今朝終日小風
1777年　3月24日 安永6年　2月15日 曇　今日辰の中刻雨　雷発す
1777年　3月25日 安永6年　2月16日 晴
1777年　3月26日 安永6年　2月17日 曇　今日巳の刻過ぎより雨降　午の下刻より晴
1777年　3月27日 安永6年　2月18日 快晴　昨夜中小雨　(去る12日青森出船の漁船が大東風で7人中6人死亡)
1777年　3月28日 安永6年　2月19日 曇　(今日御家中鎗術高覧、広須組・木作新田・飯詰組・金木組・俵元新田・金木新田で渇命に及ぶ者があり重立ちが補助していると郡奉行の報告)
1777年　3月29日 安永6年　2月20日 曇
1777年　3月30日 安永6年　2月21日 晴
1777年　3月31日 安永6年　2月22日 晴
1777年　4月1日 安永6年　2月23日 曇　昨夜中戌の刻より雨時々　今朝に及ぶ　(12日青森の漁船の死者名あり・5人になっている)
1777年　4月2日 安永6年　2月24日 曇　今朝辰の下刻より雪時々ふる　(雨天にて岩木川五歩程の洪水)
1777年　4月3日 安永6年　2月25日 陰晴　(当月22日明け六時より昼八時過ぎ早川口より残らず氷明ける・去(申)年2月2日の夜九時より同3日朝四時過ぎ氷明ける・当年は日数に引き合い20日遅く節に引き合い9日遅い)
1777年　4月4日 安永6年　2月26日 快晴
1777年　4月5日 安永6年　2月27日 快晴　(今日御屋形様の御誕生日?)
1777年　4月6日 安永6年　2月28日 晴　(御発駕御祝儀の御料理と御能)
1777年　4月7日 安永6年　2月29日 曇　巳の中刻より雨降　(去る26日浪岡組高館村で火災・火元村預け)
1777年　4月8日 安永6年　3月1日 快晴　朝の内曇
1777年　4月9日 安永6年　3月2日 晴
1777年　4月10日 安永6年　3月3日 晴　(3月中所々御関所出人都合154人:碇ヶ関148人(御印紙出114・切手紙出34)・野内8人(御印紙出5・切手紙出3)・大間越1人(御印紙出))
1777年　4月11日 安永6年　3月4日 晴　(浪岡組高館村の火元の村預け免許)
1777年　4月12日 安永6年　3月5日 晴
1777年　4月13日 安永6年　3月6日 快晴
1777年　4月14日 安永6年　3月7日 曇　今日申の下刻より雨
1777年　4月15日 安永6年　3月8日 晴
1777年　4月16日 安永6年　3月9日 晴
1777年　4月17日 安永6年　3月10日 晴　(7日夜高杉組宮館村で出火・類焼もあり火元百姓他村預け)
1777年　4月18日 安永6年　3月11日 曇　昨夜中雨降　(今日御屋形様御発駕四時過ぎ)
1777年　4月19日 安永6年　3月12日 曇
1777年　4月20日 安永6年　3月13日 曇　(御部屋様今日六時半御発駕、町家の者共賭博いたし候人数の訴人あり・町預けの上詮議・正しいので町預け免許・褒美鳥目3貫文下し置かれる、12人ほどの賭博者を町内払い)
1777年　4月21日 安永6年　3月14日 晴　今暁霜降
1777年　4月22日 安永6年　3月15日 曇　卯の刻過ぎより雨降
1777年　4月23日 安永6年　3月16日 曇　昨夜中より雨時々　(去る7月丸木舟を拾い上げた脇本村の男に拾い物下し置かれる)
1777年　4月24日 安永6年　3月17日 晴　(去る14日夜金木組毘沙門村で火災4軒・火元高無(なぜか2人)他村預け)
1777年　4月25日 安永6年　3月18日 快晴　(毘沙門村の火元の1人の居村預け免許)
1777年　4月26日 安永6年　3月19日 快晴
1777年　4月27日 安永6年　3月20日 快晴
1777年　4月28日 安永6年　3月21日 快晴　昨夜戌の上刻小雨　(近年熊胆出高減少、熊胆干目形1文目代2匁を3匁に・熊皮上1枚16文目を17文目に(下1枚8文目など)、上方への廻米が減り大坂の勘定奉行等が苦労している)
1777年　4月29日 安永6年　3月22日 晴　(土渕川の八つ目取が怒られている・火を持つなということなのかな:福眞)
1777年　4月30日 安永6年　3月23日 晴

1777年　5月1日 安永6年　3月24日 快晴 （22日増館組樽沢村で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1777年　5月2日 安永6年　3月25日 晴　朝の内曇
1777年　5月3日 安永6年　3月26日 曇
1777年　5月4日 安永6年　3月27日 曇　昨夜戌の中刻より雨　今日巳の中刻晴 （樽沢村の火元の村預け免許）
1777年　5月5日 安永6年　3月28日 快晴　昨未の刻より時々雨
1777年　5月6日 安永6年　3月29日 曇
1777年　5月7日 安永6年　4月1日 曇 （3月中所々御関所出人都合139人：碇ヶ関110人（御印紙出50・切手紙出60）・野内29人（御印紙出15・切手紙出14））
1777年　5月8日 安永6年　4月2日 晴
1777年　5月9日 安永6年　4月3日 曇　今日巳の刻より雨ふる
1777年　5月10日 安永6年　4月4日 曇　申の上刻より雨終夜ふる
1777年　5月11日 安永6年　4月5日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　辰の刻より霽　巳の刻過ぎより時々雨　午の刻より晴
1777年　5月12日 安永6年　4月6日 晴
1777年　5月13日 安永6年　4月7日 曇　昨夜中風烈敷今朝に及ぶ　今日終日風烈し
1777年　5月14日 安永6年　4月8日 曇　昨夜中風雨雷
1777年　5月15日 安永6年　4月9日 快晴
1777年　5月16日 安永6年　4月10日 晴
1777年　5月17日 安永6年　4月11日 曇 （昨晩七時過ぎ（昨昼八時過ぎともある）賀田村辺りで出火7軒焼失・六時過ぎ火鎮まる）
1777年　5月18日 安永6年　4月12日 曇 （賀田村の火災は類焼7軒と潰れ家1軒・火元は去る夏御追放で女房1人と子供2人・女に候らえども出火不届きにつき他村預け）
1777年　5月19日 安永6年　4月13日 晴
1777年　5月20日 安永6年　4月14日 晴
1777年　5月21日 安永6年　4月15日 晴
1777年　5月22日 安永6年　4月16日 快晴
1777年　5月23日 安永6年　4月17日 快晴
1777年　5月24日 安永6年　4月18日 快晴　朝の内曇　今日申の下刻より雨
1777年　5月25日 安永6年　4月19日 曇　昨夜中時々雨　今日も時々降 （去る17日赤石組濱横沢村で火災・火元高無村預け）
1777年　5月26日 安永6年　4月20日 曇　昨夜中時々雨　今日に及び終日ふる （10日昼賀田村の火元の女房の他村預け免許）
1777年　5月27日 安永6年　4月21日 曇　昨夜中より時々雨　今日も終日ふる
1777年　5月28日 安永6年　4月22日 曇
1777年　5月29日 安永6年　4月23日 曇　昨夜中より時々雨降　未の中刻雷強く発す
1777年　5月30日 安永6年　4月24日 陰晴
1777年　5月31日 安永6年　4月25日 陰晴　昨夜亥の刻雷　雨時々　今日辰の中刻小雨
1777年　6月1日 安永6年　4月26日 快晴　朝の内曇
1777年　6月2日 安永6年　4月27日 晴　朝の内曇
1777年　6月3日 安永6年　4月28日 曇　今朝卯の刻より雨時々　未の中刻雷発す　申の刻より大風
1777年　6月4日 安永6年　4月29日 曇
1777年　6月5日 安永6年　4月30日 快晴　下から続く　都合149人：碇関137人（御印紙出85・切手紙出52）・野内11人（御印紙出1・切手紙出10）・大間越1人（御印紙出））
1777年　6月6日 安永6年　5月1日 曇　午の刻過ぎより雨　未の中刻晴 （去月29日土渕堰御普請所仮小屋焼失、公儀からの書付：富突などと名付け博打がましき儀いたすまじく候……、4月中所々御関所出人　上に続く
1777年　6月7日 安永6年　5月2日 快晴　今日未の刻過ぎ雷発す （先頃の大風で柏木組澤田村の家数4軒とも吹き倒れる）
1777年　6月8日 安永6年　5月3日 快晴
1777年　6月9日 安永6年　5月4日 曇　午の上刻より雨 （仙当院（仙桃院（津軽為信の妻））様150回忌法事につき御配当：座等201・盲女170・都合371人に1人15文宛を下し置かれる）
1777年　6月10日 安永6年　5月5日 曇　昨夜中雨　今日卯の刻より時々雨降
1777年　6月11日 安永6年　5月6日 曇
1777年　6月12日 安永6年　5月7日 曇　今朝時々雨
1777年　6月13日 安永6年　5月8日 晴　今朝霧深シ　申ノ刻過ぎ雷雨甚シ　酉の上刻晴 （座当等371人に若殿様御袖留の御配当15文宛下し置かれる）
1777年　6月14日 安永6年　5月9日 曇
1777年　6月15日 安永6年　5月10日 晴 （百歳以上の老人が有るかどうかを九浦町奉行に問い合わせる）
1777年　6月16日 安永6年　5月11日 曇　辰の中刻より雨降　時々ふる
1777年　6月17日 安永6年　5月12日 曇　午ノ刻雷雨甚シ　未の上刻晴
1777年　6月18日 安永6年　5月13日 曇　辰の刻過ぎ小雨
1777年　6月19日 安永6年　5月14日 陰晴　昨夜中雨少々ふる
1777年　6月20日 安永6年　5月15日 晴
1777年　6月21日 安永6年　5月16日 晴　下から続く　長勝寺門前で出火・慎み申付ける）
1777年　6月22日 安永6年　5月17日 曇　卯の刻より時々雨ふる （打続不正之天気相に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止仰せ付けられる、五山に五穀成就日和揚げ御祈祷を仰せ付ける、昨16日暮六時過ぎ　上に続く
1777年　6月23日 安永6年　5月18日 曇　巳の刻過ぎ雨ふる　午の上刻晴 （横内組で狼が荒れたとして玉薬と火縄を渡す）
1777年　6月24日 安永6年　5月19日 快晴　午の刻より風烈し
1777年　6月25日 安永6年　5月20日 晴 （大鰐村より初小角豆差上げる）
1777年　6月26日 安永6年　5月21日 晴 （長勝寺門前の火元の慎み御免）
1777年　6月27日 安永6年　5月22日 晴
1777年　6月28日 安永6年　5月23日 快晴 （初真瓜大鰐村より差上げる）
1777年　6月29日 安永6年　5月24日 快晴 （塩硝調合所石渡小屋で筒薬に火が入り大組足軽が怪我・6月8日の記事では6月5日死亡）
1777年　6月30日 安永6年　5月25日 快晴

1777年　7月1日 安永6年　5月26日 快晴
1777年　7月2日 安永6年　5月27日 陰晴　昨夜中小雨 （近年御山伐尽……、当月24日長勝寺の仙桃院（津軽為信の妻）の御霊屋に踏み込み石塔を倒すなどの狼藉者あり・御家中の乱心倅か）
1777年　7月3日 安永6年　5月28日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ （大鰐村より初茄子差上げる）
1777年　7月4日 安永6年　5月29日 曇　昨夜中雨ふる　今朝卯上刻雷甚シ （一昨日よりの雨天で岩木川七歩の洪水・洪水で二階堰が崩れる）
1777年　7月5日 安永6年　6月1日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ （今朝明七時岩木川七歩半の洪水、5月中所々御関所出人都合76人：碇関66人（御印紙出49・切手紙出17）・野内10人（御印紙出8・切手紙出2））
1777年　7月6日 安永6年　6月2日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　今日終日ふる
1777年　7月7日 安永6年　6月3日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ （打続く天気不正に付き四社に五穀成就日和揚げの御祈祷を仰せ付ける、御目付が「四反五反の大豆畑……」などと歌う歌の停止を申し触れている）
1777年　7月8日 安永6年　6月4日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ （去月29日夜岩木川七歩余の洪水）
1777年　7月9日 安永6年　6月5日 曇　申の上刻虹見ゆる （打続く不正の天気に付き大円寺で日和揚げ五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1777年　7月10日 安永6年　6月6日 晴 （長勝寺の御霊屋に狼藉した者の親に御奉公遠慮）
1777年　7月11日 安永6年　6月7日 快晴
1777年　7月12日 安永6年　6月8日 曇 （当月朔日和徳・藤代・藤崎・柏木・増館・飯詰・金木・俵元新田・金木新田で洪水、田畑水湛・所々溜池水門破損）
1777年　7月13日 安永6年　6月9日 曇　辰の下刻小雨
1777年　7月14日 安永6年　6月10日 曇
1777年　7月15日 安永6年　6月11日 なし（日記はあるが天気の記述なし）
1777年　7月16日 安永6年　6月12日 快晴
1777年　7月17日 安永6年　6月13日 快晴
1777年　7月18日 安永6年　6月14日 快晴　下から続く　出火（2間半×5間：高無・外厩（1間半×2間半）・火元村預け、昨14日赤石組種里村で火災7軒土蔵1軒焼失・火元が寺内の者であり代官よりは何も申付けず）
1777年　7月19日 安永6年　6月15日 快晴　土用に入る　下から続く　洪水による田畑の水湛：田方465町4反9畝5歩（分米2473石7斗9合）・畑方20町6反6歩（分米24石9斗3升2合）、去る14日堀越組堀越村で　上に続く
1777年　7月20日 安永6年　6月16日 曇　辰の下刻より終日雨　月蝕三分　戌ノ五刻東北の方より欠け始め亥の六刻終る（月そく三分　戌の五刻東北の方よりかけ始免亥の六刻おはる） （先日の木作新田村々の　上に続く
1777年　7月21日 安永6年　6月17日 晴
1777年　7月22日 安永6年　6月18日 晴 （14日出火の堀越村の火元の村預け差許）
1777年　7月23日 安永6年　6月19日 晴
1777年　7月24日 安永6年　6月20日 快晴 （去月16日に蟹田付近を出た漁船が同19日の大風で行方不明（乗員2人））
1777年　7月25日 安永6年　6月21日 快晴　今日暑気甚だ強し　午の上刻雨少々　未の中刻雨強　風少々　雷度々発す
1777年　7月26日 安永6年　6月22日 曇 （後潟組浅虫村田方では4月21日植え付け6月18日出穂）
1777年　7月27日 安永6年　6月23日 曇 （大鰐村加賀助・兵三郎より初穂差上げる、弘前より三里四方追放者が立ち帰り五里四方追放に）
1777年　7月28日 安永6年　6月24日 晴
1777年　7月29日 安永6年　6月25日 曇　巳の中刻頃より少し雨時々 （14日出火の下種里村の火元の慎み免許、飯詰・金木組新田4ヶ組村々の田方に虫付く）
1777年　7月30日 安永6年　6月26日 快晴 （当月19日に百姓方に盗みに入った大鰐組長峰村の高無が大勢に打たれ死亡）
1777年　7月31日 安永6年　6月27日 快晴 （去る26日広須組下中野村で火災・火元家守村預け）
1777年　8月1日 安永6年　6月28日 晴
1777年　8月2日 安永6年　6月29日 快晴　下から続く　下中野村の火元の戸〆免許）
1777年　8月3日 安永6年　7月1日 曇　朝の内曇 （6月中所々御関所出人都合81人：碇関73人（御印紙出52・切手紙出21）・野内4人（御印紙出2・切手紙出2）・大間越4人（御印紙出3・切手紙出1）、広須組　上に続く
1777年　8月4日 安永6年　7月2日 晴　朝の内曇
1777年　8月5日 安永6年　7月3日 快晴　夜中より朝の内曇　尤も巳の刻まで
1777年　8月6日 安永6年　7月4日 快晴
1777年　8月7日 安永6年　7月5日 快晴
1777年　8月8日 安永6年　7月6日 快晴　巳の刻過ぎ小雨　午の刻過ぎより時々雨　酉の刻過ぎ稲光 （一昨4日夜横内組小柳村で火災（4間×8間：御蔵百姓）・外馬屋1軒焼失・火元村預け）
1777年　8月9日 安永6年　7月7日 陰晴　昨夜午の刻雨（意味不明だがこのように書いてある：福眞）　今日巳の刻小雨
1777年　8月10日 安永6年　7月8日 曇　寅の刻より時々雨降 （去月（5月のことか）29日の洪水で木作新田で水湛、打ち続く天気不正に付き神明・八幡で五穀成就日和揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1777年　8月11日 安永6年　7月9日 晴
1777年　8月12日 安永6年　7月10日 晴 （横内組小柳村の火元の村預け免許）
1777年　8月13日 安永6年　7月11日 曇　昨夜中より雨　今日巳の刻晴
1777年　8月14日 安永6年　7月12日 陰晴　辰の刻より雨降　巳の刻過ぎ晴
1777年　8月15日 安永6年　7月13日 晴　今日朝より雨　午の中刻より晴
1777年　8月16日 安永6年　7月14日 晴
1777年　8月17日 安永6年　7月15日 快晴　小雨
1777年　8月18日 安永6年　7月16日 晴 （今晩東長町で出火1軒焼失）
1777年　8月19日 安永6年　7月17日 曇 （大鰐村加賀助・兵左衛門が初米差上げる）
1777年　8月20日 安永6年　7月18日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ
1777年　8月21日 安永6年　7月19日 晴　昨夜中時々雨　今朝に及ぶ　今日辰の刻より晴に成る　申の刻東方に虹見る （当月8日広須組で水湛：田方163町8畝26歩・畑方91町4畝11歩）
1777年　8月22日 安永6年　7月20日 晴 （去月12日に虹貝の山で石川村の男が落とし木に打たれ怪我・死亡）
1777年　8月23日 安永6年　7月21日 晴 （人事異動、御目見以下支配新岡専八が本名佐藤に変更願・了）
1777年　8月24日 安永6年　7月22日 晴 （15日出火の東長町の火元の入寺免許）
1777年　8月25日 安永6年　7月23日 晴 （我意を立て役筋忘却の勤め方の早道の給分の内10俵と勤料を召上げ御城付き足軽に仰せ付ける）
1777年　8月26日 安永6年　7月24日 晴　今日午の中刻より雨ふる （22日木作新田町居田村で火災1軒・火元五人組を村預け）
1777年　8月27日 安永6年　7月25日 曇　昨夜中雨時々　今暁寅之刻より大雨　卯之上刻霽ト成ル　今日辰之下刻より雷発　終日雨降ル
1777年　8月28日 安永6年　7月26日 曇　昨夜子の刻より雨　今日卯の刻より雨　巳の刻止む
1777年　8月29日 安永6年　7月27日 快晴 （去る22日出火の町居田村の火元の村預け免許、去る15日に袰月に入津した羽州庄内船の水主病死）
1777年　8月30日 安永6年　7月28日 晴　今朝辰の刻より巳の刻まで雨降　巳の下刻晴
1777年　8月31日 安永6年　7月29日 陰晴 （仙桃院様150回御忌に伴う大赦：弘前並びに居村徘徊御免4人）

1777年　9月1日 安永6年　7月30日 晴　昨未の刻過ぎより雨度々
1777年　9月2日 安永6年　8月1日 快晴　(7月中所々御関所出人都合52人:碇ヶ関89人(御印紙出52・切手紙出37)・野内2人(御印紙出)・大間越1人(御印紙出))
1777年　9月3日 安永6年　8月2日 陰晴
1777年　9月4日 安永6年　8月3日 快晴
1777年　9月5日 安永6年　8月4日 晴　辰の刻西の方に虹見ゆる　今朝雨時々降　(この日は4月4丁酉日と記録されている、干支も正しく8月を4月と書き間違えたのだろう:福眞)
1777年　9月6日 安永6年　8月5日 曇　昨夜子の刻より今朝丑の下刻に及ぶ雷　今暁に至り雨降　(頃日天気不順に付き最勝院・薬王院で御祈祷を仰せ付ける)
1777年　9月7日 安永6年　8月6日 快晴　昨夜中雨時々降
1777年　9月8日 安永6年　8月7日 曇　昨夜中雨　未の刻晴る　(去る5日夜猿賀組大袋村で出火・火元給地百姓村預け、所々盗賊ありに付き小山次郎大夫と浅利万之助を担当に任命する)
1777年　9月9日 安永6年　8月8日 晴　今朝小雨
1777年　9月10日 安永6年　8月9日 曇
1777年　9月11日 安永6年　8月10日 曇　時々雨降
1777年　9月12日 安永6年　8月11日 晴　昨夜中時々雨
1777年　9月13日 安永6年　8月12日 曇
1777年　9月14日 安永6年　8月13日 晴
1777年　9月15日 安永6年　8月14日 晴　今日午の刻過ぎ小雨　(去る12日夜広田組平井村で火災1軒・火元高無他村預け:類焼もないのになぜ:福眞)
1777年　9月16日 安永6年　8月15日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日巳の刻より晴
1777年　9月17日 安永6年　8月16日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ
1777年　9月18日 安永6年　8月17日 快晴　(広田組平井村の火元の居村預け免許)
1777年　9月19日 安永6年　8月18日 快晴　(去る13日夜赤石組晴山村で塩釜屋1軒焼失)
1777年　9月20日 安永6年　8月19日 曇　昨夜小雨　(男牢死)
1777年　9月21日 安永6年　8月20日 快晴　(悪い歌が流行る・”角から角まで丸焼け……?”)
1777年　9月22日 安永6年　8月21日 曇
1777年　9月23日 安永6年　8月22日 陰晴
1777年　9月24日 安永6年　8月23日 晴
1777年　9月25日 安永6年　8月24日 晴
1777年　9月26日 安永6年　8月25日 曇　未の刻より小雨時々
1777年　9月27日 安永6年　8月26日 陰晴　今暁の子之刻過ぎ雷発　雨降
1777年　9月28日 安永6年　8月27日 陰晴
1777年　9月29日 安永6年　8月28日 陰晴　朝の内曇　昼に至り晴　未の刻小雨　酉の刻雨降
1777年　9月30日 安永6年　8月29日 曇　今朝巳の刻小雨
1777年　10月1日 安永6年　9月1日 快晴　(8月中所々御関所出人都合129人:碇ヶ関121人(御印紙出87・切手紙出34)・野内7人(御印紙出5・切手紙出2)・大間越1人(御印紙出)、長勝寺門前で妻が手燈取落とし炎上・夫慎み)
1777年　10月2日 安永6年　9月2日 快晴
1777年　10月3日 安永6年　9月3日 快晴　(昨2日野内領大浦塩釜御普請小屋で火災)
1777年　10月4日 安永6年　9月4日 快晴
1777年　10月5日 安永6年　9月5日 快晴
1777年　10月6日 安永6年　9月6日 曇　(御家老津軽内膳が一粒金丹頂戴願・数は不明だが了)
1777年　10月7日 安永6年　9月7日 曇　(石川村より亀1差上げる)
1777年　10月8日 安永6年　9月8日 快晴
1777年　10月9日 安永6年　9月9日 晴　(亀を取り差上げた清水森村の百姓に御祝儀鳥目500文)
1777年 10月10日 安永6年　9月10日 晴　今朝小雨
1777年 10月11日 安永6年　9月11日 快晴
1777年 10月12日 安永6年　9月12日 曇　辰の上刻小雨
1777年 10月13日 安永6年　9月13日 晴　昨夜亥の刻より電り　雷発し
1777年 10月14日 安永6年　9月14日 晴
1777年 10月15日 安永6年　9月15日 晴　昨夜酉の刻より風雨　戌之下刻晴る　岩木山雪見ゆる
1777年 10月16日 安永6年　9月16日 快晴　今日未之中刻雷発し小雨
1777年 10月17日 安永6年　9月17日 晴　(1日に慎みの長勝寺門前の男度々火事あり(今日)差許)
1777年 10月18日 安永6年　9月18日 快晴
1777年 10月19日 安永6年　9月19日 陰晴　朝の内曇
1777年 10月20日 安永6年　9月20日 曇　今日卯の下刻より雨終日降
1777年 10月21日 安永6年　9月21日 晴　今日辰の中刻雨　(浅利万之助・小山次郎太夫を解任御馬廻りに)
1777年 10月22日 安永6年　9月22日 晴
1777年 10月23日 安永6年　9月23日 曇　昨夜亥の刻雷　亥の下刻より雨　今朝に及ぶ
1777年 10月24日 安永6年　9月24日 曇　今日折々雨　岩木山雪見ゆる
1777年 10月25日 安永6年　9月25日 晴　(田畑の7割くらいが御手当て・惣引高〆7410石・:何を意味するのか不明:福眞、近年打ち続く不熟にて当年熟作には御座候らえども……)
1777年 10月26日 安永6年　9月26日 快晴　(取上御仕置場で津軽野村の五人組(男)組中引き回しの上斬罪・鮭留めの権利でもめたのか・多数も鞭刑等の処罰、去月26日夜吹上村の積芝に火をつけた高畑村の男を火罪)
1777年 10月27日 安永6年　9月27日 快晴　(当月16日後潟組で大風雨・氷降・吹きこほれ・検見御差引を庄屋共が申し出でる)
1777年 10月28日 安永6年　9月28日 曇
1777年 10月29日 安永6年　9月29日 快晴
1777年 10月30日 安永6年　9月30日 曇　午の刻雨降
1777年 10月31日 安永6年　10月1日 曇　卯の刻風雨　(9月中所々御関所出人都合150人:碇ヶ関145人(御印紙出96・切手紙出49)・野内5人(御印紙出2・切手紙出3))

1777年　11月1日 安永6年　　10月2日 晴　(堀越組門外村に者倒死、去年11月類焼の秋田飛根の御本陣に御手当金5両下し置かれる)
1777年　11月2日 安永6年　　10月3日 晴　昨夜子の刻より風雨　今朝に至り夫々時々雨
1777年　11月3日 安永6年　　10月4日 快晴
1777年　11月4日 安永6年　　10月5日 曇　昨夜中雷発し　今朝辰の下刻より雨降　未の上刻雷発　尤も雨時々
1777年　11月5日 安永6年　　10月6日 曇　午の中刻雷発し時々小雨　(今年上方廻米5000石増で60000石・江戸表19500石……・もめているらしい:福眞、先の御家老津軽外記病死)
1777年　11月6日 安永6年　　10月7日 曇　時々雨
1777年　11月7日 安永6年　　10月8日 曇　時々雨
1777年　11月8日 安永6年　　10月9日 曇　昨夜より今朝まて折々雨ふる
1777年　11月9日 安永6年　10月10日 快晴
1777年 11月10日 安永6年　10月11日 曇　午の上刻小雨
1777年 11月11日 安永6年　10月12日 快晴
1777年 11月12日 安永6年　10月13日 快晴
1777年 11月13日 安永6年　10月14日 晴　今暁雨時々降
1777年 11月14日 安永6年　10月15日 晴　昨夜中時々雨
1777年 11月15日 安永6年　10月16日 快晴
1777年 11月16日 安永6年　10月17日 曇
1777年 11月17日 安永6年　10月18日 曇
1777年 11月18日 安永6年　10月19日 曇　昨夜中雪三寸程降
1777年 11月19日 安永6年　10月20日 曇
1777年 11月20日 安永6年　10月21日 曇　昨夜中雨　今日時々雨降
1777年 11月21日 安永6年　10月22日 曇　昨夜巳の刻より雪　今朝に及ぶ
1777年 11月22日 安永6年　10月23日 曇　時々雪降
1777年 11月23日 安永6年　10月24日 晴
1777年 11月24日 安永6年　10月25日 曇　昨夜中雨時々　今朝卯の下刻雨　(今日申の下刻国上寺不動尊御出汗・御神楽を仰せ付ける)
1777年 11月25日 安永6年　10月26日 快晴　昨夜中雨　(古懸不動尊御出汗に付き五山え御祈祷を仰せ付ける)
1777年 11月26日 安永6年　10月27日 快晴
1777年 11月27日 安永6年　10月28日 曇　昨夜中雨　今朝に至る　(当6月仙台で当御廻船4艘が荷打ち・この上乗りが船中で不埒？)
1777年 11月28日 安永6年　10月29日 曇　折々雪降
1777年 11月29日 安永6年　10月30日 曇　今日巳の中刻より雨降
1777年 11月30日 安永6年　　11月1日 晴　(10月中所々御関所出人都合67人:碇関26人(御印紙出13(枚数34枚より少ないのはありえないが:福眞)・切手紙出13)・野内7人(切手紙出))
1777年　12月1日 安永6年　　11月2日 陰晴
1777年　12月2日 安永6年　　11月3日 曇　昨夜中雪　今日折々雨
1777年　12月3日 安永6年　　11月4日 曇　昨夜雪少々降　今朝に及ぶ　(当御廻船で江戸登りの上乗り青森中米町の安之助等3人を江戸の詮議から帰す、去月29日飯詰組野里村で外馬屋焼失・火元百姓村預け免許)
1777年　12月4日 安永6年　　11月5日 晴　昨夜雪少し降　今朝に及ぶ
1777年　12月5日 安永6年　　11月6日 曇　昨夜雪五寸ほど降　今日時々雪降　(青森塩町で南部の男病死)
1777年　12月6日 安永6年　　11月7日 快晴
1777年　12月7日 安永6年　　11月8日 曇　今日雪六寸程降
1777年　12月8日 安永6年　　11月9日 晴　昨夜時々雪降
1777年　12月9日 安永6年　11月10日 晴　昨夜雪六寸程降
1777年 12月10日 安永6年　11月11日 曇　昨夜壱寸程雪　今日時々雪降　(三河の国岡崎の伊賀八幡宮社僧東光院なる者が権化料?を御家中から知行・俵子御切米・金給御切米別に集めている)
1777年 12月11日 安永6年　11月12日 晴　昨夜雪二三寸程降
1777年 12月12日 安永6年　11月13日 曇　昨夜中雪三寸程降　(当月10日夜駒越組砂子瀬村で火災1軒(4間×7間:百姓)・雑駄2疋・米1俵・大豆3俵・小豆3俵・籾粟5俵・蕎麦4俵・稗3俵・きび3俵焼失・火元村預け)
1777年 12月13日 安永6年　11月14日 曇　昨夜雪少々降　(当月11日朝十三潟が残らず氷張る・昨年は11月17日夜九時より18日朝氷張る・日数に引き合い5日早く節に引き合い17日早い)
1777年 12月14日 安永6年　11月15日 晴　昨夜雪少々降　(10日夜出火の砂子瀬村の火元の村預け免許)
1777年 12月15日 安永6年　11月16日 晴　今日雪時々降
1777年 12月16日 安永6年　11月17日 晴　昨夜雪少々　(御本城金蔵脇大木の松が昨晩雪積りで根返り)
1777年 12月17日 安永6年　11月18日 晴　卯の刻より辰の刻まで小雨
1777年 12月18日 安永6年　11月19日 晴
1777年 12月19日 安永6年　11月20日 曇　朝の内曇　巳の刻より晴
1777年 12月20日 安永6年　11月21日 晴　朝の内晴雨降　(去る16日夜五時頃油川組津軽野村で雪潰れ1軒(3間×5間:高無)・家内4人中母1人潰死)
1777年 12月21日 安永6年　11月22日 曇　昨夜中時々雨　今朝卯の刻雷少々発す　雨降　今日冬至に入る　(下鍛治町で家1軒が雪潰れ)
1777年 12月22日 安永6年　11月23日 曇　昨夜雪時々降
1777年 12月23日 安永6年　11月24日 曇　今日雪少々降　(玄圭院様33回御忌に伴う御配当として378人(座等205・盲女173)に銭15文宛)
1777年 12月24日 安永6年　11月25日 曇
1777年 12月25日 安永6年　11月26日 曇
1777年 12月26日 安永6年　11月27日 曇　今日時々雪降　(御配当(玄圭院様33回御忌か:福眞)として297人(男149・女148)の楮町の乞食に銭15文宛)
1777年 12月27日 安永6年　11月28日 曇　今日時々雪降
1777年 12月28日 安永6年　11月29日 曇　昨夜雪降
1777年 12月29日 安永6年　11月30日 晴　昨夜雪少々降
1777年 12月30日 安永6年　　12月1日 曇　昨夜より雪　今日迄降　(11月中所々御関所出人都合114人:碇関108人(御印紙出87・切手紙出21)・野内6人(切手紙出)、この度江戸表に3350両差登)
1777年 12月31日 安永6年　　12月2日 晴　昨夜中雪降

1778年　1月1日 安永6年　12月3日 晴　昨夜中雪降
1778年　1月2日 安永6年　12月4日 陰晴　昨夜中雪降 （当月14日夜宇田湊御番所手附の居間大雪で潰れる）
1778年　1月3日 安永6年　12月5日 曇　時々雪降 （津軽外記死去に付き香典:白銀30両（丁銀1枚を10両と唱えると言う説がある:福眞））
1778年　1月4日 安永6年　12月6日 曇　昨夜中より雪　今日時々降
1778年　1月5日 安永6年　12月7日 曇　今日申の七刻小寒に入る
1778年　1月6日 安永6年　12月8日 曇
1778年　1月7日 安永6年　12月9日 晴　昨夜中小雪 （当月7日浦町組大野村で火災1軒（4間×8間:百姓）・米2石・蕎麦2石・稗2石・大豆1石・馬3疋・稲千束ほど焼失・火元村預け、御米（を抜米して）荷打ちの上乗りを所払い）
1778年　1月8日 安永6年　12月10日 晴
1778年　1月9日 安永6年　12月11日 晴
1778年　1月10日 安永6年　12月12日 晴
1778年　1月11日 安永6年　12月13日 晴
1778年　1月12日 安永6年　12月14日 晴
1778年　1月13日 安永6年　12月15日 晴　辰の上刻霙少々降止　巳の刻より晴　昨晩少々雨降
1778年　1月14日 安永6年　12月16日 晴 （昨15日夜六つ半時猿賀組中川村で火災1軒（3間×6間:御蔵百姓）・稲300束程焼失・火元村預け）
1778年　1月15日 安永6年　12月17日 曇　昨夜中雪時々　今朝卯の中刻より大雪吹　辰の上刻より晴 （7日出火の大野村の火元の村預け免許）
1778年　1月16日 安永6年　12月18日 晴　昨夜雪少々降
1778年　1月17日 安永6年　12月19日 曇　昨夜雪少々 （15日出火の中川村の火元の村預け免許）
1778年　1月18日 安永6年　12月20日 曇　昨夜より雪　今日大雪吹 （黒石領から米5000石の津出しを認める）
1778年　1月19日 安永6年　12月21日 曇　昨夜雪少々降 （正月4日に御吉例金200両差登）
1778年　1月20日 安永6年　12月22日 晴　昨夜雪弐寸程積
1778年　1月21日 安永6年　12月23日 晴 （来年の御廻米は都合65000石に御座候との記述）
1778年　1月22日 安永6年　12月24日 晴　昨夜雪少々降　今日辰の上刻雪　同下刻晴 （米集めの御家中・商人に褒美を出している）
1778年　1月23日 安永6年　12月25日 曇
1778年　1月24日 安永6年　12月26日 晴　今朝雪　寒甚し （他領の者を手引きして馬を盗み出した長峰村の男を取上御仕置き場で刎首・獄門、8月22日盗みの青森濱町の男と6月25日石川村で馬を盗んだ大沢村の男の2人斬罪）
1778年　1月25日 安永6年　12月27日 曇　昨夜中雨　今日辰の刻過ぎより晴　申の下刻雪
1778年　1月26日 安永6年　12月28日 曇　昨夜中雪　今朝に及ぶ　巳の上刻晴
1778年　1月27日 安永6年　12月29日 晴
1778年　1月28日 安永7年　正月1日　晴　昨夜雪少々降
1778年　1月29日 安永7年　正月2日　晴　午の刻より雪降 （御関所出人都合85人:碇関84人（御印紙出51・切手紙出33）・野内1人（切手紙出））
1778年　1月30日 安永7年　正月3日　曇　終日雪風 （明日立ち飛脚で御吉例金200両差登）
1778年　1月31日 安永7年　正月4日　曇　雪風
1778年　2月1日 安永7年　正月5日　曇　朝より雪降
1778年　2月2日 安永7年　正月6日　晴　朝の内曇　雪降
1778年　2月3日 安永7年　正月7日　曇 （七種の御祝儀）
1778年　2月4日 安永7年　正月8日　晴 （若殿様叙爵:出羽守）
1778年　2月5日 安永7年　正月9日　晴
1778年　2月6日 安永7年　正月10日　晴
1778年　2月7日 安永7年　正月11日　快晴
1778年　2月8日 安永7年　正月12日　晴
1778年　2月9日 安永7年　正月13日　曇　今暁七つ時頃より終日雨降 （石渡・岩木・藤崎川洪水・往還なりかねる）
1778年　2月10日 安永7年　正月14日　曇
1778年　2月11日 安永7年　正月15日　快晴
1778年　2月12日 安永7年　正月16日　陰晴
1778年　2月13日 安永7年　正月17日　陰晴 （両濱より湯所え売女あり・差出さないよう申し付ける）
1778年　2月14日 安永7年　正月18日　なし（日記はあるが天候の記述なし） （銀5両などの褒美あり）
1778年　2月15日 安永7年　正月19日　（この日の日記の保存がない）
1778年　2月16日 安永7年　正月20日　曇　時々雪降 （江戸の町に偽の一粒金丹が売られている）
1778年　2月17日 安永7年　正月21日　曇
1778年　2月18日 安永7年　正月22日　晴 （黒石藩より津出5000石を6000石に増やしたいとの申し出・前例にしないことで了）
1778年　2月19日 安永7年　正月23日　曇　今暁より雪時々降 （御家中知行取の族の高100石に付き40俵積りにて御印手形御貸渡しの内……:判らん・福眞）
1778年　2月20日 安永7年　正月24日　晴
1778年　2月21日 安永7年　正月25日　なし（日記はあるが天候の記述なし）　下から続く　378人（座等205・盲女173）に20文宛）
1778年　2月22日 安永7年　正月26日　曇 （21日赤石組柳田村で火災2軒（4間半×12間:庄屋・火元・2間半×4間半:高無）・小荷駄4疋・種籾2斗2升入り33俵等焼失・火元岩崎村預け、若殿様御叙爵御祝儀の御配当　上に続く
1778年　2月23日 安永7年　正月27日　晴 （土手町大橋下に袖乞い体の50余男倒死、21日夜出火の柳田村の庄屋の村預け差許、今25日金木組川倉村で火災1軒（3間×4間:高無）・駒1疋・駄1疋焼失・火元村預け）
1778年　2月24日 安永7年　正月28日　晴　卯の刻雨　辰の刻晴　申の刻より時々雨
1778年　2月25日 安永7年　正月29日　曇 （昨朝和徳町の女が水氷にてこけ井の内に落下死亡
1778年　2月26日 安永7年　正月30日　曇　昨夜より雨時々 （25日川倉村の火元の村預け差許、御領内今もって時疫のものも）
1778年　2月27日 安永7年　2月1日 曇　昨夜中風　雪時々降 （正月中所々御関所出人都合233人:碇ヶ関232人（御印紙出215・切手紙出17）・野内1人（切手紙出））
1778年　2月28日 安永7年　2月2日 陰晴

1778年　3月1日 安永7年　2月3日 晴
1778年　3月2日 安永7年　2月4日 腫 （2日夜五時横内組諏訪沢村で出火1軒（4間×10間：百姓）・外馬屋（4間半×3間）・種籾2斗5升入り15俵焼失・火元村預け）
1778年　3月3日 安永7年　2月5日 晴
1778年　3月4日 安永7年　2月6日 曇 時々雪降 （2日出火の諏訪沢村の火元の村預け免許）
1778年　3月5日 安永7年　2月7日 曇 昨夜中雪降　今日時々小雪
1778年　3月6日 安永7年　2月8日 曇 昨夜雪少々降 （狂気の御家中の倅が牢死）
1778年　3月7日 安永7年　2月9日 晴 （去月30日油川組岡町村で宿継人夫が倒死）
1778年　3月8日 安永7年　2月10日 晴
1778年　3月9日 安永7年　2月11日 曇
1778年　3月10日 安永7年　2月12日 曇 巳の刻より雪降 （去る7月の拾い船を拾い人に下し置かれる）
1778年　3月11日 安永7年　2月13日 晴 酉の刻過ぎ小雨
1778年　3月12日 安永7年　2月14日 晴 昨夜酉の刻頃雨降
1778年　3月13日 安永7年　2月15日 晴 （人事異動）
1778年　3月14日 安永7年　2月16日 晴 （去る13日夜野内町で出火・火元慎み）
1778年　3月15日 安永7年　2月17日 晴 昨夜中戌の下刻より雨　今日朝の内曇　巳の刻より晴 （頃日所々で狼あれ鉄砲打ち申し付ける）
1778年　3月16日 安永7年　2月18日 晴
1778年　3月17日 安永7年　2月19日 曇
1778年　3月18日 安永7年　2月20日 曇 今日終日雨降　辰の中刻過ぎ雷時々大発
1778年　3月19日 安永7年　2月21日 陰晴 昨夜中風雨強
1778年　3月20日 安永7年　2月22日 陰晴 昨夜中より今朝まで雪少々降 （13日野内町の火元の慎み免許）
1778年　3月21日 安永7年　2月23日 曇 昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日時々降 （蔦の者が当月はじめ頃より時疫・21日病死）
1778年　3月22日 安永7年　2月24日 晴 （27日より当春御切米渡す、後潟組奥平部村で火災・類焼4軒・火元他村預け）
1778年　3月23日 安永7年　2月25日 曇 昨夜中の雪今日に及び時々降る　巳の中刻雷発す
1778年　3月24日 安永7年　2月26日 晴 （当月朔日今別領に破船・荷物盗み隠される、24日浦町組大野村で火災1軒・土蔵1・白米5俵・種籾23俵焼失・火元他村預け）
1778年　3月25日 安永7年　2月27日 晴 （去る18日後潟組奥平部村の火元の他村預け免許）
1778年　3月26日 安永7年　2月28日 快晴
1778年　3月27日 安永7年　2月29日 晴
1778年　3月28日 安永7年　2月30日 曇 昨夜中小雪少々 （十三潟が28日夜九時より29日朝六時まで早川口より残らず氷明ける・去年は2月22日の明け六時より昼八時まで氷明・当年は日数に引合7日遅く節に引合4日早い）
1778年　3月29日 安永7年　3月1日 曇 昨夜中より雪降 （2月中碇ヶ関御関所出人都合92人（御印紙出49・切手紙出43））
1778年　3月30日 安永7年　3月2日 曇 （大野村の火元の他村預け免許、昨夜親方町で男が井に落ち死亡）
1778年　3月31日 安永7年　3月3日 曇
1778年　4月1日 安永7年　3月4日 陰晴 昨晩申の下刻より雨　戌の下刻より風烈し
1778年　4月2日 安永7年　3月5日 快晴 今夕酉の刻より雨 （玄圭院様33回御忌に伴う大赦：弘前・居村徘徊御免4人）
1778年　4月3日 安永7年　3月6日 曇 今朝より雨降
1778年　4月4日 安永7年　3月7日 快晴 （十三潟が当月2日船通路相成り候様明け候）
1778年　4月5日 安永7年　3月8日 快晴 昨夜子の刻地震　余程強し
1778年　4月6日 安永7年　3月9日 晴 朝の内曇　雨少々降　巳の上刻より霽
1778年　4月7日 安永7年　3月10日 曇 今日時々小雨
1778年　4月8日 安永7年　3月11日 曇
1778年　4月9日 安永7年　3月12日 曇 昨夜中の雪今朝に及ぶ　今日午の刻より晴
1778年　4月10日 安永7年　3月13日 晴 昨夜雨少々降
1778年　4月11日 安永7年　3月14日 曇 昨夜雨少々降 （楮町で昨七つ頃72歳男縊死）
1778年　4月12日 安永7年　3月15日 曇 今日巳の中刻過ぎ小雨
1778年　4月13日 安永7年　3月16日 快晴
1778年　4月14日 安永7年　3月17日 快晴
1778年　4月15日 安永7年　3月18日 晴
1778年　4月16日 安永7年　3月19日 晴
1778年　4月17日 安永7年　3月20日 晴 今朝霜少々降
1778年　4月18日 安永7年　3月21日 快晴 今朝霜 （津軽左近殿去月28日江府で病死）
1778年　4月19日 安永7年　3月22日 晴 （和徳町の鍛冶屋で飛び火・打ち消す）
1778年　4月20日 安永7年　3月23日 快晴 （当月8日後潟組山崎村の60歳男が湯治に酸ヶ湯へ行く山中で雪吹きで倒死）
1778年　4月21日 安永7年　3月24日 快晴　　下から続く　　・雑馬1疋焼失・火元高無他村預け）
1778年　4月22日 安永7年　3月25日 陰晴 （昨夜五時ころ猿賀組大袋村で火災3軒（3間×6間：御蔵百姓：火元・3間×6間：不明・2間×3間：不明）・火元他村預け、去る22日夜尾崎組小国村で火災16軒と馬屋14軒　　上に続く
1778年　4月23日 安永7年　3月26日 晴 （当正月ころ泊番の節不〆りとして御給分召し放ち永の御暇1人・御目見以上から以下に格下げ3人）
1778年　4月24日 安永7年　3月27日 晴 巳の中刻より曇　午の刻より雨降　風立
1778年　4月25日 安永7年　3月28日 晴 今日東風烈し （去る5日広須組永田村で出火（2間×3間：借地）・火元村預け）
1778年　4月26日 安永7年　3月29日 晴 （去る17日飯詰組戸沢村の押水で7反歩ほどの田方が荒地になる）
1778年　4月27日 安永7年　4月1日 曇 今日時々小雨 （3月中所々御関所出人都合188人：碇ヶ関177人（御印紙出126・切手紙出51）・野内11人（御印紙出2・切手紙出9）、去る26日後潟組長科村で出火・火元百姓村預け）
1778年　4月28日 安永7年　4月2日 曇 昨夜中雨　今日卯の刻より晴 （小国村・大袋村の火元の村預け差許、永田村・長科村の火元の村預け差許）
1778年　4月29日 安永7年　4月3日 晴 昨夜中よりの雨今日辰の下刻晴 （去る朔日昼四時過ぎ高杉組立石村で出火（大きさ不明：高無）・火元村預け）
1778年　4月30日 安永7年　4月4日 快晴

1778年　5月1日 安永7年　4月5日 晴
1778年　5月2日 安永7年　4月6日 曇　昨夜中よりの雨今朝に及ぶ
1778年　5月3日 安永7年　4月7日 晴
1778年　5月4日 安永7年　4月8日 快晴　(当月朔日立石村の火元の村預け差許、去月29日金木組相内村で野火(300軒四方:このように書いてある:福眞))
1778年　5月5日 安永7年　4月9日 快晴
1778年　5月6日 安永7年　4月10日 快晴　酉の刻より小雨　夜中時々降
1778年　5月7日 安永7年　4月11日 晴　(先年より不熟の田方の年季休み仰せ付けられる:この年だけか否かはわからない:福眞)
1778年　5月8日 安永7年　4月12日 快晴　今暁霜少々降
1778年　5月9日 安永7年　4月13日 快晴　(去る11日昼木作新田中福原村で出火(大きさ不明:百姓)・馬1疋焼失・火元村預け、土手町大橋下に赤子捨死)
1778年　5月10日 安永7年　4月14日 快晴
1778年　5月11日 安永7年　4月15日 快晴　(11日出火の中福原村の火元の村預け差許)
1778年　5月12日 安永7年　4月16日 陰晴
1778年　5月13日 安永7年　4月17日 快晴
1778年　5月14日 安永7年　4月18日 晴　昨夜雨少々降　(去月22日出火で難儀の御手当て願・御米16俵下し置かれる)
1778年　5月15日 安永7年　4月19日 曇　昨夜酉の下刻過ぎ稲光雷発す　雨強　今朝に及ぶ　(後潟組今津村近所に熊之獅子が出てけが人あり・鉄砲打ちの足軽2人派遣する)
1778年　5月16日 安永7年　4月20日 晴
1778年　5月17日 安永7年　4月21日 晴　今日午の刻過ぎ雨少々　(今10日の朝五つ過ぎ金木組川倉村に野火(西東200間・北南100間ほど)、横内組か浦町組の大浦という所に塩釜が出来たらしい・4石の水から塩1石1斗2升)
1778年　5月18日 安永7年　4月22日 曇
1778年　5月19日 安永7年　4月23日 快晴　(2月朔日の破船から荷物を盗み隠した(2月26日に記述)11人の村預け免許・過料銭1人1貫文を上納させ紛失分として船頭に返すこととする・同村庄屋等は不〆に付き戸〆)
1778年　5月20日 安永7年　4月24日 快晴　朝の内曇　(一昨21日夜四時頃油川組岩渡村で出火(大きさ不明:高無)・火元村預け)
1778年　5月21日 安永7年　4月25日 快晴　(昨24日昼七時過ぎ和徳組で出火・火元借地村預け)
1778年　5月22日 安永7年　4月26日 快晴　(革秀寺弟子が御国下がり・判らないが三寸箸など罪人扱い、後潟組野田村で熊荒れ猟師を出したが3疋で手あまし・津軽坂村猟師を手伝いに差し遣わす)
1778年　5月23日 安永7年　4月27日 晴　朝の内雨少々降　(21日岩渡村の火元の村預け免許)
1778年　5月24日 安永7年　4月28日 快晴
1778年　5月25日 安永7年　4月29日 陰晴　(去る24日出火の百田村寺沢の火元百姓の村預け差許)　下から続く　(御印紙出1・切手紙出4))
1778年　5月26日 安永7年　5月1日 曇　昨夜酉の刻過ぎより雨　今朝に至る　(4月中所々御関所出人都合113人:碇ヶ関95人(御印紙出30・切手紙出65)・野内13人(御印紙出12・切手紙出1)・大間越5人　上に続く
1778年　5月27日 安永7年　5月2日 曇　(金井ヶ沢村並びに近郷で狼荒れ人馬怪我あり・鯵ヶ沢道心を鉄砲打ちに申付ける)
1778年　5月28日 安永7年　5月3日 快晴
1778年　5月29日 安永7年　5月4日 晴　(若殿様の前髪執の御祝儀かな・御料理人3人・御台所受払い役5人に銀3両宛下し置かれる・その他の人間には銀2枚ツツ・金300疋・金200疋・金100疋・鳥目300文)
1778年　5月30日 安永7年　5月5日 快晴
1778年　5月31日 安永7年　5月6日 快晴
1778年　6月1日 安永7年　5月7日 曇　昨夜酉の刻より雨　今日終日雷度々発　(昨夜九つ時ころ猿賀組浅瀬石村で火災3軒(借地・高無・高無)・火元借地他村預け)
1778年　6月2日 安永7年　5月8日 曇　今日辰の下刻雨　(当月4日鯵ヶ沢沖合いで傷が付いた4尋ほどの鯨上げる)
1778年　6月3日 安永7年　5月9日 快晴
1778年　6月4日 安永7年　5月10日 快晴
1778年　6月5日 安永7年　5月11日 快晴　(若殿様御元服御祝儀として378人(座当205・盲女173)に御配当20文宛下し置かれる)
1778年　6月6日 安永7年　5月12日 快晴　(江戸御廻船の船乗共が不正、5日出火の浅瀬石村の火元の他村預け免許)
1778年　6月7日 安永7年　5月13日 曇　((2月26日・4月23日記述の)今別村庄屋等の戸〆御免)
1778年　6月8日 安永7年　5月14日 曇　(去る3日駒越組枯木平村山に野火)
1778年　6月9日 安永7年　5月15日 快晴
1778年　6月10日 安永7年　5月16日 曇　今日時々小雨　((4月23日記述の)過料1貫文宛船頭に渡し受取書貰ったとのこと)
1778年　6月11日 安永7年　5月17日 快晴　(大間越辺りより轟木村辺りまでに狼多く出て人馬怪我あり・大組・諸手足軽から心得のあるものを2・3人派遣する、今朝御家中の妻自害)
1778年　6月12日 安永7年　5月18日 曇　(後潟組に野火入る)
1778年　6月13日 安永7年　5月19日 晴　朝の内曇　巳の刻より晴
1778年　6月14日 安永7年　5月20日 曇
1778年　6月15日 安永7年　5月21日 曇　今暁雨　巳の刻晴
1778年　6月16日 安永7年　5月22日 快晴　(去る20日駒越組門前村で萱乳(萱を積み上げて干しておく物)に火が付く、去る20日紺屋町の大久保堰で杖突(測量担当の足軽?)の3才娘水死)
1778年　6月17日 安永7年　5月23日 快晴　(四社に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける)
1778年　6月18日 安永7年　5月24日 快晴　(20日萱乳を焼いた門前村の高無の戸〆差許)　下から続く　晴天続きの増館組・浪岡組・和徳組・堀越組の320町で塊かきできない)
1778年　6月19日 安永7年　5月25日 快晴　(最勝院・国上寺・橋雲寺・久渡寺に降雨の御祈祷を仰せ付ける、去る20日夜赤石組風合瀬村で火災2軒(3間半×6間:百姓・大きさ不明:高無)・火元百姓は晴山村預け、　上に続く
1778年　6月20日 安永7年　5月26日 快晴　(去る20日出火の風合瀬村の火元の他村預け免許)
1778年　6月21日 安永7年　5月27日 快晴
1778年　6月22日 安永7年　5月28日 なし(日記はあるが天候の記述なし)　(大鰐村より初真瓜差上げる)
1778年　6月23日 安永7年　5月29日 晴　朝の内曇　(大鰐村より初ささけ差上げる)
1778年　6月24日 安永7年　5月30日 快晴　下から続く　昼四時頃広須組近岡村で出火(5間×11間:百姓)・火元他村預け)
1778年　6月25日 安永7年　6月1日 曇　今日巳の刻より雨降　(5月中所々御関所出人都合75人:碇ヶ関64人(御印紙出38・切手紙出26)・大間越4人(御印紙出)・野内7人(御印紙出1・切手紙出6)、去月晦日　上に続く
1778年　6月26日 安永7年　6月2日 曇　昨夜より雨降　終日に及ぶ
1778年　6月27日 安永7年　6月3日 曇　昨夜雨降
1778年　6月28日 安永7年　6月4日 曇　昨夜雨降　(去月30日出火の近岡村の火元の村預け免許)
1778年　6月29日 安永7年　6月5日 快晴
1778年　6月30日 安永7年　6月6日 陰晴

1778年　7月1日 安永7年　　6月7日 曇　昨夜中より雨　終日に及ぶ
1778年　7月2日 安永7年　　6月8日 晴　朝の内曇
1778年　7月3日 安永7年　　6月9日 曇
1778年　7月4日 安永7年　　6月10日 曇　未の刻より小雨
1778年　7月5日 安永7年　　6月11日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ （頃日雨天続き候に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止……:停止は沢山見るが差許しは見たことないな:福眞）
1778年　7月6日 安永7年　　6月12日 快晴
1778年　7月7日 安永7年　　6月13日 曇　今日巳の刻より時々雨ふる
1778年　7月8日 安永7年　　6月14日 快晴　酉の刻地震
1778年　7月9日 安永7年　　6月15日 晴　巳の刻過ぎ風強し　申の刻止
1778年　7月10日 安永7年　　6月16日 快晴　今晩酉の刻大雨 （一昨朔日添田儀左衛門を御家老に・御附人料は金30両増えて都合90両40人扶持）
1778年　7月11日 安永7年　　6月17日 曇　昨夜中時々雨　今朝に及ぶ
1778年　7月12日 安永7年　　6月18日 快晴
1778年　7月13日 安永7年　　6月19日 曇　朝の内少々雨降
1778年　7月14日 安永7年　　6月20日 快晴
1778年　7月15日 安永7年　　6月21日 陰晴 （去る10日の夜中津軽文四郎姉が出奔）
1778年　7月16日 安永7年　　6月22日 快晴
1778年　7月17日 安永7年　　6月23日 快晴
1778年　7月18日 安永7年　　6月24日 快晴　今日東風吹
1778年　7月19日 安永7年　　6月25日 晴　今東風吹　土用に入 （このごろ鷹匠・御手廻り・津軽一族の娘など沢山出奔している）
1778年　7月20日 安永7年　　6月26日 曇　巳の中刻小雨　東風吹
1778年　7月21日 安永7年　　6月27日 曇　朝の内小雨ふる
1778年　7月22日 安永7年　　6月28日 曇　今日時々雨 （岩木川洪水に付き防ぎ方仰せ付けられる、今朝袋町の井の内に30斗の男が裸で死亡・御家中の病気の倅であった）
1778年　7月23日 安永7年　　6月29日 陰晴 （猿賀神宮寺に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1778年　7月24日 安永7年　　7月1日 陰晴　朝の内霧降 （6月中所々御関所出人都合124人:碇ヶ関111人（御印紙出90・切手紙出21）・大間越2人（御印紙出）・野内11人（御印紙出10・切手紙出1））
1778年　7月25日 安永7年　　7月2日 曇　昨夜より雨強　今日終日に及ぶ （岩木川六歩くらいの洪水で往来成兼ねる）
1778年　7月26日 安永7年　　7月3日 曇　昨夜雨少々降 （神明・八幡宮の両社で日和揚げ御祈祷を仰せ付ける）
1778年　7月27日 安永7年　　7月4日 曇　酉の刻より雨降 （去月28日岩木川七歩余の洪水・所々痛損、去月26日より飯詰組・金木組で280町歩ほど水湛・稲穂も相見え申さず）
1778年　7月28日 安永7年　　7月5日 陰晴 （天気が悪い日が続き丹後者を詮議し送り返すこととする、26日よりの雨天で広田組でも水湛）
1778年　7月29日 安永7年　　7月6日 陰晴
1778年　7月30日 安永7年　　7月7日 快晴 （昨夜百沢寺の用達の娘縊死）
1778年　7月31日 安永7年　　7月8日 快晴
1778年　8月1日 安永7年　　7月9日 快晴 （屋形様病気で秋までは御滞府）　　下から続く　　赤田組17町余35町余・藤崎組0町47町余・高杉組113町余5町余・常盤組87町余62町程、各組代官から検地・物成差引の申立）
1778年　8月2日 安永7年　　7月10日 陰晴 （この度の洪水による水湛（田方畑方）:広須組364町9反余（分米2055石余）141町8反余（分米238石余）・広田組320町余180町余・増館組245町0町・浪岡組0町余0町　　上に続く
1778年　8月3日 安永7年　　7月11日 晴
1778年　8月4日 安永7年　　7月12日 陰晴
1778年　8月5日 安永7年　　7月13日 陰晴 （今朝和徳町の子が境関村で川に落ち溺れ死）
1778年　8月6日 安永7年　　7月14日 陰晴
1778年　8月7日 安永7年　　7月15日 晴 （当月朔日の風雨で横内組浦町村の毘沙門川添の田方水湛、去る11日昼八時頃横内組築館村で火災2軒・火元高無他村預け）
1778年　8月8日 安永7年　　7月16日 快晴　今朝霧雨
1778年　8月9日 安永7年　　7月17日 快晴　朝の内霧雨 （今日大鰐村より出穂差上げる、去月（今月の勘違い）11日出火の築館村の火元の他村預け免許）
1778年　8月10日 安永7年　　7月18日 快晴　朝の内霧降　巳の刻より霽　残暑強
1778年　8月11日 安永7年　　7月19日 陰晴
1778年　8月12日 安永7年　　7月20日 曇　今朝寅の刻雨　卯の下刻晴　残暑つよし （大鰐村加賀助・兵三郎より5月6日植付の出穂差出す・去年は4月24日植付7月23日に差出す・当年は日数に引合12日遅く節に引合12日遅い）
1778年　8月13日 安永7年　　7月21日 晴　今暁丑の下刻雨　寅の刻晴
1778年　8月14日 安永7年　　7月22日 快晴　未の刻より雷度々　東の方虹二重に顕る　未の下刻雨少々
1778年　8月15日 安永7年　　7月23日 曇　今日申の上刻より雨強　雷発す　電度々
1778年　8月16日 安永7年　　7月24日 曇　昨夜中雨　朝の内きり　辰の刻より晴る
1778年　8月17日 安永7年　　7月25日 晴
1778年　8月18日 安永7年　　7月26日 晴 （取上御仕置場で御楽屋から品物を盗み出した（去年10月ころの話）御家中を磔・その他関係者多数を追放）
1778年　8月19日 安永7年　　7月27日 晴
1778年　8月20日 安永7年　　7月28日 晴
1778年　8月21日 安永7年　　7月29日 晴
1778年　8月22日 安永7年　閏7月1日　晴 （7月中所々御関所出人都合297人:碇ヶ関287人（御印紙出58. 切手紙出229）・野内9人（御印紙出8・切手紙出1）・大間越1人（切手紙出）、五穀成就に和徳稲荷宮で御神楽仰せ付ける）
1778年　8月23日 安永7年　閏7月2日　曇　今日辰の下刻雨少々降 （去る12月23日に小泊村前浜で拾った松木の持ち主が出ないので拾い上げた者に下し置かれる）
1778年　8月24日 安永7年　閏7月3日　曇
1778年　8月25日 安永7年　閏7月4日　晴
1778年　8月26日 安永7年　閏7月5日　快晴
1778年　8月27日 安永7年　閏7月6日　快晴
1778年　8月28日 安永7年　閏7月7日　快晴　今暁寅の下刻雨強　同下刻晴ト成　今日残暑甚し
1778年　8月29日 安永7年　閏7月8日　曇　昨夜子の刻過ぎ大雨　今朝に及ぶ
1778年　8月30日 安永7年　閏7月9日　快晴　昨夜中の雨朝の内降　辰の下刻より快晴と成 （盗み杣・洪水で流れた蛇籠の柴?・稲盗み等を鞭刑・追放:これまではあまり書いた記憶がないがこんなの多数・普通）
1778年　8月31日 安永7年　閏7月10日　曇

1778年　9月1日 安永7年 閏7月11日 晴　今日残暑つよし （大鰐村加賀助・兵三郎より初米差上げる・去年は7月17日・日数に引合12日遅く節に引合ても12日遅い）
1778年　9月2日 安永7年 閏7月12日 残暑強し
1778年　9月3日 安永7年 閏7月13日 曇　昨夜酉の刻より雨強　戌ノ刻晴　子の刻雨強　丑の刻過ぎより晴
1778年　9月4日 安永7年 閏7月14日 快晴
1778年　9月5日 安永7年 閏7月15日 晴　朝の内曇る （田村下総守様よりさ里蟹（ザリガニかな：福眞）70御無心）
1778年　9月6日 安永7年 閏7月16日 曇　昨夜中雨降
1778年　9月7日 安永7年 閏7月17日 曇　今日子の刻より雨　辰の刻より晴
1778年　9月8日 安永7年 閏7月18日 快晴 （松森町野の男たばこの薄刃で切腹・死亡）
1778年　9月9日 安永7年 閏7月19日 曇　辰の下刻より雨
1778年　9月10日 安永7年 閏7月20日 陰晴 （当月11日秋田佐竹様御居城残らず焼失）
1778年　9月11日 安永7年 閏7月21日 曇 （屋形様は当月22日御発駕・来月9日御着城の予定）
1778年　9月12日 安永7年 閏7月22日 曇
1778年　9月13日 安永7年 閏7月23日 曇　午の下刻より雨時々降
1778年　9月14日 安永7年 閏7月24日 曇　昨夜中雨
1778年　9月15日 安永7年 閏7月25日 曇 （去る22日飯詰組薄市村で火災（3間×4間：高無）・火元村預け）
1778年　9月16日 安永7年 閏7月26日 曇　午の刻過ぎより雨時々　（御城代津軽兵部病死）
1778年　9月17日 安永7年 閏7月27日 曇　昨夜より時々雨降　辰の刻より晴 （当月22日薄市村の火元の村預け免許）
1778年　9月18日 安永7年 閏7月28日 晴　今朝卯の上刻地震
1778年　9月19日 安永7年 閏7月29日 曇　昨夜丑の刻より小雨　今朝に至る （頃日打続天気不正に付き岩木山登山は御名代の外差し止める）
1778年　9月20日 安永7年 閏7月30日 快晴 （関札御用が昨晩到着）
1778年　9月21日 安永7年　8月1日 曇　今日卯の下刻より雨 （閏7月中所々御関所出人都合143人：碇ヶ関139人（御印紙出117・切手紙出22）・大間越4人（御印紙出））
1778年　9月22日 安永7年　8月2日 曇　昨朝の雨今朝に及ぶ
1778年　9月23日 安永7年　8月3日 曇
1778年　9月24日 安永7年　8月4日 曇　酉の刻より雨降
1778年　9月25日 安永7年　8月5日 曇　昨夜中の雨時々降
1778年　9月26日 安永7年　8月6日 曇　昨夜中より今日終日雨 （頃日打ち続く雨天に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治停止、御宿取今日到着）
1778年　9月27日 安永7年　8月7日 曇 （去る20日御小姓組田口某出奔）
1778年　9月28日 安永7年　8月8日 曇　今日卯の刻過ぎより雨降 （昨夜九つ時御部屋様が二の丸江御着）
1778年　9月29日 安永7年　8月9日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日辰の刻より雨 （屋形様が今日午の下刻御着座）
1778年　9月30日 安永7年　8月10日 陰晴
1778年　10月1日 安永7年　8月11日 曇　昨夜雨少々　今日も時々小雨 （大円寺で日和揚げの御祈祷を仰せ付けられる）
1778年　10月2日 安永7年　8月12日 晴
1778年　10月3日 安永7年　8月13日 晴
1778年　10月4日 安永7年　8月14日 曇　今朝辰の下刻小雨　則刻晴　未の刻雨
1778年　10月5日 安永7年　8月15日 曇 （昨日より雨天につき八幡宮祭礼延引）
1778年　10月6日 安永7年　8月16日 曇　今朝雪降（こう書いてあるのです：福眞） （今日も雨天につき八幡宮祭礼延引、初鮭1尺差上げる）
1778年　10月7日 安永7年　8月17日 快晴　今朝雪降（これもこの通りです：福眞） （八幡宮御祭礼滞りなく相済み候）
1778年　10月8日 安永7年　8月18日 快晴
1778年　10月9日 安永7年　8月19日 快晴
1778年 10月10日 安永7年　8月20日 快晴
1778年 10月11日 安永7年　8月21日 曇
1778年 10月12日 安永7年　8月22日 曇
1778年 10月13日 安永7年　8月23日 曇　昨夜酉の下刻より雨強し　今朝に至る　今日時々強し （御着城御祝儀の御料理・御能、今回の御下向は水戸廻りだったのかな、雨天・病人多く苦労したらしい）
1778年 10月14日 安永7年　8月24日 曇　昨夜中風烈し　今日辰の下刻より雨時々降
1778年 10月15日 安永7年　8月25日 曇　今日時々小雨
1778年 10月16日 安永7年　8月26日 晴
1778年 10月17日 安永7年　8月27日 晴
1778年 10月18日 安永7年　8月28日 快晴　昨夜中丑の中刻雷発す　雨つよし
1778年 10月19日 安永7年　8月29日 快晴　昨夜中小雨少々ふる
1778年 10月20日 安永7年　9月1日 快晴 （人事異動、8月中所々御関所出人都合265人：碇ヶ関259人（御印紙出179・切手紙出80）・大間越3人（御印紙出2・切手紙出1）・野内10人（御印紙出5・切手紙出5））
1778年 10月21日 安永7年　9月2日 曇　午の刻より雨時々　雷度々発す
1778年 10月22日 安永7年　9月3日 曇
1778年 10月23日 安永7年　9月4日 曇　今朝岩木山に雪見ゆる　卯の中刻より雨
1778年 10月24日 安永7年　9月5日 曇　今日時々雨降
1778年 10月25日 安永7年　9月6日 曇　昨夜中の雨今朝に及ぶ　今日終日雨降 （人事異動）
1778年 10月26日 安永7年　9月7日 曇　今日時々雨降
1778年 10月27日 安永7年　9月8日 曇　昨夜中時々雨
1778年 10月28日 安永7年　9月9日 陰晴
1778年 10月29日 安永7年　9月10日 晴　昨夜中霜降
1778年 10月30日 安永7年　9月11日 曇　昨夜中より今日終日雨降 （津軽兵部病死に付き御香典白銀30両を御使者をもって下し置かれる）
1778年 10月31日 安永7年　9月12日 曇　昨夜よりの雨今朝に至る

1778年　11月1日 安永7年　　9月13日 晴　昨夜亥の上刻風烈し　雨度々ふる
1778年　11月2日 安永7年　　9月14日 晴　昨夜中雨度々　今朝に及ぶ
1778年　11月3日 安永7年　　9月15日 快晴
1778年　11月4日 安永7年　　9月16日 晴　（頃日の雨続きで駒越川石渡川が五歩の洪水・馬船長船とも往来なり兼ねる）
1778年　11月5日 安永7年　　9月17日 晴
1778年　11月6日 安永7年　　9月18日 晴　（浄心院（誰か判らないと24年前に書いてある：福眞）様25回御忌御法事に付き大赦：出牢1人・弘前徘徊御免2人）
1778年　11月7日 安永7年　　9月19日 晴　今日酉の下刻より小雨　（和徳町で男が縊死）
1778年　11月8日 安永7年　　9月20日 曇　昨夜中雨　今日折々
1778年　11月9日 安永7年　　9月21日 晴
1778年 11月10日 安永7年　　9月22日 曇　今朝より雨終日　（御家中知行米は来月中旬に渡すが200石以下には前渡：150～200石に5俵・100石以上4俵・50～80石に3俵・それ以下2俵、近年諸山伐尽くし柾木舞払底に付き……）
1778年 11月11日 安永7年　　9月23日 曇
1778年 11月12日 安永7年　　9月24日 晴　（鯵ヶ沢漁師が先月29日沖合いで丸木舟（長1丈3尺5寸幅1尺7寸）拾う、当月21日赤石組深浦町で出火3軒）
1778年 11月13日 安永7年　　9月25日 晴　昨夜中雨降
1778年 11月14日 安永7年　　9月26日 曇　今暁より雨終日
1778年 11月15日 安永7年　　9月27日 曇　（濱町で昨夜八つ過ぎ出火・質蔵焼失）
1778年 11月16日 安永7年　　9月28日 快晴　（去る22日後潟組今別村岩谷観音堂前に者倒死）
1778年 11月17日 安永7年　　9月29日 快晴
1778年 11月18日 安永7年　　9月30日 快晴　昨夜中雨降
1778年 11月19日 安永7年　　10月1日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　（9月中所々御関所出人都合90人：碇ヶ関79人（御印紙出61・切手紙出18）・野内11人（御印紙出10. 切手紙出1））
1778年 11月20日 安永7年　　10月2日 曇　今朝雪少々降　（当年粒油高値・水油1升に付き5匁とする、小山内某縊死、去月晦日夜駒越組枯木平村で火災（5間×6間半：庄屋）・稗6俵・大豆2俵・粟はさ一ツ焼失）
1778年 11月21日 安永7年　　10月3日 曇　昨夜より雪　今朝に及ぶ　（初雪の御機嫌伺い、去る27日土蔵出火の浜の町の火元の慎み方差許）
1778年 11月22日 安永7年　　10月4日 曇　今朝雪ふり　辰の刻より快晴
1778年 11月23日 安永7年　　10月5日 曇　今朝より小雨　（今朝青森鍛治町で糀室より出火・火元慎み、（去月晦日の）枯木平村の火元の庄屋の村預け免許）
1778年 11月24日 安永7年　　10月6日 曇　昨夜中雨　今日終日雪吹　（当月2日昼七時過ぎ赤石組浜横沢村で火災・火元高無村預け）
1778年 11月25日 安永7年　　10月7日 曇　昨夜中より今日時々雨降
1778年 11月26日 安永7年　　10月8日 曇　（深浦町岡町?で出火の火元の入寺御免）
1778年 11月27日 安永7年　　10月9日 快晴　（先ごろ（5日）青森の火元の慎み免許）
1778年 11月28日 安永7年　　10月10日 陰晴　昨夜丑の刻過ぎ雨
1778年 11月29日 安永7年　　10月11日 曇　今暁寅の刻より雨時々　辰の中刻過ぎより晴　（赤石組代官が風合瀬・晴山両村の作毛皆無と報告・ほとんど御収納から差し引く）
1778年 11月30日 安永7年　　10月12日 曇　今日雨時々降　（昨11日昼四時ころ駒越組水木村で火災・火元高無村預け）
1778年　12月1日 安永7年　　10月13日 曇　今日時々雪ふる
1778年　12月2日 安永7年　　10月14日 曇　昨夜雪時々降　（去る12日夜広須組本増村で火災・田方2町8反4畝28歩の稲7450束・雑駄1疋焼失・火元村預け）
1778年　12月3日 安永7年　　10月15日 快晴　昨夜雪降
1778年　12月4日 安永7年　　10月16日 快晴　昨夜雪ふり　（去る11日出火の水木村の火元の村預け差許）
1778年　12月5日 安永7年　　10月17日 曇　今日終日雪降　（肴屋が初鱈差上げる）
1778年　12月6日 安永7年　　10月18日 晴
1778年　12月7日 安永7年　　10月19日 曇　昨夜中雨　今日時々雪ふる　（今日芙蓉の間で射芸高覧）
1778年　12月8日 安永7年　　10月20日 曇　昨夜中雪　今日時々
1778年　12月9日 安永7年　　10月21日 曇　今日雪時々降
1778年 12月10日 安永7年　　10月22日 曇　昨夜中より今時々雪降　（今18日後潟組山本村で出火・火元高無村預け・差許、昨夜大光寺組金尾村で借家火災・籾3石ほど・稲草20束ほど・大豆2斗・蕎麦1俵焼失）
1778年 12月11日 安字7年　　10月23日 晴　昨夜中雪弐寸程ふり　　下から続く　　となる、柾木舞流木等の差引・小普請金の上納・自分借等の族もあり手取りがない族数百人、しかし実行せざるを得ない）
1778年 12月12日 安永7年　　10月24日 晴　（大目付と勘定奉行が申し立て：高100石の俵は100俵であるが2月6月の御貸付けの元利として24俵・当年の検見平均で30俵を引き・御印紙で20俵渡すので手取りは26俵　　上に続く
1778年 12月13日 安永7年　　10月25日 曇
1778年 12月14日 安永7年　　10月26日 曇　午の刻より雨降
1778年 12月15日 安永7年　　10月27日 晴
1778年 12月16日 安永7年　　10月28日 晴　（江戸で主人の衣類を盗み出し欠落ちの家来とその仲間の2人を死罪：検死担当者がなぜか付いていない）
1778年 12月17日 安永7年　　10月29日 晴
1778年 12月18日 安永7年　　10月30日 晴
1778年 12月19日 安永7年　　11月1日 曇　昨夜雨ふる　（10月中所々御関所出人都合136人：碇ヶ関133人（御印紙出88・切手紙出45）・野内3人（切手紙出））
1778年 12月20日 安永7年　　11月2日 曇　今朝少々雪ふる
1778年 12月21日 安永7年　　11月3日 晴　酉ノ一刻ヨリ冬至
1778年 12月22日 安永7年　　11月4日 曇　昨夜雪ふる　（一昨2日赤田組赤田村で出火・火元高無村預け）
1778年 12月23日 安永7年　　11月5日 曇　（一昨3日金木組嘉瀬村で火災（3間×4間：百姓）・火元村預け）
1778年 12月24日 安永7年　　11月6日 晴
1778年 12月25日 安永7年　　11月7日 晴　昨夜雪六寸程ふる　（2日・3日の赤田村・嘉瀬村の火元の村預け免許）
1778年 12月26日 安永7年　　11月8日 晴　昨夜雪六寸程ふる
1778年 12月27日 安永7年　　11月9日 曇　今日時々雪降
1778年 12月28日 安永7年　　11月10日 曇　申の下刻雨ふる
1778年 12月29日 安永7年　　11月11日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　（人事異動）
1778年 12月30日 安永7年　　11月12日 晴
1778年 12月31日 安永7年　　11月13日 曇　今朝雨少々降　午の刻雷発す　未の刻霽

1779年　1月1日 安永7年　11月14日 晴 （弘前・在・浦々共の老人：70以上の男1565人・80以上の女290人、80以上に金100疋宛・これ以下に鳥目1貫文ツツ下し置かれる）
1779年　1月2日 安永7年　11月15日 晴 （翁付きの御能初）
1779年　1月3日 安永7年　11月16日 曇 （土手町の井戸に入水死の男あり）
1779年　1月4日 安永7年　11月17日 曇 昨夜雪五寸程降　今日雪降
1779年　1月5日 安永7年　11月18日 曇 今亥の刻より小寒　昨夜中より雪　今日折々降
1779年　1月6日 安永7年　11月19日 曇 昨夜より雨　今朝に及ぶ
1779年　1月7日 安永7年　11月20日 晴
1779年　1月8日 安永7年　11月21日 晴 （当月7日に9日振りと申付けられた御飛脚が道中の雪吹き等で4日遅く昨日付く・呵り置く）
1779年　1月9日 安永7年　11月22日 快晴
1779年　1月10日 安永7年　11月23日 晴 昨夜雷発す （人事異動、円明寺門前に50歳ばかりの女頓死）
1779年　1月11日 安永7年　11月24日 曇 今朝卯の下刻雨少々 （御家中が家来を手打ち、この度江戸表へ御金3200両御登らせ……）
1779年　1月12日 安永7年　11月25日 曇
1779年　1月13日 安永7年　11月26日 曇 （今日御慰めの御囃子、昨27日大鰐組駒木村で出火1軒・雑駄1疋焼失・火元村預け）
1779年　1月14日 安永7年　11月27日 快晴
1779年　1月15日 安永7年　11月28日 曇
1779年　1月16日 安永7年　11月29日 陰晴 （去る25日出火の駒木村の火元の村預け免許）
1779年　1月17日 安永7年　11月30日 晴 （鞭・追放者沢山）
1779年　1月18日 安永7年　12月1日 晴 （11月中所々御関所出人都合149人：碇ヶ関140人（御印紙出112・切手紙出28）・野内9人（御印紙出3・切手紙出6））
1779年　1月19日 安永7年　12月2日 曇 申の中刻過ぎ雨少々ふる
1779年　1月20日 安永7年　12月3日 曇 昨夜雪弐寸程降
1779年　1月21日 安永7年　12月4日 曇 今暁寅の上刻より大寒に入る　昨夜雪吹　今日時々雪ふる
1779年　1月22日 安永7年　12月5日 晴 （去月27日赤石組一ツ森村の孫右衛門・喜六が熊（胆の生目形30目）取る）
1779年　1月23日 安永7年　12月6日 晴 昨夜雪五寸程降
1779年　1月24日 安永7年　12月7日 曇 昨夜より雪時々 （一昨5日夜九半時青森米町裏通りより出火（家数18軒・借家19軒・潰家1軒・人馬怪我なし）・火元寺落）
1779年　1月25日 安永7年　12月8日 曇 昨夜中雪二寸程ふる　今日時々雪降
1779年　1月26日 安永7年　12月9日 曇 昨夜中雪三寸程降
1779年　1月27日 安永7年　12月10日 晴
1779年　1月28日 安永7年　12月11日 曇 昨夜中より雪　今日時々降
1779年　1月29日 安永7年　12月12日 曇 昨夜中雪少々降
1779年　1月30日 安永7年　12月13日 曇 昨夜雪少々降
1779年　1月31日 安永7年　12月14日 曇 昨夜雪少々降
1779年　2月1日 安永7年　12月15日 陰晴
1779年　2月2日 安永7年　12月16日 快晴 （和徳町に袖乞男倒死、長濱に寄せ鯨・（多分傷ひどく）村中へ下し置かれる、町中馬持ち共申し立て候：2665疋・馬1疋に付き6分の銭1貫598文目7分をお手当てとして下し置かれる）
1779年　2月3日 安永7年　12月17日 快晴 （一昨日本町に60歳余の女倒死、5日夜青森町の火元の寺落・慎み免許）
1779年　2月4日 安永7年　12月18日 快晴
1779年　2月5日 安永7年　12月19日 曇
1779年　2月6日 安永7年　12月20日 曇 昨夜より雪少々降 （今日御家中剣術高覧）
1779年　2月7日 安永7年　12月21日 曇
1779年　2月8日 安永7年　12月22日 晴 昨夜雪三寸程降
1779年　2月9日 安永7年　12月23日 晴 （昨22日駒越組二本木村で火災・火元御蔵百姓村預け）
1779年　2月10日 安永7年　12月24日 曇 今日巳の刻過ぎ雨少々
1779年　2月11日 安永7年　12月25日 陰晴
1779年　2月12日 安永7年　12月26日 晴 昨夜雪少々降 （22日出火の二本木村の火元の村預け免許）
1779年　2月13日 安永7年　12月27日 曇 今朝雪少々降
1779年　2月14日 安永7年　12月28日 快晴 （褒美の中に銀5両・3両・2両あり）
1779年　2月15日 安永7年　12月29日 快晴
1779年　2月16日 安永8年　正月1日　曇 朝の内曇　昨夜酉の刻地震　同亥の刻少々強
1779年　2月17日 安永8年　正月2日　曇 朝の内曇　雪降　巳の刻より晴
1779年　2月18日 安永8年　正月3日　曇 卯の上刻より雪少々 （御吉例金200両を御金奉行が御用所へ持参、今晩御謡初）
1779年　2月19日 安永8年　正月4日　曇 昨夜亥の中刻地震少々　今日巳の上刻より小雨少々終日　夜に入り酉の下刻止む
1779年　2月20日 安永8年　正月5日　晴
1779年　2月21日 安永8年　正月6日　晴 昨夜雪三寸程降
1779年　2月22日 安永8年　正月7日　曇 （七種の御祝儀）
1779年　2月23日 安永8年　正月8日　曇
1779年　2月24日 安永8年　正月9日　快晴
1779年　2月25日 安永8年　正月10日　曇
1779年　2月26日 安永8年　正月11日　曇 今日時々雪 （人事異動）
1779年　2月27日 安永8年　正月12日　曇 今日時々丸雪 （旧臘（去年12月）17日高杉組熊島村の女が駒越村川原で吹倒れ死）
1779年　2月28日 安永8年　正月13日　晴 （今日御年始御祝儀の御能）

1779年　3月1日 安永8年 正月14日　快晴 （御褒美として銀4両・3両あり・その付近には金1両1歩や鳥目1貫文など）
1779年　3月2日 安永8年 正月15日　快晴
1779年　3月3日 安永8年 正月16日　陰晴　　下から続く　　・心得のある足軽に紙玉鉄砲打たせる）
1779年　3月4日 安永8年 正月17日　陰晴 （?月中所々御関所出人都合134人：碇ヶ関131人（御印紙出102・切手紙出29）・大間越1人（御印紙出）・野内2人（御印紙出）、頃日夜中桶屋町より住吉宮の通りに狼出る　　上に続く
1779年　3月5日 安永8年 正月18日　晴　昨夜中小雨時々降
1779年　3月6日 安永8年 正月19日　快晴
1779年　3月7日 安永8年 正月20日　快晴
1779年　3月8日 安永8年 正月21日　快晴　昨夜中雨　今日午の刻より雨降
1779年　3月9日 安永8年 正月22日　曇　今日申の初刻霙降 （去年中熊を2疋取った猟師1人に1貫文・1疋取った猟師3人に500文宛下し置かれる：他の猟師は取っていないのかな：福眞）
1779年　3月10日 安永8年 正月23日　晴 （昨22日九つ時頃高杉組中別所村で火災（4間×11間：百姓）・火元村預け）
1779年　3月11日 安永8年 正月24日　曇　昨夜小雨 （去る21日夜九時頃十三町で火災（家数14軒・木小屋2軒・お寺の隠居屋1軒・お寺1））
1779年　3月12日 安永8年 正月25日　曇　今日風強し
1779年　3月13日 安永8年 正月26日　曇　今日申の刻過ぎ小雨 （中別所村の火元の御蔵百姓の村預け免許、我侭が増長した足軽の母を入牢させる）
1779年　3月14日 安永8年 正月27日　晴　今日辰の刻小雨　同中刻より晴 （当月21日夜九時より22日の朝六時まで十三潟が早川口より残らず氷明ける・去年より日数で38日早く節に引き合い18日早い）
1779年　3月15日 安永8年 正月28日　快晴
1779年　3月16日 安永8年 正月29日　快晴 （23日左堰村で出火・火元高無村預け・7日になったので許したのかな不明瞭：福眞）
1779年　3月17日 安永8年 正月30日　陰晴 （23日出火の後潟組左堰村の火元を村預け）
1779年　3月18日 安永8年　　2月1日 快晴 （正月中所々御関所出人都合223人：碇関234人（御印紙出223・切手紙出11）・野内1人（切手紙出?））
1779年　3月19日 安永8年　　2月2日 快晴
1779年　3月20日 安永8年　　2月3日 快晴　巳の刻より陰晴
1779年　3月21日 安永8年　　2月4日 曇　昨夜中雨降 （当御発駕を来月6日と仰せ出される、岩木川出水七歩、当月（先月?）17日赤石組岩崎村の神主の家来（胆干目形12文目）・森山村の高無（胆干目形8文目）それぞれ熊取る）
1779年　3月22日 安永8年　　2月5日 陰晴
1779年　3月23日 安永8年　　2月6日 晴
1779年　3月24日 安永8年　　2月7日 快晴 （十三町の火元の（去月24日記述）慎み御免、正光寺の和尚が泉光院の井戸に落ち死亡）
1779年　3月25日 安永8年　　2月8日 快晴 （寺院を集め御能）
1779年　3月26日 安永8年　　2月9日 晴 （大間越で杣子の者共が小熊1疋取る・胆皮差上げるようにする）
1779年　3月27日 安永8年　　2月10日 曇　昨夜中より雨　今朝に至る （今日御家中鎗術高覧、岩木川五歩位の洪水で往来成りかねる）
1779年　3月28日 安永8年　　2月11日 快晴
1779年　3月29日 安永8年　　2月12日 快晴 （今8日後潟組瀬辺地村で火災1軒と他人の外馬屋1軒焼失・火元高無他村預け、碇ヶ関同心が熊（胆目形3文目3分）取る・胆は御用納め申付ける）
1779年　3月30日 安永8年　　2月13日 曇
1779年　3月31日 安永8年　　2月14日 曇　今日午の刻より雨降
1779年　4月1日 安永8年　　2月15日 晴　今日朝の内曇 （御徒目付山上七郎左衛門に御褒美金200疋下し置かれる）
1779年　4月2日 安永8年　　2月16日 曇　昨夜より今日まで時々雨
1779年　4月3日 安永8年　　2月17日 曇　昨夜より今日まで時々雨
1779年　4月4日 安永8年　　2月18日 快晴
1779年　4月5日 安永8年　　2月19日 快晴 （去る16日蟹田町前浜で破船2艘）　　下から続く　　彦次郎が（生目20目）それぞれ熊取る）
1779年　4月6日 安永8年　　2月20日 晴　今申の下刻より雨 （一昨18日常番組十川村で火災（2間×3間：給地人）・火元村預け、当月8日大鰐組居土村の孫十郎が（熊胆生目23文目）・13日堀越組一ノ渡村の　　上に続く
1779年　4月7日 安永8年　　2月21日 曇　昨夜中より雨　今朝に至る
1779年　4月8日 安永8年　　2月22日 晴　少々風立つ （一昨20日夜広須組近岡村で火災・火元百姓他村預け）
1779年　4月9日 安永8年　　2月23日 曇　雨時々　雪時々降る （当月渡し御役料並びに御切米は明後25日より渡す・俵子の内半分は相場で買い上げる、18日出火の十川村の火元の村預け免許）
1779年　4月10日 安永8年　　2月24日 曇　昨夜中雨　今朝巳の上刻より晴 （20日出火の近岡村の火元の村預け免許）
1779年　4月11日 安永8年　　2月25日 曇　昨夜中風烈しく今朝に及ぶ　今日終日風立つ
1779年　4月12日 安永8年　　2月26日 晴　今日卯の刻頃より少々陰 （関札御用に出立）
1779年　4月13日 安永8年　　2月27日 晴
1779年　4月14日 安永8年　　2月28日 曇 （御発駕御祝儀の御料理・御能）
1779年　4月15日 安永8年　　2月29日 快晴 （御家中3人に永の暇）
1779年　4月16日 安永8年　　2月30日 陰晴 （当月24日横内組長森村の助右衛門が熊（胆生目35文目長さ3寸廻り）取る）
1779年　4月17日 安永8年　　3月1日 快晴 （2月中所々御関所出人都合94人：碇関93人（御印紙出52・切手紙出41）・野内1人（切手紙出））
1779年　4月18日 安永8年　　3月2日 快晴
1779年　4月19日 安永8年　　3月3日 晴　　下から続く　　・火元村預け、去る27日木作新田菰槌村に野火）
1779年　4月20日 安永8年　　3月4日 曇　今朝卯の刻より小雨 （大納言様薨御に付き6日の御発駕を11日に差延す・道中の宿取り等多くの担当者に連絡、昨朔日夜飯詰組飯詰村で火災（8間×5間：高無染屋）　　上に続く
1779年　4月21日 安永8年　　3月5日 晴
1779年　4月22日 安永8年　　3月6日 曇　昨夜雨少々降 （内南御門外の橋の欄干に刃物で傷をつけた者がある）
1779年　4月23日 安永8年　　3月7日 晴
1779年　4月24日 安永8年　　3月8日 晴
1779年　4月25日 安永8年　　3月9日 晴
1779年　4月26日 安永8年　　3月10日 快晴
1779年　4月27日 安永8年　　3月11日 晴 （四時御発駕）
1779年　4月28日 安永8年　　3月12日 晴 （御部屋様明13日御発駕、人相書きがあり・その男のせい五尺位）
1779年　4月29日 安永8年　　3月13日 晴 （昨12日雷火により横内組小柳村で火災1軒・籾1石2斗・稗1斗焼失・自火にも御座なく候間村預けの儀は申付けず）
1779年　4月30日 安永8年　　3月14日 陰晴（一昨12日駒越組五所村で木小屋焼失・火元村預け

1779年　5月1日 安永8年　3月15日 曇　今朝辰の下刻小雨
1779年　5月2日 安永8年　3月16日 晴　(当月7日尾崎組小国村の猟師勘兵衛熊(胆生目形44文目)取る)　下から続く　及ばずと伝える(熊胆が不足しているらしい:福眞)、12日出火の五所村の火元の村預け免許)
1779年　5月3日 安永8年　3月17日 曇　辰の中刻より雨時々風少々立　(大間越町奉行から取った子熊(2月12日記述?)の干胆の目形は(わずか)2匁4分5厘・皮はどうするかの問合せあり、胆は上納・皮は上納に　上に続く
1779年　5月4日 安永8年　3月18日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ　巳の中刻雷発し雹降
1779年　5月5日 安永8年　3月19日 曇　昨夜卯之刻より雨強し　今朝に至　辰の刻過ぎ雷発し
1779年　5月6日 安永8年　3月20日 曇　昨夜時々風立
1779年　5月7日 安永8年　3月21日 快晴
1779年　5月8日 安永8年　3月22日 晴　昨夜雨少し　雷強し
1779年　5月9日 安永8年　3月23日 快晴　(昨22日大光寺組金屋村で火災2軒・火元借地他村預け)
1779年　5月10日 安永8年　3月24日 快晴
1779年　5月11日 安永8年　3月25日 快晴
1779年　5月12日 安永8年　3月26日 曇　今日巳の中刻より雨
1779年　5月13日 安永8年　3月27日 晴　昨夜中雨降
1779年　5月14日 安永8年　3月28日 快晴　(22日出火の金屋村の火元の他村預け免許)　下から続く　それぞれ熊取る)
1779年　5月15日 安永8年　3月29日 晴　昨晩酉の下刻より戌ノ刻まて風雨強　(駒越組中畑村の仁助(胆干目形18文目)・横内組諏訪沢村の作之丞等(干目形7文目6分5厘)・尾崎組小国村勘兵衛(干目形10文目)　上に続く
1779年　5月16日 安永8年　4月1日 曇
1779年　5月17日 安永8年　4月2日 曇　今朝辰の中刻より雨　尤も小雨時々　(去月29日夜金木新田八幡村で火災(3間×8間:百姓火元・3間×5間:高無・同段:借地)・火元村預け
1779年　5月18日 安永8年　4月3日 曇　昨夜中より雨　今日時々降
1779年　5月19日 安永8年　4月4日 曇　昨夜雨少々降　(3月中所々御関所出人都合144人:碇ヶ関125人(御印紙出54・切手紙出71)・大間越4人(切手紙出)・野内15人(切手紙出))
1779年　5月20日 安永8年　4月5日 晴　今晩申の上刻雨　(当3月28日四つ時頃俵元新田福山村で三つ子生まれる・夫高無44歳女房30歳)
1779年　5月21日 安永8年　4月6日 快晴　(金木組新田八幡村の火元の他村預け免許)
1779年　5月22日 安永8年　4月7日 快晴
1779年　5月23日 安永8年　4月8日 快晴
1779年　5月24日 安永8年　4月9日 晴
1779年　5月25日 安永8年　4月10日 陰晴
1779年　5月26日 安永8年　4月11日 曇　昨夜中より雨　今日に及び時々小雨　今晩雷発し
1779年　5月27日 安永8年　4月12日 陰晴
1779年　5月28日 安永8年　4月13日 曇　(去る9日木作新田菰槌村で出火・火元百姓村預け・免許)
1779年　5月29日 安永8年　4月14日 晴
1779年　5月30日 安永8年　4月15日 晴
1779年　5月31日 安永8年　4月16日 快晴
1779年　6月1日 安永8年　4月17日 曇　辰の刻過ぎより雨終日
1779年　6月2日 安永8年　4月18日 曇　未の刻過ぎより雨
1779年　6月3日 安永8年　4月19日 陰晴　昨夜雨時々降
1779年　6月4日 安永8年　4月20日 快晴
1779年　6月5日 安永8年　4月21日 快晴
1779年　6月6日 安永8年　4月22日 曇　未の下刻より雨少々
1779年　6月7日 安永8年　4月23日 曇
1779年　6月8日 安永8年　4月24日 快晴
1779年　6月9日 安永8年　4月25日 曇
1779年　6月10日 安永8年　4月26日 快晴
1779年　6月11日 安永8年　4月27日 曇　今暁寅の刻より雨降　辰の中刻止む
1779年　6月12日 安永8年　4月28日 曇　昨夜雨度々降
1779年　6月13日 安永8年　4月29日 晴
1779年　6月14日 安永8年　5月1日 晴　(4月中所々御関所出人都合137人:碇関132人(御印紙出65. 切手紙出67)・大間越2人(切手紙出)・野内3人(切手紙出)、郷士等に御褒美を出している)
1779年　6月15日 安永8年　5月2日 快晴
1779年　6月16日 安永8年　5月3日 晴
1779年　6月17日 安永8年　5月4日 曇　昨夜中より雨　今朝に至
1779年　6月18日 安永8年　5月5日 快晴
1779年　6月19日 安永8年　5月6日 快晴
1779年　6月20日 安永8年　5月7日 快晴
1779年　6月21日 安永8年　5月8日 陰晴　今日申の下刻より雨
1779年　6月22日 安永8年　5月9日 曇
1779年　6月23日 安永8年　5月10日 晴
1779年　6月24日 安永8年　5月11日 曇
1779年　6月25日 安永8年　5月12日 快晴
1779年　6月26日 安永8年　5月13日 曇　今日卯の中刻より雨終日降　(大鰐村嘉兵衛より初大角豆差上げる)
1779年　6月27日 安永8年　5月14日 曇　今朝卯の中刻午未の間虹見　辰の中刻より時々雨　午の刻過ぎ雷発大雨　(すり鉢焼きの生国新庄の草刈三平など3人を新楮町に置く)
1779年　6月28日 安永8年　5月15日 曇　今朝辰の下刻より小雨ふる
1779年　6月29日 安永8年　5月16日 晦　午の初刻より晴　東風吹　(高岡御門前の者共時疫煩い病死の者多い)
1779年　6月30日 安永8年　5月17日 快晴

1779年　7月1日 安永8年　5月18日 曇　今朝より雨終日 （大鰐村加賀助より初茄子差上げる）
1779年　7月2日 安永8年　5月19日 晴　昨夜中雨降
1779年　7月3日 安永8年　5月20日 陰晴　朝の内曇 （大鰐村嘉兵衛より初茄子差上げる）
1779年　7月4日 安永8年　5月21日 晴　今朝未上刻雷度々発 （頃日天気不正に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治人停止、青森町で煙草町の男縊死）
1779年　7月5日 安永8年　5月22日 晴 （大鰐村十兵衛より真瓜差上げる、田舎館組・常盤組で天気不正・田方に胴虫付く）
1779年　7月6日 安永8年　5月23日 晴
1779年　7月7日 安永8年　5月24日 晴　今日申の上刻地震少シ
1779年　7月8日 安永8年　5月25日 曇 （頃日打ち続き気候不宜に付き大円寺に五穀成就の御祈祷を仰せ付ける）
1779年　7月9日 安永8年　5月26日 曇
1779年　7月10日 安永8年　5月27日 晴
1779年　7月11日 安永8年　5月28日 快晴
1779年　7月12日 安永8年　5月29日 快晴
1779年　7月13日 安永8年　5月30日 曇　巳の刻より小雨
1779年　7月14日 安永8年　6月1日 曇　時々雨 （5月中所々御関所出人都合80人：碇関78人（御印紙出48・切手紙出30）・野内2人（切手紙出））
1779年　7月15日 安永8年　6月2日 晴　今日申の刻雨
1779年　7月16日 安永8年　6月3日 曇　昨夜中雨　雷時々　今日も時々雨　雷発し
1779年　7月17日 安永8年　6月4日 曇　昨夜中雨　今日も雨降
1779年　7月18日 安永8年　6月5日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ （四社に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける）
1779年　7月19日 安永8年　6月6日 曇　土用酉の二刻より入る　昨夜中の雨　今日も強降 （岩木川（八歩）・土渕川洪水で所々危うい、石川洪水で石川橋残らず欠崩・押し流す）
1779年　7月20日 安永8年　6月7日 晴 （昨朝御家中の召使が駒越川で水死）　下から続く　家129軒・流死人13人（男9女4）・その他水門など多数）
1779年　7月21日 安永8年　6月8日 晴 （碇関の頃日の雨で橋の痛損・家の流失3軒・痛家2軒、6日洪水の被害まとめ：田方3633町余（分米27371俵（石の間違いか）余）・畑方1319町余（分米3622石余）・橋120ヶ所　上に続く
1779年　7月22日 安永8年　6月9日 快晴 （厳有院様の百回御忌御法事）
1779年　7月23日 安永8年　6月10日 晴　午の上刻より陰晴 （大鰐村からの初米は当月5日より6日の洪水で稲葉押し流す）
1779年　7月24日 安永8年　6月11日 陰晴
1779年　7月25日 安永8年　6月12日 晴 （赤石組代官から当春の度々の洪水で田方川欠けありとして検地依頼あり・了解する）
1779年　7月26日 安永8年　6月13日 陰晴
1779年　7月27日 安永8年　6月14日 快晴　朝の内曇
1779年　7月28日 安永8年　6月15日 曇　巳の刻より曇
1779年　7月29日 安永8年　6月16日 晦
1779年　7月30日 安永8年　6月17日 曇　朝の内曇
1779年　7月31日 安永8年　6月18日 陰晴　朝の内曇 （何処かの御家中と揉めている）　下から続く　・蕎麦2俵・稗2俵・味噌7貫目入り1樽焼失・火元村預け）
1779年　8月1日 安永8年　6月19日 快晴　朝の内曇 （水害にあった大鰐・蔵館村に御救い米100俵拝借を仰せ付ける、当月17日夜柏木組常海橋村で火災（3間半×6間と外馬屋2間×3間：百姓）・米3俵・麦3俵　上に続く
1779年　8月2日 安永8年　6月20日 快晴 （駒越組一町田村の四五右衛門より加賀米の初穂差上げる・4月27日植付）
1779年　8月3日 安永8年　6月21日 快晴 （大鰐より初穂差上げる、今20日木作新田猫渕村で火災・借地の火元村預け、去る17日の常海橋村の火元の村預け免許）
1779年　8月4日 安永8年　6月22日 曇　今日午の刻より雨　雷度々発
1779年　8月5日 安永8年　6月23日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　巳の上刻止む （今朝紺屋町の日雇取の母縊死、賄賂を取り盗み杣を見逃した山役人6人に永の暇）
1779年　8月6日 安永8年　6月24日 曇　朝の内曇　午の刻過ぎより雨時々
1779年　8月7日 安永8年　6月25日 曇 （去る20日出火の猫渕村の火元の村預け免許、今朝四つ時頃遍照寺が捨身・死骸別条なし）
1779年　8月8日 安永8年　6月26日 晴　今朝曇 （去る22日大雨・平川・浅瀬石川・十川・浪岡川等で洪水・高田村で木小屋等潰れ家3軒）
1779年　8月9日 安永8年　6月27日 曇　今暁より雨終日降 （天気不正に付き国上寺で日和揚げを仰せ付ける）
1779年　8月10日 安永8年　6月28日 曇　昨夜中より雨　今朝に及ぶ　辰の下刻より晴　今日終日 （打続天気不正に付き和徳稲荷宮で日和揚げ五穀成就の御祈祷御神楽を仰せ付ける）
1779年　8月11日 安永8年　6月29日 曇　昨夜雨　今朝に及び終日 （去る22日大根子村の百姓流死、古懸不動尊御出汗・五山に御祈祷を仰せ付ける）
1779年　8月12日 安永8年　7月1日 曇　今日巳の上刻より雨 （6月中所々御関所出人都合141人：碇ヶ関134人（御印紙出107・切手紙出27）・野内7人（御印紙出4・切手紙出3））
1779年　8月13日 安永8年　7月2日 陰晴 （御目付当番通用：祢ふ多の儀前々申し触れ候通り町内限り……：喧嘩が絶えないため：福眞）
1779年　8月14日 安永8年　7月3日 陰晴　朝の内雨少々降
1779年　8月15日 安永8年　7月4日 快晴　朝の内雨少々
1779年　8月16日 安永8年　7月5日 快晴 （御家中祢ぶ多之由にて昨夜他町江出候てかさつ構敷（がさつがましき）事之有る様相聞こえ……、女御様去る3日准后宣下……の記述で女御と准后は平出・宣下の前は欠字）
1779年　8月17日 安永8年　7月6日 曇　昨夜中雨強　今朝に及ぶ
1779年　8月18日 安永8年　7月7日 曇　午の下刻より雨降
1779年　8月19日 安永8年　7月8日 曇　昨夜中より雨　今日終日降 （神明・八幡両社に日和揚げ・五穀成就の御祈祷・御神楽仰せ付ける、4年以前追放されて立ち帰った3人に十里追放）
1779年　8月20日 安永8年　7月9日 晴　下から続く　30俵以下（現在の言葉では未満か）等の者には皆渡）
1779年　8月21日 安永8年　7月10日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ （俵子渡し方の内当季は6歩を渡しその三ヶ二（2/3)は米で三ヶ一(1/3)は日々の米相場でお買い上げ・渡残りの4歩は御蔵奉行の米預り手形で渡す、　上に続く
1779年　8月22日 安永8年　7月11日 曇　今日巳の下刻より雨
1779年　8月23日 安永8年　7月12日 曇　今日巳の上刻雨降
1779年　8月24日 安永8年　7月13日 陰晴
1779年　8月25日 安永8年　7月14日 晴　朝の内小雨降
1779年　8月26日 安永8年　7月15日 曇　昨夜寅の後刻より雨　今朝に至る　四時過ぎ晴
1779年　8月27日 安永8年　7月16日 陰晴
1779年　8月28日 安永8年　7月17日 陰晴 （深浦入津中の大坂船の水主が12日に病死）
1779年　8月29日 安永8年　7月18日 快晴
1779年　8月30日 安永8年　7月19日 晴
1779年　8月31日 安永8年　7月20日 曇　今朝辰の下刻より小雨時々

1779年　9月1日 安永8年　7月21日 曇　終日雨 （御初米差上げる・去年は7月11日・当年は日数引合3日遅く節に引合ても3日遅い）
1779年　9月2日 安永8年　7月22日 晴
1779年　9月3日 安永8年　7月23日 晴 （大鰐村加賀助と兵左衛門より初米差上げる、新楮町に置いた新庄浪人（すり鉢焼き）草刈三平が昨朝出奔、盗杣関連で村払い・過料銭などあり）
1779年　9月4日 安永8年　7月24日 晴　朝の内小雨　午の下刻雨強　未の下刻晴
1779年　9月5日 安永8年　7月25日 快晴 （5月26日長勝寺役僧が京都からの帰りに柳原式部大輔様の御領内で病死 （持物・服装等が詳細））
1779年　9月6日 安永8年　7月26日 晦　今日雨終日降
1779年　9月7日 安永8年　7月27日 晴　昨夜中大雨　今朝に及ぶ
1779年　9月8日 安永8年　7月28日 曇 （天気不正に付岩木嵩並びに湯段とも湯治当分差留める）
1779年　9月9日 安永8年　7月29日 曇　昨夜戌の下刻より雨 （唐内坂のすり鉢焼き釜並びに小屋掛け共昨日まで残らず取り払う、この度御表御繰合せ御差支ニ付御小納戸金2000両拝借願いの通り仰付られ候に付き……）
1779年　9月10日 安永8年　8月1日 曇　巳の刻雨　終日風 （7月中所々御関所出人都合123人：碇関119人（御印紙出78・切手紙出41）・野内4人（御印紙出1・切手紙出3））
1779年　9月11日 安永8年　8月2日 曇　昨夜雨降 （百沢寺より苔実差上げる）
1779年　9月12日 安永8年　8月3日 晴
1779年　9月13日 安永8年　8月4日 曇　巳の下刻より雨
1779年　9月14日 安永8年　8月5日 晴　昨夜中雨少々　巳の刻雨少々
1779年　9月15日 安永8年　8月6日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　今日時々雨不降
1779年　9月16日 安永8年　8月7日 曇　昨夜中時々風雨　今朝辰の刻過ぎ虹見ゆる （鯵ヶ沢濱町の男が売女？）
1779年　9月17日 安永8年　8月8日 快晴 （一昨6日夜六つ時過ぎ浅虫村で出火都合10軒焼失）　下から続く　土岐某の御給分召上げ永の暇、猥ヶ敷（みだりがましき）儀を行った多数を追放・戸〆）
1779年　9月18日 安永8年　8月9日 快晴 （浅虫村の火元高無他村預け、一昨年の紙御蔵奉行（御馬廻）2人の勤め方が不埒で言語同断として身上召上げ永の暇、祖父の件で高屋某・女兄弟に美服を着せた　上に続く
1779年　9月19日 安永8年　8月10日 快晴
1779年　9月20日 安永8年　8月11日 陰晴　昨夜中雨降　今朝に及ぶ
1779年　9月21日 安永8年　8月12日 曇　申の刻過ぎより雨降 （今9日駒木村で盗杣の3人を搦捕る・取り逃がしたので町の者4人に戸〆・盗杣の3人は碇ヶ関町のものではない）
1779年　9月22日 安永8年　8月13日 曇　昨夜中雨　雷発　今朝も雷発す （当月6日の浅虫村の火元の他村預け免許）
1779年　9月23日 安永8年　8月14日 晴　昨夜時々雨
1779年　9月24日 安永8年　8月15日 晴
1779年　9月25日 安永8年　8月16日 快晴
1779年　9月26日 安永8年　8月17日 快晴
1779年　9月27日 安永8年　8月18日 快晴 （先月28日鯵ヶ沢の漁船が古船（長4尋2尺幅4尺）拾う）
1779年　9月28日 安永8年　8月19日 曇 （一昨17日夜野内町で出火1軒・火元慎み）
1779年　9月29日 安永8年　8月20日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　終日降
1779年　9月30日 安永8年　8月21日 晴　今朝雨少々降 （今19日昼七つ時過ぎ油川町で出火・火元村預け）
1779年　10月1日 安永8年　8月22日 快晴
1779年　10月2日 安永8年　8月23日 快晴 （去る19日木小屋焼失の油川の火元の村預け免許、当月10日後潟組大川平村の九郎兵衛が熊（胆生目形50目）取る、今朝未明駒越組に50斗男倒・死）
1779年　10月3日 安永8年　8月24日 快晴
1779年　10月4日 安永8年　8月25日 曇　昨夜亥の刻より雨　今朝晴　巳の刻より雨　午の刻過ぎ晴
1779年　10月5日 安永8年　8月26日 曇　昨夜戌ノ中刻より雨　今朝卯の刻より大風雨 （去る戌九月 （去年の9月・ほぼ1年前）鯵ヶ沢の沖合いで拾った丸木舟の黒崎村所有者がわかる・返す）
1779年　10月6日 安永8年　8月27日 晴
1779年　10月7日 安永8年　8月28日 曇　今日辰の下刻雨少　午の刻より雨 （去る8日赤石組石動村の六兵衛が熊（胆長2寸6歩廻り1寸6歩：干目目形3文目5分）取る）
1779年　10月8日 安永8年　8月29日 晴　昨夜の雨今朝に及ぶ
1779年　10月9日 安永8年　8月30日 晴
1779年 10月10日 安永8年　9月1日 曇 （8月中碇関出人都合85人（御印紙出79・切手紙出6））
1779年 10月11日 安永8年　9月2日 晴　午の刻より雨降　夜に入
1779年 10月12日 安永8年　9月3日 陰晴　昨夜中雨降 （去月22日宮地村に男倒死）
1779年 10月13日 安永8年　9月4日 陰晴　今日巳の刻小雨　今朝岩木山に雪見ゆる （駒越組紙漉沢村百姓仁兵衛（胆生目方25匁）・赤石組の六兵衛（生目形14匁）がそれぞれ熊取る）
1779年 10月14日 安永8年　9月5日 曇　今朝岩木山雪見ゆる
1779年 10月15日 安永8年　9月6日 晴 （御陸尺2人（5尺7寸5歩・5尺6寸7歩）新規召抱え）
1779年 10月16日 安永8年　9月7日 快晴　昨夜戌の下刻より雨　雷発す　今朝岩木山雪
1779年 10月17日 安永8年　9月8日 曇 （後潟組の大川平・今別・浜名の村々で熊鹿荒れる・玉薬火縄を求める、当月5日駒越組相馬村の三九郎が熊（胆生目30目））
1779年 10月18日 安永8年　9月9日 曇　朝の内雨　辰の上刻晴　下から続く　碇ヶ関山盗み杣の犯人が判明・古懸村と国上寺門前の7人）
1779年 10月19日 安永8年　9月10日 陰晴　昨夜中雨時々　今朝に及ぶ　雷二度 （先だって調合方仰せ付けられ候一粒金丹七剤調合方相済今日御用所江相納之、今8日後潟組中沢村で火災・火元高無村預け、　上に続く
1779年 10月20日 安永8年　9月11日 曇　昨夜中より雨　今朝に至 （当月7日8日堀越組松木平村の御蔵百姓孫惣?（生目95匁）・同村給地百姓〇右衛門（胆目形記述なし）それぞれ熊取る）
1779年 10月21日 安永8年　9月12日 晴　昨夜雨少々卯の下刻まてふる
1779年 10月22日 安永8年　9月13日 晴
1779年 10月23日 安永8年　9月14日 陰晴 （昨朝女牢死）
1779年 10月24日 安永8年　9月15日 曇　昨夜亥の下刻より雨降
1779年 10月25日 安永8年　9月16日 曇　昨夜時々雨降
1779年 10月26日 安永8年　9月17日 晴 （目内崎村の高無2人が熊取る・楯障り胆なし）
1779年 10月27日 安永8年　9月18日 晦 （12日藤代組北浮田村前浜に杉切柱（長6間ほど元口1尺5寸）流れ寄せる・半年囲い置く）
1779年 10月28日 安永8年　9月19日 晴　昨夜時々雨
1779年 10月29日 安永8年　9月20日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ （知行を来月に渡すまでの難儀解消のために200石取り以下は50石に1俵宛前渡とする）
1779年 10月30日 安永8年　9月21日 陰晴　昨夜中雨　今朝に及ぶ
1779年 10月31日 安永8年　9月22日 晴　昨夜中雨少々 （長勝寺林の内に熊出る・怪我人も出る）

1779年　11月1日 安永8年　　9月23日 快晴　今朝雨少々 （長勝寺の林に出た熊を独鈷村で取る）
1779年　11月2日 安永8年　　9月24日 晴　昨夜中雨ふる （今22日高杉組独鈷村の百姓茂左衛門が熊（胆生目52文目）取る・独鈷村で男女怪我、
1779年　11月3日 安永8年　　9月25日 曇　時々小雨
1779年　11月4日 安永8年　　9月26日 晴　昨夜子の下刻少し雨　未の下刻より雨時々
1779年　11月5日 安永8年　　9月27日 曇　昨夜酉の下刻より風強　霙ふる　今朝終日霰ふる
1779年　11月6日 安永8年　　9月28日 曇
1779年　11月7日 安永8年　　9月29日 曇　昨夜雨　今朝に及ぶ
1779年　11月8日 安永8年　　10月1日 晴 （人事異動、9月中所々御関所出人都合93人：碇ヶ関83人（御印紙出48・切手紙出35）・大間越5人（御印紙出3・切手紙出2）・野内5人（御印紙出1・切手紙出4））
1779年　11月9日 安永8年　　10月2日 曇
1779年 11月10日 安永8年　　10月3日 晴　今朝霜降 （5月に盗みに入った男2人を10里四方追放並びに鞭刑20鞭、去月27日暮六時過ぎ浦町組高田村で西強風による潰れ家・馬1疋斃）
1779年 11月11日 安永8年　　10月4日 晴
1779年 11月12日 安永8年　　10月5日 快晴
1779年 11月13日 安永8年　　10月6日 快晴
1779年 11月14日 安永8年　　10月7日 曇　昨夜酉の刻より雨　今朝に及ぶ
1779年 11月15日 安永8年　　10月8日 陰晴 （昨朝広須組出野里村で出火（3間×6間：?）・火元村預け）
1779年 11月16日 安永8年　　10月9日 曇　昨夜寅の刻雨　今日終日雨ふる　昨夜雷雨風甚し （当月6日出野里村の火元の百姓の村預け免許）
1779年 11月17日 安永8年　10月10日 曇　今日時々霰ふる （御家中召抱えの乳母が出刃包丁で自害する）
1779年 11月18日 安永8年　10月11日 曇　昨夜より雪　今朝に到り三寸程積る
1779年 11月19日 安永8年　10月12日 晴 （去る11日夜木作新田村不明で萱家焼失・火元村預け）
1779年 11月20日 安永8年　10月13日 晴
1779年 11月21日 安永8年　10月14日 曇　昨夜丑の刻雨　今朝に及び少々降
1779年 11月22日 安永8年　10月15日 晴 （11日出火の下中館村の火元の村預け免許）
1779年 11月23日 安永8年　10月16日 晴
1779年 11月24日 安永8年　10月17日 陰晴
1779年 11月25日 安永8年　10月18日 晴
1779年 11月26日 安永8年　10月19日 晴
1779年 11月27日 安永8年　10月20日 曇　今暁丑の刻雷発　寅の刻より雨　今日終日雨
1779年 11月28日 安永8年　10月21日 晦　今朝雪少々降
1779年 11月29日 安永8年　10月22日 晴　昨夜雪少々 （昨夜八つ時過ぎ茂森町で出火・類焼潰れ家とも8軒・火元菩提寺に入寺・慎み、去る17日夜木作新田下相野村に男倒死）
1779年 11月30日 安永8年　10月23日 晴　未の刻より雨 （江戸登りの大目付毛内藤左衛門に一粒金丹10粒）
1779年　12月1日 安永8年　10月24日 曇
1779年　12月2日 安永8年　10月25日 快晴　昨夜中雪少々 （一昨23日高杉組高杉村で出火・木小屋と家焼失・火元百姓村預け、屋敷の内を町人等に貸し置き候儀前々より御制禁に付……）
1779年　12月3日 安永8年　10月26日 曇　昨夜の雨今朝に及ぶ
1779年　12月4日 安永8年　10月27日 曇　昨夜中雨降　今日雪時々
1779年　12月5日 安永8年　10月28日 快晴　今暁少々雷
1779年　12月6日 安永8年　10月29日 曇　朝の内晴 （高杉村（23日出火）の火元の村預け免許）
1779年　12月7日 安永8年　10月30日 晴　昨夜雨　終夜　雷度々発す　今朝に及ぶ
1779年　12月8日 安永8年　　11月1日 曇　昨夜雪少々降　今日時々 （10月中所々御関所出人都合100人：碇関96人（御印紙出76・切手紙出20）・野内4人（切手紙出））
1779年　12月9日 安永8年　　11月2日 晴　昨夜時々雪　今朝に至る
1779年 12月10日 安永8年　　11月3日 曇
1779年 12月11日 安永8年　　11月4日 晴 （去月21日夜出火の茂森町の火元の慎み免許）
1779年 12月12日 安永8年　　11月5日 曇　今日雪少々降 （去月13日江戸表相立ち候御茶壷今日到着）
1779年 12月13日 安永8年　　11月6日 曇　昨夜雪三寸程降　今日時々雪 （先月分江戸御常用金850両の内400両は先だって送り残り450両は来る9日立ちの飛脚で指し登）
1779年 12月14日 安永8年　　11月7日 晴　昨夜中雪降
1779年 12月15日 安永8年　　11月8日 晴　昨夜中雪三寸程降 （当月4日夜九つ時より5日朝六つ時まで早川口より残らず氷張る・去年は12月11日夜九つ時より12日朝六つ時まで・今年は日数引合38日早く節に引合27日早い）
1779年 12月16日 安永8年　　11月9日 曇
1779年 12月17日 安永8年　10月10日 陰晴　昨夜雪少々降
1779年 12月18日 安永8年　11月11日 曇
1779年 12月19日 安永8年　11月12日 晴　昨夜雪少々降
1779年 12月20日 安永8年　11月13日 曇
1779年 12月21日 安永8年　11月14日 晴　今夜子の初刻冬至に入る
1779年 12月22日 安永8年　11月15日 曇　今晩より時々雪吹
1779年 12月23日 安永8年　11月16日 晴　昨夜雪少々降
1779年 12月24日 安永8年　11月17日 曇　辰の刻より雨少々降 （この節米値段下値に付き当寒造りまで当分酒値段1升に付き1文目2分の申し出で・了、御家中の二男入牢、十三領に40歳余の男雪倒）
1779年 12月25日 安永8年　11月18日 曇 （今日高岡に初鱈二尾）
1779年 12月26日 安永8年　11月19日 晴
1779年 12月27日 安永8年　11月20日 快晴 （当月11・12日小泊村の者共が木（400本以上）を拾う）
1779年 12月28日 安永8年　11月21日 曇　今朝卯の下刻より雨終日ふる
1779年 12月29日 安永8年　11月22日 曇　昨夜中雨ふる （去る20日夜柏木組大俵村で火災（3間半×8間：給地百姓・内馬屋3間×4間・外馬屋2間半×4間・稲乳一つ・味噌2石3斗など焼失）・火元村預け）
1779年 12月30日 安永8年　11月23日 曇　今日雪降
1779年 12月31日 安永8年　11月24日 曇

1780年　1月1日 安永8年　11月25日 曇 （去る22日横内組高屋尻村で出火1軒・火元借地村預け）　下から続く　御座候・当年は1俵に付16文目御座候得ば去年より米値段莫大の減に御座候間……、　欄外(*)に続く
1780年　1月2日 安永8年　11月26日 快 昨夜雪少々降 （22日出火の高屋尻村の火元の村預け免許）　下から続く　平均割合百石に付十六俵程平均引相当り申し候・然れば去年は米値段1俵に付25文目余　上に続く
1780年　1月3日 安永8年　11月27日 曇 昨夜より雪少々 今朝に至ル　下から続く　引方御定め仰せ付け置かれ候・然者（然れば：福眞）当年御検見引大都（大凡の意味：福眞）四万石余御減石に御座候間　上に続く
1780年　1月4日 安永8年　11月28日 曇 昨夜丑の下刻より雪 今日に及び降る（曇 昨夜丑下刻よ里雪及今日降）（勘定奉行申し立て候：先年地元御蔵入りの節御検見引三万石以下は平均差引御免以上は平均　上に続く
1780年　1月5日 安永8年　11月29日 晴 昨夜雪六寸程降 （御家中知行取り無番の族の小普請金上納は十ヶ一（10分の1）と定まっていたが去年は不作で半分御容赦とした・今年は定めの通りとする）
1780年　1月6日 安永8年　11月30日 曇 辰の刻雪 午の刻より雨降 （昨日大工町?で男縊死、去る9日主上崩御に付今日より5日の内鳴物停止……（主上は平出・崩御は尊敬表現なし：福眞）、27日柏木組　欄外(**)に続く
1780年　1月7日 安永8年　12月1日 曇 昨夜寅の六刻寒入 則夜雪三寸程降 今朝に至 （11月中所々御関所出人都合154人：碇ヶ関146人（御印紙出131・切手紙出15）・大間越4人（御印紙出）・野内4人（切手紙出））
1780年　1月8日 安永8年　12月2日 晴 昨夜中雪五寸程降
1780年　1月9日 安永8年　12月3日 曇 今日雪時々 （去月27日出火の滝井村の火元の村預け免許）
1780年　1月10日 安永8年　12月4日 快晴
1780年　1月11日 安永8年　12月5日 曇 （去る3日夜増館組目鹿沢村で火災（2間×3間：高無）・火元村預け）
1780年　1月12日 安永8年　12月6日 曇 雪降 寒甚し
1780年　1月13日 安永8年　12月7日 晴 （去月21日目屋野沢山で雪なてあり・1人死亡）
1780年　1月14日 安永8年　12月8日 曇 昨夜雪少々降 （去る3日出火の目鹿沢村の火元の村預け免許）
1780年　1月15日 安永8年　12月9日 曇 昨夜雪二寸程積る （昨8日浪岡組中野村で出火1軒・火元御蔵百姓村預け、去月十里追放が立ち返り・もう一度十里追放と鞭刑10鞭）
1780年　1月16日 安永8年　12月10日 晴
1780年　1月17日 安永8年　12月11日 晴 （昨10日赤田組中野村で出火1軒・火元高無村預け）
1780年　1月18日 安永8年　12月12日 曇 昨夜中寒気強し （去る8日出火の中野村の火元の村預け免許）
1780年　1月19日 安永8年　12月13日 曇 今日時々雪 寒強し
1780年　1月20日 安永8年　12月14日 曇 （十三潟水戸口の堀替え後漁がなくなり生活に困っている32軒に御手当て米10俵下し置かれる、去る9日出火の中野村の火元の村預け免許）
1780年　1月21日 安永8年　12月15日 晴 （9日に十里追放した木作村の男が又々立ち返る・入牢）
1780年　1月22日 安永8年　12月16日 曇 昨夜中小雪 寒へ強し（意味不明：福眞）
1780年　1月23日 安永8年　12月17日 晴 昨夜中雪五寸程ふる
1780年　1月24日 安永8年　12月18日 曇 今日時々雪 （昨日八時過ぎ北横町で男縊死）
1780年　1月25日 安永8年　12月19日 曇
1780年　1月26日 安永8年　12月20日 晴 今朝雪少々降
1780年　1月27日 安永8年　12月21日 晴 （当月4日今別村で丸木舟1艘拾上げる）
1780年　1月28日 安永8年　12月22日 曇
1780年　1月29日 安永8年　12月23日 曇 今日時々雪 （去月26日後潟組大川平村の九郎兵衛が熊（胆生目8文目）取る、当6月に御献上の漬蕨の取り扱いが不埒であった足軽警固と足軽を給分召上げ永の暇）
1780年　1月30日 安永8年　12月24日 曇 昨夜雪五寸位積 （青森町の寺の井戸に22才位の裸身男変死、広田組中通り十か村当作皆無の者共?）
1780年　1月31日 安永8年　12月25日 快晴 （去る6日藤嶋沢で三馬屋の男が大吹雪に逢・死亡）
1780年　2月1日 安永8年　12月26日 晴 （当月13日尾太銅山に稼ぎにいっていた村市村の高無が「雪な帝」（ゆきなて：雪崩のこと）に逢い死亡）
1780年　2月2日 安永8年　12月27日 曇 今朝少々雪
1780年　2月3日 安永8年　12月28日 曇 （東長町・本町の町人にお手当て米1俵宛）
1780年　2月4日 安永8年　12月29日 晴 （土手町の借家男縊死）
1780年　2月5日 安永9年　正月1日　晴 朝の内曇
1780年　2月6日 安永9年　正月2日　晴 昨夜少々雪降
1780年　2月7日 安永9年　正月3日　晴 昨夜雪少々 （御吉例金200両御金奉行持参・明日の飛脚で差登）
1780年　2月8日 安永9年　正月4日　晴
1780年　2月9日 安永9年　正月5日　晴
1780年　2月10日 安永9年　正月6日　曇 巳の下刻より雨 終日ふる
1780年　2月11日 安永9年　正月7日　曇 昨夜中より雪降 今日終日吹強シ （七種の御祝儀）
1780年　2月12日 安永9年　正月8日　曇 雪吹
1780年　2月13日 安永9年　正月9日　曇 雪時々降
1780年　2月14日 安永9年　正月10日　晴 （御家中の妻脇差で自害）
1780年　2月15日 安永9年　正月11日　晴
1780年　2月16日 安永9年　正月12日　晴 （東長町の矢場で御嘉例の御弓射初）
1780年　2月17日 安永9年　正月13日　曇 午の刻より雨時々
1780年　2月18日 安永9年　正月14日　曇 時々雪降
1780年　2月19日 安永9年　正月15日　曇 時々雪降
1780年　2月20日 安永9年　正月16日　晴
1780年　2月21日 安永9年　正月17日　晴 （黒石領から6000石津出願）
1780年　2月22日 安永9年　正月18日　陰晴 昨夜雪少々降
1780年　2月23日 安永9年　正月19日　曇 昨夜中七時程雪降（このように書いてある：福眞）
1780年　2月24日 安永9年　正月20日　陰晴 昨夜より今朝まで雪降
1780年　2月25日 安永9年　正月21日　曇 昨夜中雪降
1780年　2月26日 安永9年　正月22日　曇 時々雪降 （赤田組の村々が去る夏数度の洪水で高無共が渇命に及ぶとして代官が御救い米を申し立てる・（外聞が悪いので?）御救い米ではなく御手当て米として100俵を下し置かれる）
1780年　2月27日 安永9年　正月23日　曇 昨夜中雪 今日終日ふる
1780年　2月28日 安永9年　正月24日　曇 昨夜中風強 雪五寸程降 今朝に至る
1780年　2月29日 安永9年　正月25日　曇 今日雪降

(*) 大都調べ：御蔵給地惣米高大都米141753石3石2斗（内米22527石5斗3升が当仕付荒御検見引き共・平均米100石に付15石5斗6升3合当り）、給地米高大都米36719石　下に続く
上から続く　4斗4升9合（内米5714石6斗4升7合が給地平均引高・平均米100石に付15石5斗6升3合当り）、当月21日三馬屋沖で青森船が破船・1人水死）
(**) 滝井村で火災1軒・6斗入り籾5俵4斗入り籾4俵焼失・火元給地百姓村預け、禁裏は平出・崩御は欠字で尊敬を表している）

1780年　3月1日 安永9年 正月26日　曇　雪降 （男牢死、御家中知行取の面々御検見引き半分御容赦（何を意味しているかは知らない：福眞））
1780年　3月2日 安永9年 正月27日　曇　今日雪降
1780年　3月3日 安永9年 正月28日　曇
1780年　3月4日 安永9年 正月29日　晴
1780年　3月5日 安永9年 正月30日　晴　朝の内少々雪降
1780年　3月6日 安永9年　　2月1日 晴 （正月中碇ヶ関御関所出人都合207人（御印紙出193・切手紙出14））
1780年　3月7日 安永9年　　2月2日 快晴
1780年　3月8日 安永9年　　2月3日 快晴 （今別村の塩釜明き小屋で者縊死、人事異動）
1780年　3月9日 安永9年　　2月4日 曇
1780年　3月10日 安永9年　　2月5日 快晴
1780年　3月11日 安永9年　　2月6日 晴
1780年　3月12日 安永9年　　2月7日 陰晴　昨夜中子の上刻より雨　今朝に及ぶ
1780年　3月13日 安永9年　　2月8日 晴　今暁七つ頃より雪少々降　卯の下刻晴
1780年　3月14日 安永9年　　2月9日 曇　辰の上刻より雪少々ふる （米留所3ヵ所を8ヵ所に増強）
1780年　3月15日 安永9年　　2月10日 曇　今日時々雪ふる （処分保留中の盗杣の容疑者の北海道の鯡漁への出稼ぎを許す・妻子は人質に残すことを条件に）
1780年　3月16日 安永9年　　2月11日 晴
1780年　3月17日 安永9年　　2月12日 晴 （去る6日七時頃十三潟で氷から落ち女水死）
1780年　3月18日 安永9年　　2月13日 快晴 （今朝茂森町で66歳女が井戸に水汲みに行き滑って井の内え入り死亡）
1780年　3月19日 安永9年　　2月14日 快晴
1780年　3月20日 安永9年　　2月15日 快晴 （一昨13日夜八時猿賀組八幡崎村で出火（2間×4間：借地・3間×5間：借地）・火元借地他村預け）
1780年　3月21日 安永9年　　2月16日 晴 （去る12日出火の〇〇村の百姓の村預け免許（出火の記録なし：福眞））
1780年　3月22日 安永9年　　2月17日 晴 （当月13日駒越組国吉村の小七郎熊（胆生目25文目）取る）
1780年　3月23日 安永9年　　2月18日 晴
1780年　3月24日 安永9年　　2月19日 曇　巳の中刻より雨
1780年　3月25日 安永9年　　2月20日 曇 （去る13日出火・類焼の八幡崎村の火元の他村預け差許）
1780年　3月26日 安永9年　　2月21日 晴　昨夜子の刻過ぎ小雨降 （去る18日か長勝寺門前で井戸に落ち男水死）
1780年　3月27日 安永9年　　2月22日 曇　辰の下刻少々雨降 （一昨24日夜浦町組高田村で火災（外馬屋1軒：庄屋）・火元村預け）
1780年　3月28日 安永9年　　2月23日 晴 （男牢死か）
1780年　3月29日 安永9年　　2月24日 曇
1780年　3月30日 安永9年　　2月25日 曇 （去る八月黒崎村前浜に流れ寄せた橋船等を拾い主に下し置かれる）
1780年　3月31日 安永9年　　2月26日 曇　雨少々 （昨朝病気中の足軽変死）
1780年　4月1日 安永9年　　2月27日 陰晴 （当月23日夜より24日朝明け六時まで早川口より残らず氷明ける・去年は正月21日夜九時より22日朝六時まで氷が明けたので今年は日数引合33日遅く節に引合22日遅い）
1780年　4月2日 安永9年　　2月28日 晴
1780年　4月3日 安永9年　　2月29日 快晴 （十三潟が当月25日船通路相成る）
1780年　4月4日 安永9年　　2月30日 快晴
1780年　4月5日 安永9年　　3月1日 快晴 （2月中所々御関所出人都合82人：碇関78人（御印紙出57・切手紙出21）・野内4人（御印紙出1・切手紙出3））
1780年　4月6日 安永9年　　3月2日 曇　今朝卯の中刻より雨
1780年　4月7日 安永9年　　3月3日 曇　昨夜中より雨　今朝に到る
1780年　4月8日 安永9年　　3月4日 晴　今暁寅の刻地震
1780年　4月9日 安永9年　　3月5日 晴 （いつの間にか乳井貢が者頭格勘定奉行になっている・安永7年9月1日からだ、一昨4日高杉組高杉村小屋焼失・火元高無村預け）
1780年　4月10日 安永9年　　3月6日 陰晴
1780年　4月11日 安永9年　　3月7日 曇　昨夜中雨　今朝辰の刻まで雪少々　終日風強シ （去る4日暮六時頃油川組新城村で火災（4間×5間：不明）・火元村預け）
1780年　4月12日 安永9年　　3月8日 晴
1780年　4月13日 安永9年　　3月9日 快晴
1780年　4月14日 安永9年　　3月10日 快晴　　下から続く　　：津軽郡194813人（男104968・女89846）・伊達郡内246人（男129・女117）：今年は庚子の年で6年昔のデータかもしれないが藩の人口は195059人：福眞）
1780年　4月15日 安永9年　　3月11日 快晴 （江戸の正月・2月分御当用金が届いていない・正・2月御入用2600両余御発駕金1800両がなくて困っているらしい、陸奥の国津軽郡・伊達郡の内人数 （当午5月相改）　　上に続く
1780年　4月16日 安永9年　　3月12日 快晴
1780年　4月17日 安永9年　　3月13日 快晴
1780年　4月18日 安永9年　　3月14日 快晴
1780年　4月19日 安永9年　　3月15日 曇　昨夜戌の刻より雨　今日申の刻晴ル （去る12日夜赤石組柳田村で出火・類焼とも14軒・火元百姓他村預け）
1780年　4月20日 安永9年　　3月16日 曇
1780年　4月21日 安永9年　　3月17日 快晴
1780年　4月22日 安永9年　　3月18日 快晴
1780年　4月23日 安永9年　　3月19日 快晴 （去る12日出火の柳田村の火元の他村預け免許）
1780年　4月24日 安永9年　　3月20日 快晴
1780年　4月25日 安永9年　　3月21日 陰晴　昨申の刻より雨降
1780年　4月26日 安永9年　　3月22日 晴　午の中刻より余程風強
1780年　4月27日 安永9年　　3月23日 曇　今日昼大風
1780年　4月28日 安永9年　　3月24日 快晴　昨夜中風立
1780年　4月29日 安永9年　　3月25日 陰晴　昨夜戌の刻雨少々
1780年　4月30日 安永9年　　3月26日 晴 （深浦湊目付から：申18日岩崎村前浜に天当船流れ寄せる）

1780年　5月1日 安永9年　3月27日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　卯の下刻まで雨　辰の刻より晴
1780年　5月2日 安永9年　3月28日 陰晴　朝の内少々雨
1780年　5月3日 安永9年　3月29日 曇　今暁より雨　終日降
1780年　5月4日 安永9年　4月1日 曇　今日午の刻小雨　(3月中碇ヶ関出人都合124人(御印紙出81・切手紙出43))
1780年　5月5日 安永9年　4月2日 陰晴　昨夜中子の刻雨ふる　則刻止
1780年　5月6日 安永9年　4月3日 曇
1780年　5月7日 安永9年　4月4日 晴
1780年　5月8日 安永9年　4月5日 快晴　午の刻より曇　申の刻より小雨　(昨4日の晩木作新田木作村で出火木小屋の屋根少しばかり焼失・火元高無村預け、去年永の暇を下し置かれた足軽目付が職務上の秘密を漏らし入牢)
1780年　5月9日 安永9年　4月6日 曇　昨夜少々雨
1780年　5月10日 安永9年　4月7日 快晴
1780年　5月11日 安永9年　4月8日 陰晴　(先頃出火の木作村の火元の村預け免許)
1780年　5月12日 安永9年　4月9日 曇　昨夜中より雨　今日時々　下から続く　秋田の森岡村で切腹・死亡、御道中の御関札を長さ3尺幅8寸とする・これまでは2尺9寸幅8寸)
1780年　5月13日 安永9年　4月10日 曇　昨夜中雨　今日時々雨降　(当月8日小泊村の類族長助(外国に船が流され住みついた男)の従弟が病死・御徒・足軽目付立会いで……、4日交代登り勘定人が　上に続く
1780年　5月14日 安永9年　4月11日 晴
1780年　5月15日 安永9年　4月12日 晴　(去る10日夜飯詰組金山村で出火1軒と3間×2間の外馬屋焼失・火元百姓村預け)
1780年　5月16日 安永9年　4月13日 快晴　(今日賀田村に出火・塩消蔵(火薬蔵)もあり者頭等を火消しに仰せ付ける・今日昼九つ半時賀田村で火災4軒・火元高無)
1780年　5月17日 安永9年　4月14日 晴　今朝寅の刻過ぎより卯の刻過ぎまで雨降
1780年　5月18日 安永9年　4月15日 晴
1780年　5月19日 安永9年　4月16日 快晴　昨夜酉の八刻より亥の初刻月節(?)蝕終
1780年　5月20日 安永9年　4月17日 晴
1780年　5月21日 安永9年　4月18日 晴　今日卯の下刻雨　巳の下刻止む
1780年　5月22日 安永9年　4月19日 晴　(13日出火の賀田村の火元高無の他村預け免許)
1780年　5月23日 安永9年　4月20日 快晴　昨夜中雨少々
1780年　5月24日 安永9年　4月21日 晴　未の上刻より雨
1780年　5月25日 安永9年　4月22日 曇　昨夜より雨　今朝に及ぶ　(20日深浦町に駒越町の伊勢参宮男病死)
1780年　5月26日 安永9年　4月23日 曇　昨夜中雨降　巳の上刻より晴
1780年　5月27日 安永9年　4月24日 晴
1780年　5月28日 安永9年　4月25日 快晴　朝の内霧降　辰の刻より晴　(高源院様(津軽信枚)150回御忌御法事に付き大赦:54人に弘前並びに居村徘徊御免・去春不義容疑の木作村の男女出牢・盗杣など死罪相当を鞭刑等に)
1780年　5月29日 安永9年　4月26日 曇　未の下刻雨ふる
1780年　5月30日 安永9年　4月27日 曇　昨夜中雨降　(来月3日江戸発駕予定、御発駕金調達方掛け合い出来申さず……:乳井貢が江戸から帰される)
1780年　5月31日 安永9年　4月28日 晴
1780年　6月1日 安永9年　4月29日 曇　今朝卯の刻より雨少々
1780年　6月2日 安永9年　4月30日 曇　昨夜中雨　今朝に及ぶ　(今朝大工小頭の女房縊死)
1780年　6月3日 安永9年　5月1日 曇　今日巳の初刻雨少々　(昨晦日油川組油川村で火災5軒潰れ家2軒・火元百姓他村預け、来月(江戸からの飛脚であり5月のこと)3日御発駕)
1780年　6月4日 安永9年　5月2日 快晴　(去月28日赤石組久田村で火災4軒・火元高無岩崎村に他村預け)
1780年　6月5日 安永9年　5月3日 曇　辰の刻より雨　(昨晩乳井貢下着・17日江戸発)
1780年　6月6日 安永9年　5月4日 曇　(赤石組久田村の火元の他村預け免許)
1780年　6月7日 安永9年　5月5日 快晴
1780年　6月8日 安永9年　5月6日 快晴　(油川村の火元の他村預け免許)
1780年　6月9日 安永9年　5月7日 晴　辰の中刻雨少々
1780年　6月10日 安永9年　5月8日 快晴　(昨晩新町で男縊死)
1780年　6月11日 安永9年　5月9日 快晴
1780年　6月12日 安永9年　5月10日 曇
1780年　6月13日 安永9年　5月11日 快晴　未の刻雷発　(当発駕御用金など3700両御入用で3000両を乳井貢・佐藤官蔵が津軽屋に調達を求めたが……)
1780年　6月14日 安永9年　5月12日 晴　今日午の下刻雨少々　(去年7月に入牢の長勝寺の御霊屋に悪戯(だった様な気がする:福眞)の御家中の倅が牢死、去る8日夜後潟組根岸村で火災28軒並びに外馬屋・漁船焼失)
1780年　6月15日 安永9年　5月13日 快晴
1780年　6月16日 安永9年　5月14日 快晴　辰の刻頃まで曇　申の刻雷発　(先頃出火の後潟組根岸村の火元の他村預け免許)
1780年　6月17日 安永9年　5月15日 晴　朝の内曇　申の刻より雨ふる
1780年　6月18日 安永9年　5月16日 晴　申の中刻雨
1780年　6月19日 安永9年　5月17日 曇　(去る14日夜浦町組浦町村に出火・火元御蔵百姓村預け)
1780年　6月20日 安永9年　5月18日 晴　(浦町村の火元の村預け免許)
1780年　6月21日 安永9年　5月19日 曇　(大鰐村嘉左衛門より初真瓜差上げる)
1780年　6月22日 安永9年　5月20日 快晴　(屋形様御着城)
1780年　6月23日 安永9年　5月21日 曇　(大鰐村嘉兵衛より初赤小豆差上げる)
1780年　6月24日 安永9年　5月22日 曇
1780年　6月25日 安永9年　5月23日 曇　昨夜中より雨　今日終日降
1780年　6月26日 安永9年　5月24日 快晴
1780年　6月27日 安永9年　5月25日 晴　(去る23日大鰐組村々の田畑痛損)
1780年　6月28日 安永9年　5月26日 快晴
1780年　6月29日 安永9年　5月27日 晴　今暁丑の刻より小雨　今朝に及ぶ　(大鰐村嘉兵衛より初茄子差上げる)
1780年　6月30日 安永9年　5月28日 晴　(御着城語祝儀の御能)

1780年　7月1日 安永9年　5月29日 曇　酉の下刻より雨
1780年　7月2日 安永9年　6月1日 曇　昨夜中より雨　今朝に及び今日終日ふる
1780年　7月3日 安永9年　6月2日 曇　昨夜中雨
1780年　7月4日 安永9年　6月3日 曇　巳の刻過ぎより雨降　午の中刻地震 （乳井貢に生涯川原平村預け牢居・その子も御給分召上げ十里四方追放、佐藤官蔵も身上召上げ十里四方追放）
1780年　7月5日 安永9年　6月4日 晴　昨夜雨少々
1780年　7月6日 安永9年　6月5日 快晴
1780年　7月7日 安永9年　6月6日 晴
1780年　7月8日 安永9年　6月7日 快晴
1780年　7月9日 安永9年　6月8日 晴
1780年　7月10日 安永9年　6月9日 晴
1780年　7月11日 安永9年　6月10日 快晴
1780年　7月12日 安永9年　6月11日 快晴
1780年　7月13日 安永9年　6月12日 快晴 （続き方難儀・家族6人渇命の御馬廻与力(御目見以上です:福眞)を不覚悟として御目見以下御留守居支配に役下げ・人数に合わせて扶持渡し方仰せ付ける）
1780年　7月14日 安永9年　6月13日 晴
1780年　7月15日 安永9年　6月14日 快晴　午の刻雷発　則刻雨 （当月7日夜茂森新丁で木小屋出火・火元戸〆・戸〆免許）
1780年　7月16日 安永9年　6月15日 快晴　午の刻雷発　雨 （人事異動(樋口弥三郎を用人になど)）
1780年　7月17日 安永9年　6月16日 快晴
1780年　7月18日 安永9年　6月17日 快晴　今日子の刻土用に入る
1780年　7月19日 安永9年　6月18日 快晴　今日大暑　未の刻風雨強　雷発　東の方に虹見ゆる　申の下刻頃風雨止
1780年　7月20日 安永9年　6月19日 快晴　今暁寅の刻地震強く発す　明け頃まで度々発す　巳の刻過ぎ地震三度　未の刻過ぎ地震　今日大暑 （今暁強地震に付御家老中登城）
1780年　7月21日 安永9年　6月20日 曇　巳の上刻より雨少々　辰巳の方に虹見ゆる
1780年　7月22日 安永9年　6月21日 曇　今日時々小雨
1780年　7月23日 安永9年　6月22日 曇　今日時々雨　申の中刻東の方に虹見ゆる
1780年　7月24日 安永9年　6月23日 曇　今日大暑　時々小雨 （町田村で出火・火元神官?慎み、常盤組中島村で用水盗み騒動）
1780年　7月25日 安永9年　6月24日 晴　今日大暑(暑の字は日偏に者)
1780年　7月26日 安永9年　6月25日 快晴　朝の内曇
1780年　7月27日 安永9年　6月26日 晴 （当正月より江戸常用金が一金も登せていない・当年より三ヵ年御国表三分の一江戸上方四分の一御減少(御家中人数の減少ではないと思うが:福眞)を仰せ付けられる）
1780年　7月28日 安永9年　6月27日 晴　今日大暑(日偏に者)　申の下刻村雨
1780年　7月29日 安永9年　6月28日 快晴 （御用人津軽多膳を三分の一御減少方の御用懸かりを仰せ付ける）
1780年　7月30日 安永9年　6月29日 快晴 （大鰐村加賀助・弥左衛門・樋口村・1町田村より初穂差上げる）
1780年　7月31日 安永9年　6月30日 快晴　未の刻過ぎ夕立
1780年　8月1日 安永9年　7月1日 快晴 （6月中所々御関所出人都合133人:碇関128人(御印紙出72・切手紙出56)・野内3人(御印紙出)・大間越2人(切手紙出)）
1780年　8月2日 安永9年　7月2日 晴　昨夜中より雨終日　今日大暑
1780年　8月3日 安永9年　7月3日 晴　今日大暑
1780年　8月4日 安永9年　7月4日 曇　今日辰の上刻より雨　終日大雨雷発　洪水 （岩木川九歩余の出水）　下から続く　（潰家5)石川大橋流失・碇ヶ関で9軒(流失4・痛損5)26歳男子流死、慈雲院境内東に男縊死）
1780年　8月5日 安女9年　7月5日 曇　昨夜より大雨　川々洪水　所々橋々落　巳の刻頃晴る　下から続く　（流家15・潰家4・半潰3・山崩の潰家1)4才男子死亡・蔵館村4軒(流家1・潰家3)・石川村で5軒　上に続く
1780年　8月6日 安女9年　7月6日 晴　残暑強 （打ち続く不正の天気に付き大円寺の隠居に日和揚げの御祈祷を仰せ付ける、一昨4日八つ時頃品川町で家が雨潰れ、この度の洪水による被害:大鰐村で23軒　上に続く
1780年　8月7日 安女9年　7月7日 快晴 （去る5日未明駒越組で潰家1軒半潰れ1軒・死亡母と男子・雑駄3疋怪我死）
1780年　8月8日 安女9年　7月8日 曇　昨夜酉の刻過ぎ地震　丑の刻過ぎ地震
1780年　8月9日 安女9年　7月9日 晴　昼の内風立つ （川流れの大工の死骸を堅田村に見当てる）
1780年　8月10日 安女9年　7月10日 晴　昨夜中風立つ　朝の内小雨　未の刻より風立つ
1780年　8月11日 安女9年　7月11日 快晴 （去る27日江戸で出水）
1780年　8月12日 安女9年　7月12日 快晴
1780年　8月13日 安女9年　7月13日 曇　午の刻過ぎより時々雨
1780年　8月14日 安女9年　7月14日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　巳の刻頃大雨　午の刻より晴
1780年　8月15日 安女9年　7月15日 曇　昨夜亥の刻頃より雨　今日申の刻過ぎ小雨
1780年　8月16日 安女9年　7月16日 晴　下から続く　・田方5336町余(砂石押上100町余・水湛5235町余)・畑方2277町余(砂石押上89町余・水湛2188町余)等）
1780年　8月17日 安女9年　7月17日 曇 （当月4・5日洪水被害のまとめ:山崩潰死男子1・同女1・潰死馬3・流失家31・潰家38・大破家49・温泉覆い流失5・橋流失268・同大破36・溜池押破15・同水門流失21・山崩4　上に続く
1780年　8月18日 安女9年　7月18日 晴　昨夜小雨
1780年　8月19日 安女9年　7月19日 晴　今朝卯の下刻小雨
1780年　8月20日 安女9年　7月20日 晴　昨夜時々小雨　今朝小雨
1780年　8月21日 安女9年　7月21日 曇　巳の刻過ぎ小雨
1780年　8月22日 安女9年　7月22日 晴
1780年　8月23日 安女9年　7月23日 快晴
1780年　8月24日 安女9年　7月24日 快晴 （大鰐村加賀助・兵左衛門より初米3俵宛差出す、作事方で相撲高覧）
1780年　8月25日 安女9年　7月25日 快晴 （南溜池で男の子水死、江戸町で足軽の母が縊死）
1780年　8月26日 安女9年　7月26日 快晴　昨夜戌の刻地震　今日朝の内曇　残暑強し
1780年　8月27日 安女9年　7月27日 曇　午の下刻小雨　残暑強
1780年　8月28日 安女9年　7月28日 快晴　残暑強
1780年　8月29日 安女9年　7月29日 快晴　残暑強 （諸組村々の内田方虫付き・長勝寺で施餓鬼執行仰せ付ける）
1780年　8月30日 安女9年　8月1日 晴　辰の刻過ぎ風強　則刻止む　残暑強し
1780年　8月31日 安女9年　8月2日 快晴 （百沢寺が苔の実差上げる、当月27日夜後潟組小橋村で外馬屋1軒焼失・火元高無村預け、長勝寺の大施餓鬼に銀11枚この銭473文目）

1780年　9月1日 安永9年　8月3日 快晴　今日二百十日　残暑強し （7月中碇関出人都合72人(御印紙出52・切手紙出20)）
1780年　9月2日 安永9年　8月4日 快晴　今日残暑強　申の刻雨
1780年　9月3日 安永9年　8月5日 晴
1780年　9月4日 安永9年　8月6日 快晴　残暑強
1780年　9月5日 安永9年　8月7日 快晴　（小橋村の火元高無の村預け免許）
1780年　9月6日 安永9年　8月8日 快晴　残暑強　（今6日夜浪岡組竹鼻村で出火(2間×5間:高無)・火元村預け）
1780年　9月7日 安永9年　8月9日 曇　午の刻過ぎより雨　雷発　大雨　未の刻頃晴　（当年御米不足にて御廻船過半空船にて御返しなされ候に付き銀主より公訴等も……）
1780年　9月8日 安永9年　8月10日 曇　今暁寅の中刻地震　未の刻過ぎより雨　（先ごろ出火の竹鼻村の火元の村預け免許）
1780年　9月9日 安永9年　8月11日 曇　昨夜中大雨　今日辰の刻頃より晴　（横内組代官より山下村々狼荒れる・野内御関所より鉄砲2挺等拝借の申し立て・了）
1780年　9月10日 安永9年　8月12日 快晴　（津軽野村の猟師太兵衛が熊(胆の生目形45文目干し目形12文目5分)取る）
1780年　9月11日 安永9年　8月13日 快晴
1780年　9月12日 安永9年　8月14日 晴　昨夜雨　寅の刻頃より晴
1780年　9月13日 安永9年　8月15日 曇　昨夜子の刻頃より雨　今日終日雨　戌の刻晴　（八幡神輿通御雨天に付き御延引）
1780年　9月14日 安永9年　8月16日 晴
1780年　9月15日 安永9年　8月17日 晴　午の刻過ぎより曇　未の刻より雨　即刻止　（今日八幡神輿通御）
1780年　9月16日 安永9年　8月18日 曇　今暁寅の刻より雨時々　雷発
1780年　9月17日 安永9年　8月19日 曇　昨夜中雨　今日申の刻頃小雨
1780年　9月18日 安永9年　8月20日 快晴
1780年　9月19日 安永9年　8月21日 快晴
1780年　9月20日 安永9年　8月22日 快晴
1780年　9月21日 安永9年　8月23日 快晴　（19日昼深浦湊で日和待ちの大坂船の水主が病死）
1780年　9月22日 安永9年　8月24日 快晴
1780年　9月23日 安永9年　8月25日 曇　昨夜中雨　（昨23日夜八時岩木嵩の湯小屋17軒焼失・火元戸〆、大間越町同心警固が熊並びに猪獅子・鹿の類が荒れるとして鉄砲の玉百などを求める・半分渡す）
1780年　9月24日 安永9年　8月26日 曇　今日時々雨
1780年　9月25日 安永9年　8月27日 曇　今日辰の下刻小雨
1780年　9月26日 安永9年　8月28日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年　9月27日 安永9年　8月29日 曇
1780年　9月28日 安永9年　9月1日 曇　巳の刻過ぎ小雨　（人事異動、8月中所々御関所出人都合214人:碇ヶ関211人(御印紙出181・切手紙出30)・野内3人(御印紙出1・切手紙出2)）
1780年　9月29日 安永9年　9月2日 快晴
1780年　9月30日 安永9年　9月3日 曇　昨夜中雨
1780年　10月1日 安永9年　9月4日 曇　昨夜中雨　今日時々雨　今日冷気甚
1780年　10月2日 安永9年　9月5日 曇　今朝岩木山江雪見る　巳の上刻雨少々　（浅瀬石村の者共が留め山の新屋村で草を刈り喧嘩）
1780年　10月3日 安永9年　9月6日 快晴　今朝霜強　（一昨4日木作新田木作村で外馬屋出火・火元百姓村預け）
1780年　10月4日 安永9年　9月7日 快晴　（御貸馬御払い入札:25匁6分から7文目8分）
1780年　10月5日 安永9年　9月8日 曇　未の刻より雨　（岩木嵩の湯元小屋の火元の慎み免許、当月3日後潟組大川平村の九郎兵衛が熊(胆生目3文目8分但し長サ2寸5分廻り2寸)取る）
1780年　10月6日 安永9年　9月9日 晴　昨夜中風雨　今朝に及ぶ　辰の刻より晴ル　（ミニ人事異動）
1780年　10月7日 安永9年　9月10日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年　10月8日 安永9年　9月11日 晴　昨夜中時々雨　今日申の下刻地震
1780年　10月9日 安永9年　9月12日 晴
1780年 10月10日 安永9年　9月13日 晴　辰の刻過ぎより雨　巳の刻より晴る
1780年 10月11日 安永9年　9月14日 快晴
1780年 10月12日 安永9年　9月15日 曇　昨夜中風雨
1780年 10月13日 安永9年　9月16日 晴　昨夜中雨　申の刻地震　（油川組代官より熊胆二つ上がる）
1780年 10月14日 安永9年　9月17日 陰晴　今朝辰の刻小雨
1780年 10月15日 安永9年　9月18日 晴　今朝卯の上刻雨　辰の刻頃晴
1780年 10月16日 安永9年　9月19日 快晴
1780年 10月17日 安永9年　9月20日 陰晴
1780年 10月18日 安永9年　9月21日 曇　未の刻頃より雨
1780年 10月19日 安永9年　9月22日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年 10月20日 安永9年　9月23日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年 10月21日 安永9年　9月24日 晴　昨夜中雨風　朝の内雨少々　今朝岩木山江雪見る
1780年 10月22日 安永9年　9月25日 快晴
1780年 10月23日 安永9年　9月26日 曇　午の中刻より小雨
1780年 10月24日 安永9年　9月27日 陰晴
1780年 10月25日 安永9年　9月28日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年 10月26日 安永9年　9月29日 曇　昨夜中雨時々ふる
1780年 10月27日 安永9年　9月30日 曇　今暁寅の刻雷発　（御家中の知行・御切り米取り・俵子金銭給とも10月より月割り仰せ付けられ候:それまでは年俸?）
1780年 10月28日 安永9年　10月1日 快晴　昨夜中風雨　今日時々雨　（9月中碇関出人都合103人(御印紙出59・切手紙出44)）
1780年 10月29日 安永9年　10月2日 曇　（昨朔日大鰐組小金崎村で出火・火元高無村預け）
1780年 10月30日 安永9年　10月3日 曇
1780年 10月31日 安永9年　10月4日 快晴

1780年　11月1日 安永9年　　10月5日 快晴 （御家中の妻変死）
1780年　11月2日 安永9年　　10月6日 曇　昨夜中より雨終日降
1780年　11月3日 安永9年　　10月7日 曇　昨夜中雨　今日時々降
1780年　11月4日 安永9年　　10月8日 晴　昨夜中風雨
1780年　11月5日 安永9年　　10月9日 曇　昨夜中風雨　今日辰の刻より雨
1780年　11月6日 安永9年　10月10日 曇　昨夜中雨　今日時々降　未の刻より風
1780年　11月7日 安永9年　10月11日 曇　昨夜中時々雨
1780年　11月8日 安永9年　10月12日 曇　今暁寅の刻過ぎ雷雨　今朝辰の刻過ぎ小雨
1780年　11月9日 安永9年　10月13日 曇　昨夜子の刻雷発　大雨時々　今朝に及ぶ　午の刻より霰
1780年 11月10日 安永9年　10月14日 曇　昨夜初雪二寸程降　今日時々雨 （この度御倹約に付壱ヶ月両度の御飛脚を相止め壱月一度（15日付16日発）差し立てるようにする）
1780年 11月11日 安永9年　10月15日 曇　朝の内雨 （御家中が御家中に手傷を負わせ切腹・存命不定・病気?）
1780年 11月12日 安永9年　10月16日 晴　昨夜中雨　今朝止 （昨日の傷・部屋の様子等詳細あり、なぜか6人に永の暇、常々不勤或は病身の者を支配頭に報告させる・333人?に永の暇）
1780年 11月13日 安永9年　10月17日 曇　昨夜中雪二寸程　今日雨 （今回お暇の御持鑓が本国江戸に帰りたいとのこと・路銀銭50目下し置かれる）
1780年 11月14日 安永9年　10月18日 曇　今日時々雨 （再三立ち返りの木作村の男今朝牢死）
1780年 11月15日 安永9年　10月19日 曇　酉の刻より風強　亥の刻より雪降
1780年 11月16日 安永9年　10月20日 曇　昨夜中雪吹　昨夜より寒へ強し （足軽目付に永の暇）
1780年 11月17日 安永9年　10月21日 快晴
1780年 11月18日 安永9年　10月22日 曇　今日時々雨降
1780年 11月19日 安永9年　10月23日 曇　昨夜中雨　今日時々雨降 （去年女子共を他領に売り出した男を取上御仕置き場で30鞭と十里四方追放・女は牢前で弘前追放の宣告）
1780年 11月20日 安永9年　10月24日 晴
1780年 11月21日 安永9年　10月25日 晴　昨夜中雨降
1780年 11月22日 安永9年　10月26日 曇　昨夜中雨　今日時々雨
1780年 11月23日 安永9年　10月27日 快晴
1780年 11月24日 安永9年　10月28日 曇　昨夜時々雨　今日時々雨 （昨夜和徳町で出火・火元戸〆）
1780年 11月25日 安永9年　10月29日 曇　昨夜風強　今日時々風雪ふる
1780年 11月26日 安永9年　　11月1日 快晴 （10月中所々御関所出人都合90人：碇関85人（御印紙出63・切手紙出22）・大間越3人（御印紙出）・野内2人（御印紙出1・切手紙出1））
1780年 11月27日 安永9年　　11月2日 晴　昨夜中小雨　今朝に及ぶ （去月24日赤石組種里村で男倒死）
1780年 11月28日 安永9年　　11月3日 曇　昨夜中風雨　雷発　雪ふる （今日御慰の御能）
1780年 11月29日 安永9年　　11月4日 晴 （去月27日夜の和徳町の火元小商人の戸〆免許）
1780年 11月30日 安永9年　　11月5日 曇
1780年　12月1日 安永9年　　11月6日 曇 （去月26日蟹田町に米を売りに行った浪岡組柳久保村の猟師が野会いで刀で撃ちかかられる・刀を奪い取って逃げる）
1780年　12月2日 安永9年　　11月7日 曇　昨夜雪
1780年　12月3日 安永9年　　11月8日 曇　今日巳の下刻頃より雪
1780年　12月4日 安永9年　　11月9日 曇　昨夜雪今朝至る
1780年　12月5日 安永9年　11月10日 晴 （黒石からの津出米6000石（年内1000・来年5000）を了承）
1780年　12月6日 安永9年　11月11日 曇　昨夜雪1寸位降
1780年　12月7日 安永9年　11月12日 曇　今日時々雪
1780年　12月8日 安永9年　11月13日 曇　今日時々雪
1780年　12月9日 安永9年　11月14日 曇　昨夜中雪　今日午の刻過ぎ小雨　雷発 （検見引き方50959石9斗余・成米合31032石余：福眞には意味不明）
1780年 12月10日 安永9年　11月15日 曇　今日時々雪 （今朝和徳町で借家が自害死亡）
1780年 12月11日 安永9年　11月16日 曇　昨夜子の上刻地震　同刻過ぎ雪降　今日時々雪ふる （12日夜九時より13日朝六時まて十三潟が早川口より残らず氷張・去年は11月4日より氷張り日数に引合8日遅く節に引合4日早い）
1780年 12月12日 安永9年　11月17日 快晴
1780年 12月13日 安永9年　11月18日 快晴
1780年 12月14日 安永9年　11月19日 晴　昨夜中雨
1780年 12月15日 安永9年　11月20日 曇　昨夜時々雪
1780年 12月16日 安永9年　11月21日 曇　昨夜時々雪　今朝に及ぶ
1780年 12月17日 安永9年　11月22日 曇　今日時々雪吹 （当月8日追良瀬沖で金井沢村の船が破船・乗合4人行方不明）
1780年 12月18日 安永9年　11月23日 晴　昨夜中雪吹
1780年 12月19日 安永9年　11月24日 快晴
1780年 12月20日 安永9年　11月25日 快晴 （去る20日夜九時頃油川組新城村で火災1軒（4間×9間：高無）籾4石8斗・稲2500束焼失・火元村預け）
1780年 12月21日 安永9年　11月26日 快晴 （5月に追放の男が度々立ち返り10里四方追放と鞭刑10鞭）
1780年 12月22日 安永9年　11月27日 陰晴
1780年 12月23日 安永9年　11月28日 陰晴　昨夜中雪降 （20日新城村の火元の村預け免許）
1780年 12月24日 安永9年　11月29日 曇　朝の内雪
1780年 12月25日 安永9年　11月30日 曇　今日時々雪降 （去る26日夜飯詰組高野村で火災1軒・火元村預け）
1780年 12月26日 安永9年　　12月1日 曇　今朝雪 （11月中碇関出人都合111人（御印紙出84・切手紙出27）、深浦町に死骸1人流れ寄せる）
1780年 12月27日 安永9年　　12月2日 曇　申の刻過ぎより雪 （当2月入牢の男牢死、昨朔日大鰐組乳井村で外馬屋火災・馬2疋焼斃・火元村預け、（26日の）高野村の（火元の）村預け免許、墓所の火を火災と見た火の見櫓番あり）
1780年 12月28日 安永9年　　12月3日 昨夜中雪
1780年 12月29日 安永9年　　12月4日 晴 （去月晦日夜横内組濱田村で火災1軒・米8俵・籾2石余・稲800束程・粟4斗程・大豆2斗・蕎麦2石2斗・稗2石・味噌1樽・衣類農具等焼失・飯詰組芦部村で火災1軒・火元高無両人村預け）
1780年 12月30日 安永9年　　12月5日 曇
1780年 12月31日 安永9年　　12月6日 曇　今日午の刻過ぎ雪 （濱田村並びに金木新田芦部村の火元の村預け免許）